

医 学 部

呼吸器内科学教室	1	放射線腫瘍学教室	111
腎臓・リウマチ膠原病内科学教室	4	麻酔科学教室	112
脳神経内科学教室	11	臨床検査医学教室	115
循環器内科学教室	13	総合医療学教室	116
不整脈先進治療学研究講座	23	リハビリテーション医学教室	119
血液内科学教室	24	脳卒中医学教室	120
消化器内科学教室	25	医学教育学教室	126
糖尿病・内分泌・代謝内科学教室	40	肉眼解剖学教室	127
腫瘍内科学教室	42	顕微解剖学教室	128
高齢医学教室	49	統合生理学教室	129
精神神経科学教室	50	病態生理学教室	130
小児科学教室	54	代謝生化学教室	131
消化器・一般外科学教室	57	細胞生化学教室	131
呼吸器・甲状腺外科学教室	63	薬理学教室	131
乳腺外科学教室	66	病理学教室	132
小児外科学教室	66	感染症学教室	136
救急医学教室	67	衛生学公衆衛生学教室	138
脳神経外科学教室	68	法医学教室	139
心臓血管外科学教室	78	共同研究施設RI部門	140
整形外科教室	79	共同研究施設フローサイトメトリー部門	140
皮膚科学教室	85		140
形成外科学教室	89	共同研究施設実験動物施設部門	140
泌尿器科学教室	91	生物学教室	140
眼科学教室	95	物理学教室	141
耳鼻咽喉科学教室	104	化学教室	141
産科婦人科学教室	107	英語学教室	141
放射線医学教室	109		

呼吸器内科学教室

講 演

1. 石井晴之:間質性肺炎を考える～肺癌診療からの視
方～.多摩 Lung Cancer Online Symposium. オン
ライン. 2021年4月16日.
2. 三倉直, 皿谷健, 小田未来, 石田学, 本多紘二郎,
中本啓太郎, 田村仁樹, 高田佐織, 石井晴之:横隔
膜超音波検査や胸部運動の視診によるCOPD重症
度評価. 第61回日本呼吸器学会学術講演会. 東京.
2021年4月23日-24日.
3. 吉田悠貴, 渡辺雅人, 平田彩, 中本啓太郎, 宮岡智
花, 麻生純平, 三倉直, 石田学, 小田未来, 本多紘
二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之:iNKT
細胞は好中粒性の喘息様気道炎症に関与する. 第
61回日本呼吸器学会学術講演会. 東京. 2021年4月
23日-24日.
4. 宮岡智花, 渡辺雅人, 中本啓太郎, 吉田悠貴, 平田
彩, 麻生純平, 三倉直, 石田学, 小田未来, 本多紘
二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之:マ
ウスの肺臓エラストナーゼ肺気腫モデルでは肺内の
IL-33発現が亢進する. 第61回日本呼吸器学会学術
講演会. 東京. 2021年4月23日-25日.
5. 本多紘二郎, 中本啓太郎, 三倉直, 石田学, 小田未
来, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之:抗線
維化薬長期投与が可能であった特発性肺線維症の
予後解析. 第61回日本呼吸器学会学術講演会. 東
京. 2021年4月23日-25日.
6. 野田晃成, 皿谷健, 土井和之, 森田喜久子, 石川周
成, 福田のぞみ, 佐久間翔, 三倉直, 小田未来, 本
多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織:新たな聴診器と
遠隔システムを用いたCOVID-19肺炎の肺音の経
時的変化の検討. 第61回日本呼吸器学会学術講演
会. 東京. 2021年4月23日-25日.
7. 石田学, 皿谷健, 黒川のぞみ, 麻生純平, 北村信隆,
中田光, 石井晴之:デジタル顕微鏡を用いたサルコ
イドーシスにおけるBALF中肺胞マクロファージ
のサイズと細胞形態の関係性. 第61回日本呼吸器
学会学術講演会. オンライン. 2021年4月23日-25
日.
8. 石田学, 皿谷健, 黒川のぞみ, 麻生純平, 北村信隆,
中田光, 石井晴之:デジタル顕微鏡を用いた健常者
におけるBALF中肺胞マクロファージの多角的計
測. 第61回日本呼吸器学会学術講演会. オンライ
ン. 2021年4月23日-25日.
9. 皿谷健:コロナ禍の間質性肺疾患診療における
科々連携の重要性～IIPsに潜む膠原病肺～. PF-
ILDオンラインセミナー. オンライン. 2021年5月
12日.
10. 石井晴之:気管支喘息における治療指針の変遷～
CAPTAIN試験から学べるもの～. GSK
Respiratory Meeting in武蔵野. オンライン. 2021
年5月18日.
11. 皿谷健:COVID-19とマイコプラズマ感染症. 第48
回日本マイコプラズマ学会学術集会. 東京. 2021
年5月22日.
12. 石田学:実臨床における気管支肺胞洗浄(BAL)の速
攻性～COPDを含めて～. 第92回多摩呼吸器懇話
会. 三鷹・オンライン. 2021年6月10日.
13. 皿谷健:COVID-19禍における気管支喘息治療を再
考する. Asthma Forum～喘息治療の再考～. 東京.
2021年6月17日.
14. 古野肇, 中本啓太郎, 宮岡智花, 吉田悠貴, 秋澤孝
虎, 春日啓介, 斎藤正興, 石川周成, 野田晃成, 麻
生純平, 麻生かおり, 小林史, 三倉直, 小田未来,
石田学, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健,
石井晴之:Schizophyllum communeによるアレル
ギー性気管支肺真菌症の1例. 第177回日本呼吸器
内視鏡学会関東支部会. オンライン. 2021年6月19
日.
15. 小林史, 中嶋啓, 村上涼, 阿部太郎, 長谷見次郎,
斎藤正興, 石川周成, 春日啓介, 麻生かおり, 野田
晃成, 佐久間翔, 麻生純平, 石田学, 小田未来, 本
多紘二郎, 中本啓太郎, 皿谷健, 石井晴之:EBUS-
GS併用経気管支生検における咳嗽の診断率へ与え
る影響. 第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 名
古屋. 2021年6月24日-25日.
16. 中嶋啓, 小林史, 長谷見次郎, 村上涼, 阿部太郎,
石川周成, 斎藤正興, 春日啓介, 麻生かおり, 野田
晃成, 佐久間翔, 麻生純平, 石田学, 小田未来, 本
多紘二郎, 中本啓太郎, 皿谷健, 石井晴之:EBUS-
TBNAが診断に有用であった偽中皮腫型の扁平上
皮肺癌の一例. 第44回日本呼吸器内視鏡学会学術
集会. 名古屋. 2021年6月24日-25日.
17. 小林史, 中嶋啓, 村上涼, 阿部太郎, 長谷見次郎,
斎藤正興, 春日啓介, 石川周成, 麻生かおり, 野田
晃成, 佐久間翔, 麻生純平, 小田未来, 石田学, 中
本啓太郎, 本多紘二郎, 皿谷健, 石井晴之:気管支
鏡による肺癌生検検体の腫瘍細胞含有率に影響を
与える因子の検討. 第44回日本呼吸器内視鏡学会
学術集会. 名古屋. 2021年6月24日-25日.
18. 石井晴之:今まさに問われるもの～間質性肺炎診療
から～. IPF Scientific Exchange Meeting in 九
州. オンライン. 2021年7月3日.
19. 皿谷健:呼吸器疾患の身体所見の取り方
Overview～コロナ禍の間質性肺炎治療を踏まえて
～. 第2回画像で学ぶ!!びまん性肺疾患 web
seminar. オンライン. 2021年7月13日.
20. 石井晴之:間質性肺炎を考える-これだけ変わった
診療指針-. 専門医に聞く間質性肺炎Seminar. オン
ライン. 2021年7月20日.
21. 石井晴之:高齢者の肺がんの機能予後を改善する
試み～がん悪液質の視点から～. Live Webinar-
高齢者肺がん編-. オンライン. 2021年8月18日.
22. 石井晴之:難治性肺疾患への光-抗線維化薬-. 呼
吸器 サマーセミナーin多摩-専門医に聞く、呼吸
器疾患のポイント-. オンライン. 2021年8月21日.
23. 皿谷健:-専門医に聞く、呼吸器疾患のポイント-胸
水. 呼吸器サマーセミナーin多摩. オンライン.
2021年8月21日.
24. 皿谷健:喘息治療におけるトリプル療法のポテン
シャルを見極める. GSK Asthma Conference. 東
京. 2021年8月25日.
25. 石田学:当院における全肺洗浄について. Tama呼
吸器エキスパート オンラインセミナー. オンライ
ン. 2021年8月26日.
26. 皿谷健:日常診療における慢性便秘症治療. 便秘攻
略セミナー. 三鷹. 2021年9月7日.
27. 皿谷健:聴診所見を臨床に役立てるために. 第182
回城西画像研究会. 三鷹. 2021年9月29日.
28. 石井晴之:PF-ILDにおける抗線維化薬への期待.
弘前 ILD Seminar. オンライン. 2021年10月4日.
29. 皿谷健:COVID-19禍におけるPF-ILDの診断及び
診療. オフエブILD web academy. 東京. 2021年
10月6日.
30. 皿谷健:“息切れ”に潜む呼吸器疾患 ～無線聴診器

の可能性～．これからの病診連携を考える～息切れの原因を多方面からアプローチする～．東京．2021年10月7日．

31. 細矢慶, 小町太郎, 洲崎勲夫, 中本啓太郎, 正木克宜, 上出庸介, 荻野枝里子, 松脇由典, 小林良樹, 朝子幹也, 野崎誠, 車川寿一, 佐伯秀久, 神田奈緒子, 臼倉典宏, 大久保公裕: デュピルマブのアドヒアランスに関するアンケート調査. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年10月8日-10日.
32. 中本啓太郎, 宮岡智花, 吉田悠貴, 平田彩, 三倉直, 小田未来, 石田学, 渡辺雅人, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: 気管支喘息における酸化ストレス測定の意義. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年10月8日-10日.
33. 石井晴之: IPFにおける治療変遷～明るい未来につなげるためには～. 中庄 ILD Conference. 岡山. 2021年10月13日.
34. 皿谷健: 呼吸器疾患での身体所見の診方. 中庄ILD conference. 岡山. 2021年10月13日.
35. 石井晴之: PF-ILDの最新知見. 間質性肺疾患治療を考える会. 埼玉. 2021年10月18日.
36. 中本啓太郎, 皿谷健, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔, 石井晴之: 紫外線照射したN95マスクの再利用における効果と安全性について. 第70回日本感染症学会東日本地方会学術集会第68回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京. 2021年10月27日-29日.
37. 石井晴之: 胸部画像所見から見えるもの～肺気腫、間質性肺疾患を中心に～. 第18回さがみ呼吸器疾患研究会. 厚木. 2021年10月29日.
38. 石井晴之: 抗線維化薬継続のためのIC～I PFの知見をふまえて～. Informwd Consent (IC) conference. オンライン. 2021年11月3日.
39. 石井晴之: 難治性呼吸器疾患における取り組み. 第5回杏林大学医学部付属病院 医療連携フォーラム. 三鷹. 2021年11月18日.
40. 田中悠, 泉大樹, 松本慎吾, 中村敦, 齋藤春洋, 久山彰一, 西野和美, 古屋直樹, 高田佐織, 原聡志, 田幡江利子, 井谷英敏, 宮本信吾, 飛野和則, 酒井徹也, 柴田祐司, 野崎要, 善家義貴, 葉清隆, 後藤功一: 80歳以上の非小細胞肺癌のゲノムプロファイルと薬物治療効果. 第62回肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月26日.
41. 高田佐織, 森川慶, 田中寿志, 井谷英敏, 堀内一哉, 大熊裕介, 副島研造, 中川英之, 中原善朗, 関好孝, 別所昭宏, 高橋伸政, 林健太郎, 遠藤健夫, 武山廉, 前倉俊也, 瀧川奈義夫, 川瀬晃和, 岡野哲也, 塩野知志, 根本健司, 岸一馬, 堀本勝, 松谷哲行, 関順彦: EGFR mt (+) NSCLCに対するafatinibの多施設共同前向きバイオマーカー探索研究 (EXTRA試験): 臨床パート報告. 第62回肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月27日.
42. 香川洋輔, 松本慎吾, 近藤哲郎, 西野和美, 高田佐織, 中村敦, 仲地一郎, 原聡志, 宮本信吾, 田村朋季, 中谷有貴, 酒井徹也, 柴田祐司, 泉大樹, 野崎要, 宇田川響, 善家義貴, 葉清隆, 後藤功一: PIK3CA/PTEN遺伝子異常を有する肺扁平上皮癌の特徴と予後の検討. 第62回肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月27日.
43. 森川慶, 田中寿志, 高田佐織, 渡部聡, 岸一馬, 副島研造, 解良恭一, 各務博, 吉村健一, 松谷哲行, 関順彦: 進行EGFR変異患者対象のafatinibまたはosimertinibを一次治療とした無作為化非盲検第2相試験 (Heat on Beat). 第62回肺癌学会学術集

会. 横浜・オンライン. 2021年11月27日.

44. 皿谷健: 呼吸器専門医が診る“息切れ”について～COPDを含めて～. 東京息切れ会議. 三鷹. 2021年12月1日.
45. 石井晴之: 間質性肺炎を考える-これだけ変わった診療指針-. オフェブILD WEB Academy. 大阪. 2021年12月3日.
46. 石井晴之: 新型コロナウイルス感染症の治療と予後. 新型コロナウイルス感染症の現状・予防・治療の最前線シンポジウム. 群馬. 2021年12月12日.
47. 皿谷健: 『肺音聴診 聴診ポイントから診断アプローチまで』. 医療技術スキルアップセミナー. 東京. 2021年12月12日.
48. 皿谷健: COPD治療について. 武蔵野市・三鷹市 呼吸器疾患パートナーリングの会 2nd. 三鷹. 2021年12月14日.
49. 本多紘二郎: 「間質性肺疾患治療について」. 武蔵野市・三鷹市パートナーリングの会. 三鷹. 2021年12月14日.
50. 石井晴之: 気管支喘息治療の変遷. Trelegy Clinical Experience Seminar. オンライン. 2021年12月15日.
51. 皿谷健: コロナ禍における呼吸器感染症診療について. TAMA Web Seminar. 東京. 2021年12月21日.
52. 石井晴之: 抗線維化薬継続のためのIC～I PFの知見をふまえて～. 浦安呼吸器Forum. オンライン. 2022年1月26日.
53. 石井晴之: 間質性肺疾患治療の展望. 第16回福島県北COPD研究会. オンライン. 2022年2月8日.
54. 皿谷健: 呼吸器「空洞性病変鑑別におけるピットフォール」. 第41回日本画像医学会. 東京. 2022年2月18日.
55. 石井晴之: びまん性肺疾患における画像診断の新たな有用性-抗線維化薬をどのように使うか-. 第41回日本画像医学会ランチョンセミナー. オンライン. 2022年2月19日.
56. 皿谷健: コモンディージーズの基本画像と診断/治療～身体所見の実際を踏まえて～. 中小病院実務研究会. 東京. 2022年3月5日.
57. Saraya T: Diagnostic method for malignant pleural effusion distinguishing malignant mesothelioma from lung cancer using pleural carcinoembryonic antigen and hyaluronic acid levels. APSR2021.kyoto. November 20, 2021.
58. Nakamoto K, Saraya T, Ishikawa N, Mikura S, Yoshida Y, Shimasaki T, Daisuke Kurai D, Fukukawa N, Taneoka T, Ishii H: The effect and safety of ultraviolet germicidal irradiation on reusing N95 filtering facepiece respirators at weekly intervals. APSR2021. Kyoto. November 20-21, 2021.
59. Ishida M, Saraya T, Kurokawa N, Aso J, Kitamura N, Nakata K, Ishii H: Relationship between size and morphology of alveolar macrophages in bronchoalveolar lavage fluid in sarcoidosis. APSR 2021. Kyoto. November 20-21, 2021.

論文

1. Ikeda S, Misumi T, Izumi S, Sakamoto K, Nishimura N, Ro S, Fukunaga K, Okamori S, Tachikawa N, Miyata N, Shinkai M, Shinoda M,

- Miyazaki Y, Iijima Y, Izumo T, Inomata M, Okamoto M, Yamaguchi T, Iwabuchi K, Masuda M, Takoi H, Oyamada Y, Fujitani S, Mineshita M, Ishii H, Nakagawa A, Yamaguchi N, Hibino M, Tsushima K, Nagai T, Ishikawa S, Ishikawa N, Kondoh Y, Yamazaki Y, Gocho K, Nishizawa T, Tsuzuku A, Yagi K, Shindo Y, Takeda Y, Yamanaka T, Ogura T: Corticosteroids for hospitalized patients with mild to critically-ill COVID-19: a multicenter, retrospective, propensity score-matched study. *Sci Rep*. 11(1). 10727. 2021.
- Ishikawa N, Saraya T, Saito M, Ishii H: A True Keloid in the Thorax. *Intern Med*. 60(24). 4003-4004. 2021.
 - Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, Terasaki Y, Hebisawa A, Iwasawa T, Johkoh T, Baba T, Miyamoto A, Handa T, Tomii K, Waseda Y, Bando M, Ishii H, Miyazaki Y, Yoshizawa A, Takemura T, Kawabata Y, Ogura T: Clinical characteristics of immunoglobulin G4-positive interstitial pneumonia. *ERJ Open Res*. 7(3). 00317-2021.2021.
 - Saraya T, Kasuga K, Kishimoto M, Ishii H: Hiker's Feet: Hidden Warning Skin Sign. *Intern Med*. 2022. doi: 10.2169/internalmedicine.8999-21. Online ahead of print.
 - Nunokawa H, Murakami Y, Ishii T, Narita T, Ishii H, Takizawa H, Yamashita N: Crucial role of stimulator of interferon genes-dependent signaling in house dust mite extract-induced IgE production. *Sci Rep*. 11(1).13157.2021.
 - Nakamoto K, Saraya T, Ishikawa N, Mikura S, Yoshida Y, Fukukawa N, Taneoka T, Shimasaki T, Kurai D, Ishii H: Efficacy and Safety of Weekly Ultraviolet Germicidal Irradiation for the Reuse of N95 Filtering Respirators. *Cureus*.13(9).e18233. 2021.
 - Shindo Y, Kondoh Y, Kada A, Doi Y, Tomii K, Mukae H, Murata N, Imai R, Okamoto M, Yamano Y, Miyazaki Y, Shinoda M, Aso H, Izumi S, Ishii H, Ito R, Saito AM, Saito TI, Hasegawa Y: Phase II Clinical Trial of Combination Therapy with Favipiravir and Methylprednisolone for COVID-19 with Non-Critical Respiratory Failure. *Infect Dis Ther*. 10(4).2353-2369. 2021.
 - Kasuga K, Nakamoto K, Doi K, Kurokawa N, Saraya T, Ishii H: Chronic pulmonary aspergillosis in a patient with hyper-IgE syndrome. *Respirol Case Rep*.10(1).e0887. 2021.
 - Shirai T, Sada M, Saraya T, Kurai D, Sunagawa S, Ishii H, Kimura H: Detailed Analyses of Molecular Interactions between Favipiravir and RNA Viruses In Silico. *Viruses*.14(2).338. 2022.
 - Saraya T, Ogawa Y, Nakamoto K, Fujiwara M, Ishii H: Pulmonary Involvement in Microscopic Polyangiitis: Computed Tomography Findings in 55 Patients With Analysis of Risk Factors for Recurrence. *Cureus*.14(1). e21285. 2022.
 - Saraya T, Ohkuma K, Fujiwara M, Ishii H: Diagnostic method for malignant pleural effusion distinguishing malignant mesothelioma from lung cancer using pleural carcinoembryonic antigen and hyaluronic acid levels. *Medicine (Baltimore)*.101(1). e28517. 2022.
 - Shinkai M, Tsushima K, Tanaka S, Hagiwara E, Tarumoto N, Kawada I, Hirai Y, Fujiwara S, Komase Y, Saraya T et al: Efficacy and Safety of Favipiravir in Moderate COVID-19 Pneumonia Patients without Oxygen Therapy: A Randomized, Phase III Clinical Trial. *Infect Dis Ther*. 10(4). 2489-2509. 2021.
 - Hirata A, Saraya T, Kobayashi F, Noda A, Aso K, Sakuma S, Kurokawa N, Inoue M, Mikura S, Oda M, Ishida M, Honda K, Nakamoto K, Tamura M, Takata S, Ishii H, Takizawa H. Immune-related adverse events with immune checkpoint inhibitors: Special reference to the effects on the lungs. *Medicine (Baltimore)*. 100(14). e25275. 2021.
 - Ogawa Y, Saraya T, Noda A, Kurokawa N, Sakuma S, Aso K, Mikura S, Oda M, Ishida M, Honda K, Nakamoto K, Tamura M, Takata S, Ishii H, Takizawa H: A simple method for discrimination of carcinomatous meningitis using CEA, total protein, and total cell count in the cerebrospinal fluid of primary lung cancer patients. *Medicine (Baltimore)*. 100(14). e25367. 2021.
 - Shimoda M, Takao S, Kokutou H, Yoshida N, Fujiwara K, Furuuchi K, Osawa T, Nakamoto K, Tanaka Y, Morimoto K, Yano R, Okumura M, Uchiyama T, Yoshimori K, Ohta K, Senjyu H: In-hospital pulmonary rehabilitation after completion of primary respiratory disease treatment improves physical activity and ADL performance: A prospective intervention study. *Medicine (Baltimore)*. 100(49).e28151. 2021.
- ### 著書
- 石井晴之（分担執筆）：新型コロナウイルス感染症における治療指針の変化. 感染制御と予防衛生. 木村博一（編集主幹）. メディカルレビュー社. 2021年. 33-39.
 - 石井晴之：（座談会）with コロナ時代の呼吸器内科診療. 日本内科学会雑誌. 高橋和久. 一般社団法人日本内科学会. 2021年. 1115-1131.
 - 石井晴之（分担執筆）：びまん性肺石灰化症・転移性肺石灰化症. 呼吸器症候群（第3版）-その他の呼吸器疾患を含めて-. 日本臨牀社. 2021年. 160-163.
 - 皿谷健（分担執筆）：第VI章 膠原病と関係しやすい各科との連携ポイント3. 呼吸器内科との連携. ここが知りたい！膠原病診療ハンドブック. 岸本暢将（監修）, 清水英樹（編著）. 中外医学社. 2021年. 347-352.
 - 皿谷健（分担執筆）：マイコプラズマ抗体価. 検査値の読み方・考え方第3版 専門医からのアドバイス. 西崎統, 村田満, 上原由紀. 総合医学社. 2021年. 309-311.
 - 皿谷健（分担執筆）：Generalist Specialist 連携のポイント ケース1 慢性閉塞性肺疾患（COPD）. ドクターGとドクターS. 臨床雑誌内科2021 vol 128. 南江堂. 2021年. 140-145.
 - 皿谷健（分担執筆）：マイコプラズマ抗体価. 看護に活かす検査値の読み方・考え方 第3版 専門医からのアドバイス. 村田満, 上原由紀. 総合医学社. 2021年. 239-240.

8. 野田顕成, 皿谷健(分担執筆): 致命的咯血では蔓状血管腫を鑑別にあげることが忘れてはいけない. 臨床雑誌 内科. 2021 vol 128, NO3 特大号. 南江堂. 2021年. 376-379.
9. 皿谷健(分担執筆): この症状で、次は何を聞く? 急性咳嗽. medicina 2021 vol 58. No12外来で役立つAha! クエスチョン. 医学書院. 2021年. 1984-1986.
10. 皿谷健(分担執筆): 呼吸器感染症 マイコプラズマ肺炎. 日本臨牀 別冊 呼吸器症候群 (第3版) IV. 日本臨牀社. 2021年. 267-270.
11. 皿谷健(分担執筆): 呼吸器感染症 Wanderling pneumonia. 日本臨牀 別冊 呼吸器症候群 (第3版) IV. 日本臨牀社. 2021年. 299-300.
12. 皿谷健(分担執筆): 呼吸器感染症 Good症候群. 日本臨牀 別冊 呼吸器症候群 (第3版) V. 日本臨牀社. 2021年. 165-166.
13. 皿谷健(分担執筆): オミクロンの正体. 週刊文春. 2022年1月20日. 22-26.
14. 皿谷健(分担執筆): 臨床と微生物. 注目されている呼吸器感染症 細菌性呼吸器感染症. vol49. NO1. 近代出版. 2022年. 39-43.
15. 皿谷健(分担執筆): 呼吸のみかた・聴き方. Expert Nurse 2022 Vol38. No2. 昭林社. 2022年. 20-36.
16. 皿谷健(分担執筆): フィジカル大全 COPD, 喘息, 気胸, 縦隔気腫. medicina 2022年増刊号. vol 49. NO4. 123-128.
17. 石田学(分担執筆): 気管支肺胞洗浄(BAL). 特発性間質性肺炎診断の治療と手引き(改訂第4版). 日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会. 南江堂. 2022年. 27-30.
2. Merola JF, Richette P, Lubrano E, Drescher E, Soto L, Lovan C, Kato K, Lippe R, Lane M, Kishimoto M: Efficacy of upadacitinib in patients with psoriatic arthritis stratified by baseline skin severity: a subgroup analysis of two phase III trials. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
3. Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Ostor A, Combe B, Sui Y, Wang X, Chu AD, Song IH: Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Active Ankylosing Spondylitis: 1-Year Results From a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study With Open-Label Extension: Results From a Phase 3 study. EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
4. McInnes I, Kato K, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Kishimoto M, Jeka S, Pacheco-Tena CF, Wang X, Chen L, Zueger, Pangan A, Behrens F: Efficacy and Safety of Upadacitinib Versus Placebo and Adalimumab in Patients With Active Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Non-Biologic Disease-Modifying Anti-Rheumatic Drugs (SELECT-PsA-1): a Double-Blind, Randomized Controlled Phase 3 Trial. Abstract form in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
5. Ono K, Kishimoto M, Fukui S, Kawaai S, Deshpande GA, Yoshida K, Ichikawa N, Kaneko Y, Kawasaki T, Matsui K, Morita M, Tada K, Takizawa N, Tamura N, Taniguchi A, Taniguchi Y, Tsuji S, Kobayashi S, Okada M, López Medina C, Molto A, van der Heijde D, Dougados M, Komagata Y, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of nonradiographic axial spondyloarthritis in Asian countries compared to other regions: results of the international cross-sectional ASAS-COMOSPA study. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
6. Lopez-Medina C, Molto A, Sieper J, Duruöz MT, Kiltz U, El-Zorkany B, Hajjaj-Hassouni N, Burgos-Vargas R, Maldonado-Cocco J, Ziade N, Gavali M, Navarro-Compán V, Fen Luo S, Biglia A, Kim TJ, Kishimoto M, Pimentel-Santos F, Gu J, Muntean L, van Gaalen F, Géher P, Magrey M, Ibanez S, Bautista-Molano W, Maksymowych W, Machado PM, Landewé R, van der Heijde D, Dougados M: Identification of Clinical Phenotypes in Patients with Axial Spondyloarthritis, Peripheral Spondyloarthritis and Psoriatic Arthritis According to Peripheral Musculoskeletal Manifestations: a Cluster Analysis in the International ASAS-PerSpA Study. EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
7. Benavent D, Plasencia Ch, Poddubnyy D, Kishimoto M, Proft F, Sawada H, López-Medina C, Dougados M, Navarro-Compán V: Unveiling axial involvement in psoriatic arthritis: an ancillary analysis of the ASAS-perSpA study. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
8. Kishimoto M: Group for Research and Assessment of Psoriasis and Psoriatic Arthritis (GRAPPA) workshop in preworkshop .the 23rd

その他

1. 石井晴之: 英変異株 若者にも脅威. 毎日新聞. 2021年5月15日.
2. 石井晴之: オミクロン別系統 警戒. 毎日新聞. 2022年2月5日.
3. 皿谷健: 「肺聴診」のコツ～狙って聴いて、間質性肺疾患の肺音を聴き取る～ (動画) .<https://pro.boehringer-ingenelheim.com/jp/product/ofev/tips-for-lung-auscultation-sounds-of-ild-video>.
4. 皿谷健: APSR (Asian Pacific Society of Respirology) 2022. Young Scientist award.

腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

講演

(海外)

1. McInnes I, Anderson J, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Kishimoto M, Jeka S, Pacheco-Tena CF, Wang X, Chen L, Zueger, Pangan A, Behrens F: Efficacy and Safety of Upadacitinib Versus Placebo and Adalimumab in Patients With Active Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Non-Biologic Disease-Modifying Anti-Rheumatic Drugs (SELECT-PsA-1): a Double-Blind, Randomized Controlled Phase 3 Trial. Poster presentation in British society of rheumatology annual meeting. Online. Apr 26-28. 2021.
2. Merola JF, Richette P, Lubrano E, Drescher E, Soto L, Lovan C, Kato K, Lippe R, Lane M, Kishimoto M: Efficacy of upadacitinib in patients with psoriatic arthritis stratified by baseline skin severity: a subgroup analysis of two phase III trials. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
3. Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Ostor A, Combe B, Sui Y, Wang X, Chu AD, Song IH: Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Active Ankylosing Spondylitis: 1-Year Results From a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study With Open-Label Extension: Results From a Phase 3 study. EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
4. McInnes I, Kato K, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Kishimoto M, Jeka S, Pacheco-Tena CF, Wang X, Chen L, Zueger, Pangan A, Behrens F: Efficacy and Safety of Upadacitinib Versus Placebo and Adalimumab in Patients With Active Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Non-Biologic Disease-Modifying Anti-Rheumatic Drugs (SELECT-PsA-1): a Double-Blind, Randomized Controlled Phase 3 Trial. Abstract form in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
5. Ono K, Kishimoto M, Fukui S, Kawaai S, Deshpande GA, Yoshida K, Ichikawa N, Kaneko Y, Kawasaki T, Matsui K, Morita M, Tada K, Takizawa N, Tamura N, Taniguchi A, Taniguchi Y, Tsuji S, Kobayashi S, Okada M, López Medina C, Molto A, van der Heijde D, Dougados M, Komagata Y, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of nonradiographic axial spondyloarthritis in Asian countries compared to other regions: results of the international cross-sectional ASAS-COMOSPA study. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
6. Lopez-Medina C, Molto A, Sieper J, Duruöz MT, Kiltz U, El-Zorkany B, Hajjaj-Hassouni N, Burgos-Vargas R, Maldonado-Cocco J, Ziade N, Gavali M, Navarro-Compán V, Fen Luo S, Biglia A, Kim TJ, Kishimoto M, Pimentel-Santos F, Gu J, Muntean L, van Gaalen F, Géher P, Magrey M, Ibanez S, Bautista-Molano W, Maksymowych W, Machado PM, Landewé R, van der Heijde D, Dougados M: Identification of Clinical Phenotypes in Patients with Axial Spondyloarthritis, Peripheral Spondyloarthritis and Psoriatic Arthritis According to Peripheral Musculoskeletal Manifestations: a Cluster Analysis in the International ASAS-PerSpA Study. EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
7. Benavent D, Plasencia Ch, Poddubnyy D, Kishimoto M, Proft F, Sawada H, López-Medina C, Dougados M, Navarro-Compán V: Unveiling axial involvement in psoriatic arthritis: an ancillary analysis of the ASAS-perSpA study. Poster presentation in EULAR E-Congress. Online. Jun 2-5, 2021.
8. Kishimoto M: Group for Research and Assessment of Psoriasis and Psoriatic Arthritis (GRAPPA) workshop in preworkshop .the 23rd

- Asia Pacific League of Associations for Rheumatology. Online. Aug 28, 2021.
9. Kishimoto M: What is “beyond remission” in RA management and how should rheumatologists approach this? In clinical practice for beyond remission in RA. 23rd Asia Pacific League of Associations for Rheumatology . Online. Aug 28, 2021.
 10. Kishimoto M : Spondyloarthritis session . the 23rd APLAR 2021 . Online. Aug 29, 2021.
 11. Kishimoto M : Axial spondyloarthritis session . the 23rd APLAR 2021. Online. Aug 29, 2021.
 12. Kishimoto M: The Present and Future: Expanding Experience with Infliximab Biosimilar. 23rd APLAR 2021. Online. Aug 29, 2021.
 13. Kishimoto M, McInnes I, Kato K, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Jeka S, Pacheco-Tena CF, Wang X, Chen L, Zueger , Pangan A, Behrens F: Efficacy and Safety of Upadacitinib Versus Placebo and Adalimumab in Patients With Active Psoriatic Arthritis and Inadequate Response to Non-Biologic Disease-Modifying Anti-Rheumatic Drugs (SELECT-PsA-1): a Double-Blind, Randomized Controlled Phase 3 Trial. . the 23rd APLAR 2021 .Online. Aug 29, 2021.
 14. Kishimoto M, Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Ostor A, Combe B, Sui Y, Wang X, Chu AD, Song IH: Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients With Active Ankylosing Spondylitis: 1-Year Results From a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study With Open-Label Extension: Results From a Phase 3 study. the 23rd APLAR 2021. Online. Aug 30, 2021.
 15. Okada H, Kato H, Miyakawa, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M: Safety and Effectiveness of Eculizumab for Adult Patients with Atypical Hemolytic-Uremic Syndrome in Japan: Interim Analysis of Post-Marketing Surveillance. The Am Soc Nephrol Annual Meeting. Online. Nov 4, 2021.
 16. Kawashima S, Kaname S: MPO-ANCA-Associated Glomerulonephritis. Am Soc Nephrol Annual Meeting Online, Nov 4, 2021.
 17. Karube M, Kawashima S, Kaname S: B Cell Suppression and Relapse of Vasculitis in Maintenance Therapy of Rituximab for Granulomatosis with Polyangiitis. The Am Soc Nephrol Annual Meeting. Online Nov 6, 2021.
 18. Karube M, Kaname S: Investigation of Concentration of Blood Solubilized CD40 Ligand (sCD40L) in Maintenance Dialysis Patients. The Am Soc Nephrol Annual Meeting. Online Nov 6, 2021.
 19. Van der heijde, Deodhar A, Maksymowych WP, Sieper J, Van den Bosch F, Kim TH, Kishimoto M, Ostor A, Combe B, Sui Y, Duan Y, Chu AD, Song IH: Efficacy and safety of upadacitinib in patients with active ankylosing spondylitis: 2-year results from a randomized, double-blind, placebo-controlled study with open-label extension. the ACR Convergence. Online. Nov 10, 2021.
 20. Sawada H, Kishimoto M, Tada K, Deshpande GA, Ono K, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Asahina A, Okada M, Tomita T, Benavent D, Plasencia-Rodriguez C, Navarro-Compán V, López Medina C, Molto A, van der Heijde Désirée, Dougados M, Tamura N: Regional differences in clinical characteristics and treatment of psoriatic arthritis with axial involvement: results from the cross sectional international ASAS PerSpA Study. Poster presentation at the ACR Convergence. Online. Nov 10, 2021.
 21. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Asahina A, Okada M, Komagata Y, López Medina C, Molto A, van der Heijde Désirée, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of patients with SpA and concomitant IBD: results from the ASAS PerSpA study. Poster presentation at the ACR Convergence. Online. Nov 10, 2021.
 22. McInnes I, Kato K, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Kishimoto M, Pacheco-Tena CF, Haaland D, Chen L, Duan Y, Zueger P, Liu J, Lippe R, Pangan A, Behrens F: Long-term efficacy and safety of upadacitinib in patients with psoriatic arthritis: results at 56 weeks from the SELECT-PsA 1 study. Poster presentation at the ACR Convergence. Online. Nov 10, 2021.
 23. Smolen JS, Lubrano E, Kishimoto M, Bălănescu A, Strand V, Gao T, Vranich N, Lippe R, Tillett W: Comparison of composite indices for disease activity in patients with psoriatic arthritis treated with upadacitinib: A post-hoc analysis from SELECT-PsA 1. Poster presentation at the ACR Convergence. Online. Online. Nov 10, 2021.
- (国内)
1. 池谷紀子, 駒形嘉紀, 久木元光, 佐藤由利子, 竹森愛, 内田裕子, 小澤祐子, 國沢恭平, 川嶋聡子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 要伸也: 当院における成人Still病の臨床経過の検討. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
 2. 小野慶介, 岸本暢将, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院における抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎患者の臨床的特徴と予後. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
 3. 小野慶介, 岸本暢将, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: COVID-19感染後に反応性関節炎を発症した世界で1例目の報告. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
 4. 軽部美穂, 内田裕子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 腎機能障害を有するSLEにおけるベリムマブの治療効果. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.

5. 川嶋聡子, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: MPO-ANCA陽性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における再燃の臨床解析. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
6. 川嶋聡子, 李恵伶, 佐藤由利子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: MPO-ANCA陽性好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(MPO-EGPA)における再燃の臨床解析. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
7. 岸本暢将, Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Ostor A, Combe B, Sui Y, Wang X, Chu AD, Song IH: 活動性強直性脊椎炎(Ankylosing Spondylitis (AS))患者におけるウパダシチニブ(Upadacitinib (UPA))の有効性及び安全性. 1年間の無作為化二重盲検プラセボ(Placebo (PBO))対照オープンラベル継続投与試験(Open-Label Extension (OLE)). 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
8. 岸本暢将, Anderson A, McInnes IB, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Jeka S, Pacheco-tena C, Wang X, Chen L, Zueger P, Behrens F: 非生物学的DMARDで効果不十分な活動性乾癬性関節炎患者を対象としたウパダシチニブの第3相試験(SELECT-PsA1)における全体及び日本人集団の有効性及び安全性. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
9. 岸本暢将: 関節リウマチ治療におけるBone Management. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26日.
10. 岸本暢将: PsA最新情報とIL23阻害薬への期待. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月27日.
11. 岸本暢将: リウマチ性多発筋痛症(PMR)とその周辺疾患. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月28日.
12. 田巻弘道, 福井翔, 岸本暢将, 岡田正人: 関節リウマチに対するサリルマブの使用経験. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
13. 中井健宏, 伊藤孝典, 木戸口元気, 福井翔, 小澤廣記, 川合聡史, 池田行彦, 北田彩子, 大原由利, 清水久徳, 野村篤史, 田巻弘道, 山口賢一, 岸本暢将, 岡田正人: 抗核抗体陽性の挙児可能年齢女性における抗核抗体疾患罹患率と予後規定因子についての解析. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
14. 福岡利仁, 薄井晃一, 佐藤良輔, 李恵伶, 宮本彩子, 小澤祐子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: NOD2変異の関与が示唆された遷延する発熱を呈した一例. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会. オンライン. 2021年4月26-28日.
15. 要伸也: 腎臓内科医からみるDKD対策. TAMA Diabetes & Kidney Conference. オンライン. 2021年5月10日.
16. 要伸也: 腎臓内科医からみたANCA関連血管炎. キッセイ薬品工業株式会社講演会. オンライン. 2021年5月13日.
17. 要伸也: 腎代替療法療養指導士の今後の展開: 腎臓病療養指導士の概要と今後の展開~日本腎臓学会/日本腎臓病協会の立場から~. 日本医工学治療学会第37回学術大会. オンライン. 2021年5月1日.
18. 川崎路浩, 安藤亮一, 花房規男, 菊地勘, 酒井謙, 尾田高志, 要伸也, 安部貴之, 岡本裕美, 山家敏彦: 透析医療における災害対策~情報技術による革新~災害時の情報機能するための準備と災害時の伝達方法. 日本医工学治療学会第37回学術大会. オンライン. 2021年5月1-2日.
19. 安藤亮一, 花房規男, 菊地勘, 酒井謙, 尾田高志, 要伸也, 安部貴之, 岡本裕美, 川崎路浩: 透析医療における災害対策~情報技術による革新~過密地域における情報伝達の重要性. 首都における災害対策. 日本医工学治療学会第37回学術大会. オンライン. 2021年5月1-2日.
20. 川上貴久: 保存期腎性貧血の治療. 調布医師会学術講演会. 調布市. 2021年5月25日.
21. 岸本暢将: 乾癬性関節炎治療の推奨と現状. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜市. 2021年6月12日.
22. 日比野智, 川嶋聡子, 李恵伶, 佐藤由利子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: COVID-19後、MPO-ANCA陽性顕微鏡的多発血管炎を発症した一例. 第67回多摩リウマチ研究会. オンライン. 2021年6月12日.
23. 岸本暢将: 高齢SLE患者での注意点~ステロイド早期減量の重要性~. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月19日.
24. 要伸也: 腎臓病療養指導士活動の今後の展開と評価. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月20日.
25. 有川滋久, 福岡利仁, 國友理恵, 松野裕樹, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也: 血液透析患者における中和抗体カクテルの有効性. REGN-COV2投与群と非投与群の20例のケースシリーズ. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月18-20日.
26. 川嶋聡子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院におけるANCA関連腎炎に対するリツキシマブ療法の臨床像の解析. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月18-20日.
27. 久木元光, 福岡利仁, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 透析導入予測因子としての補正AGの有用性に関する検討. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月20日.
28. 丸山彰一, 池田洋一郎, 要伸也, 加藤規利, 松本雅則, 石川由美子, 下野明彦, 宮川義隆, 南学正臣, 柴垣有吾, 岡田浩一: 成人aHUS患者に対するエクリズマブ市販後調査の解析. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月18-20日.
29. 宮本彩子, 川上貴久, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: マクロファージ特異的PHDノックアウトはLPSによる全身性炎症を改善する. 第64回日本腎臓学会学術総会. 横浜市・オンライン. 2021年6月18-20日.
30. 松野裕樹, 清水英樹, 要伸也, 寺脇博之, 窪田沙也花, 宮嶋明子: 超高齢・低心機能合併例へのPD導入を介し構築した腎不全・PD診療. 日本透析医学会. 2021年6月18日・20日.
31. 駒形嘉紀: 関節リウマチ治療の課題と今後の展望. リウマチエリアWEBセミナー. オンライン. 2021年6月23日.
32. 駒形嘉紀: EGPA最新の話. 大阪EGPA Expertフォーラム. オンライン. 2021年6月25日.

33. 岸本暢将：乾癬性関節炎最新情報～診断から治療まで～. 第470回日本皮膚科学会北陸地方会. オンライン. 2021年6月27日.
34. 内田裕子, 福岡利仁, 前田啓造, 李恵怜, 佐藤由利子, 國沢恭平, 正路久美, 川嶋聡子, 池谷紀子, 軽部美穂, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：当院におけるベリムバム導入SLE65症例の疾患活動性の検討. 第61回関東リウマチ研究会. オンライン. 2020年7月3日.
35. 要伸也：<CKD診療up to date>-カリウム管理を中心に-. Science Exchange Meeting Tokyo. オンライン. 2021年7月15日.
36. 要伸也：CKD重症化予防を考える～新規高カリウム血症改善剤への期待を踏まえて～. LOKELMA Online Symposium. オンライン. 2021年7月19日.
37. 駒形嘉紀：リウマチ膠原病に伴う間質性肺炎. 調布市医師会学術講演会. 東京・オンライン. 2021年9月8日.
38. 岸本暢将：PsA治療Update～最適な治療選択肢を考える～. 日本脊椎関節炎学会第31回学術集会. 東京. 2021年9月11日.
39. 岸本暢将, Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Ostor A, Combe B, Sui Y, Wang X, Chu AD, Song IH：活動性強直性脊椎炎(Ankylosing Spondylitis (AS))患者におけるウパダシチニブ(Upadacitinib (UPA))の有効性及び安全性 1年間の無作為化二重盲検プラセボ(Placebo (PBO))対照オープンラベル継続投与試験(Open-Label Extension (OLE)). 日本脊椎関節炎学会第31回学術集会. 東京. 2021年9月11日.
40. 岸本暢将：SpA/PsA診療Update. 第62回九州リウマチ学会. オンライン. 2021年9月12日.
41. 要伸也：臨床腎臓病学の進歩と未来～私と腎臓病学～. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京・オンライン. 2021年9月26日.
42. 川嶋聡子：MPA, GPAの治療の最前線. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京・オンライン. 2021年9月25-26日.
43. 有川滋久, 鈴切恒平, 銭谷慕子, 須藤裕嗣, 根岸康介, 林松彦, 岡井隆広, 要伸也：SLEとの鑑別に苦慮したが、腎病理が血栓性微小血管症様を呈し診断に至ったTAFRO症候群の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
44. 井上望帆, 川嶋聡子, 小澤祐子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：亜急性に腎障害が進行した全身性強皮症の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
45. 内田裕子, 川上貴久, 佐藤良輔, 伊達友香, 竹森愛, 長濱清隆, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：C3腎症として施行した免疫抑制療法が奏功したが電顕所見を契機にフィブロンネクチン腎症の診断に至った1例. 第51回日本腎臓学会学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
46. 小野慶介, 軽部美穂, 柿沼恵, 早川哲, 國沢恭平, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：免疫抑制治療により尿異常が消失した単クローン性ガンマグロブリン血症合併C3腎症の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
47. 國友理恵, 川上貴久, 長濱清隆, 日比野智, 磯村杏耶, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：フィブロンネクチン腎症の確定診断に質量分析法を要したネフローゼ症候群の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
48. 佐藤良輔, 福岡利仁, 日比野智, 竹森愛, 内田裕子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：左心室内に巨大血栓を認めた微小変化型ネフローゼ症候群(MCD)の一例. 第51回日本腎臓学会学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
49. 戸瀬颯斗, 川嶋聡子, 前田啓造, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 長濱清隆, 要伸也：好中球減少症の経過中に全身性エリテマトーデス・ループス腎炎を発症した一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
50. 日比野智, 川嶋聡子, 李恵怜, 佐藤由利子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：COVID-19後、MPO-ANCA陽性顕微鏡的多発血管炎を発症した一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
51. 前田啓造, 川嶋聡子, 國沢恭平, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：摂食障害によって急性腎障害を繰り返し末期腎不全に至った一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
52. 松野裕樹, 松原秀史, 國友理恵, 小野慶介, 國沢恭平, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也：C3腎症との鑑別を要したMPGN-like glomerulopathy with masked IgG-κ depositsの1例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
53. 松原秀史, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也：シェーグレン症候群の患者に発症したmembranous nephropathy with masked polyclonal IgG depositsの一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
54. 宮本彩子, 川上貴久, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：肺癌の広範な両腎転移により急性腎障害を呈し血液透析導入に至った一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
55. 山下優衣, 川上貴久, 竹森愛, 内田裕子, 長濱清隆, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：免疫抑制療法開始直後に急激な病勢悪化を認めたIgA腎症の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
56. 李恵怜, 福岡利仁, 佐藤良輔, 佐藤由利子, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：末期腎不全を呈した全身性エリテマトーデス(SLE)に合併した非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)の2例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25-26日.
57. 横田理代, 福岡利仁, 前田啓造, 小澤祐子, 岸本暢将, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也：肺高血圧症を合併したSLE発症を契機に歌舞伎症候群と診断された1例. 日本内科学会関東地方会. オンライン. 2021年9月12日.
58. 駒形嘉紀：遺伝性血管浮腫(HAE)とは？-多摩エリアでの診療体制の歴史-. Common Diseaseに潜む希少疾患. オンライン. 2021年9月30日.
59. 要伸也：多職種連携によるCKD対策の現状と課題～腎臓病療養指導士を含めて～. 第12回倉敷CKD医療連携ネットワーク. オンライン. 2021年10月19日.
60. 要伸也：CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～. CKD

- 重症化予防と医療連携を考える会in城東. オンライン. 2021年10月20日.
61. 要伸也：今後のCKD治療と残された課題を考える. Scientific Exchange Meeting Tokyo (CKD診療 up to date). オンライン. 2021年10月25日.
 62. 要伸也：ANCA関連血管炎・腎炎の最新の話題. 第7回KIDNEY RELATED DISEASE SYMPOSIUM in KYOTO. オンライン. 2021年10月28日.
 63. 駒形嘉紀：EGPA最新の話題. 第87回呼吸器合同北陸地方会アフタヌーンセミナー. オンライン. 2021年10月31日.
 64. 岸本暢将：関節リウマチ薬部療法bDMARDsとtsDMARDsについて. 第36回日本整形外科学会認定リウマチ医研修会. オンライン. 2021年11月7日.
 65. 要伸也：多職種チームによるCKD診療の現状と課題～腎臓病療養指導士を含めて～. 第24回日本腎不全看護学会学術集会・総会ランチョンセミナー. オンライン. 2021年11月14日.
 66. 要伸也：高血圧症を考える～腎臓の立場から～. 三鷹市内科医会学術講演会～高血圧症を心臓と腎臓の立場から考える～. オンライン. 2021年11月16日.
 67. 駒形嘉紀：ベリムマブによるSLEの臓器障害抑制と治療マネジメント. SLE講演会. オンライン. 2021年11月16日.
 68. 日比野智, 川嶋聡子, 川上貴久, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：COVID-19後, MPO-ANCA陽性顕微鏡的多発血管炎を発症した一例. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
 69. 早川怜那, 佐藤洋平, 川上貴久, 大山学：ネフローゼ症候群を合併した蜂窩織炎の1例. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
 70. 要伸也：腎臓病重症化予防の現状と展望. Kowa Web Conference. オンライン. 2021年11月30日.
 71. 岸本暢将：関節リウマチにおけるWhole-Patient Careを考える. 第31回日本リウマチ学会関東支部・学術集会. 東京. 2021年12月11日.
 72. 圓谷和輝, 軽部美穂, 小野慶介, 早川哲, 宇高哲, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也：限局性関節病変と呈し、関節リウマチとの鑑別に苦慮したIgG4関連滑膜炎の1例. 第31回日本リウマチ学会関東支部・学術集会. 東京. 2021年12月11日.
 73. 川上貴久：腎性貧血の治療. 三鷹医師会内科医会学術講演会. 三鷹市. 2021年12月14日.
 74. 駒形嘉紀：血管炎症候群2 (ANCA関連血管炎). 第36回日本臨床リウマチ学会. オンライン. 2021年12月18日.
 75. 岸本暢将：ペーチェット診療～アプレミラストの有用性を含めて～. 第36回日本臨床リウマチ学会. 富山. 2021年12月18日.
 76. 岸本暢将：乾癬性関節炎の治療 脊椎関節炎の診断と治療. 第36回日本臨床リウマチ学会. 富山. 2021年12月18日.
 77. 要伸也：多職種連携によるCKD対策の現状と課題～腎臓病療養指導士を含めて～. CKD地域連携セミナー IN HYOGO. オンライン. 2022年2月5日.
 78. 要伸也：東京都透析医会と三多摩災害時透析ネットワークに関する紹介. 令和3年度北多摩南部ブロック災害時透析医療研修会. オンライン. 2022年2月10日.
 79. 要伸也：腎臓病療養指導士の役割と今後の展望. 第21回茨城CKD研究会. オンライン. 2022年3月10日.
 80. 要伸也：CKD対策の最新情報～人材育成を含めて～. 第20回白河地区透析医療勉強会. オンライン. 2022年3月24日.

論文 (英文)

1. Arikawa S, Fukuoka K, Nakamoto K, Kunitomo R, Matsuno Y, Shimazaki T, Saraya T, Kawakami T, Kishimoto M, Komagata Y, Kurai D, Ishi H, Kaname S: Effectiveness of neutralizing antibody cocktail in hemodialysis patients: a case series of 20 patients treated with or without REGN-COV2. Clin Exp Nephrol. 26(5). 476-485. 2022. Epub.
2. Higashihara E, Nutahara K, Itoh M, Okegawa T, Tambo M, Yamaguchi T, Nakamura N, Taguchi S, Kaname S, Yokoyama K, Yoshioka T, Fukuhara H: Long-Term Outcomes of Longitudinal Efficacy Study With Tolvaptan in ADPKD. Kidney Int Rep. 7(2). 270-281. 2021.
3. Kishimoto M, Taniguchi Y, Tsuji S, Ishihara Y, Deshpande GA, Maeda K, Okada M, Komagata Y, Kobayashi S, Okubo Y, Tomita T, Kaname S: SAPHO Syndrome and Pustulotic Arthro-Osteitis (PAO). Mod Rheumatol. 2021.roab103. doi: 10.1093/mr/roab103. Online ahead of print.
4. Nagasaka K, Kaname S, Amano K, Kato M, Katsumata Y, Komagata Y, Sada KE, Tanaka E, Tamura N, Dobashi H, Nanki T, Harabuchi Y, Bando M, Homma S, Wada T, Harigai M: Nationwide survey of the treatment trend of microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis in Japan using the Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare Database. Mod Rheumatol. 2021 Oct 7:roab088. doi: 10.1093/mr/roab088. Online ahead of print.
5. Kawazoe M, Nanki T, Hagino N, Ikegaya N, Ito S, Koderia M, Nakano N, Suzuki M, Kaname S, Harigai M: Clinical characteristics of patients with polyarteritis nodosa based on a nationwide database in Japan. Mod Rheumatol. 2021. roab019. doi: 10.1093/mr/roab019. Online ahead of print.
6. Nagai M, Uchida T, Yamada M, Komatsu S, Ohta K, Mukae M, Iwamoto H, Hirano H, Karube M, Kaname S, Oda T: TAFRO syndrome in a kidney transplant recipient that was diagnosed on autopsy: A case report. Front Med (Lausanne). 8. 747678. 2021.
7. Usui J, Kawashima S, Sada KE, Miyawaki Y, Nakazawa D, Itabashi M, Endo S, Endo T, Oda T, Ohya M, Kitagawa K, Nagasawa T, Hirahashi J, Hiromura K, Kawaguchi T, Takayasu M, Tsuboi N, Hirayama K, Muso E, Yumura W, Kaname S, Furuichi K, Okada H, Narita I: Committee of Clinical Practical Guideline for Rapidly Progressive Glomerulonephritis 2020. A digest of the evidence-based Clinical Practice Guideline for Rapidly Progressive Glomerulonephritis 2020. Clin Exp Nephrol. 25(12). 1286-1291. 2021.
8. Kishimoto M, Ono K, Fukui S, Kawaai S, Gautam A, Deshpande, Yoshida K, Ichikawa N, Kaneko Y, Kawasaki T, Matsui K, Morita M, MD, Tada K, Takizawa N, Tamura N, Taniguchi A,

- Taniguchi Y, Tsuji S, Okada M, Kobayashi S, Komagata Y, Clementina López Medina, Anna Molto, Désirée van der Heijde, Maxime Dougados, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of non-radiographic vs. radiographic axial spondyloarthritis in Asia and non-radiographic axial spondyloarthritis in other regions: results of the crosssectional ASAS-COMOSPA study. *RMD Open*. 7(3). e001752. 2021.
9. Shigemori K, Higashihara E, Itoh M, Yoshida H, Yamamoto K, Nutahara K, Shiokawa Y, Kaname S, Tambo M, Yamaguchi T, Taguchi S, Yoshioka T, Yokoyama K, Fukuhara H: PKD1-Associated Arachnoid Cysts in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 30(9). 105943. 2021.
10. Kunitomo R, Matsubara H, Kaname S: Half-and-half nail. *Clin Exp Nephrol*. 25(8). 911-912. 2021.
11. Endo A, Komagata Y, Yamagishi K, Kawashima S, Arimura Y, Kaname S: Two distinct subsets of LDGs (low density granulocytes) in ANCA-associated vasculitis. *Mod Rheumatol*. 32(2). 396-405. 2022.
12. Urushihara M, Sato H, Shimizu A, Sugiyama H, Yokoyama H, Hataya H, Matsuoka K, Okamoto T, Ogino D, Miura K, Hamada R, Hibino S, Shima Y, Yamamura T, Kitamoto K, Ishihara M, Konomoto T, Hattori M; the Committee for Renal Biopsy and Disease Registry of the Japanese Society of Nephrology: Clinical and histological features in pediatric and adolescent/young adult patients with renal disease: a cross-sectional analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR). *Clin Exp Nephrol*. 25(9). 1018-1026. 2021.
13. Ochi S¹, Murakami M², Hasegawa T³, Komagata Y (¹The Jikei University School of Medicine, ²Osaka University, ³Research Institute of Future Health) :Prevention and control of COVID-19 in imperfect condition: practical guidelines for Nursing Homes by Japan Environment and Health Safety Organization (JEHSO).*Int J Environ Res Public Health*. 18(19). 10188. 2021.
14. Fukui S, Suda M, Furukawa S, Tamaki S, Ikeda Y, Suyama Y, Tamaki H, Kishimoto M, et al: Performance of a pre-administration infection screening questionnaire in patients with rheumatoid arthritis administered biological disease-modifying antirheumatic drugs. *Int J Rheum Dis*. 24(5). 647-653. 2021.
15. McInnes IB, Anderson JK, Magrey M, Merola JF, Liu Y, Kishimoto M, Jeka S, Pacheco-Tena C, Wang X, Chen L, Zueger P, Liu J, Pangan AL, Behrens F: Trial of upadacitinib and adalimumab for psoriatic arthritis. *N Engl J Med*. 384(13). 1227-1239. 2021.
16. Wei JC, Kim TH, Kishimoto M, Ogusu N, Jeong H, Kobayashi S: 4827-006 study group: Efficacy and safety of brodalumab, an anti-IL17RA monoclonal antibody, in patients with axial spondyloarthritis: 16-week results from a randomised, placebo-controlled, phase 3 trial. *Ann Rheum Dis*. 80(8). 1014-1021. 2021.
17. Sugihara T, Kawahito Y, Morinobu A, Kaneko Y, Seto Y, Kojima T, Ito H, Kohno M, Nakayama T, Sobue Y, Nishida K, Matsushita I, Murashima A, Mori M, Tanaka E, Hirata S, Kishimoto M, Yamanaka H, Kojima M, Harigai M: Systematic review for the treatment of older rheumatoid arthritis patients informing the 2020 update of the Japan college of rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 32(2). 313-322. 2022.
18. Kojima M, Hasegawa M, Hirata S, Ito H, Kaneko Y, Kishimoto M, Kohno M, Kojima T, Matsushita I, Mori M, Morinobu A, Murashima A, Nishida K, Seto Y, Sobue Y, Sugihara T, Tanaka E, Nakayama T, Kawahito Y, Harigai M: Patients' perspectives of rheumatoid arthritis treatment: a questionnaire survey for the 2020 update of the Japan college of rheumatology clinical practice guidelines. *Mod Rheumatol*. 32(2). 307-312. 2022.
19. Ito H, Murata K, Sobue Y, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Kawahito Y, Kojima M, Hirata S, Kaneko Y, Kishimoto M, Kohno M, Mori M, Morinobu A, Murashima A, Seto Y, Sugihara T, Tanaka E, Nakayama T, Harigai M: Comprehensive risk analysis of postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis for the 2020 update of the Japan college of rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 32(2). 296-306. 2022.
20. Kishimoto M, Yamairi F, Sato N, Kobayashi J, Yamauchi S, Iwasaki T: Patient Preference for Treatment Mode of Biologics in Rheumatoid Arthritis: A 2020 Web-based Survey in Japan. *Rheumatol Ther*. 8(3). 1095-1111. 2021.
21. Wei JC, Kim TH, Kishimoto M, Ogusu N, Jeong H, Kobayashi S: Response to 'Correspondence to "Efficacy and safety of brodalumab, an anti-IL17RA monoclonal antibody, in patients with axial spondyloarthritis: 16-week results from a randomised, placebo-controlled, phase 3 trial" by Zhao and Huang. *Ann Rheum Dis*. annrheumdis-2021-220788. 2021.
22. Benavent D, Plasencia Ch, Poddubnyy D, Kishimoto M, Proft F, Sawada H, López-Medina C, Dougados M, Navarro-Compán V: Unveiling axial involvement in psoriatic arthritis: an ancillary analysis of the ASAS-perSpA study. *Semin Arthritis Rheum*. 51(4). 766-774. 2021.
23. McInnes IB, Kato K, Magrey M, Merola JF, Kishimoto M, Pacheco-Tena C, Haaland D, Chen L, Duan Y, Zueger P, Liu J, Lippe R, Pangan AL, Behrens F: Upadacitinib in patients with psoriatic arthritis and an inadequate response to non-biological therapy: 56-week data from the phase 3 SELECT-PsA 1 study. *RMD Open*. 7(3). e001838. 2021.
24. Lopez-Medina C, Chevret S, Molto A, Sieper J, Duruöz MT, Kiltz U, El-Zorkany B, Hajjaj-Hassouni N, Burgos-Vargas R, Maldonado-Cocco J, Ziade N, Gavali M, Navarro-Compán V, Fen Luo S, Biglia A, Kim TJ, Kishimoto M, Pimentel-Santos F, Gu J, Muntean L, van Gaalen F, Géher

- P, Magrey M, Ibanez S, Bautista-Molano W, Maksymowych W, Machado PM, Landewé R, van der Heijde D, Dougados M: Identification of clinical phenotypes of peripheral involvement in patients with spondyloarthritis, including psoriatic arthritis. A cluster analysis in the worldwide ASAS-PerSpA Study. *RMD Open*. 7(3).e001728. 2021.
25. Strand V, Mease PJ, Soriano ER, Kishimoto M, Salvarani C, Saffore CD, Zueger P, McDearmon-Blondell E, Kato K, Gladman DD: Improvement in patient-reported outcomes in patients with psoriatic arthritis treated with upadacitinib versus placebo or adalimumab: results from SELECT-PsA 1. *Rheumatol Ther*. 8(4).1789-1808. 2021.
 26. Matsubara Y, Nakamura Y, Tamura N, Kameda H, Otomo K, Kishimoto M, Kadono Y, Tsuji S, Atsumi T, Matsuno H, Takagi M, Kobayashi S, Fujio K, Nishimoto N, Okamoto N, Nakajima A, Matsui K, Yamamura M, Nakashima Y, Kawakami A, Mori M, Tomita T: A nationwide questionnaire survey on the prevalence of ankylosing spondylitis and non-radiographic axial spondyloarthritis in Japan. *Mod Rheumatol*. 2021. doi: 10.1093/mr/roab096. Epub.
 27. Deodhar A, van der Heijde D, Sieper J, Van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Ostor A, Combe B, Sui Y, Chu AD, Song IH: Safety and Efficacy of Upadacitinib in Patients With Active Ankylosing Spondylitis and an Inadequate Response to Nonsteroidal Antiinflammatory Drug Therapy: One-Year Results of a Double-Blind, Placebo-Controlled Study and Open-Label Extension. *Arthritis Rheumatol*. 74(1). 70-80. 2022.
 28. Takeno M, Dobashi H, Tanaka Y, Kono H, Sugii S, Kishimoto M, Cheng S, McCue S, Paris M, Chen M, Ishigatsubo Y: Apremilast in a Japanese subgroup with Behçet's syndrome: Results from a Phase 3, randomised, double-blind, placebo-controlled study. *Modern Rheumatol*. 32(2). 413-421. 2022.
 29. Saraya T, Kasuga K, Kishimoto M, Ishii H: Hiker's Feet: Hidden Warning Skin Sign. *Intern Med*. 2022. doi: 10.2169/internalmedicine.8999-21. Epub.
 30. Kawashima S, Kishimoto M, Hibino T, Lee H, Sato Y, Komagata Y, Kaname S: MPO-ANCA-positive microscopic polyangiitis following COVID-19 infection. *Intern Med*. 61(4). 567-570. 2022.
 31. Kawahito Y, Morinobu A, Kaneko Y, Kohno M, Hirata S, Kishimoto M, Seto Y, Sugihara T, Tanaka E, Ito H, Kojima T, Matsushita I, Nishida K, Mori M, Murashima A, Yamanaka H, Nakayama T, Kojima M, Harigai M: Drug Treatment Algorithm and Recommendations from the 2020 update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the Management of Rheumatoid Arthritis-Secondary Publication. *Mod Rheumatol*. 2022. doi: 10.1093/mr/roac017. Online ahead of print.
 32. Ito H, Nishida K, Kojima T, Matsushita I, Kojima M, Hirata S, Kaneko Y, Kishimoto M, Kohno M, Mori M, Morinobu A, Murashima A, Seto Y, Sugihara T, Tanaka E, Nakayama T, Yamanaka H, Kawahito Y, Harigai M: Non-Drug and Surgical Treatment Algorithm and Recommendations for the 2020 Update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the Management of Rheumatoid Arthritis - Secondary Publication. *Mod Rheumatol*. 2022. doi: 10.1093/mr/roac019. Online ahead of print.
 33. Kameda H, Kishimoto M, Kobayashi S, Tomita T, Morita A, Yamamura M: Axial spondyloarthritis in Japan. *Curr Rheumatol Rep*. 24(5). 149-155. 2022.
 34. Fukuoka K, Kishimoto M, Kawakami T, Komagata Y, Kaname S: Plasmapheresis for systemic vasculitis. *Ther Apher Dial*. 26(3). 493-506. 2022. Epub.
- (和文)
1. 李恵怜, 福岡利仁, 國友理恵, 下田佐知子, 兵動智夏, 久木元光, 小林知志, 佐藤由利子, 竹森愛, 宮本彩子, 小澤祐子, 磯村杏耶, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也: 透析困難症の原因として心アミロイドーシス合併が考えられた1例. *日本透析医学会雑誌*. 55(3). 193-200. 2022.
 2. 要伸也: 腎臓医が診る指定難病: 指定難病各論 膠原病関連腎疾患 ANCA関連3疾患(顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症). *腎と透析*. 91(1). 136-142. 2021.
 3. 要伸也: 腎疾患患者への薬の使い方 ANCA関連腎炎 リツキシマブ. *腎と透析*. 91. 116-120. 2021.
 4. 福岡利仁, 要伸也: HUSとatypical HUS. *腎臓内科*. 14(6). 780-790. 2021.
 5. 要伸也: 栄養指導 腎臓病療養指導士による栄養指導への期待. *臨床透析*. 37(12). 1341-1344. 2021.
 6. 要伸也: CKD保存期ケアガイド. *週刊医学会新聞*. 3442. 7. 2021.
 7. 要伸也: 腎性貧血治療における多職種連携ー医師の立場からー. *CKD Next Strategy-シームレスマネジメント. メジカルレビュー* 10月号. p5-6. 2021.
 8. 要伸也: 腎臓病療養指導士への期待. 特集: 慢性腎臓病ー臨床の最新動向ー. *日本臨床*. 79(12). 1950-1954. 2021.
 9. 要伸也: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 膠原病に伴う腎症(ループス腎炎). *日本医事新報*. 5071号. Page35-36. 2021.
 10. 川嶋聡子, 要伸也: RPGNの定義とRPGNの鑑別診断 AKD, CKDとの臨床鑑別. *腎と透析*. 91. 333-340. 2021.
 11. 松原秀史, 要伸也: 小型血管炎・ANCA関連血管炎 顕微鏡的多発血管炎. *血管炎症候群のすべて. 臨床放射線*. 66巻10号. Page1151-1161. 2021.
 12. 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎. *東京都医師会雑誌*. 74(10). 1022-1025. 2021.
 13. 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎の分類基準・診断基準. *リウマチ科*. 67(3). 324-331. 2022.
 14. 川嶋聡子, 駒形嘉紀: AAVの腎病変. *臨床免疫・アレルギー科*. 76(4). 351-358. 2021.
 15. 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 脊椎関節炎における分子標的治療薬の位置づけ. *日本内科学会雑誌*. 110(10). p.2173-2180. 2021.

16. 川嶋聡子, 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎 AAVの腎病変. 臨床免疫・アレルギー科. 76(4). 351-358. 2021.
17. 岸本暢将: 体軸性脊椎関節炎の治療: 脊椎関節炎の診療の進歩. リウマチ科. 65(2). 174-177. 2021.
18. 岸本暢将: 膠原病 見逃しやすいSAPHO症候群の診断と最新治療について教えてください. Medicina. 58(10). p.1556-1559. 2021.
19. 岸本暢将: 関節リウマチおよび脊椎関節炎の病態と治療概要 乾癬性関節炎の病態と治療戦略: 一般内科医に役立つ抗リウマチ薬の最新知識. 診断と治療. 109(12). p1627-1632. 2021.
20. 小林知志, 岸本暢将: 乾癬のOverview リウマチ科医から: 全身疾患としての乾癬. 内科. 129(1). p.17-20. 2022.
21. 岸本暢将: 乾癬性関節炎の診断と治療: 乾癬・掌蹠膿疱症の基礎と臨床. 皮膚科. 1(2). P198-203. 2022.

令和2年度追加分

(英文)

1. Monti S, Craven A, Klersy C, Montecucco C, Caporali R, Watts R, Merkel PA, Luqmani R; DCVAS Collaborators: Association between age at disease onset of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis and clinical presentation and short-term outcomes. Rheumatology (Oxford). 60(2). 617-628. 2021.

著書

1. 要伸也 (分担執筆): 14-6-3膠原病・血管炎の腎障害: 4) 関節リウマチ, 5) 全身性強皮症, 6) Sjogren症候群, 7) IgG4関連腎臓病. 内科学IV (第12版). 朝倉書店. 2022年IV 92-101.
2. 要伸也 (分担執筆): 結節性多発動脈炎. 抗リン脂質抗体症候群・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症・結節性多発動脈炎・リウマトイド血管炎の治療の手引き2020. 針谷正祥編集. 診断と治療社. 2021年. p51-63.
3. 駒形嘉紀 (分担執筆): 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA). 抗リン脂質抗体症候群・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症・結節性多発動脈炎・リウマトイド血管炎の治療の手引き2020. 針谷正祥編集. 診断と治療社. 2021年. p39-50.
4. 駒形嘉紀 (分担執筆): B細胞阻害薬・ANCA関連血管炎. 生物製剤適正使用ガイド. 藤尾圭志編集. クリニコ出版. 2021年. p170-176.
5. 駒形嘉紀 (分担執筆): MTXを含むcsDMARDs. A免疫調節薬 a. bucillamine (BUC) b. salazosulfapyridine (SASP) c. iguratimod. 関節リウマチ治療実践バイブル (改訂第2版). 竹内勤編集. 南江堂. 2021年. p107-110.
6. 駒形嘉紀 (翻訳): 第25章 関節炎とリウマチ性疾患. ワシントンマニュアル第14版. 高久史麿, 荻尾七臣監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 987-1020.
7. 川嶋聡子: 急速進行性糸球体腎炎の鑑別にはどのような腎疾患がありますか?. 腎臓病診療Q&A-AKI~CKD~腎臓病まで. 2021年. p190-191.
8. 岸本暢将 (分担執筆): 4. IL12/IL-23阻害薬 乾癬性関節炎. 生物学的製剤適正使用ガイド. 藤尾圭志編集. クリニコ出版. 2021年. p.154-157.
9. 岸本暢将 (分担執筆): 診察ガイドライン (CPG) 作成グループ. 関節リウマチ診療ガイドライン

2020. 一般社団法人日本リウマチ学会編. . 診断と治療社. 2021年.

10. 岸本暢将 (分担執筆): 強直性脊椎炎. 今日の整形外科治療指針第8版. 土屋弘行, 紺野慎一, 田中康仁, 田中栄, 松田秀一編. 医学書院. 2021. p217-219.
11. 岸本暢将 (分担執筆): 乾癬性関節炎. 今日の整形外科治療指針第8版. 土屋弘行, 紺野慎一, 田中康仁, 田中栄, 松田秀一編. 医学書院. 2021. p219-221.
12. 岸本暢将 (分担執筆): Part2 ご自身の病気についてさらに詳しく知りたいかたへ乾癬性関節炎を伴う脊椎関節炎, Part3 すべてのみなさまへ病気の周辺知識~そのた. 患者さんのための脊椎関節炎診療Q&A. 日本脊椎関節炎学会編. 羊土社. 2021年. 58-62, p118.
13. 岸本暢将 (分担執筆): 新しいバイオ医薬品: IL23阻害薬について. What's New in 皮膚科学2022-2023. 常深祐一郎, 鶴田大輔編. メディカルレビュー社. 2022. p.64-65.

報告書

1. 要伸也: 厚生労働科学研究費補助金事業令和3年度研究報告書: 研究課題「慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究」(研究代表者: 要伸也).

その他

1. 要伸也: 第51回日本腎臓学会東部学術大会主催. 東京. 2021年9月25日-26日.
2. 要伸也: 研究班紹介 CKD診療における多職種連携のエビデンス構築を目指して. JKA News letter第9号. 日本腎臓病協会. 2021年11月.
3. 要伸也: CKD保存期ケアガイド書評. エビデンスをふまえた初の看護指導用CKDガイド. 医学書院. 2021年5月.
4. 駒形嘉紀: この難病希少疾患に注目! 診療科の横連携でANCA関連血管炎発見へ. Medical Tribune. 2022年2月.
5. 岸本暢将: 乾癬性関節炎~内科の立場から~. シリーズ: 脊椎関節炎の診断・治療のポイント. 日本リウマチ財団ニュース. 日本リウマチ財団. 2022年1月号.

脳神経内科学教室

講演

1. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 脳深部刺激療法がsaccadeの加減速時間に及ぼす影響. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月19日.
2. 寺田さとみ, 徳重真一, 市川弥生子, 宮崎泰, 内堀歩, 富樫尚彦, 長谷川一子, 高橋祐二, 松田俊一, 濱田雅, 千葉厚郎, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: Eye-hand coupling in reaching tasks is impaired in spinocerebellar ataxia. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月19日.
3. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 合成HNK-1化合物を用いた新たなMAG抗体測定系の作製. 第62回 日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年05月21日.

4. 大石知瑞子, 千葉隆司, 千葉厚郎, 園生雅弘: 脛骨神経刺激で得られる近接電場電位複合筋活動電位振幅の個人差の理由. 第62回日本神経学会総会. 京都・オンライン. 2021年5月21日.
5. 寺尾安生, 浅原有揮, 宮崎泰, 徳重真一, 寺田さとみ, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎, 宇川義一, 須田真千子, 向井泰司, 宮川晋治, 鈴木正彦: パーキンソンニズム患者では表情は乏しいか?. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月21日.
6. 張香理, 石浦浩之, 後藤順, 西垣昌和, 市川弥生子, 織田克利, 辻省次, 戸田達史: 当院でハンチントン病の遺伝カウンセリングを受診したクライアントの特徴. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月22日.
7. 白鳥嵩之, 中島昌典, 小林英資, 下田由莉江, 澁谷裕彦, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: アセチルコリン性節後線維が選択的に障害された急性自律神経ニューロパチーの28歳男性例. 第75回三鷹ニューロ研究会. 三鷹・オンライン. 2021年6月5日.
8. 千葉厚郎: 神経内科疾患と免疫グロブリン製剤(シンボジウム: 血液製剤及び血漿分画製剤の局面). 第69回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 東京. 2021年6月6日.
9. 中島昌典: Parkinson病の運動症状をどうケアするか. パーキンソン病WEBセミナー. 東京・オンライン. 2021年06月25日.
10. 大石知瑞子: 神経伝導検査の基本と神経筋疾患への応用. 神経難病WEB講演会. オンライン. 2021年9月2日.
11. 北尾英毅, 中島昌典, 白鳥嵩之, 永井健太郎, 徳重真一, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 髄膜炎尿閉症候群として対応し、経過からGFAP astrocytopathyと診断した28歳男性例. 第238回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年09月04日.
12. 大石知瑞子, 濱田雄一, 向井泰司, 高橋和沙, 千葉厚郎, 園生雅弘: 三角筋の複合筋活動電位記録時の基準電極はどこに設置すべきか?. 第32回日本末梢神経学会学術集会. 和歌山・オンライン. 2021年9月11日.
13. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 合成HNK-1化合物を用いた新たなMAG抗体測定系の作製. 第32回日本末梢神経学会学術集会. 和歌山・オンライン. 2021年09月11日.
14. 徳重真一: ジスキネジア発症後約1年でDBSを導入したパーキンソン病の一例. 第4回DAT Next Generation Meeting. 東京・オンライン. 2021年9月15日.
15. 劉景晨, 進村光規, 篠田紘司, 貞島祥子, 園田啓太, 内堀歩, 千葉厚郎, 高瀬敬一郎: COVID-19感染後にギラン・バレー症候群を発症した1例. 第233回日本神経学会九州地方会. 熊本・オンライン. 2021年9月18日.
16. 内堀歩, 千葉厚郎: Fisher症候群関連病態におけるCa²⁺依存性GQ1b抗体陽性症例とCa²⁺非依存性GQ1b抗体陽性症例の差異の検討. 第33回日本神経免疫学会学術集会. 福岡・オンライン. 2021年10月21日.
17. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 合成糖鎖化合物を用いたMAG抗体のエピトープ解析. 第33回日本神経免疫学会学術集会. 福岡・オンライン. 2021年10月21日.
18. 中島昌典, 吉崎彩織, 上月直樹, 澁谷裕彦, 岡田啓, 中富浩文, 市川弥生子, 千葉厚郎: 齧歯を契機とし、経過中に脳動脈瘤が顕在化した海綿静脈洞症候群の42歳男性例. 第76回三鷹ニューロ研究会. 三鷹. 2021年11月25日.
19. 吉崎彩織, 中島昌典, 上月直樹, 澁谷裕彦, 岡田啓, 中富浩文, 市川弥生子, 千葉厚郎: 齧歯を契機とし、経過中に脳動脈瘤が顕在化した海綿静脈洞症候群の42歳男性例. 第239回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年12月04日.
20. 中島昌典: Parkinson病におけるMAOBiの使い分け~Safinamideの使用経験~. Parkinson's Disease Web Seminar. 東京・オンライン. 2021年12月08日.
21. 大石知瑞子: しびれの鑑別~NCSを用いて~. 主訴から原疾患を考える会~しびれを主訴とする患者さん編~. オンライン. 2021年12月14日.
22. 大石知瑞子, 園生雅弘: 上腕の絞扼性神経障害をどう診る?~各科の自己主張をすべて~. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月16日.
23. 大石知瑞子, 園生雅弘: NCS pitfall. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月18日.
24. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 視床下核に対する脳深部刺激療法はsaccadeの加減速時間を短縮する. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月18日.
25. 寺田さとみ, 徳重真一, 市川弥生子, 宮崎泰, 内堀歩, 富樫尚彦, 高橋祐二, 松田俊一, 濱田雅, 千葉厚郎, 長谷川一子, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 純粋小脳型脊髄小脳変性症における眼・指運動協調の時間空間的特徴. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月18日.
26. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 特異的吸着剤の作製を目的としたMAG抗体が認識するエピトープの解析. 令和3年度「神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証」研究班(神経免疫班)合同会議. 東京・オンライン. 2022年01月14日.
27. 大石知瑞子, 濱田雄一, 向井泰司, 高橋和沙, 千葉厚郎, 園生雅弘: 三角筋の複合筋活動電位記録時の基準電極はどこに設置すべきか?. 第43回脊髄機能診断学会. オンライン. 2022年2月5日.
28. 神林隆道, 北國圭一, 伊藤達哉, 小川剛, 大石知瑞子, 畑中裕己, 園生雅弘: 視神経脊髄炎と多発性硬化症における脛骨神経SEPの中樞伝導時間の検討. 第43回脊髄機能診断学会. オンライン. 2022年2月5日.
29. 高橋和沙, 濱田雄一, 大石知瑞子, 西山和利, 園生雅弘: 脛骨神経SEPにおけるCc電極の左右つけ間違いの影響. 第43回脊髄機能診断学会. オンライン. 2022年2月5日.
30. 高橋沙里, 雪野満, 仁木啓史, 安井利夫, 内堀歩, 千葉厚郎, 安富大祐: 開鼻声・複視で発症した咽頭・頸部・上腕型Guillain-Barre症候群の36歳男性例. 第675回日本内科学会関東地方会. オンライン. 2022年2月12日.
31. 北尾英毅, 所澤任修, 白鳥嵩之, 澁谷裕彦, 中島昌典, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 髄液MOG抗体陽性によりMOG抗体関連疾患と診断に至った29歳女性例. 第77回三鷹ニューロ研究会. 三鷹. 2022年03月03日.

32. 北尾英毅, 所澤任修, 白鳥嵩之, 澁谷裕彦, 中島昌典, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 髄液MOG抗体陽性によりMOG抗体関連疾患と診断に至った29歳女性例. 第240回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年03月05日.
33. 中島昌典: 糖尿病と脳神経疾患~末梢神経障害と脳卒中を中心に~. 第3回あすなろWebinar. 東京・オンライン. 2022年03月07日.

論 文

1. 千葉厚郎: 「末梢神経障害と自己抗体: up date」特集にあたって. 末梢神経. 32(1). 7. 2021.
2. Chiba A: Editorial; Emerging Topics in Guillain-Barré syndrome. Clinical and Experimental Neuroimmunology 12(3). 144-145. 2021.
3. Koike H¹, Chiba A, Katsuno M¹ (¹Department of Neurology, Nagoya University.). Emerging Infection, Vaccination, and Guillain-Barre Syndrome: A Review. Neurol Ther. 10(2). 523-537. 2021.
4. Takahashi K^{1,2}, Oishi C, Hamada Y¹, Nishiyama K², Sonoo M¹ (¹Department of Neurology, Teikyo University School of Medicine, ²Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine): The influence of right-left error in the placement of the Cc electrode in tibial nerve somatosensory evoked potentials (SEPs). Clin Neurophysiol Pract. 6. 215-218. 2021.
5. 内堀歩, 行田敦子, 海田賢一, 千葉厚郎: Ca²⁺依存性GQ1b抗体陽性症例の臨床像. 末梢神経. 32(1). 125-130. 2021.
6. Uchibori A: Anti-GQ1b antibody: Recent topics. Clinical & Experimental Neuroimmunology. 12. 158-164. 2021.
7. 徳重真一: 神経科学の素朴な疑問 3秒ルールは本当ですか?. Clinical Neuroscience. 39(4). 508-9. 2021.
8. 徳重真一, 寺尾安生¹(¹杏林大・医・病態生理学): 診断・症状 パーキンソン病の眼球運動. 医学のあゆみ. 278(10). 852-858. 2021.
9. Honma M¹, Saito S¹, Atsumi T¹, Tokushige SI, Inomata-Terada S¹, Chiba A, Terao Y¹ (¹Department of Medical Physiology, Kyorin University School of Medicine): Inducing Cortical Plasticity to Manipulate and Consolidate Subjective Time Interval Production. Neuromodulation. 2021. DOI: 10.1111/ner.13413. Epub.
10. 中島昌典, 千葉厚郎: 特集「末梢神経障害と自己抗体: updates」 M蛋白関連ニューロパチー. Peripheral Nerve 末梢神経. 32(1). 22-30. 2021.

著 書

1. 大石知瑞子(分担執筆): 第VI章 膠原病と関係しやすい各科との連携ポイント. 5脳神経内科との連携 ここが知りたい 膠原病ハンドブック. 岸本暢将監修/清水英樹編著. 中外医学社. 2021. 363-367.

循環器内科学教室

講 演

学会(国内)

1. 吉野優一, 竹内真介, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 合田あゆみ, 金剛寺謙, 河野隆志, 坂田好美, 副島京子: IgG4関連冠動脈周囲炎による心筋障害が示唆された1例. 第118回日本内科学会. 医学生・研修医内科学会ことはじめ2021. オンライン. 2021年4月10日
2. 坂田好美: 肺高血圧症の早期診断するために心エコー検査の有用性. Janssen Japan社外勉強会. 東京. 2021年4月15日.
3. 新屋貴章, 木村舞, 川上崇史, 平出貴裕, 守山英則, 片岡雅晴, 遠藤仁, 板橋裕史, 村田光繁, 河野隆志, 福田恵一: 高齢CTEPH患者に対するBPAの有用性と安全性. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京・オンライン. 2021年5月7日.
4. 竹内かおり, 伊波巧, 菊池華子, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 佐藤徹: 初期併用療法時代におけるセレキシバグ追加投与の効果. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京. 2021年5月8日.
5. 菊池華子, 伊波巧, 竹内かおり, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 佐藤徹: セレキシバグを含めた経口3剤初期併用療法追加の効果. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京. 2021年5月8日.
6. 泉圭一, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 佐藤徹: 多因子によるPHを合併したJAK2遺伝子異常を伴う真性多血症. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 2021年5月8日.
7. 泉圭一, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 佐藤徹: 初期併用療法が奏功した末期腎疾患による肺高血圧症の2例. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 2021年5月8日.
8. 坂田好美: 当院の治療経験から考える・心アミロイドーシスの早期治療介入に向けて. 多科多施設連携の重要性. ファイザーWeb講演会. オンライン. 2021年5月18日.
9. 坂田好美: 心エコーを用いた心不全評価. Angiotensin Receptor /Nepilysin Inhibitor (ARNI) によるリバースリモデリングの評価. 大塚製薬講演会. 東京. 2021年5月26日.
10. 副島京子: デジタル医療への期待: 不整脈医の立場から. 第57回日本循環器病予防学会学術集会. オンライン. 2021年6月6日.
11. 副島京子: 心房細動早期発見、早期治療の重要性. 第260回日本循環器学会関東甲信越地方会. オンライン. 2021年6月19日.
12. 河野隆志: 心不全診療と意思決定支援—アドバンスケアプランニングも踏まえて—. 第260回日本循環器学会関東甲信越地方会 心不全診療-Up To Date. オンライン. 2021年6月19日.
13. 弓田悠介, 長友祐司, 足立健, 合田あゆみ, 河野隆志, 武井眞, 西畑庸介, 佐地真育, 吉川勉, 豊崎雄一, 池上幸憲, 庄司聡, 白石泰之, 香坂俊: 至適拡張時間を考慮し設定した目標心拍数が急性心不全入院患者の長期予後予測に与える影響についての検討. 第260回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年6月19日.
14. 岩住衣里子, 岡本陽, 菊池華子, 渡邊貴之, 竹内真介, 竹内かおり, 伊波巧, 合田あゆみ, 副島京子, 尾崎峰, 黒木一典, 小野澤志郎, 横山健一: 左下肢の多発動静脈奇形(クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群)により高心拍出性心不全を来した. 第260回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年6月19日.

15. 阿部晃子, 小林雅斗, 竹内麻理, 河野隆志, 橋口さおり, 三村將, 藤澤大介: 終末期(EOL)告知に用いられる表現および関連要因の検討. 第26回日本緩和医療学会学術大会. 横浜・オンライン. 2021年6月18-19日.
16. 副島京子: カテーテルアブレーション施術前後の抗凝固療法の実態. 第67回日本不整脈心電学会学術大会. オンライン. 2021年7月2日.
17. 高聖淵, 白石泰之, 板橋裕史, 林田哲, 高橋麻衣子, 関朋子, 永山愛子, 北川雄光, 河野隆志, 福田恵一, 片岡雅晴: 高感度トロポニンTによるアンスラサイクリン系抗腫瘍薬の薬剤性心筋傷害の評価. 第29回日本乳癌学会総会. 横浜・オンライン. 2021年7月3日.
18. 川村陽大, 三浦陽平, 永松佑基, 三浦佑介, 新名良広, 福士圭, 田島幸佳, 若林典弘, 山崎博之, 齊藤竜平, 小山幸平, 金剛寺謙, 副島京子: 救命し得た冠動脈解離を合併した急性大動脈解離の一例. 第261回日本循環器学会関東甲信越地方会. オンライン. 2021年9月12日.
19. 副島京子: 本邦におけるリードレスペースメーカの現状. 第69回日本心臓病学会学術集会. オンライン. 2021年9月17日.
20. 坪宏一, 吉野秀朗, 高橋寿由樹, 薄井宙男, 渡辺和宏, 清水渉, 下川智樹, 荻野均, 國原孝, 藤井毅郎, 山崎学, 山本剛, 長尾建, 高山守正: 緊急症としての非解離性大動脈瘤1287例の超急性期の病態・治療・予後. 東京都大動脈スーパーネットワークの解析から. 第69回日本心臓病学会学術集会. オンライン. 2021年9月17日.
21. 副島京子: 心外膜アブレーションの実践. 日本不整脈心電学会 カテーテルアブレーション関連秋季大会2021. オンライン. 2021年9月25日.
22. Yanagisawa Y, Goda A, Naka Y, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Soejima K: Successful Management of Pregnancy in stable patient with idiopathic pulmonary arterial hypertension treated with parenteral prostanoïd. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月1日.
23. Goda A, Takeuchi S, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Soejima K: Evaluation of factors contributing to exercise intolerance using cardiopulmonary exercise testing with hemodynamic monitoring; Detection of occult left ventricular diastolic dysfunction. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月1日.
24. 柳澤良晃, 合田あゆみ, 竹内真介, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 河野隆志, 副島京子: 治療により血行動態が安定し計画的に妊娠出産に至った特発性肺動脈性肺高血圧症の1例. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月1日.
25. 千木良寛子, 河野隆志, 合田あゆみ: 体重測定に対する心不全入院症例の視点. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月1日.
26. 河野隆志, 香坂俊, 白石泰之, 福岡良磨, 合田あゆみ, 長友祐司, 吉川勉: 統計的リスクモデルによる心不全患者突然死の予測とその精度—WET-HFレジストリによる実臨床の場での検証—. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月2日.
27. 中野直美, 志村千尋, 北方博規, 白石泰之, 香坂俊, 河野隆志, 福田恵一: 心不全患者の視点と推定される予後を多職種チームで共有してアドバンスケアプランニングを実践する. 第25回日本心不全学会学術集会. 岡山・オンライン. 2021年10月2日.
28. 仲悠太郎, 竹内真介, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 合田あゆみ, 河野隆志, 坂田好美, 副島京子: ワルファリンが有効であった本態性血小板血症を伴う慢性血栓閉塞性肺高血圧症の一例. 第31回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 北九州・オンライン. 2021年10月2日.
29. 齊藤竜平, 三浦佑介, 新名良広, 三浦陽平, 福士圭, 田島幸佳, 若林典弘, 山崎博之, 小山幸平, 金剛寺謙, 副島京子: 2枝同時閉塞が疑われた急性心筋梗塞に対し、PCI中にImpella CPを挿入し、比較的良好な転帰を辿った一例. 第58回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年10月16日.
30. 坂田好美: 心エコーでみる肺高血圧/肺動脈性肺高血圧症. 心エコー図学会秋期講習会ランチョンセミナー. オンライン. 2021年10月31日.
31. 岡本陽, 南島俊徳, 新名良広, 舟橋紗耶華, 福士圭, 齊藤竜平, 河野隆志, 坂田好美, 副島京子, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博: 下壁心筋梗塞に真性瘤, 心室中隔穿孔を合併した一例. 第262回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年12月4日.
32. 百瀬利一, 竹内かおり, 泉圭一, 仲悠太郎, 竹内真介, 菊池華子, 合田あゆみ, 伊波巧, 河野隆志, 副島京子: 下壁心筋梗塞に真性瘤, 肺高血圧症を呈したJAK 2遺伝子異常を伴う真性多血症に対する多剤併用治療が奏功した1例. 第262回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年12月4日.
33. 雪野碧, 長友祐司, 足立健, 合田あゆみ, 河野隆志, 武井眞, 西畑庸介, 佐地真育, 吉川勉, 豊崎雄一, 中埜信太郎, 池上幸憲, 白石泰之, 香坂俊: 急性心不全におけるNPPV使用と短期アウトカムの関連についての多施設レジストリデータを用いた検討. 第262回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年12月4日.
34. 副島京子: リードレスペースメーカの今後の可能性. 第1回日本不整脈心電学会 近畿支部地方会. オンライン. 2021年12月18日.
35. 秋葉隆介, 毛利崇人, 舟橋紗耶華, 南島俊徳, 新名良広, 福士圭, 齊藤竜平, 合田あゆみ, 上田明子, 河野隆志, 坂田好美, 副島京子: 心電図同期造影CTにより診断に至った肺動脈弁位感染性心内膜炎の1例. 第263回日本循環器学会関東甲信越地方会. オンライン. 2022年2月26日.
36. 坂田好美: 肥太心に潜むファブリ病の診断と治療. 第263回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年2月26日.
37. 伊波巧: Balloon Pulmonary AngioplastyにおけるFunctional Assessmentの有用性. Tokyo Physiology 2022 by FREIENDS LIVE. オンライン. 2022年3月4日.
38. 伊波巧: PAH治療の新たな選択肢〜REPLACE試験を紐解く〜. 第86回日本循環器学会学術集会. 神戸・オンライン. 2022年3月11日.
39. Shiraishi Y, Goto S, Niimi N, Katsumata Y, Goda A, Take M, Saji M, Nishihata Y, Sano M, Fukuda K, Kohno T, Yoshikawa T, Kohsaka S: Electrocardiography-Based Prediction of Sudden Cardiac Death in Heart Failure Patients: Application of Artificial Intelligence. 第86回日

本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月11日．

40. 副島京子：Autonomic Nervous Modulation Using Low-level Laser to Control Electrical Storm. Real-World Characteristics, Utilization, and Outcomes for Radiofrequency Catheter Ablation in Ventricular Tachycardia: A Retrospective Database Analysis in Japan. 本邦におけるリードレスペースメーカーの現状．心室不整脈アブレーションの最前線．第86回日本循環器学会学術集会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
41. 菊池華子，竹内かおり，飛田和基，仲悠太郎，伊波巧，合田あゆみ，河野隆志，坂田好美，佐藤徹，副島京子：Novel Strategies to Improve Patient-Centered Outcomes for Pulmonary Arterial Hypertension Using Cardiopulmonary Exercise Testing with a Right Heart Catheter. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
42. 窪田博，遠藤英仁，峯岸祥人，稲葉雄亮，大塚俊哉，野中隆広，久木基至，富樫郁子，上田明子，三輪陽介，佐藤俊明，河野隆志，松尾征一郎，星田京子，勝目有美，副島京子：Epicardial Ablation Using an Infrared Coagulator “Kyo-co” to Treat Atrial Fibrillation on The Beating/Arrested Heart. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月11日．
43. 野々口紀子，河野隆志，福嶋真由美，舟橋紗耶華，勝目有美，田代身佳，竹内かおり，西智子，菊池華子，星田京子，富樫郁子，合田あゆみ，上田明子，坂田好美，副島京子：Supporting the Career Advancement of Women Childbearing Cardiologists in University Hospital. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
44. Niimi N, Kohsaka S, Shiraishi Y, Fukuda K, Kohno T, Saji M, Nagatomo Y, Tanaka D T, Takei M, Nakano S, Yoshikawa T: Phenotype of Pattern of Congestion Signs on Physical Examination in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
45. Mitsuyama Y, Goda A, Naka Y, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Soejima K: Prevalence and Clinical Characteristics of Depression and Anxiety in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension and Pulmonary Arterial Hypertension. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
46. Yanagisawa Y, Goda A, Naka Y, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, ohno T, Soejima: Correlation between Lung Diffusion Capacity in Lung Function Test and Parameters from Cardiopulmonary Exercise Testing in Patients with Pulmonary Hypertension. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
47. Izumi K, Kohno T, Goda A, Takeuchi S, Shiraishi Y, Saji M, Nagatomo Y, Tanaka D T, Takei M, Nakano S, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T: Clinical Significance of Guideline-Directed Medical Therapy in Heart Failure Patients with Low Blood Pressure. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
48. Ito J, Sakata K, Isaka A, Nishi T, Fukushima

M, Minamishima T, Goda A, Kohno T, Soejima K: Evaluation of Exercise-induced Pulmonary Hypertension and Prognosis Using Ergometer Stress Echocardiography in Patients with HFrEF and HFpEF. 第586日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．

49. Isaka A, Sakata K, Ito J, Nishi T, Fukushima M, Goda A, Kohno T, Soejima K.: Evaluation of Left Ventricular Diastolic Dysfunction Using Diastolic Stress Echocardiography and Cardiopulmonary Exercise Testing in Patients with Heart Failure. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月12日．
50. Takeuchi S, Kohno T, Goda A, Shiraishi Y, Saji M, Nagatomo Y, Tanaka D T, Takei M, Nakano S, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T: Prevalence and Prognostic Impact of Malnutrition among Heart Failure Patients Eligible for EMPEROR-Preserved Trial. 第86回日本循環器学会総会．神戸・オンライン．2022年3月13日．

学会(国際)

1. Yumita Y, Nagatomo Y, Takei M, Saji M, Goda A, Kohno T, Nakano S, Nishihata Y, Ikegami Y, Shiraishi Y, Kohsaka S, Yoshikawa T: "Target Heart Rate" calculated aiming at zero overlap of mitral E and A waves is useful for prediction of long-term outcome for patients with heart failure and reduced ejection fraction. European Society of Cardiology Congress 2021. the Digital Experience オンライン．Aug 27-30th, 2021.
2. Nonoguchi N: Finding the asymptomatic atrial fibrillation. 14th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. China・オンライン．November 12th, 2022.
3. Nakamaru R, Shiraishi Y, Kohsaka S, Kohno T, Goda A, Takei M, Nagatomo Y, Tanaka T, Nakano S, Fukuda K, Yoshikawa T: Mode of Death After Heart Failure Hospitalization in Elderly Patients. American Heart Association Scientific Sessions 2021. USA・オンライン．Nov13-15th, 2021.
4. Nakamaru R, Shiraishi Y, Kohsaka S, Kohno T, Goda A, Takei M, Nagatomo Y, Tanaka T, Nakano S, Fukuda K, Yoshikawa T: Outcomes in Elderly Patients with Hospitalized Heart Failure Stratified by Left Ventricular Ejection Fraction. American Heart Association Scientific Sessions 2021. USA・オンライン．Nov13-15th, 2021.
5. Shoji S, Kohsaka S, Shiraishi S, Sawano M, Ikemura N, Niimi N, Kohno T, Goda A, Nagatomo Y, Saji M, Takei M, Nakano S, Fukuda K, Yoshikawa T: Under-Utilization of Conventional Guideline-Directed Medical Therapy Among Patients Eligible for the Recent Large-Scale Clinical Trials of Heart Failure With Reduced Ejection Fraction. American Heart Association Scientific Sessions 2021. USA・オンライン．Nov13-15th, 2021.

研究会・講演会

1. 副島京子：不整脈学の魅力とキャリア形成．第2回不整脈領域の未来を育む会．オンライン．2021年4

- 月2日.
2. 河野隆志：実地医家の先生と息切れを考える。北多摩循環器Webセミナー Ver1. オンライン。2021年4月19日。
3. 河野隆志：心不全進展ステージ別に薬剤治療を考えるー心不全予防・高血圧管理から緩和ケアー。三鷹市薬剤師会。オンライン。2021年4月21日。
4. 副島京子：Micraの適応及び安全な植込みのために。Micra京滋Web Seminar. オンライン。2021年4月28日。
5. 河野隆志：3D-Circulation 交感神経系と糖尿病。3D Circulation. オンライン。2021年4月28日。
6. 副島京子：最新の不整脈治療；その魅力。循環器内科Webinar～循環器内科を知って、好きになる会～。オンライン。2021年5月14日。
7. 野々口紀子：不整脈学の魅力。循環器内科Webinar～循環器内科を知って、好きになる会～。オンライン。2021年5月14日。
8. 河野隆志：最新のエビデンスに基づいた最適な心不全治療を考える。第6回埼玉心臓集談会。オンライン。2021年5月21日。
9. 副島京子：不整脈治療の魅力。若手医師のための循環器内科セミナー2021。東京。2021年5月22日。
10. 小山幸平：NIRS-IVUS いまとこれから。NIRS-IVUSセミナー。オンライン。2021年6月2日。
11. 菊池華子：Practice of portopulmonary hypertension in one Japanese center – an emphasis on cases with pulmonary hypertension preceding liver disease. ヤンセンファーマ株式会社社内勉強会。オンライン。2021年6月3日。
12. 竹内真介：当院におけるエンレストの使用経験。多摩地区講演会。オンライン。2022年6月3日。
13. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略。膠原病内科医のための肺高血圧症セミナーin多摩。オンライン。2021年6月8日。
14. 副島京子：テラーメイドの心房細動診療～より良い地域連携のコツ～。プラザキサ・プリズバインドWeb講演会。東京。2021年6月9日。
15. 坂田好美：左室肥大を起こす二次性心筋症の鑑別。心アミロイドーシスとファブリー病「症例を考える」。サノフィ講演会。オンライン。2021年6月10日。
16. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～オプスミット錠の位置付け～。オプスミットWebセミナー。2021年6月11日。
17. 副島京子：心室頻拍アブレーションの変遷と将来。第5回中国四国アブレーション研究会。オンライン。2021年6月12日。
18. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。眉山循環器カンファレンス。オンライン。2021年6月14日。
19. 副島京子：心房細動の早期発見と早期治療。心房細動WEBセミナーin草加。オンライン。2021年6月16日。
20. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。Meet the Expert in名古屋。オンライン。2021年6月18日。
21. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略。肺循環フロンティアTOKYO～目で診る肺循環～。2021年6月18日。
22. 小山幸平：実地医科の先生と胸痛を考える。北多摩循環器webセミナー。オンライン。2021年6月21日。
23. 副島京子：心房細動の早期発見と早期治療の重要性。これからの不整脈治療を考える会。オンライン。2021年6月22日。
24. 伊波巧：PAH expert academy; Session2, Case discussion. (パネリスト)。2021年6月22日。
25. 副島京子：不整脈治療の進歩。内灘Net Work Meeting 2021. オンライン。2021年6月24日。
26. 河野隆志：心不全専門医の立場からCKDを考える。CKD Management Conference. 東京。2021年6月24日。
27. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略。PAH and RA Bridging Seminar in 東京多摩。オンライン。2021年6月28日。
28. 河野隆志：最善の心不全治療を追求するー心房細動の最近の話題も踏まえてー。会津医学会学術講演会。会津若松。オンライン。2021年6月29日。
29. 小山幸平：虚血性心疾患。アムジェン株式会社社内勉強会。オンライン。2021年6月29日。
30. 河野隆志：心不全薬物治療の最適化を追求する。北多摩ARNI Web seminar. オンライン。2021年6月30日。
31. 副島京子：不整脈診断・治療の進歩。日本内科学会北海道支部主催 第65回生涯教育講演会。オンライン。2021年7月4日。
32. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～naive症例における単剤/併用療法の位置付け～。2021 Next Japan PH Symposium ~ Improving long-term outcome~. (パネリスト) オンライン。2021年7月4日。
33. 伊波巧：初期併用療法におけるリオシグアトのポジショニング。アデムパス錠Web Conference. オンライン。2021年7月27日。
34. 菊池華子：当院でのIPAH治療戦略における内服薬選択について。バイエル講演会。オンライン。2021年7月30日。
35. 副島京子：心房細動の早期発見と早期治療。いわき循環器疾患最前線を知る～ウェアラブルデバイス編～。オンライン。2021年8月4日。
36. 副島京子：不整脈治療の最前線。不整脈WEBセミナーin信州。オンライン。2021年8月20日。
37. 小山幸平：スキルアップ研修。興和株式会社社内研修会。オンライン。2021年8月23日。
38. 副島京子：国内Micraレジストリーのアップデート。Micra Anniversary Seminar～国内12,000症例を振り返って～。オンライン。2021年8月24日。
39. 副島京子：不整脈治療update。第7回埼玉ハートリズムカンファレンス。オンライン。2021年8月27日。
40. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧の治療戦略。PH Virtual Meeting ~ Beyond the field~: Part 1. オンライン。2021年8月31日。
41. 伊波巧：息切れ症状を診たら、これを疑って。山梨心血管画像診療勉強会。オンライン。2021年9月1日。
42. 伊波巧：当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略。奈良循環器肺高血圧症フォーラム。2021年9月3日。
43. 河野隆志：心不全薬物治療を考える-最新のEBMを踏まえて-。エンレスト錠 発売一周年記念 ARNI WEEK. オンライン。2021年9月6日。
44. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。茨城県心房細動WEB講演会。オンライン。2021年9月7日。
45. 河野隆志：より良い心不全緩和ケアを追求する。多職種連携臨床セミナー In Ibaraki. オンライン。

2021年9月7日。

46. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。抗凝固療法Web Seminar in 浦安。オンライン。2021年9月8日。
47. 坂田好美：肺高血圧の心エコー評価「肺高血圧における三尖弁逆流と右室機能」。第3回多摩コレgium・心エコー。オンライン。2021年9月10日。
48. 副島京子：心室頻拍治療のこつ。次世代不整脈エキスパート講座in山陰。オンライン。2021年9月11日。
49. 副島京子：心房細動診断と治療の進歩。プラザキサ10周年講演会in宇都宮。オンライン。2021年9月14日。
50. 河野隆志：最新のエビデンスに基づいた最適な心不全治療を追求する。第2回CVD・CKDトータルマネジメントセミナー。弘前・オンライン。2021年9月15日。
51. 坂田好美：実地医家の先生と「エコー所見」を考える。北多摩循環器Webセミナー。オンライン。2021年9月21日。
52. 小川和雅、富田康弘、瀬谷彰、吉野秀朗、野村幸史：適正睡眠時間の確保と規則的な就寝時刻は糖尿病と心血管イベントの新規発症を強く抑制する8124名、4年間の追跡調査の解析より。日本睡眠学会第46回定期学術集会。2021年9月23-24日。
53. 副島京子：Micra VR Clinical Evidence Update. Micra Expert Meeting. オンライン。2021年9月27日。
54. 河野隆志：心不全薬物治療の現状と問題点を考える。プライマリ・ケア診療の新たな戦略。オンライン。2021年9月27日。
55. 副島京子：リードレスペースメーカ12,000例の振り返りとMicra AVの可能性。MICRA SUMMIT IN YOKOHAMA。オンライン。2021年9月29日。
56. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略。多摩地区で診る肺高血圧症～患者さんを見逃さず、確実に救う事を目指す病診連携の会～。オンライン。2021年9月29日。
57. 副島京子：心房細動アブレーションにおいて注意すべき合併症。Ablation Summit in Shizuoka。オンライン。2021年10月2日。
58. 副島京子：不整脈治療の魅力。Beyond 8th Stage。オンライン。2021年10月4日。
59. 河野隆志：心不全治療の新しい選択肢。循環器医のための慢性便秘症セミナー。オンライン。2021年10月6日。
60. 副島京子：当院における心房細動アブレーション後の予後についての検討。第6回南阪和Arrhythmia Conference。オンライン。2021年10月8日。
61. 河野隆志：心不全薬物治療 up to date-心房細動の最近の話題も踏まえて-。第3回薬剤師のための病院管理セミナー。オンライン。2021年10月13日。
62. 副島京子：VTアブレーション UPDATE。第50回仙台臨床心臓電気生理研究会。オンライン。2021年10月15日。
63. 小山幸平：冠動脈疾患における脂質の至適管理のために～当院における脂質管理プロトコルを踏まえて～。第58回日本心血管インターベンション治療学会。東京。2021年10月16日。
64. 河野隆志：心不全増悪に立ち向かう/いざという時に備える。第17回BBQの会。オンライン。2021年10月21日。
65. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。地域連携Web講演会。オンライン。2021年10月22日。
66. 河野隆志：心不全薬物治療の進歩。ベリキューボ新発売記念講演会@船橋。船橋・オンライン。2021年10月25日。
67. 河野隆志：より良い心不全薬物治療を考える。北多摩北部Risk Managementセミナー。オンライン。2021年10月27日。
68. 河野隆志：科学的根拠に基づいた最善の心不全薬物治療を考える。練馬心疾患連携の会。オンライン。2021年11月2日。
69. 副島京子：薬剤師の為の不整脈治療Update。第12回Kita Tama Pharmaceutical Care Conference。オンライン。2021年11月5日。
70. 副島京子：より良い不整脈・心不全デバイス治療を求めて。福井県内科医会学術講演会。オンライン。2021年11月6日。
71. 伊波巧：進化し続けるCTEPH治療。ストラクチャークラブジャパンライブデモンストレーション2021。東京。2021年11月6日。
72. 河野隆志：地域連携でより良い心不全診療を提供する。Sea Side Seminar 2021。横須賀・オンライン。2021年11月8日。
73. 副島京子：高齢者心房細動の診断と治療。高齢者心房細動Web Seminar。オンライン。2021年11月10日。
74. 副島京子：リードレスペースメーカ：新たなStep。不整脈エキスパートカンファレンスin北日本。オンライン。2021年11月12日。
75. 副島京子：心房細動早期発見と治療。Web Seminar～人生100年時代の抗凝固療法を考える～。オンライン。2021年11月15日。
76. 伊波巧：実地医家の先生と肺高血圧症を考える。北多摩循環器Webセミナー。オンライン。2021年11月15日。
77. 河野隆志：高血圧症を考える～心臓の立場から～。三鷹市内科医会学術講演会。東京・オンライン。2021年11月16日。
78. 副島京子：心房細動診断と治療：Update。久慈医師会薬剤師会学術講演会。オンライン。2021年11月17日。
79. 副島京子：Shock作動がメンタルに与える影響。Cobalt発売1周年記念講演会 Pain Reduction～痛みからの解放～。オンライン。2021年11月19日。
80. 伊波巧：CTEPH治療における新たな選択肢～ウブトラビの適応追加を受けて～。ウブトラビWebカンファレンス。オンライン。2021年11月19日。
81. 伊波巧：バルーン肺動脈形成術の奥義。ARIA2021。オンライン。2021年11月21日。
82. 河野隆志：心不全薬物治療の最前線。日比谷Heart Conference in Autumn。東京・オンライン。2021年11月25日。
83. 河野隆志：最新のエビデンスに基づく心不全薬物治療。多摩ファーマシーセミナー。オンライン。2021年11月26日。
84. 伊波巧：肺高血圧症 Up-to-Date。多摩肺高血圧症を考える会。オンライン。2021年11月29日。
85. 河野隆志：最新のエビデンスに基づいた心不全薬物治療～心房細動の最近の話題も踏まえて～。Meet the Expert 2021。オンライン。2021年11月30日。

86. 小山幸平：トーアエイヨー株式会社web外部講師招聘社内研修会。オンライン。2021年11月30日
87. 河野隆志：東京息切れ会議。循環器専門医が診る”息切れ”について～心不全を含めて～。東京・オンライン。2021年12月1日。
88. 河野隆志：糖尿病診療のエビデンスを踏まえ最善の心不全診療を再考する。循環器・糖尿病専門医から見た心不全合併糖尿病治療を考える会。オンライン。2021年12月2日。
89. 河野隆志：より良い心不全治療を追求する。ベリキューボ新発売記念講演会@多摩。2021年12月6日。
90. 伊波巧：Optimizing the Safety and Efficacy of BPA. Expert Meeting on Cardiology 2021. オンライン。2021年12月6日。
91. 小山幸平：ACSにおける積極的脂質低下療法の重要性。TAMA Interventional Cardiology Workshop. オンライン。2021年12月7日。
92. 副島京子：救急現場でのチームワーク。「減らせ、突然死」。AED推進フォーラム2021 5周年記念：AEDを活かすためのチームワーク。東京。2021年12月8日。
93. 副島京子：本邦におけるMicra植込みの現状と今後の展望。Micra Webセミナーin神戸。神戸・オンライン。2021年12月8日。
94. 河野隆志：心不全診療 up to dateの要点。循環器医療連携WEBセミナー。オンライン。2021年12月14日。
95. 伊波巧：慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療戦略～PTPAと新たな治療薬の位置付け～。CTEPH適応追加記念講演会in北九州。オンライン。2021年12月15日。
96. 竹内かおり：当院における肺高血圧症の診療経験。第4回北多摩肺高血圧症研究会。オンライン。2021年12月16日。
97. 副島京子：Micra AVへの期待。Micra AV TOKAI Summit. オンライン。2021年12月17日。
98. 河野隆志：新薬登場後の心不全予防・治療を考える。Heart Failure Treatment・地域医療ネットワーク。オンライン。2021年12月17日。
99. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。凄腕 不整脈セミナー。オンライン。2021年12月22日。
100. 副島京子：Micra AVに関するOverview。Micra AV発売記念講演会。オンライン。2022年1月12日。
101. 河野隆志：実地医家の先生と”心不全薬物治療”を考える。北多摩循環器WebセミナーVer. 10. オンライン。2022年1月17日。
102. 坂田好美：多摩エリアで診よう！心エコー図検査スキルアップセミナー。「心エコーによる肺高血圧診断」。ヤンセンファーマ株式会社肺高血圧心エコー講習会。東京。2022年1月24日。
103. 副島京子：Micra AVの新展望。リードレスペースメーカーの新しい世界。オンライン。2022年1月26日。
104. 河野隆志：最新のエビデンスから心不全薬物治療を再考する。Expert Meeting fromTACHIKAWA. オンライン。2021年1月21日。
105. 副島京子：BIO|SELECT Pilot 研究結果と新たなCRT評価指標。第14回植込みデバイス関連冬季大会。オンライン。2022年2月11日-13日。
106. 副島京子：心房細動早期発見と治療。循環器疾患Web Seminar。オンライン。2022年2月17日。
107. 副島京子：VT ablation update。アブレーション特別講演～最新アブレーション治療と止血デバイスの有効性～。オンライン。2022年2月22日。
108. 坂田好美：目で診る肺高血圧症診療 -診療連携と早期診断の重要性-。肺高血圧症セミナーin桜山。オンライン。2022年2月24日。
109. 副島京子：国内Leadlessの現状とMicra AVを含めたデバイス選択。広島エリアMicra講演会。オンライン。2022年2月25日。
110. 菊池華子：右心カテ併用運動負荷試験の意義とPH治療のGoal。第27回関東ハートセミナー。2022年2月25日。
111. 野々口紀子：心房細動を早期発見するために。Cardiology Meeting in MITAKA. オンライン。2021年3月1日。
112. 竹内真介：CKD患者のCVD発症予防を考える～それぞれの立場から～。世多摩地区講演会。オンライン。2022年3月10日。
113. 伊波巧：CTEPH治療における新たな選択肢～ウブトラビの適応追加を受けて～。CTEPH治療を考える会in甲信。2022年3月14日。
114. 副島京子：Micra AVへの新展望。第20回循環器疾患に関する医療連携の会。オンライン。2022年3月25日。
115. 副島京子：心房細動アブレーションの適応を考える～心不全パンデミックを見据えて～。ブラザキサ・プリズバインドWeb講演会。オンライン。2022年3月30日。

論文

(英文)

1. Kiani S¹, Wallace K², Stromberg K², Piccini JP³, Roberts PR⁴, El-Chami MF⁵, Soejima K, Garweg C⁶, Fagan DH², Lloyd MS³ (¹Emory University School of Medicine, ²Medtronic PL, ³Duke University Medical Center and Duke Clinical Research Institute, ⁴Southampton General Hospital-University Hospital Southampton National Health Service Foundation Trust, ⁵Emory University School of Medicine, ⁶University of Leuven) : A Predictive Model for the Long-Term Electrical Performance of a Leadless Transcatheter Pacemaker. JACC Clin Electrophysiol. 7(4). 502-512. 2021.
2. eKitakata H¹, Katsumata Y¹, Kohsaka S¹, Sekine O¹, Kohno T, Sano M¹, Fukuda K¹ (¹Keio University School of Medicine) : Patient Perspectives in the Era of Remote Medical Visits During the Coronavirus Disease (COVID-19) Pandemic - Insights From Outpatient Care of Cardiovascular Disease. Circ Rep. 3(5). 300-303. 2021.
3. Miyama H¹, Shiraishi Y¹, Kohsaka S¹, Goda A, Nishihata Y², Nagatomo Y³, Takei M⁴, Fukuda K¹, Kohno T, Yoshikawa T⁵ (¹Keio University School of Medicine, ²St. Luke's International Hospital, ³National Defense Medical College, Saiseikai Central Hospital, ⁵Sakakibara Heart Institute) : Abnormal Liver Function Tests and Long-Term Outcomes in Patients Discharged after Acute Heart Failure. J Clin Med. 10(8). 1730. 2021.
4. Yamasaki M^{1,2}, Yoshino H¹, Kuniyama T¹, Akutsu K¹, Shimokawa T¹, Ogino H¹, Kawata M¹, Takahashi T¹, Usui M¹, Watanabe K¹,

- Masuhara H¹, Yamamoto T¹, Nagao K¹, Takayama M¹ (¹Tokyo CCU Network Scientific Committee, ²St. Luke's International Hospital) : Risk analysis for early mortality in emergency acute type A aortic dissection surgery: experience of Tokyo Acute Aortic Super-network. *Eur J Cardiothorac Surg.* 60(4). 957-964. 2021.
5. Takeuchi S, Takayama N¹, Soejima K, Yoshino H : (¹Department of Hematology, Kyorin University School of Medicine : A penetrating atherosclerotic ulcer rapidly growing into a saccular aortic aneurysm during treatment of leukaemia: a case report. *Eur Heart J Case Rep.* 5(7).ytab196. 2021.
 6. Nogami A, Kurita T, Abe H, Ando K, Ishikawa T, Imai K, Usui A, Okishige K, Kusano K, Kumagai K, Goya M, Kobayashi Y, Shimizu A, Shimizu W, Shoda M, Sumitomo N, Seo Y, Takahashi A, Tada H, Naito S, Nakazato Y, Nishimura T, Nitta T, Niwano S, Hagiwara N, Murakawa Y, Yamane T, Aiba T, Inoue K, Iwasaki Y, Inden Y, Uno K, Ogano M, Kimura M, Sakamoto SI, Sasaki S, Satomi K, Shiga T, Suzuki T, Sekiguchi Y, Soejima K, Takagi M, Chinushi M, Nishi N, Noda T, Hachiya H, Mitsuno M, Mitsuhashi T, Miyauchi Y, Miyazaki A, Morimoto T, Yamasaki H, Aizawa Y, Ohe T, Kimura T, Tanemoto K, Tsutsui H, Mitamura H (JCS/JHRS Joint Working Group) : JCS/JHRS 2019 guideline on non-pharmacotherapy of cardiac arrhythmias. *J Arrhythm.* 7(4). 709-870. 2021.
 7. Miura K¹, Katsumata Y¹, Kawakami T¹, Ikura H¹, Ryuzaki T¹, Shiraishi Y¹, Fukui S², Kawakami M^{1, 2}, Kohno T, Sato K, Fukuda K (¹Keio University School of Medicine, ²Keio University Hospital) : Exercise tolerance and quality of life in hemodynamically partially improved patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension treated with balloon pulmonary angioplasty. *PLoS One.* 16(7). e0255180. 2021.
 8. Nagamatsu Y, Goda A, Ito J, Takeuchi K, Kikuchi H, Kariyasu T¹, Machida H, Inami T, Kohno T, Soejima K, Satoh T (¹Department of Radiology, Kyorin University Hospital) : Novel diagnostic and therapeutic approaches to pulmonary hypertension due to the unilateral absence of a pulmonary artery. *ESC Heart Fail.* 8(4). 3427-3430. 2021.
 9. Kitaoka H, Tsutsui H, Kubo T, Ide T, Chikamori T, Fukuda K, Fujino N, Higo T⁶, Isobe M, Kamiya C, Kato S, Kihara Y, Kinugawa K, Kinugawa S, Kogaki S, Komuro I, Hagiwara N, Ono M, Maekawa Y, Makita S, Matsui Y, Matsushima S, Sakata Y, Sawa Y, Shimizu W, Teraoka K, Tsuchihashi-Makaya M, Ishibashi-Ueda H, Watanabe M, Yoshimura M, Fukusima A, Hida S, Hikoso S, Imamura T, Ishida H, Kawai M, Kitagawa T, Kohno T, Kurisu S, Nagata Y, Nakamura M, Morita H, Takano H, Shiga T, Takei Y, Yuasa S, Yamamoto T, Watanabe T, Akasaka T, Doi Y, Kimura T, Kitakaze M, Kosuge M, Takayama M, Tomoike H (Japanese Circulation Society Joint Working Group) : JCS/JHFS 2018 Guideline on the Diagnosis and Treatment of Cardiomyopathies. *Circ J.* 85(9). 1590-1689. 2021.
 10. Fukuoka R^{1,2}, Kohsaka S¹, Shiraishi Y¹, Sawano M¹, Abe T³, Wayne C Levy⁴, Nagatomo Y⁵, Nishihata Y⁶, Goda A, Kohno T, Kawamura A², Fukuda K¹, Yoshikawa T⁷ (¹Keio University School of Medicine, ²International University of Health and Welfare, ³Yokohama City University, ⁴University of Washington, ⁵National Defense Medical College, ⁶St. Luke's International Hospital, ⁷Sakakibara Heart Institute) : Sudden cardiac death after acute decompensation in heart failure patients: implications of discharge haemoglobin levels. *ESC Heart Fail.* 8(5). 3917-3928. 2021.
 11. Soejima K, Kondo Y¹, Sasaki S², Adachi K³, Kato R⁴, Hagiwara N⁵, Harada T⁶, Kusano K⁷, Miura F⁸, Morishima I⁹, Yoshitani K¹⁰, Yotsukura A¹¹, Fujimoto M¹², Nishii N¹³, Shimeno K¹⁴, Ohe M¹⁵, Tasaka H¹⁶, Sasaki H¹⁷, Schrader J¹⁸, Ando K¹⁹ (¹Chiba University Graduate School of Medicine, ²Hirosaki University, ³Akashi Medical Center, ⁴Saitama Medical University, ⁵Tokyo Women's Medical University Hospital, ⁶St. Marianna University School of Medicine, ⁷National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸Hiroshima Prefectural Hospital, ⁹Ogaki Municipal Hospital, ¹⁰Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center, ¹¹Hokko Memorial Hospital, ¹²Kouseiren Takaoka Hospital, ¹³Okayama University Hospital, ¹⁴Osaka City General Hospital, ¹⁵Kurume University Hospital, ¹⁶Kurashiki Central Hospital, ¹⁷BIOTRONIK JAPAN, Inc., ¹⁸BIOTRONIK SE & CO KG, ¹⁹Kokura Memorial Hospital) : Intracardiac conduction time as a predictor of cardiac resynchronization therapy response: Results of the BIO|SELECT pilot study. *Heart Rhythm* O2.2(6Part A). 588-596. 2021.
 12. Usuda K¹, Kato T¹, Tsuda T¹, Tada H¹, Niwa S¹, Usui S¹, Sakata K¹, Hayashi K¹, Furusho H¹, Kawashiri M¹, Takamura M¹, Otsuka T², Suzuki S², Hirata A³, Murakami M⁴, Takami M⁵, Kimura M⁶, Fukaya H⁷, Nakahara S⁸, Shimizu W⁹, Iwasaki YK⁹, Hayashi H⁹, Harada T, Nakajima I¹⁰, Okumura K¹¹, Koyama J¹¹, Tokuda M¹², Yamane T¹², Momiyama Y¹³, Tanimoto K¹³, Soejima K, Nonoguchi N, Ejima K¹⁴, Hagiwara N¹⁴, Harada M¹⁵, Sonoda K¹⁶, Inoue M¹⁷, Kumagai K¹⁸, Hayashi H¹⁹, Satomi K²⁰, Yazaki Y²⁰, Watari Y²¹, Arai M²², Watanabe R²³, Yokoyama K²³, Matsumoto N²³, Nagashima K²², Okumura Y²² (¹Kazawa University, ²The Cardiovascular Institute, Tokyo, ³Osaka Police Hospital, ⁴Shonan-Kamakura General Hospital, ⁵Saiseikai Nakatsu Hospital, ⁶Hirosaki University School of Medicine, ⁷Kitasato University Hospital, ⁸Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ⁹Nippon Medical Hospital, ¹⁰St. Marianna University School of Medicine Hospital, ¹¹Saiseikai Kumamoto Hospital, ¹²Tokyo Jikei University School of Medicine Hospital, ¹³National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ¹⁴Tokyo Women's Medical University Hospital, ¹⁵Fujita University Health Hospital, ¹⁶Tokyo Rinkai

- Hospital, ¹⁷Ishikawa Prefectural Central Hospital, ¹⁸Gunma Cardiovascular Center, ¹⁹Juntendo University, ²⁰Tokyo Medical University Hospital, ²¹Teikyo University, ²²Nihon University Itabashi Hospital, ²³Nihon University Hospital; on behalf of the AF Ablation Frontier Registry) : Impact of sinus rhythm maintenance on major adverse cardiac and cerebrovascular events after catheter ablation of atrial fibrillation: insights from AF frontier ablation registry. *Heart Vessels*. 37(2). 327-336. 2022.
13. Miwa Y, Mohri T, Katsume Y, Tashiro M, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I¹, Hagiwara Y², Maeda A, Ueda A, Sato T, Soejima K (¹Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University Hospital, ²Division of Engineering, Kyorin University Hospital) : Left Atrial Reverse Remodeling Following the Modified Box Isolation with Centerline in Patients with Persistent Atrial Fibrillation. *Int Heart J*. 62(5). 1005-1011. 2021.
 14. Kitakata K¹, Kohno T¹, Kohsaka S¹, Fujisawa D¹, Nakano N¹, Shiraishi Y¹, Katsumata Y¹, Nagatomo Y², Yuasa S¹, Fukuda K¹ (¹ Keio University School of Medicine, ²National Defense Medical College : Preferences on advance care planning and end-of-life care in patients hospitalized for heart failure. *ESC Heart Fail*. 8(6). 5102-5111. 2021.
 15. Higuchi S¹, Kabeya Y^{2,3}, Matsushita K⁴, Tachibana K⁵, Kawachi R⁶, Takei H⁷, Tanaka R⁵, Suzuki Y⁸, Imanishi Y⁹, Shibata S¹⁰, Hasegawa H¹⁰, Saito K¹¹, Moriyama K¹², Yorozu T¹², Abe N⁸, Kondo H⁵, Matsuda T¹³, Yoshino H (¹Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Tokai University School of Medicine, ³Sowa Hospital, ⁴Kumamoto University Hospital, ⁵Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine, ⁶Nihon University School of Medicine, ⁷Showa University School of Medicine, ⁸Department of Gastroenterological and General Surgery, Kyorin University School of Medicine, ⁹International University of Health and Welfare School of Medicine, ¹⁰Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ¹¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, ¹²Kyorin University School of Medicine, ¹³Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ¹⁴Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Clinical impact of perioperative atrial fibrillation on long-term recurrence of malignancy. *Heart Vessels*. 2022 . DOI : 10.1007/s00380-021-01954-4. Epub.
 16. Higuchi S¹, Kabeya Y^{2,3}, Nishina Y, Miura Y, Shibata S¹, Hata N¹, Suda T¹, Hirabuki K¹, Hasegawa H¹, Yoshino H, Matsuda T⁴ (¹Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Tokai University, ³Sowa Clinic, ⁴Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine) : Clinical impact of noncontrast percutaneous coronary intervention in patients with acute coronary syndrome. *J Med Invest*. 69(1.2). 57-64. 2022.
 17. Yamaguchi T¹, Nakai M², Yano T³, Matsuyama M², Yoshino H, Miyamoto Y³, Sumita Y², Matsuda H², Inoue Y², Okita Y², Minatoya K⁴, Ueda Y⁵, Ogino H⁶ (¹Toranomon Hospital, ²National Cerebral and Cardiovascular Center, ³Miyazaki Prefectural Nobeoka Hospital, ⁴Kobe University Graduate School of Medicine, ⁵Kyoto University Graduate School of Medicine, ⁶Nara Prefecture General Medical Center) : Population-based incidence and outcomes of acute aortic dissection in Japan. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care*. 10(7). 701-709. 2021.
 18. Yagi R^{1,2}, Takei M^{1,3}, Kohsaka S³, Shiraishi Y³, Ikemura N³, Shoji S³, Niimi N³, Higuchi S⁹, Goda A, Kohno T, Nagatomo Y⁴, Nishihata Y⁵, Sujino Y⁶, Saji M⁷, Ikegami Y^{4,8}, Nakano S⁶, Yamasaki M¹, Fukuda K¹, Yoshikawa T⁷ (¹Saiseikai Central Hospital, ²Harvard T.H. Chan School of Public Health, ³Keio University School of Medicine, ⁴National Defense Medical College, ⁵St. Luke's International Hospital, ⁶Saitama Medical University, ⁷Sakakibara Heart Institute, ⁸National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁹Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Phenomapping in patients experiencing worsening renal function during hospitalization for acute heart failure. *ESC Heart Fail*. 8(6). 5192-5203. 2021.
 19. Shiraishi Y¹, Niimi N¹, Goda A, Takei M², Kimura T¹, Kohno T, Kawana M³, Fukuda K¹, Kohsaka S¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Tokyo Saiseikai Central Hospital, ³Stanford University) : Assessment of Physical Activity Using Waist-Worn Accelerometers in Hospitalized Heart Failure Patients and Its Relationship with Kansas City Cardiomyopathy Questionnaire. *J Clin Med*. 10(18). 4103. 2021.
 20. Yamazaki Y¹, Shiraishi Y¹, Kohsaka S¹, Nagatomo Y³, Fukuda K¹, Kohno T, Yoshikawa T² (¹Keio University School of Medicine, ²National Defence Medical College Hospital, ³Sakakibara Heart Institute) : Temporal trends in tolvaptan use after revision of national heart failure guidelines in Japan. *Sci Rep*. 11(1). 19360. 2021.
 21. Higuchi S¹, Kohno T, Kohsaka S², Shiraishi Y², Takei M³, Goda A, Shoji S², Nagatomo Y⁴, Yoshikawa T⁵ (¹Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Keio University School of Medicine, ³Saiseikai Central Hospital, ⁴National Defense Medical College, ⁵Sakakibara Heart Institute) : Different Impact of Beta-Blockers on Long-Term Mortality in Heart Failure Patients with and without Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *J Clin Med*. 10(19). 4378. 2021.
 22. Nonoguchi NM, Adachi M¹, Nogami A², Komatsu Y^{2, 3}, Sato T⁶, Ueda A⁶, Ogawa K³, Togashi I⁶, Miwa Y, Hoshida K, Momose Y, Shinoda Y², Kowase S³, Nakamura K⁴, Kaneko S⁵, Soejima K (¹ Sanin Rosai Hospital, ² University of Tsukuba, ³ Yokohama Rosai Hospital, ⁴Toho University Ohashi Medical Center, ⁵Toyota

- Kosei Hospital, ⁶Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University School of Medicine) : Stellate Ganglion Phototherapy Using Low-Level Laser: A Novel Rescue Therapy for Patients With Refractory Ventricular Arrhythmias. *JACC Clin Electrophysiol.* 7(10). 1297-1308. 2021.
23. El-Chami MF¹, Garweg C², Iacopino S³, Al-Samadi F⁴, Martinez-Sande JL⁵, Tondo C⁶, Johansen JB⁷, Prat XV⁸, Piccini JP⁹, Cha YM¹⁰, Grubman E¹¹, Bordachar P¹², Roberts PR¹³, Soejima K, Stromberg K¹⁴, Fagan DH¹⁴, Clementy N¹⁵(¹Emory University, ²UZ Leuven, ³Maria Cecelia Hospital, ⁴King Salman Heart Center-King Fahad Medical City, ⁵University Clinical Hospital of Santiago de Compostela, ⁶University of Milan, ⁷Odense University Hospital, ⁸Hospital de la Santa Creu I Sant Pau, ⁹Duke University Medical Center, ¹⁰Mayo Clinic, ¹¹Yale University School of Medicine, ¹²Université Bordeaux, ¹³University Hospital Southampton NHS Foundation Trust, ¹⁴Medtronic, Inc., ¹⁵Centre Hospitalier Régional Universitaire de Tours-Hôpital Trousseau) : Leadless pacemaker implant, anticoagulation status, and outcomes: Results from the Micra Transcatheter Pacing System Post-Approval Registry. *Heart Rhythm.*19(2). 228-234. 2022.
 24. Katsume Y, Miwa Y, Ueda A, Soejima K : Underdiagnosis of phrenic nerve palsy caused by cryoballoon ablation for atrial fibrillation with upright position chest radiography: usefulness of supine position dynamic chest radiography. *Europace.* 23(10). 1567. 2021.
 25. Miura Y, Koyama K, Kongoji K, Soejima K : Fenestration using a novel cutting balloon for acute vessel occlusion secondary to intramural hematoma following stent implantation. *Cardiovasc Revasc Med.*S1553-8389(21)00721-1. 2021.
 26. Shinada K¹, Kohno T¹, Fukuda K¹, Higashitani M², Kawamatsu N³, Kitai T^{4,5}, Shibata T⁶, Takei M⁷, Nochioka K⁸, Nakazawa G^{9, 10}, Shiomi H¹¹, Miyashita M¹², Mizuno A^{13,14} (¹School of Medicine, Keio University, ²Tokyo Medical University Ibaraki Medical Center, ³Mito Saiseikai General Hospital, ⁴Kobe City Medical Center General Hospital, ⁵National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁶Kurume University School of Medicine, ⁷Saiseikai Central Hospital, ⁸Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁹Tokai University, ¹⁰Kindai University Faculty of Medicine, ¹¹Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹²Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹³University of Pennsylvania, ¹⁴St. Luke's International University) : Depression and complicated grief in bereaved caregivers in cardiovascular diseases: prevalence and determinants. *BMJ Support Palliat Care.* bmjspcare-2021-002998. 2021.
 27. Yukino M¹, Nagatomo Y¹, Goda A, Kohno T, Takei M², Nishihata Y³, Saji M⁴, Toyosaki Y⁵, Nakano S⁵, Ikegami Y^{1,6}, Shiraishi Y⁷, Kohsaka S⁷, Adachi T¹, Yoshikawa⁴ (¹National Defense Medical College, ²Saiseikai Central Hospital, ³St. Luke's International Hospital, ⁴Sakakibara Heart Institute, ⁵Saitama Medical University International Medical Center, ⁶National Hospital Organization) : Association of Non-Invasive Positive Pressure Ventilation with Short-Term Clinical Outcomes in Patients Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure. *J Clin Med.* 10(21). 5092. 2021.
 28. Takeuchi K, Goda A, Ito J, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Soejima K, Satoh T : Successful epoprostenol withdrawal and termination with an aid of the exercise stress test in pulmonary arterial hypertension. *Int J Cardiol.*346. 80-85. 2022.
 29. Nishimura H¹, Mochida Y, Ogino S, Fukushi K, Yamazaki H, Miyakuni Y, Kaita Y, Minamishima T, Soejima K, Yamaguchi Y (¹Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Critical anterior mediastinal hematoma without internal mammary artery injury caused by cardiopulmonary resuscitation: A case report. *Trauma Case Rep.*37. 100587. 2021.
 30. Shinada K¹, Kohno T, Fukuda K¹, Higashitani M², Kawamatsu N³, Kitai T⁴, Shibata T⁵, Takei M⁶, Nochioka K⁷, Nakazawa G⁸, Shiomi H⁹, Miyashita M¹⁰, Mizuno A¹¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Tokyo Medical University Ibaraki Medical Center, ³Mito Saiseikai General Hospital, ⁴Kobe City Medical Center General Hospital, ⁵Kurume University School of Medicine, ⁶Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁷Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁸Tokai University School of Medicine, ⁹Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹⁰Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹¹St. Luke's International Hospital) : Caregiver experience with decision-making difficulties in end-of-life care for patients with cardiovascular diseases. *J Cardiol.* 2021.DOI : 10.1016/j.jjcc.2021.11.001. Epub.
 31. Sugiura K¹, Kohno T, Kohsaka S¹, Shiraishi Y¹, Katsumata Y¹, Hayashida K¹, Yuasa S¹, Takatsuki S¹, Fukuda K¹ (¹Keio University School of Medicine) : Sleep-disordered breathing is independently associated with elevated natriuretic peptide levels in patients with cardiovascular diseases. *Heart Vessels.* 2021. DOI :10.1007/s00380-021-01998-6. Epub.
 32. Hiraide T¹, Suzuki H¹, Shinya Y¹, Momoi M¹, Inami T, Katsumata Y, ¹ Fukuda K¹, Kosaki K¹, Kataoka M^{1,2} (¹Keio University School of Medicine, ²University of Occupational and Environmental Health) : TET2 variants in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension. *CJC Open.*4(4). 416-419. 2021.
 33. Watanabe R¹, Nagashima K¹, Wakamatsu Y¹, Otsuka N¹, Yokoyama K¹, Matsumoto N¹, Otsuka T², Suzuki S², Hirata A³, Murakami M⁴, Takami M⁵, Kimura M⁶, Fukaya H⁷, Nakahara S⁸, Kato T⁹, Hayashi H¹⁰, Iwasaki YK¹⁰, Shimizu W¹⁰, Nakajima I¹¹, Harada T¹¹, Koyama J¹², Okumura K¹², Tokuda M¹³, Yamane T¹³, Tanimoto K¹⁴, Momiyama Y¹⁴, Nonoguchi N, Soejima K, Ejima K¹⁵, Hagiwara N¹⁵, Harada M¹⁶, Sonoda K¹⁷, Inoue M¹⁸, Kumagai K¹⁹, Hayashi H²⁰, Yazaki

- Y²¹, Satomi K²¹, Watari Y²², Okumura Y¹(¹Nihon University Itabashi Hospital, ²The Cardiovascular Institute, ³Osaka Police Hospital, ⁴Shonan-Kamakura General Hospital, ⁵Kobe University Graduate School of Medicine, ⁶Hiroasaki University Hospital, ⁷Kitasato University School of Medicine, ⁸Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰Nippon Medical School Hospital, ¹¹St. Marianna University School of Medicine Hospital, ¹²Saiseikai Kumamoto Hospital, ¹³The Jikei University School of Medicine, ¹⁴National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ¹⁵Tokyo Women's Medical University Hospital, ¹⁶Fujita Health University Hospital, ¹⁷Tokyo Rinkai Hospital, ¹⁸Kanazawa Medical Center, ¹⁹Tohoku Medical and Pharmaceutical University, ²⁰Juntendo University School of Medicine, ²¹Tokyo Medical University Hospital, ²²Teikyo University School of Medicine : AF Ablation Frontier Registry Investigators) : Different Determinants of the Recurrence of Atrial Fibrillation and Adverse Clinical Events in the Mid-Term Period After Atrial Fibrillation Ablation. *Circ J.* 86(2).233-242. 2022.
34. Piccini JP¹, Cunnane R², Steffel J³, El-Chami MF⁴, Reynolds D⁵, Roberts PR⁶, Soejima K, Steinwender C^{7,8}, Garweg C⁹, Chinitz L¹⁰, Ellis CR¹¹, Stromberg K¹², Fagan DH¹³, Mont L¹⁴ (¹Duke University Medical Center, ²University of Michigan, ³University Heart Center Zurich, ⁴Emory University Hospital, ⁵University of Oklahoma Health Sciences Center, ⁶University Hospital Southampton NHS Foundation Trust, ⁷Kepler University Hospital, ⁸Paracelsus Medical University Salzburg, ⁹University Hospitals Leuven, ¹⁰NYU Langone Medical Center, ¹¹Vanderbilt University Medical Center, ¹²Medtronic, ¹³Inc, Institut Clinic Cardiovascular (ICCV), ¹⁴Centro de Investigación Biomédica en Red de Enfermedades Cardiovasculares (CIBERCV) : Development and validation of a risk score for predicting pericardial effusion in patients undergoing leadless pacemaker implantation: experience with the Micra transcatheter pacemaker. *Europace*. 2022. DOI :10.1093/europace/euab315. Epub ahead of print.
35. Jono Y¹, Kohno T¹, Kohsaka S¹, Kitakata H¹, Shiraishi Y¹, Katsumata Y¹, Hayashida K¹, Yuasa S¹, Takatsuki S¹, Fukuda K¹(¹Keio University School of Medicine) : Sex differences in sleep and psychological disturbances among patients admitted for cardiovascular diseases. *Sleep Breath.* 2022. DOI :10.1007/s11325-021-02544-4. Online ahead of print.
36. Yumita Y¹, Nagatomo Y², Takei M³, Saji M², Goda A, Kohno T, Nakano A⁴, Nishihata Y⁵, Ikegami Y^{1,6}, Shiraishi Y⁷, Kohsaka S⁷, Adachi T¹, Yoshikawa T² (¹National Defense Medical College, ²Sakakibara Heart Institute, ³Saiseikai Central Hospital, ⁴International Medical Center, ⁵Saitama Medical University, ⁶St. Luke's International Hospital, ⁷Keio University School of Medicine) : Personalized Target Heart Rate for Patients with Heart Failure and Reduced Ejection Fraction. *J Pers Med.* 12(1). 50. 2022.
37. Ogawa S^{1,2}, Nagatomo Y^{1,3}, Takei M⁴, Saji M¹, Goda A, Kohno T, Nakano A⁵, Nishihata Y⁶, Ikegami Y^{3,7}, Shoji S⁸, Shiraishi Y⁸, Kohsaka S⁸, Yoshikawa T¹ (¹Sakakibara Heart Institute, ²Osaka University Graduate School of Medicine, ³National Defense Medical College, ⁴Saiseikai Central Hospital) : Impact of Left Ventricular Chamber Size on Outcome in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. *Int Heart J.* 63(1). 62-72. 2022.
38. Siontis KC¹, Santangeli P², Muser D², Marchlinski FE², Zeppenfeld K³, Hoogendoorn JC³, Narasimhan C⁴, Sauer WH⁵, Zipse MM⁶, Kapa S¹, Vedantham V⁷, Rosenthal DG⁷, Robinson MR⁸, Patton KK⁸, Murgatroyd F⁹, Chicos AB¹⁰, Soejima K, Roukoz H¹¹, Sacher F¹², Bhan A¹³, Appelbaum J¹⁴, Dickfeld T¹⁴, Mankad P¹⁵, Ellenbogen KA¹⁵, Kron J¹⁵, Kim HM¹⁶, Froehlich J¹⁶, Eagle KA¹⁶, Bogun FM¹⁶, Crawford TC¹⁶ (¹Mayo Clinic, ²Hospital of the University of Pennsylvania, ³Leiden University Medical Center, ⁴Care Hospitals, ⁵Brigham and Women's Hospital, ⁶University of Colorado, ⁷University of California, ⁸University of Washington, ⁹King's College Hospital National Health Service Foundation Trust, ¹⁰Northwestern University Feinberg School of Medicine, ¹¹University of Minnesota, ¹²University of Bordeaux, ¹³Advocate Christ Medical Center, ¹⁴University of Maryland School of Medicine, ¹⁵Virginia Commonwealth University, ¹⁶University of Michigan) : Outcomes Associated With Catheter Ablation of Ventricular Tachycardia in Patients With Cardiac Sarcoidosis. *JAMA Cardiol.* 7(2). 175-183. 2022.
39. Mohri T, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Sakata K, Soejima K, Satoh T : High prevalence of occult left ventricular diastolic dysfunction detected by exercise stress test in systemic sclerosis. *Sci Rep.*12(1). 2423. 2022.

(和文)

1. 副島京子 : 【画像診断・画像下治療の最前線】循環器医療の現状と若手医師の育成(座談会). 杏林医学雑誌. 52(3). P163-166. 2021年.
2. 河野隆志 : 【地域で診る高齢者心不全診療】高齢者心不全の急性増悪に対する対応と再入院予防. 老年内科. 4 (1) . 11-19. 2021年.
3. 河野隆志 : 【診る】心不全療養指導に必要な身体所見. *Heart View.* 25 (10) . 918-922. 2021年.
4. 合田あゆみ : Round Table Discussion 運動と肺高血圧症. *Pulmonary Hypertension Update.* 7(1) . 14-21. 2021年.
5. 合田あゆみ : State of the Art 運動と肺高血圧症 運動時肺高血圧-慢性血栓性肺高血圧症診断の一助として. *Pulmonary Hypertension Update.* 7 (1) . 26-31. 2021年.
6. 野々口紀子 : 心房細動の早期発見. 杏林医学雑誌. 52 (2) . 81-85. 2021年.

- 野々口紀子：植込み型心臓デバイス植込み後の患者にMRIを施行することは可能だが、種々の条件を確認する必要がある。臨床雑誌内科。128(3)。410-413。2021年。
- 吉野秀朗：医療事故に遭遇するとき2021。One Point Advice. Medical Practice. 38. 1601. 2021年。

著書

- 副島京子，上田明子（分担著書）：虚血性心疾患に伴う心室頻拍。格段にうまくいくカテーテルアブレーションの基本とコツ（改訂版）。高橋淳編集。羊土社。2022年。P356-364。
- 河野隆志（分担執筆）：心不全療養指導士 認定試験 ガイドブック2022年。4. 心臓の基礎疾患の特徴，5. 心不全の身体所見。日本循環器学会編集。南江堂。2022。40-60。
- 小山幸平（分担執筆）：IXイメージングモダリティも上手に使える！OCTガイド活用・IVUSに勝る活用法 新PCI・カテーテル室のピンチからの脱出法。村松俊哉編集。南江堂。2021年。382-385。
- 星田京子（分担執筆）：第1章 心電図の種類と見方の基本のキをおさえる。今さら聞けない心電図。池田隆徳編集。メジカルビュー社。2022。22-29。
- 南島俊徳（分担執筆）：Case Study 2. 急に生じた夜間の発作性呼吸困難。シンプルにわかる循環器内科研修ハンドブック。池田隆徳編集。羊土社。2021年。250-254。
- 堀川宗之，吉野秀朗（共編）：臨床工学に必要な医学的基礎。臨床工学技士標準テキスト第4版。金原出版。2022年。19-25。
- 吉野秀朗（共編）：内科学総論。臨床工学技士標準テキスト第4版。金原出版。2022年。619-645。

報告書

- 巽浩一郎，田邊信宏，阿部弘太郎，伊波巧，大郷剛，荻野均，辻野一三，鈴木拓児，山本慶子，内藤亮，鈴木淳夫，松原広己，稲垣武，吉田雅博，村上紀子：慢性血栓性肺高血圧症 診療ガイドライン2022。日本肺高血圧・肺循環学会。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業『難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究』班。2022年。

その他

- 副島京子：最新のアブレーション治療。ラジオNIKKEI「ドクターサロン」番組出演。2021年5月20日放送。
- 副島京子：不整脈について。杏林大学×J:COM武蔵野・三鷹 テレビ市民講座「学びの杜」。2021年7月から放送。
- 副島京子：「最新治療データで探す 名医のいる病院2021」掲載。2021年。P44。
- 副島京子：人生100年時代に知っておきたい 患者が増えている「心不全」。読売新聞朝刊。2021年11月21日掲載。
- 副島京子：活気ある国家：生きがいの創出 第5回シンポジウムにて基調講演およびパネル討議。オンライン。2021年12月6日。
- 副島京子：救急現場でのチームワーク。「減らせ、突然死」AED推進フォーラム2021 5周年記念：AEDを活かすためのチームワークにて講演。東京。2021年12月8日。
- 副島京子：心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション。LiSA【リサ】周術期管理を核とした

総合誌，Vol.29 No.2。周術期管理を核とした総合誌。2022年。P170-174

- 波多野将，佐藤直樹，河野隆志，渡邊雅貴：増え続ける心不全患者にどう対峙するか。心不全のすべて臨床雑誌内科。Vol.128 No.1。2021年7月号（座談会）。
- 河野隆志：2021 European Journal of Cardiovascular Nursing 2020-2021 TOP ALTMETRIC PAPER AWARD。
- 伊波巧：慢性血栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の刷新と発展。2021年度日本肺高血圧・肺循環学会『八巻賞』。2021年5月8日。

不整脈先進治療学研究講座

講演

- 上田明子：EPS・3D mappingのPitfall。Interventional EP Curriculum SVT module 2021。オンライン。2021年4月17日。
- Ueda A：Fluoro-reduction approach in SVT—Japan experience—APHRS IEPC Course Adv. EP Module。オンライン。2021年6月5日。
- Sato T：His-Purkinje Conduction System Pacing in Heart Failure Patients with Indication of Cardiac Resynchronization Therapy. Symposium: Advanced Device Management for Heart Failure Patients。日本不整脈心電学会ウェビナー。オンライン。2021年7月1日。
- 富樫郁子：Stability and safety of left bundle branch area pacing in patients with atrioventricular block。第66回日本不整脈心電学会学術総会。オンライン。2021年7月1日。
- 佐藤俊明：Protagonist, Debate Session: ヒス-プルキンエ刺激伝導系ペーシングは果たして有用か。日本不整脈心電学会ウェビナー。オンライン。2021年7月2日。
- Ueda A：Functional substrate ablation in Scar-related ventricular tachycardia. JHRS2021。オンライン。2021年7月2日。
- Ueda A：Efficacy of Pacemap Strategy Focusing on Conduction Slowing Area. JHRS2021。オンライン。2021年7月3日。
- Sato T, K Soejima, Maeda KA, Mohri T, Nagaoka M, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Miwa Y, Ueda A, Togashi I: Distal His-bundle Pacing From Right Ventricular Side Of Atrioventricular Septum, From The Viewpoint Of Backup Right Ventricular Capture. Heart Rhythm Society Scientific Conference. Online. USA. July 14 th, 2021.
- Togashi I: Fluoroscopic Predictors Of Acceptable Capture Threshold At Implantation Of Micra-transcatheter Pacing System. Heart Rhythm 2021 in Boston. Boston・オンライン。July 28-31th, 2021.
- Ueda A：Mapping and Ablation Strategy of Idiopathic Outflow Tract Ventricular Tachycardia. APHRS IEPC Course Adv. EP Module。オンライン。2021年8月28日。

11. 上田明子：実地医家の先生と心電図の読み方を考える。北多摩循環器病セミナー。オンライン。2021年8月24日。
12. Ueda A: VT ablation using EnSite X. Abbott Technology Excellence Course 2021 Session 2. オンライン。2021年10月28日。
13. 上田明子：知っておくと心室期外収縮アブレーションが好きになる基本とこつ。Meet the Experts. オンライン。2021年11月9日。
14. 上田明子：心室性不整脈に対する EnSite X 使用経験。Complex Ablation Therapeutics Symposium. 東京。2021年12月4日。
15. 上田明子：心不全を有する心房細動治療。第4回 Eliquis web seminar. オンライン。2021年12月8日。
16. Sato T: Prospective Evaluation of Feasibility and Safety of His-Purkinje Conduction System Pacing. 5th Symposium HPCSP. オンライン。中華人民共和国。2021年12月18日。
17. 上田明子：心房細動治療のトータルマネジメント。Webセミナー～抗凝固療法を再考する～。オンライン。2022年2月9日。
18. 上田明子：器質的心疾患に伴う心室性不整脈：Conduction slowing areaに対するアブレーション。第86回日本循環器学会学術集会。事前収録オンデマンド。2022年3月11日。
19. 佐藤俊明：生理的ペーシング（ヒス-プルキンエ刺激伝導系ペーシング）。FUKUI Circulation Forum 2022. オンライン。2022年3月24日。
20. 上田明子：不整脈診療における薬の使い方。北多摩循環器病セミナー。オンライン。2022年3月22日。

論文

(英文)

1. Sato T, Soejima K¹, Maeda A¹, Mohri T¹, Natsume Y¹, Tashiro M¹, Momose Y¹, Nonoguchi N¹, Hoshida K¹, Miwa Y¹, Ueda A, Togashi I¹ (¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University School of Medicine): Safety of Distal His Bundle Pacing Via the Right Ventricle Backed Up by Adjacent Ventricular Capture. JACC Clin Electrophysiol. 7(4). 513-521. 2021.

(和文)

1. 佐藤俊明：ヒス束ペーシングと左脚領域ペーシング。医学と薬学78(5)。543-548。2021年5月。
2. 佐藤俊明：より生理的なペーシング-恒久ヒス束ペーシング。-左脚領域ペーシング-。特集「不整脈診断・治療の進歩」。杏林医学会。52(2)。97-100。2021年。
3. 上田明子：カテーテルアブレーション・心臓植込みデバイスの被曝低減への努力。特集「不整脈診断・治療の進歩」。杏林医学会。52(2)。101-106。2021年。
4. 富樫郁子：ペースメーカーの新たな選択肢：リードないペースメーカー『リードレスペースメーカー』。特集「不整脈診断・治療の進歩」。杏林医学会。52(2)。93-96。2021年。
5. 佐藤俊明：心室ペーシングと心機能。【ペースメーカー外来よろづ相談】。Heart View。25(9)。813-817。2021年。
6. 佐藤俊明：生理的ペーシング：ヒス-プルキンエ刺激伝導系ペーシングの徐脈性不整脈および心不全

症例における有効性。【特集/不整脈診療・治療の最新のトピックス】。循環器内科。90(4)。414-419。2021年。

著書

1. 佐藤俊明(分担執筆)：III.治療法・治療手技6)植込み型ペースメーカー(一時的ペーシング, ICD, CRTを含む)。シンプルにわかる循環器内科研修ハンドブック。池田隆徳 編集。羊土社。2021年。228-232。

血液内科学教室

講演

1. 高山信之：DLBCL 治療における最近の話題。Hematology Forum 2021. オンライン。2021年4月16日。
2. 高山信之：一般内科医のための血算の異常値から考える鑑別診断の進め方。日本内科学会関東支部主催 第64回生涯教育講演会。東京。2021年7月11日。
3. Suzuki T, Maruyama D, Machida R, Kataoka T, Fukushima N, Takayama N, Ohba R, Omachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Yamamoto K, Kameoka Y, Kagami Y, Tabayashi T, Maruta M, Kobayashi T, Iida S, Nagai H: The prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in untreated patients with multiple myeloma who received melphalan, prednisolone, and bortezomib: an ad hoc analysis of JCOG1105. The 18th International Myeloma Workshop. Austria. September 10th, 2021.
4. 高山信之, 小林誠, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 百瀬恵未, 大貫朋也, 佐藤範英: 当施設における骨髓異形成症候群に対するアザシチジンまたは同種造血幹細胞移植の治療成績。第83回日本血液学会学術総会。オンライン。2021年9月25日。
5. Makita S, Kusumoto S, Maeshima A, Hashimoto H, Tsujimura H, Uchida T, Inoue H, Ohtsuka E, Kurosawa M, Takayama N, Negoro E, Suzuki Y, Kuroda J, Murayama K, Takahashi N, Shimada K, Okamoto M, Makita M, Iwasaki H, Yoshida M, Asano N, Tamura J, Maruyama D, Ymaguchi M, Nagai H: Clinical Outcomes of Elderly Patients with Advanced-stage classic Hodgkin lymphoma who received ABVD regimen: A multi-center retrospective study in Japan (HORIZON study). The 63rd ASH annual meeting and exposition. USA. December 12th, 2021.
6. 小林誠, 高山信之: 当院におけるアザシチジン+ベネトクラクスの使用経験。Hematologic Forum in TAMA. オンライン。2022年3月3日。
7. 増田萌, 関雅史, 吉森恵未, 小林誠, 桑原彩子, 佐藤範英, 藤原正親, 柴原純二, 高山信之: 肺の多発結節影を主症状とし, 腸管T細胞リンパ腫類似の表現型を呈したγδT細胞リンパ腫の1例。第16回日本血液学会関東甲信越地方会。東京。2022年3月19日。

論文

1. Nakamura N¹, Maruyama D², Machida R³, Ichinohe T⁴, Takayama N, Ohba R⁵, Ohmachi K⁶, Imaizumi Y⁷, Tokunaga M⁸, Katsuya H⁹, Yoshida

¹⁰ Sunami K¹¹, Kurosawa M¹², Kubota N¹³, Morimoto H¹⁴, Kobayashi M¹⁵, Kato H¹⁶, Kameoka Y¹⁷, Kagami Y¹⁸, Kizaki M¹⁹, Takeuchi K²⁰, Munakata W²¹, Iida S²², Nagai H²³ (¹Gifu University Hospital, ²Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Hiroshima University Research Institute for Radiation Biology and Medicine, ⁵The Jikei University Daisan Hospital, ⁶Tokai University School of Medicine, ⁷Nagasaki University Hospital, ⁸Imamura General Hospital, ⁹Saga University, ¹⁰National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ¹¹National Hospital Organization Okayama Medical Center, ¹²National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, ¹³Saitama Cancer Center, ¹⁴University of Occupational and Environmental Health, ¹⁵Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital, ¹⁶Aichi Cancer Center, ¹⁷Akita University School of Medicine, ¹⁸Toyota Kosei Hospital, ¹⁹Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ²⁰Ehime University Hospital, ²¹National Cancer Center Hospital, ²²Nagoya City University Hospital, ²³National Hospital Organization Nagoya Medical Center). Single response assessment of transplant-ineligible multiple myeloma: a supplementary analysis of JCOG1105 (JCOG1105S1). *Jpn J Clin Oncol*. 51(7). 1059-1066. 2021.

2. 高山信之：血液専門医のための模擬テスト24. 血液内科. 84(2). 290-291. 2022.
3. 高山信之：血液専門医のための模擬テスト24－解答と解説－. 血液内科. 84(3). 450-454. 2022.

著書

4. 高山信之(分担監修)：血液のがん 悪性リンパ腫. がんがみえる. メディックメディア. 2022年. 572-577.
5. 高山信之(分担監修)：血液のがん 多発性骨髄腫. がんがみえる. メディックメディア. 2022年. 578-583.

消化器内科学教室

講演

国際学会・シンポジウム発表

1. Hisamatsu T: Real-world evidence of anti-TNFs in intestinal Behcet's disease IBD Expert Meeting. Online. March 30th. 2022.
2. Watanabe K, Hisamatsu T, Nakase H, Nagase K, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Yokoyama K, Nishishita M, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Shinzaki S, Kato S, Tanaka H, Uraoka T, Takatsu N, Suzuki H, Takahashi K, Umeno J, Mishima Y, Tsuchida K, Fujiya M, Hiraoka S, Yamamoto S, Saruta M, Nojima M, Andoh A: Japan prospective multicenter study for optimization of COVID-19 vaccinations based on the immune response and safety profile in Inflammatory Bowel Disease patients: Interim analyses of the J-COMBAT trial. 17th

Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.

3. Danese S, Panaccione R, Rubin DT, Sands BE, Reinisch W, D'Haens G, Panés J, Gonzalez S, Weisel K, Sahoo A, Frustaci ME, Yang Z, Sandborn WJ, Afzali A, Hisamatsu T, Andrews JM, Feagan B: Clinical efficacy and safety of guselkumab maintenance therapy in patients with moderately to severely active Crohn's Disease: Week 48 analyses from the phase 2 GALAXI 1 study. 17th Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.
4. Dignass A, Rubin D, Bressler B, Huang K.H, Shipitofsky N, Germinaro M, Zhang H, Johanns J, Feagan B, Sandborn W, Sands B, Hisamatsu T, Lichtenstein G, Panes J, Allegretti J: The efficacy and safety of guselkumab induction therapy in patients with moderately to severely active Ulcerative Colitis: Phase 2b QUASAR Study results through week 12. 17th Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.
5. Atreya R, Feagan B, Shchukina O, Jairath V, Rieder F, Hisamatsu T, Siegmund B, Rizzo J, Kligys K, Neimark E, Song A, Zambrano J, Mallick M, Cheng E, Armuzzi A: Normalisation of biomarkers and improvement in clinical outcomes in patients with Crohn's disease treated with risankizumab in the phase 3 ADVANCE, MOTIVATE, and FORTIFY Studies. 17th Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.
6. Miura M, Shimizu H, Saito D, Miyoshi J, Matsuura M, Kudo T, Hirayama D, Yoshida M, Arai K, Iwama I, Nakase H, Shimizu T, Hisamatsu T: Multicenter, cross-sectional, observational study on Epstein-Barr viral infection status and thiopurine use by age group in patients with inflammatory bowel disease in Japan. 17th Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.
7. Miyoshi J, Maeda T, Matsuoka K, Saito D, Morikubo H, Matsuura M, Tamura S, Hisamatsu T. Prediction model for steroid-free clinical remission with vedolizumab at week 22 in patients with Ulcerative Colitis: Machine learning using clinical data at baseline. 17th Congress of ECCO. Online. February 16-19th. 2022.
8. D'Haens G, Panaccione R, Colombel JF, Bossuyt P, Danese S, Lim A, Lindsay JO, Hisamatsu T, Ran Z, Rubin DT, Schreiber S, Peyrin-Biroulet L, Loftus EV, Dubinsky M, Ferrante M, Neimark E, Song A, Huang B, Liao X, Berg S, Duan WR, Wallace K, Feagan B, Sandborn WJ: Risankizumab induction therapy in patients with moderate-to-severe Crohn's disease: results from the ADVANCE and MOTIVATE phase 3 studies. Italian Group for the Study of Inflammatory Bowel Disease - XII Congresso Nazionale. Online. November 28th. 2021.
9. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Asahina A, Okada M,

- Komagata Y, Medina CL, Molto A, van der Heijde D, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S. Clinical Characteristics of Patients with SpA and Concomitant IBD: Results from the ASAS PerSpA Study. American College of Rheumatology Convergence 2021. Online. November 8th. 2021.
10. Matsuoka K, Motoya S, Yamamoto T, Matsuura M, Fujii T, Shinzaki S, Mikami Y, Arai S, Oshima J, Endo Y, Yuasa H, Hoshi M, Hisamatsu T: Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: an interim report of safety data. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 11. Schreiber S, Ferrante M, Panaccione R, Colombel JF, Hisamatsu T, Lim A, Lindsay JO, Rubin DT, Sandborn WJ, Neimark E, Song AP, Liao X, Feng T, Berg S, Wallace K, D'Haens GR: Risankizumab induces early clinical remission and response in patients with moderate-to-severe Crohn's disease: results from two phase 3 studies. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 12. Danese S, Sandborn W, Feagan B, Weisel K, Gonzalez S, Frustaci M, Zijiang Yang Z, Johanns J, Germinaro M, Afzali A, Andrews J, D'Haens G, Hisamatsu T, Panaccione R, Reinisch W, Rubin D, Sands B, Panes J. on behalf of the GALAXI 1 Investigators: The effect of guselkumab induction therapy on early clinical outcome measures in patients with Moderately to Severely Active Crohn's Disease: Results from GALAXI 1 study. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 13. Miyoshi J, Ozaki R, Yonezawa H, Mori H, Kawamura N, Matsuura M, Hisamatsu T: A new structure-based sonographic parameter for estimating endoscopic remission in ulcerative colitis: submucosa index (SMI). The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 14. Saito D, Matsuura M, Fujima T, Ogihara R, Morikubo H, Ozaki R, Tokunaga S, Minowa S, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Hisamatsu T: Clinical response of vedolizumab at week 6 predicted endoscopic remission at week 24 in ulcerative colitis. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 15. Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T. Clinical characteristics of newly diagnosed adult patients with Crohn's disease in Japan: Interim analysis of iCREST-CD. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 16. Abreu MT, Danese S, Sandborn WJ, Miao Y, Zhang H, Tikhonov I, Panaccione R, Hisamatsu T, Scherl EJ, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Afif W, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Marano C: Efficacy and Safety of Ustekinumab for Ulcerative Colitis Through 3 Years: UNIFI Long-Term Extension. The 9th Asian Organization for Crohn's and Colitis. China and Online. October 14-16. 2021.
 17. Schreiber S, Ferrante M, Panaccione R, Colombel JF, Hisamatsu T, Lim A, Lindsay JO, Rubin DT, Sandborn WJ, Neimark E, Song AP, Liao X, Feng T, Berg S, Wallace K, D'Haens GR: Risankizumab induces early clinical remission and response in patients with moderate-to-severe Crohn's disease: Results from the phase 3 ADVANCE and MOTIVATE studies. American College of Gastroenterology Annual Scientific Meeting. USA and Online. October 22-27th. 2021.
 18. Ferrante M, Panaccione R, Feagan B, Sandborn W, Panés J, Peyrin-Biroulet L, Colombel JF, Schreiber S, Dubinsky M, Baert F, Hisamatsu T, Neimark E, Huang B, Liao X, Song A, Berg S, Duan WR, Pang Y, Pivorunas V, Kligys K, Wallace K, D'Haens G: Efficacy and Safety of Risankizumab as Maintenance Therapy in Patients with Crohn's Disease: 52 Week Results from the Phase 3 FORTIFY Study. American College of Gastroenterology Annual Scientific Meeting. USA and Online. October 22-27th. 2021.
 19. Rowbotham DS, Abreu MT, Danese S, Sandborn WJ, Miao Y, Zhang H, Panaccione R, Hisamatsu T, Scherl EJ, Leong RW, Arasaradnam RP, Afif W, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Marano C: Efficacy of ustekinumab for ulcerative colitis in patients through 3 years: UNIFI Long-term Extension. The United European Gastroenterology Week 2021. Online. October 3-5th. 2021.
 20. Ferrante M, Panaccione R, Feagan B, Sandborn W, Panés J, Peyrin-Biroulet L, Colombel JF, Schreiber S, Dubinsky M, Baert F, Hisamatsu T, Neimark E, Huang B, Liao X, Song A, Berg S, Duan WR, Pang Y, Pivorunas V, Kligys K, Wallace K, D'Haens G: Efficacy and Safety of Risankizumab as Maintenance Therapy in Patients with Crohn's Disease: 52 Week Results from the Phase 3 FORTIFY Study. The United European Gastroenterology Week 2021. Online. October 3-5th. 2021.
 21. D'Haens G, Panaccione R, Panés J, Sandborn W, Feagan BG, Hisamatsu T, Bossuyt P, Ferrante M, Danese S, Neimark E, Song A, Liao X, Feng T, Duan WR, Berg S, Wallace K, Colombel JF: An additional 12 weeks of risankizumab therapy induces clinical response in patients with moderate-to-severe Crohn's disease who failed to achieve clinical response after an initial induction period: 24-week pooled analysis of two phase 3 studies. The United European Gastroenterology Week 2021. Online. October 3-5th. 2021.
 22. Hisamatsu T, Annabelle Yoon: Treatment decisions and biologic adoption rates in newly diagnosed CD in Japan. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.

23. Miyoshi J, Ozaki R, Yonezawa H, Mori H, Kawamura N, Matsuura M, Hisamatsu T: The ratio of submucosa thickness to the total bowel wall thickness can be a sonographic parameter to estimate endoscopic remission in ulcerative colitis. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 24. Scherl E, Danese S, Sandborn W, Miao Y, Zhang H, Abreu M, Panaccione R, Afif W, Hisamatsu T, Leong W, Rowbotham D, Arasaradnam R, Sands B, Marano C: Corticosteroid-sparing effects of ustekinumab therapy for ulcerative colitis through 3 years: UNIFI long-term extension. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 25. Schreiber S, Ferrante M, Remo Panaccione R, Colombel JF, Hisamatsu T, Lim A, Lindsay J, Rubin D, Sandborn W, Neimark E, Song A, Liao X, Feng T, Berg S, Wallace K, D'Haens G: Risankizumab induces early clinical remission and response in patients with Moderate-to-Severe Crohn's Disease: Results from the phase 3 ADVANCE and MOTIVATE studies. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 26. Danese S, Sandborn W, Feagan B, Weisel K, Gonzalez S, Frustaci M, Zijiang Yang Z, Johanns J, Germinaro M, Afzali A, Andrews J, D'Haens G, Hisamatsu T, Panaccione R, Reinisch W, Rubin D, Sands B, Panes J on behalf of the GALAXI 1 Investigators: The effect of guselkumab induction therapy on early clinical outcome measures in patients with moderately to severely active Crohn's disease: results from the phase 2 GALAXI 1 study. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 27. Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T: Clinical characteristics of newly diagnosed adult patients with Crohn's disease in Japan: Interim analysis of Inception cohort registry study of patients with Crohn's disease (iCREST-CD). 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 28. Abreu M, Danese S, Sandborn W, Miao Y, Zhang H, Tikhonov I, Panaccione R, Hisamatsu T, Scherl E, Leong R, Rowbotham D, Arasaradnam R, Afif W, Peyrin-Biroulet L, Sands B, and Marano C: Efficacy and safety of ustekinumab for ulcerative colitis through 3 years: UNIFI long-term extension. 16th Congress of ECCO. Online. July 2-3rd & 8-10th. 2021.
 29. D'Haens G, Panaccione R, Colombel JF, Bossuyt P, Danese S, Lim A, Lindsay JO, Hisamatsu T, Ran Z, Rubin DT, Schreiber S, Peyrin-Biroulet L, Loftus EV, Dubinsky M, Ferrante M, Neimark E, Song A, Huang B, Liao X, Berg S, Duan WR, Wallace K, Feagan B, Sandborn WJ. Risankizumab induction therapy in patients with moderate-to-severe Crohn's disease: results from the ADVANCE and MOTIVATE phase 3 studies. Digestive Disease Week 2021. Online. May 21-23rd. 2021.
 30. D'Haens G, Rubin DT, Panes J, Gonzalez S, Chan D, Johanns J, Frustaci MES, Yang Z, Adedokun OJ, Cunningham M, Ghanem L, Reinisch W, Hisamatsu T, Feagan BG: The effect of guselkumab induction therapy on endoscopic outcome measures in patients with moderately to severely active Crohn's disease: Week 12 results from the phase 2 GALAXI 1 study. Digestive Disease Week 2021. Online. May 21-23rd. 2021.
- 国内学会発表、厚生労働省班会議等発表**
1. 川村直弘, 加藤敦士, 關里和, 三好潤, 西川かおり, 森秀明, 久松理一: CAP, ATIによる脂肪肝の評価. 第41回日本画像医学学会学術集会. オンライン. 2022年2月18-19日.
 2. 馬上知尋, 林田真理, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 尾崎良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 小腸用カプセル内視鏡を用いて5年間小腸病変を観察し得た Cronkhite-Canada症候群の1例. 第15回日本カプセル内視鏡学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月13日.
 3. 齋藤大祐, 松浦稔, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 尾崎良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における Vedolizumab投与6週後の臨床的有効性は24週後の内視鏡寛解を予測する. 第18回日本消化管学会総会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月11-13日.
 4. 三好潤, 前田翼, 松岡克善, 齋藤大祐, 三好佐和子, 松浦稔, 岡本晋, 田村哲嗣, 久松理一: 潰瘍性大腸炎患者におけるベドリズムブによる臨床的寛解達成の予測: 投与開始時臨床データを用いた機械学習の有用性. 第18回日本消化管学会総会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月11-13日.
 5. 原田耕佑, 關里和, 加藤敦士, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 川村直弘, 河合桐男, 磯村杏耶, 林玲, 藤原正親, 柴原純二, 古瀬純司, 森秀明, 久松理一: 平滑筋腫術後10年後に多発肝転移として指摘された平滑筋肉腫の一例. 第368回日本消化器病学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年2月5日.
 6. 松岡克善, 松浦稔, 加藤順, 水島恒和, 熊谷秀規, 村上義孝, 朝倉敬子, 久松理一, 西脇祐司: 新規診断炎症性腸疾患患者を対象とした全国規模レジストリ構築. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会. オンライン. 2022年1月27日.
 7. 仲瀬裕志, 松本主之, 松浦稔, 飯島英樹, 松岡克善, 大宮直木, 石原俊治, 平井郁仁, 久松理一: JAPAN IBD-COVID 19 Taskforce の活動報告 (J-DESIRE/J-COSMOSの登録内容結果を含む). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会. オンライン. 2022年1月27日.
 8. 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 松浦稔, 横山佳浩, 高橋 憲一郎, 藤谷幹浩, 前本篤男, 田中浩紀, 櫻庭裕丈, 橋本悠, 浦岡俊夫, 鈴木英雄, 土屋 輝一郎, 松岡克善, 加藤真吾, 長堀正和, 吉村直樹, 豊永貴彦, 猿田雅之, 大森鉄平, 佐上晋太郎, 小林拓,

横山薫，南條宗八，北村和哉，杉本健，大宮直木，中村正直，谷田諭史，土田研司，横山正，山本修司，守屋圭，深田憲将，長沼誠，新崎 信一郎，西下正和，青山伸郎，小島健太郎，佐藤寿行，河合幹夫，上小鶴孝二，横山陽子，平岡佐規子，半田修，塩谷昭子，三島義之，石原俊治，船越禎広，平井郁仁，武富啓展，江崎幹宏，高津典孝，梅野淳嗣，野島正寛，安藤朗：日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化：多施設共同前向き研究（J-COMBAT）。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。

9. 松岡克善，小林拓，新崎信一郎，高津典孝，藤井俊光，三好潤，河口貴昭，山崎大，内野基，岩間達，岩田直美，野島正寛，長沼誠，久松理一：炎症性腸疾患に対する分子標的薬レジストリの構築。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
10. 松本主之，梁井俊一，久部高司，川崎啓祐，江崎幹宏，志賀永嗣，前田康晴，吉田直，岡志郎，斎藤豊，渡辺憲治，浦岡俊夫，国崎玲子，石原聡一郎，緒方晴彦，久松理一：潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
11. 小林拓，松岡克善，藤谷幹浩，竹内健，東山正明，新崎信一郎，藤井俊光，三好潤，山崎大，内野基，野島正寛，久松理一：高齢者IBD患者データベース（レジストリ）作成。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
12. 梅野淳嗣，冬野雄太，鳥巢剛弘，江崎幹宏，梁井俊一，大宮直木，久松理一，渡辺憲治，細江直樹，緒方晴彦，内田恵一，平井郁仁，久部高司，松敏幸，八尾恒良，松本主之，CEAS study group 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
13. 長沼誠，長堀正和，井上詠，桐野洋平，田中良哉，久松理一：腸管ペーチェット病における重症度基準作成（厚生労働省ペーチェット病に関する研究（岳野班）との連携）。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
14. 冬野雄太，平野敦士，梅野淳嗣，江崎幹宏，角田洋一，仲瀬裕志，久松理一，櫻庭裕丈，国崎玲子，平井郁仁，猿田雅之，松本主之：腸管ペーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome Wide Association Study (GWAS)。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
15. 渡辺憲治，松本主之，仲瀬裕志，久松理一，平井郁仁，小林清典，国崎玲子，長堀正和，竹内 健，大藤さとし，福島若葉，梁井俊一，林田真理，稲場勇平，藤谷幹浩，櫻庭裕丈，角田洋一，勝野達郎，大森鉄平，小林拓，秋山純一，本田 穰，佐藤公，佐々木誠人，谷田諭史，加賀谷尚史，馬場重樹，安藤 朗，

深田憲将，長沼誠，細見周平，鎌田紀子，山本修司，平田 敬，石田哲也，松本吏弘，金城福則，金城徹，上野義隆，田中信治，穂苅量太，高橋素真，進士明宏，北村和哉，山下真幸，金井隆典，櫻井俊之，猿田雅之，本谷聡，邊見慎一郎，安川重義，高津典孝，宮川一平，田中良哉，日暮琢磨，中島淳，桐野洋平，水木信久，山田哲弘，松岡克善，鈴木康夫，上野文昭，日比紀文，渡辺守：特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study：国内多施設共同試験。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。

16. 仲瀬裕志，平山大輔，櫻井晃弘，松本主之，江崎幹宏，国崎玲子，松浦稔，大宮美香，荒木寛司，渡辺憲治，本谷聡，小林拓，日比紀文，竹内健，松岡克善，上野伸展，大井秀久，柿本一城，細見周平，新崎信一郎，横山薫，吉野琢哉，松野雄一，大井充，新井勝大，都築義和，安藤朗，石川大，長末智寛，櫻井俊之，白木学，酒見亮介，松田耕一郎，南條宗八，吉川周作，中村正直，小山文一，横山純二，後藤田卓志，櫻庭裕丈，武田輝之，大宮直木，穂苅量太，吉田雄一郎，杉田昭，久松理一：家族性地中海熱関連腸炎の診断法確立・機序解明。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
17. 江崎幹宏，松本主之，鳥巢剛弘，梅野淳嗣，冬野雄太，平井郁仁，武田輝之，二見喜太郎，中村志郎，池内浩基，渡辺憲治，大宮直木，中村正直，仲瀬裕志，山本修司，藤谷幹浩，志賀永嗣，大森鉄平，飯島英樹，平岡佐規子，蔵原晃一，金城 徹，金城福則，芦塚伸也，山本章二朗，光山慶一，猿田雅之，櫻庭裕丈，小山文一，細江直樹，緒方晴彦，金井隆典，小林拓，日比紀文，長堀正和，渡辺守，竹内健，杉田昭，松岡克善，鈴木康夫，久松理一：クローン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義—多施設前向きコホート研究—。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
18. 中村志郎，渡辺憲治，江崎幹宏，柿本一城，竹内健，長堀正和，馬場重樹，平井郁仁，平岡佐規子，穂苅量太，三上洋平，内野基，小金井一隆，東大二郎，新井勝大，清水泰岳，長沼誠，仲瀬裕志，久松理一：治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
19. 長沼誠，中村志郎，松岡克善，小林拓，松浦稔，猿田雅之，加藤真吾，加藤順，横山薫，石原俊治，小金井一隆，内野基，水落建輝，蛇川大樹，渡辺憲治，仲瀬裕志，久松理一：潰瘍性大腸炎治療指針改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
20. 長沼誠，中村志郎，宮寄孝子，松岡克善，吉岡慎一郎，光山慶一，阿部貴行，小林拓，斎藤大祐，猿田雅之，国崎玲子，志賀永嗣，横山薫，石原俊治，南條宗八，佐々木誠人，中澤敦，中里圭宏，守屋圭，高橋憲一郎，藤谷幹浩，櫻庭裕丈，高木智久，林亮平，田中信治，長堀正和，南木康作，金井隆典，仲瀬裕志，我妻康平，穂苅量大，坂田資尚，江崎幹宏，大宮直木，村杉瞬，大森鉄平，竹内健，吉村直樹，渡辺憲治，田原利行，北村和哉，加藤順，安富絵里子，平岡佐規子，梁井俊一，松本主之，山本章二朗，

橋本真一，都築義和，大井充，日浅陽一，細見周平，久松理一：治療指針に反映させるためのエビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築（日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業との共同研究）。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。

21. 松浦稔，長沼誠，松岡克善，小林拓，猿田雅之，藤井俊光，加藤順，加藤真吾，平井郁仁，渡辺憲治，内野基，新崎信一郎，高木智久，新井勝大，虻川大樹，中村志郎，久松理一：IBD腸管外合併症治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
22. 松本主之，江崎幹宏，大森鉄平，櫻庭裕丈，新崎新一郎，杉本健，竹中健人，大塚和朗，長沼誠，馬場重樹，久部高司，平岡佐規子，藤谷幹治，松浦稔，梁井俊一，渡辺憲治，仲瀬裕志，平井郁仁，緒方晴彦，久松理一：炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成にむけて。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
23. 杉田昭，二見喜太郎，池内浩基，根津理一郎，高橋賢一，舟山裕士，板橋道朗，福島浩平，藤井久雄，小金井一隆，東大二郎，小山文一，水島恒和，松岡克善，平井郁仁，長堀正和，中村志郎，安藤朗，久松理一，橋本秀樹：潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOLの観点から（prospective study）：横断研究中間解析。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
24. 石原聡一郎，味岡洋一，池内浩基，板橋道朗，内野基，浦岡俊夫，大北喜基，岡林剛史，河内洋，小金井一隆，斎藤豊，下田将之，杉田昭，菅井有，高橋賢一，高丸博之，田中信治，仲瀬裕志，長沼誠，畑啓介，東大二郎，藤井俊光，二見喜太郎，松浦稔，松田圭二，松本主之，水島恒和，渡辺憲治，渡谷祐介，山口直比古，吉田雅博，杉原健一，久松理一：「炎症性腸疾患関連癌診療ガイドライン」の作成について。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
25. 清水俊明，水落建輝，清水泰岳，虻川大樹，新井勝大，熊谷秀規，内田恵一，井上幹大，工藤孝広，石毛崇，岩間達，国崎玲子，渡辺憲治，長沼誠，中村志郎，久松理一：小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
26. 清水俊明，熊谷秀規，岩間達，萩原真一郎，工藤孝広，高橋美智子，齋藤武，国崎玲子，内野基，平岡佐規子，長沼誠，杉本健，三好潤，澁谷智義，久松理一：トランジションのコンセンサス形成に関するプロジェクト。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
27. 石毛崇，久松理一，清水俊明，渡辺憲治，新井勝大，亀井宏一，工藤孝広，国崎玲子，徳原大介，長沼誠，

水落建輝，村島温子，猪野木雄太，岩田直美，岩間達，肥沼幸，清水泰岳，神保圭佑，高木祐吾，高橋昌兵，趙有季，南部隆亮，西田大恭，萩原真一郎，匹田典克，藤川皓基，細井賢二，細見周平，三上洋平，三好潤，八木隆介，横山陽子：IBD患者に対する予防接種に関するエキスパートコンセンサス。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。

28. 藤谷幹治，安藤勝祥，稲場勇平，野村好紀，上野伸展，盛一健太郎，前本篤男，蘆田知史，高後裕，仲瀬裕志，山田聡，田中一之，櫻井俊之，猿田雅之，八月朔日秀明，穂苅量太，岡昌平，平岡佐規子，加賀谷尚史，田中敏宏，福井寿朗，鳥巢剛弘，齋藤大祐，久松理一，長堀正和，加藤真吾，志賀永嗣，角田洋一，渡辺憲治，中村志郎，池内浩基，林亮平，田中信治，虻川大樹，佐々木誠人，飯塚政弘，飯島英樹，水島恒和，小林清典，小林拓，内山和彦，長沼誠，金井隆典，江崎幹宏，飯田智哉，田中浩紀，馬場重樹，安藤朗，清水俊明，福田勝之，鈴木英雄，大北喜基，松岡克善：炎症性腸疾患関連血栓症の全国集計—最終報告。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
29. 板橋道朗，池内浩基，木村英明，福島浩平，藤井久男，根津理一郎，二見喜太郎，杉田昭，鈴木康男，久松理一：潰瘍性大腸炎周術期の血栓塞栓症に関する多施設前向き研究 Perioperative venous thromboembolism in ulcerative colitis: a multicenter prospective study in Japan. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
30. 角田洋一，梅野淳嗣，河原真大，高川哲也，渡辺憲治，中村志郎，仲瀬裕志，佐々木誠人，花井洋行，冬野雄太，平野敦士，松本主之，久松理一，安藤朗，木内喜孝，正宗淳：日本人炎症性腸疾患患者における染色体異常モザイクについての検討。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
31. 久松理一，三浦みき，清水泰岳，新井勝大，清水俊明，岩間達，仲瀬裕志：本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
32. 竹中健人，大塚和朗，土屋輝一郎，渡辺守，安藤朗，馬場重樹，大宮直木，小林拓，猿田雅之，櫻井俊之，田中信治，林亮平，久松理一，松浦稔，平井郁仁，松岡克善，松本主之，梁井俊一，山本博徳，矢野智則，長沼誠，今枝博之，渡辺憲治：クローン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治療検討（SEBIO study）。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。
33. 山田貴大，徳永創太郎，齋藤大祐，藤麻武志，萩原良太，森久保拓，尾崎良，箕輪慎太郎，三井達也，三浦みき，櫻庭彰人，林田真理，三好潤，松浦稔，吉池信哉，久松理一：出血性痔核の経過観察中に出現した特発性腸管囊胞様気腫症の1例。第367回日本消化器病学会関東支部例会。オンライン。2021年12月11日。

34. 西田晨也, 國分茂博, 土井弘義, 廣石和正, 井廻道夫, 川村直弘, 清水孝夫, 關里和: 肝細胞癌ラジオ波治療における国産Thermo monitor下電極長可変式alfaの有用性. 第44回日本肝臓学会西部会. 岡山. 2021年12月10日.
35. 麻生喜祥, 大塚弘毅, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 阪本良弘, 柴原純二, 大西宏明, 阿部展次: 病期分類にみた十二指腸腺癌におけるマイクロサテライト不安定性も検討. 第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年12月4-5日.
36. 三好潤, 尾崎良, 米澤広美, 松浦稔, 久松理一: 潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性を推定する新たな腸管超音波検査指標の開発: 腸管壁に占める粘膜下層の比率. 第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年12月4-5日.
37. 神保陽子, 大野亜希子, 楠原光謹, 柴原純二, 久松理一: 生検組織診断分類Group2病変におけるNBI併用拡大観察による再検の有用性. 第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年12月4-5日.
38. 権藤興一, 土岐真朗, 落合一成, 渡邊俊介, 久松理一: 中等症急性胆管炎における緊急内視鏡治療の検討. 第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年12月4-5日.
39. 荻原良太, 齋藤大祐, 和田晴香, 藤麻武志, 森久拓, 尾崎良, 徳永創太郎, 箕輪 慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: MEFV遺伝子変異を伴う小腸病変を有するIBD unclassifiedの2例. 日本小腸学会. 東京・オンライン. 2021年11月27日.
40. 我妻康平, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 松浦稔, 大宮美香, 荒木憲司, 渡辺憲治, 本谷聡, 小林拓, 上野伸展, 細見周平, 横山薫, 松野雄一, 大井充, 新井勝大, 石川大, 酒見亮介, 吉川周作, 中村正直, 小山文一, 横山純二, 櫻庭裕丈, 武田輝之, 吉田雄一朗, 山本真義, 細矢匡, 久松理一, 仲瀬裕志: 内視鏡所見を中心とした家族性地中海熱関連腸炎の臨床像. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
41. 三浦みき, 齋藤大祐, 清水泰岳, 三好潤, 松浦稔, 工藤孝広, 平山大輔, 吉田正司, 新井勝大, 岩間達, 仲瀬裕志, 清水俊明, 久松理一: 本邦の小児・成人炎症性腸疾患患者におけるEpstein-Barr virus感染状況と関連因子の検討. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
42. 松岡克善, 久松理一, 岩切龍一, 西村邦彦, 梶田美香, Fernandez JL: 中等症又は重症の潰瘍性大腸炎患者におけるベドリズマブの安全性と有効性: 国内製造販売後調査(特定使用成績調査)の中間解析. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
43. 日比紀文, 本谷聡, 久松理一, 平井郁仁, 渡辺憲治, 松岡克善, 猿田雅之, 小林拓, Feagan BG, Tasset C, Besuyen R, Yun C, Crans G, Zhang J, 近藤陽, 渡辺守: 中等症～重症活動期UC患者の寛解導入療法としてのfilgotinibの有効性と安全性(日本登録集団). 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
44. 松岡克善, 本谷聡, 山本隆行, 松浦稔, 藤井俊光, 新崎信一郎, 三上洋平, 新井祥子, 大島純一, 遠藤穰, 湯浅博俊, 星雅人, 久松理一: 瘍性大腸炎患者を対象としたトファシチニブ特定使用成績調査. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
45. 久松理一, Annabelle Yoon: 新規クローン病の治療選択および生物学的製剤使用に関わる背景因子～データベース研究からの報告～. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
46. Abreu MT, Danese S, Sandborn WJ, Miao Y, Zhang H, Tikhonov I, Panaccione R, Hisamatsu T, Scherl EJ, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Afif W, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Marano C: 潰瘍性大腸炎に対する3年間のウスデキヌマブ治療によるの有効性および安全性: UNIFI長期投与試験. 第12回日本炎症性腸疾患学会. 東京・オンライン. 2021年11月26-27日.
47. 久松理一: IBD診断治療の最前線: Treat to Target (T2T) の意義. JDDW 2021教育講演. 神戸・オンライン. 2021年11月7日.
48. 久松理一: ランチョンセミナー59: 潰瘍性大腸炎の治療実態を見直すーレセプトデータベース研究からー. JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
49. 久松理一: Observation of ulcerative colitis by Linked Color Imaging (Linked Color Imagingによる潰瘍性大腸炎の観察). JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
50. 三好潤, 松岡克善, 久松理一: 機械学習を用いた潰瘍性大腸炎におけるベドリズマブの有効性予測. JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
51. 小島洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村本喬, 大園研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 十二指腸腫瘍における粘液形質別の臨床病理学的特徴の検討. JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
52. 楠原光謹, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 羽田裕, 神保陽子, 木下美咲, 大山 学, 菅間博, 久松理一: ヒトパピローマウイルスの感染により発症した肛門上皮内腫瘍に対しESDを施行した2例. JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
53. 麻生喜祥, 小島洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村本喬, 大園研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 十二指腸腫瘍における粘液形質別の臨床病理学的特徴の検討. JDDW 2021. 神戸・オンライン. 2021年11月4-6日.
54. 關里和, 川村直弘, 加藤敦士, 北濱圭一郎, 三浦みき, 下山博明, 黒木一典, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 診断に苦慮した肝内胆管癌の1例. 日本超音波医学会第33回関東甲信越地方会学術集会. 松本・オンライン. 2021年10月16-17日.
55. 神林孔明, 渡邊俊介, 土岐真朗, 北田修一, 野坂岳志, 後藤知之, 落合一成, 権藤興一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 久松理一: 高齢者総胆管結石症内視鏡治療例における入院前居住環境への退院困難因子の検討. 第57回日本胆道学会学術集会. 横浜. 2021年10月7-8日.
56. 野坂岳志, 渡邊俊介, 神林孔明, 北田修一, 後藤知之, 落合一成, 権藤興一, 松木亮太, 小暮正晴, 中村健二, 土岐真朗, 鈴木裕, 阪本良弘, 森秀明, 久松理一: 副乳頭切開術が再発性膵炎の予防に有効であった不完全型膵管癒合不全の1例. 第52回日

- 本膵臓学会大会．東京・オンライン．2021年9月23日．
57. 松木亮太，岡野尚弘，吉田智幸，新井孝明，榎藤興一，渡邊俊介，小暮正晴，土岐真朗，鈴木裕，古瀬純司，阪本良弘：局所進行膵癌に対する化学療法後の外科的切除は積極的に導入すべきか？第52回日本膵臓学会大会．東京・オンライン．2021年9月23日．
 58. 荻本直亮，榎藤興一，山田貴大，川本翔，小松悠香，神林孔明，野坂岳志，落合一成，渡邊俊介，松木亮太，小暮正晴，土岐真朗，鈴木裕，萬昂士，下山田博明，藤原正親，柴原純二，阪本良弘，久松理一：胆管内への膨張性発育を呈した肝外胆管神経内分分泌の1例．日本消化器病学会関東支部第366回例会．オンライン．2021年9月18日．
 59. 平塚智也，楠原光謹，宮本尚彦，羽田裕，神保陽子，大野亜希子，久松理一，新倉保，三戸部次郎：ミトコンドリア遺伝子解析で診断された日本海裂頭条虫の一例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 60. 加藤敦士，川村直弘，荻原良太，箕輪慎太郎，三井達也，三浦みき，關里和，田中利明，北濱圭一郎，下山田博明，柴原純二，森秀明，久松理一：Basedow病と同時発症した急性肝炎様自己免疫性肝炎の1例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 61. 澁田秀則，藤麻武志，齋藤大祐，荻原良太，森久保拓，尾崎良，徳永創太郎，箕輪慎太郎，三井達也，三浦みき，船田さやか，櫻庭彰人，林田真理，渡邊佳子，三好潤，松浦稔，浮山越史，久松理一：結腸－結腸型腸重積症をきたしたPeutz-Jeghers症候群の1例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 62. 服部健人，鈴木裕，松木亮太，小暮正晴，阿部展次，須並英二，阪本良弘，渡邊俊介，土岐真朗，久松理一，北濱圭一郎，千葉知宏，柴原純二：遠位胆管腫瘍の一切除例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 63. 壽美竜太郎，新井潤，友近瞬，白川貴大，早川宇宙，鍛冶諒介，生杉晃男，伊倉頭彦，高城健，山口晃弘，倉持みずき，久松理一，細田泰雄：MTHFR遺伝子変異による高ホモシステイン血症が原因となった再発性SMA血栓症，多発梗塞の1例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 64. 鍛冶諒介，倉持みずき，白川貴大，友近瞬，早川宇宙，生杉晃男，伊倉頭彦，高城健，新井潤，山口晃弘，三上修治，石田剛，久松理一，細田泰雄：視力障害，頭痛を主訴に来院した胃癌，髄膜癌腫瘍の一例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 65. 有明千鶴，細江直樹，櫻井陽奈子，奥澤杏奈，林由紀恵，リンピアス神谷研次，筋野智久，高林馨，關里和，久松理一，緒方晴彦，金井隆典：小腸粘膜にSLCO2A1蛋白の発現を認めたCEASの1例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 66. 小松悠香，浦牛原幸治，藤麻武志，菊地翁暉，大野一将，小林正佳，河西頭太郎，鈴木祥子，細川貴範，川口淳，小島茂，武田雄一，秦正二郎，上西紀夫，吉本多一郎，久松理一：神経線維腫症1型に合併した十二指腸神経内分泌腫瘍の1例．第366回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2021年9月18日．
 67. 神林孔明，渡邊俊介，久松理一，野坂岳志，後藤知之，落合一成，榎藤興一，土岐真朗，松木亮太，小暮正晴，鈴木裕，阪本良弘：高齢者総胆管結石症内視鏡治療例における退院困難因子の検討．第23回日本高齢消化器病学会総会．大阪・オンライン．2021年7月31日．
 68. 松岡克善，松浦稔，加藤順，水島恒和，熊谷秀規，村上義孝，朝倉敬子，久松理一，西脇祐司：新規診断炎症性腸疾患患者を対象とした全国規模レジストリ構築．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 69. 仲瀬裕志，松本主之，松浦稔，飯島英樹，松岡克善，大宮直木，石原俊治，平井郁仁，久松理一：JAPAN IBD-COVID 19 Taskforceの活動報告(J-COSMOSの登録内容結果を含む)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 70. 渡辺憲治，久松理一，仲瀬裕志，松浦稔，横山佳浩，高橋憲一郎，藤谷幹治，前本篤男，田中浩紀，櫻庭裕丈，橋本悠，浦岡俊夫，鈴木英雄，土屋輝一郎，松岡克善，加藤真吾，長堀正和，吉村直樹，豊永貴彦，猿田雅之，大森鉄平，佐上晋太郎，小林拓，横山薫，南條宗八，北村和哉，杉本健，大宮直木，中村正直，谷田諭史，土田研司，横山正，山本修司，守屋圭，深田憲将，長沼誠，新崎信一郎，西下正和，青山伸郎，小島健太郎，佐藤寿行，河合幹夫，上小鶴孝二，横山陽子，平岡佐規子，半田修，塩谷昭子，三島義之，石原俊治，船越慎広，平井郁仁，武富啓展，江崎幹宏，高津典孝，梅野淳嗣，野島正寛，安藤朗：日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化：多施設共同前向き研究(J-COMBAT)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 71. 松岡克善，小林拓，新崎信一郎，高津典孝，藤井俊光，三好潤，河川貴昭，山崎大，内野基，岩間達，岩田直美，野島正寛，長沼誠，久松理一：炎症性腸疾患に対する分子標的薬レジストリの構築．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 72. 松本主之，梁井俊一，久部高司，川崎啓祐，江崎幹宏，志賀永嗣，前田康晴，吉田直久，岡志郎，斎藤豊，渡辺憲治，浦岡俊夫，国崎玲子，石原聡一郎，緒方晴彦，久松理一：潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 73. 小林拓，松岡克善，藤谷幹治，竹内健，東山正明，新崎信一郎，藤井俊光，三好潤，山崎大，内野基，野島正寛，久松理一：高齢者IBD患者データベース（レジストリ）作成．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 74. 梅野淳嗣，冬野雄太，鳥巢剛弘，江崎幹宏，梁井俊一，大宮直木，久松理一，渡辺憲治，細江直樹，緒方晴彦，内田恵一，平井郁仁，久部高司，松井敏幸，八尾恒良，松本主之，CEAS study group：非特異

- 性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
75. 長沼誠，長堀正和，井上詠，桐野洋平，田中良哉，久松理一：腸管ペーチェット病における重症度基準作成(厚生労働省ペーチェット病に関する研究(岳野班との連携))．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 76. 冬野雄太，平野敦士，梅野淳嗣，江崎幹宏，角田洋一，仲瀬裕志，久松理一，櫻庭裕丈，国崎玲子，平井郁仁，猿田雅之，松本主之：腸管ペーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome Wide Association Study (GWAS)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 77. 渡辺憲治，松本主之，仲瀬裕志，久松理一，平井郁仁，小林清典，国崎玲子，長堀正和，竹内健，大藤さとし，福島若葉，梁井俊一，林田真理，稲場勇平，藤谷幹浩，櫻庭裕丈，角田洋一，勝野達郎，大森鉄平，小林拓，秋山純一，本田穰，佐藤公，佐々木誠人，谷田諭史，加賀谷尚史，馬場重樹，安藤朗，深田憲将，長沼誠，細見周平，鎌田紀子，山本修司，平田敬，石田哲也，松本吏弘，金城福則，金城徹，上野義隆，田中信治，穂苅量太，高橋素真，進士明宏，北村和哉，山下真幸，金井隆典，櫻井俊之，猿田雅之，本谷聡，邊見慎一郎，安川重義，高津典孝，宮川一平，田中良哉，日暮琢磨，中島淳，桐野洋平，水木信久，山田哲弘，松岡克善，鈴木康夫，上野文昭，日比紀文，渡辺守：特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study：国内多施設共同試験．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 78. 仲瀬裕志，我妻康平，平山大輔，櫻井晃弘，松本主之，江崎幹宏，国崎玲子，松浦稔，大宮美香，荒木寛司，高嶋祐介，渡辺憲治，本谷聡，小林拓，日比紀文，竹内健，松岡克善，上野伸展，大井秀久，柿本一城，細見周平，新崎信一郎，横山薫，吉野琢哉，松野雄一，大井充，新井勝大，都築義和，安藤朗，石川大，長末智寛，櫻井俊之，白木学，酒見亮介，松田耕一郎，南條宗八，吉川周作，中村正直，小山文一，横山純二，後藤田卓志，櫻庭裕丈，武田輝之，大宮直木，穂苅量太，吉田雄一朗，杉田昭，久松理一：家族性地中海熱関連腸炎の診断法確立・機序解明．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 79. 江崎幹宏，松本主之，鳥巢剛弘，梅野淳嗣，冬野雄太，平井郁仁，武田輝之，二見喜太郎，中村志郎，池内浩基，渡辺憲治，大宮直木，中村正直，仲瀬裕志，山本修司，藤谷幹浩，志賀永嗣，大森鉄平，飯島英樹，平岡佐規子，蔵原晃一，金城 徹，金城福則，芦塚伸也，山本章二朗，光山慶一，猿田雅之，桜庭裕丈，小山文一，細江直樹，緒方晴彦，金井隆典，小林拓，日比紀文，長堀正和，渡辺守，竹内健，杉田昭，松岡克善，鈴木康夫，久松理一：クローン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義—多施設前向きコホート研究—．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 80. 猿田雅之，櫻井俊之，大森鉄平，安藤勝祥，上野伸展，藤谷幹浩，中村正直，藤城光弘，山本修司，岡林慎二，小林拓，佐上晋太郎，武田輝之，松井敏幸，江崎幹宏，深田憲将，三原弘，南條宗八，新崎信一郎，飯島英樹，大澤恵，杉本健，古田隆久，三澤昇，中島淳，西山竜，北村和哉，我妻康平，仲瀬裕志，平岡佐規子，福田勝之，藤井久男，櫻庭裕丈，遠藤克哉，大宮直木，横山薫，安藤朗，長堀正和，金井隆典，細江直樹，緒方晴彦，山下真幸，田中浩紀，本谷聡，岡志郎，田中信治，加藤真吾，吉田篤史，渡辺憲治，中村志郎，樋口和秀，柿本一城，久松理一，三井啓吾，前本憲男，安住薫，松岡克，松本主之，山本博徳，志賀永嗣，鳥巢剛弘，加賀谷尚史，内藤裕二，長田太郎，澁谷智義，中川倫夫，菅谷武史，中路幸之助，竹島史直，尾関啓司，片岡洋望，花井洋行，辻川知之，平井郁仁，山本章二朗，高尾政輝：クローン病におけるカプセル内視鏡検査の有用性・安全性に関する多施設共同前向き研究 (SPREAD-J)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 81. 中村志郎，渡辺憲治，江崎幹宏，柿本一城，竹内健，長堀正和，馬場重樹，平井郁仁，平岡佐規子，穂苅量太，三上洋平，内野基，小金井一隆，東大二郎，新井勝大，清水泰岳，長沼誠，仲瀬裕志，久松理一：治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 82. 長沼誠，中村志郎，松岡克善，小林拓，松浦稔，猿田雅之，加藤真吾，加藤順，横山薫，石原俊治，小金井一隆，内野基，水落建輝，蛇川大樹，渡辺憲治，仲瀬裕志，久松理一：潰瘍性大腸炎治療指針改訂．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 83. 長沼誠，中村志郎，宮寄孝子，松岡克善，吉岡慎一郎，光山慶一，阿部貴行，小林拓，斎藤大祐，猿田雅之，国崎玲子，志賀永嗣，横山薫，石原俊治，南條宗八，佐々木誠人，中澤敦，中里圭，守屋圭，高橋憲一郎，藤谷幹浩，櫻庭裕丈，高木智久，林亮平，田中信治，長堀正和，南木康作，金井隆典，仲瀬裕志，我妻康平，穂苅量太，坂田資尚，江崎幹宏，大宮直木，村杉瞬，大森鉄平，竹内健，吉村直樹，渡辺憲治，田原利行，北村和哉，加藤順，安富絵里子，平岡佐規子，梁井俊一，松本主之，山本章二朗，橋本真一，都築義和，大井充，日浅陽一，細見周平，久松理一：治療指針に反映させるためのエビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療オプションの構築 (AMED長沼班との連携プロジェクト)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 84. 松浦稔，長沼誠，松岡克善，小林拓，猿田雅之，藤井俊光，加藤順，加藤真吾，平井郁仁，渡辺憲治，内野基，新崎信一郎，高木智久，新井勝大，蛇川大樹，中村志郎，久松理一：IBD腸管外合併症治療指針の改訂．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会．オンライン．2021年7月15日．
 85. 杉田昭，二見喜太郎，池内浩基，根津理一郎，高橋賢一，舟山裕士，板橋道朗，水島恒和，篠崎大，畑啓介，福島浩平，藤井久雄，小金井一隆，東大二郎，小山文一，松岡克善，平井郁仁，長堀正和，中村

- 志郎, 安藤朗, 久松理一, 橋本秀樹: 潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOLの観点から-(prospective study): 横断研究中間解析-。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
86. 石原聡一郎, 味岡洋一, 池内浩基, 板橋道朗, 内野基, 浦岡俊夫, 大北喜基, 岡林剛史, 河内洋, 小金井一隆, 斎藤豊, 下田将之, 杉田昭, 菅井有, 高橋賢一, 高丸博之, 田中信治, 仲瀬裕志, 長沼誠, 畑啓介, 東大二郎, 藤井俊光, 二見喜太郎, 松浦稔, 松田圭二, 松本主之, 水島恒和, 渡辺憲治, 渡谷祐介, 山口直比古, 吉田雅博, 杉原健一, 久松理一: 「炎症性腸疾患関連癌診療ガイドライン」の作成について。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 87. 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳, 虻川大樹, 新井勝大, 熊谷秀規, 内田恵一, 井上幹大, 工藤孝広, 石毛崇, 岩間達, 国崎玲子, 渡辺憲治, 長沼誠, 中村志郎, 久松理一: 小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 88. 清水俊明, 熊谷秀規, 岩間達, 萩原真一郎, 工藤孝広, 高橋美智子, 齋藤武, 国崎玲子, 内野基, 平岡佐規子, 長沼誠, 杉本健, 三好潤, 澁谷智義, 久松理一: トランジションのコンセンサス形成に関するプロジェクト。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 89. 小林拓, 本谷聡, 中村志郎, 山本隆行, 長堀正和, 田中信治, 久松理一, 平井郁仁, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 松本主之, 田中正則, 阿部貴行, 鈴木康夫, 渡辺守, 日比紀文, 加藤真吾, 前本篤男, 松浦稔, 酒見亮介, 佐々木誠人, 辻川知之, 江崎幹宏, 深田憲将, 北村和哉, 平岡佐規子, 穂刈量太, 石原俊治, 溝下勤, 内藤裕二, 小俣富美雄, 猿田雅之, 吉野琢哉: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究(HAYABUSA試験)結果報告。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 90. 角田洋一, 志賀永嗣, 木内喜孝, 河原真大, 安藤 朗, 高川哲也, 渡辺憲治, 遠藤克哉, 新堀哲也, 久松 理一, 正宗 淳: NUDT15遺伝子型に基づき最適化された安全かつ有効的なチオプリンによる免疫調節療法の開発(pre/post MENDEL study)。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 91. 藤谷幹浩, 安藤勝祥, 稲場勇平, 野村好紀, 上野伸展, 盛一健太郎, 前本篤男, 蘆田知史, 高後裕, 仲瀬裕志, 山田聡, 田中一之, 櫻井俊之, 猿田雅之, 八月朔日秀明, 穂刈量太, 岡昌平, 平岡佐規子, 加賀谷尚史, 田中敏宏, 福井寿朗, 鳥巢剛弘, 齋藤大祐, 久松理一, 長堀正和, 加藤真吾, 志賀永嗣, 角田洋一, 渡辺憲治, 中村志郎, 池内浩基, 林亮平, 田中信治, 虻川大樹, 佐々木誠人, 飯塚政弘, 飯島英樹, 水島恒和, 小林清典, 小林拓, 内山和彦, 長沼誠, 金井隆典, 江崎幹宏, 飯田智哉, 田中浩紀, 馬場重樹, 安藤朗, 清水 俊明, 福田勝之, 鈴木英雄, 大北喜基, 松岡克善: 炎症性腸疾患関連血栓症の予防的抗血栓療法の有効性に関する前向き試験。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 92. 松本主之, 江崎幹宏, 緒方晴彦, 久松理一: 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成にむけて。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 93. 竹中健人, 大塚和朗, 土屋輝一郎, 渡辺守, 安藤朗, 馬場重樹, 大宮直木, 小林拓, 猿田雅之, 櫻井俊之, 田中信治, 林亮平, 久松理一, 松浦稔, 平井郁仁, 松岡克善, 松本主之, 梁井俊一, 山本博徳, 矢野智則, 長沼誠, 今枝博之, 渡辺憲治: クローン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治癒検討(SEBIO study)。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 94. 三浦みき, 久松理一, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 岩間達, 仲瀬裕志: 本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
 95. 平塚智也, 藤川やすえ, 大島康太, 宮本尚彦, 羽田裕, 楠原光謹, 大野亜希子, 岡部直太, 柴原純二, 久松理一: 剖検によって診断した血管内大細胞型B細胞リンパ腫の1例。第365回日本消化器病学会関東支部例会。オンライン。2021年7月10日。
 96. 久松理一: ランチョセミナー1: IBD治療における抗TNF α 抗体製剤の位置づけを整理する。第58回日本消化器免疫学会総会。京都・オンライン。2021年7月2-3日。
 97. 久松理一: COVID-19とIBD診療 ~今わかっていることとこれからの課題~ (基調講演)。第58回日本消化器免疫学会総会。京都・オンライン。2021年7月2-3日。
 98. 小栗典明, 松浦稔, 和田晴香, 森久保拓, 尾崎良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 当院におけるCOVID-19に罹患した炎症性腸疾患患者についての検討。第58回日本消化器免疫学会総会。京都・オンライン。2021年7月2-3日。
 99. 日比則孝, 小林拓, 黒沼智, 竹内修, 久松理一, 日比紀文: 腸管マクロファージのIL-1Rを介したIL-10産生について。第58回日本消化器免疫学会総会。京都・オンライン。2021年7月2-3日。
 100. 松浦稔, 本澤有介, 山本修司, 仲瀬裕志: 潰瘍性大腸炎とサイトメガロウイルス感染。第58回日本消化器免疫学会総会。京都・オンライン。2021年7月2-3日。
 101. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 家族性地中海熱関連腸炎における小腸および大腸内視鏡所見に関する検討。第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会。オンライン。2021年6月13-14日。
 102. 羽田裕, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 楠原光謹, 神保陽子, 吉敷智和, 須並英二, 藤原正親, 柴原純二, 久松理一: ESDから移行した外科的切除により病理学的に偽浸潤が明らかになっ

た早期大腸癌の1例. 第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年6月13-14日.

103. 麻生喜祥, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大園研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 十二指腸腺腫および腺癌の臨床病理学的検討. 第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年6月13-14日.
104. 久松理一: さまざまな疾患領域の分子標的療法からヒト免疫を横断的に理解する-TNF阻害療法とJAK阻害療法はなぜ効くのか-消化器内科領域. 日本臨床免疫学会免疫疾患横断セミナーシリーズ: Human Immunology Networking Seminar. オンライン. 2021年5月29日.
105. 芝崎翔平, 岸野智則, 砂原さくら, 横山智美, 原島敬一郎, 中島哲, 川村直弘, 森秀明, 大西宏明, 渡邊卓: 健康若年女性における夕方の生理的下腿浮腫について. 日本超音波医学会第94回学術集会. 神戸・オンライン. 2021年5月21-23日.
106. 森秀明: クイズ討論会・解説. 肝腫瘍の1例. 日本超音波医学会第94回学術集会. 神戸・オンライン. 2021年5月21-23日.
107. 久松理一: JSGE Core Session 2: Advanced Diagnostic Endoscopy: 大腸腫瘍IEEの課題と将来展望(特別発言). 第101回日本消化器内視鏡学会総会. 広島・オンライン. 2021年5月14-16日.
108. 尾崎良, 齋藤大祐, 徳永創太郎: Deep remissionが得られた潰瘍性大腸炎患者における再燃予測に関する探索的研究. 第101回日本消化器内視鏡学会総会. 広島・オンライン. 2021年5月14-16日.
109. 権藤興一, 土岐真朗, 久松理一, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 落合一成, 渡邊俊介: 当院における中等症急性胆管炎に対する緊急内視鏡治療の検討. 第101回日本消化器内視鏡学会総会. 広島・オンライン. 2021年5月14-16日.
110. 久松理一: 腸管パーチェット病の自然史と類縁疾患を含めた鑑別診断. 第65回日本リウマチ学会総会. オンライン. 2021年4月27日.
111. 芳鐘一, 権藤興一, 神林孔明, 北田修一, 野坂岳志, 後藤知之, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 磯谷一暢, 岡部直太, 大森嘉彦, 藤原正親, 柴原純二, 久松理一: EUS-FNAで診断し得た膵悪性リンパ腫の1例. 第364回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2021年4月24日.
112. 關里和, 櫻井裕之, 久松理一: Chronic enteropathy associated with SLCO2A1(CEAS)におけるSLCO2A1トランスポーターの機能解析. 第107回日本消化器病学会総会. 東京・オンライン. 2021年4月15-17日.
113. 久松理一: ランチョンセミナー4: 国内エビデンスを活かしたIBD治療の最適化“クローン病”. 第107回日本消化器病学会総会. 東京・オンライン. 2021年4月15-17日.
114. 久松理一: 分子標的治療薬全盛時代を迎えたIBD治療の課題(基調講演). 第107回日本消化器病学会総会. 東京・オンライン. 2021年4月15-17日.

研究会等発表

1. 久松理一: 潰瘍性大腸炎診療の現状と治療最適化をあらためて考える. 南大阪IBD病診連携セミナー. オンライン. 2022年3月31日.
2. 権藤興一, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗: 閉塞性黄疸を伴った膵頭部領域の腫瘍性病変. 肝胆膵外科・消化器内

科合同カンファレンス. オンライン. 2022年3月24日.

3. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療について. レクチャーミーティング～潰瘍性大腸炎を考える～. オンライン. 2022年3月11日.
4. 松浦稔: 潰瘍性大腸炎の診断と治療. EAファーマMR研修会. オンライン. 2022年3月8日.
5. 三好潤: IBD腸管エコーの始め方-どう活かすか-. IBD Modality Web Seminar. オンライン. 2022年3月3日.
6. 久松理一: クローン病マネジメントのUp To Date. IBD治療フォーラムin水戸. オンライン. 2022年3月2日.
7. 久松理一: ライフステージに沿ったIBD診療を考える(総合討論・司会). IBD web forum. オンライン. 2022年2月26日.
8. 渡邊俊介: 集学的な治療を行うも究明し得なかったERCP後重症急性膵炎の1例. 第2回重症急性膵炎合併症を考える会. オンライン. 2022年2月22日.
9. 三好潤: 症例から学ぶ炎症性腸疾患における腸管エコー. ちばIBDゼミ. オンライン. 2022年2月10日.
10. 森秀明: 腹部エコーマスター講座(STEP2: アドバンスドセミナー). アスリッドセミナー. オンライン. 2022年2月9日-3月2日.
11. 大野亜希子: 第5回大腸ESDトレーニングコース(遠隔スタイル)講師. 東京. 2022年2月6日.
12. 森秀明: 胆道. 超音波スクリーニング研修講演会2021. オンライン. 2021年12月18日-2022年1月1日.
13. 三好潤: 炎症性腸疾患診療における腸管エコー. ヤンセンファーマ社内講演会. オンライン. 2021年12月16日.
14. 久松理一: Biologics時代のクローン病治療～栄養療法の意義も含めて～. 福岡消化管懇話会. オンライン. 2021年12月10日.
15. 土岐真朗: 膵癌早期発見に向けて. 西東京市消化器科医会学術講演会. オンライン. 2021年12月1日.
16. 土岐真朗: 胆管用ガイドワイヤー第1弾. COOK Medical Japan & SOLVE 社内講演会. オンライン. 2021年11月25日.
17. 三好潤: 幼少期腸内微生物叢の発達と宿主への影響. 滋賀県産婦人科・小児科合同web講演会. オンライン. 2021年11月19日.
18. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療戦略 長期試験結果からみたステララ®への期待. Stelara Ulcerative Colitis Web Seminar. オンライン. 2021年11月2日.
19. 大野亜希子: 稀な偶発症に学ぶ内視鏡関連のリスクマネジメント. 大腸内視鏡検査WEBセミナー. オンライン. 2021年10月27日.
20. 松浦稔: IBD治療における免疫調節薬. ヤンセンファーマWeb社内勉強会. オンライン. 2021年10月26日.
21. 久松理一: HUMIRA IBD Forum 2021 in Tokyo. オンライン. 2021年10月23日.
22. 土岐真朗: 膵疾患と糖尿病. Digestive Disease Web Seminar. オンライン. 2021年10月15日.
23. 松浦稔: IBD診療における基本と注意点 ～治療指針の改訂点を含めて～. 北多摩IBD医療連携講演会. オンライン. 2021年10月7日.

24. 三好潤：幼少期腸内微生物叢と炎症性腸疾患．腸内微生物叢研究の最前線シリーズ．オンライン．2021年9月30日．
 25. 久松理一：COVID-19下の潰瘍性大腸炎に対する治療戦略～ウステキスマブに期待される役割～．STG-IBDミーティング．オンライン．2021年9月24日．
 26. 久松理一：接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬Vedolizumabの安全性・有効性について．GI-Forum．オンライン．2021年9月14日．
 27. 森秀明：腹部エコーマスター講座（STEP1：ビギナー向けセミナー）．アスリッドセミナー．オンライン．2021年8月18日・9月8日配信．
 28. 久松理一：潰瘍性大腸炎のUp To Date．消化器WEBセミナー．オンライン．2021年9月10日．
 29. 土岐真朗：HILZOstent．第1回胆膵ゲシュタルト研究会．オンライン．2021年9月4日．
 30. 土岐真朗：内視鏡的結石除去術による suction methodの有用性．第1回胆膵ゲシュタルト研究会．オンライン．2021年9月4日．
 31. 久松理一：令和2年度治療指針改定のポイントとCOVID-19への対応．長野県 IBD Expert seminar．オンライン．2021年7月21日．
 32. 久松理一：最新の潰瘍性大腸炎治療におけるゼルヤンツの位置づけ～with コロナ時代を迎えて～．第2回ゼルヤンツ潰瘍大腸炎適正使用講演会in 群馬．オンライン．2021年7月20日．
 33. 大野亜希子：上部消化管出血に対する緊急内視鏡の変遷．消化器・循環器領域Web Seminar-地域を見据えた医療を考える-．オンライン．2021年7月16日．
 34. 大野亜希子：クリニカルセッション「大腸内視鏡検査のpros and cons」-RDI-．第23回首都消化器内視鏡懇談会．オンライン．2021年7月15日．
 35. 久松理一：本邦におけるIBD治療の変遷～過去・現在・未来～．ペンタサ発売25周年記念WEB講演会．オンライン．2021年6月23日．
 36. 三好潤：潰瘍性大腸炎診療における腸管エコーの実際．GIUS Seminar ～Virtual Live, IBDを腸管エコーで診るコツ～．オンライン．2021年6月21日．
 37. 松浦稔：IBDにおける免疫調節薬の役割．武田薬品工業医学教育会．オンライン．2021年6月17日．
 38. 久松理一：令和2年度治療指針改定のポイントCOVID-19への対応．ヒュミラ Internet Live Seminar．オンライン．2021年6月9日．
 39. 久松理一：クローン病におけるVedolizumabの安全性・有用性について．Takeda IBD Webセミナー．オンライン．2021年5月26日．
 40. 久松理一：IBDの最新トピックス．サザンIBDカンファレンス．オンライン．2021年5月19日．
 41. 土岐真朗，松浦稔，渡邊俊介，大野亜希子，齋藤大祐，倉井大輔，古瀬純司，久松理一，春木真由美，池田優子，菅野彩，種岡貴子：内視鏡診療の運営と感染防護対策について．院内感染対策講演会．三鷹市．2021年5月19日．
 42. 久松理一：炎症性腸疾患のトピックス～PPIと腸内細菌の関係も含めて～．武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会．オンライン．2021年5月18日．
 43. 久松理一：IBDのマネジメント～腸管外合併症を含めて～．炎症性腸疾患セミナー．オンライン．2021年4月7日．
 44. 久松理一：IBD治療におけるT2T戦略（Treat to Target strategy）．Kyorin WEBサロン．オンライン．2021年4-5月配信．
 45. 松浦稔：IBDに対する内科的治療－薬剤特性からみた適応選択－．JIMRO Web社内招聘研修会．オンライン．2021年4月1日．
- 公開講座等**
1. 久松理一：新型コロナウイルスと IBD 診療－患者さんの行動変容を含めて－．日本炎症性腸疾患学会主催市民公開講座．オンライン．2021年11月29日・2022年1月10日配信．
- 論 文**
- 英文原著 (original article, review)
1. Matsuoka K¹, Watanabe M², Ohmori T³, Nakajima K⁴, Ishida T⁵, Ishiguro Y⁶, Kanke K⁷, Kobayashi K⁸, Hirai F⁹, Watanabe K¹⁰, Mizusawa H¹¹, Kishida S¹², Miura Y¹³, Ohta A¹⁴, Kajioka T¹⁴, Hibi T¹⁵; AJM300 Study Group (Hisamatsu T.) (1Toho University Sakura Medical Center, 2Tokyo Medical and Dental University, 3Ohmori Toshihide Gastrointestinal Clinic, 4Matsushima Clinic, 5Ishida Clinic of IBD and Gastroenterology, 6National Hospital Organization Hirosaki National Hospital, 7Kanke Gastrointestinal Clinic, 8Kitasato University, 9Fukuoka University, 10Hyogo College of Medicine, 11National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, 12Narita Tomisato Tokushukai Hospital, 13Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, 14EA Pharma, 15Kitasato University Kitasato Institute Hospital): AJM300 (carotegrast methyl), an oral antagonist of $\alpha 4$ -integrin, as induction therapy for patients with moderately active ulcerative colitis: a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 study. *Lancet Gastroenterol Hepatol*. 2022. doi: 10.1016/S2468-1253(22)00022-X.Epub.
 2. Kambayashi K, Toki M, Watanabe S, Hisamatsu T: Management of common bile duct stones in a pregnant woman by percutaneous biliary drainage followed by elective endoscopic stone removal after delivery. *BMJ Case Rep*. 15(3). e248285. 2022.
 3. Hayashi Y¹, Nakase H¹, Hisamatsu T; J-COSMOS group (1Sapporo Medical University): Should we continue or discontinue inflammatory bowel disease medication in patients with COVID-19?. *Gastroenterology*. 2022. doi: 10.1053/j.gastro.2022.03.008.Epub.
 4. Hibi T¹, Motoya S², Hisamatsu T, Hirai F³, Watanabe K⁴, Matsuoka K⁵, Saruta M⁶, Kobayashi T¹, Feagan BG^{7, 8}, Tasset C⁹, Besuyen R⁹, Yun C¹⁰, Crans G¹⁰, Zhang J¹⁰, Kondo A¹¹, Watanabe M¹² (1Kitasato University Kitasato Institute Hospital, 2Hokkaido Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives, Sapporo-Kosei General Hospital, 3Fukuoka University, 4Hyogo College of Medicine, 5Toho University Sakura Medical Center, 6The Jikei University, 7Alimentiv Inc., 8Western University, 9Galapagos NV, 10Gilead Sciences, Inc., 11Gilead Sciences K.K., 12Tokyo Medical and Dental University): Efficacy and safety of

- filgotinib as induction and maintenance therapy for Japanese patients with moderately to severely active ulcerative colitis: a post-hoc analysis of the phase 2b/3 SELECTION trial. *Intest Res.* 2022. doi: 10.5217/ir.2021.00143. Online ahead of print.
5. Abreu MT¹, Rowbotham DS², Danese S³, Sandborn WJ⁴, Miao Y⁵, Zhang H⁵, Tikhonov I⁵, Panaccione R⁶, Hisamatsu T, Scherl EJ⁷, Leong RW⁸, Arasaradnam RP⁹, Afif W¹⁰, Peyrin-Biroulet L¹¹, Sands BE¹², Marano C⁵ (University of Miami Miller, ²Auckland City Hospital, ³IRCCS Ospedale San Raffaele and University, ⁴University of California San Diego, ⁵Janssen Research & Development, LLC, ⁶University of Calgary, ⁷New York Presbyterian Weill Cornell Medical College, ⁸The University of New South Wales and Macquarie University, ⁹University Hospital Coventry & Warwickshire NHS Trust, ¹⁰McGill University Health Centre, ¹¹University of Lorraine, CHRU-Nancy, ¹²Icahn School of Medicine at Mount Sinai): Efficacy and Safety of Maintenance Ustekinumab for Ulcerative Colitis Through 3 Years: UNIFI Long-term Extension. *J Crohns Colitis.* jjac030.2022.
 6. Nakase H¹, Hayashi Y¹, Hirayama D¹, Matsumoto T², Matsuura M, Iijima H³, Matsuoka K⁴, Ohmiya N⁵, Ishihara S⁶, Hirai F⁷, Abukawa D⁸, Hisamatsu T; J-COSMOS group (Sapporo Medical University, ²Iwate Medical University, ³Osaka University, ⁴Toho University Sakura Medical Center, ⁵Fujita Health University, ⁶Shimane University, ⁷Fukuoka University, ⁸Miyagi Children's Hospital): Interim analysis of a multicenter registry study of COVID-19 patients with inflammatory bowel disease in Japan (J-COSMOS). *J Gastroenterol.* 57(3).174-184. 2022.
 7. Ariake C^{1, 2}, Hosoe N¹, Sakurai H¹, Tojo A¹, Hayashi Y¹, Ji Limpas Kamiya K¹, Sujino T¹, Takabayashi K¹, Kosaki K¹, Seki S, Hisamatsu T, Ogata H¹, Kanai T¹ (Keio University, ²Kensei Hospital): A Case of Chronic Enteropathy Associated with Solute Carrier Organic Anion Transporter Family, Member 2A1 (SLCO2A1) with Positive Immunohistochemistry for SLCO2A1 Protein. *Intern Med.* 2022. doi: 10.2169/internalmedicine.8939-21. Online ahead of print.
 8. Sandborn WJ¹, D'Haens GR², Reinisch W³, Panés J⁴, Chan D⁵, Gonzalez S⁶, Weisel K⁶, Germinaro M⁶, Frustaci ME⁶, Yang Z⁶, Adedokun OJ⁶, Han C⁷, Panaccione R⁸, Hisamatsu T, Danese S⁹, Rubin DT¹⁰, Sands BE¹¹, Afzali A¹², Andrews JM¹³, Feagan BG¹⁴; GALAXI-1 Investigators (University of California-San Diego, ²Amsterdam University Medical Centers, ³Medical University of Vienna, ⁴Hospital Clinic of Barcelona, August Pi i Sunyer Biomedical Research Institute, ⁵Janssen Scientific Affairs, LLC, ⁶Janssen Research and Development, LLC, ⁷Janssen Global Services, LLC, ⁸University of Calgary, ⁹IRCCS Ospedale San Raffaele and University Vita-Salute San Raffaele, ¹⁰University of Chicago Medicine Inflammatory Bowel Disease Center, ¹¹Icahn School of Medicine at Mount Sinai, ¹²The Ohio State University, Wexner Medical Center, ¹³Royal Adelaide Hospital and University of Adelaide, ¹⁴University of Western Ontario): Guselkumab for the Treatment of Crohn's Disease: Induction Results From the Phase 2 GALAXI-1 Study. *Gastroenterology.* 2022. doi: 10.1053/j.gastro.2022.01.047. Epub.
 9. Miyoshi J, Ozaki R, Yonezawa H, Mori H, Kawamura N, Matsuura M, Hisamatsu T: Ratio of submucosal thickness to total bowel wall thickness as a new sonographic parameter to estimate endoscopic remission of ulcerative colitis. *J Gastroenterol.* 57(2).82-89. 2022.
 10. Matsuura M, Matsumoto T¹, Naito Y², Saitoh Y³, Kanai T⁴, Suzuki Y⁵, Tanaka S⁶, Ogata H⁴, Hisamatsu T (1 Iwate Medical University, 2 Kyoto Prefectural University of Medicine, 3 Asahikawa City Hospital, 4Keio University, 5 Toho University Sakura Medical Center, 6 Hiroshima University): Advanced endoscopy for the management of inflammatory digestive diseases: Review of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society core session. *Dig Endosc.* 2022. doi: 10.1111/den.14234. Epub.
 11. Suzuki K¹, Kakuta Y¹, Naito T^{1, 2}, Takagawa T³, Hanai H⁴, Araki H⁵, Sasaki Y⁶, Sakuraba H⁷, Sasaki M⁸, Hisamatsu T, Motoya S⁹, Matsumoto T¹⁰, Onodera M¹¹, Ishiguro Y¹², Nakase H¹³, Andoh A¹⁴, Hiraoka S¹⁵, Shinozaki M¹⁶, Fujii T¹⁷, Katsurada T¹⁸, Kobayashi T¹⁹, Fujiya M²⁰, Otsuka T²¹, Oshima N²², Suzuki Y²³, Sato Y²⁴, Hokari R²⁵, Noguchi M²⁶, Ohta Y²⁷, Matsuura M²⁸, Kawai Y²⁹, Tokunaga K²⁹, Nagasaki M²⁸, Kudo H¹, Minegishi N¹, Okamoto D¹, Shimoyama Y¹, Moroi R¹, Kuroha M¹, Shiga H^{1, 30}, Li D², McGovern DPB², Kinouchi Y¹, Masamune A¹; MENDEL study group (Tohoku University, ²F. Widjaja Foundation Inflammatory Bowel and Immunology Research Institute, Cedars-Sinai Medical Center, ³Hyogo College of Medicine, ⁴Hamamatsu Rosai Hospital, ⁵Gifu University, ⁶Yamagata University, ⁷Hiroaki University, ⁸Aichi Medical University, ⁹IBD Center, Sapporo-Kosei General Hospital, ¹⁰Iwate Medical University, ¹¹Iwate Prefectural Isawa Hospital, ¹²Hiroaki National Hospital, ¹³Sapporo Medical University, ¹⁴Shiga University of Medical Science, ¹⁵Okayama University, ¹⁶The University of Tokyo, ¹⁷Tokyo Medical and Dental University, ¹⁸Hokkaido University, ¹⁹Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ²⁰Asahikawa Medical University, ²¹Kobe University, ²²Shimane University, ²³Toho University Sakura Medical Center, ²⁴Osaki Citizen Hospital, ²⁵National Defense Medical College, ²⁶Noguchi Clinic, ²⁷Chiba University, ²⁸Kyoto University, ²⁹National Center for Global Health and Medicine, ³⁰Akita University): Genetic Background of Mesalamine-induced Fever and Diarrhea in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease. *Inflamm Bowel Dis.* 28(1). 21-31.2022.

12. Miyoshi J, Matsuura M, Hisamatsu T: Safety evaluation of ustekinumab for moderate-to-severe ulcerative colitis. *Expert Opin Drug Saf.* 21(1).1-8.2022.
13. Morikubo H¹, Kobayashi T¹, Fukuda T¹, Nagahama T³, Hisamatsu T, Hibi T¹ (¹Kitasato University Kitasato Institute Hospital): Development of algorithms for identifying patients with Crohn's disease in the Japanese health insurance claims database. *PLoS One.* 16(10).e0258537.2021.
14. Ando K¹, Fujiya M¹, Watanabe K², Hiraoka S³, Shiga H⁴, Tanaka S⁵, Iijima H⁶, Mizushima T⁶, Kobayashi T⁷, Nagahori M⁸, Ikeuchi H⁹, Kato S¹⁰, Torisu T¹¹, Kobayashi K¹², Higashiyama M¹³, Fukui T¹⁴, Kagaya T¹⁵, Esaki M¹⁶, Yanai S¹⁷, Abukawa D¹⁸, Naganuma M^{14, 19}, Motoya S²⁰, Saruta M²¹, Bamba S²², Sasaki M²³, Uchiyama K²⁴, Fukuda K²⁵, Suzuki H²⁶, Nakase H²⁷, Shimizu T²⁸, Iizuka M²⁹, Watanabe M⁸, Suzuki Y³⁰, Hisamatsu T (¹Asahikawa Medical University, ²Hyogo College of Medicine, ³Okayama University, ⁴Tohoku University, ⁵Hiroshima University, ⁶Osaka University, ⁷Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ⁸Tokyo Medical and Dental University, ⁹Hyogo College of Medicine, ¹⁰Saitama Medical University, ¹¹Kyushu University, ¹²Kitasato University, ¹³National Defense Medical College, ¹⁴Kansai Medical University, ¹⁵National Hospital Organization Kanazawa Medical Center, ¹⁶Saga University, ¹⁷Iwate Medical University, ¹⁸Miyagi Children's Hospital, ¹⁹Keio University, ²⁰Hokkaido Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperative, Sapporo-Kosei General Hospital, ²¹The Jikei University, ²²Shiga University of Medical Science, ²³Aichi Medical University, ²⁴Kyoto Prefectural University of Medicine, ²⁵St Luke's International Hospital, ²⁶University of Tsukuba, ²⁷Sapporo Medical University, ²⁸Juntendo University, ²⁹Akita Red Cross Hospital, ³⁰Toho University Medical Center Sakura Hospital): A nationwide survey concerning the mortality and risk of progressing severity due to arterial and venous thromboembolism in inflammatory bowel disease in Japan. *J Gastroenterol.* 56(12).1062-1079.2021.
15. Miura M, Shimizu H¹, Saito D, Miyoshi J, Matsuura M, Kudo T², Hirayama D³, Yoshida M⁴, Arai K¹, Iwama I⁴, Nakase H³, Shimizu T², Hisamatsu T (¹National Center for Child Health and Development, ²Juntendo University, ³Sapporo Medical University, ⁴Saitama Children's Medical Center): Multicenter, cross-sectional, observational study on Epstein-Barr viral infection status and thiopurine use by age group in patients with inflammatory bowel disease in Japan (EBISU study). *J Gastroenterol.* 56(12).1080-1091. 2021.
16. Nakase H¹, Honzawa Y², Matsuura M (¹Sapporo Medical University, ²Kyoto University): Ulcerative Duodenitis. *Intern Med.* 2021. 60(22). 3651-3652.2021.
17. Hisamatsu T: Management of inflammatory bowel disease during the COVID-19 pandemic. *Immunol Med.* 1-8.2021.
18. Saito D, Matsuura M, Ozaki R, Tokunaga S, Minowa S, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Hisamatsu T. Clinical response of vedolizumab at week 6 predicted endoscopic remission at week 24 in ulcerative colitis. *JGH Open.* 5(9).1056-1062. 2021.
19. Morikubo H¹, Kobayashi T¹, Ozaki R¹, Okabayashi S¹, Kuronuma S¹, Takeuchi O¹, Shiba T², Kiyohara H¹, Matsubayashi M¹, Sagami S¹, Nakano M¹, Ikezaki O, Hisamatsu T, Tanaka Y², Hibi T¹ (¹Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ²Kitasato University): Differential effects of mesalazine formulations on thiopurine metabolism through thiopurine S-methyltransferase inhibition. *J Gastroenterol Hepatol.* 36(8).2116-2124.2021.
20. Miyoshi J, Hisamatsu T: The impact of maternal exposure to antibiotics on the development of child gut microbiome. *Immunol Med.* 2021. doi: 10.1080/25785826.2021.1963189.
21. Miyoshi J, Maeda T¹, Matsuoka K², Saito D, Miyoshi S³, Matsuura M, Okamoto S³, Tamura S¹, Hisamatsu T (¹Gifu University, ²Toho University Sakura Medical Center, ³Department of General Medicine, Kyorin University): Machine learning using clinical data at baseline predicts the efficacy of vedolizumab at week 22 in patients with ulcerative colitis. *Sci Rep.* 11(1).16440. 2021.
22. Miyoshi J¹, Miyoshi S^{1, 2}, Delmont TO^{1, 3}, Cham C¹, Lee STM^{1, 4}, Sakatani A¹, Yang K¹, Shan Y¹, Kennedy M¹, Kiefl E¹, Yousef M¹, Crosson S⁵, Sogin M⁶, Antonopoulos DA⁷, Eren AM^{1, 6}, Leone V^{1, 8}, Chang EB¹ (¹The University of Chicago, ²Department of General Medicine, Kyorin University, ³Université Evry, Université Paris-Saclay, ⁴Kansas State University, ⁵Michigan State University, ⁶Marine Biological Laboratory, ⁷Argonne National Laboratory, ⁸University of Wisconsin-Madison): Early-Life Microbial Restitution Reduces Colitis Risk Promoted by Antibiotic-Induced Gut Dysbiosis in Interleukin 10^{-/-} Mice. *Gastroenterology.* 161(3).940-952.e15.2021.
23. Ochiai K¹, Fujisawa T¹, Ishii S¹, Suzuki A¹, Saito H¹, Takasaki Y¹, Ushio M¹, Takahashi S¹, Yamagata W¹, Tomishima K¹, Hisamatsu T, Isayama H¹ (¹Juntendo University): Risk Factors for Stent Migration into the Abdominal Cavity after Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy. *J Clin Med.* 10(14). 3111.2021.
24. Yoshihara T¹, Shinzaki S¹, Amano T¹, Iijima H¹, Takehara T¹, Inoue N², Uchino M³, Esaki M⁴, Kobayashi T⁵, Saruta M⁶, Sugimoto K⁷, Nakamura S⁸, Hata K⁹, Hirai F¹⁰, Hiraoka S¹¹, Fujii T¹², Matsuura M, Matsuoka K¹³, Watanabe K³, Nakase H¹⁴, Watanabe M¹² (¹Osaka University, ²Keio University, ³Hyogo College of Medicine, ⁴Saga University, ⁵Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ⁶The Jikei University, ⁷Hamamatsu University,

- ⁸Osaka Medical College, ⁹The University of Tokyo, ¹⁰Fukuoka University, ¹¹Okayama University, ¹²Tokyo Medical and Dental University, ¹³Toho University Sakura Medical Center, ¹⁴Sapporo Medical University): Concomitant use of an immunomodulator with ustekinumab as an induction therapy for Crohn's disease: A systematic review and meta-analysis. *J Gastroenterol Hepatol.* 36(7).1744-1753.2021.
25. Shinzaki S¹, Matsuoka K², Tanaka H³, Takeshima F⁴, Kato S⁵, Torisu T⁶, Ohta Y⁷, Watanabe K⁸, Nakamura S⁹, Yoshimura N¹⁰, Kobayashi T¹¹, Shiotani A¹², Hirai F¹³, Hiraoka S¹⁴, Watanabe M¹⁵, Matsuura M, Nishimoto S¹⁶, Mizuno S¹⁷, Iijima H¹, Takehara T¹, Naka T¹⁸, Kanai T¹⁷, Matsumoto T¹⁹ (¹Osaka University, ²Toho University Sakura Medical Center, ³Sapporo Kosei General Hospital, ⁴Nagasaki University, ⁵Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ⁶Kyushu University, ⁷Chiba University, ⁸Hyogo College of Medicine, ⁹Osaka Medical College, ¹⁰Tokyo Yamate Medical Center, ¹¹Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ¹²Kawasaki Medical School, ¹³Fukuoka University, ¹⁴Okayama University, ¹⁵Tokyo Medical and Dental University, ¹⁶Eisai Co. Ltd, ¹⁷Keio University, ¹⁸Kochi University, ¹⁹Iwate Medical University): Leucine-rich alpha-2 glycoprotein is a potential biomarker to monitor disease activity in inflammatory bowel disease receiving adalimumab: PLANET study. *J Gastroenterol.* 56(6).560-569. 2021.
26. Watanabe S, Toki M, Shibahara J¹, Hisamatsu T (¹Department of Pathology, Kyorin University): Utility of endoscopic transpapillary pancreatic cyst drainage for intraductal papillary mucinous neoplasm infection. *BMJ Case Rep.*14(6).e242583.2021.
27. Itabashi M¹, Ikeuchi H², Kimura H³, Fukushima K⁴, Fujii H⁵, Nezu R⁶, Futami K⁷, Sugita A⁸, Suzuki Y⁹, Hisamatsu T on behalf of the Research Group for Intractable Inflammatory Bowel Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan (RGIBD) (¹Tokyo Women's Medical University, ²Hyogo College of Medicine, ³Yokohama City University Medical Center, ⁴Tohoku University, ⁵Nara Medical University, ⁶Nishinomiya Municipal Center Hospital, ⁷Fukuoka University Chikushi Hospital, ⁸Yokohama Municipal Citizen's Hospital, ⁹Toho University Sakura Medical Center): Perioperative venous thromboembolism in ulcerative colitis: a multicenter prospective study in Japan. *Crohn's & Colitis* 360. 3.1-7.2021.
28. Miyaguchi K¹, Takabayashi K², Saito D, Tsuzuki Y¹, Hirooka N¹, Hosoe N², Ohgo H¹, Ashitani K¹, Soma H¹, Miyanaga R², Kimura K², Tokunaga S, Mitsui T, Miura M, Ozaki R, Nakamoto H¹, Kanai T², Hisamatsu T, Ogata H², Imaeda H¹ (¹Saitama Medical University, ²Keio University). Linked color imaging vs. white light imaging colonoscopy for colorectal adenoma detection: a randomized controlled trial. *J Gastroenterol Hepatol.* 36(10).2778-2784. 2021.
29. Sakuraba A, Nemoto N, Hibi N, Ozaki R, Tokunaga S, Kikuchi O, Minowa S, Mitsui T, Miura M, Saito D, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Yoneyama M¹, Ohnishi H², Hisamatsu T (¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University, ²Department of Laboratory Medicine, Kyorin University): Extent of disease affects the usefulness of fecal biomarkers in ulcerative colitis. *BMC Gastroenterol.* 21(1).197.2021.
30. Nakase H^{1, 2}, Uchino M¹, Shinzaki S¹, Matsuura M¹, Matsuoka K¹, Kobayashi T¹, Saruta M¹, Hirai F¹, Hata K¹, Hiraoka S¹, Esaki M¹, Sugimoto K¹, Fuji T¹, Watanabe K¹, Nakamura S¹, Inoue N¹, Itoh T¹, Naganuma M¹, Hisamatsu T¹, Watanabe M¹, Miwa H¹, Enomoto N¹, Shimosegawa T¹, Koike K¹ (¹The Japanese Society of Gastroenterology, ²Sapporo Medical University): Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease 2020. *J Gastroenterol.* 2021. 56(6).489-526.2021.
31. Kobayashi T¹, Motoya S², Nakamura S³, Yamamoto T⁴, Nagahori M⁵, Tanaka S⁶, Hisamatsu T, Hirai F⁷, Nakase H⁸, Watanabe K³, Matsumoto T⁹, Tanaka M¹⁰, Abe T^{11, 12}, Suzuki Y¹³, Watanabe M⁵, Hibi T¹ HAYABUSA Study Group (¹Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ²Sapporo Kosei General Hospital, ³Hyogo College of Medicine, ⁴Yokkaichi Hazu Medical Center, ⁵Tokyo Medical and Dental University, ⁶Hiroshima University, ⁷Fukuoka University Chikushi Hospital, ⁸Sapporo Medical University, ⁹Iwate Medical University, ¹⁰Hirosaki Municipal Hospital, ¹¹Yokohama City University, ¹²Keio University, ¹³Toho University Sakura Medical Center): Discontinuation of infliximab in patients with ulcerative colitis in remission (HAYABUSA): a multicentre, open-label, randomised controlled trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol.* 6(6).429-437.2021.
32. Morikubo H¹, Kobayashi T¹, Ozaki R¹, Okabayashi S¹, Kuronuma S¹, Takeuchi O¹, Shiba T², Kiyohara H¹, Matsubayashi M¹, Sagami S¹, Nakano M¹, Ikezaki O, Hisamatsu T, Tanaka Y², Hibi T¹ (¹Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ²Kitasato University): Differential effects of mesalazine formulations on thiopurine metabolism through thiopurine S-methyltransferase inhibition. *J Gastroenterol Hepatol.* 36(8).2116-2124. 2021.
33. Uchino M¹, Ikeuchi H¹, Hata K², Minagawa T¹, Horio Y¹, Kuwahara R¹, Nakamura S³, Watanabe K¹, Saruta M⁴, Fujii T⁵, Kobayashi T⁶, Sugimoto K⁷, Hirai F⁸, Esaki M⁹, Hiraoka S¹⁰, Matsuoka K¹¹, Shinzaki S¹², Matsuura M, Inoue N¹³, Nakase H¹⁴, Watanabe M⁵ (¹Hyogo College of Medicine, ²The University of Tokyo, ³Osaka Medical College, ⁴Jikei University, ⁵Tokyo Medical and Dental University, ⁶Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ⁷Hamamatsu University, ⁸Fukuoka University, ⁹Saga University, ¹⁰Okayama University, ¹¹Toho University Sakura Medical Center, ¹²Osaka University, ¹³Keio University, ¹⁴Sapporo Medical University): Does anti-tumor necrosis factor alpha prevent the recurrence of Crohn's

disease? Systematic review and meta-analysis. J Gastroenterol Hepatol. 36(4).864-872.2021.

邦文原著（学会誌等）

1. 神林孔明, 土岐真朗, 荻本直亮, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 高齢者総胆管結石症内視鏡治療例における退院困難因子の検討. 日本高齢消化器病学会雑誌. 24. 219-225. 2022.
2. 尾崎良, 齋藤大祐, 大津晃康, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 嶋崎鉄兵, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 倉井大輔, 久松理一: 保存的治療で救命し得た高齢者の劇症型アメーバ性大腸炎の1例. 杏林医学会雑誌. 52(4). 177-182. 2021.

邦文総説（学会誌等）

1. 久松理一, 砂田圭二郎: 小腸疾患の診断・治療の実際 家族性地中海熱関連腸炎における小腸および大腸内視鏡所見に関する検討. Progress of Digestive Endoscopy. 99(1). 8-9. 2021.
2. 河合隆, 久松理一: 日常診療に役立つ非拡大画像強調観察の進歩～検診をみすえて～. Progress of Digestive Endoscopy. 98(1). 2-3. 2021.
3. 松浦稔, 齋藤大祐, 久松理一: IBDの診断および治療における内視鏡の役割. 日本消化器病学会雑誌. 118(7). 607-617. 2021.
4. 平井郁仁, 仲瀬裕志, 久松理一, 中村志郎, 渡辺憲治: 炎症性腸疾患診療の現状と課題-IBD診療ガイドラインの考察を含めて-(座談会). 日本消化器病学会雑誌. 118(7). 634-644. 2021.
5. 大野亜希子, 宮本尚彦, 久松理一: 胃・十二指腸潰瘍出血の時代的変遷(総説). Gastroenterological Endoscopy. 63(10). 2173-2182. 2021.
6. 森秀明: 健診(検診)における腹部超音波検査(肝胆膵領域)で誤診を防ぐために必要なこと. 日本消化器がん検診学会雑誌. 59(4). 378-393. 2021.
7. 久松理一: 特集「炎症性腸疾患診療の最前線」企画のねらい. 杏林医学会雑誌. 52(4). 183. 2021.
8. 三好潤: 杏林大学医学部付属病院炎症性腸疾患包括医療センターの設立の目的と活動内容. 杏林医学会雑誌. 52(4). 185-189. 2021.
9. 松浦稔: 炎症性腸疾患診療における内視鏡の役割. 杏林医学会雑誌. 52(4). 191-197. 2021.
10. 齋藤大祐: 分子標的治療薬登場による炎症性腸疾患治療の革命. 杏林医学会雑誌. 52(4). 199-205. 2021.
11. 須並英二, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 若松喬, 飯岡愛子, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 久松理一: 炎症性腸疾患外科治療の進歩-潰瘍性大腸炎手術を中心に. 杏林医学会雑誌. 52(4). 207-211. 2021.
12. 久松理一: COVID-19感染拡大状況における炎症性腸疾患診療. 杏林医学会雑誌. 52(4). 213-217. 2021.

邦文商業誌

1. 三好潤, 久松理一: 炎症性腸疾患における接着分子を標的とした分子標的治療薬. 日本臨牀. 80(3). 455-460. 2022.
2. 松浦稔: 炎症性腸疾患の治療 合併症の診断とマネージメント IBDにおける皮膚病変. 日本臨牀. 80(3). 510-514. 2022.
3. 福本祐子, 土居洋介, 山本隆行, 下山貴寛, 久松理一, 櫻庭彰人, 松岡克善, 藤井俊光, 本林麻衣子, 竹中健人, 大塚和朗, 渡辺守, 小林拓, 日比紀文:

潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカー測定 of 臨牀的有用性. 医学と薬学. 79(4). 575-584. 2022.

4. 久松理一: 特集・COVID-19リスク下でのIBD診療. IBD Research. 15(1). 序文. 2021.
5. 久松理一: 腸管ペーチェット病に診断と治療. 消化器内科. 3(9). 36-42. 2021.
6. 久松理一: ペーチェット病-基礎と臨床の最新知見. 79(6). 878-883. 2021.
7. 久松理一: 特集・初心者でもわかるゲノム編集技術 Overview. 消化器病学サイエンス. 5(2). 14. 2021.
8. 三好潤, 松浦稔, 齋藤大祐, 久松理一: 家族性地中海熱類縁疾患: MEFV遺伝子関連腸炎. 消化器・肝臓内科. 9(6). 580-584. 2021.
9. 三好潤, 松浦稔, 齋藤大祐, 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断基準と鑑別診断. 消化器内科. 3(4). 12-20. 2021.
10. 大野亜希子, 楠原光謹, 久松理一: 非静脈瘤性出血. 消化器内視鏡. 33(4). 696-701. 2021.
11. 土岐真朗, 渡邊俊介, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 落合一成, 榎藤興一, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次, 久松理一: 急性胆管炎, 胆石性膵炎 消化器内視鏡. 33(4). 769-774. 2021.
12. 久松理一: 炎症性腸疾患の診かた. 月刊臨牀と研究別冊. 98(5). 1-4. 2021.
13. 三好潤: ワールドコンGRESレポート第16回欧州クローン病・大腸炎会議. IBD Research. 15(3). 38-40. 2021.
14. 松浦稔: 最新のガイドラインからみたIBD領域における合併症対策 感染症を含めて. IBD Research. 15(3). 161-166. 2021.
15. 落合一成, 土岐真朗, 神林孔明, 野坂岳志, 榎藤興一, 渡邊俊介, 森秀明, 石井重登, 藤澤聡郎, 伊佐山浩通, 高橋敦, 齋浦明夫, 久松理一: 捻転による急性胆嚢炎-臨床的特徴-. 消化器・肝臓内科. 10(2). 153-157. 2021.
16. 古瀬純司, 土岐真朗, 立石秀勝, 柴原純二, 阪本良弘: 杏林大学病院での胆膵疾患に対する診療科横断的チーム医療. 胆と膵. 42(5). 427-431. 2021.
17. 森秀明: 腹部領域におけるSMIの有用性. 映像情報メディカル. 53(6). 44-49. 2021.

著書

1. 久松理一(分担執筆): 11-5-3非特異性下部消化管潰瘍. 内科学Ⅲ第12版. 矢崎義雄, 小室一成 総編集. 朝倉書店. 2022. p92.
2. 久松理一(監修): ウルトラ図解 潰瘍性大腸炎・クローン病. 法研. 2021.
3. 久松理一(分担執筆): 潰瘍性大腸炎ulcerative colitis. 専門医のための消化器病学第3版. 下瀬川徹, 渡辺守 監修. 木下芳一, 金子周一, 樫田博史, 村上和成, 安藤朗, 糸井隆夫 編集. 医学書院. 2021.p189.
4. 久松理一(分担執筆): IV-10 潰瘍性大腸炎. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹 監修. 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2022-2023. メディカルレビュー社. 2021. P284-292.
5. 久松理一(分担執筆): I 総論 クローン病および潰瘍性大腸炎. 生物学的製剤適正使用ガイド. 藤尾圭志 編集. 合同会社クリニコ出版. 2021. 42-52.

報告書

1. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性炎症性腸管障害に関する調

査研究（令和3年度）総括/分担研究報告書：総括研究報告。

2. 久松理一：AMED難治性疾患実用化研究事業 ペーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリの構築（令和3年度） 分担研究報告書。

その他

受賞

1. 三好潤：2021年度 Award for Outstanding Reviewers（Internal Medicine誌）。
2. 三好潤：2021年度日本消化器関連学会週間（JDDW）若手奨励賞
3. 三好潤：第10回杏林医学会研究奨励賞。
4. 林田真理：2021年度杏林大学医学部研究奨励賞。

学会主催

1. 久松理一：日本消化器病学会関東支部第366回例会学会主催。2021年9月18日。
厚生労働省班会議主催
1. 久松理一：厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第1回総会。オンライン。2021年7月15日。
2. 久松理一：厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和3年度第2回総会。オンライン。2022年1月27日。

糖尿病・内分泌・代謝内科学教室

講演

1. 近藤琢磨：肝疾患を意識した2型糖尿病治療の実践。糖尿病と脂肪肝について考える会。オンライン。2021年4月9日。
2. 近藤健，近藤琢磨，北原敦子，澤井梓，石本麻衣，炭谷由計，高橋和人，田中利明，三好秀明，安田和基：膵β細胞におけるNrf2のインスリン転写への影響に関する検討。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
3. 竹脇史絵，中島華子，竹脇大貴，橋本善隆，田中良紀，中島淳二，大野裕史，安田和基，福井道明：2型糖尿病患者におけるアカルボース投与前後の腸内細菌叢の変化。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
4. 七条裕孝，近藤琢磨，高木祐司，樂得隆之，勝又明彦，佐々木有紀，箕輪久美，炭谷由計，田中利明，安田和基：1型糖尿病合併妊娠におけるインスリン投与量の検討。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
5. 北原敦子，高橋和人，近藤健，近藤琢磨，安田和基：MIN6細胞からのMCP-1とVEGF120分泌に対するアシル化グレリンの影響の検討。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
6. 宇田川陽秀，舟橋伸昭，中野堅太，柳田圭介，岡村匡史，添田光太郎，南茂隆生，平本正樹，西村渉，進藤英雄，今泉美佳，植木浩二郎，安田和基：内臓脂肪組織の脂肪細胞と中皮細胞における転写因子Gata5の機能解析。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
7. 南茂隆生，福井健司，小澤純二，下村伊一郎，安田和基：自然発症2型糖尿病モデルマウスの環境因子による膵島エビゲノム変化とゲノム多型に関する網羅的検討。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
8. 南塚拓也，前澤善朗，宇田川陽秀，馬場雄介，遠藤裕介，安田和基，横手幸太郎：内臓脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化を抑制し炎症保護的に機能する。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
9. 川崎英二，島田朗，今川彰久，阿比留教生，栗田卓也，及川洋一，大澤春彦，梶尾裕，川畑由美子，小澤純二，小林哲郎，高橋和真，中條大輔，福井智康，三浦順之助，安田和基，安田尚史，花房俊昭，池上博司：1型糖尿病におけるIA-2抗体RIA法とELISA法の比較検討 1型糖尿病の成因・病態に関する調査研究委員会報告。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
10. 梶尾裕，中條大輔，今川彰久，安田和基，霜田雅之，小谷紀子，阿比留教生，栗田卓也，池上博司，及川洋一，大澤春彦，香月健志，川崎英二，小澤純二，島田朗，高橋和真，土屋恭一郎，長澤幹，福井智康，安田尚史，春日雅人，小林哲郎，花房俊昭：日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開（TIDE-J）（第9報）。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
11. 梶尾裕，中條大輔，今川彰久，安田和基，霜田雅之，小谷紀子，阿比留教生，栗田卓也，池上博司，及川洋一，大澤春彦，香月健志，川崎英二，小澤純二，島田朗，高橋和真，土屋恭一郎，長澤幹，福井智康，安田尚史，春日雅人，小林哲郎，花房俊昭：1型糖尿病の病態研究フロンティア 日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開（TIDE-J）。第64回日本糖尿病学会年次学術集会。オンライン。2021年5月20-22日。
12. 安田和基：糖尿病遺伝因子から見た膵β細胞。Islet Biology研究会21。オンライン。2021年6月12日。
13. 近藤琢磨：新しいGLP-1受容体作動薬を活かした糖尿病治療。GLP-1 Web講演会，オンライン。2021年6月22日。
14. 安田和基：インスリン発見100周年にみる、糖尿病診療の現在と未来。武蔵野市医師会学術講演会。オンライン。2021年6月23日。
15. 安田和基：糖尿病とミトコンドリアについて。大日本住友社内研修会。オンライン。2021年6月29日。
16. 近藤琢磨：2030年、糖尿病治療はどうなっているか～DPP-4阻害薬の立ち位置を含めて～。Diabetes Expert Workshop。オンライン。2021年6月30日。
17. 安田和基：糖尿病の遺伝的背景—何がわかってきたのか—。第23回愛媛糖尿病懇話会。オンライン。2021年7月2日。
18. 近藤琢磨：在宅支援を含めた高齢者の糖尿病治療。第9回老年疾患セミナー。オンライン。2021年7月8日。
19. 安田和基：糖尿病治療における最近の進歩と展望。東大和市医師会学術講演会。オンライン。2021年7月9日。
20. 近藤琢磨：新しいGLP-1受容体作動薬を用いた糖尿病治療の実践。Diabetes UpDate Meeting～多摩地区病院連携の会～。オンライン。2021年8月26日。
21. 安田和基：AGPレポートを活用した診療における療養指導について。第1回FreeStyleリブレ療養指導士次世代育成プログラム。オンライン。2021

- 年8月26日。
22. 近藤琢磨：妊娠・周術期症例からみたCSII/SAP療法の有用性。多摩・糖尿病最新デバイス講演会。オンライン。2021年9月2日。
 23. 近藤琢磨：「持効型溶解インスリンアナログ／ヒトGLP-1アナログ配合注」を活用した2型糖尿病治療。Microsoft Teams Web講演会。オンライン。2021年9月3日。
 24. 穴水理加，仁科善雄，高木祐司，北濱圭一郎，炭谷由計，田中利明，下山田博明，近藤琢磨，柴原純二，安田和基：自己免疫性肝炎を合併したバセドウ病の1例。日本内科学会第671回関東地方会。オンライン。2021年9月12日。
 25. 安田和基：2型糖尿病の遺伝因子研究から見えてきたもの。TIHW DM Meeting。オンライン。2021年9月15日。
 26. 加藤敦士，川村直弘，荻原良太，箕輪慎太郎，三井達也，三浦みき，關里和，田中利明，北濱圭一郎，下山田博明，柴原純二，森秀明，久松理一：Basedow病と同時発症した急性肝炎様自己免疫性肝炎の1例。日本消化器病学会関東支部第366回例会。オンライン。2021年9月18日。
 27. 近藤琢磨：2型糖尿病 update。DiaMond Web Seminar in 北多摩北部。オンライン。2021年9月27日。
 28. 近藤琢磨先生：2型糖尿病治療薬「持効型溶解インスリンアナログ／ヒトGLP-1アナログ配合注」の効果的な活用法。糖尿病治療薬Up Date Meeting。オンライン。2021年10月25日。
 29. 安田和基先生：AGPレポートを活用した診療における療養指導について。第2回FreeStyleリブレ療養指導士 次世代育成プログラム。オンライン。2021年10月26日。
 30. 三ツ間智也，中里陽子，石本麻衣，田中利明，平野浩一：当院で経験した甲状腺悪性リンパ腫11症例の検討。第54回日本内分泌外科学会学術大会。オンライン。2021年10月28-29日。
 31. 近藤琢磨：糖尿病治療が抱えるリアルな問題とその対策。町田市医師会講演会。オンライン。2021年10月29日。
 32. 安田和基：「糖尿病とミトコンドリアの関係～最近の話題～」三鷹市医師会学術講演会。オンライン。2021年11月10日。
 33. 安田和基：糖尿病治療におけるミトコンドリアの役割～最新の治療薬に対する期待～。ツイミグ発売記念講演会。オンライン。2021年11月22日。
 34. 島矢沙規子，七条裕孝，高木裕司，勝又明彦，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，安田和基：乳癌の両側副腎転移でAddison病を呈した1例。第31回臨床内分泌代謝Update。大阪・オンライン。2021年11月26-27日。
 35. 高木祐司，竹脇史絵，樂得隆之，澤井梓，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，安田和基：周期性四肢麻痺から診断し得た1型糖尿病の1例。第31回臨床内分泌代謝Update。大阪・オンライン。2021年11月26-27日。
 36. 近藤琢磨：外来インスリン治療の“これから”を考える。スペシャリストのためのインスリンオンラインセミナー。オンライン。2021年12月1日。
 37. 近藤琢磨：病診連携の実際～課題とその解決に向けて～。第2回あんず糖尿病 病診連携講演会。オンライン。2021年12月3日。
 38. 近藤琢磨：CGMを上手に活用した糖尿病治療を目指して。今だから考えよう！血糖トレンドと療養指導（Web研修）。オンライン。2021年12月7日。
 39. 安田和基先生：AGPレポートを活用した診療における療養指導について。第3回FreeStyleリブレ 療養指導士 次世代育成プログラム。オンライン。2021年12月14日。
 40. 近藤琢磨：J-BRAND試験からみえてきた糖尿病治療戦略。北多摩南部糖尿病WEBセミナー。オンライン。2021年12月16日。
 41. 藤井隆史郎，七条裕孝，織田麻衣，近藤健，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，谷垣伸治，高山信之，安田和基：妊娠糖尿病と縦隔原発大細胞性 B 細胞性リンパ腫を合併した一例。第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会。オンライン。2022年1月22日。
 42. 小和田敬子，鶴久大介，久場起志，山崎幸，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，舩田一樹，安田和基：長期間高用量ステロイド投与され血糖管理不良な糖尿病に合併した後腹膜膿瘍の一例。第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会。オンライン。2022年1月22日。
 43. 和田祥佳，鶴久大介，久場起志，山崎幸，仁科善雄，近藤健，石本麻衣，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，安田和基：89歳で発症した劇症1型糖尿病の一例。第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会。オンライン。2022年1月22日。
 44. 北原敦子，高橋和人，近藤健，近藤琢磨，安田和基：膵β細胞株MIN6細胞におけるオートファジー不全化でのアスタキサンチンの抗炎症作用の検討。第24・25回日本病態栄養学会年次学術集会。京都・オンライン。2022年1月28-30日。
 45. 織田麻衣，炭谷由計，恩田智子，七条裕孝，田中利明，近藤琢磨，百村麻衣，増田正次，安田和基：先天性難聴を伴ったKallmann症候群の一例。第83回多摩内分泌代謝研究会。立川・オンライン。2022年2月2日。
 46. 近藤琢磨：2型糖尿病治療～最近の話題～。DUAL Seminar in Tokyo 2022。オンライン。2022年2月4日。
 47. 近藤琢磨：妊娠時の糖代謝異常とその対策。セミナーシステム連絡会。オンライン。2022年2月14日。
 48. 田中利明，板垣英二，佐々木有紀，鶴久大介，七条裕孝，澤井梓，炭谷由計，近藤琢磨，西岡宏，安田和基：薬物治療5年経過ののち、増悪と出血により手術に至った嚢胞性プロラクチノーマの1例。第32回一般社団法人日本間脳下垂体腫瘍学会。東京。2022年2月18日。
 49. 安田和基：糖尿病のPrecision medicineを目指して～オーバービュー～。第56回糖尿病学の進歩。オンライン。2021年2月25-26日。
 50. 東海俊史，江角仁志，若山真理子，池田和穂，三橋順子，村嶋俊隆，田中利明，安田和基：イレウスで絶食中に糖尿病ケトアシドーシス（DKA）を発症した1型糖尿病の1例。日本内科学会第676回関東地方会。東京・オンライン。2022年3月19日。
 51. 近藤琢磨：医師の立場から（オーバービュー）。高齢者糖尿病対策の最前線～With コロナの時代～。北多摩南部医療圏糖尿病医療連携事業・医療従事者向け講演会。オンライン。2022年3月19日。
 52. 南塚拓也，前澤善朗，宇田川陽秀，馬場雄介，遠藤裕介，安田和基，横手幸太郎：血管壁の脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化と炎症を

抑制する．第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会．横浜・オンライン．2022年3月26-27日．

53. 近藤琢磨：2型糖尿病治療における1日1回注射の上手な活用法．GLP-1/Insulin配合剤 Web講演会．オンライン．2022年3月28日．
54. 安田和基先生：AGPレポートを活用した診療における療養指導について．第4回FreeStyleリブレ療養指導士次世代育成プログラム．オンライン．2022年3月29日．

論 文

1. Chujo D^{1, 2}, Imagawa A³, Yasuda K, Abiru N⁴, Awata T⁵, Fukui T⁶, Ikegami H⁷, Kawasaki E⁸, Katsuki T⁹, Kobayashi T¹⁰, Kozawa J¹¹, Nagasawa K¹², Ohtsu H¹, Oikawa Y¹³, Osawa H¹⁴, Shimada A¹⁵, Shimoda M¹, Takahashi K¹⁵, Tsuchiya K¹⁶, Tsujimoto T¹⁷, Yasuda H¹⁸, Hanafusa T^{3, 19}, Kajio H¹ (1National Center for Global Health and Medicine, 2Toyama University Hospital, 3Osaka Medical and Pharmaceutical University, 4Nagasaki University Hospital, 5Saitama Prefectural University, 6Showa University School of Medicine, 7Kindai University, 8Shin-Koga Hospital, 9Tokyo Saiseikai Central Hospital, 10Okinaka Memorial Institute for Medical Research, 11Osaka University, 12Iwate Medical University, 13Saitama Medical University, 14Ehime University Graduate School of Medicine, 15Iwate Prefectural University, 16University of Yamanashi Hospital, 17Toranomon Hospital Kajigaya, 18Kobe University Graduate School of Health Sciences, 19Sakai City Medical Center): Japanese Type 1 Diabetes Database Study (TIDE-J): Rationale and Study Design. *Diabetol Int.* 13(1). 288-294. 2022.
2. Seki H¹, Kuratani N², Shiga T³, Iwasaki Y⁴, Karita K⁵, Yasuda K, Yoroze T⁶ (1Anesthesiology, Kyorin University, 2Saitama Children's Medical Center, 3International University of Health and Welfare Ichikawa Hospital, 4Tohoku University, 5Hygiene and Public Health, Kyorin University, 6Anesthesiology, Kyorin University): Multicentre prospective observational study of sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated postoperative ketoacidosis: the SAPKA study protocol. *BMJ Open.* 11(11). e049593. 2021.
3. Kariyasu T¹, Machida H¹, Nishina Y, Tambo M², Miyagawa S², Rakue T², Sumitani Y, Yasuda K, Shibahara J³, Yokoyama K¹ (1Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kyorin University, 2Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyorin University, 3Department of Pathology, Faculty of Medicine, Kyorin University): Emergent transcatheter arterial embolization to control critical blood pressure fluctuation associated with hypercatecholaminemic crisis in a patient with an unruptured retroperitoneal paraganglioma. *Radiology Case Reports.* 16(8). 2065-2071. 2021.
4. 安田和基：【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】代謝・内分泌 診断メモ 特定の機序・遺伝子異常による糖尿病．内科 増大号．127(4)．1010. 2021.

腫瘍内科学教室

講 演

1. 古瀬純司：肝内胆管癌に対する個別化治療のアプローチ．インサイト・バイオサイエンス・ジャパン主催．オンライン．2021年4月8日．
2. 古瀬純司：多様化・高齢化を迎えた肝細胞癌の薬物治療戦略．オンライン．日本イーライリリー主催．2021年5月10日．
3. 古瀬純司：実臨床でのエドルミズ適正使用を考える．一瞬がん治療医の立場から．小野薬品主催．オンライン．2021年5月17日．
4. 古瀬純司：がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー．アナモレリン適正使用セミナー in Osaka. オンライン．2021年5月27日．
5. 古瀬純司：肝胆膵領域におけるがんゲノム医療の現状と展望．第33回日本肝胆膵外科学会学術集会．大阪・オンライン．2021年6月2日．
6. 古瀬純司：がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー．Cancer Supportive Care Web Seminar. オンライン．2021年6月3日．
7. Valle JW, Hollebecque A, Furuse J, Goyal L, Meric-Bernstam F, Epstein RS, Salimi T, Wacheck V, Liu M, Benhadji KA, Bridgewater JA : FOENIX-CCA2 quality of life data for futibatinib-treated intrahepatic cholangiocarcinoma (iCCA) patients with FGFR2 fusions/rearrangements. 2021 ASCO Annual Meeting. USA・Online. June4th-10th. 2021.
8. Kobayashi S, Suzuki M, Ueno M, Maruki Y, Furuse J, Todaka A, Ozaka M, Tsuji K, Shioji K, Doi K, Kojima Y, Tsumura H, Tanaka K, Higuchi H, Kawabe K, Yamanaka T, Ishii H: Gemcitabine plus nab-paclitaxel versus gemcitabine alone in elderly patients aged 76 years or older with unresectable pancreatic cancer: A propensity score-matched multicenter prospective observational study. 2021 ASCO Annual Meeting. 2021 ASCO Annual Meeting. USA・Online. June4th-10th. 2021.
9. Ozaka M, Ueno M, Ishii H, Mizusawa J, Katayama H, Kataoka T, Okusaka T, Ikeda M, Miwa H, Kaneko S, Maesono T, Mizuno N, Yamamoto T, Kawamoto Y, Todaka A, Kamata K, Hisano T, Fujimori N, Furuse J : Randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer (JCOG1407). 2021 ASCO Annual Meeting. 2021 ASCO Annual Meeting. USA・Online. June4th-10th. 2021.
10. 古瀬純司：がん悪液質とアナモレリン（エドルミズ錠®）のエビデンス．医療研究会．オンライン．2021年6月18日．
11. 古瀬純司：がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー．第1回がん悪液質セミナーin多摩．オンライン．2021年6月24日．
12. 古瀬純司：がん悪液質の新たな展開ーアナモレリ

- ンのエビデンスからプラクティスへー. エドルミズ適正使用セミナー. オンライン. 2021年6月28日.
13. 古瀬純司: がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー. Cachexia Web Live Seminar. オンライン. 2021年6月30日.
 14. 古瀬純司: がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー. がん悪液質治療セミナーin北海道. オンライン. 2021年7月5日.
 15. Furuse J: Sponsored Seminar. Optimising the treatment of metastatic pancreatic cancer patients: From scientific evidence to clinical practice. 6th Annual Scientific Meeting of Singapore Society of Oncology. Online. July 10th. 2021.
 16. 岡野尚弘: 大腸癌の治療の変遷～レジメンから知ろう! 初級編～. Southern Kitatama Cancer Care Management Seminar. オンライン. 2021年7月15日.
 17. 古瀬純司: 膵癌治療の最前線-がんゲノム医療の動向. 第21回臨床腫瘍夏期セミナー. オンライン. 2021年7月16日.
 18. 古瀬純司: がん悪液質の新たな展開ーアナモレリンのエビデンスからプラクティスへー. エドルミズ適正使用セミナー. オンライン. 2021年7月29日.
 19. 古瀬純司: がん悪液質の新たな展開ーアナモレリンのエビデンスからプラクティスへー. エドルミズ適正使用セミナー. オンライン. 2021年8月6日.
 20. 古瀬純司, 上野誠, 木村綾, 福田治彦: 臨床試験と患者市民参画. 2021 Japan Cancer Forum. Cancer Net Japan. オンライン. 2021年8月21日.
 21. 古瀬純司: 多様化する肝細胞癌の薬物治療～最適な治療選択を目指して～. Lilly HCC Web Conference. オンライン. 2021年9月1日.
 22. 古瀬純司: がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー. エドルミズ錠適正使用セミナーin東北エリア. オンライン. 2021年9月3日.
 23. 古瀬純司: がん治療の全体像. 第3回JCOG患者・市民セミナー. オンライン. 2021年9月4日.
 24. 古瀬純司: 肝胆膵がんに対する薬物療法ー最新の話と今後の展望. 中外製薬主催. オンライン. 2021年9月4日.
 25. 古瀬純司: 肝胆膵領域におけるがんゲノム医療の現状と展望. 遺伝子パネル検査WEBセミナー～肝胆膵～. オンライン. 2021年9月8日.
 26. 古瀬純司: 肝細胞がんの薬物療法ー新たな治療戦略の時代にー. 東大和市医師会学術講演会. オンライン. 2021年9月10日.
 27. 古瀬純司: がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー. がん悪液質 Discussion Meeting in NAGANO. オンライン. 2021年9月13日.
 28. 古瀬純司: がん悪液質の新たな展開ーアナモレリンのエビデンスからプラクティスへー. がん悪液質治療セミナー. オンライン. 2021年9月16日.
 29. 矢那瀬拓哉, 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 麻生喜洋, 若松喬, 金翔哲, 石井俊, 磯部聡史, 岡野尚弘, 古瀬純司, 川村直弘, 森秀明, 久松理一, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 結腸人工肛門に発症した出血性人工肛門静脈瘤に対して経皮的静脈瘤硬化療法が奏功した1例. 日本消化器病学会関東支部例. オンライン. 2021年9月18日.
 30. 丸木雄太, 高見澤重賢, 森実千種, 池田公史, 上野誠, 古瀬純司, 奥坂拓志: 膵悪性腫瘍におけるLynch症候群例の臨床的特徴. シンポジウム4・膵癌のゲノム医療の現状と展望. 第52回日本膵臓学会大会. 東京・オンライン. 2021年9月23日.
 31. 松木亮太, 岡野尚弘, 吉田智幸, 新井孝明, 権藤興一, 渡邊俊介, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 古瀬純司, 阪本良弘: 局所進行膵癌に対する化学療法後の外科的切除は積極的に導入すべきか? 膵癌治療のパタダイムシフトに向けた展望. 第52回日本膵臓学会大会. 東京・オンライン. 2021年9月23日.
 32. 古瀬純司: がん悪液質を取り巻くエビデンスーがん患者のベストサポートを目指してー. エドルミズ膵癌WEB講演会. オンライン. 2021年9月30日.
 33. 古瀬純司: 肝細胞がんの薬物療法ーAtezo+Bevの特徴とガイドラインでの位置づけー. 第62回三多摩肝臓談話会. オンライン. 2021年10月1日.
 34. 古瀬純司: がん悪液質の新たな展開ーアナモレリンのエビデンスからプラクティスへー. オンライン. 2021年10月8日.
 35. 古瀬純司: 胆道癌に対する化学療法の最前線. 胆道癌化学療法の歴史と現状. 第57回日本胆道学会学術集会. 東京・オンライン. 2021年10月8日.
 36. 古瀬純司: がん悪液質に対するアナモレリン治療の意義について. エドルミズ錠 適正使用セミナー～がん悪液質治療のベストプラクティス～. オンライン. 2021年10月11日.
 37. 古瀬純司: 肝癌に対する薬物療法ー肝細胞癌と肝内胆管癌の動向. 第41回千葉癌化学療法研究会. オンライン. 2021年10月15日.
 38. 仲雅弘, 喜多村憲章, 眞島喜幸, 白川玲子, 渡辺安李, 福井澄恵, 古瀬純司: 膵臓がん患者を対象とした患者報告アウトカムに関する観察研究: 治療、副作用・症状に関する患者評価と認知度. 第59回日本癌治療学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年10月21日-23日.
 39. Uchino J, Naito T, Kojima T, Matano Y, Minato K, Yoshimasa S, Mizukami T, Atagi S, Higashiguchi T, Muro K, Takayama K, Furuse J, Morishima E, Takiguchi T, Tamura K: Efficacy and safety of anamorelin in low body mass index, cachectic patients with advanced non-small-cell lung cancer and gastrointestinal cancer. 第59回日本癌治療学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年10月23日.
 40. Okano N, Kawai M, Ueno M, Yamanaka T, Yamaue H, Furuse J: Cohort study of patients with initially unresectable pancreatic cancer in whom conversion surgery is planned after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel therapy (PC-CURE-1). 9th International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology (FACO 2021). 横浜・オンライン. 2021年10月23日.
 41. 古瀬純司: 肝細胞がんの薬物療法ー新たな治療戦略の時代にー. 鹿児島肝癌フォーラム. オンライン. 2021年10月28日.
 42. 古瀬純司: 膵がん薬物療法の解説～再発と転移、どう治療する?. パンキャンジャパン クリスマス勉強会. オンライン. 2021年12月25日.
 43. Abou-Alfa GK, Chan SL, Kudo M, Lau G, Kelley

- RK, Furuse J, Sukeepaisarnjaroen W, Kang YK, Dao TV, Toni END, Rimassa L, Breder VV, Vasilyev A, Heurgue A, Tam V, Mody K, Thungappa SC, He P, Negro A, Sangro B: Phase 3 randomized, open-label, multicenter study of tremelimumab (T) and durvalumab (D) as first-line therapy in patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (uHCC): HIMALAYA. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
44. Ikeda M, Nakachi K, Konishi M, Nomura S, Katayama H, Kataoka T, Uesaka K, Yanagimoto H, Morinaga S, Wada H, Shimada K, Takahashi Y, Nakagohri T, Gotoh K, Kamata K, Shimizu Y, Ueno M, Ishii H, Okusaka T, Furuse J: Adjuvant S-1 versus observation in curatively resected biliary tract cancer: A phase III trial (JCOG1202: ASCOT). Rapid Abstract Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 45. Kobayashi S, Nakachi K, Ikeda M, Konishi M, Ogawa G, Uesaka K, Yanagimoto H, Morinaga S, Wada H, Shimada K, Takahashi Y, Nakagohri T, Gotoh K, Kamata K, Shimizu Y, Ajiki T, Kawamoto Y, Ueno M, Okusaka T, Furuse J: Feasibility of adjuvant S-1 chemotherapy after major hepatectomy for biliary tract cancers: An exploratory subset analysis of JCOG1202. Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 46. Okuno T, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Kataoka T, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A, Gotoh K, Yamaguchi H, Ishii H, Ueno M, Furuse J: The influence of major hepatectomy on gemcitabine-based chemotherapy for advanced biliary tract cancer: An exploratory subset analysis of JCOG1113. Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 47. Morizane C, Nozomu Machida, Yoshitaka Honma, Okusaka T, Boku N, Kato K, Nomura S, Hiraoka N, Sekine S, Taniguchi H, Okano N, Yamaguchi K, Sato T, Ikeda M, Mizuno N, Ozaka M, Kataoka T, Kitagawa Y, Terashima M, Furuse J: Randomized phase III study of etoposide plus cisplatin versus irinotecan plus cisplatin in advanced neuroendocrine carcinoma of the digestive system: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1213). Rapid Abstract Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 48. Okusaka T, Ikeda M, Ioka T, Ueno M, Teng Z, Furuya M, Furuse J: Nal-IRI+5-FU/LV vs 5-FU/LV in metastatic pancreatic cancer: Additional safety report of randomized Japanese phase 2 trial. Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 49. Ueno M, Morizane C, Ikeda M, Sudo K, Hirashima Y, Kuroda M, Fukuyama Y, Okusaka T, Furuse J: A phase II study of nivolumab in combination with modified FOLFIRINOX for metastatic pancreatic cancer. Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 50. Ohba A, Ozaka M, Mizusawa J, Katayama H, Okusaka T, Kobayashi S, Ikeda M, Kaneko S, Sasahira N, Okano N, Furukawa M, Miki I, Mizuno N, Yasuda I, Fujimori N, Kataoka T, Ueno M, Ishii H, Fukuda H, Furuse J: Randomized multicenter phase II/III study of gemcitabine plus nab-paclitaxel or modified FOLFIRINOX or S-IROX in patients with metastatic or recurrent pancreatic cancer (JCOG1611, GENERATE). Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 21st. 2022.
 51. Kenro Hirata, Yasuo Hamamoto, Hirokazu Shoji, Hiroki Hara, Chihiro Kondoh, Hisateru Yasui, Takeshi Kajiwar, Eishi Baba, Takayuki Ando, Naotoshi Sugimoto, Naohiro Okano, Hisato Kawakami, Hiroo Katsuya, Michitaka Nagase, Toshikazu Moriwaki, Kenichi Yoshimura, Masahiko Ando, Kentaro Yamazaki, Shuichi Hironaka, Kei Muro: A randomized phase II trial of paclitaxel plus ramucirumab versus nab-paclitaxel plus ramucirumab for gastric cancer with peritoneal dissemination refractory to first-line therapy (WJOG10617G/P-SELECT). Poster Session. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA • Online. January 20th-22nd. 2022.
 52. 古瀬純司, 上野誠, 木村綾, 丸山大, 福田治彦: 患者市民参画から得られること-JCOGの活動から. 国民・患者の臨床研究への参画を目指して. 第3回日本臨床試験学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月4日.
 53. 古瀬純司: 肝胆膵領域がんの薬物療法-開発にかかわった30年の軌跡. 中外製薬社内勉強会. 2022年2月14日.
 54. 池田公史, 井岡達也, 上野誠, 奥坂拓志, Teng Zhaoyang, 古屋桃子, 古瀬純司: Nal-IRI+5-FU/LV vs 5-FU/LV in metastatic pancreatic cancer-Additional safety report of randomized Japanese phase 2 trial. Mini-oral Session. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.
 55. 河合桐男, 林雅人, 廣田玲, 西岡真理子, 前園知宏, 岡野尚弘, 水谷友紀, 長島文夫, 滝智彦, 古瀬純司: NTRK3融合遺伝子とBRAFV 600遺伝子変異を同時に有するS状結腸癌の一例. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.
 56. 木村綾, 福田治彦, 中村健一, 柴田大朗, 江場淳子, 片岡智子, 山本精一郎, 水谷友紀, 上野誠, 枝園忠彦, 丸山大, 吉川貴己, 古瀬純司: JCOGにおける患者・市民参画の取り組み. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.
 57. 長島文夫: がん薬物療法を受ける高齢者に対するチーム医療. 日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.
 58. 戸高明子, 仲地耕平, 池田公史, 小西大, 野村尚吾, 片山宏, 片岡智子, 柳本泰明, 森永聡一郎, 和田浩志, 島田和明, 高橋祐, 中郡聡夫, 後藤邦仁, 鎌田研, 清水泰博, 上野誠, 石井浩, 奥坂拓志, 古瀬純司: A phase III trial of adjuvant S-1 vs. observation for resected biliary tract cancer: JCOG1202, ASCOT. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.

術集会．京都・オンライン．2022年2月18日．

59. 池田公史, 森實千種, 上野誠, 須藤研太郎, 平島詳典, 黒田将任, 福山祐紀, 奥坂拓志, 古瀬純司: A phase II study of nivolumab in combination with modified FOLFIRINOX for metastatic pancreatic cancer. Oral Session. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
60. 西岡真理子, 林雅人, 廣田玲, 前園知宏, 河合桐男, 岡野尚弘, 水谷友紀, 長島文夫, 古瀬純司: Anamorelin in patients with advanced pancreatic cancer and cancer cachexia: Experience of a single institute. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
61. 小笠原定久, 池田公史, 山下竜也, 工藤正俊, 稲葉吉隆, 森本学, 土谷薫, 清水怜, 小島康志, 平岡淳, 能祖一裕, 相方浩, 沼田和司, 佐藤俊哉, 奥坂拓志, 古瀬純司: Lenvatinib plus HAIC with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma: multicenter phase II trial (LEOPARD). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
62. 森実千種, 町田望, 本間義崇, 奥坂拓志, 朴成和, 加藤健, 野村尚吾, 平岡伸介, 関根茂樹, 谷口浩和, 岡野尚弘, 山口研成, 佐藤琢爾, 池田公史, 水野伸匡, 尾阪将人, 片岡智子, 寺島雅典, 北川雄光, 古瀬純司: Randomized phase III study of etoposide/cisplatin versus irinotecan/cisplatin in advanced digestive NEC: JCOG1213. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
63. 高原楠晃, 中井陽介, 藤澤聡郎, 佐々木隆, 森根裕二, 渡邊一雄, 上野誠, 井岡達也, 金井雅史, 近藤俊輔, 岡野尚弘, 伊佐山浩通, 小池和彦: A prospective multicenter phase II study of FOLFIRINOX in patients with advanced and recurrent biliary tract cancer. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
64. Kentaro Yamazaki, Satoshi Yuki, Hiroya Taniguchi, Hideaki Bando, Yu Sunakawa, Manabu Shiozawa, Hisateru Yasui, Naoki Takahashi, Hironaga Satake, Kazuhiro Yoshida, Akiyoshi Kanazawa, Tetsuya Hamaguchi, Masahiro Goto, Naohiro Okano, Kaname Yamashita, Akihito Tsuji, Hiromichi Ebi, Yukiko Abe, Shogo Nomura, Takayuki Yoshino: Impact of plasma VEGF-A, VEGF-D and PlGF on the efficacy of 2nd-line chemotherapy combined with biologics in mCRC 血清VEGF-A, VEGF-D, PlGFが転移性結腸直腸癌における二次化学療法+血管新生阻害薬の有効性に与える影響: GI-SCREEN CRC Ukit. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月19日．
65. 古瀬純司: 膵癌薬物療法の最前線ー2022年新たな動向．第18回臨床消化器病フォーラム．オンライン．2022年2月19日．
66. Kenro Hirata, Yasuo Hamamoto, Hirokazu Shoji, Hiroki Hara, Chihiro Kondoh, Hisateru Yasui, Takeshi Kajiwar, Eishi Baba, Takayuki Ando, Naotoshi Sugimoto, Naohiro Okano, Hisato Kawakami, Hiroo Katsuya, Michitaka Nagase, Toshikazu Moriwaki, Kenichi Yoshimura,

Masahiko Ando, Kentaro Yamazaki, Shuichi Hironaka, Kei Muro: Phase II trial of RAM combined with PTX vs nab-PTX for gastric cancer with peritoneal dissemination. 第94回胃癌学会総会．横浜・オンライン．2022年3月4日．

67. 古瀬純司: 肝胆膵がんの治療開発 オンコロジーの“これまで”と“これから”, 30年の経験を振り返って．オンライン．2022年3月10日．
68. 古瀬純司: 特別講演・肝細胞がんの薬物療法 “これまで”と“これから”. HCC Expert Meeting in South OSAKA. オンライン．2022年3月11日．
69. 古瀬純司: 神経内分泌腫瘍の診療現場から．ノバルティスファーマ社内勉強会．オンライン．2022年3月14日．
70. 古瀬純司: 特別講演 膵・消化管神経内分泌腫瘍の治療選択.ー薬物療法の位置づけと使い分け. 膵・消化管神経内分泌腫瘍のWebセミナー．オンライン．2022年3月17日．
71. 河合桐男, 廣田玲, 林雅人, 西岡真理子, 前園知宏, 岡野尚弘, 水谷友紀, 長島文夫, 古瀬純司: 杏林大学病院におけるがん薬物療法中のオンコロジーエマージェンシーへの対応. 第58回日本腹部救急医学会総会．東京・オンライン．2022年3月24日・25日．

論文 英文

1. Azemoto N^{1,2}, Ueno M³, Yanagimoto H⁴, Mizuno N⁵, Kawamoto Y⁶, Maruki Y⁷, Watanabe K⁸, Suzuki R⁹, Kaneko J¹⁰, Hisada Y⁷, Sato H¹¹, Kobayashi S³, Miyata H¹², Furukawa M¹³, Mizukami T¹⁴, Miwa H¹⁵, Ohno Y¹⁶, Tsuji K¹⁷, Tsujimoto A¹⁸, Nagano H¹⁹, Okuyama H²⁰, Asagi A², Okano N, Ishii H¹⁸, Morizane C⁷, Ikeda M⁸, Furuse J (1Matsuyama Red Cross Hospital, 2National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 3Kanagawa Cancer Center, 4Kobe University Graduate School of Medicine, 5Aichi Cancer Center Hospital, 6Hokkaido University Hospital, 7National Cancer Center Hospital, 8National Cancer Center Hospital East, 9Fukushima Medical University School of Medicine, 10Shizuoka Cancer Center, 11Asahikawa Medical University, 12Ehime Prefecture Central Hospital, 13National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 14St Marianna University School of Medicine, 15Yokohama City University Medical Center, 16Uwajima Municipal Hospital, 17Ishikawa Prefectural Central Hospital, 18Chiba Cancer Center, 19Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 20Kagawa University Hospital): Endoscopic duodenal stent placement versus gastrojejunostomy for unresectable pancreatic cancer patients with duodenal stenosis before introduction of initial chemotherapy (GASPACHO study): a multicenter retrospective study. Jpn J Clin Oncol. 52(2). 134-142. 2022.
2. Okabe N¹, Kobayashi T², Furuse J, Fujiwara M³, Kamma H³ (1Jichi Medical University Saitama Medical Center, 2Home Clinic for Everyone, 3Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): An autopsy case study of lymphocytic hypophysitis induced by nivolumab treatment for esophageal malignant melanoma.

Pathol Int . 71(12). 831-836. 2021.

3. Kobayashi S¹, Ueno M¹, Ogawa G², Fukutomi A³, Ikeda M⁴, Okusaka T⁵, Sato T⁶, Ito Y⁷, Kadota T², Ioka T⁸, Sugimori K⁹, Sata N¹⁰, Nakamori S¹¹, Shimizu K¹², Mizuno N¹³, Ishii H¹⁴, Furuse J (1Kanagawa Cancer Center, 2National Cancer Center Hospital, 3Shizuoka Cancer Center, 4National Cancer Center Hospital East, 5National Cancer Center Hospital, 6Kyoto University School of Public Health, 7Showa University School of Medicine, 8Osaka International Cancer Center, 9Yokohama City University Medical Center, 10Jichi Medical University, 11Osaka National Hospital, 12Tokyo Women's Medical University Hospital, 13Aichi Cancer Center Hospital, 14 Chiba Cancer Center) : Impact of renal function on S-1 + radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer: an integrated analysis of data from 2 clinical trials. *Pancreas*. 50(7). 965-971. 2021.
4. Okano N, Mizutani T, Nagashima F, Furuse J.: Stereotactic body radiotherapy plus pembrolizumab and trametinib for pancreatic cancer. *Lancet Oncol*. 22(10). e423. 2021.
5. Furuse J, Ueno M¹, Ikeda M² (1Kanagawa Cancer Center, 2National Cancer Center Hospital East) : Systemic therapy for hepatocellular carcinoma: current status and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol*. 51(9). 1363-1371. 2021.
6. Kudo M¹, Motomura K², Wada Y³, Inaba Y⁴, Sakamoto Y⁵, Kurosaki M⁶, Umeyama Y⁷, Kamei Y⁷, Yoshimitsu J⁷, Fujii Y⁷, Aizawa M⁷, Robbins PB⁸, Furuse J (1 Kindai University, 2 Aso Iizuka Hospital, 3Kyushu Medical Center, 4Aichi Cancer Center Hospital, 5National Cancer Center Hospital, 6Musashino Red Cross Hospital, 7 Pfizer R&D Japan, 8Pfizer) : Avelumab in Combination with Axitinib as First-Line Treatment in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma: Results from the Phase 1b VEGF Liver 100 Trial. *Liver Cancer*. 10(3). 249-259. 2021.
7. Ueno M¹, Morizane C², Okusaka T², Mizusawa J², Kataoka T², Ikeda M³, Ozaka M⁴, Okano N, Sugimori K⁵, Todaka A⁶, Shimizu S⁷, Mizuno N⁸, Yamamoto T⁹, Sano K¹⁰, Tobimatsu K¹¹, Katanuma A¹², Miyamoto A¹³, Yamaguchi H¹⁴, Nishina T¹⁵, Shirakawa H¹⁶, Kojima Y¹⁷, Oono T¹⁸, Kawamoto Y¹⁹, Furukawa M²⁰, Iwai T²¹, Sudo K²², Miyakawa H²³, Yamashita T²⁴, Yasuda I²⁵, Takahashi H²⁶, Kato N²⁷, Shioji K²⁸, Shimizu K²⁹, Nakagohri T³⁰, Kamata K³¹, Ishii H²¹, Furuse J (1Kanagawa Cancer Center, 2National Cancer Center Hospital, 3National Cancer Center Hospital East, 4 Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 5Yokohama City University Medical Center, 6Shizuoka Cancer Center, 7 Saitama Cancer Center, 8Aichi Cancer Center Hospital, 9Kansai Medical University Hospital, 10Teikyo University School of Medicine, 11Kobe University Graduate School of Medicine, 12 Teine Keijinkai Hospital, 13Osaka National Hospital, 14Jichi Medical University, 15National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 16Tochigi Cancer Center, 17National Center for Global Health and Medicine, 18Kyushu University, 19Hokkaido University Hospital, 20National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 21 Kitasato University Hospital, 22Chiba Cancer Center, 23Sapporo-Kosei General Hospital, 24Kanazawa University, 25University of Toyama, 26Osaka International Cancer Institute, 27Chiba University, 28Niigata Cancer Center Hospital, 29Tokyo, Women's Medical University, 30Tokai University School of Medicine, 31Kindai University) members of the Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HBPOG) : Comparison of gemcitabine-based chemotherapies for advanced biliary tract cancers by renal function: an exploratory analysis of JCOG1113. *Sci Rep*. 11(1).12885. 2021.
8. Hijioka S¹, Morizane C¹, Ikeda M², Ishii H³, Okusaka T¹, Furuse J (1National Cancer Center Hospital, 2National Cancer Center Hospital East, 3Chiba Cancer Center) : Current status of medical treatment for gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol*. 51(8). 1185-1196. 2021.
9. Imaoka H¹, Ikeda M¹, Maehara K², Umemoto K³, Ozaka M⁴, Kobayashi S⁵, Terashima T⁶, Inoue H⁷, Sakaguchi C⁸, Tsuji K⁹, Shioji K¹⁰, Okamura K¹¹, Tsujimoto A¹², Nakamura I¹³, Shirakawa H¹⁴, Furukawa M¹⁵, Ueno M⁵, Morizane C², Furuse J (1National Cancer Center Hospital East, 2National Cancer Center Hospital, 3St. Marianna University School of Medicine, 4Cancer Institute Hospital Japanese Foundation for Cancer Research, 5 Hepatobiliary and Pancreatic Medical Oncology Division, 6Kanazawa University Hospital, 7Shizuoka Cancer Center, 8Shikoku Cancer Center, 9 Ishikawa Prefectural Central Hospital, 10Niigata Cancer Center Hospital, 11JA Sapporo Kohsei Hospital, 12Chiba Cancer Center, 13Hyogo College of Medicine, 14Tochigi Cancer Center, 15National Hospital Organization Kyushu Cancer Center) : Risk stratification and prognostic factors in patients with unresectable undifferentiated carcinoma of the pancreas. *Pancreatol*. 21(4). 738-745. 2021.
10. Ikeda M¹, Okusaka T², Ohno I¹, Mitsunaga S¹, Kondo S², Ueno H², Morizane C², Gemmoto K³, Suna H³, Ushida Y³, Furuse J (1National Cancer Center Hospital East, 2National Cancer Center Hospital, 3Ono Pharmaceutical Co) : Phase I studies of peptide vaccine cocktails derived from GPC3, WDRPUH and NEIL3 for advanced hepatocellular carcinoma. *Immunotherapy*. 13(5). 371-385. 2021.
11. Tomoko Jogo^{1,2}, Yoshiaki Nakamura¹, Kohei Shitara¹, Hideaki Bando³, Hisateru Yasui⁴, Taito Esaki⁵, Tetsuji Terazawa⁶, Taroh Satoh⁷, Eiji Shinozaki⁸, Tomohiro Nishina⁹, Yu Sunakawa¹⁰, Yoshito Komatsu¹¹, Hiroki Hara¹², Eiji Oki², Nobuhisa Matsuhashi¹³, Takashi Ohta¹⁴, Takeshi Kato¹⁵, Koushiro Ohtsubo¹⁶, Takeshi Kawakami¹⁷, Naohiro Okano, Yoshiyuki

- Yamamoto¹⁸, Takanobu Yamada¹⁹, Akihito Tsuji²⁰, Justin I Odegaard²¹, Hiroya Taniguchi¹, Toshihiko Doi¹, Satoshi Fujii^{22,23}, Takayuki Yoshino¹ (1National Cancer Center Hospital East, 2Kyushu University, 3Aichi Cancer Center Hospital, 4Kobe City Medical Center General Hospital, 5National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 6Osaka Medical College Hospital, 7Osaka University, 8Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 9National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 10St. Marianna University School of Medicine, 11Hokkaido University Hospital, 12Saitama Cancer Center, 13Gifu University, 14Kansai Rosai Hospital, 15National Hospital Organization Osaka National Hospital, 16Kanazawa University, 17Shizuoka Cancer Center, 18University of Tsukuba Hospital, 19Kanagawa Cancer Center, 20Kagawa University Hospital, 21Guardant Health, 22Yokohama City University Graduate School of Medicine, 23National Cancer Center) : Circulating Tumor DNA Analysis Detects FGFR2 Amplification and Concurrent Genomic Alterations Associated with FGFR Inhibitor Efficacy in Advanced Gastric Cancer. Clin Cancer Res. 27(20). 5619-5627. 2021.
12. Matsuki R¹, Okano N, Arai T¹, Yoshiike S², Kogure M¹, Suzuki Y¹, Shibahara J², Furuse J, Sakamoto Y¹ (1Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery Division, Kyorin University, 2Department of pathology, Kyorin University) : Regression of tumor thrombus in the suprahepatic vena cava of hepatocellular carcinoma and conversion hepatectomy induced by lenvatinib. Liver Cancer. 2021. DOI : 10.1159/000520822.
 13. Naito T¹, Uchino J², Kojima T³, Matano Y⁴, Minato K⁵, Tanaka K⁶, Mizukami T⁷, Atagi S⁸, Higashiguchi T⁹, Muro K¹⁰, Takayama K², Furuse J, Morishima E¹¹, Takiguchi T¹¹, Tamura K¹² (1Shizuoka Cancer Center, 2Kyoto Prefectural University of Medicine, 3Fukui Prefectural Hospital, 4Komatsu Municipal Hospital, 5Gunma Prefectural Cancer Center, 6Kyushu University, 7St. Marianna University, 8National Hospital Organization Kinki-Chuo Chest Medical Center, 9Yonaha Okanoue Hospital, 10Aichi Cancer Center, 11Ono Pharmaceutical Co, Ltd, 12Fukuoka University) : A multicenter, open-label, single-arm study of anamorelin (ONO-7643) in patients with cancer cachexia and low body mass index. Cancer. 128(10). 2025-2035. 2022. Epub ahead of print.
 14. Kudo M^{1,2,3}, Ikeda M^{2,4}, Ueshima K^{1,2}, Sakamoto M^{2,5}, Shiina S⁶, Tateishi R⁷, Nouse K⁸, Hasegawa K⁹, Furuse J, Miyakami S¹⁰, Murakami T¹¹, Yamashita T¹², Kokudo N^{3,13} (1 Kindai University Faculty of Medicine, 2 National Center for Global Health and Medicine, 3 the Committee for Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver, 4National Cancer Center Hospital East, 5Keio University School of Medicine, 6Juntendo University School of Medicine, 7The University of Tokyo, 8Okayama City Hospital, 9Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 10Fukuiken Saiseikai Hospital, 11Kobe University Graduate School of Medicine, 12Kanazawa University, Graduate School of Medical Science, 13the Committee for General Rules for the Clinical and Pathological Study of Primary Liver Cancer) : Response evaluation criteria in cancer of the liver version 6 (Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver 2021 revised version). Hepatol Res. 52(4). 329-336. 2022. Epub ahead of print.
 15. Nagashima F, Furuse J : Treatments for elderly cancer patients and, 19 reforms to social security systems in Japan. Int J Clin Oncol. 27(2). 310-315. 2022. Epub ahead of print.
 16. Yamada I¹, Morizane C², Okusaka T², Mizusawa J², Kataoka T², Ueno M³, Ikeda M⁴, Okano N, Todaka A⁵, Shimizu S⁶, Mizuno N⁷, Sekimoto M⁸, Tobimatsu K⁹, Yamaguchi H¹⁰, Nishina T¹¹, Shirakawa H¹², Kojima Y¹³, Oono T¹⁴, Kawamoto Y¹⁵, Furukawa M¹⁶, Iwai T¹⁷, Sudo K¹⁸, Okamura K¹⁹, Yamashita T²⁰, Kato N²¹, Shioji K²², Shimizu K²³, Nakagohri T²⁴, Kamata K²⁵, Ishii H¹⁸, Furuse J (1Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 2National Cancer Center Hospital, 3Kanagawa Cancer Center, 4National Cancer Center Hospital East, 5Shizuoka Cancer Center, 6Saitama Cancer Center, 7Aichi Cancer Center Hospital, 8Kansai Medical University Hospital, 9Kobe University Graduate School of Medicine, 10Jichi Medical University, 11National Hospital Organization, 12Tochigi Cancer Center, 13National Center for Global Health and Medicine, 14Kyushu University, 15 Hokkaido University Hospital, 16National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 17 Kitasato University School of Medicine, 18Chiba Cancer Center, 19 Sapporo Kousei General Hospital, 20Kanazawa University, 21Chiba University, 22Niigata Cancer Center Hospital, 23 Tokyo Women's Medical University, 24Tokai University School of Medicine, 25Kindai University Faculty of Medicine) : JCOG-HBPOG. The clinical outcomes of combination chemotherapy in elderly patients with advanced biliary tract cancer: an exploratory analysis of JCOG1113. Sci Rep. 12(1). 987. 2022.
 17. Todaka A¹, Nara S², Motoi F^{3,4}, Morinaga S⁵, Toshiyama R⁶, Higuchi R⁷, Konishi M⁸, Shirakawa H⁹, Tsumura H¹⁰, Okuyama H¹¹, Nagano H¹², Shioji K¹³, Sugimachi K¹⁴, Asagi A¹⁵, Mizuno N¹⁶, Furuse J (1Shizuoka Cancer Center, 2 National Cancer Center Hospital, 3 Tohoku University Graduate School of Medicine, 4 Yamagata University Graduate School of Medical Science, 5Kanagawa Cancer Center, 6National Hospital Organization Osaka National Hospital, 7 Tokyo Women's Medical University, 8National Cancer Center Hospital East, 9Tochigi Cancer Center, 10Hyogo Cancer Center, 11Kagawa University, 12Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 13Niigata Cancer Center Hospital, 14National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 15National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 16Aichi Cancer Center Hospital) : Postoperative treatment of resectable pancreatic cancer with positive peritoneal lavage cytology: a

multicentre retrospective study. *Anticancer Res.* 42(2). 893-902. 2022.

18. Yau T¹, Park JW², Finn RS³, Cheng AL⁴, Mathurin P⁵, Edeline J⁶, Kudo M⁷, Harding JJ⁸, Merle P⁹, Rosmorduc O¹⁰, Wyrwicz L¹¹, Schott E¹², Choo SP¹³, Kelley RK¹⁴, Sieghart W¹⁵, Assenat E¹⁶, Zaucha R¹⁷, Furuse J, Abou-Alfa GK⁸, El-Khoueiry AB¹⁸, Melero I¹⁹, Begic D²⁰, Chen G²⁰, Neely J²⁰, Wisniewski T²⁰, Tschaika M²⁰, Sangro B²¹ (1University of Hong Kong, 2National Cancer Center, 3University of California, 4National Taiwan University Cancer Center and National Taiwan University Hospital, 5Centre Hospitalo-Universitaire Claude Huriez, 6Centre Eugène Marquis, 7Kindai University Faculty of Medicine, 8Memorial Sloan Kettering Cancer Center, 9Croix-Rousse Hospital, 10Hôpital Pitié-Salpêtrière-Université Pierre et Marie Curie, 11M Skłodowska-Curie Memorial National Cancer Research Institute, 12 Helios Klinikum Emil von Behring GmbH, 13National Cancer Centre Singapore, 14UCSF Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, 15Medical University Vienna, 16Centre Hospitalier Universitaire de Montpellier, 17Medical University of Gdańsk, 18University of Southern California, 19Clinica Universidad de Navarra and CIBERONC, 20Bristol Myers Squibb, 21Clinica Universidad de Navarra-IDISNA and CIBEREHD) : Nivolumab versus sorafenib in advanced hepatocellular carcinoma (CheckMate 459): a randomised, multicentre, open-label, phase 3 trial. *Lancet Oncol.* 23(1). 77-90. 2022.
19. Ohki A¹, Koba T², Tsurumi M², Hashimoto Y², Nagao G², Takeuchi H², Okano N, Fujiwara M³, Shibahara J³, Abe N² (1Department of Gastroenterological and General Surgery, Kyorin University, 2Department of Pathology) : Early-stage gastric cancer with solitary brain metastasis four years after curative surgery: a case report and literature review. *Clin J Gastroenterol.* 15(1). 90-94. 2022.
20. Masato Hayashi, Naohiro Okano, Tomonori Mizutani : Definitive Chemoradiotherapy for Older Patients With Esophageal Cancer. *JAMA Oncology.* 8(2). 304-305. 2022.
21. Muro K¹, Kojima T², Moriwaki T³, Kato K⁴, Nagashima F, Kawakami H⁵, Ishihara R⁶, Ogata T⁷, Satoh T⁸, Iwakami K⁹, Han S⁹, Yatsuzuka N⁹, Takami T⁹, Bhagia P¹⁰, Doi T² (1Aichi Cancer Center Hospital, 2National Cancer Center Hospital East, 3University of Tsukuba, 4National Cancer Center Hospital, 5Kindai University, 6Osaka International Cancer Institute, 7Kanagawa Cancer Center, 8Osaka University Suita, 9MSD K.K., 10Merck & Co., Inc.) : Second-line pembrolizumab versus chemotherapy in Japanese patients with advanced esophageal cancer: subgroup analysis from KEYNOTE-181. *Esophagus.* 19(1). 137-145. 2022.
22. Nakamura Y¹, Okamoto W^{1,2}, Denda T³, Nishina T⁴, Komatsu Y⁵, Yuki S⁵, Yasui H⁶, Esaki T⁷, Sunakawa Y⁸, Ueno M⁹, Shinozaki E¹⁰, Matsuhashi N¹¹, Ohta T¹², Kato K¹³, Ohtsubo K¹⁴,

Bando H^{1,15}, Hara H¹⁶, Satoh T¹⁷, Yamazaki K¹⁸, Yamamoto Y¹⁹, Okano N, Terazawa T²⁰, Kato T²¹, Oki E²², Tsuji A²³, Horita Y²⁴, Hamamoto Y²⁵, Kawazoe A¹, Nakajima H¹, Nomura S², Mitani R¹, Yuasa M¹, Akagi K²⁶, Yoshino T¹ (1National Cancer Center Hospital East, 2Hiroshima University Hospital, 3Chiba Cancer Center, 4National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 5Hokkaido University Hospital, 6Kobe City Medical Center General Hospital, 7National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 8St Marianna University School of Medicine, 9Kanagawa Cancer Center, 10Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 11Gifu University, 12Kansai Rosai Hospital, 13National Cancer Center Hospital, 14Kanazawa University, 15Aichi Cancer Center, 16Saitama Cancer Center, 17Osaka University, 18Shizuoka Cancer Center, 19University of Tsukuba Hospital, 20Osaka Medical College Hospital, 21National Hospital Organization Osaka National Hospital, 22Kyushu University, 23Kagawa University Hospital, 24Saitama Medical University International Medical Center, 25Keio University School of Medicine, 26Saitama Cancer Center) : Clinical Validity of Plasma-Based Genotyping for Microsatellite Instability Assessment in Advanced GI Cancers: SCRUM-Japan GOZILA Substudy. *JCO Precis Oncol.* 2022. DOI : 10.1200/PO.21.00383.

和 文

1. 古瀬純司 : 免疫チェックポイント阻害薬の有効性と安全性. *日消誌.* 118 (5) . 400-406. 2021.
2. 古瀬純司, 土岐真朗¹, 立石秀勝², 柴原純二³, 阪本良弘⁴ (1杏林大・医・消化器内科, 2杏林大・医・放射線医学教室, 3杏林大・医・病理部, 4杏林大・医・肝胆膵外科) : 杏林大学病院での胆膵疾患に対する診療科横断的チーム医療. *胆と膵.* 42(5). 427-431. 2021.
3. 古瀬純司: 膵癌に対する化学療法. *Medical Science Digest.* 47(7). 367-371. 2021.
4. 古瀬純司: 膵がん抗がん薬治療の進歩. *日医雑誌.* 150 (5). 807-811. 2021.
5. 西岡真理子, 長島文夫, 古瀬純司 : 分子標的薬 小分子化合物 PARP阻害薬. *腫瘍内科.* 28 (2). 135-140. 2021.
6. 岡野尚弘, 古瀬純司 : 切除不能胆道癌における2次薬物療法. *胆と膵.* 42臨時増刊特大号. 1145-1151. 2021.
7. 河合桐男, 古瀬純司 : がん悪液質に対する薬物療法病態の基本的な事項と対策. *胆と膵.* 42臨時増刊特大号. 1253-1258. 2021.
8. 廣田玲, 林雅人, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 水谷友紀, 長島文夫, 古瀬純司 : 膵癌に対する治療戦略・治療効果判定 膵癌に対する化学療法の進歩. *肝胆膵.* 84(2). 189-197. 2022.
9. 長島文夫, 古瀬純司 : 高齢がん患者の治療と支援. *日本老年医学会雑誌.* 59 (1). 1-8. 2022.
10. 古瀬純司, 高山浩一¹, 岸和田昌之², 光永修一³, 天野晃滋⁴ (1京都府立医科大・医・内科学呼吸器内科, 2三重大学医学部付属病院・肝胆膵移植外科, 3国立がん研究センター東病院・肝胆膵内科, 4国立がん研究センター中央病院・緩和医療科) : 膵・胆道が

んにおける悪液質の病態と治療. 胆膵Oncology Forum. 2(2). 4-10. 2022.

11. 長島文夫, 榎本健太郎¹, 古瀬純司 (¹厚生労働省大臣官房審議官): 超高齢社会における腫瘍学. 癌と化学療法. 49(1). 8-12. 2022.

著 書

1. 河合桐男, 前園知宏, 西岡真理子, 古瀬純司 (分担執筆): 肝内胆管癌. 希少がん・難治がん診療ハンドブック. 石岡千加史監修, 元雄良治編集. 南江堂. 2021. 169-174.
2. 古瀬純司 (分担執筆): アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法のnetwork meta-analysis. アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法による肝細胞癌治療. 工藤正俊総監修. アークメディア. 2021. 133-137.
3. 前園知宏, 古瀬純司 (分担執筆): 膵癌化学療法の進歩. 専門医のための消化器病学第3版. 下瀬川徹, 渡辺守監修. 医学書院. 2021. 678-682.
4. 古瀬純司 (分担執筆): カボザンチニブの海外ランダム化第2相試験の概要. カボザンチニブによる肝細胞癌治療. 工藤正俊総監修. アークメディア. 2022. 51-54.
5. 岡野尚弘 (分担執筆): 胆道癌. 新臨床腫瘍学第6版. 南江堂. 2021. 452-456.

その他

1. 岡野尚弘: 第10回杏林医学会研究奨励賞受賞. First-in-human phase I study of JPH203, an L-type amino acid transporter 1 inhibitor, in patients with advanced solid tumors.

高 齢 医 学 教 室

講 演

1. Miyamoto T, Ebihara T, Kozaki K: Prognostic Factors of 90-Day Mortality in Older People with Healthcare-Associated Pneumonia. American Geriatrics Society Annual Meeting 2021. Online. May 13th-15th, 2021.
2. 神崎恒一: (シンポジウム) 老年科専門医育成の今後. 第63回日本老年医学会学術集会. オンライン. 2021年6月11日-13日.
3. 宮本孝英, 海老原孝枝, 永井久美子, 神崎恒一: 認知症における白質病変と肺炎発症. 第63回日本老年医学会学術集会. オンライン. 2021年6月11日-13日.
4. 永井久美子, 庄司真美, 平本めぐみ, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者におけるコグニティブフレイル患者の臨床的特徴. 第63回日本老年医学会学術集会. オンライン. 2021年6月11日-13日.
5. 海老原孝枝, 宮本孝英, 神崎恒一: 医療介護関連開園罹患の入院高齢者における, 90日死亡予測因子の検討. 第63回日本老年医学会学術集会. オンライン. 2021年6月11日-13日.
6. 輪千智高, 永井久美子, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者の多剤服用の特徴. 第63回日本老年医学会学術集会. オンライン. 2021年6月11日-13日.
7. 神崎恒一: 老年医学の視点からの糖尿病ならびに生活習慣の管理. 帝人ヘルスケア社内研修会. オンライン. 2021年6月16日.
8. 神崎恒一: 元気で長生き〜認知症や血管の老化を

防ぐために〜. いきいき大学教養文化教室. 千葉. 2021年6月12日.

9. 海老原孝枝: (特別講演) 病態時間軸で考える高齢者誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害. 宮城県女医会例会. 仙台. 2021年9月16日.
10. 神崎恒一: 認知症の鑑別診断と予防. 足立区薬剤師会研修会. オンライン. 2021年9月28日.
11. 永井久美子, 玉田真美, 平本めぐみ, 神崎恒一: 認知機能低下高齢者における、動脈硬化危険因子の管理のあり方について. 第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 京都・オンライン. 2021年10月23日-11月30日.
12. Kozaki K, Nagai K, Tamada M: Management of Risk Factors for Atherosclerosis in Older Patients with Cognitive Impairment. the 19th International Symposium on Atherosclerosis. 京都・オンライン. 2021年10月24日-11月30日.
13. 神崎恒一: (教育講演) コグニティブフレイル. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 大阪・オンライン. 2021年11月6日-11月19日.
14. 永井久美子, 玉田真美, 神崎恒一: もの忘れ外来における初診患者の背景変化一緊急事態宣言の影響一. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 大阪・オンライン. 2021年11月6日-11月7日.
15. 神崎恒一: 認知機能障害のある高齢者のフレイルと転倒. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年11月13日.
16. 佐藤俊, 長田正史, 伊藤瑛祐, 遠藤麻央, 井上慎一郎, 神崎恒一: 中心静脈カテーテル迷入後、超音波ガイド下で位置調整した1例. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年11月13日.
17. 神崎恒一: 元気に長生きー認知症や血管の老化を防ぐためにー. 千葉県生涯大学校卒業生学習会. 千葉. 2022年1月18日.
18. 海老原孝枝: 杏林大学病院高齢診療科/物忘れセンターの近況. 7th Geriatric Innovation Forum. オンライン. 2022年1月22日.
19. 海老原孝枝: (特別講演) 認知症と栄養. 東京都認知症疾患医療センター東京さくら病院. オンライン. 2022年2月1日.
20. 海老原孝枝: 杏林大学病院物忘れセンターの近況. 第9回北多摩南部認知症を考える会. オンライン. 2022年2月16日.
21. 神崎恒一: 加齢に伴う認知機能低下と認知症. 第24回北海道老年期認知症研究会. オンライン. 2022年3月26日.

論 文

1. 神崎恒一: 高齢者の包括的医療としての認知症. Precision Medicine. 4(5). 407-410. 2021年.
2. 神崎恒一: COVID-19による認知的フレイルへの対応. 日本サルコペニア・フレイル学会誌. 5(1). 55-59. 2021年.
3. 神崎恒一: 実地医家が認知症をよりよく知るために コグニティブ・フレイル 最近の話題. Medical Practice. 38(8). 1154-1158. 2021年.
4. 神崎恒一: 高齢者の多様な認知症. 医学のあゆみ. 279(5). 380-383. 2021年.
5. Okazaki T^{1,2}, Suzukamo Y¹, Miyatake M¹, Komatsu R³, Yaekashiwa M⁴, Nihei M⁴, Izumi S^{1,2}, Ebihara T.(¹Department of Physical

Medicine and Rehabilitation, Tohoku University, ²Center for Dysphagia of Tohoku University Hospital, ³Department of Respiratory Medicine, Hiraka General Hospital, ⁴Department of Respiratory Medicine, Sendai City hospital, Medicine) Respiratory Muscle Weakness as a Risk Factor for Pneumonia in Older People. Gerontology. 67(5). 581-590. 2021.

6. 海老原覚, 新井義朗, 杉澤樹, 岩波裕治, 小椋涼治, 鈴木孝彦, 入部春介, 黒田悠加, 中尾馨子, 佐藤直文, 竹村あやめ, 大国生幸, 伊豆蔵英明, 宮城翠, 大坪優太, 海老原孝枝: 誤嚥性肺炎と咳反射をめぐるあらたな展開. 呼吸器内科. 39(6). 513-517. 2021.
7. 海老原孝枝: 高齢者の呼吸器疾患・病態時間軸で考える高齢者誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害予防戦略. Aging & Health. 30(2). 6-9. 2021年.
8. 海老原覚, 海老原孝枝: 高齢者診療 Up To Date(No.3) 高齢者の咳嗽診療. 新薬と臨牀 70(8). 937-941. 2021年.
9. 海老原孝枝: 内科医が知っておきたい栄養食事療法・栄養状態の最適化が治療効果・QOLを向上させる・入院から在宅までシームレスな栄養状態の最適化に向けて・内科医が知っておきたい摂食・嚥下機能評価と誤嚥性肺炎患者の栄養摂取に対する包括的アプローチ. Medical Practice. 38(9). 1349-1354. 2021年.
10. 海老原孝枝: 超高齢社会を支える医学・医療の提案. 高齢者疾患の包括的管理 高齢者総合機能評価アップデート-老年病専門医による臨床的観点から. 医学のあゆみ. 279 (5). 462-468. 2021年.
11. 海老原孝枝: 社会に寄り添う香り〜QOLの向上をめざして〜香りと老年症候群. Aroma Research. 22(4). 306-311. 2021年.
12. 海老原覚, 宮城翠, 鶴岡広, 原田孝, 海老原孝枝: 高齢者リハビリテーションの羅針盤-治し、支える医療の実践-科学的介護情報システム「LIFE(ライフ)». Journal of Clinical Rehabilitation. 30(13). 1294-1300. 2021年.
13. 海老原孝枝: 誤嚥性肺炎の新しい展望. 老年内科. 4(6). 602-609. 2021年.
14. 神崎恒一: 認知機能低下とフレイルおよび認知症と転倒. Aging & Health. 30(4). 10-13. 2022年.
15. Yamamoto K¹, Akasaka H¹, Yasunobe Y¹, Shimizu A³, Nomoto K², Nagai K, Umegaki H³, Akasaki Y⁴, Kojima T⁵, Kozaki K, Kuzuya M⁴, Ohishi M⁴, Akishita M⁵, Takami Y¹, Rakugi H¹, Cherry study group (¹ Osaka University, ²National Center for Geriatrics and Gerontology, ³ Nagoya University, ⁴Kagoshima University, ⁵The University of Tokyo) : Clinical characteristics of older adults with hypertension and unrecognized cognitive impairment. Hypertension research. 2022. DOI:10.1038/s41440-022-00861-z. Epub.
16. 海老原孝枝: 高齢者の補完代替医療最前線 老年症候群に対するアロマセラピー総論. 老年科. 5(1). 7-13. 2022年.

報告書

1. 神崎恒一: フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究. 長寿医療研究開発費 2021年度 分担研究報告書.
2. 神崎恒一: コグニティブフレイルの臨床的意義解

明のための総合研究. 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 2021年度 実施状況報告書.

3. 海老原孝枝: 高齢者肺炎における、DPP-IV阻害剤のpros and cons. 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 2021年度 実施状況報告書.
4. 海老原孝枝: 併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業) 2021年度 分担研究報告書.

その他

1. 神崎恒一: サルコペニア肥満とは? . えがおで元気. 172. 8-13. 2022年.

精神神経科学教室

講演

1. 渡邊衡一郎: 教育講演「精神症状及び向精神薬の副作用としての眼症状」. 第11回東京多摩眼科連携セミナー. オンライン. 2021年5月15日.
2. 今村弥生: 医学生のコロナ禍の過ごし方 Social Skills Trainingからの応援. 自治医科大学医学部1年生「思考のプロセス」. 栃木・オンライン. 2021年5月28日.
3. 坪井貴嗣: 難治性うつ病の診療. 令和3年度獨協医科大学精神医学講座ミニレクチャー. オンライン. 2021年5月31日.
4. 今村弥生: 「精神医学」. 日本社会事業大学通信教育学科 講義. 清瀬市・オンライン. 2021年6月13日.
5. 坪井貴嗣: 維持期を見据えた統合失調症治療はどうあるべきか. 令和3年度広島市精神科医会学術講演会. オンライン. 2021年6月22日.
6. 渡邊衡一郎: MD/CT合同企画会長講演「なかなか治らないうつにあきらめずに取り組む」. 第18回日本うつ病学会総会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月8日.
7. 坪井貴嗣ほか: ECTはうつ病入院患者の薬物療法をどのように変化させるか: EGUIDEデータを用いて. 第18回日本うつ病学会総会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月8日.
8. 坪井貴嗣ほか: うつ病の当事者・家族における治療意思決定の現状と希望を含めた質問紙調査の結果報告. 第18回日本うつ病学会総会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月8日.
9. 坪井貴嗣: 難治性うつ病の診断・治療上の問題点. 第18回日本うつ病学会総会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月9日.
10. 櫻井準: 治療抵抗性うつ病への新たな薬剤治療. 第18回日本うつ病学会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月9日.
11. 櫻井準, Borbour T, Uribe S, Cirillo P, Fuertes-Saiz A, Camprodón J: 反復性経頭蓋磁気刺激法で寛解したうつ病患者における症状推移と残存症状. 第18回日本うつ病学会 第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 横浜・オンライン. 2021年7月9日.
12. 坪井貴嗣: 多職種で行う維持期を見据えた統合失調症治療とは. 第41回日本生物学的精神医学会・第

- 51回日本神経精神薬理学会合同年会. 京都・オンライン. 2021年7月14日.
13. 坪井貴嗣ほか: ECTは統合失調症入院患者の薬物療法をどのように変化させるか: EGUIDEデータを用いて. 第41回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会合同年会. 京都・オンライン. 2021年7月14-16日.
14. 今村弥生: 総合医のための精神科診療. 全日本病院協会総合医育成プログラム. 茨城・オンライン. 2021年7月18日.
15. 坪井貴嗣: 維持期を見据えた統合失調症薬物療法・副作用を如何に最小化するか. 第57回新潟精神医学懇話会. オンライン. 2021年7月27日.
16. 坪井貴嗣: 双極性障害治療の理想と現実をともに考える. 第10回日本精神科医学会学術大会. 横浜・オンライン. 2021年9月8日.
17. 渡邊衡一郎: 委員会シンポジウム「精神疾患の薬物療法up to date—気分障害における薬物療法up to date」. 第117回日本精神神経学会学術総会. 京都. 2021年9月19日.
18. 今村弥生: プライマリケア医に必要なうつと不安・不眠の診察. プライマリ・ケア連合学会秋季生涯教育セミナー. オンライン. 2021年9月19日・11月30日.
19. 大江悠樹, 栗原真理子: 大学病院における公認心理師の役割. 第117回日本精神神経学会学術総会. 京都・オンライン. 2021年9月19日.
20. 渡邊衡一郎: シンポジウム「社会実装化や当事者の視点などを踏まえた Shared decision Making(SDM)の今後の可能性: 精神科領域における Shared Decision Makingのこれまでとこれから」. 第117回日本精神神経学会学術総会. 京都. 2021年9月20日.
21. 渡邊衡一郎: シンポジウム「パーソナルリカバリーに向けて薬物療法に出来ること: 双極性障害におけるパーソナルrecoveryのために、薬物療法で出来ること」. 第31回日本臨床精神神経薬理学会. 東京. 2021年10月7日.
22. 坪井貴嗣ほか: 双極 I 型障害患者の抑うつ症状に対するルラシドン単剤療法の持続的寛解誘導: 二重盲検プラセボ対照試験 (ELEVATE検証試験) の事後解析. 第31回日本臨床精神神経薬理学会. 東京・オンライン. 2021年10月7日.
23. 坪井貴嗣ほか: ルラシドンで治療された双極 I 型障害患者の抑うつ症状における症状的・臨床的・機能的寛解誘導: 二重盲検プラセボ対照試験 (ELEVATE検証試験) の事後解析. 第31回日本臨床精神神経薬理学会. 東京・オンライン. 2021年10月7日.
24. 坪井貴嗣: 当事者が求めるうつ病からの回復を共に目指す上で医療者にできること. 第31回日本臨床精神神経薬理学会. 東京・オンライン. 2021年10月8日.
25. 坪井貴嗣: 多職種で行う維持期を見据えた統合失調症治療とは. 令和3年度精神科認定看護師の会研修会. オンライン. 2021年10月15日.
26. 坪井貴嗣: 双極性障害治療の理想と現実をともに考える. 令和3年度四国精神神経科診療所協会定例会. オンライン. 2021年10月16日.
27. 坪井貴嗣: 精神科領域における禁煙治療. 第15回日本禁煙学会学術総会. 大分・オンライン. 2021年10月16日.
28. Tsuboi T, et al.: Sustained Remission with Lurasidone in the Treatment of Bipolar I Depression: A Post-Hoc Analysis of Double Blind, Placebo-Controlled Trial. the 7th Congress of AsCNP the Asian College of Neuropsychopharmacology. Online. Oct 22nd-23rd. 2021.
29. Tsuboi T, et al.: Symptomatic, Clinical, and Functional Remission in Lurasidone-Treated Patients with Bipolar I Depression: A Post-Hoc Analysis of Double Blind, Placebo-Controlled Trial. the 7th Congress of AsCNP the Asian College of Neuropsychopharmacology. Online. Oct 22nd-23rd. 2021.
30. 山田恒, 山内常生, 吉村知穂, 今村弥生, 宮本沙緒里, 原田朋子: 摂食障害患者をどう外来で治療するのか 神経性やせ症患者的の初期対応. 第24回日本摂食障害学会. オンライン. 2021年10月30日.
31. 坪井貴嗣: 当事者の望むうつ病治療を実現するために. 第34回日本総合病院精神医学会総会. 福井・オンライン. 2021年11月20日.
32. 渡邊衡一郎: シンポジウム「うつ病、双極性障害の再発を予防する様々なアプローチ—効果と実現可能性—: 気分障害に対する薬物療法の再発予防効果」. 第24回日本精神保健・予防学会学術集会. オンライン. 2021年11月27日.
33. 今村弥生, 田中伸一郎: 漫画「進撃の巨人」の病跡人食いから検討する迷走する欲動. 第68回日本病跡学会学術集会. 大分. 2021年12月26日.
34. 今村弥生: 薬物療法以外の精神科治療～心理療法を中心に. プライマリ・ケア認定薬剤師研修会. オンライン. 2022年1月10日.
35. 今村弥生: 楽しく学び、精神医学への理解を深める基本の精神医学. 山口県福祉サービス協議会令和3年度第5回研修会. オンライン. 2022年1月22日.
36. 坪井貴嗣: 統合失調症の新たな選択肢. 第45回多摩精神科臨床研究会. 東京. 2022年2月16日.
37. 今村弥生: 睡眠と癒し. 第2回杏林大学附属病院緩和ケア研修会. 三鷹市・オンライン. 2022年2月26日.
38. 大原光人, 今村弥生, 村尾昌美, 櫻井準, 坪井貴嗣, 宮崎泰, 岩下覚, 渡邊衡一郎: 幻視を主訴に発症し認知機能低下が遷延したLGI-1抗体陽性脳炎の1例. 東京精神医学会第124回学術集会プログラム. 東京. 2022年3月12日.

論文

1. Katagiri T, Takaesu Y, Kurihara M, Oe Y, Ishii M, Onoda N, Hayasaka T¹, Kanda Y, Imamura Y, Watanabe K (¹Department of Occupational Therapy, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Improving Employment Through Interpersonal Psychotherapy: A Case Series of Patients With Treatment-Refractory Depression. Front Psychiatry. 12. 617305. 2021.
2. Ayani N¹, Morimoto T², Sakuma M², Kikuchi T³, Watanabe K, Narumoto J¹(¹Kyoto Prefectural University of Medicine, ²Hyogo College of Medicine, ³Keio University): Antipsychotic Polypharmacy Is Associated With Adverse Drug Events in Psychiatric inpatients: The Japan Adverse Drug Events Study. J Clin Psychopharmacol. 41(4). 397-402. 2021.

3. Hashimoto N¹, Yasui-Furukori N², Hasegawa N³, Ishikawa S¹, Numata S⁴, Hori H⁵, Iida H⁶, Ichihashi K⁷, Furihata R⁸, Murata A³, Tsuboi T, Takeshima M⁹, Kyou Y¹⁰, Komatsu H¹¹, Kubota C³, Ochi S¹², Takaesu Y¹³, Usami M¹⁴, Nagasawa T¹⁵, Hishimoto A¹⁶, Miura K³, Matsumoto J³, Ohi K¹⁷, Yamada H¹⁸, Inada K¹⁹, Watanabe K, Shimoda K², Hashimoto R³ (Hokkaido University, ²Dokkyo Medical University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Tokushima University, ⁵University of Occupational and Environmental Health, ⁶Fukuoka University, ⁷University of Tokyo Hospital, ⁸Kyoto University, ⁹Akita University, ¹⁰Kitasato University, ¹¹Tohoku University Hospital, ¹²Ehime University, ¹³University of the Ryukyus, ¹⁴Kohnodai Hospital, ¹⁵Kanazawa Medical University, ¹⁶Yokohama City University, ¹⁷Gifu University, ¹⁸Hyogo College of Medicine, ¹⁹Tokyo Women's Medical University): Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project. *Asian J psychiatry*. 63. 102744. 2021.
4. Konno Y¹, Fujino Y¹, Ikenouchi A^{1,2}, Adachi N³, Kubota Y³, Azekawa T³, Ueda H³, Edagawa K³, Katsumoto E³, Goto E³, Hongo S³, Kato M⁴, Tsuboi T, Yasui-Furukori N⁵, Nakagawa A⁶, Kikuchi T⁶, Watanabe K, Yoshimura R¹ (University of Occupational and Environmental Health, ²University Hospital of Occupational and Environmental Health, ³The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ⁴Kansai Medical University, ⁵Dokkyo Medical University, ⁶Keio University.): Relationship Between Mood Episode and Employment Status of Outpatients with Bipolar Disorder: Retrospective Cohort Study from the Multicenter Treatment Survey for Bipolar Disorder in Psychiatric Clinics (MUSUBI) Project. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 17. 2867-2876. 2021.
5. Aoki Y¹, Tsuboi T, Takaesu Y², Watanabe K, Nakayama K¹, Kinoshita Y¹, Kayama M¹ (St. Luke's International University, ²University of the Ryukyus): Development and field testing of a decision aid to facilitate shared decision making for adults newly diagnosed with attention-deficit hyperactivity disorder. *Health Expect*. 2021. doi: 10. 1111/hex. 13393. Online ahead of print.
6. Furihata R¹, Otsuki R², Hasegawa N³, Tsuboi T, Numata S⁴, Yasui-Furukori N⁵, Kashiwagi H³, Hori H⁶, Ochi S⁹, Muraoka H⁸, Onitsuka T⁹, Komatsu H¹⁰, Takeshima M¹¹, Hishimoto A¹², Nagasawa T¹³, Takaesu Y¹⁴, Nakamura T¹⁵, Asami T¹², Miura K³, Matsumoto J³, Ohi K¹⁶, Yasuda Y³, Iida H⁶, Ogasawara K¹⁷, Hashimoto N¹⁸, Ichihashi K¹⁹, Yamada H²⁰, Watanabe K, Inada K⁸, Hashimoto R³ (Kyoto University, ²Nihon University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Tokushima University, ⁵Dokkyo Medical University, ⁶Fukuoka University, ⁷Ehime University, ⁸Tokyo Women's Medical University, ⁹Kyushu University, ¹⁰Tohoku University Hospital, ¹¹Akita University, ¹²Yokohama City University, ¹³Kanazawa Medical University, ¹⁴University of the Ryukyus, ¹⁵Shinshu University, ¹⁶Gifu University, ¹⁷Nagoya University Hospital, ¹⁸Hokkaido University, ¹⁹University of Tokyo Hospital, ²⁰Hyogo College of Medicine): Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study. *Sleep medicine*. 89. 23-30. 2022.
7. Shinozaki M¹, Yasui-Furukori N¹, Adachi N², Ueda H², Hongo S², Azekawa T², Kubota Y², Katsumoto E², Edagawa K², Goto E², Miki K², Kato M³, Nakagawa A⁴, Kikuchi T⁴, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K¹, Yoshimura R⁵ (Dokkyo Medical University, ²The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ³Kansai Medical University, ⁴Keio University, ⁵University of Occupational and Environmental Health): Differences in prescription patterns between real-world outpatients with bipolar I and II disorders in the MUSUBI survey. *Asian J Psychiatr*. 2022. 67. 102935. 2022.
8. 五十嵐俊, 坪井貴嗣: 【統合失調症と気分障害における認知機能障害への対処と治療】気分障害の認知機能障害における薬物療法の役割. *臨床精神医学*. 50 (12). 1363-1372. 2021.
9. Tokumitsu K¹, Norio YF^{1,2}, Adachi N³, Kubota Y³, Watanabe Y³, Miki K³, Azekawa T³, Edagawa K³, Katsumoto E³, Hongo S³, Goto E³, Ueda H³, Kato M^{2,4}, Nakagawa A^{2,5}, Kikuchi T^{2,5}, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K¹, Yoshimura R^{2,6} (Dokkyo Medical University School of Medicine, ²The Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacology, ³The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ⁴Kansai Medical University, ⁵Keio University School of Medicine, ⁶University of Occupational and Environmental Health): Real-world clinical predictors of manic/hypomanic episodes among outpatients with bipolar disorder. *PLoS One*. 16(12). e0262129. 2021. 2021.
10. 渡邊衡一郎: 【向精神薬のさまざまな剤型の可能性について再考する】精神科臨床における貼付剤の意義. *臨床精神薬理*. 24(6). 613-618. 2021.
11. 渡邊衡一郎: COVID-19がもたらす脳とこころへの影響. *日本医師会雑誌*. 150(6). 978-983. 2021.
12. 松本泰幸, 櫻井準, 渡邊衡一郎: 【今日の精神科治療ハンドブック】(第3章)気分症<障害>群 抑うつ症群(軽症~中等症)の治療. *精神科治療学*. 36(増刊). 58-61. 2021.
13. 坪井貴嗣: 【今日の精神科治療ハンドブック】(第16章)精神および行動の障害にしばしば随伴する他の障害 遅発性ジストニア. *精神科治療学*. 36増刊. 344-345. 2021.
14. 渡邊衡一郎: 「実感と納得」に向けた病気と治療の伝え方 うつ病. *精神医学*. 63(11). 1587-1595. 2021.
15. 渡邊衡一郎: わが国のうつ病ガイドラインをめぐる動向 普及を目指して. *Depression Strategy*. 11(増刊号). 1-3. 2021.

16. Ogasawara K¹, Numata S², Hasegawa N³, Nakataki M⁴, Makinodan M⁵, Ohi K⁶, Takeshima M⁷, Tsuboi T, Hashimoto N⁸, Onitsuka T⁹, Muraoka H¹⁰, Hori H¹¹, Ichihashi K¹², Inagaki T^{13,14}, Yasui-Furukori N¹⁵, Hishimoto A¹⁶, Sugiyama N¹⁷, Fukumoto K¹⁸, Nagasawa T¹⁹, Matsumoto J³, Takaesu Y²⁰, Furihata R²¹, Nemoto K²², Nakamura T¹⁷, Usami M²³, Miura K³, Fujimoto M²⁴, Tagata H²⁵, Yamada H²⁶, Komatsu H²⁷, Ochi S²⁸, Atake K²⁹, Katsumoto E³⁰, Kido M^{31,32}, Kishimoto T³³, Suwa T²¹, Yamamura S³⁴, Iga J²⁸, Iida H¹¹, Inada K¹⁰, Watanabe K, Hashimoto R³ (¹Nagoya University Hospital, ²Tokushima University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Tokushima University Hospital, ⁵Nara Medical University, ⁶Gifu University, ⁷Akita University, ⁸Hokkaido University, ⁹Kyushu University, ¹⁰Tokyo Women's Medical University, ¹¹Fukuoka University, ¹²University of Tokyo Hospital, ¹³Biwako Hospital, ¹⁴Shiga University, ¹⁵Dokkyo Medical University, ¹⁶Yokohama City University, ¹⁷Shinshu University, ¹⁸Iwate Medical University, ¹⁹Kanazawa Medical University, ²⁰University of the Ryukyus, ²¹Kyoto University, ²²University of Tsukuba, ²³Kohnodai Hospital, ²⁴Osaka University, ²⁵Toho University, ²⁶Hyogo College of Medicine, ²⁷Tohoku University hospital, ²⁸Ehime University, ²⁹Kyushu Health Administration Center, ³⁰Katsumoto Mental Clinic, ³¹Toyama City Hospital, ³²University of Toyama, ³³Keio University, ³⁴Suzuka Kosei Hospital): Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2022. DOI: 10.1002/npr2.12245. Online ahead of print.
17. Yasui-Furukori N¹, Muraoka H², Hasegawa N³, Ochi S⁴, Numata S⁵, Hori H⁶, Hishimoto A⁷, Onitsuka T⁸, Ohi K⁹, Hashimoto N¹⁰, Nagasawa T¹¹, Takaesu Y¹², Inagaki T¹³, Tagata H¹⁴, Tsuboi T, Kubota C¹⁵, Furihata R³, Iga J⁴, Iida H⁵, Miura K³, Matsumoto J³, Yamada H¹⁶, Watanabe K, Inada Ken², Shimoda K¹, Hashimoto R³ (¹Dokkyo Medical University, ²Tokyo Women's Medical University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Ehime University, ⁵Tokushima University, ⁶Fukuoka University, ⁷Yokohama City University, ⁸Kyushu University, ⁹Gifu University, ¹⁰Hokkaido University, ¹¹Kanazawa Medical University, ¹²University of the Ryukyus, ¹³Biwako Hospital, ¹⁴Toho University, ¹⁵Kyoto University, ¹⁶Hyogo College of Medicine): Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study. *Neuropsychopharmacol Rep.* 42(1). 3-9. 2022.
18. Ichihashi K¹, Kyou Y², Hasegawa N³, Yasui-Furukori N⁴, Shimizu Y⁵, Hori H⁶, Hashimoto N⁷, Ide K⁸, Imamura Y, Yamada H⁹, Ochi S¹⁰, Iga J¹⁰, Takaesu Y¹¹, Ohi K¹², Tsuboi T, Iida H⁶, Yamagata H¹³, Hishimoto A¹⁴, Horai T¹⁵, Usami M¹⁶, Makinodan M¹⁷, Nagasawa T¹⁸, Komatsu H¹⁹, Kido M²⁰, Muraoka H²¹, Atake K²², Takeshima M²³, Kubota C²⁴, Inagaki T²⁵, Tamai S²⁶, Kishimoto T²⁷, Furihata R²⁸, Matsumoto J³, Miura K³, Inada K²⁹, Watanabe K, Kasai K¹, Hashimoto R³ (¹University of Tokyo Hospital, ²Kitasato University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Dokkyo Medical University, ⁵Kanazawa Medical University Hospital, ⁶Fukuoka University, ⁷Hokkaido University, ⁸Hospital of University of Occupational and Environmental Health, ⁹Hyogo University, ¹⁰Ehime University, ¹¹University of the Ryukyus, ¹²Gifu University, ¹³Yamaguchi University, ¹⁴Yokohama City University, ¹⁵Kobe University, ¹⁶Kohnodai Hospital, ¹⁷Nara Medical University, ¹⁸Kanazawa Medical University, ¹⁹Tohoku University Hospital, ²⁰Toyama City Hospital, ²¹Tokyo Women's Medical University, ²²Nippon Telegraph and Telephone West Corporation Kyushu Health Administration Center, ²³Akita University, ²⁴National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, ²⁵Biwako Hospital, ²⁶Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ²⁷Keio University, ²⁸Kyoto University, ²⁹Kitasato University): The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project. *Asian J Psychiatr.* 69. 103007. 2022.
19. 渡邊 衡一郎：統合失調症におけるアドヒアランス向上を目指しての Shared Decision Making (SDM: 共同意思決定) の実践. *臨床精神薬理.* 25(2). 181-191. 2022.
20. 丸木 拓¹, 坪井 貴詞, 渡邊 衡一郎 (¹岩尾会東京海道路病院): 向精神薬服用患者の便秘診療. *診断と治療.* 110(1). 103-106. 2022.
21. 前田 優那¹, 渡邊 衡一郎 (¹大泉病院): 【こんなときどうする? 他科とのコミュニケーションガイド】 (第12章) 精神科 うつ. 産科と婦人科. 89(Suppl). 448-455. 2022.
22. Sakurai H, Norton RJ¹, Fisher LB¹, Nagaswami MV¹, Streeter CC², Meyer AK¹, Dean T¹, Fava M¹, Mischoulon D¹, Nyer MB¹ (¹Massachusetts General Hospital, ²Harvard Medical School): A Patient with Electroconvulsive Therapy-Resistant Major Depressive Disorder with a Full Response to Heated Yoga: A Case Report. *J Psychiatr Pract.* 27(6). 486-491. 2021.
23. Sakurai H, Nagaswami MV¹, Tan EK¹, Meyer AK¹, Streeter CC², Jain F¹, Foster S¹, Yeung A¹, Cusin C¹, Fava M¹, Mischoulon D¹, Nyer MB¹ (¹Massachusetts General Hospital, ²Harvard Medical School): A Patient with Treatment-resistant Depression Who Achieved Remission with Heated Yoga: A Case Report. *Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics.* 12. 12-17. 2021.
24. Sakurai H¹, Hoeppner B¹, Jain F¹, Foster S¹, Pedrelli P¹, Mischoulon D¹, Fava M¹, Cusin C¹ (¹Massachusetts General Hospital): Use of Staging Models for Treatment-Resistant Depression Is Not Helpful in Predicting Non-response to Acute Intravenous Ketamine Treatment. *J Clin Psychopharmacol.* 42(2). 140-145. 2022.

25. Sakurai H, Uribe S¹, Cirillo P¹, Fuertes-Saiz A¹, Camprodon JA¹, Barbour T¹ (Massachusetts General Hospital): Residual symptoms after achieving remission with repetitive transcranial magnetic stimulation in depression. J Affect Disord. 301. 154-161. 2022.
26. 五十嵐俊, 櫻井準: うつ病における抗うつ薬の使い分け. 精神科. 40(3). 291-297. 2022.
27. 今村弥生: 【特集メンタルヘルス時代の総合診療外来】総合診療医から精神科医への"ぶっちゃけ"相談集. なんとなく精神疾患かな?でも、どこがどういうふうには違和感があるのか、うまく表現できません。正常と異常の区別がよくわかりません。「なんとなく違和感がある」をどう表現し、どうアプローチしたらよいのでしょうか?... 総合診療. Vol.31 No8. 974-977. 2021.
28. 栗原真理子, 大江悠樹, 渡邊衡一郎: 成人うつ病患者の背景に潜む神経発達症のインパクト対応を含めてー. 精神科治療学. 第37巻1号. 41-46. 2022.
29. Funaba M¹, Kawanishi H^{1,2}, Fujii Y^{1,3}, Higami K⁴, Tomita Y¹, Maruo K⁵, Sugawara N⁶, Oe Y, Kura S⁷, Horikoshi M¹, Ohara C¹, Kikuchi H⁸, Ariga H¹, Fukudo S², Sekiguchi A¹, Ando T¹. (National Center of Neurology and Psychiatry, ²Tohoku University, ³Meisei University, ⁴Shinjuku-Gyoenmae Counseling Center, ⁵University of Tsukuba, ⁶Dokkyo Medical University School of Medicine, ⁷Hidaka Dental Clinic, ⁸Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine): Hybrid Cognitive Behavioral Therapy With Interoceptive Exposure for Irritable Bowel Syndrome: A Feasibility Study. Front Psychiatry. 12. 673939. 2021.
30. Ito M¹, Horikoshi M¹, Kato N^{1,2}, Oe Y, Fujisato H¹, Yamaguchi K¹, Nakajima S¹, Miyamae M^{1,3}, Toyota A¹, Okumura Y⁴, Takebayashi Y⁵ (National Center of Neurology and Psychiatry, ²Keio University School of Medicine, ³National Institutes for Quantum and Radiological Science and Technology, ⁴Initiative for Clinical Epidemiological Research, ⁵Fukushima Medical University): Efficacy of the unified protocol for transdiagnostic cognitive-behavioral treatment for depressive and anxiety disorders: A randomized controlled trial. Psychol Med. 1-12. 2021.

著書

1. 渡邊衡一郎 (分担執筆): 40. 抗精神病薬, 抗うつ薬, その他. 今日の治療薬2022解説と便覧. 南江堂. 2022. 849-890.
2. 渡邊衡一郎 (分担執筆): 41. 抗不安薬, 睡眠薬. 今日の治療薬2022解説と便覧. 南江堂. 2022. 891-910.
3. 坪井貴嗣 (分担執筆): 薬剤による精神障害. 今日の治療指針2021. 福井次夫, 他 (総編集). 医学書院. 2021. 1068-1070.
4. 坪井貴嗣 (分担執筆): A24, A54, E18, E31, F6, F55. 第115回医師国家試験問題解説. メディックメディア. 2021.
5. 坪井貴嗣 (分担執筆): 錐体外路系副作用の治療. 専門医のための臨床精神神経薬理学テキスト. 日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会. 星和書店. 2021. 212-220.

6. 坪井貴嗣ほか (分担執筆): アカシジア・セロトニン症候群. 改訂新版重篤副作用疾患別対応マニュアル第3集. 日本医薬情報センター. 2022. 307-356.
7. 坪井貴嗣, 他 (監修・執筆): U:精神科. クエスチョン・バンク医師国家試験問題解説2023 vol.5. メディックメディア. 2022.
8. 坪井貴嗣, 他 (分担執筆): うつ病・双極性障害. 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2022-2023. 門脇孝, 他 (監修). メディカルビュー社. 2022. 590-595.
9. 今村弥生 (共著): II. 基本研修リスト A.家庭医療専門領域 23メンタルヘルス. 日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 改訂第3版. 日本プライマリケア連合学会編. 南山堂. 2021年. 236-239.

その他

1. 坪井貴嗣: 令和3年度杏林大学医学部研究奨励賞.
2. 今村弥生: 書評「精神科症例報告の上手な書きかた第2版」. 日本精神神経学会雑誌. Vol. 123 No.4. 232-232. 2021.
3. 今村弥生: ルフィのレジリエンス マンガから精神病理学を学ぶ. 特集メンタルヘルス時代の総合診療外来 スペシャルアーティクル. 総合診療. Vol. 31 No8. 1012-1015. 2021.
4. 今村弥生: 「精神科論文collection」. 日経メディカルオンライン版. 2021年1月から連載中.

小児科学教室

講演

学会・研究会

1. 黒川安裕, 細井健一郎, 濱野翔, 小澤悠里, 楊國昌: 胎児胸水を合併した環状13番染色体の一例. 第124回日本小児科学会学術集会. 京都市. 2021年4月16日.
2. 成田雅美: 腸内細菌叢とアトピー性皮膚炎の不思議な関係. 第37回日本臨床皮膚科医会総会. オンライン. 2021年4月24日.
3. 宮田世羽: トークンエコノミー法が著効した反芻症の1例. 第124回日本小児科学会学術集会. オンライン. 2021年4月16日-5月31日.
4. 細井健一郎, 那須ゆかり, 小澤悠里, 鴛田雅俊, 本田聖子, 野村優子, 楠田聡, 楊國昌: 当院で動脈管結紮術のため搬送した超低出生体重児の入院経過の検討. 第65回日本新生児育成医学会・学術集会. 札幌市. 2021年5月7日.
5. 井上三奈枝¹, 吉田幸一¹, 山野織江¹, 成田雅美 (東京都立小児総合医療センター): 自己効力感を高める思春期患者のデュピルマブ在宅自己注射指導の一例. 第37回日本小児臨床アレルギー学会. オンライン. 2021年5月31日-6月23日.
6. 宮田世羽: グアニジノ酢酸メチル基転移酵素欠損症に対するクレアチン・オルニチン補充の効果. 第63回日本小児神経学会学術集会. オンライン. 2021年5月28日.
7. 山野織江¹, 井上三奈枝¹, 益子育代², 成田雅美 (東京都立小児総合医療センター, ²なすのがはらクリニック): 食物アレルギー講習会の講師育成プログラムの効果. 第37回日本小児臨床アレルギー学会. オンライン. 2021年5月31日-6月23日.
8. 梶田直樹¹, 吉田幸一¹, 内田美穂², 萩原祐亮¹, 山

- 本櫻子¹, 赤星祥吾¹, 幡谷浩史¹, 横山晶子¹, 平尾恵子¹, 森川恵美¹, 成田雅美^(1東京都立小児総合医療センター, 2太陽こども病院): 経口負荷試験によって診断したエリスリトールアレルギーの3小児例. 第37回日本小児臨床アレルギー学会. オンライン. 2021年5月31日-6月23日.
9. 末崎めぐみ¹, 山野織江¹, 成田雅美, 吉田幸一¹, 稗田那津希¹, 鈴木千鶴², 三浦克志², 伊藤浩明³, 足立雄一⁴, 足立陽子⁴, 平瀬敏志⁵, 景山桂子⁶, 平谷絵里⁶, 金子恵美⁷, 池田奈央⁷ (1東京都立小児総合医療センター, 2宮城県立こども病院, 3あいち小児保健医療総合センター, 4富山大学付属病院, 5甲南医療センター, 6山口県立総合医療センター, 7国立病院機構福岡病院): 食物アレルギーの児をもつ家族の災害時の備えに関する実態. 第37回日本臨床アレルギー学会. オンライン. 2021年5月31日-6月23日.
 10. 成田雅美: 実習「絶対役立つ!! 吸入指導の要点 (小児)». 日本アレルギー学会第7回総合アレルギー講習会. 神戸. 2021年6月6日.
 11. 飯尾美沙¹, 佐藤未織², 成田雅美, 山本貴和子², 永田真弓¹, 大石拓³, 川口隆弘⁴, 岸野愛⁵, 西凜⁶, 大矢幸弘² (1関東学院大学, 2国立成育医療研究センター, 3高知大学, 4公立昭和病院, 5東京ベイ・浦安市川医療センター, 6祐天寺ファミリークリニック): 乳幼児期の子どもと保護者を対象とした小児喘息テイラー化アプリのプロセス評価. 第68回日本小児保健協会学術集会. オンライン. 2021年6月18日-20日.
 12. 荻原瑛由実, 小谷昌史, 花井彩江, 麓聖子, 細井健一郎: 妊娠中に母体ALLを発症した早産児の一例. 第129回多摩新生児懇話会. 武蔵野市. 2021年6月8日.
 13. 成田雅美: 小児アレルギー疾患の日常診療に役立つ新たなエビデンス〜スキンケア、アトピー性皮膚炎への早期治療、食物アレルギー〜. 第131回多摩小児科臨床懇話会. オンライン. 2021年7月2日.
 14. 阿部真麻, 宮田世羽, 大熊こずえ, 成田雅美: 抗MOG抗体関連疾患 (MOGAD) の1例. 第131回多摩小児科臨床懇話会. オンライン. 2021年7月2日.
 15. 成田雅美: 腸内細菌叢をはじめとするヒトマイクロバイオームとアレルギー疾患. 第45回日本小児皮膚科学会学術大会. オンライン. 2021年7月3日.
 16. 成田雅美: 食物アレルギー発症予防の観点から見た乳児期の栄養・離乳食の進め方. 第45回日本小児皮膚科学会学術大会. オンライン. 2021年7月4日.
 17. 成田雅美: アレルギーマーチの進展をとめる! 食物アレルギーの発症予防を目指して. 第9回小児科診療連携セミナー. オンライン. 2021年7月8日.
 18. 木内善太郎: 偽性副甲状腺機能低下症Ib型の遺伝子型と表現型の相関性. 第56回日本小児腎臓病学会学術集会. 高知市・オンライン. 2021年7月9-10日.
 19. 成田雅美: アレルギー疾患の発症予防 早期介入は有効か. 第17回ふくしま小児アレルギー・喘息治療懇話会. オンライン. 2021年9月4日.
 20. 成田雅美: 小児アトピー性皮膚炎の病態をふまえた治療戦略 かゆみのない子供本来の肌へ. 第37回城西ブロック勉強会. オンライン. 2021年9月7日.
 21. 成田雅美: 食物アレルギーの保健指導. 乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 Part V. オンライン. 2021年9月11日.
 22. 宮田世羽: 当院における小児てんかんに対するラコサミドの使用経験. 第54回日本てんかん学会学術集会. 名古屋・オンライン. 2021年8月6日-8月31日.
 23. Kiuchi Z, Monica Reyes, Arnold S Brickman, Harald Jüppner, A distinct variant of pseudohypoparathyroidism (PHP) first characterized some 41 years ago is caused by the 3-kb STX16 deletion. The American Society of Bone and Mineral Research (ASBMR) 2021 Annual Meeting. USA・Online. October 1-4. 2021.
 24. 成田雅美: 食物アレルギーの発症予防 アレルギーマーチの観点から. 第67回日本小児科学会東京都地方会懇話会. オンライン. 2021年10月9日.
 25. 濱野翔, 木村俊彦, 濱野祥子, 森久保美保, 川原亜友美, 那須ゆかり, 牧野篤司, 川口明日香, 成田雅美: 通年性アレルギー性鼻炎・各種鼻炎 アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法開始季節と副作用の関係性についての検討. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年10月8日.
 26. 牧野篤司, 木村俊彦, 川原亜友美, 川口明日香, 成田雅美: 複数の柑橘類による食物依存性運動誘発アナフィラキシーを確認した一例. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年10月10日.
 27. 梶田直樹¹, 吉田幸一¹, 幡谷浩史¹, 齋藤修¹, 木下和枝¹, 足立はるよ (中嶋)², 高橋宣聖³, 成田雅美 (1東京都立小児総合医療センター, 2東京大学, 3国立感染症研究所): 気管支喘息 (小児) インフルエンザ (Flu) 感染症患者の喘鳴とFlu抗原特異的IgE抗体の関連性. 第70回日本アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年10月10日.
 28. 荻原瑛由実, 宮田世羽, 大熊こずえ, 保崎明, 成田雅美: 小児COVID-19関連多系統炎症性症候群 (MIS-C) の一例〜川崎病との鑑別〜. 第132回多摩小児科臨床懇話会. オンライン. 2021年10月22日.
 29. 成田雅美: 腸内細菌叢をターゲットとするプロバイオティクス. 第58回日本小児アレルギー学会学術大会. 横浜. 2021年11月13日.
 30. 成田雅美: アレルギー疾患予防とプロバイオティクス. 第1回北関東プロバイオティクス小児セミナー. オンライン. 2021年11月17日.
 31. 森久保美保, 吉野浩, 宮澤永尚, 木内善太郎, 羽田伊知郎, 大久保結子, 小池卓也, 渡邊佳子, 柴原純二, 成田雅美: 常染色体優性多発性嚢胞腎を合併した卵黄嚢腫瘍の13歳女児例. 第63回日本小児血液・がん学会学術集会. オンライン. 2021年11月25日-11月27日.
 32. 成田雅美: アレルギー発症予防のためにできること〜妊娠中から離乳食開始まで〜. 令和3年度アレルギー疾患治療専門研修. オンライン. 2021年12月2日.
 33. 宮田世羽: 杏林大学での長時間ビデオ脳波同時記録の活用状況. 三鷹てんかん・脳波セミナー. オンライン. 2022年2月10日.
 34. 鵜田雅俊: Comfortable Ventilation ~ NAVA&NIV-NAVA~. 第128回多摩新生児懇話会. オンライン. 2021年2月16日.
 35. 田中佐和子, 布川紗彩, 川原亜友美, 木内善太郎, 保崎明, 吉野浩, 成田雅美: 腸管出血性大腸菌O80による溶血性尿毒症症候群の一例. 第133回多摩小児科臨床懇話会. オンライン. 2022年2月18日.
 36. 鵜田雅俊: NAVApedia. 第4回NAVAワークショップ. オンライン. 2022年2月26日.

37. 成田雅美：小児喘息関連．第14回Oedo Pediatrics Conference．東京・オンライン．2022年3月3日．
 38. 宮田世羽：WDR81遺伝子の新規複合ヘテロ接合性変異による小滑脳症の一例．第76回日本小児神経学会関東地方会．オンライン．2022年3月12日．
 39. 成田雅美：実習「必ず役立つ！！吸入指導のポイント（成人・小児）」責任者．第8回総合アレルギー講習会．横浜．2022年3月26日，27日．
地域の講演会・一般向け公開講座
 1. 成田雅美：食物アレルギー（小児のアレルギーを中心に）．栄養管理講習会．オンライン．2021年6月17日．
 2. 成田雅美：食物アレルギーの基礎的な知識と対応について．都保健所アレルギー講演会．オンライン．2021年7月9日．
 3. 細井健一郎：医療的ケアにおける注意点．東京都立府中けやきの森学園 職員研修会．府中市．2021年7月30日．
 4. 成田雅美：小児アレルギーと小児アトピー性皮膚炎についての最新の知見．鳥居薬品株式会社 社内勉強会．オンライン．2021年9月8日．
 5. 成田雅美：アレルギーの基礎知識と保育所等における対応．令和3年度アレルギー対応セミナー．オンライン．2021年10月21日．
 6. 川口明日香：アレルギーの専門家から学ぼう！スキンケア虎の巻．市民公開講座 今日からできる！乳幼児のスキンケア．オンライン．2021年10月24日．
 7. 成田雅美：子どもの食物アレルギーについての正しい理解と対応～「授乳・離乳の支援ガイド」2019年改定の背景も含めて～．母子保健セミナー～子どもの免疫とアレルギー～．横浜．2021年11月11日．
 8. 川口明日香：子どもの食物アレルギー～離乳食を始める前の基礎知識～三鷹市市民食育講座．三鷹市総合保健センター．三鷹市．2021年12月13日．
- 論文**
英語論文
1. Kiguchi T¹, Yamamoto-Hanada K¹, Saito-Abe M¹, Sato M¹, Irahara M¹, Ogita H¹, Miyagi Y¹, Inuzuka Y¹, Toyokuni K¹, Nishimura K¹, Ishikawa F¹, Miyaji Y¹, Kabashima S¹, Fukuie T¹, Narita M, Ohya Y¹(¹National Center for Child Health and Development) :Pollen-food allergy syndrome and component sensitization in adolescents: A Japanese population-based study. PLoS One.16(4).e0249649.2021.
 2. Morita K¹, Yasudo H^{1,2}, Chiba T^{1,3}, Kitazawa H^{1,4}, Narita M, Yamamoto-Hanada K¹, Miyai M⁵, Kishimoto J⁵, Shibata M⁵, Hibino T⁵, Ohya Y¹(¹National Center for Child Health and Development,²Yamaguchi University,³Nakadori General Hospital,⁴Tohoku Medical and Pharmaceutical University,⁵Shiseido Research Center):Seasonal variability of epidermal Bleomycin Hydrolase activity in healthy children and pediatric patients with atopic dermatitis. J Dermatol Sci. 102(2).137-139. 2021.
 3. Yoshida K¹, Shirane S², Kinoshita K¹, Morikawa E¹, Matsushita S³, Toda M⁴, Nakajima-Adachi H⁵, Akasawa A¹, Narita M(¹Tokyo Metropolitan Children's Medical Center,²Machida Municipal Hospital,³Japanese Red Cross Medical Center,⁴Tohoku University,⁵The University of Tokyo):Macadamia nut allergy in children: Clinical features and cross-reactivity with walnut and hazelnut. Pediatr Allergy Immunol. 32(5).1111-1114. 2021.
 4. Yoshida M¹, Miyahara Y², Orimo K³, Kono N¹, Narita M, Ohya Y⁴, Matsumoto K³, Nakagawa S², Ueki S⁵, Morita H³, Miyairi I¹(¹Department of Medical Subspecialties,²Department of Critical Care and Anesthesia,³National Research Institute for Child Health and Development,⁴National Center for Child Health and Development,⁵Akita University):Eosinophil Extracellular Traps in the Casts of Plastic Bronchitis Associated With Influenza Virus Infection. Chest. 160(3).854-857. 2021.
 5. Kajita N¹, Miyama S¹, Kinoshita K¹, Yoshida K¹, Narita M(¹Tokyo Metropolitan Children Medical Center): Green tea-induced anaphylaxis: The first pediatric case report. Allergology International. 70(4).507-508.2021.
 6. Nagata N¹, Hamasaki Y¹, Inagaki S², Nakamura T¹, Horikami D¹, Yamamoto-Hanada K², Inuzuka Y², Shimosawa T³, Kobayashi K¹, Narita M, Ohya Y², Murata T¹(¹The University of Tokyo,²National Center for Child Health and Development,³International University of Health and Welfare):Urinary lipid profile of atopic dermatitis in murine model and human patients.FASEB J. 35(11). e21949. 2021.
 7. Inagaki S^{1,2}, Nakamura T³, Natsume O^{1,4}, Yamamoto-Hanada K¹, Fukuie T¹, Narita M, Shimosawa T⁵, Murata T², Ohya Y¹(¹National Center for Child Health and Development,²Nippon Medical School,³The University of Tokyo,⁴Hamamatsu University School of Medicine,⁵International University of Health and Welfare):Urinary prostaglandin D₂ metabolite appears to be a useful biomarker for evaluating the status of egg oral immunotherapy in children.J Allergy Clin Immunol Pract. 9(11).4164-4166. 2021.
 8. Ogihara A ,Miyata Y, Hosaki A ,Narita M ,Yan K : A Japanese case of multisystem inflammatory syndrome in children. Pediatr Int. 64(1). e14869. 2022.
 9. Kajita N¹, Futagawa H¹, Yoshihashi H¹, Yoshida K¹, Narita M(¹Tokyo Metropolitan Children's Medical Center): Two cases of an infant with Down syndrome with solid food protein-induced enterocolitis syndrome. Pediatr Int. 64(1).e14732. 2022.
 10. Yoshino H, Gemma Y, Miyazawa N, Bessho F, Yan K.Therapy-related acute megakaryoblastic leukemia with severe myelofibrosis. Pediatr Int. 64(1).e14842. 2022.
 11. Kiuchi Z, Monica Reyes¹, Harald Jüppner(¹Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, USA):Preferential Maternal Transmission of STX16-GNAS Mutations Responsible for Autosomal Dominant Pseudohypoparathyroidism Type Ib (PHP1B): Another Example of Transmission Ratio Distortion.J Bone Miner Res. 36(4).696-703.

2021.

12. Kiuchi Z, Monica Reyes¹, Arnold S Brickman², Harald Jüppner¹(¹ Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, USA, ²School of Medicine University of California Los Angeles Los Angeles CA USA): A Distinct Variant of Pseudohypoparathyroidism (PHP) First Characterized Some 41 Years Ago Is Caused by the 3-kb STX16 Deletion. *JBMR Plus*. 5(7).e10505. 2021.
13. Kiuchi Z, Monica Reyes¹, Patrick Hanna¹, Anu Sharma², Terry DeClue³, Robert C Olney⁴, Peter Tebben⁵, Harald Jüppner¹(¹Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, USA, ²University of Utah School, USA, ³St Joseph's Children's Hospital, USA, ⁴Nemours Children's Specialty Care, USA, ⁵Mayo Clinic, USA.): Progression of PTH Resistance in Autosomal Dominant Pseudohypoparathyroidism Type Ib Due to Maternal STX16 Deletions. *J Clin Endocrinol Metab*. 107(2).e681-e687. 2022.
14. Angelo Milioto¹, Monica Reyes¹, Patrick Hanna¹, Kiuchi Z, Serap Turan², Daniel Zeve³, Chhavi Agarwal⁴, Giedre Grigelioniene⁵, Any Chen⁶, Veronica Mericq⁷, Myrto Frangos⁸, Svetlana Ten⁹, Giovanna Mantovani^{10,11}, Isidro B Salusky¹², Peter Tebben¹³, Harald Jüppner^{1,14}(¹Department of Medicine, Boston, USA, ²Marmara University Faculty of Medicine, Turkey, ³Boston Children's Hospital, USA, ⁴Pediatric Endocrinology of New York, USA, ⁵Karolinska University Hospital Stockholm, Sweden, ⁶Arizona Kidney Disease and Hypertension Center, USA, ⁷University of Chile, ⁸Children's Endocrine Care, USA, ⁹Richmond University Medical Center, USA, ¹⁰Fondazione IRCCS Ca' Granda Ospedale Italy, ¹¹University of Milan, Italy, ¹²University of California Los Angeles, USA, ¹³Mayo Clinic, USA, ¹⁴Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, USA): Lack of GNAS remethylation during oogenesis may be a cause of sporadic pseudohypoparathyroidism type Ib. *J Clin Endocrinol Metab*. 107(4).e1610-e1619. 2022.

和文論文

1. 古川真弓¹, 成田雅美 (1さいわいこどもクリニック): 【乳幼児健診実践ガイド】専門家からのアドバイス 領域的に アレルギー. 小児科診療. 84巻5号. 655-661. 2021.
2. 佐伯秀久¹, 大矢幸弘², 古田淳, 荒川浩一⁴, 市山進¹, 勝沼俊雄⁵, 加藤則人⁶, 田中暁生⁷, 常深祐一郎⁸, 中原剛士⁹, 長尾みづほ¹⁰, 成田雅美, 秀道広⁷, 藤澤隆夫¹⁰, 二村昌樹¹¹, 益田浩司¹², 松原知代¹³, 室田浩之¹⁴, 山本貴和子² (1日本医科大学, ²国立成育医療研究センター, ³筑波大学, ⁴希望の家附属北関東アレルギー研究所, ⁵東京慈恵会・医・第三病院, ⁶京都府立大学, ⁷広島大学, ⁸埼玉医科大学, ⁹九州大学, ¹⁰三重病院, ¹¹名古屋医療センター, ¹²京都府立大学, ¹³獨協医科大学, ¹⁴長崎大学): アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021. アレルギー. 70(10). 1257-1342. 2021年.
3. 細井健一郎: 特集 重症心身障害・神経筋疾患の呼吸管理 NICU退院後の在宅呼吸管理の実際. 小児

科. 62巻11号. 1305-1311. 2021.

4. 川口明日香: 【食物アレルギー-変わる常識と新たなクリニカルパール】魚を食べて蕁麻疹が出たら、魚アレルギーか? . 小児内科. 53巻6号. 995-996. 2021.
5. 川口明日香: アレルギー疾患 アトピー性皮膚炎. 小児内科. 53巻(増刊号). 843-848. 2022.
6. 木内善太郎, 小椋雅夫, 塩原拓実, 齋藤祐貴, 岡本礼子, 北村正幸, 堤義之, 宮坂実木子, 野坂俊介, 伊藤秀一, 宮崎治: [画像診断] 今月の症例 慢性再発性多発性骨髄炎. 小児科臨床. 74(7). 809-813. 2021.
7. 濱野翔, 成田雅美: 乳児アトピー性皮膚炎に対する早期寛解導入療法とプロアクティブ療法. アレルギーを予防しよう 乳児アトピー性皮膚炎に対する早期寛解導入療法とプロアクティブ療法. チャイルドヘルス. 25(1). 28-31. 2022.
8. 濱野翔: アレルギー疾患. 特集:ここまで進歩した生物学的製剤と分子標的薬. 小児科. 63(2). 183-191. 2022.

著書

1. 成田雅美(分担執筆): 15気管支喘息治療薬. 16抗アレルギー薬. 新 小児薬用量 改訂第9版. 岡田, 木津純子編集. 診断と治療社. 2021. 176-201.

その他

1. 成田雅美: アレルギーエデュケーター制度やその活動内容について. 一般財団法人日本気象協会. Web取材. 2021年4月15日.
2. 成田雅美: 巻頭言. 東京小児科医会報. 40(1). 2021.
3. 成田雅美: 小児医療最前線『授乳・離乳の支援ガイド』改定のポイント. 小児科医療定期情報誌「そんりーさ25号」. 凸版印刷株式会社. 7-8.
4. Masami Narita: Viral Infections, Antibody Production, and Herd Immunity. CHILD RESEARCH NET. 2022.2.18. https://www.childresearch.net/papers/health/2022_01.html
5. 成田雅美: 第131回多摩小児科臨床懇話会開催. オンライン. 2021年7月2日.
6. 成田雅美: 第132回多摩小児科臨床懇話会開催. オンライン. 2021年10月22日.
7. 成田雅美: 第133回多摩小児科臨床懇話会開催. オンライン. 2022年2月18日.
8. Kiuchi Z, Monica Reyes, Arnold S Brickman, Harald Jüppner: A distinct variant of pseudohypoparathyroidism (PHP) first characterized some 41 years ago is caused by the 3-kb STX16 deletion. The American Society of Bone and Mineral Research (ASBMR) 2021 Annual Meeting. USA・Online. October 1-4. 2021. (Plenary ePosters選出).

消化器・一般外科学教室

講演

1. 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 正木忠彦, 森俊幸, 須並英二, 阿部展次, 杉山政則, 阪本良弘: IPMNにおけるガイドライン2017の検証 術式選択・至適郭清範囲について. 第51回日本膵臓学会大会. オンライン. 2021年1月8日.

2. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 磯部聡史, 石井俊, 正木忠彦, 須並英二: 腹腔鏡直腸癌手術DST症例に対して術中内視鏡の有効性の検討. 第94回大腸癌研究会. 東京・オンライン. 2021年1月22日.
3. Matsuki R, Kogure M, Arai T, Suzuki Y, Sakamoto Y: Conversion surgery for advanced hepatocellular carcinoma induced by Lenvatinib. EWALT. オンライン. 2022. 2.12.
4. 小暮正晴, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: Partial rescue ALPPSを併用した中肝静脈再建を伴う左肝切除. 多摩高侵襲 Online meeting. オンライン. 2021年2月16日.
5. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 石井俊, 磯部聡史, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 正木忠彦, 須並英二: 腹腔鏡下大腸癌手術DST吻合症例での術中内視鏡の有用性と術中対応の検討. 第17回日本消化管学会総会学術集会. 大阪・オンライン. 2021年2月20日.
6. Sakamoto Y, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Suzuki Y, Mori T: Central hepatectomy combined with caudate resection using IVC half clamping technique for a large HCC. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会. オンライン. 2021年2月23-24日.
7. Suzuki Y, Momose K, Matsuki R, Kogure M, Mori T, Sakamoto Y: Pancreatic cut margin status and prognosis of 92 patients undergoing surgery for IPMN. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会. オンライン. 2021年2月23-24日.
8. Suzuki Y, Mizuno H, Matsuki R, Kogure M, Yokoyama M, Nakazato T, Nagao G, Masaki T, Sunami E, Mori T, Abe N, Sugiyama M, Sakamoto Y: Ornithine prevents development of pancreatic fistula after pancreatoduodenectomy. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会. オンライン. 2021年2月23-24日.
9. Kogure M, Matsuki R, Nakazato T, Suzuki Y, Mori T, Sakamoto Y. Investigation of early postoperative enteral nutrition after pancreatoduodenectomy. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会. オンライン. 2021年2月23-24日.
10. Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Suzuki Y, Mori T, Sakamoto Y. Safety of 'no drain' policy in combination with bile leakage test after hepatectomy. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会. オンライン. 2021年2月23-24日.
11. 小暮正晴, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: Partial TIPE ALPPSを併用した中肝静脈再建を伴う左肝切除の経験. 第10回外科学 Update Seminar. オンライン. 2021年2月25日.
12. 大木亜津子, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 阿部展次: 胃癌ESD中の穿孔は胃内遊離癌細胞腹腔内散布の危険性がある. 第93回日本胃癌学会. オンライン. 2021年3月4日.
13. 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 森俊幸, 須並英二, 阿部展次, 阪本良弘: 脾頭十二指腸切除術における術前イラストによる脈管イメージングの有用性. 第5回日本メディカルイラストレーション学会学術集会・総会. オンライン. 2021年3月7日.
14. 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 胃粘膜下腫瘍に対する筋層以深内視鏡切除の周術期管理. 第93回日本胃癌学会総会. オンライン. 2021年3月5日.
15. Atsuko Ohki, Masanao Tsurumi, Yoshikazu Hashimoto, Gen Nagao, Hirohisa Takeuchi, Tadahiko Masaki, Toshiyuki Mori, Yoshihiro Sakamoto, Eiji Sunami, Nobutsugu Abe: Can spillage of gastric content increase a risk for intraperitoneal cancer cell seeding?. 第33回日本内視鏡外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年3月10日-13日.
16. Funakoshi S, Suzuki Y, Mori T, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Masaki T, Sunami E, Abe N, Sakamoto Y. Short-term results of laparoscopic distal pancreatectomy for benign and low-grade malignant lesions. 第33回日本内視鏡外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年3月10-13日.
17. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 磯部聡史, 石井俊, 正木忠彦, 須並英二: 腹腔鏡下左側大腸癌手術において縫合不全対策としての術中内視鏡の有効性の検討. 第33回日本内視鏡外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年3月10-13日.
18. 石井俊, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 阪本良弘, 阿部展次, 正木忠彦, 須並英二, 森俊幸: 大腸癌・胃癌の同時性重複癌に対する腹腔鏡下同時切除の有用性について. 第33回日本内視鏡外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年3月10日-13日.
19. 中村優紀, 鈴木裕, 山崎彩, 石井俊, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 森俊幸, 阪本良弘: Edwardsiella tardaによる膿瘍を形成した鼠径部感染性腫瘍の一切除例. 第57回日本腹部救急医学会総会. オンライン. 2021年3月11-12日.
20. 大森春祐, 松木亮太, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 脾頭部動静脈奇形による十二指腸潰瘍からの出血に対し二期的脾管再建法を用いて緊急脾頭十二指腸切除術を施行した一例. 第57回日本腹部救急医学会総会. オンライン. 2021年3月11-12日.
21. 後藤充希, 小暮正晴, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 吉池信也, 柴原純二, 須並英二, 阿部展次, 阪本良弘: 漏出性胆汁性腹膜炎に対して緊急開腹術を施行した1例. 第57回日本腹部救急医学会総会. オンライン. 2021年3月11-12日.
22. Hirohisa Takeuchi, Masanao Tsurumi, Yoshikazu Hashimoto, Atsuko Ohki, Gen Nagao, Tadahiko Masaki, Toshiyuki Mori, Nobutsugu Abe: Endoscopic SEMS placement for malignant ALO after gastric cancer Roux-en-Y reconstruction. 第33回日本内視鏡外科学会総会. オンライン. 2021年3月12日.
23. Takagi T, Mori T, Nozawa T: Aging degradation of the monitors in laparoscopic surgery, and its relevance to surgical performance. 第33回日本内視鏡外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年3月12日.
24. 江口祐介, 小暮正晴, 吉田智幸, 磯部聡史, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 望月康晃, 細井温, 笹嶋寛史, 阪本良弘: 血行再建後に切除を行った閉塞性動脈硬化症合併肝門部領域胆管癌の一手術例. 第859回外科集談会. オンライン. 2021年3月27日.
25. 後藤充希, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 水谷友紀, 古瀬純司, 大森嘉彦, 柴原純二,

- 須並英二：集学的治療により肛門温存が可能となった直腸GISTの一例。オンライン。第859回外科集談会。2021年3月27日。
26. 竹内弘久，阿部展次，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，阪本良弘，須並英二，正木忠彦，森俊幸：医療機器開発「己の実力を知り、情熱があればできる」こんな凡才の僕にもできるのだから。第121回日本外科学会定期学術集会。オンライン。2021年4月8日。
 27. 下山勇人，藤澤顕徳，小川雄介，矢後彰一，大倉遊，浦辺雅之，春田周宇介，上野正紀，宇田川晴司：再建の観点からみた食道癌術後縫合不全に関わる物理的因子の検討。第121回日本外科学会学術集会。オンライン。2021年4月8日-10日。
 28. 松木亮太，百瀬博一，小暮正晴，鈴木裕，森俊幸，阪本良弘。NCD risk calculatorを用いた80歳以上の高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の評価と実際。第121回日本外科学会定期学術集会。オンライン。2021年4月8-10日。
 29. 吉敷智和，正木忠彦，小嶋幸一郎，若松喬，麻生喜祥，飯岡愛子，石井俊，磯部聡史，森俊幸，阪本良弘，阿部展次，萬知子，長谷川浩，須並英二：高齢者は術後に何を失い、どこまで改善するのか？。第121回日本外科学会定期学術集会。幕張・オンライン。2021年4月8-10日。
 30. 小暮正晴，百瀬博一，松木亮太，鈴木裕，森俊幸，阪本良弘：肝外側区域における左肝静脈の走行とのintersegmental planeの関係－155例の3D-CT画像の解析から－。第121回日本外科学会定期学術集会。オンライン。2021年4月9日。
 31. 鈴木裕，水野英彰，松木亮太，小暮正晴，正木忠彦，森俊幸，須並英二，阿部展次，杉山政則，阪本良弘：遊離アミノ酸・オルニチンの膵頭十二指腸切除後膵瘻の予防効果。第121回日本外科学会定期学術集会。オンライン。2021年4月10日。
 32. 杉山政則，松木亮太，百瀬博一，小暮正晴，鈴木裕，森俊幸，阪本良弘，阿部展次：膵癌における腸回転解除法を用いた膵頭十二指腸切除術。第121回日本外科学会定期学術集会。オンライン。2021年4月10日。
 33. 田中佑治，大木亜津子，鶴見賢直，橋本佳和，長尾玄，竹内弘久，鈴木裕，阪本良弘，須並英二，阿部展次：若年女性の家族性大腸腺腫症に発生した胃底線ポリポースを伴う早期胃癌の1例。日本消化器病学会関東支部第364回例会。オンライン。2021年4月24日。
 34. 竹内弘久，阿部展次，大木亜津子，鶴見賢直，橋本佳和，長尾玄，阪本良弘，須並英二，正木忠彦，森俊幸：胃癌悪性輸入脚閉塞症に対する内視鏡的消化管金属ステント留置術(step法)。第101回日本消化器内視鏡学会総会。オンライン。2021年5月14日。
 35. 竹内弘久，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，阪本良弘，須並英二，阿部展次：胃癌悪性輸入脚閉塞症に対する経口摂取を可能とする緩和医療：内視鏡的自己拡張型金属ステント留置術(step法)。第12回日本臨床代謝栄養学会・首都圏支部学術集会。オンライン。2021年5月15日。
 36. 阿部展次：胃部分切除におけるEFTRの位置づけ。第2回胃粘膜下腫瘍の内視鏡的切除に関する研究会。京都。2021年5月16日。
 37. 竹内弘久，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，阪本良弘，須並英二，正木忠彦，森俊幸，阿部展次：胃粘膜下腫瘍に対する筋層以深内視鏡切除の周術期管理。第2回胃粘膜下腫瘍の内視鏡切除に関する研究会。オンライン。2021年5月16日。
 38. 竹内弘久，佐藤大，齋藤康一郎，甲能直幸，阿部展次：頭頸部腫瘍に対する内視鏡下経口切除術の有用性について。第43回日本局所療法研究会。オンライン。2021年5月21日。
 39. 竹内弘久：十二指腸および胃切除後に対する消化管ステント留置のコツ。Next Web Symposium。オンライン。2021年5月28日。
 40. Suzuki Y, Mori T, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Sakamoto Y. Surgical treatment for choledocholithiasis. 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会。オンライン。2021年6月2-3日。
 41. Kogure M, Momose H, Matsuki R, Suzuki Y, Sakamoto Y. Rescure partial ALPPS for left hemihepatectomy with resection and reconstruction of the middle hepatic vein in a patient with intrahepatic cholangiocarcinoma. 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会。オンライン。2021年6月2-3日。
 42. Matsuki R, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y. Bisegmentectomy and venous reconstruction after portal vein embolization for the remnant hemiliver in patient with recurrent colorectal liver metastasis. 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会。オンライン。2021年6月2-3日。
 43. 竹内弘久，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，阿部展次：胃粘膜下腫瘍に対する筋層以深内視鏡切除における周術期管理の標準化に向けて。第112回日本消化器内視鏡学会関東支部会例会。オンライン。2021年6月13日。
 44. 麻生喜祥，小島洋平，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，鈴木裕，大野亜希子，久松理一，柴原純二，村元喬，大園研，香田弘知，森川鉄平，阪本良弘，阿部展次：十二指腸腺腫および腺癌の臨床病理学的検討。第112回日本消化器内視鏡学会関東支部会例会。オンライン。2021年6月13日。
 45. 片岡功，吉敷智和，小嶋幸一郎，麻生喜祥，飯岡愛子，若松喬，金翔哲，石井俊，磯部聡史，森俊幸，阪本良弘，阿部展次，正木忠彦，須並英二：SSI対策としての腹腔鏡下大腸癌手術での術中内視鏡の有用性の検討。第46回日本外科系連合学会学術集会。東京・オンライン。2021年6月17日-19日。
 46. 金翔哲，吉敷智和，小嶋幸一郎，麻生喜祥，飯岡愛子，若松喬，片岡功，森俊幸，阪本良弘，阿部展次，萬知子，長谷川浩，正木忠彦，須並英二：第46回日本外科系連合学会学術集会。東京・オンライン。2021年6月17日-19日。
 47. 片岡功，吉敷智和，小嶋幸一郎，麻生喜祥，飯岡愛子，若松喬，金翔哲，磯部聡史，石井俊，阪本良弘，阿部展次，須並英二：高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の実状と問題点。旭川・オンライン。第95回大腸癌研究会。2021年7月1日-2日。
 48. 竹内弘久，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，阪本良弘，須並英二，正木忠彦，森俊幸，阿部展次：成人女性鼠径管内嚢胞性腫瘍に対する検討。第76回日本消化器外科学会総会。オンライン。2021年7月7日。
 49. 橋本佳和：消化管外科手術と周術期感染症。第8回多摩がんと感染症薬物療法研究会（特別講演）。三鷹市・オンライン。2021年7月7日。
 50. 磯部聡史，吉敷智和，小嶋幸一郎，麻生喜祥，若松喬，森俊幸，阪本良弘，阿部展次，正木忠彦，須並英二：クローン病に対する手術症例の検討。第76回

- 日本消化器外科学会総会．京都・オンライン．2021年7月7日-9日．
51. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 片岡功, 金翔哲, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 正木忠彦, 須並英二: 腹腔鏡手術DST症例に対して術中内視鏡の有効性の検討. 第76回日本消化器外科学会総会. 京都・オンライン. 2021年7月7-9日.
 52. 小暮正晴, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 肝尾状葉下大静脈部の腫瘍に対する肝実質を温存した切除方法-部分切除とCentral hepatectomy. 第76回日本消化器外科学会. 京都・オンライン. 2021年7月7-9日.
 53. 下山勇人, 藤澤顕徳, 小川雄介, 矢後彰一, 大倉遊, 浦辺雅之, 春田周宇介, 上野正紀, 宇田川晴司: 食道癌術後の縫合不全と吻合部の位置の検討. 第78回日本消化器外科学会学術集会. 京都・オンライン. 2021年7月7日-9日.
 54. 松木亮太, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 森俊幸, 須並英二, 阿部展次, 阪本良弘: 脾静脈合併切除を伴う膵頭十二指腸切除術における脾静脈-門脈直接吻合による脾静脈再建法. 第76回日本消化器外科学会総会. オンライン. 2021年7月7日-9日.
 55. 阿部展次: EFTRの現状と展望. 第38回EGMR研究会. オンライン. 2021年7月9日.
 56. 下山勇人, 藤澤顕徳, 小川雄介, 矢後彰一, 大倉遊, 浦辺雅之, 春田周宇介, 上野正紀, 宇田川晴司: 食道癌に対する食道切除後の縫合不全と術前栄養状態の検討. 第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 神戸・オンライン. 2021年7月21日-22日.
 57. 小暮正晴, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: Rescue partial ALPPSを併用した中肝静脈再建を伴う左肝切除. 第57回日本肝癌研究会. 鹿児島. オンライン. 2021年7月22日.
 58. 松木亮太, 吉田智幸, 新井孝明, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 80歳以上の高齢者における原発性肝癌に対する肝切除術の安全性. 第57回日本肝癌研究会. オンライン. 2021年7月22-23日.
 59. 百瀬博一, 松木亮太, 河合桐男, 成毛大輔, 小暮正晴, 中里徹矢, 関里和, 岡野尚弘, 川村直弘, 大森嘉彦, 鈴木裕, 久松理一, 菅間博, 柴原純二, 古瀬純司, 森俊幸, 阪本良弘: 肺転移を伴った高度進行肝細胞癌に対するレンパチニブ療法後にConversion surgeryを施行し病理学的完全寛解が得られた1例. 第57回肝癌研究会. オンライン. 2021年7月22日-23日.
 60. Suzuki Y: Complicated gallstone and CBD stones. IHPBA V-REACH PROGRAM. オンライン. Aug 12, 2021.
 61. 松木亮太, 岡野尚弘, 吉田智幸, 新井孝明, 権藤興一, 渡邊俊介, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 古瀬純司, 阪本良弘: 局所進行膵癌に対する化学療法後の外科的切除の意義. 第48回日本膵切研究会. オンライン. 2021年8月27-28日.
 62. 鈴木裕, 新井孝明, 松木亮太, 小暮正晴, 阪本良弘: 液晶タブレットを使ったイラスト作成とオペレコの工夫-術前オペレコと術後オペレコ-. 第48回日本膵切研究会. オンライン. 2021年8月28日.
 63. 吉田智幸, 松木亮太, 新井孝明, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 膵頭十二指腸切除術における直接的な脾静脈再建と左側門脈圧亢進症への影響について. 第48回日本膵切研究会. オンライン. 2021年8月28日.
 64. 杉山政則, 松木亮太, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次: 腸回転解除法によってmesopancreasを可視化する. 第48回日本膵切研究会. オンライン. 2021年8月28日.
 65. Kojima Y, Wong H, Kuchta K, Denham W, Haggerty S, Linn J, Ujiki M: RESIDENT PERFORMANCE IN SIMULATION MODULE IS CORRELATED WITH OPERATING ROOM PERFORMANCE FOR LAPAROSCOPIC CHOLECYSTECTOMY. Society of American Gastrointestinal & Endoscopic Association SAGES. USA. August 31st. 2021.
 66. Kojima Y, Wong H, Kuchta K, Denham W, Haggerty S, Linn J, Ujiki M: SUBJECTIVE VS OBJECTIVE ASSESSMENT OF SIMULATION PERFORMANCE ON LAPAROSCOPIC CHOLECYSTECTOMY: ARE WE EVALUATING THE RIGHT THINGS? Society of American Gastrointestinal & Endoscopic Association SAGES. USA. August 31st. 2021.
 67. 小暮正晴, 新井孝明, 松木亮太, 鈴木裕, 阪本良弘: 蛍光プロジェクションマッピング Medical Imaging Projection System (MIPS)を用いた系統的肝切除の経験. 第15回肝癌ナビゲーション研究会. 徳島・オンライン. 2021年9月4日.
 68. 吉敷智和: 電気手術機器の理論と基礎. 第17回腹腔鏡下手術の理論と基礎. オンライン. 2021年9月5日.
 69. 小島洋平, 阿部展次: ROBOTIC, LAPAROSCOPIC, OPEN PROCEDURES; HOW SHOULD THE GENERAL SKILLS OF YOUNG RESIDENTS BE NOW? 第29回日本消化器関係学会週間JDDW2021. 神戸. 2021年9月8日.
 70. 新井孝明, 鈴木裕, 服部健人, 吉田智幸, 松木亮太, 小暮正晴, 土岐真朗, 藤原正親, 柴原純二, 阪本良弘: 胆管原発の小細胞型神経内分泌がんに対する切除経験-cStage I症例に対する膵頭十二指腸切除-. 第9回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会JNETS. 福岡. 2021年9月11日.
 71. 斎藤勇利, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 加藤敦, 松浦稔, 久松理一, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: S状結腸癌術後・化学療法後に発症したCronkhite-Canada症候群の1例. 東京・オンライン. 2021年9月11日.
 72. 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 伊佐山浩通, 田妻進, 田中篤, 阪本良弘: 膵・胆管合流異常および先天性胆道拡張症術後肝内結石症の治療成績. 第44回日本膵・胆管合流異常研究会. 静岡・オンライン. 2021年9月11日.
 73. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 悪性(胃癌)輸入脚閉塞症に対する内視鏡的自己拡張型金属ステント留置術の工夫. 第366回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2021年9月18日.
 74. 田中佑治, 鈴木裕, 服部健人, 吉田智幸, 新井孝明, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 術後9年目に再発したIPMCに対し根治切除しえた1切除例. 日本消化器病学会関東支部第366回例会. オンライン. 2021年9月18日.
 75. 矢那瀬拓哉, 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 若松喬, 金翔哲, 石井俊, 磯部聡史, 岡野尚弘, 古瀬純司, 川村直弘, 森秀明, 久松理一, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘, 阿部展次,

- 須並英二：結腸人工肛門に発症した出血性人工肛門静脈瘤に対して経皮経肝的静脈瘤塞栓術が奏功した1例．日本消化器病学会関東支部第366回例会．オンライン．2021年9月18日．
76. 吉敷智和：オストメイト講習会 大腸癌治療に関して．消化器系ストーマのオストメイト講習会（東京都社会適応訓練事業）．東京．2021年9月19日．
 77. 松木亮太，岡野尚弘，新井孝明，渡邊俊介，小暮正晴，土岐真朗，鈴木裕，久松理一，古瀬純司，阪本良弘：膵癌治療のパラダイムシフトに向けた展望局所進行膵癌に対する化学療法後の切除は積極的に導入すべきか？．第52回日本膵臓学会大会．オンライン2021年9月23日．
 78. 大木亜津子：幽門側胃切除術 B-1法再建時の縫合不全に対するネオペールの使用経験．第5回多摩地区消化器外科手術セミナー．オンライン．2021年9月28日．
 79. 竹内弘久：放射線治療後の局所遺残再発食道癌に対する光線力学的療法（Photodynamic Therapy:PDT）．第23回多摩外科がんフォーラム．2021年10月2日．
 80. 神林孔明，渡邊俊介，土岐真朗，北田修一，野坂岳志，後藤知之，落合一成，権藤興一，松木亮太，小暮正晴，鈴木裕，阪本良弘，久松理一：高齢者総胆管結石症内視鏡治療例における入院前居住環境への退院困難因子の検討．第57回日本胆道学会学術集会．東京・オンライン．2021年10月7日．
 81. 鈴木裕，森俊幸，新井孝明，百瀬博一，松木亮太，小暮正晴，杉山政則，伊佐山浩通，田妻進，田中篤，滝川一：肝内結石に合併する異時性肝内胆管癌の予測因子—多施設コホート調査から—．第57回日本胆道学会学術集会．東京・オンライン．2021年10月8日．
 82. 山崎彩，鈴木裕，百瀬博一，松木亮太，小暮正晴，森俊幸，阪本良弘：腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるCystic plate approachの有用性について．第57回日本胆道学会学術集会．東京・オンライン．2021年10月8日．
 83. 蓮井宣宏，坂口勝久，小川徹也，阪本良弘，清水達也：細胞シート工学を用いたin vitro NASH線維化モデルの開発．第2回細胞シート工学イノベーションフォーラム．東京．2021年11月1日．
 84. 大木亜津子，竹内弘久，阿部展次：十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の成績．第29回JDDW．神戸・オンライン．2021年11月4日．
 85. 竹内弘久，橋本佳和，大木亜津子，阿部展次：筋層由来胃GISTに対する内視鏡的全層切術．JDDW2021．オンライン．2021年11月4日．
 86. 麻生喜祥，小島洋平，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，鈴木裕，大野亜希子，久松理一，柴原純二，村元喬，大園研，香田弘知，森川鉄平，阪本良弘，阿部展次：十二指腸腫瘍における粘液形質別の臨床病理学的特徴の検討．JDDW2021．オンライン．2021年11月5日．
 87. 大木亜津子，小島洋平，鶴見賢直，橋本佳和，竹内弘久，鈴木裕，阪本良弘，須並英二，菅間博¹，阿部展次¹（杏林大学病理）：胃癌手術時の自動縫合器に癌細胞は付着しているのか-縫合器の洗浄細胞診-．先進内視鏡治療研究会J-CASE．オンライン．2021年11月6日．
 88. 橋本佳和，阿部展次，布部創也，川久保博文，住吉撤哉，吉田尚弘，森田圭紀，寺島雅典，佐瀬善一郎，山口紀子，大辻英吾，布袋屋修，山下晴弘，藤村隆，小山恒男，大園研，七條智聖，田邊和照，首藤潔彦，池谷敬，篠原尚，田邊聡，比企直樹：胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の有用性に関する多施設症例集積研究．第22回日腹腔鏡内視鏡合同手術研究会（基調報告）．オンライン．2021年11月6日．
 89. 片岡功，吉敷智和，小嶋幸一郎，麻生喜祥，飯岡愛子，若松喬，金翔哲，磯部聡史，石井俊，阪本良弘，阿部展次，須並英二：高齢者StageIII大腸癌に対する術後補助化学療法の現状と問題点．東京・オンライン．2021年11月18日-20日．
 90. 若松喬，吉敷智和，麻生喜祥，飯岡愛子，片岡功，金翔哲，石井俊，磯部聡史，阪本良弘，阿部展次，須並英二：術前放射線化学療法が著効しWatch and Waitの方針とした下部直腸癌の3症例．第83回日本臨床外科学会総会．東京・オンライン．2021年11月18日-20日．
 91. 松木亮太，小暮正晴，新井孝明，鈴木裕，阪本良弘：肝切除におけるIVC half clamping の適応と評価．第83回日本臨床外科学会総会．東京・オンライン．2021年11月20日．
 92. 鈴木裕，森俊幸，新井孝明，松木亮太，小暮正晴，伊佐山浩通，田妻進，田中篤，阪本良弘：第42回胆汁酸研究会．広島・オンライン．2021年11月27日．
 93. 鈴木裕，山崎彩，松木亮太，小暮正晴，鈴木裕，阿部展次，須並英二，阪本良弘：術前因子を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術のdifficulty score．第34回日本内視鏡外科学会総会．神戸・オンライン．2021年12月2日．
 94. 麻生喜祥，大塚弘毅，小島洋平，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，鈴木裕，大野亜希子，久松理一，阪本良弘，柴原純二，大西宏明，阿部展次：病期分類別にみた十二指腸腺癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討．第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会．オンライン．2021年12月5日．
 95. 荒井奈緒子，新井孝明，鈴木裕，森俊幸，阪本良弘：遺残胆嚢管結石を完全鏡視下手術で治療し得た1例．第862回外科集談会．オンライン．2021年12月18日．

論文

1. Masaki M¹, Matsuoka H, Kishiki T, Kojima K, Tonari A, Aso N, Beniya A, Iioka A, Wakamatsu T, Sunami E¹(Department of Surgery, Kyorin University): Site-specific risk factors for local recurrence after rectal cancer surgery. Surgical oncology. 37. 101540. 2021.
2. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative: SARS-CoV-2 infection and venous thromboembolism after surgery: an international prospective cohort study. Anaesthesia. 77(1). 28-39. 2021.
3. 竹内弘久，大木亜津子，阿部展次：咽頭 観察 被験者とのちょっとした協同作業は内視鏡挿入・観察中の苦痛を軽減する．消化器内視鏡．33巻2号．177-179. 2021.
4. 竹内弘久，佐藤大，阿部展次：咽頭 治療 消化器内視鏡医はどこまで介入するのか-咽頭ELPS-．消化器内視鏡．33巻2号．182-184. 2021.
5. 竹内弘久，橋本佳和，阿部展次：胃 治療 輸入脚閉塞症はこう攻めろ．消化器内視鏡．33巻2号．273-275. 2021.

6. 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次: 胃 治療 一歩先を読む! ESD介助者の心得. 消化器内視鏡. 33巻2号. 276-277. 2021.
7. 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 胃 治療 穿孔・気腹時の腹腔穿刺. 消化器内視鏡. 33巻2号. 278-280. 2021.
8. 阿部展次, 大木亜津子, 竹内弘久: 巨大穿孔(胃壁全層欠損)に対する閉鎖はこうやる. 消化器内視鏡. 33巻2号. 281-283. 2021.
9. 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次: 胃 治療 全層切除はトラクションが鍵. 消化器内視鏡. 33巻2号. 284-285. 2021.
10. 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次: 十二指腸 治療 ステンツ挿入 介助者との協同作業が成否を分ける. 消化器内視鏡. 33巻2号. 314-315. 2021.
11. 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 竹内弘久, 鈴木裕, 須並英二, 阪本良弘: 内視鏡的胆管ドレナージに必要な解剖. 消化器内視鏡. 33巻3号. 457-466. 2021.
12. Matsuki R, Arai T, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Trends in the treatment of pancreatic cancer in Japan. Biosci Trends. 15(3). 135-137. 2021.
13. 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阿部展次: 【緊急内視鏡の今】術後輸入脚閉塞症に対する緊急内視鏡. 消化器内視鏡. 33巻4号. 721-727. 2021.
14. 土岐真朗, 渡邊俊介, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 落合一成, 権藤興一, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次, 久松理一: 【緊急内視鏡の今】急性胆管炎, 胆石性膵炎. 消化器内視鏡. 33 (4) . 769-774. 2021.
15. Shimoyama H, Ueno K¹, Samizo M¹(¹ Kobe Rosai Hospital): Successful treatment of adult cecorectal intussusception caused by cecum cancer with mobile cecum: a case report. Surg Case Rep. 7(1). 96. 2021.
16. 鈴木裕, 森俊幸, 伊佐山浩通, 田妻進, 田中篤, 阪本良弘: 胆道専門医講座 胆管結石治療up-to-date 第4回肝内結石の治療. 胆道. 35 (5) . 758-765. 2021.
17. Kogure M, Arai T, Momose H, Matsuki R, Suzuki Y, Sakamoto Y: Rescue partial ALPPS for left hemihepatectomy with reconstruction of the middle hepatic vein. Dig Surg 38(5-6). 325-329. 2021.
18. Matsuki R, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Mori T, Sakamoto Y: Direct splenic vein reconstruction combined with resection of the portal vein/superior mesenteric vein confluence during pancreaticoduodenectomy. Langenbecks Arch Surg. 406(5). 1691-1695. 2021.
19. Matsuki R, Arai T, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Trends in treatment for hepatocellular carcinoma in Japan. Medical Research Archives vol 9 issue 7. 2021.
20. Kogure M, Suzuki Y, Momose H, Matsuki R, Mori T, Kogure K, Sakamoto Y: Parenchymal-sparing approaches for resection of tumors located in the paracaval portion of the caudate lobe of the liver – utility of limited resection and central hepatectomy. Langenbecks Arch Surg. 406(6). 2099-2106. 2021.
21. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative. infection: an international prospective cohort study. Anaesthesia. 76(6). 748-758. 2021.
22. 阿部展次, 鶴見賢直, 小島洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二: 高齢社会における胃癌手術の方向性. 消化器内視鏡. 33 (7) . 1165-1175. 2021.
23. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 【消化器ステント術のすべて】胃癌・十二指腸癌に対する金属ステント留置術の適応と成績. 外科. 83巻8号. 881-886. 2021.
24. COVIDSurg Collaborative, GlobalSurg Collaborative : SARS-CoV-2 vaccination modelling for safe surgery to save lives: data from an international prospective cohort study. Br J Surg. 108(9). 1056-1063. 2021.
25. Shimoyama H, Sugiyama M, Suzuki Y, Teruya K¹, Ohki A, Kishiki T, Takeuchi H, Sakamoto Y, Sunami E, Abe N: Bilateral Flank Compression Maneuver for Reducing Pain on Coughing after Abdominal Surgery: A Prospective Study. J Am Coll Surg. 233(3). 459-466. 2021.
26. 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次: 消化管狭窄に対する内視鏡治療 輸入脚閉塞症に対する内視鏡治療. 消化器内視鏡. 33巻増刊号. 351-358. 2021.
27. 橋本佳和, 小島洋平, 鶴見賢直, 堀合真市¹, 大木亜津子, 水野英彰¹, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次 (¹目白第二病院): 消化管内視鏡治療—基本から高難度まで 捻転に対する内視鏡的整復術 大腸軸捻転 (colonic volvulus) . . 消化器内視鏡. 33増刊号. 387-391. 2021.
28. 橋本佳和, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) の現状と展望 総論 LECS手術手技概論. . 手術. 75 (11) . 1643-1653. 2021.
29. 松本亮太, 新井孝明, 吉田智幸, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 「膵・胆道癌における薬物療法のすべて」膵・胆道癌における支持療法 薬物療法を中心に 膵外分泌機能不全に対する薬物療法. 胆と膵. 42巻臨増特大. 1273-1276. 2021.
30. Takii Y¹, Mizusawa J², Kanemitsu Y³, Komori K⁴, Shiozawa M⁵, Ohue M⁶, Ikeda S⁷, Takiguchi N⁸, Kobatake T⁹, Ike H¹⁰, Sato T¹¹, Tomita N¹², Ota M¹³, Masaki T, Hamaguchi T¹⁴, Shida D³, Katayama H², Shimada Y¹⁵, Fukuda H²(¹Department of Gastroenterological Surgery, Niigata Cancer Center Hospital, Niigata, Japan, ²JCOG Data Center/Operations Office, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, ³Department of Colorectal Surgery, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, ⁴Department of Gastroenterological Surgery, Aichi Cancer Center Hospital, Aichi, Japan, ⁵Department of Gastrointestinal Surgery, Kanagawa Cancer Center, Kanagawa, Japan, ⁶Department of Gastroenterological Surgery, Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan, ⁷Department of Gastroenterological Surgery, Hiroshima Prefectural Hospital, Hiroshima, Japan, ⁸Department of Gastrointestinal Surgery, Chiba Cancer Center, Chiba, Japan, ⁹Department of Surgery, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center,

Ehime, Japan, ¹⁰Department of Surgery, Saiseikai Yokohama City Nanbu Hospital, Kanagawa, Japan, ¹¹Department of Surgery, Yamagata Prefectural Central Hospital, Yamagata, Japan, ¹²Division of Lower GI Surgery, Department of Surgery, Hyogo College of Medicine, Hyogo, Japan, ¹³Gastroenterological Center, Yokohama City University Medical Center, Kanagawa, Japan, ¹⁴Department of Gastroenterological Oncology, Saitama Medical University International Medical Center, Saitama, Japan, ¹⁵Clinical Oncology Division, Kochi Health Sciences Center, Kochi, Japan): The Conventional Technique Versus the No-Touch Isolation Technique for Primary Tumor Resection in Patients With Colon Cancer (JCOG1006): A Multicenter, Open-Label, Randomized, Phase III Trial. *Annals of surgery*. 2021. doi: 10.1097/SLA.0000000000005241. Epub.

31. 松木亮太, 新井孝明, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 「Stepごとに要点解説 標準術式アトラス最新版」肝臓 亜区域切除術. 臨床外科. 76(11). 214-222. 2021.
32. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative. Effects of pre-operative isolation on postoperative pulmonary complications after elective surgery: an international prospective cohort study. *Anaesthesia*. 76(11). 1454-1464. 2021.
33. 阿部展次, 麻生喜祥, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 須並英二, 阪本良弘: 非乳頭部十二指腸腺腫・癌に対する外科手術. 胃と腸. 56 (13). 1689-1695. 2021.
34. 松木亮太, 新井孝明, 吉田智幸, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 【Conversion surgery アップデート】転移性肝臓に対する conversion surgery. 臨床外科. 76 (13). 1492-1497. 2021.
35. 大森春佑, 松木亮太, 小暮正晴, 小野澤志郎, 鈴木裕, 阪本良弘: 脾頭部動静脈奇形による十二指腸潰瘍からの出血に対し二期的脾空腸吻合を用いて緊急に脾頭十二指腸切除術を施行した1例. 手術. 第75巻13号. 2013-2020. 2021.
36. 中島正太郎, 竹内弘久, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 食道癌CRT後局所遺残・再発に対してESDを施行した2例. *Progress of Digestive Endoscopy*. 99巻1号. 76-78. 2021.

著 書

1. 橋本佳和, 竹内弘久, 阿部展次 (分担執筆): III-1 幽門側胃切除術. Billroth-I 再建: overlap 吻合. 手術力が必ず向上する内視鏡外科消化管再建術のすべて. 阿部展次 総編集. 秀潤社. 2021. 96-101.
2. Suzuki Y, Sakamoto Y (分担執筆): Neoadjuvant therapy and conversion surgery for cholangiocarcinoma: Management of Pancreatic Cancer and Cholangiocarcinoma, Isayama H, et al. editors, Switzerland, Springer Nature Switzerland AG. 2021. 143-155.
3. 鈴木裕: 胆石症診療ガイドライン2021 改訂第3版. 胆石症診療ガイドライン委員会. 南江堂. 2021.
4. 小暮正晴, 森俊幸 (分担執筆): 胆嚢・胆管結石症 観血的治療. 消化器疾患 最新の治療 2021-2022. 小

池和彦, 山本博徳, 瀬戸泰之 編集. 南江堂. 2021. 327-329.

5. 百瀬博一, 鈴木裕, 森俊幸: 1-1 内視鏡外科手術の概論. 手術力が必ず向上する内視鏡外科 消化器再建術のすべて. 学研メディカル秀潤社. 2021. 2-7.

報告書

1. 鈴木裕, 伊佐山浩通, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤沢聡郎: 二次性肝内結石症における治療モダリティ別の短期・長期成績. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究. 令和3年度分担研究報告書. 2021.
2. 鈴木裕, 伊佐山浩通, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤沢聡郎: 肝内結石症肝切除後の異時性肝内胆管癌発生に関する疫学研究. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究 令和3年度分担研究報告書. 2021.

呼吸器・甲状腺外科学教室

講 演

国際学会

1. Kondo H: Discussion by appointed discussant: for "VATS S3 segmentectomy for undetermined lesion" by Lucía Milla Collado, in VIDEOFORUM 5 BEST SUBMITTED VIDEOS. the 5th International Joint Meeting on Thoracic Surgery. Spain. 19th. November. 2021.

国内学会

1. 佐藤幸夫, 遠藤俊輔, 岡田克典, 近藤晴彦, 新谷康, 豊岡伸一, 中村廣重, 星川康, 芳川豊史, 吉野一郎, 千田雅之: NCD呼吸器外科領域の現況と展望. 第121回日本外科学会定期学術集会. 千葉・オンライン. 2021年4月9日.
2. 佐藤幸夫, 遠藤俊輔, 岡田克典, 近藤晴彦, 新谷康, 豊岡伸一, 中村廣重, 星川康, 芳川豊史, 吉野一郎: NCD呼吸器外科領域の現況と展望. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日.
3. 須田一晴, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 平田佳史, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: cVATSによる気管・気管支形成術の手技と工夫. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日・21日.
4. 吉田勤, 平田佳史, 藤田敦, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 傍腫瘍性神経症候群を併発した原発性肺腺癌の1例. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日・21日.
5. 伊藤未奈, 須田一晴, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 平田佳史, 橋啓盛, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦: 当施設で手術を施行し気管支原性嚢胞と診断された14例の検討. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日・21日.
6. 渋谷幸見, 須田一晴, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 三ツ間智也, 平田佳史, 中里陽子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦: X線動画撮影システムを用いた術後声帯麻痺の評価. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日・21日.

7. 渡部こずえ, 橘啓盛, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 平田佳史, 須田一晴, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦: 高齢発症で巨大血管瘤を形成した肺動脈肺奇形の1例. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日-5月21日.
8. 橘啓盛, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 平田佳史, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: Multi angle法による胸腔鏡下右S7a+9+10区域切除術. 第38回日本呼吸器外科学会学術集会. 長崎・オンライン. 2021年5月20日-21日.
9. 中里陽子, 三ツ間智也, 平野浩一: 大学病院だから出来る他科連携・合同診療の利点～杏林大学病院～. 第33回日本内分泌外科学会総会. 軽井沢. 2021年6月3日.
10. 片平勇介, 橘啓盛, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 平田佳史, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: 家族歴と肺囊胞の特徴からBirt-Hogg-Dube症候群を疑い診断しえた気胸の1例. 第186回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2021年6月5日.
11. 渡部こずえ, 橘啓盛, 堀秀有, 伊藤未奈, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 平田佳史, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦: 放射線後の気管・気管支炎に対して気管内ステロイド噴霧により改善し得た1例. 第177回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. オンライン. 2021年6月23日-7月7日.
12. 堀秀有, 須田一晴, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 平田佳史, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 藤原正親, 近藤晴彦: 術前診断が困難であった孤立性線維性腫瘍の1例. 第190回日本肺癌学会関東支部学術集会. オンライン. 2021年7月3日-7月25日.
13. 須田一晴: 巨大縦隔腫瘍に対して抗癌剤治療で縮小した後、胸骨・心嚢合併切除を施行した1例. 第11回多摩呼吸器外科医会. 立川・オンライン. 2021年7月17日.
14. 橘啓盛: 側胸アプローチ. RATS ZOOM Seminar～縦隔腫瘍摘出術のアプローチと工夫～. オンライン. 2021年8月6日.
15. 橘啓盛: 高齢者肺がん診療 ディスカッション. Live Webinar－高齢者肺がん編－. オンライン. 2021年8月18日.
16. 田中良太: コンパニオン診断における液状処理検体を含む細胞診のあり方を考える. 第81回細胞検査士教育セミナー. オンライン. 2021年8月20日-9月6日.
17. 三ツ間智也, 中里陽子, 平野浩一: ATCにおけるレンパチニブの使用経験. 甲状腺癌分子標的治療研究会in多摩. オンライン. 2021年9月9日.
18. 牧野元紀, 須田一晴, 堀秀有, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦, 藤原正親: 術前診断が困難であった限局性結節性肺アミロイドーシスの1切除例. 第861回外科集談会. オンライン. 2021年9月11日.
19. 新井信晃, 服部奈緒子, 山下聡, 向井博文, 牛島俊和: HSD17B4遺伝子のDNAメチル化は乳がん細胞の代謝的表現型を変化させる. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021年10月2日.
20. 三ツ間智也, 中里陽子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博, 平野浩一: 当院で経験した甲状腺悪性リンパ腫11症例の検討. 第54回日本内分泌外科学会学術大会. オンライン. 2021年10月28日-29日.
21. 渡部こずえ, 須田一晴, 伊藤未奈, 三ツ間智也, 平田佳史, 橘啓盛, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: 当科で手術を行なった気管支閉鎖症3例と本邦報告22例の検討. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. 東京・オンライン. 2021年10月31日～11月3日.
22. 伊藤未奈, 須田一晴, 堀秀有, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 橘啓盛, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: 臓側胸膜と横隔膜の双方に異所性子宮内膜組織を確認できた月経随伴性気胸の1例. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. 東京・オンライン. 2021年10月31日-11月3日.
23. 堀秀有, 平田佳史, 渡部こずえ, 渋谷幸見, 橘啓盛, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 藤原正親, 近藤晴彦: 術前化学療法が著効し切除した縦隔原発Yolk sac tumorの1例. 第187回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年11月6日.
24. 平野浩一: ランチョンセミナー ハーモニックフォーカス+を用いた甲状腺手術. 第44回日本顔面神経学会. 三鷹. 2021年11月6日.
25. 田中良太: ゲノム時代における肺がん診療と細胞診の役割. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会. 米子. 2021年11月21日.
26. 須田一晴, 堀秀有, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 橘啓盛, 長島鎮, 宮敏路, 田中良太, 安樂真樹, 近藤晴彦: 手術を施行したinvasive mucinous adenocarcinoma 27症例の検討. 第62回日本肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月26日-28日.
27. 伊藤未奈, 古屋敷剛, 藤田敦, 五十嵐俊彦, 近藤晴彦: 胸腔鏡下肺区域切除術を施行した多発肺動脈奇形の1例. 第62回日本肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月26日-28日.
28. 田中良太, 橘啓盛, 須田一晴, 長島鎮, 宮敏路, 近藤晴彦: 細胞診検体を用いたバイオマーカー検査の試み－2つの検証実験を踏まえた考察. 第62回日本肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月26日-28日.
29. 橘啓盛, 堀秀有, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 浸潤性粘液性肺腺癌に対する胸腔鏡下右下葉切除+S2合併区域切除術の工夫. 第62回日本肺癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月26日-28日.
30. 得平雅英, 須田一晴, 堀秀有, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦, 藤原正親: 窒息症状を来した気管腫瘍に対して全身麻酔か気管支鏡下腫瘍摘出術. 第179回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. 東京・オンライン. 2021年12月18日-19日.
31. 安樂真樹: CT画像で筋肉量に着目したら～これからの肺がん診療に活かせること. 第183回 城西胸部画像研究会. 三鷹・オンライン. 2022年1月18日.
32. 中里陽子, 平野浩一, 堀秀有, 伊藤未奈, 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 平田佳史, 橘啓盛, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 安樂真樹, 近藤晴彦: 医原性の気道狭窄. 第12回多摩呼吸器外科医会. 立川. 2022年1月29日.
33. 須田一晴: ～出血を防ぐための私の工夫～胸腔鏡下手術における出血回避のための手術手技. 第15回General Thoracic Surgical Forum. 東京. 2022年2月5日.
34. 須田一晴, 堀秀有, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 鳥羽麻

友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 安樂真樹, 近藤晴彦, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博: 左房内に進展した左下葉Pleomorphic carcinomaに対する左房内腫瘍切除+左下葉切除術. 第30回日本呼吸器外科学会冬期学術集会. 紙面開催. 2022年2月10日-11日.

35. 伊藤未奈, 須田一晴, 堀秀有, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 田中良太, 長島鎮, 宮敏路, 安樂真樹, 近藤晴彦, 大前皓一, 藤原正親: 長期間の経過で著変なく, 精査でも悪性腫瘍を疑う所見が乏しくもカルチノイドと診断された1例. 第192回日本肺癌学会関東支部学術集会. オンライン. 2022年3月5日.

論 文

(単著)

1. 近藤晴彦: 呼吸器外科におけるX線動態画像 我々の経験と今後の発展への期待. INNERVISION. 36(9). 91. 2021年.
2. Shibuya Y, Machida H¹, Yoshiike S², Suda K, Tanaka R, Fujiwara M², Yokoyama K¹, Kondo H (¹Department of Radiology, ²Pathology, Kyorin University School of Medicine): Pulmonary Artery Aneurysm Diagnosed by Dynamic Digital Chest Radiography. Ann Thorac Surg. 113(2). e87-e90. 2022.
3. 佐藤幸夫, 遠藤俊輔, 岡田克典, 近藤晴彦, 新谷康, 豊岡伸一, 中村廣繁, 星川康, 芳川豊史, 吉野一郎, 千田雅之: 各疾患登録とNCDの課題と将来 NCD呼吸器外科領域の現状と展望. 日本外科学会雑誌. 122(6). 725-727. 2021年.

令和2年度追加分

(単著)

1. Saitoh Y¹, Miyazaki M¹, Arai N, Takahashi Y¹ (¹Department of Neurology, National Center Hospital): Pneumomediastinum while using mechanical insufflation-exsufflation after recovery from riluzole-induced interstitial lung disease. eNeurologicalSci. 22. 100326. 2021.

(共著)

1. 安倍秀幸¹, 河原明彦¹, 貞嶋栄司², 田中良太, 村田和也¹, 高瀬頼妃呼¹, 牧野諒央¹, 福満千容¹, 篠田由佳子¹, 内藤嘉紀¹, 秋葉純¹ (¹久留米大・病理診断科・病理部, ²佐賀県医療センター好生館ライフサイエンス研究所): 液状化検体細胞診を用いたセルブロック法の核酸品質の解析と保管への影響. 日臨細胞誌. 60(2). 102-109. 2021.

著 書

1. 近藤晴彦 (医学監修): ナーシング・グラフィカ成人看護学 (4) 『周術期看護』第4版. 中島恵美子, 山崎智子, 竹内佐智恵 (編集). メディカ出版. 2022年1月20日.
2. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集): 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 学研メディカル秀潤社. 2022年3月15日.
3. 平田佳史 (分担執筆), 近藤晴彦 (分担執筆): II章 術前の画像診断 1 肺悪性腫瘍. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 54-93.
4. 田中良太 (分担執筆): II章 術前の画像診断 2 縦隔腫瘍, 胸壁腫瘍. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022.

94-108.

5. 須田一晴 (分担執筆): II章 術前の画像診断 3 気胸. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 109-117.
6. 渋谷幸見, 近藤晴彦 (分担執筆): II章 術前の画像診断 4 転移性肺腫瘍. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 118-129.
7. 橘啓盛 (分担執筆): II章 術前の画像診断 5 肺良性腫瘍. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 130-137.
8. 橘啓盛 (分担執筆): II章 術前の画像診断 6 胸膜疾患, 縦隔炎. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 138-154.
9. 近藤晴彦 (分担執筆): II章 術前の画像診断 8 気管支・血管の variation, anomaly 2) 大血管の anomaly. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 176-188.
10. 伊藤未奈 (分担執筆): II章 術前の画像診断 8 気管支・血管の variation, anomaly 3) その他の variation, anomaly. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 189-199.
11. 中里陽子 (分担執筆): II章 術前の画像診断 9 気管腫瘍・気管狭窄. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 200-208.
12. 須田一晴 (分担執筆): III章 術後の画像診断 1 肺葉切除後の胸部画像診断の経過とチェックポイント. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 210-221.
13. 須田一晴 (分担執筆): III章 術後の画像診断 2 肺全摘後の胸部画像診断の経過とチェックポイント. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 222-225.
14. 須田一晴 (分担執筆): III章 術後の画像診断 4 胸腔ドレーン. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 235-239.
15. 長島鎮 (分担執筆): III章 術後の画像診断 5 術後の経過観察における再発チェック, 再発例の画像診断. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 240-243.
16. 渋谷幸見 (分担執筆): IV章 コラム 2 胸部X線動画像一動きが見えるとこんなに違うー. 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を究めて手術力を向上させる. 近藤晴彦, 遠藤正浩 (編集). 学研メディカル秀潤社. 2022. 247.
17. 近藤晴彦 (分担執筆): IV章 コラム 5 術前CTで中間気管支幹の背側に“ポッチ”があったら要注意! 胸部画像診断と呼吸器外科手術 画像診断を

究めて手術力を向上させる。近藤晴彦，遠藤正浩（編集）。学研メディカル秀潤社。2022。252。

18. 須田一晴（分担執筆）：IV章 コラム 6 左右誤認のヒヤリハット。胸部画像診断と呼吸器外科手術画像診断を究めて手術力を向上させる。近藤晴彦，遠藤正浩（編集）。学研メディカル秀潤社。2022。253。

乳腺外科学教室

講演

1. 麻賀創太：教育セミナー 治療編。第17回日本乳癌学会関東地方会。横浜。2021年12月4日。
2. 麻賀創太，宇井義典：当院における検診発見乳がんの特徴－外来受診症例との比較－。第31回日本乳癌検診学会学術総会。京都。2021年11月26-27日。
3. 伊坂泰嗣，土屋あい，石坂欣大，麻賀創太，井本滋：当科における再発乳癌症例へのがん遺伝子パネル検査の検討。第83回日本臨床外科学会総会。東京。2021年11月18-20日。
4. 土屋あい，石坂欣大，伊坂泰嗣，麻賀創太，戸成綾子，江原威，井本滋：放射線治療により有効な局所制御が得られた局所進行乳癌の2症例。第83回日本臨床外科学会総会。東京。2021年11月18-20日。
5. Imoto S: Update on OLIGO-BC1. Presented at 9th International Conference of FACO in conjunction with JSCO2021. 横浜。2021年10月23日。
6. 土屋あい：当院でのHBOC保険診療に関する現状と課題。第6回井の頭乳腺疾患研究会。三鷹。2021年10月6日。
7. 麻賀創太，土屋あい，石坂欣大，伊坂泰嗣，井本滋：リンパ節転移陽性またはpT3以上の症例に対する乳房再建は予後に影響するか。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1日。
8. 寺田満雄，宮下穰，隈丸拓，宮田浩章，田村研治，吉田正行，淡河恵津世，永橋昌幸，麻賀創太，小島康幸，角舎学行，青儀健二郎，新倉直樹，飯島耕太郎，林直輝，山本豊，神野浩光：NCDを用いたOccult breast cancer (OBC)への治療変遷と乳房手術時の乳房内原発巣の検討。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1-3日。
9. 戸成綾子，奥田俊，伊坂泰嗣，麻賀創太，石坂欣大，土屋あい，長井美由紀，井本滋，江原威：左乳房術後照射における深呼吸時照射の適応について（当院の経験から）。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1-3日。
10. 石坂欣大，麻賀創太，伊坂泰嗣，土屋あい，井本滋：ラジオ波焼灼療法の長期予後。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1-3日。
11. 伊坂泰嗣，土屋あい，石坂欣大，麻賀創太，井本滋：ホルモン受容体陽性HER2陰性進行再発乳癌に対するCDK4/6阻害薬使用後のmTOR阻害薬使用についての検討。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1-3日。
12. 土屋あい，石坂欣大，麻賀創太，伊坂泰嗣，井本滋：原発乳癌患者における血清GP88値の測定。第29回日本乳癌学会学術総会。横浜。2021年7月1-3日。
13. Wang K, Bi XW, Liu G, Ueno T, Takao S, Sim SH, Im YH, Im SA, Ahn SG, Lee JE, Park YH, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Saito-Oba M,

Kitagawa Y, Nishiyama M, Imoto S: Favorable prognostic factors of oligometastatic breast cancer: a subset analysis of OLIGO-BC1. Presented at ASCO2021. USA. 2021年6月4-8日。

14. 麻賀創太：ワークショップ7 乳がん治療の最前線 乳房切除術後放射線治療の適応症例に対する乳房再建の現状。第46回外科系連合学会学術総会。東京。2021年6月17-19日。

論文

1. Asaga S, Tsuchiya A, Ishizaka Y, Miyamoto K, Ito H, Isaka H, Chiba T, Imoto S, Kamma H: Long-term results of fluorescence and indigo carmine blue dye-navigated sentinel lymph node biopsy. Int J Clin Oncol. 26(8). 1461-1468. 2021.
2. Toi M, Imoto S, Ishida T, Ito Y, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Saji S, Shimizu A, Ikeda T, Haga H, Saeki T, Aogi K, Sugie T, Ueno T, Kinoshita T, Kai Y, Kitada M, Sato Y, Jimbo K, Sato N, Ishiguro H, Takada M, Ohashi Y, Ohno S: Adjuvant S-1 plus endocrine therapy for oestrogen receptor-positive, HER2-negative, primary breast cancer: a multicentre, open-label, randomised, controlled, phase 3 trial. Lancet Oncol. 22(1). 74-84. 2021.
3. Yotsumoto D, Sagara Y, Kumamaru H, Niikura N, Miyata H, Kanbayashi C, Tsuda H, Yamamoto Y, Aogi K, Kubo M, Tamura K, Hayashi N, Miyashita M, Kadoya T, Saji S, Toi M, Imoto S, Jinno H: Trends in adjuvant therapy after breast-conserving surgery for ductal carcinoma in situ of breast: a retrospective cohort study using the National Breast Cancer Registry of Japan. Breast Cancer. 29(1). 1-8. 2022.

著書

1. 井本滋（分担執筆）：乳腺。標準外科学 第16版。田邊稔，池田徳彦，大木隆生編。医学書院。2022。pp283-302。

小児外科学教室

講演

1. 渡邊佳子，浮山越史，阿部陽友：腸回転異常を伴わない小腸軸捻転の5例。第34回日本小児救急医学会学術集会。奈良・オンライン。2021年6月18-20日。
2. 渡邊佳子，浮山越史：急性虫垂炎に対する手術治療の適応とタイミング・超音波検査とActive observation。第58回日本腹部救急医学会総会。東京・オンライン。2022年3月24日。

論文

1. Etsuji Ukiyama (Editorial): Treatment for congenital diaphragmatic hernia: clinical guidelines. Pediatr Int. 63(4). 369-370. 2021.
2. 浮山越史：理想の男女共同参加を目指して 日本小児外科学会における男女共同参画への取り組み。日外会誌。123(2). 147-149. 2022.

著書

1. 渡邊佳子（分担執筆）：234 胃破裂。周産期医学必修知識(第9版)。周産期医学編集委員会編集。東京医学社。2021。814-816。
2. 渡邊佳子（分担執筆）：IV 肝・消化器疾患の処方 2.胃食道逆流症。診断と治療のポイント。小児科臨

床編集委員会編集．日本小児医事出版社．2021．1764-1767．

3. 渡邊佳子（分担執筆）：排泄専門外来の実際 小児便秘外来．小児看護．へるす出版．2021．460-465．
4. 浮山越史（分担執筆）：肛門周囲膿瘍．これだけは知っておきたい！よくみる小児疾患101—ベテランに学ぶ初期対応と処方の実際—[第2版]．五十嵐隆監修．2021．240-241．
5. 浮山越史（分担執筆）：鼠径ヘルニア，臍ヘルニア．これだけは知っておきたい！よくみる小児疾患101—ベテランに学ぶ初期対応と処方の実際—[第2版]．五十嵐隆監修．2021．253-255．

救急医学教室

講 演

1. 村田卓也，山田賢治，田端健二，海田賢彦，山口芳裕：携帯型サーモグラフィカメラを用いた救急傷病者における体温測定の有用性の検討．第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会．オンライン．2021年6月10-12日．
2. 吉川慧，海田賢彦，鈴木準，田中佑也，山口芳裕：重症熱傷患者に対する感染管理～杏林の戦略～．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月21日．
3. 海田賢彦，山口芳裕：人工真皮を生着させる術～杏林の現状と未来～．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月21日．
4. 海田賢彦：広範囲熱傷の手術戦略．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月22日．
5. 鈴木準，海田賢彦，田中佑也，吉川慧，加藤聡一郎，井上孝隆，山口芳裕：熱傷患者における予後推定指数の検討．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月21-22日．
6. 池田憲祐，海田賢彦，田中佑也，鈴木準，吉川慧，加藤聡一郎，井上孝隆，山口芳裕：血小板増加により偽性高K血症を認めた13%熱傷の一例．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月21-22日．
7. 田中佑也，海田賢彦，鈴木準，吉川慧，加藤聡一郎，井上孝隆，山口芳裕：micrograftを用いた革新的植皮戦略．第47回日本熱傷学会総会・学術集会．オンライン．2021年10月21-22日．
8. Kaita Y， Yamaguchi Y：Usefulness of surveillance wound cultures for severe burn patients．The 13th Asia Pacific Burn Congress．Online．October 23．2021．
9. 西方亮太郎，吉川慧，相澤陽太，清水亮祐，原田巽矢，清水裕介，田中佑也，海田賢彦，山口芳裕：トラゾドンの過量内服により致死性不整脈を呈した1例．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月21日．
10. 横堀将司，大友康裕，三宅康史，弘重壽一，田中秀治，奥寺敬，山口芳裕，坂本哲也，有賀徹，横田裕行：挑戦：災禍と対峙した救急医こそが社会を変える力を発揮する．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月21日．
11. 池田憲祐，海田賢彦，小嶋智志，緒方友紀，西方亮太郎，吉川慧，山口芳裕：HIT(heparin-induced thrombocytopenia)により両側副腎出血をきたし

副腎不全を呈した墜落外傷の1例．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月22日．

12. 持田勇希，海田賢彦，落合剛二，荻野聡之，宮国泰彦，井上孝隆，山田賢治，山口芳裕：容易ではないダブルボードの技能取得・維持における心得とは．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月22日．
13. 吉川慧，山田賢治，西沢良平，加藤総一郎，宮国泰彦，海田賢彦，山口芳裕：コロナ禍の高度救命救急センターにおける学生・研修医教育の現状．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月22日．
14. 笹沢俊吉，海田賢彦，吉田知礼，西沢良平，持田勇希，宮国泰彦，井上孝隆，山田賢治，山口芳裕：東京都母体救命搬送における多診療科・多職種連携中核としての救命センターの役割．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月23日．
15. 野田祐司，海田賢彦，根田知明，大津晃康，鈴木準，吉川慧，井上孝隆，山口芳裕：アトピー性皮膚炎を基礎疾患とし肺動脈弁感染性心内膜炎を発症した一例．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月23日．
16. 山田賢治，長瀬美樹，松村譲児，持田勇希，落合剛二，宮方基行，海田賢彦，山口芳裕：微小神経電図法による血管周囲神経活動電位の検出～Sihler染色による解剖体の検討．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月23日．
17. 加藤聡一郎，落合剛二，海田賢彦，山田賢治，山口芳裕：新型コロナウイルス感染症患者の航空医療搬送に向けた東京都の取組と多機関連携．第49回日本救急医学会総会・学術集会．東京．2021年11月23日．

論 文

1. 堀野雅祥，荻野聡之，吉川慧，五十嵐昂¹，海田賢彦，山口芳裕（¹杏林大・保・救急救命学科）：トラゾドン、リスペリドンによる薬剤性QT延長症候群からtorsade de pointesを呈した重症患者の1例．日救急医会誌．32（4）．218-223．2021．
2. Nakajima M¹， Yamamoto Y¹， Kaszynski RH¹， Yamauchi Y¹， Yamamoto K¹， Nakajima Y¹， Goto H¹， Yamaguchi Y， Ide T¹， Maeda Y¹， Tajiri Y¹（¹Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital）：A comparison on the percentage of polymerase chain reaction positivity for SARS-CoV-2 between Public Health Center referrals and direct walk-in patients: A single center retrospective analysis in Tokyo． J Infect Chemother． 27（6）． 852-856． 2021．
3. 田中佑也，海田賢彦，鈴木準，吉川慧，山口芳裕：Micrograft sprayを併用した熱傷の治療経験．熱傷．47（3）． 89-94． 2021．
4. Hamada S¹， Nakajima M¹， Kaszynski RH¹， Otaka S²， Goto H¹， Matsui H²， Fushimi K³， Yamaguchi Y， Yasunaga H²（¹Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital， ²The University of Tokyo， ³Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine）：Association between adjunct clindamycin and in-hospital mortality in patients with necrotizing soft tissue infection due to group A Streptococcus: a nationwide cohort study． Eur J Clin Microbiol Infect Dis． 2021． DOI：10.1007/s10096-021-04376-2．
5. Kurihara S¹， Nakajima M¹， Kaszynski RH¹， Yamamoto Y¹， Santo K¹， Takane R¹， Tokuno H¹，

Ishihata A¹, Ando H¹, Miwa M¹, Hamada S¹, Nakano T¹, Shirokawa M¹, Goto H¹, Yamaguchi Y (¹Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital) : Prevalence of COVID-19 Mimics in the Emergency Department. Intern Med. 60 (19) . 3087-3092. 2021.

6. Nishimura H, Mochida Y, Ogino S, Fukushi K¹, Yamazaki H¹, Miyakuni Y, Kaita Y, Minamishima T¹, Soejima K¹, Yamaguchi Y (¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Hospital) : Critical anterior mediastinal hematoma without internal mammary artery injury caused by cardiopulmonary resuscitation: A case report. Trauma Case Rep. 37. 100587. 2021.

著 書

1. 荻野聡之, 山口芳裕 (分担執筆) : 質量分析装置による薬毒物検査. 医学のあゆみ. 医歯薬出版. 2021. 996-1001.
2. 海田賢彦, 山口芳裕 (分担執筆) : IV外傷・熱傷の診断・治療 44. 熱傷患者の管理指針. 救急・集中治療 最新ガイドライン2022・23. 岡本和文編著. 総合医学社. 2022. 159-160.
3. 海田賢彦 (分担執筆) : 熱傷創に対する感染対策の進歩. 医学のあゆみ. 医歯薬出版. 2022. 1227-1230.

その他

1. 山口芳裕 : 高齢者施設での感染拡大が増加した新型コロナウイルスの第3波を振り返り(コメント). 朝日新聞. 2021年4月5日.
2. 山口芳裕 : 東京DMATは東京消防庁とともに (寄稿). SAFETY LIFE TOKYO東京防災救急協会. 18. 5-6. 2021.
3. 山口芳裕 : 実態を伴わなかった五輪の「安心・安全」 (寄稿). 正論. 602. 258-264. 2021.
4. 山口芳裕 : 新型止血帯「ターニケット」が救急現場で急速に普及していることを受け, 非常事態への対応力を高めていく必要性について(コメント). 日本経済新聞. 2021年7月12日.
5. 山口芳裕 : 東京五輪を支える医療統括責任者就任への覚悟について(語る). 朝日新聞デジタル. 2021年7月23日.
6. 山口芳裕 : 新型止血帯「ターニケット」が救急現場で急速に普及していることを受け, 非常事態への対応力を高めていく必要性について(コメント). 日本経済新聞. 2021年7月29日.
7. 山口芳裕 : 国民の不利益「首相が説明を」(コメント). 朝日新聞. 2021年8月3日.
8. 山口芳裕 : コロナと五輪・パラリンピックにより医療に負荷がかかっている現状について (東京五輪医療統括責任者としてコメント). 朝日新聞. 2021年8月5日.
9. 山口芳裕 : 新型コロナウイルス感染が爆発的に増えている現状について「都内の医療は崩壊した」と(コメント). 朝日新聞デジタル. 2021年8月11日.
10. 山口芳裕 : 酸素・医療提供ステーションの設置等について, 医療体制のミスマッチや課題について (東京都の入院調整担当としてコメント). TBSテレビ「NEWS 23」. 2021年8月12日.
11. 吉川慧 : 重症熱傷患者の感染管理、ポイントは？症例を提示して解説(学会発表紹介). メディカルトリビューン. 2021年11月.
12. 山口芳裕 : 東京と共に杏林大学病院で3月から運航

が開始される小型ドクターヘリについて(コメント). 日本経済新聞. 2022年2月28日.

13. 山口芳裕 : 東日本大震災「つなぐ、つながる」プロジェクトの一環として, 災害時の低体温症のリスクや防災の備えに組み込むことの必要性について(コメント). TBSテレビ「NEWS 23」. 2022年3月9日.
14. 山口芳裕 : 「救える命」つなぐ連携カギ(紹介). 日本経済新聞. 2022年3月21日.
15. 山口芳裕 : 3月31日から東京都で運用が開始されるドクターヘリの基地病院となる当院について抱負を(語る). 東京新聞. 2022年3月25日.
16. 山口芳裕 : 東京都で運用が開始されるドクターヘリの基地病院である当院として, 基盤づくりを指揮した高度救命救急センター長のコメント(紹介). TBSテレビ「ひるおび」. 2022年3月30日.

脳神経外科学教室

講 演

1. 齊藤邦昭 : 高精細CT・MRIにより変わる脳腫瘍外科治療の最前線. 第44回日本脳神経CI学会総会. オンライン. 2021年4月9日.
2. 岡田啓 : 未破裂椎骨動脈解離性動脈瘤の母血管閉塞術後に傍正中動脈領域梗塞が判明した1例. 第9回東大血管内研究会. 東京. 2021年4月14日.
3. 齊藤邦昭, 小林啓一, 佐々木重嘉, 松本淑恵, 今井大也, 野澤隆志, 塩川芳昭, 永根基雄 : 外視鏡と磁場式ナビゲーションを併用したフルタイムナビゲーション手術. 第30回脳神経外科手術と機器学会. オンライン. 2021年4月23日.
4. 塩川芳昭 : バイパス手術の流儀. 第30回脳神経外科手術と機器学会. オンライン. 2021年4月24日.
5. 齊藤邦昭 : 開頭術を支援する高分解能CT/MRI画像. 第21回日本術中画像情報学会. オンライン. 2021年4月24日.
6. 中富浩文 : 脳幹部海綿状血管腫手術に於ける納植機能の可視化と術中操作への応用. 第41回日本脳神経外科コンgres. オンライン. 2021年5月15日.
7. 塩川芳昭 : 脳神経外科診療における診療報酬制度の現状と課題. 第41回日本脳神経外科コンgres. オンライン. 2021年5月16日.
8. 佐々木重嘉 : 再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するチラブルチニブ治療中の皮膚障害の検討. PCNSL Web Conference in Tokyo. オンライン. 2021年5月27日.
9. 永根基雄 : 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療 -ベレキシブル治療の現状-. PCNSL Web Conference in Kanagawa. オンライン. 2021年6月10日.
10. 永根基雄 : 中枢神経系悪性リンパ腫の病態と治療 -エビデンスと今後の展望-. 第61回日本リンパ網内系学会総会. オンライン. 2021年6月26日.
11. 永根基雄 : 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療 -最近のトピックスおよびベレキシブル治療の現状-. ベレキシブルWeb講演会. オンライン. 2021年7月7日.
12. 永根基雄 : PCNSL治療 -この1年の新たな展開と展望-. ベレキシブル発売1周年記念Webセミナー. オンライン. 2021年7月8日.

13. Nagane M : One-Year Follow-up Data of Phase I/II Study of Tirabrutinib in Patients with Relapsed or Refractory Primary Central Nervous System Lymphoma (ONO-4059-02 study). PROSPECT (ONO-4059-09) Study Virtual Investigator Meeting. Online. July 12th 2021.
14. 永根基雄：中枢神経系悪性リンパ腫の病態・治療とBTK阻害薬の意義。Kyushu Velexbu 1st Anniversary Web Seminar. オンライン。2021年8月12日。
15. 中富浩文：脳幹部海綿状血管手術に於けるハイリスク伝導路の解剖と神経機能の可視化による機能温存と合併症。第26回日本脳腫瘍の外科学会、オンライン。2021年9月9日。
16. 中富浩文：聴神経腫瘍に対する蝸牛、顔面神経の“解剖と神経機能の可視化”による機能温存手術。オンライン。2021年9月10日。
17. 齊藤邦昭，佐々木重嘉，清矢陽右，小野田凌，松本淑恵，小林啓一，中富浩文，塩川芳昭，永根基雄：高精細画像を用いたグリオーマ摘出術前シミュレーションと術中画像支援。第26回日本脳腫瘍の外科学会。東京。2021年9月10日。
18. 中富浩文，本郷博貴，宮脇哲，石神大一郎，寺西裕，小原健太，酒井優，齊藤延人：脳海綿状血管奇形におけるgermline mutationの解析。第21回日本分子脳神経外科学会。オンライン。2021年9月24日。
19. 中富浩文，寺西裕，宮脇哲，酒井優，石神大一郎，小原健太，本郷博貴，高柳俊作，齊藤延人：神経線維腫症2型（NF2）の遺伝子解析研究－モザイクNF2の遺伝的・臨床的特徴の解析－。第21回日本分子脳神経外科学会。オンライン。2021年9月25日。
20. 永根基雄：中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療－エビデンスと最近の話題－。多摩血液疾患Web Seminar. オンライン。2021年10月15日。
21. Nagane M : Standard of Care and Novel Therapeutic Insights for Primary Central Nervous System Lymphoma. 第59回日本癌治療学会学術集会。オンライン。2021年10月22日。
22. 佐々木重嘉：多科合同チームによる再発・難治性中枢神経系悪性リンパ腫に対する大量化学療法の試み。第59回日本癌治療学会学術集会。2021年10月21日。
23. Nagane M : Standard of care and novel therapeutic insights for primary central nervous system lymphoma. 第59回日本癌治療学会学術集会。横浜。2021年10月22日。
24. 中富浩文：発生起源と血管構築に基づく脳腫瘍の手術戦略，手技，理論。第80回脳神経外科学会総会。横浜。2021年10月27日。
25. 中富浩文：臨床病理所見とCFD解析に基づく巨大，大型fusiform and dolichoectatic aneurysmの治療。第80回脳神経外科学会総会。横浜。2021年10月27日。
26. 丸山啓介，中富浩文，吉田裕毅，岡田啓，野口明男，塩川芳昭：微小血管減圧術の術前シミュレーション画像の有効性と限界。第80回脳神経外科学会総会。横浜。2021年10月28日。
27. 齊藤邦昭，佐々木重嘉，清矢陽右，小野田凌，松本淑恵，小林啓一，中富浩文，塩川芳昭，永根基雄：高精細画像融合／持続認識ナビゲーション支援を用いた外視鏡下腫瘍摘出術。第80回脳神経外科学会総会。横浜。2021年10月28日。
28. 永根基雄，佐々木重嘉，小野田凌，清矢陽右，齊藤邦昭，小林啓一，中富浩文，大西宏明，高山信之，塩川芳昭：再発難治性中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する自家幹細胞移植支援大量化学療法（BuTTレジメン）。High-dose chemotherapy supported by autologous stem cell transplant in relapsed and refractory primary CNS lymphoma. 第80回日本脳神経外科学会学術総会。横浜。2021年10月29日。
29. 小林啓一，佐々木重嘉，齊藤邦昭，山岸夢希，中富浩文，塩川芳昭，永根基雄：再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する照射後メソトレキセート基盤療法後の白質障害の評価。第80回日本脳神経外科学会学術総会。オンライン。2021年10月29日。
30. 佐々木重嘉：再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するチラブルチニブの初期治療成績。第80回日本脳神経外科学会総会。オンライン。2021年10月29日。
31. 永根基雄：中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療開発－標準治療と最近の話題－。第10回Road to Lymphomania. オンライン。2021年11月4日。
32. 野口明男：改めて学ぼう 治りうる認知症 iNPHの診断と治療。北多摩特発性正常圧水頭症（iNPH）を考える会。東京。2021年11月19日。
33. 中富浩文：臨床病理所見とCFD解析に基づく巨大，大型fusiform and dolichoectatic aneurysmの治療。第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会。福岡。2021年11月25日。
34. 佐々木重嘉：再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するチラブルチニブ不応例の検討。PCNSL ベレキシブルWEBセミナー チラブルチニブ不応因子の探索。オンライン。2021年11月25日。
35. Nagane M : PCNSL－Current Standard of Care and Novel Therapeutic Development. 2nd ASNO Webinar. Online. November 26th 2021.
36. 佐々木重嘉：再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するチラブルチニブ治療中の皮膚障害の検討。第39回日本脳腫瘍学会学術集会。神戸。2021年12月5日。
37. 永根基雄：再発難治性中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する自家幹細胞移植支援 大量化学療法。第39回日本脳腫瘍学会学術集会。神戸。2021年12月6日。
38. 小林啓一，佐々木重嘉，齊藤邦昭，山岸夢希，花山尚美，中富浩文，塩川芳昭，永根基雄：再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する照射後メソトレキセート基盤療法後の白質障害の評価。第39回日本脳腫瘍学会学術集会。オンライン。2021年12月6日。
39. 齊藤邦昭，佐々木重嘉，清矢陽右，小野田凌，小林啓一，中富浩文，塩川芳昭，永根基雄：外視鏡を用いたグリオーマのmaximal safe resection. 第39回日本脳腫瘍学会学術集会。神戸。2021年12月6日。
40. 永根基雄：PCNSL治療。この1年の新たな展開と展望。第39回日本脳腫瘍学会学術集会。神戸。2021年12月7日。
41. Saito K, Sasaki N, Kobayashi K, Nakatomi H, Shiokawa Y, Nagane M : Maximal safe glioma resection using high resolution exoscope with 5-ALA-induced fluorescence. SNO Maximal Safe Brain Tumor Resection . Intraoperative Visualization and the Connectome Conference. Online. December 7th 2021.
42. 齊藤邦昭：シームレスなてんかん治療を目指して。

てんかんWebセミナー．オンライン．2021年12月10日．

43. 永根基雄：PCNSLの病態と標準治療．第3回日本脳腫瘍学会Webinar講演会．オンライン．2022年1月28日．
44. 永根基雄，山岸夢希，佐々木重嘉，齊藤邦昭，小林啓一，清水早紀，中富浩文，塩川芳昭：脳脊髄液による中枢神経系リンパ腫の診断．第6回Liquid Biopsy研究会．オンライン．2022年1月29日．
45. 齊藤邦昭：グリオーマ手術における穿通枝温存の工夫．第9回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファランス．東京・オンライン．2022年1月29日．
46. 佐々木重嘉：再発・難治性中枢神経系悪性リンパ腫に対する地固め大量化学療法の初期治療経験．第41回東京脳腫瘍治療懇話会．オンライン．2022年2月4日．
47. 塩川芳昭：脳卒中からはいる脳神経外科手術習練．第1回広島脳神経外科expert meeting．オンライン．2022年2月8日．
48. 佐々木重嘉：症例提示．三鷹てんかん・脳波セミナー．オンライン．2022年2月10日．
49. 岡田啓：ピムパットの最新エビデンス．北多摩南部医療圏 脳神経外科若手会．オンライン．2022年2月15日．
50. Nagane M, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Onoda R, Seiya Y, Yamagishi Y, Nakatomi H, Ohnishi H, Takayama N, Shiokawa Y: 再発・難治性中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する自家幹細胞移植支援BuTT大量化学療法の初期経験 (BuTT High-dose chemotherapy supported by autologous stem cell transplant in relapsed / refractory primary CNS lymphoma) . 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会．京都・オンライン．2022年2月18日．
51. Nagane M: PCNSL - Current standard of care and novel therapeutic development . WFNOS2022 Lecture. Online. 2022 March 26.
52. Nagane M, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Onoda R, Seiya Y, Yamagishi Y, Nakatomi H, Ohnishi H, Takayama N, Shiokawa Y: BuTT High-dose chemotherapy supported by autologous stem cell transplant in relapsed / refractory primary CNS lymphoma. WFNOS 2022. Seoul, Korea. 2022 March 26.

論 文

1. Kaneko J¹, Ota T², Unemoto K¹, Shigeta K³, Inoue M⁴, Aoki R⁵, Jimbo H⁶, Ichijo M⁷, Arakawa H⁸, Shiokawa Y, Hirano T⁹ (TREAT study group) (¹Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ³Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Disaster Medical Center, ⁴Department of Neurosurgery, Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, ⁵Department of Neurosurgery, Tokai University Hachioji Hospital, ⁶Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ⁷Department of Neurology, Musashino Red Cross Hospital, ⁸Department of Neurosurgery, Omori Red Cross Hospital, ⁹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University): Endovascular treatment of acute basilar artery occlusion. Outcomes, influencing factors and imaging characteristics from the Tama-Registry of acute thrombectomy (TREAT) study. J Clin Neurosci. 86. 184-189. 2021.
2. Shigeta K¹, Ota T², Kaneko J³, Sato K⁴, Aoki R⁵, Jimbo H⁶, Sato Y⁷, Kuroshima Y⁸, Shiokawa Y, Hirano T⁹ (TREAT study group) (¹Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Disaster Medical Center, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ³Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ⁴Department of Neurosurgery, Showa General Hospital, ⁵Department of Neurosurgery, Tokai University Hachioji Hospital, ⁶Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ⁷Department of Neurosurgery, Japanese Red Cross Musashino Hospital, ⁸Department of Neurosurgery, Hino Municipal Hospital, ⁹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University): Negative impact of Interhospital Transfer on Clinical Outcomes of Mechanical Thrombectomy for Fast Progressive Stroke. J Stroke Cerebrovasc Dis. 30 (4). 105633. 2021.
3. Katsumata M¹, Ota T², Tsuruta W³, Akiyama T¹, Sakai Y⁴, Shigeta K⁵, Kaneko J⁶, Nogawa S⁷, Ichijo M, Shiokawa Y, Hirano T (¹Department of Neurology, Keio University School of Medicine, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ³Department of Endovascular Neurosurgery, Toranomon Hospital, ⁴Department of Neurosurgery, Showa General Hospital, ⁵Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Disaster Medical Center, ⁶Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ⁷Department of Neurosurgery, Tokai University Hachioji Hospital, ⁸Department of Neurology, Musashino Red Cross Hospital, ⁹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University): Comparisons of Characteristics and Outcomes after Mechanical Thrombectomy for Vertebrobasilar Occlusion with Cardioembolism or Atherosclerotic Brain Infarction. Data from the Tokyo-Tama-Registry of Acute Endovascular Thrombectomy (TREAT). World Neurosurg. 148. e680-e688. 2021.
4. Kiyofuji S¹, Kin T¹, Kakizawa Y², Doke T³, Masuda T⁴, Yamashita J⁵, Shono N¹, Nakatomi H, Morita A⁶, Harada K⁴, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo, ²Department of Neurosurgery, Japanese Red Cross Society Suwa Hospital, ³Kompath Inc, ⁴Department of Mechanical Engineering, School of Engineering, The University of Tokyo, ⁵Health and Medical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ⁶Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Development of Integrated 3-Dimensional Computer Graphics Human Head Model. Oper Neurosurg

- (Hagerstown) . 20 (6). 565-574. 2021.
5. Takami H¹, Tanaka S¹, Takayanagi S¹, Nakatomi H, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo Hospital) : Indocyanine green illuminates the way to cut the tentorium in occipital transtentorial approach. technical note. Br J Neurosurg. 1-3. 2021.
 6. Saito K : Glioma Surgery and Surgical Supporting Technology. No Shinkei Geka. 49 (3). 536-548. 2021.
 7. Ikawa F^{1,2}, Ichihara N³, Uno M⁴, Shiokawa Y, Toyoda K⁵, Minematsu K^{5,6}, Kobayashi S⁷, Yamaguchi S^{7,8}, Kurisu K^{9,10} (¹Department of Neurosurgery, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, ²Department of Neurosurgery, Shimane Prefectural Central Hospital, Izumo, ³Department of Healthcare Quality Assessment, University of Tokyo, ⁴Department of Neurosurgery, Kawasaki Medical school, Kurashiki, ⁵Department of Cerebrovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁶Department of Neurology, Iseikai Medical Corporation, ⁷Department of Neurology, Shimane University School of Medicine, ⁸Department of Neurology, Shimane Prefectural Central Hospital, ⁹Department of Neurosurgery, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, ¹⁰Department of Neurosurgery, Chugoku Rosai Hospital) : Visualisation of the non-linear correlation between age and poor outcome in patients with aneurysmal subarachnoid haemorrhage . Japanese Standard Stroke Registry Study Group. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 92(11). 1173-1180. 2021.
 8. Shinya Y¹, Hasegawa H^{1,2}, Shin M¹, Kawashima M¹, Sugiyama T^{3,4}, Ishikawa O¹, Koizumi S¹, Suzuki Y¹, Nakatomi H, Saito N⁵ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo Hospital, ²Department of Neurologic Surgery, Mayo Clinic, Rochester, ³Diabetes and Metabolism Information Center, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, ⁴Department of Health Services Research, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ⁵Department of Radiology, The University of Tokyo Hospital) : Rotational Angiography-Based Gamma Knife Radiosurgery for Brain Arteriovenous Malformations . Preliminary Therapeutic Outcomes of the Novel Method. Neurosurgery. 89 (1). 60-69. 2021.
 9. Uchida T¹, Kin T¹, Koike T¹, Kiyofuji S¹, Uchikawa H¹, Takeda Y¹, Miyawaki S¹, Nakatomi H, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo) : Identification of the Facial Colliculus in Two-dimensional and Three-dimensional Images. Neurol Med Chir (Tokyo). 61 (6). 376-384. 2021.
 10. Fujimoto K^{1,2}, Arita H^{1,3}, Yamasaki K^{1,4}, Matsushita Y^{1,5}, Nakamura T^{1,6}, Miyakita Y⁵, Umehara T³, Kobayashi K, Tamura K⁷, Tanaka S⁸, Higuchi F⁹, Okita Y¹⁰, Kanemura Y¹¹, Fukai J¹², Sakamoto D¹³, Uda T¹⁴, Machida R¹⁵, Kuchiba A¹⁶, Maehara T⁷, Nagane M, Nishikawa R¹⁶, Komori T¹⁷, Narita Y⁵, Ichimura K^{1, 18} (¹Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ²Department of Neurosurgery, Graduate School of Life Sciences, Kumamoto University, ³Department of Neurosurgery, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁴Department of Pediatric Hematology and Oncology, Osaka City General Hospital, ⁵Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ⁶Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Yokohama City University, ⁷Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, ⁸Department of Neurosurgery, The University of Tokyo, ⁹Department of Neurosurgery, Dokkyo Medical University, ¹⁰Department of Neurosurgery, Osaka International Cancer Institute, ¹¹Department of Biomedical Research and Innovation, Institute for Clinical Research, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ¹²Department of Neurological Surgery, Wakayama Medical University, ¹³Department of Neurosurgery, Hyogo College of Medicine, ¹⁴Department of Neurosurgery, Osaka City University Graduate School of Medicine, ¹⁵Biostatistics Division, Center for Research Administration and Support, National Cancer Center, ¹⁶Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ¹⁷Department of Laboratory Medicine and Pathology (Neuropathology), Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, ¹⁸Department of Brain Disease Translational Research, Juntendo University Faculty of Medicine) : TERT promoter mutation status is necessary and sufficient to diagnose IDH-wildtype diffuse astrocytic glioma with molecular features of glioblastoma . Acta Neuropathol Published online . 2021 . DOI: 10.1007/s00401-021-02337-9.
 11. Shigemori K¹, Higashihara E^{1,2}, Itoh M³, Yoshida H, Yamamoto K⁴, Nutahara K¹, Shiokawa Y, Kaname S⁵, Tambo M¹, Yamaguchi T¹, Taguchi S¹, Yoshioka T⁶, Yokoyama K⁶, Fukuhara H¹ (¹Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Hereditary Kidney Disease Research, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Mental Retardation and Birth Defect Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Department of Biostatistics, Yokohama City University School of Medicine, ⁵Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine) : PKD1-Associated Arachnoid Cysts in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. J Stroke Cerebrovasc Dis. 30 (9). 105943. 2021.
 12. Kanamori M¹, Takami H^{2,3}, Suzuki T⁴, Tominaga T¹, Kurihara J⁵, Tanaka S², Hatazaki S⁶, Nagane M, Matsuda M⁷, Yoshino A⁸, Natsumeda M⁹, Yamaoka M¹⁰, Kagawa N¹¹, Akiyama Y¹², Fukai J¹³, Negoto T¹⁴, Shibahara I¹⁵, Tanaka K¹⁶, Inoue

- A¹⁷, Mase M¹⁸, Tomita T¹⁹, Kuga D²⁰, Kijima N²¹, Fukami T²², Nakahara Y²³, Natsume A²⁴, Yoshimoto K²⁵, Keino D²⁶, Tokuyama T²⁷, Asano K²⁸, Ujifuku K²⁹, Abe H³⁰, Nakada M³¹, Matsuda K³², Arakawa Y³³, Ikeda N³⁴, Narita Y³⁵, Shinojima N³⁶, Kambe A³⁷, Nonaka M³⁸, Izumoto S³⁹, Kawanishi Y⁴⁰, Kanaya K⁴¹, Nomura S⁴², Nakajima K⁴³, Yamamoto S⁴⁴, Terashima K⁴⁵, Ichimura K³, Nishikawa R⁴ (¹Department of Neurosurgery, Tohoku University Graduate School Medicine, ²Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ³Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ⁴Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ⁵Department of Neurosurgery, Saitama Children's Medical Center, ⁶Department of Neurosurgery, Mie University Graduate School of Medicine, ⁷Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ⁸Department of Neurological Surgery, Nihon University School of Medicine, ⁹Department of Neurosurgery, Brain Research Institute, Niigata University, ¹⁰Department of Pediatrics, The Jikei University School of Medicine, ¹¹Department of Neurosurgery, Osaka University Graduate School of Medicine, ¹²Department of Neurosurgery, Sapporo Medical University School of Medicine, ¹³Department of Neurological Surgery, Wakayama Medical University School of Medicine, ¹⁴Department of Neurosurgery, Kurume University School of Medicine, ¹⁵Department of Neurosurgery, Kitasato University School of Medicine, ¹⁶Department of Neurosurgery, Kobe University Graduate School of Medicine, ¹⁷Department of Neurosurgery, Ehime University Graduate School of Medicine, ¹⁸Department of Neurosurgery, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ¹⁹Department of neurosurgery, University of Toyama, ²⁰Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ²¹Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²²Department of Neurosurgery, Shiga University of Medical Science, ²³Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, Saga University, ²⁴Department of Neurosurgery, Nagoya University School of Medicine, ²⁵Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, ²⁶Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center, ²⁷Department of Neurosurgery, Hamamatsu University School of Medicine, ²⁸Department of Neurosurgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine, ²⁹Department of Neurosurgery, Nagasaki University School of Medicine, ³⁰Department of Neurosurgery, Fukuoka University Faculty of Medicine, ³¹Department of Neurosurgery, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, ³²Department of Neurosurgery, Yamagata University Faculty of Medicine, ³³Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, ³⁴Department of Neurosurgery and Neuroendovascular Surgery, Osaka Medical College, ³⁵Departments of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ³⁶Department of Neurosurgery, Kumamoto University Hospital, ³⁷Division of Neurosurgery, Department of Brain and Neurosciences, Faculty of Medicine, Tottori University, ³⁸Department of Neurosurgery, Kansai Medical University, ³⁹Department of Neurosurgery, Kindai University Faculty of Medicine, ⁴⁰Department of Neurosurgery, Kochi Medical School, Kochi University, ⁴¹Department of Neurosurgery, Shinshu University School of Medicine, ⁴²Department of Neurosurgery, Yamaguchi University School of Medicine, ⁴³Department of Neurosurgery, Tokushima University School of Medicine, ⁴⁴Department of Pediatrics, Showa University Fujigaoka Hospital, ⁴⁵Division of Neuro-Oncology, Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development): Necessity for craniospinal irradiation of germinoma with positive cytology without spinal lesion on MR imaging - A controversy. *Neuro-Oncol Adv* 3(1). dab086. 2021.
13. Hasegawa H¹, Kin T¹, Shin M¹, Suzuki Y², Kawashima M¹, Shinya Y¹, Shiode T¹, Nakatomi H, Saito N (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo Hospital, ²Department of Radiology, The University of Tokyo Hospital) : Possible Association Between Rupture and Intraneural Microhemodynamics in Arteriovenous Malformations. Phase-Contrast Magnetic Resonance Angiography-Based Flow Quantification. *World Neurosurg.* 150. e427-e435. 2021.
 14. Oya S¹, Ikawa F², Ichihara N³, Wanibuchi M⁴, Akiyama Y⁴, Nakatomi H, Mikuni N⁴, Narita Y⁵ (¹Department of Neurosurgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ²Department of Neurosurgery, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, ³Department of Healthcare Quality Assessment, The University of Tokyo, ⁴Department of Neurosurgery, Sapporo Medical University, ⁵Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital): Effect of adjuvant radiotherapy after subtotal resection for WHO grade I meningioma. a propensity score matching analysis of the Brain Tumor Registry of Japan. *J Neurooncol.* 153 (2). 351-360. 2021.
 15. Barajas RF^{1,2,3}, Politi LS^{4,5}, Anzalone N⁶, Schöder H⁷, Fox CP⁸, Boxerman JL⁹, Kaufmann TJ¹⁰, Quarles CC¹¹, Ellingson BM^{12,13}, Auer D^{14,15,16}, Andronesi OC¹⁷, Ferreri AJM¹⁸, Mrugala MM^{19,20}, Grommes C^{21,22}, Neuwelt EA^{23,24,25,26}, Ambady P^{23,24}, Rubenstein JL^{27,28,29}, Illerhaus G³⁰, Nagane M, Batchelor TT³¹, Hu LS³² (¹Department of Radiology, Neuroradiology Section, Oregon Health & Science University, ²Advanced Imaging Research Center, Oregon Health & Science University, ³Knight Cancer Institute Translational Oncology Program, Oregon Health & Science University,

- ⁴Humanitas University and Humanitas Research and Clinical Center - IRCCS, ⁵Boston Children's Hospital, ⁶Neuroradiology Unit, IRCCS San Raffaele Hospital and Vita-Salute University, ⁷Department of Radiology, Memorial Sloan Kettering Cancer Center, ⁸Department of Clinical Haematology, Nottingham University Hospitals NHS Trust, School of Medicine, University of Nottingham, ⁹Department of Diagnostic Imaging, Warren Alpert Medical School, Brown University, Providence, ¹⁰Department of Radiology, Mayo Clinic, Rochester, ¹¹Department of Neuroimaging Research & Barrow Neuroimaging Innovation Center, Barrow Neurological Institute, ¹²UCLA Brain Tumor Imaging Laboratory (BTIL), Departments of Radiological Sciences and Psychiatry, David Geffen School of Medicine, University of California - Los Angeles, ¹³Departments of Radiological Sciences, Psychiatry, and Biobehavioral Sciences, David Geffen School of Medicine, University of California - Los Angeles, ¹⁴Versus Arthritis Pain Centre, University of Nottingham, ¹⁵NIHR Nottingham Biomedical Research Centre, Queen's Medical Centre, University of Nottingham, ¹⁶Sir Peter Mansfield Imaging Centre, School of Medicine, University of Nottingham, ¹⁷A. A. Martinos Center for Biomedical Imaging, Department of Radiology, Massachusetts General Hospital, ¹⁸Lymphoma Unit, Department of Onco-Hematology, IRCCS San Raffaele Scientific Institute, ¹⁹Department of Medicine, Division of Hematology and Oncology, Mayo Clinic Cancer Center, ²⁰Department of Neurology, Mayo Clinic, ²¹Department of Neurology, Memorial Sloan Kettering Cancer Center, ²²Department of Neurology, Weill Cornell Medical School, ²³Blood-Brain Barrier Program, Oregon Health & Science University, ²⁴Department of Neurology, Oregon Health & Science University, ²⁵Department of Neurological Surgery, Oregon Health & Science University, ²⁶Portland Veterans Affairs Medical Center, ²⁷Division of Hematology/Oncology, University of California, ²⁸Department of Medicine, University of California, ²⁹Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, ³⁰Clinic of Hematology, Oncology and Palliative Care, ³¹Department of Neurology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, ³²Department of Radiology, Neuroradiology Division, Mayo Clinic): Consensus recommendations for MRI and PET imaging of primary central nervous system lymphoma. guideline statement from the International Primary CNS Lymphoma Collaborative Group (IPCG). *Neuro Oncol.* 23 (7). 1056-1071. 2021.
16. Nakanishi K¹, Kawano H¹, Yamagishi Y, Kamma H², Shiokawa Y, Hirano T¹ (¹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University, ²Department of Pathology, Kyorin University): Tumor Cells Detected in Retrieved Thrombus. :Cancer-associated Stroke. *Intern Med.* 60 (15). 2491-2494. 2021.
17. Takami H^{1,2}, Satomi K^{1,3}, Fukuoka K^{1,4}, Fukushima S^{1,3}, Matsushita Y^{1,5}, Yamasaki K^{1,6}, Nakamura T^{1,7}, Tanaka S⁸, Mukasa A^{8,9}, Saito N⁸, Suzuki T¹⁰, Yanagisawa T^{10,11}, Nakamura H^{9,12}, Sugiyama K¹³, Tamura K¹⁴, Maehara T¹⁴, Nakada M¹⁵, Nonaka M¹⁶, Asai A¹⁶, Yokogami K¹⁷, Takeshima H¹⁷, Iuchi T¹⁸, Kanemura Y^{19,20}, Kobayashi K, Nagane M, Kurozumi K^{21,22}, Yoshimoto K²³, Matsuda M²⁴, Matsumura A²⁴, Hirose Y²⁵, Tokuyama T^{22,26}, Kumabe T²⁷, Narita Y⁵, Shibui S⁵, Nakazato Y²⁸, Nishikawa R¹⁰, Matsutani M¹⁰, Ichimura K¹ (¹Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ²Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo Hospital, ³Department of Pathology and Clinical Laboratories, National Cancer Center Hospital, ⁴Division of Pediatric Neuro-Oncology, Saitama Medical University International Medical Center, ⁵Department of Neurosurgery and Neuro-oncology, National Cancer Center Hospital, ⁶Department of Pediatrics, Osaka City General Hospital, ⁷Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Yokohama City University, ⁸Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo Hospital, ⁹Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, ¹⁰Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ¹¹Department of Neurosurgery, The Jikei University School of Medicine, ¹²Department of Neurosurgery, Kurume University, ¹³Department of Neurosurgery, Hiroshima University Faculty of Medicine, ¹⁴Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School of Medical and Dental Sciences, ¹⁵Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, ¹⁶Department of Neurosurgery, Kansai Medical University Hospital, ¹⁷Department of Neurosurgery, University of Miyazaki Faculty of Medicine, ¹⁸Department of Neurosurgery, Chiba Cancer Center, ¹⁹Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²⁰Department of Biomedical Research and Innovation, Institute for Clinical Research, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²¹Department of Neurological Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, ²²Department of Neurosurgery, Hamamatsu University Hospital, ²³Department of Neurosurgery, Kyusyu University Hospital, ²⁴Department of Neurosurgery, University of Tsukuba Hospital, ²⁵Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital, ²⁶Department of Neurosurgery, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital, ²⁷Department of Neurosurgery, Kitasato University, ²⁸Department of Pathology, Hidaka Hospital): Low tumor cell content predicts favorable prognosis in germinoma patients. *Neurooncol Adv.* 3 (1). vdab110. 2021.
18. Ishigami D¹, Miyawaki S¹, Nakatomi H,

- Takayanagi S¹, Teranishi Y¹, Ohara K¹, Hongo H¹, Dofuku S¹, Kin T¹, Abe H², Mitsui J³, Komura D⁴, Katoh H⁴, Ishikawa S⁴, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Pathology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ³Department of Molecular Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ⁴Department of Preventive Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : Brainstem intraparenchymal schwannoma with genetic analysis. a case report and literature review. BMC Med Genomics. 14 (1). 205. 2021.
19. Yamagishi Y^{1,2}, Sasaki N, Nakano Y¹, Matsushita Y^{1,2}, Omura T^{1,3}, Shimizu S, Saito K, Kobayashi K, Narita Y³, Kondo A², Shiokawa Y, Nagane M, Ichimura K^{1,2} (¹Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ²Department of Brain Disease Translational Research, Juntendo University Faculty of Medicine, ³Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital) : Liquid biopsy of cerebrospinal fluid for MYD88 L265P mutation is useful for diagnosis of central nervous system lymphoma. Cancer Sci. 112 (11). 4702-4710. 2021.
 20. Yamamuro S^{1,2}, Takahashi M^{1,3}, Satomi K^{1,4}, Sasaki N, Kobayashi T^{1,5}, Uchida E^{1,6}, Kawauchi D^{1,7}, Nakano T^{1,8,9}, Fujii T^{1,9,10}, Narita Y³, Kondo A¹¹, Wada K¹⁰, Yoshino A², Ichimura K^{1,9}, Tomiyama A^{1,9,10} (¹Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ²Department of Neurological Surgery, Nihon University School of Medicine, ³Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ⁴Department of Diagnostic Pathology, National Cancer Center Hospital, ⁵Department of Neurosurgery, Tokyo Women's Medical University, ⁶Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ⁷Department of Neurological Surgery, Chiba University Graduate School of Medicine, ⁸Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, ⁹Department of Brain Disease Translational Research, Faculty of Medicine, Juntendo University, ¹⁰Department of Neurosurgery, National Defense Medical College, ¹¹Department of Neurosurgery, Juntendo University School of Medicine) : Lomustine and nimustine exert efficient antitumor effects against glioblastoma models with acquired temozolomide resistance. Cancer Sci. 2021. DOI: 10.1111/cas.15141.
 21. Narita Y¹, Muragaki Y², Kagawa N³, Asai K⁴, Nagane M, Matsuda M⁵, Ueki K⁶, Kuroda J⁷, Date I⁸, Kobayashi H⁹, Kumabe T¹⁰, Beppu T¹¹, Kanamori M¹², Kasai S¹³, Nishimura Y¹³, Xiong H¹⁴, Ocampo C¹⁴, Yamada M¹⁵, Mishima K¹⁶ (¹Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Women's Medical University Hospital, ³Department of Neurosurgery, Osaka University Hospital, ⁴Department of Neurosurgery, Osaka International Cancer Institute, ⁵Department of Neurosurgery, University of Tsukuba, ⁶Department of Neurosurgery, Dokkyo Medical University Hospital, ⁷Department of Neurosurgery, Kumamoto University Hospital, ⁸Department of Neurosurgery, Okayama University Hospital, ⁹Department of Neurosurgery, Hokkaido University Hospital, ¹⁰Department of Neurosurgery, Kitasato University Hospital, Kanagawa, ¹¹Department of Neurosurgery, Iwate Medical University Hospital, Iwate, ¹²Department of Neurosurgery, Tohoku University Hospital, ¹³AbbVie GK, Tokyo, Japan, ¹⁴AbbVie Inc, North Chicago, ¹⁵Department of Ophthalmology, Kyorin University Hospital, ¹⁶Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, International Medical Center, Saitama Medical University) : Safety and efficacy of depatuxizumab mafodotin in Japanese patients with malignant glioma : A nonrandomized, phase 1/2 trial. Cancer Sci. 112 (12). 5020-5033. 2021.
 22. Satomi K^{1,2}, Takami H^{2,3}, Fukushima S², Yamashita S⁴, Matsushita Y², Nakazato Y⁵, Suzuki T⁶, Tanaka S³, Mukasa A^{3,7}, Saito N³, Kanamori M⁸, Kumabe T^{8,9}, Tominaga T⁸, Kobayashi K, Nagane M, Iuchi T¹⁰, Yoshimoto K^{11,12}, Tamura K¹³, Maehara T¹³, Sakai K¹⁴, Sugiyama K¹⁵, Yokogami K¹⁶, Takeshima H¹⁶, Nonaka M¹⁷, Asai A¹⁷, Ushijima T⁴, Matsutani M¹⁸, Nishikawa R⁶, Ichimura K^{2,19} (¹Department of Diagnostic Pathology, National Cancer Center Hospital, ²Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ³Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, Division of Epigenomics, National Cancer Center Research Institute, ⁴Department of Pathology, Hidaka Hospital, ⁵Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ⁶Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, ⁷Department of Neurosurgery, Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁸Department of Neurosurgery, Kitasato University, ⁹Department of Neurosurgery, Chiba Cancer Center, ¹⁰Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹¹Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, ¹²Department of Functional Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, ¹³Department of Neurosurgery, Shinshu Ueda Medical Center, ¹⁴Department of Clinical Oncology and Neuro-Oncology Program, Cancer Treatment Center, Hiroshima University Hospital, ¹⁵Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Miyazaki, ¹⁶Department of Neurosurgery, Kansai Medical University Hospital, ¹⁷Gotanda Rehabilitation Hospital, ¹⁸Department of Brain Disease Translational Research, Juntendo University Faculty of Medicine) : 12p gain is predominantly observed in non-germinomatous germ cell

- tumors and identifies an unfavorable subgroup of central nervous system germ cell tumors. *Neuro Oncol.* DOI: 10.1093/neuonc/noab246. 2021. Online ahead of print.
23. Teranishi Y¹, Miyawaki S¹, Hongo H¹, Dofuku S¹, Okano A¹, Takayanagi S¹, Ota T², Yoshimura J³, Qu W³, Mitsui J⁴, Nakatomi H, Morishita S³, Tsuji S⁴, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ³Department of Computational Biology and Medical Sciences, The University of Tokyo, ⁴Department of Molecular Neurology, The University of Tokyo): Targeted deep sequencing of DNA from multiple tissue types improves the diagnostic rate and reveals a highly diverse phenotype of mosaic neurofibromatosis type 2. *J Med Genet.* 58 (10). 701-711. 2021.
 24. Ishigami D¹, Miyawaki S¹, Imai H², Shimizu M³, Hongo H¹, Dofuku S¹, Ohara K¹, Teranishi Y¹, Shimada D, Koizumi S¹, Ono H⁴, Hirano Y¹, Segawa M¹, Nakatomi H, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Neurosurgery, JCHO Tokyo Shinjuku Medical Center, ³Department of Neurosurgery, Kanto Neurosurgery Hospital, ⁴Department of Neurosurgery, Fuji Brain Institute and Hospital) : RNF213 p. Arg4810Lys Heterozygosity in Moyamoya Disease Indicates Early Onset and Bilateral Cerebrovascular Events. *Transl Stroke Res.* 2021. DOI: 10.1007/s12975-021-00956-8. Online ahead of print.
 25. Sasaki N, Nagane M : Treatment of Primary Central Nervous System Lymphoma. Standard Treatments According to the Japanese 2019 Guideline and Novel Treatments. *Brain Nerve.* 73 (10). 1107-1114. 2021.
 26. Aoki T¹, Kagawa N², Sugiyama K³, Wakabayashi T⁴, Arakawa Y⁵, Yamaguchi S⁶, Tanaka S⁷, Ishikawa E⁸, Muragaki Y⁹, Nagane M, Nakada M¹⁰, Suehiro S¹¹, Hata N¹², Kuroda J¹³, Narita Y¹⁴, Sonoda Y¹⁵, Iwade Y¹⁶, Natsumeda M¹⁷, Nakazato Y¹⁸, Minami H¹⁹, Hirata Y²⁰, Hagihara S²¹, Nishikawa R²² (¹Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, ²Department of Neurosurgery, Osaka University Graduate School of Medicine, ³Department of Clinical Oncology and Neuro-Oncology Program, Hiroshima University Hospital, ⁴Department of Neurosurgery, Nagoya University Hospital, ⁵Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, ⁶Department of Neurosurgery, Hokkaido University Hospital, ⁷Department of Neurosurgery, The University of Tokyo Hospital, ⁸Department of Neurosurgery, University of Tsukuba Hospital, ⁹Department of Neurosurgery, Tokyo Women's Medical University Hospital, ¹⁰Department of Neurosurgery, Kanazawa University Hospital, ¹¹Department of Neurosurgery, Ehime University Hospital, ¹²Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹³Department of Neurosurgery, Kumamoto University Hospital, ¹⁴Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ¹⁵Department of Neurosurgery, Yamagata University Hospital, ¹⁶Department of Neurological Surgery, Chiba University Hospital, ¹⁷Department of Neurosurgery, Niigata University Medical and Dental Hospital, ¹⁸Hidaka Center for Pathologic Diagnosis and Research, Hidaka Hospital ¹⁹Department of Medical Oncology/Hematology, Kobe University, ²⁰Oncology Early Clinical Development Planning, Ono Pharmaceutical Co, Ltd, ²¹Department of Statistical Analysis, Ono Pharmaceutical Co, Ltd, ²²Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center) : Efficacy and safety of nivolumab in Japanese patients with first recurrence of glioblastoma, an open-label, non-comparative study. *Int J Clin Oncol.* 26 (12). 2205-2215. 2021.
 27. Takabatake K¹, Kunii N¹, Nakatomi H, Shimada S¹, Yanai K¹, Takasago M¹, Saito N¹ (¹Department of Neurosurgery, The University of Tokyo) : Musical Auditory Alpha Wave Neurofeedback. Validation and Cognitive Perspectives. *Appl Psychophysiol Biofeedback.* 46 (4). 323-334. 2021.
 28. 永根 基雄 : 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する標的治療. *Precision Medicine.* 82 (6). 2022.
 29. Sasaki N, Nagane M : Perspectives on Precision Medicine in Primary Central Nervous System Lymphoma. *No Shinkei geka.* 50 (1). 51-60. 2022.
 30. Takami H^{1,2}, Elzawahry A³, Mamatjan Y^{4,5}, Fukushima S¹, Fukuoka K^{1,6,7}, Suzuki T⁸, Yanagisawa T⁶, Matsushita Y^{1,9}, Nakamura T^{1,10}, Satomi K^{1,11}, Tanaka S², Mukasa A^{2,12}, Saito N², Kanamori M¹³, Kumabe T^{13,14}, Tominaga T¹³, Kobayashi K, Nagane M, Iuchi T¹⁵, Tamura K¹⁶, Maehara T¹⁶, Sugiyama K¹⁷, Yoshimoto K^{18, 19}, Sakai K²⁰, Nonaka M²¹, Asai A²¹, Yokogomi K²², Takeshima H²², Narita Y⁹, Shibui S⁹, Nakazato Y²³, Hama N³, Totoki Y³, Kato M³, Shibata T³, Nishikawa R⁸, Matsutani M⁸, Ichimura K^{1,24} (¹Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, ²Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo Hospital, ³Division of Cancer Genomics, National Cancer Center Research Institute, ⁴MacFeeters Hamilton Centre for Neuro-Oncology Research, Princess Margaret Cancer Centre, University Health Network, ⁵Department of Engineering, Thompson Rivers University, ⁶Division of Pediatric Neuro-Oncology, Saitama Medical University International Medical Center, ⁷Department of Pediatrics, Saitama Children's Medical Center, ⁸Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ⁹Department of Neurosurgery and Neuro-oncology, National Cancer Center Hospital, ¹⁰Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Yokohama City University, ¹¹Department of Diagnostic Pathology, National

- Cancer Center Hospital, ¹²Department of Neurosurgery, Kumamoto University Hospital, ¹³Department of Neurosurgery, Tohoku University School of Medicine, ¹⁴Department of Neurosurgery, Kitasato University, ¹⁵Department of Neurosurgery, Chiba Cancer Center, ¹⁶Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School of Medical and Dental Sciences, ¹⁷Department of Neurosurgery, Hiroshima University Faculty of Medicine, ¹⁸Department of Neurosurgery, Kyushu University Hospital, ¹⁹Department of Neurosurgery, Kagoshima University Hospital, ²⁰Department of Neurosurgery, Shinshu Ueda Medical Center, ²¹Department of Neurosurgery, Kansai Medical University, ²²Department of Neurosurgery, University of Miyazaki Faculty of Medicine, ²³Department of Pathology, Hidaka Hospital, ²⁴Department of Brain Disease Translational Research, Juntendo University Faculty of Medicine): Transcriptome and Methylome Analysis of CNS Germ Cell Tumor Finds Its Cell-of-Origin in Embryogenesis and Reveals Mutual Characters with Testicular Counterparts. *Neuro-Oncol*.noac021. 2022.
31. Hong S, Maruyama K, Noguchi A, Hirano T¹, Nagane M, Shiokawa Y (¹Department of Stroke, Kyorin University Hospital): Is using intracerebral hemorrhage scoring systems valid for mortality prediction in surgically treated patients? *Neurosurg Rev*. 44(5). 2747-2753. 2021.
 32. Iihara K¹, Saito N², Suzuki M³, Date I⁴, Fujii Y⁵, Houkin K⁶, Inoue T⁷, Iwama T⁸, Kawamata T⁹, Kim P¹⁰, Kinouchi H¹¹, Kishima H¹², Kohmura E¹³, Kurisu K¹⁴, Maruyama K, Matsumaru Y¹⁵, Mikuni N¹⁶, Miyamoto S¹⁷, Morita A¹⁸, Nakase H¹⁹, Narita Y²⁰, Nishikawa R²¹, Nozaki K²², Ogasawara K²³, Ohata K²⁴, Sakai N²⁵, Sakamoto H²⁶, Shiokawa Y, Takahashi JC²⁷, Ueki K²⁸, Wakabayashi T²⁹, Yoshimoto K³⁰, Arai H³¹, Tominaga T³², on behalf of the Japan Neurosurgical Society (¹Department of Neurosurgery, National Cerebral and Cardiovascular Center, ²Department of Neurosurgery, The University of Tokyo, ³Department of Advanced ThermoNeuroBiology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ⁴Department of Neurological Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, ⁵Department of Neurosurgery, Brain Research Institute, Niigata University, ⁶Department of Neurosurgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ⁷Department of Neurosurgery, Fukuoka University School of Medicine, ⁸Department of Neurosurgery, Gifu University School of Medicine, ⁹Department of Neurosurgery, Tokyo Women's Medical University, ¹⁰Department of Neurologic Surgery, Utsunomiya Neurospine Center, ¹¹Department of Neurosurgery, University of Yamanashi Interdisciplinary Graduate School of Medicine, ¹²Department of Neurosurgery, Osaka University Graduate School of Medicine, ¹³Kinki Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers, ¹⁴Department of Neurosurgery, Chugoku Rosai Hospital, ¹⁵Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ¹⁶Department of Neurosurgery, Sapporo Medical University, ¹⁷Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹⁸Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, ¹⁹Department of Neurosurgery, Nara Medical University, ²⁰Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital, ²¹Department of Neuro-Oncology/Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center, ²²Department of Neurosurgery, Shiga University of Medical Science, ²³Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, ²⁴Naniwa Ikuno Hospital, ²⁵Department of Neurosurgery, Kobe City Medical Center General Hospital, ²⁶Department of Pediatric Neurosurgery, Osaka City General Hospital, ²⁷Department of Neurosurgery, Kindai University Faculty of Medicine, ²⁸Department of Neurologic Surgery, Dokkyo Medical University, ²⁹Focused Ultrasound Therapy Center, Nagoya Kyoritsu Hospital, ³⁰Department of Neurosurgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, ³¹Juntendo University Faculty of Medicine, ³²Department of Neurosurgery, Tohoku University Graduate School of Medicine): The Japan Neurosurgical Database: Statistics Update 2018 and 2019. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 61(12). 675-710. 2021.
 33. Sasaki Y, Yoshida H, Horikawa H, Maruyama K, Noguchi A, Shiokawa Y: A growing aneurysm of the posterior inferior cerebellar artery complicated with cerebellar infarction: a case report. *Int J Surg Case Rep*. 88. 106559. 2021.
 34. Habiba U^{1,2}, Sugino H¹, Yordanova R^{3,4}, Ise K⁵, Tanei Z¹, Ishida Y¹, Tanikawa S^{1,6}, Terasaka S⁷, Sato K⁸, Kamoshima Y⁹, Katoh M¹⁰, Nagane M, Shibahara J¹¹, Tsuda M^{1,6,12}, Tanaka S^{13,14,15} (¹Department of Cancer Pathology, Faculty of Medicine, Hokkaido University, ²Department of Oral Pathology and Periodontology, Sapporo Dental College and Hospital, ³Department of Mathematics, Faculty of Science, Hokkaido University, ⁴Institute of Mathematics and Informatics, Bulgarian Academy of Sciences, ⁵School of Medicine, Hokkaido University, ⁶Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (WPI-ICReDD), Hokkaido University, ⁷Kashiwaba Neurosurgical Hospital, ⁸Nakamura Memorial Hospital, ⁹Asabu Neurosurgical Hospital, ¹⁰Hokkaido Neurosurgical Memorial Hospital, ¹¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ¹²Global Institution for Collaborative Research and Education (GI-CoRE), Hokkaido University, ¹³Department of Cancer Pathology, Faculty of Medicine, Hokkaido University, ¹⁴Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (WPI-ICReDD), Hokkaido University, ¹⁵Global Institution for Collaborative Research and Education (GI-CoRE), Hokkaido University): Loss of H3K27 trimethylation is frequent in IDH1-R132H but not in non-canonical IDH1/2 mutated and 1p/19q codeleted

- oligodendroglioma: a Japanese cohort study. *Acta Neuropathol Commun.* 21. 9(1). 95. 2021.
35. 永根基雄: 中枢神経原発リンパ腫におけるBTK阻害薬選択の考え方と注意点. *血液内科*. 82 (6). 782-789. 2021.
 36. 佐々木重嘉, 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の治療- 2019ガイドラインから. *BRAIN and NERVE*. 73 (10). 1107-1114. 2021.
 37. 齊藤邦昭: グリオーマの手術technique グリオーマ手術手技と手術支援技術の基本. *Neurological Surgery*. 49 (3). 536-548. 2021.
 38. 齋藤幹人¹, 河野浩之¹, 天野達雄¹, 本田有子¹, 海野佳子¹, 塩川芳昭, 平野照之¹ (杏林大学・医・脳卒中中医学): CT perfusionは急性期脳梗塞に対する血管再開通療法に要する時間を短縮する. *Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care*. 34 (1). 50. 2021.
 39. 塩川芳昭: 手術教育のためのデジタルイラストレーション. *脳神経外科ジャーナル*. 30(1). 69. 2021.
 40. 齊藤邦昭: 脳腫瘍の手術 グリオーマ摘出における各摘出器具の利点と使い分け (パイポラまたはCUSA) 「CUSA派」の立場から. *脳神経外科速報*. 2021増刊. 241-245. 2021.
 41. 佐々木重嘉, 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の治療- 2019ガイドラインから. *BRAIN and NERVE*. 73 (10). 1107-1114. 2021.
 42. 勝又雅裕¹, 太田貴裕², 金子純也³, 神保洋之⁴, 塩川芳昭, 平野照之⁵ (慶應大, ²多摩総合医療センター, ³日本医大多摩永山病院, ⁴東京医大八王子医療センター, ⁵杏林大学・医・脳卒中中医学): Pre-COVID vs COVID-era 東京における急性期血行再建の時間と機能予後比較. *脳血管内治療*. 6. S5. 2021.
 43. 重田恵吾¹, 太田貴裕², 金子純也³, 松丸祐司⁴, 塩川芳昭, 平野照之⁵ (災害医療センター, ²多摩総合医療センター, ³日本医大多摩永山病院, ⁴筑波大, ⁵杏林大学・医・脳卒中中医学): COVID-19蔓延により脳血栓回収症例の救急搬送はどのように影響を受けたか. *脳血管内治療*. (6). S91. 2021.
 44. 太田貴裕¹, 塩川芳昭, 松丸祐司², 平野照之³ (多摩総合医療センター, ²筑波大, ³杏林大学・医・脳卒中中医学): 東京・多摩地区における血栓回収療法の実態調査 Reginal registryとしてのTREAT. *脳血管内治療*. 6. S38. 2021.
 45. 金子純也¹, 太田貴裕², 重田恵吾³, 天野達雄¹, 井上雅人⁴, 神谷雄己⁵, 松丸祐司⁶, 塩川芳昭, 平野照之⁷ (日本医大多摩永山病院, ²多摩総合医療センター, ³災害医療センター, ⁴国際医療研究センター, ⁵虎ノ門病院, ⁶筑波大, ⁷杏林大学・医・脳卒中中医学): 脳底動脈閉塞に対する血栓回収療法の現状と治療適応. *脳血管内治療*. 6. S44. 2021.
 46. 井上雅人¹, 板倉悠哉², 玉井雄大¹, 藤谷牧子¹, 金山政作¹, 原徹男¹, 太田貴裕³, 重田恵吾⁴, 天野達雄⁵, 神谷雅己⁶, 塩川芳昭, 平野照之⁵ (国際医療研究センター, ²板倉病院, ³多摩総合医療センター, ⁴災害医療センター, ⁵杏林大学・医・脳卒中中医学, ⁶虎ノ門病院): 血栓回収術により有効再開通を得られた90歳以上の脳主幹動脈閉塞症例では術前のASPECTSと出血性合併症が転帰に影響する. *脳血管内治療*. 6. S224. 2021.
 47. 河野浩之¹, 塩川芳昭, 平野照之¹ (杏林大学・医・脳卒中中医学): がん関連脳梗塞の診断と治療・予防. *Cardio-Coagulation*. 8 (4). 260-263. 2021.
 48. 位田隆一¹, 井林雪郎², 小笠原邦昭³, 古賀政利⁴, 塩川芳昭, 中島弘⁵, 橋本洋一郎⁶, 藤本茂⁷, 宮本享⁸, 薬師寺祐介⁹, 片岡大治⁴ (滋賀大, ²誠愛リハビリテーション病院, ³岩手医大, ⁴国立循環器病研究センター, ⁵大阪府立成人病センター, ⁶済生会熊本病院, ⁷自治医大, ⁸京大, ⁹関西医大): 重症脳卒中の維持期における緩和と療養に関する提言. *脳卒中*. 44 (1). 81-85. 2022.
 49. 山道惇¹, 岡田啓, 天野達雄¹, 河野浩之¹, 海野佳子¹, 塩川芳昭, 平野照之¹ (杏林大学・医・脳卒中中医学): 左片麻痺を呈した両側前大脳動脈解離を呈した若年性脳梗塞の1例. *臨床神経学*. 62 (1). 78. 2022.
 50. 塩川芳昭, 河野浩之¹, 高野利実², 辻哲也³, 成田善孝⁴, 藤本茂⁵, 平野照之¹ (杏林大学・医・脳卒中中医学, ²虎ノ門病院, ³慶應大, ⁴国立がん研究センター中央病院, ⁵自治医大): NEURO-ONCOLOGIC EMERGENCYにおけるがん脳卒中の併発例への対応 領域横断的なコンセンサス形成の必要性. *Neurosurgical Emergency*. 26 (3). 291. 2022.
 51. 河野浩之¹, 平野照之¹, 高野利実², 辻哲也³, 成田善孝⁴, 藤本茂⁵, 塩川芳昭 (杏林大学・医・脳卒中中医学, ²虎ノ門病院, ³慶應大, ⁴国立がん研究センター中央病院, ⁵自治医大): がん脳卒中を合併する症例の治療者側の意識と診療実態に関する全国調査. *脳卒中*. 44 (2). 133-141. 2022.
 52. 塩川芳昭: 脳神経外科における診療報酬制度の現状と課題. *脳神経外科ジャーナル*. 31 (3). 172-178. 2022.
 53. 永根基雄: 中枢神経系悪性リンパ腫の病態と治療-エビデンスと今後の展望-. *日本リンパ網内系学会会誌*. 61. 76. 2021.
 54. 松本淑恵, 齊藤邦昭, 佐々木重嘉, 小林啓一, 長濱清隆¹, 柴原純二¹, 竹内賢吾², 塩川芳昭, 永根基雄 (杏林大学・医・病理学, ²がん研有明病院): EBウィルス陽性異型リンパ球の増殖を伴った中枢神経梅毒の一例. *Brain Tumor Pathology*. 38. 122. 2021.
- 令和2年度追加分
1. Enomoto M¹, Shigeta K¹, Ota T², Amano T³, Ueda M⁴, Matsumaru Y⁵, Shiokawa Y, Hirano T³ (¹Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Disaster Medical Center, ²Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ³Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University, ⁴Department of Neurology and Stroke Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁵Division of Stroke Prevention and Treatment, Department of Neurosurgery, University of Tsukuba): Predictors of intracranial hemorrhage in acute ischemic stroke after endovascular thrombectomy. *Interv Neuroradiol*. 26 (4). 368-375. 2020.
- 著書
1. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭 (編): *Annual Review神経2021*. 中外医学社. 2021.
 2. 岡田啓, 塩川芳昭: くも膜下出血. 最新ガイドラインに基づく神経疾患 診療指針2021-2022. 鈴木則宏 (編). 総合医学社. 2021. 39-44.
 3. 丸山啓介, 中富浩文, 塩川芳昭 (分担執筆): 前床突起削除法 (intradural or extradural?/drill or CUSA?) ii, 「Extradural派」の立場から. *脳神経*

外科手術 基本手技のバリエーション. 竹田理々子 (編). メディカ出版. 2021. 93-97.

4. 塩川芳昭 (分担執筆): 外科治療の変遷と展望. 最新臨床脳卒中学 (第2版) 上 - 最新の診断と治療 -. (株)日本臨牀社. 2022. 80巻1号. 22-27.
5. 塩川芳昭 (分担執筆): 脳卒中 (脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・もやもや病). Year note TOPICS 2022-2023 内科・外科疾患. 株式会社メディック. 2022. J1-J11.
6. 吉田裕毅, 塩川芳昭 (分担執筆): 未破裂脳動脈瘤. 脳神経疾患最新の治療2021-2023. 南江堂. 2021. 92-95.
7. 山岸夢希, 佐々木重嘉, 永根基雄 (分担執筆): 神経疾患研究の現状と課題と展望-神経系腫瘍-. Clinical Neuroscience 39 (9). 中外医学社. 2021. 1143-1147.

その他

1. 中富浩文: バーチャルリアリティで“安全な脳外科手術”. 杏林大学新聞第26号. 6-8. 杏林大学新聞編集委員会. . 2021年9月21日.
2. 永根基雄: 得意な治療. 診療に於いて取り組んでいること. 名医のいる病院2022. 株式会社 医療新聞社. 2021年12月.
3. 塩川芳昭: 得意な治療. 診療に於いて取り組んでいること. 名医のいる病院2022. 株式会社 医療新聞社. 2021年12月.
4. 中富浩文: 得意な治療. 診療に於いて取り組んでいること. 名医のいる病院2022. 株式会社 医療新聞社. 2021年12月.

心臓血管外科学教室

口 演

1. 市川洋平, 菊地信介, 大平成真, 竜川貴光, 中津知己, 柄窪藍, 吉田有里, 内田大貴, 古屋敦宏, 齊藤幸裕, 東信良: 包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) 予後予測因子としての血中多価不飽和脂肪酸濃度の意義. 第49回日本血管外科学会学術総会. オンライン. 2021年5月19日-21日.
2. 土屋博司, 遠藤英仁, 稲葉雄亮, 峯岸祥人, 城野喬史, 河野浩之, 松本淑恵, 長濱清隆, 藤原正親, 窪田博: 上行大動脈巨大血栓に対し緊急上行置換術にて救命し得た一例. 第186回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. オンライン. 2021年6月5日.
3. 細井温, 古暮洸太, 市川洋平, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 布川雅雄, 窪田博: がん関連静脈血栓性塞栓症に対する治療戦略～出血イベントの重要性～. 第41回日本静脈学会総会. オンライン. 2021年9月6日.
4. Ichikawa Y, Kogure K, Sasajima H, Fujimaki K, Ikezoe T, Mochizuki Y, Isaji T, Hosoi Y, Nunokawa H, Kubota H: Anomalous splenic artery aneurysms: A report of two cases and a review of literature. the 22nd Congress of the Asian Society for Vascular Surgery. Online. October 11-13, 2021
5. 市川洋平, 古暮洸太, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 伊佐治寿彦, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 当科における脾動脈瘤30例の自然経過に関する検討. 第62回日本脈管学会総会. オンライン. 2021年10月14日-16日.
6. Isaji T, Kogure K, Ichikawa Y, Sasajima H, Fujimaki K, Ikezoe T, Mochizuki Y, Hosoi Y, Nunokawa H, Kubota H: Management Strategies for Visceral Arterial Aneurysms Based on the

Natural History. Compared to the SVS Guidelines. 第62回日本脈管学会総会. オンライン. 2021年10月14日-16日.

7. 古暮洸太, 市川洋平, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 伊佐治寿彦, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 上腸間膜動脈分枝灌流障害を伴うB型急性大動脈解離に対して血栓摘除術および上腸間膜動脈開窓術で救命し得た1例. 第62回日本脈管学会総会. オンライン. 2021年10月14日-16日.
8. 知見将宏, 稲葉雄亮, 土屋博司, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博: 上行大動脈血栓症に対して緊急上行大動脈置換術を施行した一例. 第187回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2021年11月6日.
9. 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 土屋博司, 遠藤英仁, 窪田博: 胸部感染性大動脈瘤・人工血管感染に対するウシ心膜グラフトを用いた手術治療の中期成績の検討. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. 東京. 2021年11月3日.
10. 池添亨, 布川雅雄, 窪田博: 脂質代謝異常の腹部大動脈瘤への関与. 第50回杏林医学学会総会. オンライン. 2021年11月20日-11月29日.
11. 濱野繁, 佐伯菜里, 川瀬羽生加, 峯岸祥人: 当院における体外設置型補助人工心臓の固定の工夫. 第59回日本人工臓器学会大会. 千葉. 2021年11月26日.
12. 稲葉雄亮, 古暮洸太, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博: A型急性大動脈解離に対するopen stent graft偽腔留置により腹部malperfusionを発症した1例. 第18回多摩心臓外科学会. オンライン. 2022年2月12日.
13. 窪田博, 遠藤英仁, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 大塚俊哉³, 野中隆広², 久木基至², 富樫郁子¹, 上田明子¹, 三輪陽介¹, 佐藤俊明¹, 河野隆志¹, 松尾征一郎¹, 星田京子¹, 勝目有美¹, 副島京子¹. (¹杏林大学循環器内科, ²東京都立多摩総合医療センター心臓血管外科, ³ニューハート渡邊国際病院心臓外科): Epicardial Ablation Using an Infrared Coagulator “Kyo-co” to Treat Atrial Fibrillation on The Beating/Arrested Heart. 第86回日本循環器学会 (JCS 2022). オンライン. 2022年3月11日-3月13日.
14. 古暮洸太, 遠藤英仁, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 窪田博: 広範囲胸部大動脈瘤切迫破裂に対しopen stent graft併施全弓部置換術で救命し得た1例. 第188回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年3月19日.

論 文

1. Kubota H, Ohtsuka T, Ninomiya M, Nonaka T, Hisagi M, Endo H, Minegishi S, Tsuchiya H, Inaba Y: Thoracoscopic infrared ablation to create a box lesion as a treatment for atrial fibrillation. J Cardiothorac Surg. 17(1). 1. 2022.
2. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Inaba Y, et al: ALCAPA in adults: Learning more about this rare congenital disease in the coronary arteries. Health & Medicine. 10.26904/RF-135-12181923651. 2021.
3. Minegishi S, Endo H, Inaba Y, Kubota H: A large vegetation on a xenopericardial roll elephant trunk graft. JTCVS Techniques. 6. 46-49. 2021.
4. Ikezoe T, Shoji T, Guo J, Shen F, Hong S Lu, Daugherty A, Nunokawa M, Kubota H, Miyata M, Baohui Xu, Ronald L Dalman: No Effect of Hypercholesterolemia on Elastase-Induced Experimental Abdominal Aortic Aneurysm Progression. Biomolecules. 11(10). 1434. 2021.

5. Baohui Xu, Gang Li, Jia Guo, Ikezoe T, Kasirajan K, Zhao S, L Dalman R: Angiotensin-converting enzyme 2, coronavirus disease 2019, and abdominal aortic aneurysms. J Vasc Surg. 74(5). 1740-1751. 2021.
6. 市川洋平, 細井温, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 大森嘉彦¹, 菅間博¹, 布川雅雄, 窪田博¹(杏林大学医学部付属病院病理部): 膝窩動脈捕捉症候群に対して大伏在静脈グラフトを用いて膝窩動脈置換術を実施した10代女児の1手術例. 血管外科. 第40巻. 1号. 69-75. 2021年.
7. Inaba Y, Minegishi S, Endo H, Kubota H: Removal of a frozen elephant trunk using a polyvinyl tube. General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2022. doi.org/10.1007/s11748-022-01790-x. Epub.
8. Jia Guo, Tahakiro Shoji, Yingbin Ge, Xiaoya Zheng, Yankui Li, Sihai Zhao, Toru Ikezoe, Shuai Liu, Jianhua Huang, Wei Wang, Baohui Xu, Ronald L Dalman: Treatment with the Prolyl Hydroxylase Inhibitor JNJ Promotes Abdominal Aortic Aneurysm Progression in Diabetic Mice. Eur J Vasc Endovasc Surg. 63(3). 484-494. 2022.

著 書

1. 窪田博: 企画「大動脈解離: 治療の進歩と今後の展望 - ステントグラフトの進歩と共に」、巻頭言. 心臓 SHINZO. 公益財団法人日本心臓財団. 第53巻4号. 2021. 317.
2. 窪田博: 循環器医が知っておくべき最新のエビデンス. 心臓 SHINZO. 公益財団法人日本心臓財団. 第53巻8号. 2021. 822-823.

その他

1. 窪田博: コメンテーター. 一般演題(口演) 26、症例報告(不整脈) 2. 第69回日本心臓病学会学術集会. 2021年9月17日-19日.

受賞報告

1. 市川洋平: 最優秀演題. 包括的高度慢性下肢虚血(CLTI)予後予測因子としての血中多価不飽和脂肪酸濃度の意義. 第49回日本血管外科学会学術総会. 2021年5月19日-21日.
2. 市川洋平: 準優勝. Senior Class. Distal Bypass Olympic Games 2021. 2021 Congress of Asian Society for Vascular Surgery / Dr. Nobuyoshi Azuma MD PhD. Supported by Japanese Society for Vascular Surgery. Oct 13. 2021
3. 知見将宏: 優秀賞. 第187回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2021年11月6日.
4. 稲葉雄亮: 一般演題奨励賞. 第18回多摩心臓外科学会. オンライン. 2022年2月12日.

整形外科学教室

講 演

A. 講演

1. 細金直文: 成人脊柱変形の治療戦略. 防衛医科大学校整形外科同門会教育研修講演. オンライン. 2021年4月3日.
2. 竹内拓海: びまん性特発性骨増殖症(DISH)に対するDouble endplates penetrating screw(DEPS)法の適応と応用 - DEPS法に最適なimplantとは? - Depuy Synthes Spine TIME. オンライン. 2021年4月8日.
3. 細金直文: 本邦における腰椎変性側弯症の現状. 第50回日本脊椎脊髄病学会. 京都市・オンライン. 2021年4月23日.
4. 市村正一: 骨折リスクの高い骨粗鬆症の治療戦略. 骨粗鬆症治療NEXT Strategy. オンライン. 2021年5月31日.
5. 細金直文: 脊椎外科領域における神経障害性疼痛の治療と課題. Pain Live Symposium. オンライン. 2021年6月30日.
6. 竹内拓海: びまん性特発性骨増殖症(DISH)に対するDouble endplates penetrating screw(DEPS)法の適応と応用 - DEPS法に最適なimplantとは? - Depuy Small seminar. オンライン. 2021年7月29日.
7. 市村正一: 骨粗鬆症治療の意義・薬物療法の適正使用. Meet the Expert in KYOTO. オンライン. 2021年8月19日.
8. 細金直文: 脊椎変形疾患の評価と治療. 第8回両毛地区痛み研究会. オンライン. 2021年8月20日.
9. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折診療マニュアルと薬物療法. テリボンWeb講演会. オンライン. 2021年9月9日.
10. 細金直文: 神経障害性疼痛を来す腰椎疾患について. DSネット Pain Webセミナー. オンライン. 2021年9月9日.
11. 細金直文: 成人脊柱変形の診断と治療. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
12. 市村正一: 骨粗鬆症診療における医療安全. 運動器疾患/骨・関節フォーラム松江会場. オンライン. 2021年9月25日.
13. 細金直文: 成人脊柱変形の治療戦略. 西新宿整形外科研究会オートムセミナー2021. 東京・オンライン. 2021年10月2日.
14. 竹内拓海: Double endplates penetrating screw(DEPS)法の治療成績と応用 - DISH以外への適応は? - Zimmer Round-Table Case Discussion. オンライン. 2021年10月7日.
15. 竹内拓海: Double endplates penetrating screw(DEPS)法の治療成績と応用 - DISH以外への適応は? - 第11回最小侵襲脊椎治療学会(MIST学会). 東京. 2021年10月30日.
16. 稲田成作: 骨粗鬆症と血管石灰化. 第13回多摩整形外科病診連携の会. オンライン. 2021年11月17日.
17. 森井健司: がん骨転移診療の基本と実践 - QOL維持をめざしたがん患者運動器障害への対応 - 西多摩整形外科医会学術講演会. オンライン. 2021年11月25日.
18. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折診療マニュアルから見たイベントの可能性. EVENITY Summit 2021. オンライン. 2021年12月12日.
19. 竹内拓海: Double Endplates Penetrating Screw(DEPS)法の手技上のコツと問題点どこまで使える? DEPS法 - Chiba Spine Youth Meeting -25th-. 千葉市. 2021年12月18日.
20. 細金直文: 成人脊柱変形の治療戦略. 第49回御茶ノ水整形外科卒後研修セミナー. 東京. 2021年12月19日.
21. 細金直文: 高齢者成人脊柱変形の治療戦略. 第19回神奈川BRB整形外科研究会. オンライン. 2022年2月19日.

22. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略 骨粗鬆症を伴った高齢者の脊柱変形．第31回神戸整形外科セミナー．神戸市・オンライン．2022年2月24日．
23. 細金直文：成人脊柱変形手術のピットフォール．第12回日本成人脊柱変形学会．和歌山市・オンライン．2022年3月5日．

B. 国際学会

1. Morii T, Asano N, Nakayama R, Kikuta K, Susa M, Watanabe I, Anazawa U, Suzuki Y, Morioka H, Ichimura S: Periooperative complications of giant cell tumor of bone in the extremities-prevalence, risk factors and impact on function and oncological outcome-. The 13th APMSTS (the Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society). Okayama. April 21st-23rd. 2021.
2. Udaoka T, Tajima T, Morii T, Ichimura S: Treatment outcome of solitary bone cyst. The 13th APMSTS (the Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society). Okayama. April 21st-23rd. 2021.
3. Tajima T, Morii T, Udaoka T, Ichimura S: Clinical significance of sIL-2R in the early management of bone and soft tissue tumor. The 13th APMSTS (the Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society). Okayama. April 21st-23rd. 2021.
4. Hasegawa A, Kioshita Y: Comparison of balloon kyphoplasty and conservative treatment for osteoporotic vertebral fractures in patients with dementia. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). Online. June 9th-12th. 2021.
5. Takahashi M, Tsuji M, Satomi K, Takeuchi T, Sano H, Ichimura S, Hosogane N: Impact of cervical alignment for prognosis of cervical spondylotic amyotrophy - Propensity score matching analysis -. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). Online. June 10th-30th. 2021.
6. Takeuchi T, Yamagishi K, Sano H, Takahashi M, Ichimura S, Hosogane N: Usefulness and problems of the double endplates penetrating screw (DEPS) technique for patients with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH). 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS 2021). Online. June 10th-30th. 2021.
7. Takahashi M, Tsuji M, Satomi K, Takeuchi T, Sano H, Ichimura S, Hosogane N: Impact of cervical alignment for prognosis of cervical spondylotic amyotrophy - Propensity score matching analysis -. 49th Cervical Spine Research Society (CSRS) Instructional Course and Annual Meeting. USA・Online. December 1-4. 2021.
- 仁, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文：除圧術追加による後方椎体間固定術後の上位隣接椎間障害への影響．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月22日．
3. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 河野仁, 小西一斉, 辻将明, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 細金直文：下位腰椎化膿性脊椎炎に対するMIST手術の治療成績．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月22日．
4. 諸井威彦, 佐野秀仁, 小西一斉, 五十嵐一峰, 大木紫, 市村正一, 細金直文：タブレットPCを用いた新たな上肢巧緻運動機能評価法の開発（第三報）- 頸髄症患者の評価とJOASスコアとの相関 - ．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月23日．
5. 諸井威彦, 額賀唯至, 高見澤悠平, 佐野秀仁, 高橋雅人, 小林裕明, 細金直文：腰椎手術患者における中枢感作の評価 - 日本語版CSIを用いた検討 - ．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月23日．
6. 高橋雅人, 今釜史郎, 小林和克, 吉田剛, 山田圭, 山本直也, 安藤宗治, 川端茂徳, 藤原靖, 谷口慎一郎, 安藤圭, 後迫宏紀, 松山幸弘：日本脊椎脊髄病学会ワーキンググループが策定した脊髄モニタリングアラームポイントの妥当性 - 3,625例の多施設共同前向き研究 - ．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月23日．
7. 高橋雅人, 辻将明, 里見和彦, 竹内拓海, 佐野秀仁, 市村正一, 細金直文：頸椎アライメントは頸椎症性筋萎縮症の予後に影響するか - 傾向スコアマッチングによる解析 - ．第94回日本整形外科学会学術総会．東京．2021年5月20日．
8. 坂倉健吾, 佐々木茂, 佐藤行紀, 鈴木啓司, 小谷明弘, 富田哲也, 菅本一臣, 山崎隆治, 森井健司, 細金直文：TKA術後生体内動態と設置位置の関連．第94回日本整形外科学会学術総会．東京・オンライン．2021年5月20-23日．
9. 小西一斉, 佐野秀仁, 細金直文, 山岸賢一郎, 長谷川雅一, 高橋雅人, 竹内拓海, 辻将明, 谷戸祥之, 市村正一：化膿性脊椎炎手術例の予後に関わる因子の検討．第94回日本整形外科学会学術総会．東京・オンライン．2021年5月20-23日．
10. 森井健司, 穴澤卯圭, 佐藤ちあ紀, 中村知樹, 中山ロバート, 河本旭哉, 鬼頭宗久, 秋山達, 永野昭仁, 上田孝文, 森岡秀夫：四肢および後腹膜腔外体幹部発生脱分化脂肪肉腫の予後因子 - 骨軟部肉腫治療研究会による多施設共同研究 - ．第94回日本整形外科学会学術総会．東京．2021年5月22日．
11. 浅野尚文, 斎藤誠人, 菊田一貴, 小林英介, 渡部逸央, 森井健司, 川井章, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 堀内圭輔, 中山ロバート：デノスマブの術前補助療法は骨巨細胞腫の掻爬術後の局所再発リスクを増大させる．第94回日本整形外科学会学術総会．東京．2021年5月22日．
12. 市村正一：（シンポジウム）骨代謝マーカーの変化と異常値の意義．第94回日本整形外科学会学術総会．東京．2021年5月21日．
13. 高橋雅人, 今釜史郎, 小林和克, 山田圭, 吉田剛, 山本直也, 安藤宗治, 川端茂徳, 藤原靖, 寒竹司, 谷俊一, 松山幸弘：日本脊椎脊髄病学会ワーキンググループが策定した脊髄モニタリングアラームポイントの妥当性 - 3,625例の多施設共同前向き研究 - ．第94回日本整形外科学会学術総会．東京．2021年5月23日．

C. 国内学会

1. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 辻将明, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 河野仁, 細金直文：びまん性特発性骨増殖症（DISH）を合併した脊椎疾患に対するDouble end-plates penetrating screw(DEPS)法の有用性と問題点．第50回日本脊椎脊髄病学会．京都市・オンライン．2021年4月22日．
2. 川野洋介, 長谷川雅一, 辻将明, 竹内拓海, 佐野秀

14. 小西一斉, 佐野秀仁, 山岸賢一郎, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 竹内拓海, 谷戸祥之, 市村正一, 細金直文: 化膿性脊椎炎手術例の予後に関わる因子の検討. 第44回日本骨・関節感染症学会. 横浜市. 2021年6月25-26日.
15. 稲田成作, 大畑徹也, 西野雅人, 道廣岳, 濱田尚一郎, 加藤聡一郎, 細金直文, 山口芳裕: 不安定型骨盤輪骨折に上位横突起骨折を合併した患者の臨床的特徴. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 神戸市・オンライン. 2021年7月2-3日.
16. 大畑徹也, 稲田成作, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一, 細金直文: 重症骨盤骨折を伴う多発外傷における6時間後乳酸値改善の有無における検討. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 神戸市・オンライン. 2021年7月2-3日.
17. 道廣岳, 稲田成作, 西野雅人, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨頭のCT値はラグスクリュウの挿入トルクと相関する. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 神戸市・オンライン. 2021年7月2-3日.
18. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨転子部骨折の新AO分類における外側壁厚と骨粗鬆症の関連性. 第47回日本骨折治療学会学術集会. 神戸市・オンライン. 2021年7月2-3日.
19. 森井健司, 岩田慎太郎, 佐藤ちあ紀, 中村知樹, 河本旭哉, 中山ロバート, 王谷英達, 鬼頭宗久, 佐々恵太, 末原義之, 秋山達, 佐藤健二, 今西淳悟, 河野博隆, 上田孝文, 穴澤卯圭, 森岡秀夫: 二次性脱分化脂肪肉腫の臨床像. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
20. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 細金直文: 骨・軟部腫瘍診療における可溶性IL-2レセプター値の臨床的意義. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
21. 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 市村正一, 細金直文: Dindo-Clavien complication gradeを用いた悪性骨・軟部腫瘍の手術関連合併症の実態調査. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
22. 森智章, 小林英介, 中紀文, 遠藤誠, 中村知樹, 森井健司, 吉田行弘, 上田孝文, 川井章: 大腿に発生した悪性腫瘍に対する大腿骨全置換術の治療成績 - 日本骨軟部肉腫治療研究会(JMOG)他施設共同研究. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
23. 浅野尚文, 齊藤誠人, 菊田一貴, 小林英介, 竹内克仁, 須佐美智郎, 渡辺逸央, 西本和正, 森井健司, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 川井章, 森岡秀夫, 堀内圭輔, 中山ロバート: デノスマブの術前補助療法は骨巨細胞腫の搔把術後の局所再発リスクを増大させる. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
24. 浅野尚文, 齊藤誠人, 関田哲也, 菊田一貴, 小林英介, 渡辺逸央, 森井健司, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 川井章, 森岡秀夫, 中山ロバート: 切除不能または再発性骨巨細胞腫に対するデノスマブ単剤療法の治療成績. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
25. 小澤英史, 西田佳弘, 岩田慎太郎, 早川景子, 薛宇孝, 川島寛之, 石井猛, 土屋弘行, 筑紫聡, 濱田健一郎, 矢澤康男, 馬場一郎, 永野昭仁, 森井健司, 白井寿治, 今西淳悟, 河野博隆: 脱分化型およびGrade 3軟骨肉腫の特徴と治療成績 JMOG他施設共同研究. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
26. 弘實透, 山口さやか, 森智章, 浅野尚文, 菊田一貴, 須佐美智郎, 堀内圭輔, 渡辺逸央, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森智章, 吉山晶, 森岡秀夫, 小林英介, 中山ロバート: 若年の軟骨芽細胞腫における治療の課題 - 当院および関連施設での治療経験. 第54回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 広島市・オンライン. 2021年7月15-16日.
27. 橋安津子, 河野仁, 伊賀隆史, 諸井威彦, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 細金直文: 胸椎椎間板ヘルニアに対するPLIFおよびPLF. 第28回日本脊髄・脊髄神経手術手技学会. 京都市. 2021年9月3-4日.
28. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: ロッキングを呈した外側半月板単独損傷に対する半月板縫合術の治療成績. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
29. 坂倉健吾, 佐々木茂, 細金直文: 広範囲腱板断裂に対する腱板修復術 - 術式間の比較 - 特に再断裂形態に着目して. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
30. 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 佐野秀仁, 高橋雅人, 山田深, 江原威, 戸成綾子, 須山淳平, 鎮西美栄子, 池田哲也, 細金直文: 当院における骨転移診療支援チームの初期診療実績. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
31. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 河野仁, 細金直文: びまん性特発性骨増殖症(DISH)を合併した脊椎疾患に対するDouble end-plates penetrating screw (DEPS)法の有用性と問題点. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
32. 若林俊夫, 山田深, 田代祥一, 道廣岳, 稲田成作, 細金直文: 交通外傷による骨折を伴わない開放性前脛骨筋部分断裂に対して, 縫合術を施行した症例の術後理学療法介入報告. 第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
33. 安部一平, 家田良樹, 黒崎祥一, 有賀賢一, 市村正一, 細金直文: 高齢透視患者の転倒リスク第70回東日本整形災害外科学会. 盛岡市・オンライン. 2021年9月17日.
34. 川野洋介, 小西一斉, 竹内拓海, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 腰椎除圧術追加による後方椎体間固定術(PLIF)後の上位隣接椎間障害への影響. 第30回日本脊椎インストゥルメンテーション学会. 名古屋市・オンライン. 2021年10月1-2日.
35. 佐野秀仁, 竹内拓海, 小西一斉, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一, 細金直文: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する前後方固定術の手術成績. 第30回日本脊椎インストゥルメンテーション学会. 名古屋市・オンライン. 2021年10月1-2日.
36. 森井健司, 細金直文, 市村正一: (シンポジウム) 整形外科のSSI予防を再考する - 抗菌薬含有骨セメントの是非. 第36回日本整形外科学会基礎学術集会. 伊勢市. 2021年10月14日.
37. 高橋雅人, 滝徳宗, 里見和彦, 市村正一, 小川潤, 細金直文: 経頭蓋電気刺激複合筋活動電位の基礎的研究 - 賦活される部位と伝導路 -. 第36回日本整形外科学会基礎学術集会. 伊勢市・オンライン. 2021年10月14-15日.

38. 諸井威彦, 額賀唯至, 辻将明, 小林裕明, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 腰椎手術患者における中枢感作の評価 - 日本語版CSIを用いた検討 -. 第29回日本腰痛学会. 東京・オンライン. 2021年10月22-23日.
39. 橋安津子, 伊賀隆史, 諸井威彦, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 河野仁, 細金直文: 胸腰椎移行部椎間板ヘルニアに対する後方椎体間固定術の手術成績. 第29回日本腰痛学会. 東京・オンライン. 2021年10月22-23日.
40. 佐野秀仁, 竹内拓海, 小西一斉, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一, 細金直文: 当院における骨粗鬆症性椎体骨折に対する前後方固定術の手術成績. 第29回日本腰痛学会. 東京・オンライン. 2021年10月22-23日.
41. 小西一斉, 佐野秀仁, 山岸賢一郎, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 竹内拓海, 辻将明, 川野洋介, 諸井威彦, 谷戸祥之, 市村正一, 細金直文: 化膿性脊椎炎手術例の予後に関わる因子の検討. 第29回日本腰痛学会. 東京・オンライン. 2021年10月22-23日.
42. 安部一平, 小寺正純: 人工股関節全置換術後の深部静脈血栓形成にD-dimer以外の手術・血液データは指標になり得るか. 第48回日本股関節学会学術集会. 奈良市・オンライン. 2021年10月22-23日.
43. 竹内拓海, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: びまん性特発性骨増殖症を伴う脊椎外傷に対するDEPS法の有用性と課題. 第11回最小侵襲脊椎治療学会 (MIST学会). 東京・オンライン. 2021年10月29-30日.
44. 山岸賢一郎, 竹内拓海: DISHを伴う胸椎に対するPPS 刺入の工夫 - Groove Entry Technique-Double endplates penetrating screw(GET-DEPS)法の短期成績 -. 第11回最小侵襲脊椎治療学会 (MIST学会). 東京・オンライン. 2021年10月29-30日.
45. 細金直文, 八木満, クリストファーエイムス, パージニラファージ, 河野仁, 高橋雅人, 佐野秀仁, 竹内拓海, 小西一斉, 市村正一: 成人脊柱変形に対する矯正固定術がADLへ及ぼす影響の目米における相違. 第55回日本側彎症学会学術集会. 浜松. 2021年11月6日.
46. 竹内拓海, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 成人脊柱変形手術におけるComputer-Assisted Rod Bending Systemを用いた術中冠状面alignmentの評価. 第55回日本側彎症学会学術集会. オンライン. 2021年11月5-6日.
47. 渡邊隼人, 佐藤行紀, 新井謙太郎, 細金直文: 8歳に生じた外側半月板バケツ柄断裂の1例. 第48回関東膝を語る会. 久喜市. 2021年11月20日.
48. 鶴狩育巳, 小西一斉, 高橋雅人, 大祐英昭, 竹内拓海, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一, 細金直文: 強直性脊椎炎に頸椎骨折を合併し首下がり呈した1例. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
49. 山下佑, 安部一平, 小寺正純, 細金直文: 線維性骨異形成による二次性変形性股関節に対して人工股関節全置換術を施行した1例. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
50. 長慎太郎, 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 細金直文: 初発より18年経過し再発が確認された単純性骨嚢腫の1例. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
51. 安部一平: 対側の手術を回避しえた可能性のあるリウマチ性股関節症. 第68回多摩リウマチ研究会. オンライン. 2021年11月20日.
52. 竹内拓海, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: びまん性特発性骨増殖症 (DISH) を伴う脊椎疾患に対する Double endplates penetrating screw(DEPS)法の有用性と問題点. 第24回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会. 東京・オンライン. 2021年11月26日.
53. 安部一平, 小寺正純, 家田良樹, 黒崎祥一: 距骨下関節脱臼の1例. 第32回日本小児整形外科学会学術集会. オンライン. 2021年12月2-3日.
54. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 細金直文: テモゾロミド・イリノテカン併用療法がQOL維持に有効であった進行骨外性Ewing肉腫の1例. 第5回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. オンライン. 2022年2月4-5日.
55. 森井健司: 四肢骨内局在である異形軟骨腫瘍に広範囲切除は必要か - 悪性骨腫瘍ガイドライン策定過程より -. 第5回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. オンライン. 2022年2月5日.
56. 高橋雅人, 小林和克, 吉田剛, 重松英樹, 船場真裕, 森戸伸治, 町野正明, 山本直也, 安藤宗治, 川端茂徳, 山田圭, 岩崎博, 谷口慎一郎, 寒竹司, 藤原靖, 和田簡一郎, 安藤佳, 田所伸朗, 後迫宏紀, 安田明正, 橋本淳, 高谷恒範, 谷俊一, 松山幸弘, 今釜史郎: 脊髄モニタリング False negative の検討 多機関共同研究日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ5,272例の解析. 第43回日本脊髄機能診断学会学術大会. 大阪市・オンライン. 2022年2月5日.
57. 山下佑, 安部一平, 小寺正純, 細金直文: 線維性骨異形成による二次性変形性股関節症に対してTHAを施行した1例. 第52回日本人工関節学会. オンライン. 2022年2月25-26日.
58. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: 人工膝関節置換術における大腿骨骨切りの術前計画の指標についての検討. 第52回日本人工関節学会. オンライン. 2022年2月26日.
59. 竹内拓海, 河野仁, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 細金直文: 下位腰椎化膿性脊椎炎に対する Minimally invasive spine stabilization(MIST)手術の治療成績 - 腸骨スクリューの有用性 -. 第62回関東整形災害外科学会. 東京. 2022年3月11日.
60. 佐野秀仁, 小西一斉, 竹内拓海, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 山岸賢一郎: 椎間板酵素注入療法の治療成績. 第62回関東整形災害外科学会. 東京. 2022年3月11日.
61. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: ロッキングを呈した外側半月板単独損傷に対する半月板縫合術の治療成績. 第62回関東整形災害外科学会. 東京. 2022年3月11日.

論文

A. 英語原著論文

1. Suehara Y¹, Kohsaka S², Hayashi T¹, Akaike K¹, Kurisaki-Arakawa A¹, Sato S³, Kobayashi E⁴, Mizuno S², Ueno T², Morii T, Okuma T⁵, Kurihara T¹, Hasegawa N^{1,2}, Sano K¹, Sasa K¹, Okubo T¹, Kim Y¹, Mano H², Saito T¹(¹Juntendo University School of Medicine, ²National Cancer Center Research Institute, ³Tokyo Medical and Dental University Hospital, ⁴National Cancer Center Hospital, ⁵Komagome Hospital): Identification of a novel MAN1A1-ROS1 fusion

- gene through mRNA-based screening for tyrosine kinase gene aberrations in leiomyosarcoma. *Clin Orthop Relat Res.* 479(4). 838-852. 2021.
2. Yagi M¹, Christopher P A², Hosogane, N Justin S S³, Christopher I S⁴, Frank J S⁵, Virginie L⁵, Shay B⁶, Matsumoto M¹, Watanabe K¹, International Spine Study Group (ISSG) (¹Keio University School of Medicine, ² University of California, San Francisco, ³University of Virginia Medical Center, ⁴Duke University, ⁵Hospital for Special Surgery, ⁶Denver International Spine Center): Comparable satisfaction and clinical outcomes after surgery for adolescent idiopathic scoliosis in the adult (AISA) between the US and Japan. *J Orthop Sci.* S0949-2658(21)00286-4. 2021.
 3. Otomo N^{1,2,3}, Hsing-Fang L^{1,4}, Koido M^{3,5}, Kou I¹, Takeda K^{1,2}, Momozawa Y⁶, Kubo M⁶, Kamatani Y^{3,7}, Ogura Y², Takahashi Y², Nakajima M¹, Minami S⁸, Uno K⁹, Kawakami N¹⁰, Ito M¹¹, Sato T¹², Watanabe K¹³, Kaito T¹⁴, Yanagida H¹⁵, Taneichi H¹⁶, Harimaya K¹⁷, Taniguchi Y¹⁸, Shigematsu H¹⁹, Iida T²⁰, Demura S²¹, Sugawara R²², Fujita Nobuyuki^{2,23}, Yagi M², Okada E², Hosogane N, Kono K^{2,25}, Nakamura M², Chiba K²⁴, Kotani T⁸, Sakuma T⁸, Akazawa T⁸, Suzuki T⁹, Nishida K²⁶, Kakutani K²⁶, Tsuji T¹⁰, Sudo H²⁷, Iwata A²⁸, Kaneko K¹², Inami S¹⁶, Kochi Y²⁹, Wei-Chiao C^{4,30,31,32}, Matsumoto M², Watanabe K², Ikegawa S¹, Terao C^{3,33,34} (¹Laboratory for Bone and Joint Diseases, RIKEN, ²Keio University School of Medicine, ³Laboratory for Statistical and Translational Genetics, RIKEN, ⁴ Taipei Medical University, ⁵ Division of Molecular Pathology, University of Tokyo, ⁶ Laboratory for Genotyping Development, RIKEN, ⁷ Laboratory of Complex Trait Genomics, University of Tokyo, ⁸ Seirei Sakura Citizen Hospital, ⁹ National Hospital Organization, Kobe Medical Center, ¹⁰ Meijo Hospital, ¹¹ National Hospital Organization, Hokkaido Medical Center, ¹² Juntendo University School of Medicine, ¹³ Niigata University Medical and Dental General Hospital, ¹⁴ Osaka University Graduate School of Medicine, ¹⁵ Fukuoka Children's Hospital, ¹⁶ Dokkyo Medical University School of Medicine, ¹⁷ Kyushu University Beppu Hospital, ¹⁸ Department of Orthopedic Surgery, University of Tokyo, ¹⁹ Nara Medical University, ²⁰ Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ²¹ Graduate School of Medical Science Kanazawa University, ²² Jichi Medical University, ²³ Fujita Health University, ²⁴ National Defense Medical College, ²⁵ Kono Orthopaedic Clinic, ²⁶ Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁷Department of Advanced Medicine for Spine and Spinal Cord Disorders, Hokkaido University, ²⁸ Department of Preventive and Therapeutic Research for Metastatic Bone Tumor, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, ²⁹ Tokyo Medical and Dental and University, ³⁰ Taipei Medical University, ³¹ Taipei Medical University-Wangfang Hospital, ³² Kaohsiung Medical University, ³³ Shizuoka General Hospital, ³⁴ University of Shizuoka): Polygenic Risk Score of Adolescent Idiopathic Scoliosis for Potential Clinical Use. *J Bone Miner Res.* 36(8). 1481-1491. 2021.
 4. Yagi M^{1 2}, Michikawa T³, Suzuki S¹, Okada E¹, Nori S¹, Tsuji O¹, Nagoshi N¹, Asazuma T², Hosogane N, Fujita N⁴, Nakamura M¹, Matsumoto M¹, Watanabe K¹(¹Keio University School of Medicine, ² National Hospital Organization Murayama Medical Center, ³ Toho University, ⁴ Fujita Health University), Keio Spine Research Group Keio Spine Research Group: Characterization of Patients with Poor Risk for Clinical Outcomes in Adult Symptomatic Lumbar Deformity Surgery. *Spine (Phila Pa 1976).* 46(12).813-821. 2021.
 5. Isogai N¹, Yagi M², Nishimura S³, Nishida M⁴, Mima Y², Hosogane N, Suzuki S², Fujita N², Okada E², Nagoshi N², Tsuji O², Ishii K⁵, Nakamura M², Matsumoto M², Watanabe K⁷(¹ International University of Health and Welfare, ²Keio University School of Medicine, ³Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, ⁴Saiseikai Yokohamashi Nanbu Hospital, ⁵International University of Health and Welfare, ⁷Keio University School of Medicine): Risk predictors of perioperative complications for the palliative surgical treatment of spinal metastasis. *J Orthop Sci.* 26(6). 1107-1112. 2021.
 6. Kobayashi K¹, Imagama S¹, Ando K¹, Yoshida G², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Shigematsu H⁹, Tadokoro N¹⁰, Takahashi M, Wada K¹¹, Yamamoto N¹², Funaba M¹³, Yasuda A¹⁴, Ushirozako H², Hashimoto J⁴, Morito S⁵, Takatani T⁹, Tani T¹⁵, Matsuyama Y² (¹Nagoya Univ., ²Hamamatsu Univ. school of Med., ³Kansai Medical Univ., ⁴Tokyo Medical and Dental Univ., ⁵Kurume Univ., ⁶Yamaguchi Rosai Hospital, ⁷Asa Citizens Hospital, ⁸Wakayama Medical Univ., ⁹Nara Medical Univ., ¹⁰Kochi Univ., ¹¹Hirosaki Univ., ¹²Tokyo Women's Medical Univ., ¹³Yamaguchi Univ., ¹⁴National Defense Medical College., ¹⁵Kubokawa Hospital): Characteristics of Tc-MEP Waveforms for Different Locations of Intradural Extramedullary Tumors: A Prospective Multicenter Study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Spine.* 47(2). 172-179. 2022.
 7. Funaba M¹, Kanchiku T¹, Yoshida G², Imagama S³, Kawabata S⁴, Fujiwara Y⁵, Ando M⁶, Yamada K⁷, Taniguchi S⁶, Iwasaki H⁸, Tadokoro N⁹, Takahashi M, Wada K¹⁰, Yamamoto N¹¹, Shigematsu H¹², Kobayashi K³, Yasuda A¹³, Ushirozako H², Ando K³, Hashimoto J⁴, Morito S⁷, Takatani T¹², Tani T¹⁴, Matsuyama Y² (¹Yamaguchi Univ., ²Hamamatsu Univ. school of Med., ³Nagoya Univ., ⁴Tokyo Medical and Dental Univ., ⁵Asa Citizens Hospital, ⁶Kansai Medical Univ., ⁷Kurume Univ., ⁸Wakayama Medical Univ., ⁹Kochi Univ., ¹⁰Hirosaki Univ., ¹¹Tokyo Women's Medical Univ., ¹²Nara Medical Univ., ¹³National Defense Medical College. ¹⁴Kubokawa Hospital): Efficacy of Intraoperative Neuromonitoring Using Transcranial Motor-Evoked Potentials for Degenerative Cervical

- Myelopathy: A Prospective Multicenter Study by the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Spine*. 47(1). E27-E37. 2022.
8. Shigematsu H¹, Ando M², Kobayashi K³, Yoshida G⁴, Funaba M⁵, Morito S⁶, Takahashi M, Ushirozako H⁴, Kawabata S⁷, Yamada K⁶, Kanchiku T⁸, Fujiwara Y⁹, Taniguchi S², Iwasaki H¹⁰, Tadokoro N¹¹, Wada K¹², Yamamoto N¹³, Yasuda A¹⁴, Hashimoto J⁷, Tani T¹⁵, Ando K³, Machino M³, Takatani T¹, Matsuyama Y⁴, Imagama S³ (1Nara Medical Univ., 2Kansai Medical Univ., 3Nagoya Univ., 4Hamamatsu Univ. school of Med., 5Yamaguchi Univ., 6Kurume Univ., 7Tokyo Medical and Dental Univ., 8Yamaguchi Rosai Hospital, 9Asa Citizens Hospital, 10Wakayama Medical Univ., 11Kochi Univ., 12Hirosaki Univ., 13Tokyo Women's Medical Univ., 14National Defense Medical College, 15Kubokawa Hospital): Efficacy of D-wave monitoring combined with the transcranial motor-evoked potentials in high-risk spinal surgery: A retrospective multicenter study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Global spine J*. 21925682221084649. 2022.
 9. OSCIS investigators: Effect of Early vs Delayed Surgical Treatment on Motor Recovery in Incomplete Cervical Spinal Cord Injury With Preexisting Cervical Stenosis: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Netw Open*. 4(11). e2133604. 2021.
 10. Takahashi M, Imagama S¹, Kobayashi K¹, Yamada K², Yoshida G³, Yamamoto N⁴, Ando M⁵, Kawabata S⁶, Kanchiku T⁷, Fujiwara Y⁸, Taniguchi S⁵, Iwasaki H⁹, Wada K¹⁰, Shigematsu H¹¹, Tadokoro N¹², Ushirozako H³, Funaba M¹³, Yasuda A¹⁴, Ando K¹, Hashimoto J⁶, Morito S², Takatani T¹¹, Tani T¹⁵, Matsuyama Y³ (1Nagoya Univ., 2Kurume Univ., 3Hamamatsu Univ. school of Med., 4Tokyo Women's Medical Univ., 5Kansai Medical Univ., 6Tokyo Medical and Dental Univ., 7Yamaguchi Rosai Hospital, 8Asa Citizens Hospital, 9Wakayama Medical Univ., 10Hirosaki Univ., 11Nara Medical Univ., 12Kochi Univ., 13Yamaguchi Univ., 14National Defense Medical College, 15Kubokawa Hospital): Validity of the alarm point in intraoperative neurophysiological monitoring of the spinal cord by the monitoring working group of the Japanese society for spine surgery and related research-A prospective multicenter cohort study of 1934 cases. *Spine*. 46(20). E1069-E1076. 2021.
 11. Kobayashi K¹, Imagama S¹, Ando K¹, Yoshida G², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Shigematsu H⁹, Tadokoro N¹⁰, Takahashi M, Wada K¹¹, Yamamoto N¹², Funaba M⁶, Yasuda A¹³, Ushirozako H², Hashimoto J⁴, Morito S⁵, Takatani N⁹, Tani T¹⁴, Matsuyama Y². (1Nagoya Univ., 2Hamamatsu Univ. school of Med., 3Kansai Medical Univ., 4Tokyo Medical and Dental Univ., 5Kurume Univ., 6Yamaguchi Univ., 7Asa Citizens Hospital, 8Wakayama Medical Univ., 9Nara Medical Univ., 10Kochi Univ., 11Hirosaki Univ., 12Tokyo Women's Medical Univ., 13National Defense Medical College, 14Kubokawa Hospital): Characteristics of Cases with Poor Transcranial Motor-evoked Potentials Baseline Waveform Derivation in Spine Surgery: A Prospective Multicenter Study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Spine*. 46(22). E1211-E1219. 2021.
 12. Kobayashi K¹, Ando K¹, Yoshida G², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Shigematsu H⁹, Tadokoro N¹⁰, Takahashi M, Wada K¹¹, Yamamoto N¹², Funaba M⁶, Yasuda A¹³, Ushirozako H², Hashimoto J⁴, Morito S⁵, Takatani T⁹, Tani T¹⁴, Matsuyama Y², Imagama S¹ (1Nagoya Univ., 2Hamamatsu Univ. School of Med., 3Kansai Medical Univ., 4Tokyo Medical and Dental Univ., 5Kurume Univ., 6Yamaguchi Univ., 7Asa Citizens Hospital, 8Wakayama Medical Univ., 9Nara Medical Univ., 10Kochi Univ., 11Hirosaki Univ., 12Tokyo Women's Medical Univ., 13National Defense Medical College, 14Kubokawa Hospital): Characteristics of Tc-MEP Waveforms in Spine Surgery for Patients with Severe Obesity. *Spine*. 46(24). 1738-1747. 2021.
 13. Yoshida G¹, Ushirozako H¹, Imagama S², Kobayashi K², Ando K², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Shigematsu H⁹, Takatani T⁹, Tadokoro N¹⁰, Takahashi M, Wada K¹¹, Yamamoto N¹², Funaba M⁶, Yasuda A¹³, Hashimoto J⁴, Morito S⁵, Tani T¹⁴, Matsuyama Y¹ (1Hamamatsu Univ. School of Med., 2Nagoya Univ., 3Kansai Medical Univ., 4Tokyo Medical and Dental Univ., 5Kurume Univ., 6Yamaguchi Univ., 7Asa Citizens Hospital, 8Wakayama Medical Univ., 9Nara Medical Univ., 10Kochi Univ., 11Hirosaki Univ., 12Tokyo Women's Medical Univ., 13National Defense Medical College, 14Kubokawa Hospital): Transcranial Motor-evoked Potential Alert after Supine-to-Prone Position Change during Thoracic Ossification in Posterior Longitudinal Ligament Surgery: A Prospective Multicenter Study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Spine*. 2021. doi: 10.1097/BRS.0000000000004246. Online ahead of print.
 14. Funaba M¹, Kanchiku T¹, Yoshida G², Imagama S³, Kawabata S⁴, Fujiwara Y⁵, Ando M⁶, Yamada K⁷, Taniguchi S⁶, Iwasaki H⁸, Tadokoro N⁹, Takahashi M, Wada K¹⁰, Yamamoto N¹¹, Shigematsu H¹², Kobayashi K³, Yasuda A¹³, Ushirozako H², Ando K³, Hashimoto J⁴, Morito S⁷, Takatani T¹², Tani T¹⁴, Matsuyama Y² (1Yamaguchi Univ., 2Hamamatsu Univ. School of Med., 3Nagoya Univ., 4Tokyo Medical and Dental Univ., 5Asa Citizens Hospital, 6Kansai Medical Univ., 7Kurume Medical Univ., 8Wakayama Medical Univ., 9Kochi Univ., 10Hirosaki Univ., 11Tokyo Women's Medical Univ., 12Nara Medical Univ., 13National Defense Medical College, 14Kubokawa Hospital): Efficacy of Intraoperative Neuromonitoring Using

Transcranial Motor-Evoked Potentials for Degenerative Cervical Myelopathy: A Prospective Multicenter Study by the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Spine*. 47(1). E27-E37. 2022.

15. Ushirozako H¹, Yoshida G¹, Imagama S², Kobayashi K², Ando K², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Shigematsu H⁹, Tadokoro N¹⁰, Takahashi M, Wada K¹¹, Yamamoto N¹², Funaba M⁶, Yasuda A¹³, Hashimoto J⁴, Morito S⁵, Takatani T⁹, Tani T¹⁴, Matsuyama Y¹ (¹Hamamatsu Univ. School of Med., ²Nagoya Univ., ³Kansa Medical Univ., ⁴Tokyo Medical and Dental Univ., ⁵Kurume Univ., ⁶Yamaguchi Univ., ⁷Asa citizens Hospital, ⁸Wakayama Medical Univ., ⁹Nara Medical Univ., ¹⁰Kochi Univ., ¹¹Hiroshima Univ., ¹²Tokyo Women's Medical Univ., ¹³National Defense Medical College, ¹⁴Kubokawa Hospital): Efficacy of Transcranial Motor Evoked Potential Monitoring During Intra- and Extramedullary Spinal Cord Tumor Surgery: A Prospective Multicenter Study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *Global Spine J.* Online ahead of print. 2021.
16. Kobayashi K¹, Imagama S¹, Yoshida G², Ando M³, Kawabata S⁴, Yamada K⁵, Kanchiku T⁶, Fujiwara Y⁷, Taniguchi S³, Iwasaki H⁸, Tadokoro N⁹, Takahashi M, Wada K¹⁰, Yamamoto N¹¹, Shigematsu H¹², Funaba M⁶, Yasuda A¹³, Kobayashi S², Ushirozako H², Tani T¹⁴, Matsuyama Y² (¹Nagoya Univ., ²Hamamatsu Univ. School of Med., ³Kansai Medical Univ., ⁴Tokyo Medical and Dental Univ., ⁵Kurume Univ., ⁶Yamaguchi Univ., ⁷Asa Citizens Hospital, ⁸Wakayama Medical Univ., ⁹Kochi Univ., ¹⁰Hiroshima Univ., ¹¹Tokyo Women's Medical Univ., ¹²Nara Medical Univ., ¹³National Defense Medical College, ¹⁴Kubokawa Hospital): Effects of Preoperative Motor Status on Intraoperative Motor-evoked Potential Monitoring for High-risk Spinal Surgery: A Prospective Multicenter Study. *Spine*. 46(12): E694-E700. 2021.
17. Tajima Y, Takahashi M, Kawai T, Higashi M, Sano H, Ichimura S, Kobayashi H: Metastatic intradural extramedullary spinal cord tumor from ovarian cancer: A case report with a literature review. *J Spinal Cord Med*. 45(2). 320-323. 2022.
18. Inada N, Ohata T, Maruno H, Morii T, Hosogane N, Ichimura S: Optimal timing for intermittent administration of parathyroid hormone (1-34) for distraction osteogenesis in rabbits. *J Orthop Surg Res*. 17(1). 130. 2022.
19. Takeuchi T, Yamagishi K, Koniishi K, Sano H, Takahashi M, Ichimura, Kono H, Hasegawa M, Hosogane N: Radiological evaluation of combined anteroposterior fusion with vertebral body replacement using a minimally invasive lateral approach for osteoporotic vertebral fractures.-Verification of optimal surgical procedure-. *J Clin Med*. 11(1). 629. 2022.

B. 日本語論文

1. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 河野仁, 小西一斉, 辻将明, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 細金直文: 下位腰椎化膿性脊椎炎に対する Minimally invasive spine stabilization(MIST)手術の治療成績 - 腸骨スクリューの有用性. *J Spine Res*. 12(5). 785-791. 2021.
2. 高見澤悠平, 坂倉健吾, 森井健司, 市村正一, 細金直文: 肩関節に生じた滑膜骨軟骨腫症に対して鏡視下手術を行った2例. *関東整災外会誌*. 52(3). 92-97. 2021.
3. 西野雅人, 稲田成作, 松隈卓徳, 大畑徹也, 安部学, 細金直文: 大腿骨転子部骨折の新AO分類における単純X線とCT評価の相違. *東日整災外会誌*. 33(2). 115-119. 2021.
4. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 中下位頸椎脱臼骨折の麻痺改善に関与する因子の検討. *J Spine Res*. 13(2). 119-125. 2022.
5. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨転子部骨折の新AO分類における外側壁厚と骨粗鬆症の関連性. *骨折*. 44(2). 353-355. 2022.

C. 総説

1. 細金直文: 脊椎の外科基本手技. 脊柱変形(3) 成人脊柱変形に対する治療戦略. *Monthly Book Orthopaedics*. 34(10). 151-159. 2021.
2. 細金直文: 【骨粗鬆症性椎体骨折・難治例の診断・治療を中心に】骨粗鬆症性椎体骨折に対する前後合併手術. *関節外科*. 40(5). 552-558. 2021.
3. 細金直文: 成人脊柱変形 Up to date. 第2章 疫学・症候. 成人脊柱変形の全身症状・歩行障害, 消化器症状, メンタルヘルス. *脊椎脊髄ジャーナル*. 34(11). 689-693. 2022.
4. 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 細金直文: 【診断・治療に難渋した Periprosthetic Joint Infectionへの対応】治療編 - Megaprosthesis感染症例への対応. *臨整外*. 57(3). 273-279. 2022.
5. 竹内拓海, 細金直文: 整形外科手術名人の know-how びまん性特発性骨増殖症(DISH)に伴う椎体骨折に対する椎体終板貫通スクリューを用いた後方固定 - Single or double endplates penetrating screw (SEPS/DEPS) 法 -. *整形災外*. 65(3). 214-217. 2022.

著書

1. 細金直文(分担執筆): VIII章 その他の脊柱変形治療. 形成不全性すべり. 小児脊柱変形治療の最新線. 日本側弯症学会編. 南江堂. 2021. 417-420.
2. 竹内拓海(分担執筆): 第18章 脊柱変形 椎弓切除後の脊柱変形. 今日の整形外科治療指針第8版. 土屋弘行編. 医学書院. 2021. 605.
3. Ichimura S: Bone Turnover Markers. Springer, Osteoporotic Fracture and Systemic Skeletal Disorders. Takahashi H, David B. B, Yamamoto N. Singapore. 2022. 187-205.

皮膚科学教室

講演

1. 下田由莉江: 発汗のメカニズムとその障害. West Tokyo Sweat Disease Seminar. オンライン. 2021年4月9日.

2. 木下美咲：しなやかな脱毛症診療をめざして 患者さんの質問にこう答える！～画像診断の活用とともに～. 第37回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学会. 東京・オンライン. 2021年4月24日.
3. 大山学：脱毛症の病態と診療のアップデート. 第283回日本皮膚科学会岡山地方会. オンライン. 2021年5月15日.
4. 雨宮芽衣, 福山雅大, 下田由莉江, 佐藤洋平, 大山学：Frontal fibrosing alopecia と考えた脱毛部に多発した基底細胞癌の1例. 第896回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年5月15日.
5. 早川玲那, 木下美咲, 波田野冨佳, 下山田博明, 大山学：Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysisに稗粒腫を伴った1例. 第896回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年5月15日.
6. 大山学：男性型・女性型脱毛症診療のポイントを再考する. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月10日.
7. 倉田麻衣子, 佐藤洋平, 大山学, 水川良子：当院で入院を要した帯状疱疹の解析ー非HIV免疫再構築症候群としての病態への視点を加えて. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月10日.
8. 佐藤洋平, 木下美咲, 福山雅大, 大山学：急速進行性円形脱毛症に対する点滴静注ステロイドパルス療法の長期予後の検討. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月10日.
9. 大山学：円形脱毛症治療の新知見. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月11日.
10. 成田陽子, 大山学, 水川良子：サイトメガロウイルス再活性化を伴った水疱性類天疱瘡ー重症度と再活性化の予測因子の検討. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月10-13日.
11. 下田由莉江, 井田陽子, 下田真史, 野田晃成, 下山田博明, 成田陽子, 大山学：皮膚Mycobacterium chelonae感染症教室経験例の検討ー細菌学的検査への考察を加えて. 第120回日本皮膚科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年6月10-13日.
12. 大山学：脱毛症診療の新しい知見. Shining University Network Seminar (愛知医科大学・藤田医科大学). オンライン. 2021年6月18日.
13. 大山学：脱毛症診療で注意したいこと. 第二回皮膚科エキスパートWebセミナー. オンライン. 2021年6月30日.
14. 水川良子：小児の薬疹ーおとなの薬疹、こどもの薬疹ー. 第45回日本小児皮膚科学会学術大会. 東京・オンライン. 2021年7月3日.
15. 大山学：小児の脱毛症 診断と治療のコツ. 第45回日本小児皮膚科学会学術大会. 東京・オンライン. 2021年7月4日.
16. 佐藤洋平, 小林英資, 角田麻里, 大山学：エンコラフェニブ・ビニメチニブ内服開始初日に漿液性網膜剥離を来した悪性黒色腫の1例. 第37回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 松本・オンライン. 2021年7月9日.
17. 早川玲那, 木下美咲, 福井香苗, 宮川秀美, 大山学：脂漏性角化症に伴った皮膚悪性腫瘍の2例：ダーモスコピー所見から考える発生メカニズムの考察. 第47回皮膚かたち研究学会学術大会. オンライン. 2021年7月10日.
18. 木村真衣, 木下美咲, 水川良子, 大山学：臍帯血移植後に生じた好酸球性膿疱性毛包炎の1例. 第897回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年7月17日.
19. 大山学：杏林大学皮膚科の最近の取り組みー脱毛症を中心にー. 府中市医師会学術講演会. オンライン. 2021年7月30日.
20. Ohyama M: Use of human tissue-derived or iPS cells for hair follicle regeneration and treatment of hair loss diseases. 2021 Australasian Society for Dermatology Research Annual Scientific Meeting. Australia・Online. July 31st, 2021.
21. 下田由莉江, 山崎好美, 大山学, 水川良子：特発性後天性全身性無汗症教室例の臨床及び病理組織学的特徴の検討. 第29回日本発汗学会総会. オンライン. 2021年9月4日.
22. 野邊美月, 倉田麻衣子, 大山学, 水川良子：BCG膀胱内注療法後に急性増悪した乾癬. 第36回日本乾癬学会学術大会. 東京・オンライン. 2021年9月4日.
23. 下田由莉江：当教室におけるdupilumabが有効であったアトピー性皮膚炎の症例. Type2 Unflammation Area Meeting in TAMA-Type2炎症を考える. オンライン. 2021年9月7日.
24. 大山学：脱毛症の診断と治療実践のコツ. 並木皮膚科ネットワーク. オンライン. 2021年9月8日.
25. 佐藤洋平, 小林英資, 慶野博, 大山学：ニボルマブ投与11ヶ月後に反ぶどう膜炎を来した悪性黒色腫の1例. 第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 札幌・オンライン. 2021年9月18日.
26. 水川良子：Dupilumabの臨床効果ー多面的な作用について考えるー. Tokyo AD Meeting. オンライン. 2021年9月22日.
27. 倉田麻衣子：当科におけるアナフィラキシー症例の検討. 第21回皮膚合同カンファレンス. 東京・オンライン. 2021年10月2日.
28. 古明地久子, 木下美咲：局所麻酔薬による悪性高熱：鑑別すべき病態についての考察. 第22回皮膚合同カンファレンス. 東京・オンライン. 2021年10月2日.
29. 水川良子：アトピー性皮膚炎と薬疹ー概念の変革と最新の治療を含めてー. 2021年度同窓会女性部会. オンライン. 2021年10月16日.
30. 雨宮芽衣, 佐藤洋平, 大山学：恥丘部から陰部に多発しSCC抗原高知を呈したWarty dyskeratomaの1例. 第898回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年10月16日.
31. 檜崎緑, 福山雅大, 波田野冨佳, 大山学：慢性膿皮症を疑った頸部石灰化上皮腫の1例. 第898回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年10月16日.
32. 水川良子：Dupilumabとアトピー性皮膚炎ーアトピー性皮膚炎治療は変わったかー. 多摩重症喘息治療研究会. オンライン. 2021年10月28日.
33. 大山学：円形脱毛症治療の展望ー既存治療の最適化とこれから期待される治療法についてー. 第26回日本臨床毛髪学会学術大会. オンライン. 2021年11月7日.
34. 井坂圭孝, Brett King, Justin Ko, Seth Forman, Natasha Meinkovska, Guanglei Yu, Yves Dutronc, 多喜田保志, 大山学：重症円形脱毛症に対するパリジチニブの有効性および安全性についての検討：BRAVE-AA1第2相部分. 第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン.

2021年11月13日.

35. 木下美咲: 脱毛症Update: 教科書にはない実際のはなし. 第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン. 2021年11月13日.
36. 小林英資, 下田由莉江, 鳥越美月, 森重侑樹, 加賀谷優, 大浦紀彦, 佐藤洋平, 大山学: 壊死性軟部組織感染症と鑑別を要した壊疽性膿皮症の1例. 第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン. 2021年11月13日.
37. 根本千紬, 木下美咲, 大山学: 魚鱗癬様皮膚を呈し narrow band UVB療法にて軽快した菌状息肉症の1例. 第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 奈良・オンライン. 2021年11月20日.
38. 水川良子: 薬剤性過敏症症候群 - 診断から治療、後遺症を含めて -. 第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会. オンライン. 2021年11月21日.
39. 福山雅大, 宮川総一郎, 波田野冨佳, 下田由莉江, 佐藤洋平, 高橋勇人, 大山学: 水疱性類天疱瘡の経過中に生じた線状IgA水疱性皮膚症の1例. 第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 東京・オンライン. 2021年11月27日.
40. 古明池久子, 倉田麻衣子, 大山学, 吉池信哉, 下山田博明, 水川良子: 美容鍼灸の反復刺激が誘因と考えられた成人の顔面に生じた単発性肥満細胞腫の1例. 第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 東京・オンライン. 2021年11月27日.
41. 水川良子: 薬剤性過敏症症候群 - 診断から治療、後遺症を含めて -. 第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 東京・オンライン. 2021年11月28日.
42. Kawasaki E, Hirose T, Ohyama M: Prevalence, comorbidities, and treatment patterns of Japanese patients with alopecia areata: a descriptive study using JMDC database. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online. December 3rd, 2021.
43. Hu L, Kimura S, Kashiwagi S, Takagi K, Shimzu T, Ishii T, Ohyama M: Vitamins and their derivatives synergistically promote hair shaft elongation ex vivo via PlGF/VEGFR-1 signaling activation. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online. December 3rd, 2021.
44. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Time course changes in peripheral blood mononuclear cell subsets during intravenous corticosteroid pulse therapy for severe alopecia areata. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online. December 4th, 2021.
45. Kinoshita-Ise M, Ohyama M, Foster S, Sade S, Shear NH: Ultra high-frequency ultrasound provides a novel noninvasive diagnostic method for hair diseases complementing conventional modalities. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online. December 5th, 2021.
46. Shimoda Y, Yamazaki Y, Mizukawa M, Ohyama M: Inflammatory type of acquired idiopathic generalized anhidrosis is characterized by dysregulation of sweat gland immune privilege. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online.

December 5th, 2021.

47. 早川玲那, 佐藤洋平, 下田由莉江, 大山学: ネフローゼ症候群を合併した蜂窩織炎の1例. 第899回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年12月18日.
48. 宮川総一郎, 下田由莉江, 春日啓介, 皿谷健, 大山学: 間質性肺炎を合併した Wong-type dermatomyositis の1例. 第899回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2021年12月18日.
49. 大山学: 病態を考慮した脱毛症診療・治療のポイント. 佐藤製薬皮膚科セミナー. オンライン. 2022年1月28日.
50. 檜崎緑, 下田由莉江, 水川良子, 嶋崎鉄兵, 高山信之, 下山田博明, 福田知雄, 大山学: 両鼠径部に多発性結節を呈した生毛部急性深在性白癬の1例. 日本皮膚科学会第900回東京地方会. オンライン. 2022年2月19日.
51. 大山学: 病態に基づく脱毛症治療の考え方. SUN Derma Forum in Kagawa. オンライン. 2022年2月24日.
52. 水川良子, 小林英資, 大山学: コロナワクチン接種後に発症した結節性紅斑の1例. 日本皮膚科学会第150回広島地方会. 広島・オンライン. 2022年2月26日.
53. 水川良子: 免疫再構築症候群から考える薬剤性過敏症症候群. 第110回日本皮膚科学会大分地方会. 大分. 2022年2月27日.
54. 大山学: 病態からみた脱毛症診療のポイント-円形脱毛症を中心に-. 日本皮膚科学会第405回新潟地方会. オンライン. 2022年3月6日.
55. 大山学: 再生医学のアプローチを用いた脱毛症治療の方法論と細胞の最適化について. 第21回日本再生医療学会. オンライン. 2022年3月18日.
56. 福山雅大, 下田由莉江, 塚島明希, 君島桃子, 山崎好美, 大山学: ヒト汗腺細胞の長期培養法確立の試み. 第21回日本再生医療学会. オンライン. 2022年3月18日.

論文

1. 木下美咲: 新・皮膚科セミナリウム 脱毛症 毛髪疾患診療のためのトリコスコピーの活用: 病態に基づいたフローチャート法と診断の実際. 日皮会誌. 131 (4). 671-678. 2021.
2. Takahashi R, Shiohara T, Mizukawa Y: Monocyte-Independent and -Dependent Regulation of Regulatory T-Cell Development in Mycoplasma Infection. J Infect Dis 223(10). 1733-1742. 2021.
3. Kurata M, Ohyama M: Long-term remission of severe nail psoriasis after discontinuation of apremilast in a colorectal cancer survivor. J Dermatol. 48(6). e248-249. 2021.
4. Shimoda-Komatsu Y, Fukui K, Yamazaki Y, Ohyama M: Development of pemphigus foliaceus in a mucous membrane pemphigoid patient: An insight into possible mechanism eliciting a distinct autoimmune bullous disease in a rare anti-basement membrane autoimmunity. J Dermatol. 48(5). 710-714. 2021.
5. 宜野座淳善, 佐藤洋平, 早川順, 大山学: アカココマダニ刺咬症の1例. 臨皮. 75 (6). 433-447. 2021.
6. 大山学: 円形脱毛症 このまま治らないのではない

- でしょうか. 皮膚臨床. 63 (6) . 960-963. 2021.
7. Kinoshita-Ise M, Ohyama M, Ramjist JM¹, Foster SF², Yang VXD¹, Sachdeva M², Sade S³, Shear NH² (¹Ryerson University, ²University of Toronto, ³Sunnybrook Health Sciences Centre): Ultra high-frequency ultrasound with seventy-MHz transducer in hair disorders: Development of a novel noninvasive diagnostic methodology. *J Dermatol Sci.* 102(3). 167-176. 2021.
 8. Hirunagi T¹, Sahashi K¹, Tachikawa K², Leu AI², Nguyen M², Mukthavaram R², Karmali PP², Chivukula P², Tohnai G¹, Iida M¹, Onodera K^{1,3}, Ohyama M, Okada Y³, Okano H¹, Katsuno M¹ (¹Nagoya University, ²10628 Science Center Drive, ³Aichi Medical University, ⁴Keio University): Selective suppression of polyglutamine-expanded protein by lipid nanoparticle-delivered siRNA targeting CAG expansions in the mouse CNS. *Mol Ther Nuc Acids.* 24. 1-10. 2021.
 9. King B¹, Ko J², Forman S³, Ohyama M, Mesinkovska N⁴, Yu G⁵, McCollam J⁵, Gamalo M⁶, Janes J⁵, Edson-Heredia E⁵, Holzwarth K⁵, Dutronc Y⁵ (¹Yale School of Medicine, ²Stanford University, ³ForCare Clinical Research, ⁴University of California, ⁵Eli Lilly and Company, ⁶Pfizer Inc.): Efficacy and safety of the oral Janus kinase inhibitor baricitinib in the treatment of adults with alopecia areata: Phase 2 results from a randomized controlled study. *J Am Acad Dermatol.* 85(4). 847-853. 2021.
 10. Miyagawa-Kanno H, Fukuyama M, Saito M, Kurai D¹, Ohyama M (¹Division of Infectious Diseases, Department of General Medicine): Perianal amebiasis cutis masked by giant condyloma acuminatum in a HIV-seropositive patient. *J Dermatol.* 48(7). e333-e334. 2021.
 11. Aoki K, Ohyama M, Mizukawa Y: A case of lichen amyloidosis associated with atopic dermatitis successfully treated with dupilumab: A case report and literature review. *Dermatol Ther.* 34(4). e15005. 2021.
 12. Ito-Muramatsu A, Fukuyama M, Hayakawa J, Ohyama M: Long-term remission of unusual plasmocanthoma on the nasal canthus achieved by intralesional corticosteroid injection: Insights into the pathogenesis and treatment planning based on a literature review. *J Dermatol.* 48(7). 1081-1085. 2021.
 13. 小林英資, 佐藤洋平, 新田桐子, 大山学: 手指の皮膚硬化を伴った好酸球性筋膜炎の1例. 臨皮. 75(8). 581-585. 2021.
 14. 根本千絢, 木下美咲, 福山雅大, 大山学: Central centrifugal cicatricial alopeciaと診断した黒人女性の場合の1例人種差を考慮したトリコスコーピー実施の際の注意点を中心に. 臨皮. 75 (8) . 627-631. 2021.
 15. 倉田麻衣子: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 ナースとの連携で気をつけるポイント. *Visual Dermatol.* 20 (9) . 894-895. 2021.
 16. 倉田麻衣子: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part1) 基本の見直し 皮膚のケアはどうして必要? 皮膚の役割とは? 老化、バリア破綻がどんな問題を惹起するか?. *Visual Dermatol.* 20. (9) . 898-899. 2021.
 17. 福山雅大: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part1) 基本の見直し 皮膚のケアはどうして必要? 頭皮や髪へのケア. *Visual Dermatol.* 20. (9) . 904-906. 2021.
 18. 倉田麻衣子: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part3) こんなときはコンサルト! タイミングを逃さない! 重症薬疹の見分け方. *Visual Dermatol.* 20. (9) . 922-924. 2021.
 19. 下田由莉江: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part3) こんなときはコンサルト! タイミングを逃さない! 蜂窩織炎と壊死性筋膜炎の見分け方. *Visual Dermatol.* 20 (9) . 928-930. 2021.
 20. 倉田麻衣子: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part3) こんなときはコンサルト! タイミングを逃さない! 帯状疱疹の感染対策について. *Visual Dermatol.* 20. (9) . 940-943. 2021.
 21. 倉田麻衣子: 【皮膚科医・ナースの素朴な疑問Q&A】 (Part4) 日常的に行うケア、自信をもってできますか? 外用薬の量は適正か?. *Visual Dermatol.* 20. (9) . 944-945. 2021.
 22. 波田野辺佳, 福山雅大, 大山学: 脱毛が特徴であった抗TIF1-γ抗体陽性皮膚筋炎の1例. 臨皮. 75(9) . 649-654. 2021.
 23. 伊藤有亜, 倉田麻衣子, 小林英資, 下田由莉江, 佐藤洋平, 大山学, 水川良子: 重症度スコアからステロイド全身投与を回避したカルバマゼピンによる薬剤性過敏症候群の1例. 臨皮. 75 (9) . 661-666. 2021.
 24. Fukuyama M, Tsukashima A, Kimishima M, Yamazaki Y, Okano H¹, Ohyama M (¹Keio University School of Medicine): Human iPS Cell-Derived Cell Aggregates Exhibited Dermal Papilla Cell Properties in vitro Three-Dimensional Assemblage Mimicking Hair Follicle Structures. *Front Cell Dev Biol.* 2021. doi: 10.3389/fcell.2021.590333.
 25. 水川良子: 最新の薬疹の動向と今後の課題. アレルギの臨. 41 (9) . 756. 2021.
 26. Kinoshita-Ise M, Sachdeva M¹, Martinez-Cabiales SA^{1,2,3}, Shear NH^{1,2}, Lansang P^{1,2,4} (¹University of Toronto, ²Sunnybrook Health Sciences Centre, ³Autonomous University of Nuevo Leon, ⁴The Hospital for Sick Children): Oral Methotrexate Monotherapy for Severe Alopecia Areata: A Single Center Retrospective Case Series. *J Cutan Med Surg.* 25(5). 490-497. 2021.
 27. Almuhan N^{1,2,3}, Wortsman X^{5,6}, Wohlmuth-Wieser I^{1,2,7}, Kinoshita-Ise M, Alhusayen R^{1,2} (¹University of Toronto, ²Sunnybrook Health Sciences Centre, ³King Fahad Medical City, ⁴Institute for Diagnostic Imaging and Research of the Skin and Soft Tissues, ⁵Universidad de Chile, ⁶Pontificia Universidad Católica de Chile, ⁷University Hospital of the Paracelsus Medical University): Overview of Ultrasound Imaging Applications in Dermatology. *J Cutan Med Surg.* 25(5). 521-529. 2021.
 28. Kinoshita-Ise M, Fukuyama M, Ohyama M: Clinicopathological insight into self-reported hair loss with no findings: How do we manage this enigmatic condition? *J Dermatol.* 48(9). 1447-1452. 2021.

29. Tahara U¹, Ishihara S¹, Aoki S¹, Ohyama M, Kubo A¹ (¹Keio University School of Medicine): Rolled hairs in two cases of nevus comedonicus of the scalp. *Acta Dermatol Venereol.* 101(9). adv00549. 2021.
30. 福山雅大, 大山学: 【子どものコモンな微徴候・微症状】皮膚・爪 脱毛と白髪. *小児科.* 62(10). 1135-1141. 2021.
31. 鳥越美月, 福山雅大, 佐藤洋平, 木下美咲, 中村雄¹, 大山学 (¹杏林大・医・泌尿器科学): 壊疽性膿皮症と考えた潰瘍病変が先行した汎発型膿疱性乾癬. *皮膚診療.* 43 (9) . 814-817. 2021.
32. 大山学: 治療 円形脱毛症と鑑別疾患の見分け方. *日臨皮医誌.* 38 (4) . 611-617. 2021.
33. 早川玲那, 大山学: 円形脱毛症の病態・治療アップデート. *皮膚診療.* 43 (10) . 872-881. 2021.
34. Fukuyama M, Ito T¹, Ohayama M (¹Hamamatsu University School of Medicine): Alopecia areata: Current understanding of the pathophysiology and update on therapeutic approaches, featuring the Japanese Dermatological Association guideline. *J Dermatol.* 49(1). 19-36. 2021.
35. 大山学: 間葉系細胞を用いた毛包再生と脱毛症治療のストラテジー. *臨免疫・アレルギー科.* 76(5). 516-522. 2021.
36. Kinoshita-Ise M: Refining the diagnosis and assessment methodology in frontal fibrosing alopecia. *Br J Dermatol.* 185(6). 1092-1093. 2021.
37. 下田由莉江, 山崎好美, 大山学, 水川良子: 特発性後天性全身性無汗症教室例の臨床及び病理組織学的特徴の検討. *発汗学.* 28 (2) . 58-60. 2021.
38. Kinoshita-Ise M, Sachdeva M¹(¹University of Toronto): Update on trichoscopy: Integration of the terminology by systematic approach and a proposal of a diagnostic flowchart. *J Dermatol.* 49(1). 4-18. 2022.
39. Kinoshita-Ise M, Fukuyama M, Ohyama M: Distinctive age distribution and hair loss pattern putatively highlighting uniqueness of Japanese cases of fibrosing alopecia in a pattern distribution. *J Dermatol.* 49(1). 106-117. 2022.
40. Shimoda-Komatsu Y, Ida Y¹, Noda M², Oda M², Shimoda M³, Shimoyamada H⁴, Narita Y, Ohyama M (¹Division of Clinical Laboratory, ²Department of Respiratory Medicine, ³Respiratory Disease Center, Fukujūji Hospital, ⁴Department of Pathology): Histological assessment of granuloma formation for the management of cutaneous *Mycobacterium chelonae* infection. *J Dermatol.* 49(1). e32-e33. 2022.
41. 小林英資, 下田由莉江, 佐藤洋平, 早川順, 廣瀬美希¹, 大山学 (¹防衛医科大): 初診時落葉状天疱瘡を考えた治療抵抗性尋常性天疱瘡の1例. *臨皮.* 76 (1) . 19-24. 2022.
42. 古明地久子, 佐藤洋平, 成田陽子, 青木孝司, 尾崎峰¹, 大山学 (¹杏林大・医・形成外科学): 急速に増大したが外科的に切除しえた外眼角部Merkel細胞癌の1例. *臨皮.* 76 (2) . 147-152. 2022.

著書

1. 水川良子 (分担執筆): 中毒性表皮壊死症. 皮膚疾患 最新の治療 2021-2022. 高橋健造, 佐伯秀久編.

南江堂. 2021. 117.

2. 大山学 (分担執筆): 円形脱毛症. 皮膚疾患 最新の治療 2021-2020. 高橋健造, 佐伯秀久編. 南江堂. 2021. 290-291.
3. 大山学 (分担執筆): 脱毛症の新しいタイプ-Fibrosing alopecia in a pattern distribution. What's new in 皮膚科学 2022-2023. 常深祐一郎, 鶴田大輔編. メディカルレビュー社. 2022. 122-123.
4. 水川良子 (分担執筆): 妊娠性痒疹. 今日の皮膚疾患治療指針 第5版. 佐藤伸一, 藤本学, 門野岳史, 梶島健治編. 医学書院. 2022. 356-357.
5. 水川良子 (分担執筆): 色素性痒疹. 今日の皮膚疾患治療指針 第5版. 佐藤伸一, 藤本学, 門野岳史, 梶島健治編. 医学書院. 2022. 358.

その他

1. 下田由莉江: Cutaneous adverse events induced by azaditidine in myelodysplastic syndrome patients: Case reports and a lesson from published work review. 第10回杏林医学会研究奨励賞.
2. 下田由莉江: ヒト汗腺細胞の継代培養系の確立による皮膚疾患の病態が汗腺機能に与える影響の検討. 2021年度杏林大学医学部若手支援研究費.

形成外科学教室

講演

1. 大浦紀彦, 森重侑樹, 加賀谷優: 糖尿病性潰瘍に対するTKKT01による多血小板血漿の臨床的効果の検討. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. 2021年4月14日.
2. 白石知大, 今村三希子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: smooth type TE/SBI—これまでに分かったことと今後の課題. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2021年4月15日.
3. 尾崎峰: 身近な静脈奇形の治療戦略. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. 2021年4月16日.
4. 安田圭, 多久嶋亮彦, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也: 側頭筋内静脈奇形に対する治療法の検討. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. 2021年4月16日.
5. 屋宜佑利香, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 下肢瀰漫性静脈奇形に対する硬化療法 of 検討—OsiriXを用いた病変体積の評価—. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. 2021年4月16日.
6. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: Bell麻痺、Hunt症候群の後遺症に対する形成外科手術. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2021年4月16日.
7. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: 当科における過去5年間の頭頸部静脈奇形の治療方針に関する検討. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. 2021年4月16日.
8. 浅野悠, 成田圭吾, 北幸紘, 多久嶋亮彦: DIEP皮弁を用いた上顎全摘後の一次再建: 骨弁なしでどこまで整容性を保てるか?. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京. オンライン. 2021年4月16日.

9. 大浦紀彦, 森重侑樹, 加賀谷優: TECC Discovery 君はもうDVAを見たか!?症例提示1. オンライン. 2021年5月27日.
10. 大浦紀彦: 皮膚科医が算定できる新しい診療報酬「静脈圧迫処置」. 第120回日本皮膚科学会学術集会. 横浜. 2021年6月12日.
11. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 頭蓋瘻孔に対するカスタムメイド人工骨を用いた二期的頭蓋形成術の検討. 第13回日本創傷外科学会. 北九州. 2021年7月16日.
12. Ozaki M, Iwashina Y, Oshima N, Takushima A: Resection of venous malformations in bulbar conjunctiva. The 41st Annual Meeting of the Japanese Society of Phlebology, Online. September 7th. 2021.
13. Iwashina Y, Ozaki M, Oshima N, Takushima A: The Treatment of Venous Malformation in the lower limbs. The 41st Annual Meeting of the Japanese Society of Phlebology, Online. September 7th. 2021.
14. 大浦紀彦, 大浦武彦: Active Anti-Thrombotic (A.A.TH®) 繊維の血流改善効果の検討. 第23回日本褥瘡学会学術総会. オンライン. 2021年9月10日.
15. 大浦紀彦, 森重侑樹, 加賀谷優, 木下幹雄: 重症下肢虚血に対する形成外科的アプローチ. 第69回日本心臓病学会学術集会. 米子. 2021年9月12日.
16. 白石知大: TE/SBIの被膜に関する研究(中間報告). 第9回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会. 東京・オンライン. 2021年9月16日.
17. 屋宜佑利香, 白石知大, 今村三希子, 中山大輔, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 乳房インプラントを用いた乳房再建における乳房下溝の経時的変化-TE挿入時の位置との関係-. 第9回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会. 東京・オンライン. 2021年9月16日.
18. 今村三希子, 白石知大, 多久嶋亮彦: アナトミカルタイプSBIからラウンドタイプSBIへの交換を行った症例の再建乳房形態比較. 第9回オンコプラスティックサージャリー学会. 東京・オンライン. 2021年9月17日.
19. 尾崎峰: 静脈奇形. 第12回血管腫血管奇形講習会. 岐阜. 2021年10月2日.
20. 雪野彩乃, 尾崎峰, 大島直也, 岩科裕己, 赤木健一郎, 多久嶋亮彦: 血管奇形病変における凝固異常症の検討. 第17回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 岐阜市. 2021年10月2日.
21. 大島直也, 尾崎峰, 岩科裕己, 赤木健一郎, 雪野彩乃, 多久嶋亮彦: 咽頭部静脈奇形に対する治療成績. 第17回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 岐阜. 2021年10月2日.
22. 尾崎峰: 静脈奇形に対するモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性を評価する医師主導治験. 第17回日本血管腫血管奇形学会市民公開講座. 岐阜市. 2021年10月3日.
23. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: 血管腫と診断され当院血管腫外来を受診し血管腫ではなかった症例の検討. 第17回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 岐阜市. 2021年10月3日.
24. 切石梨菜, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 凝固異常を伴う血管奇形患者における下肢エコー検査に関する検討. 第17回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 岐阜市. 2021年10月3日.
25. 白石知大: 乳房再建術の現状と課題. 第6回井の頭乳腺疾患研究会. 三鷹市・オンライン. 2021年10月6日.
26. 大浦紀彦: 末梢動脈疾患・重症下肢虚血の臨床. 第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 京都・オンライン. 2021年10月23日.
27. 白石知大: Smooth TE/SBIを用いた乳房再建-いま行っている工夫. 第2回乳房再建オンラインセミナー. 新潟・オンライン. 2021年10月25日.
28. 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 赤木健一郎: 表在性静脈奇形に対する硬化療法の治療効果に関する検討. 第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 奈良. 2021年11月21日.
29. Narita K, Takushima A: Combination of Masseteric Nerve Transfer and Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Facial Reanimation. The 5th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery (APFSRM 2020). Tsukuba・Online. December 2th. 2021.
30. Takushima A: Advancement in facial reanimation surgery. Asia-Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery. Tsukuba. December 3th. 2021.
31. Narita K, Takushima A: Combination of Masseteric Nerve Transfer and Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Facial Reanimation. The 5th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery (APFSRM 2020). Tsukuba・Online. December 2th. 2021.
32. 尾崎峰: 筋肉内静脈奇形に対するモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた硬化療法の治療効果に関する検討. 第32回日本小児整形外科学会学術集会. オンライン. 2021年12月3日.
33. 大浦紀彦, 加賀谷優: 血流評価New assessment modality of CLTI. 第2回日本フットケア足病医学会学術集会. 横浜. 2021年12月11日.
34. 今村三希子, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 小倉ふみ子: 結節型皮膚サルコイドーシス症に対して炭酸ガスレーザー照射とステロイド閉鎖療法を併用した2例. 第301回関東形成外科学会東京地方会. オンライン. 2021年12月4日-12月12日.
35. 白石知大: Smooth TE/SBIを用いた乳房再建-いま行っている工夫. Smooth type TEとImplantを考える会. 神奈川・オンライン. 2021年12月15日.
36. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 一期的遊離広背筋移植による笑いの再建. 第27回日本形成外科手術手技学会. 千葉・オンライン. 2022年2月19日.
37. 白石知大, 大島直也: 乳房切除後早期に多発遠隔転移で発見された乳癌の1例. GID学会第22回研究大会・総会. オンライン. 2022年3月12日.

論文

1. Matsuda T, Ohura N, Mineta K, Ho M, Kaku I, Ishii K, Inoue M, Ichioka S, Tanaka R, Kawamoto A, Terashi H, Kishi K, Kobayashi Y: Guidance Development Committee for Clinical Trial Protocols for Chronic Wound Treatment Medical Devices. Hard-to-heal wound treatment medical devices: clinical trial protocol in Japan. J Wound Care. 30(8). 666-676. 2021.
2. Gefen A, Alves P, Ciprandi G, Coyer F, Milne CT, Ousey K, Ohura N, Waters N, Worsley PJ: Device-related pressure ulcers: SECURE prevention. J Wound Care. 29(Sup2a). S1-S52.

2021.

3. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 中山大輔, 安田圭, 古川直樹, 多久嶋亮彦:【足の再建外科 私のコツ】足部再建におけるNPWTi-dとHydrosurgeryの役割. PEPARS. 174. 56-62. 2021.
4. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 木下幹雄: 包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) の下肢血流と創傷評価. Visual Dermatology. 20(9). 932-936. 2021.
5. 大浦紀彦: 坐骨部褥瘡に対する手術適応や時期は? 外来での処置後、時間的な余裕ができたタイミングで手術を行う. 日本医事新報. 5081. P.46-47. 2021.
6. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 高田太一, 毛利美貴, 木下幹雄: 整形外科手術に活かす! 創傷治療最新ストラテジー急性創傷と慢性創傷. 臨床整形外科. 56 (12). 1419-1422. 2021.
7. 黄例穎¹, 石田友香¹, 井上真¹, 尾崎峰, 大島直也, 平形明人¹ (¹杏林大・医・眼科学): 金属片による眼球二重穿孔をきたした2例の手術経験. 眼科. 63 (11). 1097-1105. 2021.
8. 雪野彩乃, 大島直也, 尾崎峰, 鬼塚彩由美, 多久嶋亮彦: 高度な鼻閉を伴う外傷性鞍鼻と鼻腔狭窄に対して腸骨隆鼻と鼻唇溝皮弁を用いて再建を行った1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌. 37 (4). 136-143. 2021.12.
9. 海野早織¹ (¹帝京大学), 尾崎峰: 【顔面骨骨折を知り尽くす】顔面骨骨折におけるプレート選択の要点. PEPARS. 180. 19-26. 2021.
10. 赤木健一郎, 尾崎峰, 藤原正規, 大島直也, 岩科裕己, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 四肢以外に発生したfibro-adipose vascular anomaly (FAVA) と考えられた2例. 形成外科. 65 (1). 127-133. 2022.
11. 小倉ふみ子, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 藤木政英, 中山大輔, 多久嶋亮彦: 舌部低流速型血管奇形に対する舌切除術の検討. 形成外科. 65 (1). 108-115. 2022.
12. 古明地久子¹, 佐藤洋平¹, 成田陽子¹, 青木孝司¹, 尾崎峰, 大山学¹ (¹杏林大・医・皮膚科学): 急速に増大したが外科的に切除しえた外眼角部Merkel細胞癌の1例. 臨床皮膚科. 76 (2). 147-152. 2022.
13. 栗原茉奈, 白石知大, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 上後腸骨棘尾側から脊柱起立筋内に連続する臀部皮下皮様囊腫の1例. 日本形成外科学会会誌. 42. 26-31. 2022.
14. Ohura N, Hisamichi K: CHAPTER 2: Diabetic foot ulcers and their wound Management. The Science, Etiology and Mechanobiology of Diabetes and its Complications. 13-34. 2021.

著書

1. 大浦紀彦 (分担執筆): 重症下肢虚血の治療における血行再建におけるコンセプト - 血行再建は、直接灌流か非直接灌流のどちらを行うべきか. 形成外科増刊 形成外科専攻医への推奨論文166選 - 原典に触れる. 克誠堂出版. 2021. S33.
2. 白石知大 (分担執筆): 第4章乳房再建 腹直筋皮弁を用いた再建. 形成外科治療手術手技全書IV 再建外科. 波利井清紀監修. 克誠堂出版. 2022. 209-223
3. 北幸紘 (分担執筆): 耳鼻咽喉科外来処置での局所麻酔. ENTONI. 須納瀬弘. 全日本病院出版. 2021. 67-74.

その他

1. 大浦紀彦: 学会主催. 第3回SPARKS (SCS研究会). オンライン. 2021年4月22日.
2. 大浦紀彦: 学会主催. 第4回SPARKS (SCS研究会). オンライン. 2022年2月16日.
3. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 11. オンライン. 2021年4月1日.
4. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 12. オンライン. 2021年5月6日.
5. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 13. オンライン. 2021年6月3日.
6. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 14. オンライン. 2021年7月1日.
7. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 15. オンライン. 2021年8月5日.
8. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 16. オンライン. 2021年9月2日.
9. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 17. オンライン. 2021年10月7日.
10. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 18. オンライン. 2021年11月4日.
11. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 19. オンライン. 2021年12月2日.
12. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 20. オンライン. 2022年1月6日.
13. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 21. オンライン. 2022年2月3日.
14. 大浦紀彦: 学会主催. AAA case study club 22. オンライン. 2022年3月3日.

泌尿器科学教室

講演

1. 金城真実: 女性泌尿器科外来受診患者における排便障害の実態調査. 第34回日本老年泌尿器科学会. オンライン. 2021年5月14日.
2. 田口慧, 中川徹, 上村夕香理, 赤松展彦, 五ノ井渉, 内藤晶裕, 川合剛人, 久米春喜, 福原浩: サルコペニアの画像評価における判定基準の見直しの提言. 第34回日本老年泌尿器科学会. オンライン. 2021年5月15日.
3. 福原浩: 前立腺癌の最新治療戦略 - 治療トレンドが大きく変化していく中で - . Prostate Cancer Expert WEB Seminer. オンライン. 2021年5月20日.
4. 中村雄: ダロルタミドの最適な患者像を考える - 当院における使用症例を踏まえて - . ニュベクオ発売1周年 ゾーフィゴ発売5周年 NUFIGO WEB講演会. オンライン. 2021年6月4日.
5. 金城真実: 当科におけるロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術の初期経験. 第9回多摩女性骨盤底勉強会. オンライン. 2021年6月11日.
6. 田口慧: 限局性前立腺癌に対して手術と放射線はどちらが良いのか? Meet the Future Expert in TAMA. オンライン. 2021年6月25日.
7. 田口慧: 膀胱癌の最近の話題. 第152回多摩泌尿器科医会. オンライン. 2021年7月16日.
8. 金城真実: 女性骨盤底障害の実態調査 - 層別解析 - . 第23回日本女性骨盤底医学会. オンライン.

2021年7月17日.

9. 田口慧：尿路上皮癌の薬物療法～GCa療法. 第122回Tokyo Expert Urology Seminar (TEUS). オンライン. 2021年7月19日.
10. 金城真実：女性の下部尿路症状に潜む疾患～骨盤臓器脱～. Urology Expert Information Seminar. オンライン. 2021年8月27日.
11. 宮川昌悟, 坂本貴優, 佐藤千紗, 高橋秀行, 堀川幸保, 杉本一真, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩：当院におけるPNL成功率に関わる因子の検討. 日本尿路結石症学会第31回学術集会. オンライン. 2021年8月28日.
12. 福原浩：前立腺癌 ホルモン療法と手術, そしてウイルス療法. Takeda Cutting-edge Seminar. オンライン. 2021年8月30日.
13. 田口慧：筋層浸潤性膀胱癌のstage診断 最近の進歩. 第86回日本泌尿器科学会東部総会. オンライン. 2021年9月3日.
14. 桶川隆嗣, 二宮直紀, 板谷直, 原秀彦, 富田良啓, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩：内臓転移性去勢抵抗性前立腺癌における末梢血循環癌細胞でのゲノム解析. 第86回日本泌尿器科学会東部総会. オンライン. 2021年9月3日.
15. 紀伊寿彦, 中村雄, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩：当科におけるイピリムマブ・ニボルマブ併用療法の初期使用経験. 第86回日本泌尿器科学会東部総会. オンライン. 2021年9月3-4日.
16. 金城真実：女性骨盤底疾患における排便障害. 便秘攻略セミナー. オンライン. 2021年9月7日.
17. 福原浩：G47Δ in patients with castration-resistant cancer. 第27回日本遺伝子治療学会学術集会. 東京・オンライン. 2021年9月10日.
18. 金城真実, 丹波光子, 堀川幸保, 高橋秀行, 佐藤千紗, 坂本貴優, 宮川昌悟, 杉本一真, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩：女性骨盤底障害患者における骨格筋量と運動機能の検討. 第28回日本排尿機能学会. オンライン. 2021年9月11日.
19. 北村盾二, 田口慧, 桶川隆嗣, 舛田一樹, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 磯村杏那, 林玲匡, 菅間博, 柴原純二：循環腫瘍細胞 (CTC) のゲノム解析を施行した, 前立腺の腺扁平上皮癌の一例. 第636回日本泌尿器科学会東京地方会. オンライン. 2021年9月16日.
20. 金城真実：プライマリ医におけるOAB診断及び治療選択と連携のタイミングについて. Expert Lecture Conference ～排尿障害治療およびエリア連携～. オンライン. 2021年9月17日.
21. 杉本一真, 中村雄, 高橋秀行, 坂本貴優, 佐藤千紗, 堀川幸保, 紀伊寿彦, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩：杏林大学付属病院における精巣癌BEP療法後の性機能に関する後ろ向き調査. 第21回日本メンズヘルス医学会. オンライン. 2021年9月18日.
22. 金城真実：過活動膀胱治療におけるボトックス注入療法の実践. 第22回多摩丘陵地区排尿障害懇話会. 多摩. 2021年9月25日.
23. 田口慧, 川合剛人, 中川徹, 上村夕香理, 藤村哲也, 福原浩, 榎本裕, 西松寛明, 高橋悟, 久米春喜：ペムプロリズマブで治療した尿路上皮癌におけるA/G比の意義～7施設150症例での検討. 第59回日本癌治療学会学術集会. オンライン. 2021年10月

21日.

24. 田口慧, 多武保光宏, 渡邊正中, 町田治彦, 竹下祐平, 荏安俊哉, 福島啓太, 清水裕太, 桶川隆嗣, 横山健一, 福原浩：造影剤不適症例に対する非造影VI-RADSの開発～次世代MRIを用いた前向き検討. 第60回日本癌治療学会学術集会. オンライン. 2021年10月21日.
25. 中村雄, 杉本一真, 紀伊寿彦, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 田口慧, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩：Thyroid-like follicular renal cell carcinoma リンパ節転移の一例. 日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会. 横浜・オンライン. 2021年10月23-24日.
26. 中村雄：泌尿器科医の立場から考えるTSC診療の現状と課題. TSC医療連携セミナー. オンライン. 2021年10月27日.
27. 多武保光宏, 坂本貴優, 佐藤千紗, 高橋秀行, 堀川幸保, 杉本一真, 宮川昌悟, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 福原浩：上部尿路癌治療の今, そして未来ー上部尿路癌に対する上部尿路注入療法の実現と今後の展望ー. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会. 横浜. 2021年11月13日.
28. 北村盾二, 多武保光宏, 坂本貴優, 佐藤千紗, 高橋秀行, 堀川幸保, 杉本一真, 宮川昌悟, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 金城真実, 福原浩：陰圧吸引アクセスシース (ClearPetra) を併用したMini-PNLの検討. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会. 横浜・オンライン. 2021年11月11-13日.
29. 福原浩：前立腺癌 やはり手術とホルモン療法！そしてウイルス療法. 第12回山口ウロ・オンコロジーフォーラム. 山口市・オンライン. 2021年11月19日.
30. 高橋秀行, 杉本一真, 舛田一樹, 佐藤千紗, 坂本貴優, 堀川幸保, 宮川昌悟, 北村盾二, 中村雄, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩：大学付属病院における精巣癌BEP療法後の性機能に関する後ろ向き調査. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
31. 中村雄：杏林大学におけるニボルマブ/イピリムマブの治療成績と自験例. 腎細胞癌 Immuno-Oncology Seminar. オンライン. 2021年12月3日.
32. 田口慧, 多武保光宏, 渡邊正中, 町田治彦, 竹下祐平, 荏安俊哉, 福島啓太, 清水裕太, 桶川隆嗣, 横山健一, 福原浩：人工知能搭載・次世代MRIを用いたVI-RADSの前向き検証～造影剤不適症例に対する新規診断基準の確立. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月7日.
33. 中村雄, 杉本一真, 紀伊寿彦, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩：杏林大学付属病院における転移性腎細胞癌に対するcabozantinibの初期使用経験. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月7日.
34. 舛田一樹, 本多一貴, 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩：当院における膀胱nephrogenic adenomaの臨床的検討. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月7日.
35. 多武保光宏, 坂本貴優, 佐藤千紗, 高橋秀行, 堀川幸保, 杉本一真, 宮川昌悟, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 福原浩：サンゴ状結石におけるPNL術後SIRS発症の予測. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月8日.
36. 金城真実：ペッサリー自己着脱と骨盤底筋訓練. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月8日.

37. 金城真実：ボトックス講習/実技セミナー（過活動膀胱/神経因性膀胱）. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月8日.
 38. 桶川隆嗣, 二宮直紀, 板谷直, 田口慧, 原秀彦, 多武保光宏, 福原浩：去勢抵抗性前立腺癌におけるリキッドバイオプシーの長期観察での臨床的有用性. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月8日.
 39. 金城真実, 坂本貴優, 佐藤千紗, 高橋秀行, 堀川幸保, 杉本一真, 北村盾二, 舩田一樹, 中村雄, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩：女性骨盤底障害患者における骨格筋量と運動機能の検討. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月9日.
 40. 杉本一真, 佐藤悠佑, 宮川仁平, 秋山佳之, 山田雄太, 川合剛人, 山田大介, 久米春喜：東京大学における転移性腎癌に対するカボザンチニブの初期使用経験の検討. 第109回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2021年12月9日.
 41. 金城真実：我慢していませんか？女性の排尿トラブルと骨盤臓器脱. 杏林大学公開講演会. オンライン. 2022年1月18日.
 42. 中村雄：実症例におけるカボザンチニブの投与経験—単剤・併用療法 双方の観点から—. Renal Cell Carcinoma Interactive Meeting in Tama. 立川. 2022年1月21日.
 43. 中村雄：実臨床におけるカボザンチニブの有用性～単剤・併用療法 双方の投与経験から～. 第154回多摩泌尿器科医会. オンライン. 2022年2月4日.
 44. 坂本貴優, 中村雄, 佐藤千紗, 堀川幸保, 高橋秀行, 杉本一真, 宮川昌悟, 北村盾二, 舩田一樹, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 藤原正親：ニボルマブが奏功したThyroid-like follicular renal cell carcinomaリンパ節転移の一例. 第637回日本泌尿器科学会東京地方会. オンライン. 2022年2月10日.
 45. 金城真実：最新の間質性膀胱炎の診断と治療. 北摂ICカンファレンス. オンライン. 2022年2月10日.
 46. 金城真実：ハンナ型間質性膀胱炎に対する最新の治療. 間質性膀胱炎セミナー in Tama. オンライン. 2022年2月18日.
 47. 福原浩：前立腺癌ホルモン療法と手術,そしてウィルス療法へ. 前立腺癌Onlineセミナー. オンライン. 2022年2月25日.
- 論 文**
1. Kinjo M, Nakamura Y, Taguchi S, Yamaguchi T, Tambo M, Okegawa T, Fukuhara H: Sex differences in prevalence and patient behavior regarding lower urinary tract symptoms among Japanese medical checkup examinees. *Urology*. 151. 24-30. 2021.
 2. Shigemori K, Higashihara E¹, Itoh M², Yoshida H³, Yamamoto K⁴, Nutahara K, Shiokawa Y³, Kaname S⁵, Tambo M, Yamaguchi T, Taguchi S, Yoshioka T⁶, Yokoyama K⁶, Fukuhara H (¹Department of Hereditary Kidney Disease Research, Kyorin University School of Medicine, ²National Center of Neurology and Psychiatry, ³Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine, ⁴Yokohama City University School of Medicine, ⁵Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine) : PKD1-Associated Arachnoid Cysts in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 30(9). 105943. 2021. DOI: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105943
 3. Higashihara E¹, Nutahara K, Itoh M², Okegawa T, Tambo M, Yamaguchi T, Nakamura Y, Taguchi S, Kaname S³, Yokoyama K⁴, Yoshioka T⁴, Fukuhara H (¹Department of Hereditary Kidney Disease Research, Kyorin University School of Medicine, ²National Center of Neurology and Psychiatry, ³Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine) : Long-Term Outcomes of Longitudinal Efficacy Study With Tolvaptan in ADPKD. *Kidney Int Rep*. 7(2). 270-281. 2021.
 4. Kitamura J, Taguchi S, Okegawa T, Honda K, Kii T, Tomida Y, Matsumoto R, Ninomiya N, Masuda K, Nakamura Y, Yamaguchi T, Kinjo M, Tambo M, Isomura A¹, Hayashi A¹, Kamma H¹, Higashihara E², Shibahara J¹, Fukuhara H (¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine) : Genomic analysis of circulating tumor cells in adenocarcinoma of the prostate: a case report. *BMC Med Genomics*. 14(1). 217. 2021. DOI: 10.1186/s12920-021-01068-w
 5. Taguchi S, Kawai T¹, Nakagawa T², Nakamura Y, Kamei J³, Obinata D⁴, Yamaguchi K⁴, Kaneko T², Kakutani S⁵, Tokunaga M⁶, Uemura Y⁷, Sato Y¹, Fujimura T³, Fukuhara H, Enomoto Y⁵, Nishimatsu H⁶, Takahashi S⁴, Kume H¹ (¹The University of Tokyo, ²Teikyo University School of Medicine, ³Jichi Medical University, ⁴Nihon University School of Medicine, ⁵Mitsui Memorial Hospital, ⁶The Fraternity Memorial Hospital, ⁷National Center for Global Health and Medicine) : Prognostic significance of the albumin-to-globulin ratio for advanced urothelial carcinoma treated with pembrolizumab: a multicenter retrospective study. *Sci Rep*. 11(1).15623. 2021. DOI: 10.1038/s41598-021-95061-z.
 6. Fukuhara H, Takeshima Y¹, Todo T¹ (¹The University of Tokyo) : Triple-mutated oncolytic herpes virus for treating both fast- and slow-growing tumors. *Cancer Sci*. 112(8).3293-3301. 2021.
 7. Yamada Y¹, Nakagawa T¹, Miyakawa J^{2,3}, Kawai T^{2,4}, Tabata M^{2,5}, Kaneko T^{1,6}, Taguchi S, Naito A^{2,7}, Hikatsu M⁴, Sato Y², Murata T³, Matsumoto A⁸, Miyazaki H⁹, Suzuki M^{2,10}, Enomoto Y⁵, Nishimatsu H⁶, Kondo Y¹⁰, Takeuchi T⁷, Tanaka Y⁴, Kume H²(¹Teikyo University School of Medicine, ²The University of Tokyo, ³Tokyo Teishin Hospital, ⁴Musashino Red Cross Hospital, ⁵Mitsui Memorial Hospital, ⁶The Fraternity Memorial Hospital, ⁷Japan Organization of Occupational Health and Safety Kanto Rosai Hospital, ⁸Yaizu City Hospital, ⁹Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, ¹⁰Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital) : Smaller decline of renal function after

- nephroureterectomy predicts poorer prognosis of upper tract urothelial carcinoma: a multi-center retrospective study. *Jpn J Clin Oncol.* 51(10).1577-1586. 2021.
8. Taguchi S, Morikawa T¹, Shibahara J², Fukuhara H (¹NTT Medical Center Tokyo, ²Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Prognostic significance of tertiary Gleason pattern in the contemporary era of Gleason grade grouping: A narrative review. *Int J Urol.* 28(6).614-621. 2021.
 9. Kato T¹, Hirama H¹, Mitsuzuka K², Maruyama S³, Sasaki H⁴, Saito T⁵, Matsumoto R³, Sakamoto S⁶, Sakai Y⁷, Fukuhara H, Naya Y⁸, Tsukino H⁹, Hara I¹⁰, Ogawa O¹¹, Hashine K¹², Fukuta F¹³, Yokomizo A¹⁴, Tohi Y¹, Kakehi Y¹, Sugimoto M¹ (¹Kagawa University, ²Tohoku University Graduate School of Medicine, ³Hokkaido University, ⁴The Jikei University School of Medicine, ⁵Niigata Cancer Center Hospital, ⁶Chiba University Graduate School of Medicine, ⁷Saitama Cancer Center, ⁸Teikyo University Chiba Medical Center, ⁹University of Miyazaki, ¹⁰Wakayama Medical University, ¹¹Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹²National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ¹³Sapporo Medical University School of Medicine, ¹⁴Harasanshin Hospital) : Reclassification prediction of first-year protocol biopsy on active surveillance of prostate cancer by p2PSA-related parameters: from PRIAS-JAPAN. *Prostate Cancer Prostatic Dis.* 2021. DOI: 10.1038/s41391-021-00422-4. Online ahead of print.
 10. Uchihashi T^{1,2}, Nakahara H³, Fukuhara H, Iwai M¹, Ito H¹, Sugauchi A², Tanaka M¹, Kogo M², Todo T¹ (¹The University of Tokyo, ²Osaka University, ³Osaka City University) : Oncolytic herpes virus G47Δ injected into tongue cancer swiftly traffics in lymphatics and suppresses metastasis. *Mol Ther Oncolytics.* 22. 388-398. 2021.
 11. 金城真実 : 【腎疾患治療薬update】(第3章)泌尿器科疾患 排尿障害(過活動膀胱) 抗コリン薬・腎と透析. 91巻増. 652-656. 2021.
 12. 金城真実 : Female urologyと排便障害. 泌尿器科. 14(4). 488-497. 2021.
 13. 金城真実 : 生活習慣・メタボリック症候群と骨盤底障害. 泌尿器科. 14(6). 710-717. 2021.
 14. 渡邊正中¹, 町田治彦², 田口慧, 多武保光宏, 菊安俊哉², 竹下祐平¹, 福島啓太³, 斎藤駿³, 福原浩, 横山健一¹ (¹杏林大・医・放射線科, ²東京女子医科大学東医療センター, ³杏林大学病院・放射線部) : 次世代3テスラMRI Vantage Centurianの最新技術と泌尿器科領域への応用. 泌尿器科. 14(2). 233-239. 2021.
 15. 渡邊正中¹, 町田治彦², 田口慧, 多武保光宏, 菊安俊哉², 竹下祐平¹, 福島啓太³, 斎藤駿³, 福原浩, 横山健一¹ (¹杏林大・医・放射線科, ²東京女子医科大学東医療センター, ³杏林大学病院・放射線部) : VI-RADS の基本と最新MRI装置による新たな撮像法. 映像情報Med. 53(8). 14-20. 2021.
 16. Tohi Y¹, Kato T¹, Yokomizo A², Mitsuzuka K³, Tomida R⁴, Inokuchi J⁵, Matsumoto R⁶, Saito T⁷, Sasaki H⁸, Inoue K⁹, Kinoshita H¹⁰, Fukuhara H, Maruyama S¹¹, Sakamoto S¹², Tanikawa T⁷, Egawa S⁸, Ichikura H², Abe T⁶, Nakamura M¹³, Kakehi Y¹, Sugimoto M¹ (¹Kagawa University, ²Harasanshin Hospital, ³Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁴National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁵Kyushu University, ⁶Hokkaido University, ⁷Niigata Cancer Center Hospital, ⁸Jikei University School of Medicine, ⁹Kurashiki Central Hospital, ¹⁰Kansai Medical University, ¹¹Hokkaido Cancer Center, ¹²Chiba University, ¹³The University of Tokyo) : Impact of health-related quality of life on repeat protocol biopsy compliance on active surveillance for favorable prostate cancer: results from a prospective cohort in the PRIAS-JAPAN study. *Urol Oncol.* 40(2).56.e9-56.e15. 2022.
 17. Kinjo M, Tanba M¹, Masuda K, Nakamura Y, Tanbo M, Fukuhara H (¹Nursing Department, Kyorin University Hospital) : Comparison of effectiveness between modified transvaginal mesh surgery and vaginal pessary treatment in patients with symptomatic pelvic organ prolapse. *Low Urin Tract Symptoms.* 14(1). 64-71. 2022.
 18. Tohi Y¹, Kato T¹, Nakamura M², Matsumoto R³, Sasaki H⁴, Mitsuzuka K⁵, Inokuchi J⁶, Hashine K⁷, Yokomizo A⁸, Naito H⁹, Hara I¹⁰, Kawamura N¹¹, Inoue M¹², Fukuhara H, Maruyama S¹³, Sakamoto S¹⁴, Saito T¹⁵, Egawa S⁴, Kakehi Y¹, Sugimoto M¹ (¹Kagawa University, ²The University of Tokyo, ³Hokkaido University, ⁴Jikei University School of Medicine, ⁵Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁶Kyushu University, ⁷National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁸Harasanshin Hospital, ⁹Kurashiki Central Hospital, ¹⁰Wakayama Medical University, ¹¹Osaka International Cancer Institute, ¹²Saitama Cancer Center, ¹³Hokkaido Cancer Center, ¹⁴Chiba University Graduate School of Medicine, ¹⁵Niigata Cancer Center Hospital) : Deferred radical prostatectomy in patients who initially elected for active surveillance: a multi-institutional, prospective, observational cohort of the PRIAS-JAPAN study. *Int J Clin Oncol.* 27(1).194-201. 2022.
 19. Oshina T¹, Taguchi S, Miyakawa J¹, Akiyama Y¹, Sato Y¹, Kawai T¹, Fukuhara H, Nakagawa T², Kume H¹ (¹The University of Tokyo, ²Teikyo University School of Medicine) : Clinicopathological features and oncological outcomes of urothelial carcinoma involving the ureterovesical junction. *Jpn J Clin Oncol.* 52(1). 65-72. 2022.
 20. Yokomizo A¹, Yonese J², Egawa S³, Fukuhara H, Uemura H⁴, Nishimura K⁵, Nagata M⁶, Saito A⁷, Lee T⁷, Yamaguchi S⁷, Nonomura N⁸ (¹Harasanshin Hospital, ²Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ³Jikei University School of Medicine, ⁴Yokohama City University Medical Center, ⁵Osaka International Cancer Institute, ⁶Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁷Astellas Pharma Inc, ⁸Osaka University Graduate School of Medicine) : Real-world use of enzalutamide in men with

nonmetastatic castration-resistant prostate cancer in Japan. *Int J Clin Oncol*. 27(2). 418-426. 2022.

21. Taguchi S: Editorial Comment from Dr Taguchi to Role of Vesical Imaging-Reporting and Data System (VI-RADS) in predicting muscle-invasive bladder cancer: A diagnostic meta-analysis. *Int J Urol*. 29(3). 195-196. 2022.
22. Kawai T¹, Taguchi S, Nakagawa T², Kamei J³, Nakamura Y, Obinata D⁴, Yamaguchi K⁴, Kaneko T², Kakutani S⁵, Tokunaga M⁶, Uemura Y⁷, Sato Y¹, Enomoto Y⁵, Nishimatsu H⁶, Fujimura T³, Fukuhara H, Takahashi S⁴, Kume H¹ (¹The University of Tokyo, ²Teikyo University School of Medicine, ³Jichi Medical University, ⁴Nihon University School of Medicine, ⁵Mitsui Memorial Hospital, ⁶The Fraternity Memorial Hospital, ⁷National Center for Global Health and Medicine) : Impact of immune-related adverse events on the therapeutic efficacy of pembrolizumab in urothelial carcinoma: A multicenter retrospective study using time-dependent analysis. *J Immunother Cancer*. 10(2). e003965. 2022. DOI: 10.1136/jitc-2021-003965
23. Mochida Y^{1,2}, Ochiai K^{1,2}, Nagase T³, Nonomura K⁴, Akimoto Y¹, Fukuhara H, Sakai T^{5,6,7}, Matsumura G¹, Yamaguchi Y², Nagase M^{1,6} (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Kunitachi Aoyagi Tachikawa Geriatric Health Services Facility, ⁴National Institute for Basic Biology, ⁵Juntendo University Faculty of Health Science, ⁶Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁷Juntendo University Faculty of Medicine) : Piezo2 expression and its alteration by mechanical forces in mouse mesangial cells and renin-producing cells. *Sci Rep*. 12(1). 4197. 2022. DOI: 10.1038/s41598-022-07987-7
24. Nakamura Y, Taguchi S, Kinjo M, Tambo M, Okegawa T, Fukuhara H: Adrenal metastasis in nivolumab-treated renal cell carcinoma: a unique entity as a sanctuary site. *Int J Urol*. 2022. DOI: 10.1111/iju.14833. Online ahead of print.
25. Taguchi S, Watanabe M¹, Tambo M, Machida H², Yokoyama K¹, Fukuhara H (¹Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Women's Medical University Medical Center East) : Proposal for a new Vesical Imaging-Reporting and Data System (VI-RADS)-based algorithm for the management of bladder cancer: A paradigm shift from the current transurethral resection of bladder tumor (TURBT)-dependent practice. *Clin Genitourin Cancer*. 2022. DOI: 10.1016/j.clgc.2022.03.002. Online ahead of print.

その他

1. 福原浩：高齢者前立腺疾患 前立腺癌と肥大症の診断と治療．三鷹醫人往来．P.8-12. 2021年5月1日．
2. 田口慧：サルコペニアの画像評価における判定基準の見直しの提言．第34回日本老年泌尿器科学会学会賞「医師部門」．2021年5月15日．

3. 田口慧：第10回杏林医学会研究奨励賞．2021年9月30日．
4. 舩田一樹：第10回杏林医学会研究奨励賞．2021年9月30日．
5. 田口慧：JJCO Best Reviewer Award 2021. 2021年11月10日．

眼科学教室

講演

1. 井上真：抗VEGF治療から手術に移行するタイミング．第61回大阪眼科手術の会．オンライン．2021年4月3日．
2. Okada AA: Differential diagnosis of posterior uveitis: retinal vasculitis, white dots and serous retinal detachment” International Uveitis Study Group, Basic Uveitis Course Webinar 4. organized by Uveitis Webinar. オンライン. April 3rd. 2021.
3. 中野友哉子, 片岡恵子, 武内潤, 堀口悦代, 太田光, 滝陽輔, 伊藤逸毅, 寺崎浩子：加齢黄斑変性に対する Treat and extend 治療下の脈絡膜新生血管の拡大．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月8日．
4. 武内潤, 片岡恵子, 中野友哉子, 堀口悦代, 太田光, 滝陽輔, 伊藤逸毅, 寺崎浩子：Pachychoroid neovascularopathy に対するアフリベルセプト併用半量光線力学療法．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月8日．
5. 片岡恵子：OCTAを用いた新生血管形態と活動性の相関．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月9日．
6. 片岡恵子：Pachychoroid neovascularopathy and exudative changes. 第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月10日．
7. 林勇海, 慶野博, 中山真紀子, 安藤良将, 渡邊交世, 岡田アナベルあやめ：杏林アイセンターにおける特発性ぶどう膜炎患者の臨床像．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月8日・11日．
8. 竹内正樹, 河越龍方, 澁谷悦子, 山根敬浩, 石原麻美, 岩田大樹, 鴨居功樹, 慶野博, 毛塚剛司, 酒井勉, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 川島秀俊, 園田康平, 高瀬博, 北市伸義, 南場研一, 蕨城俊克, 竹内大, 大野重昭, 後藤浩, 水木信久：ベージェット病眼病変診療ガイドラインの策定．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月9日．
9. 丸子一朗, 田中公二, 坂垣可奈子, 山本亜希子, 玉城環, 中山真紀子, 湧川空子, 寺尾信宏, 若月優, 小野江元, 小笠原雅, 菅野幸紀, 笠井暁仁, 新竹広晃, 和泉雅彦, 河合萌子, 丸子留佳, 長谷川泰司, 森隆三郎, 古泉英貴, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘：滲出型加齢黄斑変性に対する brolucizumab 硝子体内注射切替え症例の短期経過．第125回日本眼科学会総会．大阪・オンライン．2021年4月9日．
10. 田中公二, 丸子一朗, 坂垣可奈子, 山本亜希子, 中山真紀子, 玉城環, 湧川空子, 寺尾信宏, 若月優, 小野江元, 小笠原雅, 菅野幸紀, 笠井暁仁, 新竹広晃, 和泉雅彦, 河合萌子, 丸子留佳, 長谷川泰司, 森隆三郎, 古泉英貴, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘：治療歴のない滲出型加齢黄斑変性に対する brolucizumab 硝子体内注射の短期成績．

- 第125回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2021年4月9日.
11. 井上真：視神経乳頭異常合併疾患への硝子体手術. RETINAの会 特別講演. オンライン. 2021年4月10日.
 12. 厚東隆志：モーニングセミナー21 Advanced 3D Vitreoretinal Surgery～進化の5年～. 第125回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2021年4月11日.
 13. 厚東隆志：(サブスペシャリティサウンダー) PVR手術における術中デバイスの応用. 第125回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2021年4月11日.
 14. 太田光, 片岡恵子, 武内潤, 中野友哉子, 堀口悦代, 伊藤逸毅, 寺崎浩子: aflibercept抵抗性の加齢黄斑変性症例におけるbrolucizumabへの切り替え効果. 第125回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2021年4月11日.
 15. 平形明人：網膜分離様所見の鑑別と対応. 第162回和歌山眼科学会. オンライン. 2021年4月18日.
 16. 北善幸：inject W手技のポイント. iStent inject W オンライン検討会. オンライン. 2021年4月22日.
 17. Tomita A, Suzuki Y, Mitsukawa T, Hama Y, Yamada M: Stereopsis in purely refractive accommodative esotropia. ESA-ISA conference. France・オンライン. 2021年4月23-25日.
 18. Suzuki Y, Mitsukawa T, Yata N, Hama Y, Tomita A, Yamada M: Preoperative risk factor for consecutive exotropia after surgical treatment of childhood onset esotropia. ESA-ISA conference. France・online. 2021年4月23-25日.
 19. Inoue M: ARTEVO800. The first people Hospital joint meeting. Online. April 26. 2021.
 20. Yamada M, Kamao T, Shiraishi A, Sakai J, Ohashi Y: Pharmacokinetic analysis of 5-FU and tegafur in tears of patients treated with S-1. 7th Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting. Osaka・online. April 28th. 2021.
 21. Shigeyasu C, Yamada M, Fukuda M, Koh S, Toshida H, Oie Y, Nejima R, Eguchi H, Suzuki T, Kawasaki R, Nishida K: Severe ocular complications associated with contact lens wear in Japan. 7th Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting. Osaka・online. April 28th. 2021.
 22. Kamao T, Yamada M, Shiraishi A, Sakai J, Ohashi Y: Factors related in onset of ocular complications by S-1. 7th Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting. Osaka・online. April 28th. 2021.
 23. 井上真：網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の治療戦略. Novartis Pharma Web Symposium. オンライン. 2021年4月28日.
 24. 厚東隆志：糖尿病黄斑浮腫の治療戦略. Novartis Pharma Web Symposium. オンライン. 2021年4月28日.
 25. 山田昌和：AMRを考慮した眼感染症の予防と治療. 第2回琉球オブサルミックセミナー. オンライン. 2021年5月7日.
 26. 大岩未来, 中山真紀子, 慶野博, 林勇海, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔, 岡田アナベルあやめ: 当院における梅毒性ぶどう膜炎治療の近況報告. 第11回東京多摩眼科連携セミナー. 東京・オンライン. 2021年5月15日.
 27. 井上真：「ZIPANGU試験から考えるBRVO診療の今後」 実臨床におけるBRVO診療. Novartis Microsoft teams Web. オンライン. 2021年5月20日.
 28. 井上真：黄斑疾患へのデジタル支援硝子体手術. 第104回網膜病変談話会. オンライン. 2021年5月20日.
 29. 安藤良将, 慶野博, 井上真, 高橋洋如, 佐野公彦, 厚東隆志, 廣田和成, 佐藤智人, 竹内大, 平形明人: 裂孔原性網膜剥離における強度近視眼と非強度近視眼の硝子体中サイトカインの比較検討. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 30. 井上真, 厚東隆志, 平形明人: 強膜内固定術における眼内レンズ傾斜と眼軸長. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 31. 厚東隆志：(シンポジウム) 近視眼における網膜剥離. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 32. 鎌田紗知衣, 中山真紀子, 篠原大佑, 片岡恵子, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ: 当院における近視性脈絡膜新生血管に対する治療成績. 第3回日本近視学会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 33. 満川忠宏, 鈴木由美, 百田陽介, 鈴木駿, 富田茜, 山田昌和: 前眼部OCTによる低濃度アトロピン点眼前後の前眼部形態変化の検討. 第3回日本近視学会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 34. 立松由佳子, 平塚義宗, 川崎良, 山田昌和: 特定健診を契機とした眼科検診受診者の屈折異常. 第3回日本近視学会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 35. 日下真吾, 厚東隆志, 水野雅春, 高橋綾, 今野公士, 井上真, 平形明人: Implantable collamer lens挿入眼の裂孔原性網膜剥離への水晶体温存硝子体手術の一例. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 36. 水野雅春, 井上真, 石田友香, 厚東隆志, 平形明人: 強度近視眼の黄斑上膜の特徴と手術成績. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 37. 江本宜暢, 北善幸, 齋藤恒浩, 望月司, 村井顕子, 平形明人: 近視眼の原発開放隅角緑内障における視神経乳頭周囲毛細血管密度と視野障害の関連性. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 38. 井上真: 近視の合併症の治療アップデート ～緑内障・網膜～近視性牽引黄斑症への外科的治療の変遷. 第3回日本近視学会イブニングセミナー. 東京・オンライン. 2021年5月22日.
 39. 井上真: Visualization in Vitreoretinal & Cataract surgery. 第3回日本近視学会ランチョンセミナー. 東京・オンライン. 2021年5月23日.
 40. 新井千賀子, 玉田俊介, 尾形真樹, 厚東隆志, 小田浩一, 平形明人: 病的近視のQuality of lifeとロービジョンケアの実態の分析. 第3回日本近視学会総会. 東京・オンライン. 2021年5月23日.
 41. 山田昌和: ヒトの涙液油層の機能は蒸発抑制?. 第14回箱根ドライアイクラブ. オンライン. 2021年5月28日.
 42. 慶野博: 症例から学ぶぶどう膜炎診療. 慶大眼科木曜カンファレンス 教育講演. 東京・オンライン. 2021年6月3日.
 43. Inoue M: Two components of multiple subretinal fluid blebs after pars plana vitrectomy for

- rhegmatogenous retinal detachment. APRIS Annual meeting 2020 Virtual. Online. June 2-3. 2021.
44. 北善幸：POAGの治療について。いつから治療する？多摩地区緑内障勉強会 AYR 2021. 立川市。2021年6月5日。
 45. 井上真：実臨床におけるBRVO診療。Retina Update Meeting Online. オンライン。2021年6月10日。
 46. 厚東隆志：糖尿病網膜症最新の話 内科・眼科の連携。豊田加茂『糖尿病と網膜症 予防のための連携会』。愛知。2021年6月12日。
 47. 北善幸：チューブシャント手術一知っておくべきこと。第21回Tokyo Glaucoma Retina joint conference. オンライン。2021年6月18日。
 48. 井上真：BRVO患者の長期フォロー。RVO全国講演会。東京。2021年6月20日。
 49. 厚東隆志：BRVOに伴う黄斑浮腫の最新治療。横須賀市眼科医会学術講演会 横須賀 Update Seminar. 神奈川。2021年6月22日。
 50. 北善幸：iStent inject Wのトリセツ。第36回JSCRS学術集会モーニングセミナー（グラウコス）。オンライン。2021年6月27日。
 51. 井上真：糖尿病網膜症へのデジタル支援硝子体手術。第7回九州DMEフォーラム。オンライン。2021年6月30日。
 52. Hirakata A：Retina world congress. Retinaws. オンライン。June 27th. 2021.
 53. 大岩未来，鈴木由美，富田茜，満川忠宏，北善幸，山田昌和：斜視術後ステロイド点眼による眼圧への影響。第77回日本弱視斜視学会総会。横浜・オンライン。2021年7月2日。
 54. 井上真：3D 第20回 硝子体手術ビデオセミナーWeb. オンライン。2021年7月4日。
 55. 井上真：日本人のエビデンスから見たBRVO診療。網膜診療。Brush up Seminar Yamagata. オンライン。2021年7月8日。
 56. 岡田アナベルあやめ：ぶどう膜炎のイメージング。特別講演。第34回千葉臨床眼科フォーラム・オンライン。2021年7月17日。
 57. 慶野博：Non-coding RNAの視点からみたぶどう膜炎の病態理解。第54回日本眼炎症学会。仙台・オンライン。2021年7月23日。
 58. 慶野博：ベーチェット病ぶどう膜炎の鑑別診断と生物学的製剤導入のタイミング。第54回日本眼炎症学会 ランチョンセミナー。仙台・オンライン。2021年7月23日。
 59. 佐藤康彦，慶野博，中山真紀子，狩野未来，岡田ア
 72. retinoschisis in eyes with glaucoma. EURETINA 2021 Virtual Meeting. Sept 9-11th. 2021.
 73. Noji S, Mizuno M, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Characteristics of multiple subretinal fluid blebs after pars plana vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment. EURETINA 2021 Virtual Meeting. Sept 9-11th. 2021.
 74. 井上真。BRVOマネージメントーZIPANGU Study からー。12th Kanagawa Retina Forum. 横浜。2021年9月17日。
 - ナベルあやめ：IL-2による実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎に対する炎症抑制効果の検討。第54回日本眼炎症学会。仙台・オンライン。2021年7月24日。
 60. 厚東隆志：27G HYPERVITカッターを用いたPDR手術。VIT Web Broadcast meeting 2021. オンライン。2021年7月30日。
 61. 北善幸：緑内障患者と薬。調布市薬剤師会学術講演会。調布市。2021年8月5日。
 62. 平形明人：硝子体手術症例から学ぶ。第20回九州黄斑疾患研究会。オンライン。2021年8月7日。
 63. 鈴木由美：眼の機能・眼科疾患について学ぶ。小児訪問看護研修会 一般社団法人全国訪問看護事業協会。オンデマンド配信期間2021年9月1日-10月31日。
 64. 平形明人：糖尿病網膜症の診断と治療の現状。千代田糖尿病セミナー。オンライン。2021年9月2日。
 65. Inoue M: Surgical approach for myopic traction maculopathy. Asia Retina Congress 2021. Korea・オンライン。September 3-4. 2021.
 66. Kataoka K, Takeuchi J, Nakano Y, Horiguchi E, Ota H, Taki Y, Ito Y, Terasaki H: Vascular Morphology after Aflibercept and Half-dose PDT in Eyes with Pachychoroid Neovascularopathy. 2021 Asia Retina Congress. Korea・オンライン。2021年9月3日。
 67. Koto T: PDR surgery with 27-gauge dual-blade HYPERVIT® cutter. The 36th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress. Online. September 5-11th. 2021.
 68. Hirakata A：Vitrectomy for myopic traction maculopathy. EURETINA 2021 virtual. Online. Sept 9-11th. 2021.
 69. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Flow dynamics of dual-blade beveled-tip vitreous cutters during vitreous removal compared with single-blade beveled-tip vitreous cutters. EURETINA 2021. Online. September 9-12, 2021.
 70. Mekjavic PJ, Acon D, Loewenstein A, Lai TYY, D'Amore PA, Daien V, Okada AA: Management of intraocular pressure elevation in patients with retinal diseases receiving intravitreal injections of anti-vascular endothelial growth factor. EURETINA 2021 Virtual Meeting. Sept 9-11th. 2021.
 71. Ishida T, Inoue M, Kita Y, Koto T, Hirakata A: The findings of fluorescein angiography and optical coherence tomography of papillomacular
 75. 中山真紀子，慶野博，岡田アナベルあやめ：コロナ禍における原田病の治療選択。ぶどう膜炎カンファレンス。東京・オンライン。2021年9月17日。
 76. 玉城環，田中公二，板垣可奈子，中山真紀子，丸子一朗，湧川空子，寺尾信宏，森隆三郎，石龍鉄樹，岡田アナベルあやめ，飯田知弘，古泉英貴：滲出型加齢黄斑変性に対するプロルシズマブ治療後の脈絡膜厚短期変化。第37回日本眼循環学会。京都・オンライン。2021年9月25日。
 77. 堀口悦代，片岡恵子，武内潤，富田遼，中野夕哉子，滝陽輔，太田光，伊藤逸毅，西口康二：中心性漿液性脈絡網膜症に対する半量光線力学療法が及ぼす脈絡膜血流の変化。第37回日本眼循環学会。京都・オンライン。2021年9月25日。

78. 平形明人：知っておきたい眼底疾患．慶応大学眼科招待講演．オンライン．2021年9月30日．
79. 日下俊治，井上真，門之園一明，前野貴俊：強膜バックリング法 revisited．大阪網膜硝子体研究会．オンライン．2021年9月30日．
80. 米谷昇子，篠崎優子，富田茜，鈴木由美：小児眼科手術におけるプレパレーションの取り組み．第37回日本視機能看護学会学術総会．沖縄・オンライン．2021年10月1-7日．
81. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Flow dynamics of dual blade beveled-tip vitreous cutters. American Society of Retina Specialists 39th Annual Meeting. Online. Oct. 8-12th. 2021.
82. 井上真：硝子体手術．Ngenuity User's Meeting 2021．オンライン．2021年10月16日．
83. 福田泰雅，津田麻祐子，厚東隆志，山田昌和：前房型有水晶体眼内レンズ挿入術後に角膜内皮細胞密度の減少をきたした1例．第64回多摩地区眼科集談会．東京．2021年10月16日．
84. 厚東隆志：総合教養「現代医療について考える」眼科手術のartとscience ～手術教育と手術理念～．麻布高等学校．東京．2021年10月22日．
85. 北善幸：iStent inject W 手技のコツ．iStent座談会@武蔵野．オンライン．2021年10月22日．
86. 井上真．3DモニターHeads-up Surgeryにおける画像鮮明化アルゴリズム機能搭載器の臨床的有用性について．よく見える化セミナー．大阪．2021年10月24日．
87. 慶野博，齋藤翔子，佐藤康彦，高崎一朗，渡辺交世，岡田アナベルあやめ：実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎(EAU)における血清中microRNA解析．第49回日本臨床免疫学会総会．東京・オンライン．2021年10月28-30日．
88. 佐藤尚人，向後二郎，米田一仁，大澤俊介，平形明人：硝子体手術クエスチョンバンクデバイス戦略編1(教育講演インストラクションコース)．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月28-31日．
89. 丸子一朗，田中公二，板垣可奈子，山本亜希子，玉城環，中山真紀子，片岡恵子，湧川空子，寺尾信宏，若月優，小野江元，小笠原雅，菅野幸紀，笠井暁仁，新竹広晃，和泉雅彦，河合萌子，丸子留佳，長谷川泰司，森隆三郎，古泉英貴，石龍鉄樹，岡田アナベルあやめ，飯田知弘：brolucizumab 硝子体内注射切替症例における網膜フルイド．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月28日．
90. 井上真：徹底討論！最新の糖尿病網膜症・黄斑浮腫診療2021．「再発を繰り返すDME難治例に対し、硝子体手術を活用」．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月28日．
91. 林勇海，慶野博，中山真紀子，安藤良将，渡邊交世，of in vivo expansion of regulatory T cells with IL-2/anti-IL-2 antibody complex plus rapamycin on experimental autoimmune uveoretinitis. The 14th Joint Meeting of Japan-China-Korea Ophthalmologists. 東京・オンライン．Nov 27th. 2021.
108. Maruko I, Tanaka K, Tamashiro T, Itagaki K, Yamamoto A, Izumi T, Kawai M, Maruko R, Hasegawa T, Wakatsuki Y, Onoe H, Wakugawa S, Terao N, Ogasawara M, Sugano Y, Kasai A, Shintake H, Kataoka K, Nakayama M, Mori R, Koizumi H, Sekiryu T, Okada AA, Iida T : 岡田アナベルあやめ：杏林アイセンターにおけるぶどう膜炎患者の臨床像．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月28日．
92. 石田友香，井上真，厚東隆志，平形明人：緑内障に伴う網膜分離症の蛍光眼底造影検査所見と網膜光干渉断層計所見の検討．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月29日．
93. 新井千賀子，小田浩一，尾形真樹，平形明人：ロージジョンエイド処方に関するアウトカム研究．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月29日．
94. 井上真：診療報酬改定ヒアリングを踏まえて「日本網膜硝子体学会からの取り組み」．日本臨床眼科学会シンポジウム 21．福岡・オンライン．2021年10月31日．
95. 厚東隆志：術中光干渉断層計による術中診断～導入から実使用まで～．第75回日本臨床眼科学会総会．2021年10月28-31日．
96. 安藤良将，黄俐穎，井上真，平形明人：眼内長期残留アルミニウム異物による増殖性硝子体網膜炎が疑われた1例．第75回日本臨床眼科学会．福岡・オンライン．2021年10月28-31日．
97. Inoue M: Next level 27+ surgery. Amplify EYE Virtual Event 2021. Online. Oct. 30th. 2021.
98. 井上真：デジタル支援硝子体手術の実践と応用．第20回水道橋眼科フォーラム．オンライン．2021年11月4日．
99. 平形明人：症例から学ぶ眼底疾患．Okinawa retina forum．オンライン．2021年11月5日．
100. 井上真：症例から学ぶ手術治療戦略．第48回福岡眼科学会．オンライン．2021年11月12日．
101. 北善幸：緑内障の画像読影アップデート．尾張眼科セミナー2021．一宮市．2021年11月13日．
102. Inoue M, Koto T, Mizuno M, Hirakata A: Iris Fluttering detected with anterior segment optical coherence tomography in eyes after intrascleral fixation. AAO. Online. Nov. 13-16. 2021.
103. 平形明人：症例から学ぶ眼底疾患．Retina clinical meeting in 筑後 2021．オンライン．2021年11月19日．
104. 厚東隆志：だいたい何でも27ゲージ．DR Clinical Practice．オンライン．2021年11月19日．
105. 水野雅春：術後未閉鎖黄斑円孔に対する再手術．第2回Surgical Retina Seminar症例検討．オンライン．2021年11月24日．
106. 井上真．特別講演「難治性黄斑円孔」．第6回SAITAMA Young Surgeons Meeting. 川越市．2021年11月25日．
107. Keino H, Sato Y, Nakayama M, Okada AA: Effect Brolucizumab treatment retention in age-related macular degeneration. 優秀演題シンポジウム2．第60回網膜硝子体学会．東京・オンライン．2021年12月3日．
109. 井上真，厚東隆志，石田友香，水野雅春，平形明人，大鹿哲郎：Heads up手術における画像鮮明化．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3日．
110. 篠崎昌俊，厚東隆志，井上真，平形明人：特発性網膜血管増殖性腫瘍の臨床像と治療成績の検討．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3日．

111. 厚東隆志：イブニングセミナー糖尿病網膜症における27Gの利点．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3日．
112. 太田光，片岡恵子，浅井景子，武内潤，富田遼，中野友哉子，堀口悦代，滝陽輔：加齢黄斑変性に対する aflibercept 硝子体内注射を用いた Treat and Extend 療法の5年成績．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3日．
113. 平形明人：病理組織を意識した網膜硝子体手術．第24回盛賞受賞講演．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月4日．
114. 田中公二，丸子一朗，玉城環，板垣可奈子，中山真紀子，若月優，小野江元，和泉雅彦，河合萌子，丸子留佳，長谷川泰司，湧川空子，寺尾信宏，小笠原雅，菅野幸紀，笠井暁仁，新竹広晃，山本亜希子，片岡恵子，森隆三郎，古泉英貴，石龍鉄樹，岡田アナベルあやめ，飯田知弘：治療歴のない滲出型加齢黄斑変性に対する brolucizumab 硝子体内注射の6ヶ月成績．第60回網膜硝子体学会．東京・オンライン．2021年12月4日．
115. 武内潤，片岡恵子，中野友哉子，堀口悦代，滝陽輔，太田光，中村光一，西口康二：Brolucizumab 関連眼内炎を来した10例の臨床像．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月4日．
116. 滝陽輔，伊藤逸毅，武内潤，伊藤寛高，中野友哉子，藤田愛，堀口悦代，太田光，兼子裕規，上野真治，片岡恵子，寺崎浩子：黄斑上膜に対する内境界膜剥離併用硝子体手術術後の中心窩無血管域の変化．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月4日．
117. 近藤峰生，齋藤航，石田晋，國吉一樹，上野真治，林孝彰，中野匡，早川卓浩，角田和繁，慶野博，岡田アナベルあやめ，中村考介，秋山英雄：MEWDS の日本人患者の特徴(1)：患者背景、症状および季節性について．第60回網膜硝子体学会．東京・オンライン．2021年12月5日．
118. 前田菜津子，厚東隆志，石田友香，慶野博，井上真，平形明人：自然寛解した小児の黄斑上膜の1例．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3-5日．
119. 水野雅春，井上真，厚東隆志，平形明人：複数の眼内異物を認めた穿孔性眼外傷の1例．第60回日本網膜硝子体学会総会．東京・オンライン．2021年12月3-5日．
120. Inoue M: Color Enhancement in Digitally-Assisted Vitrectomy Surgery. PCV Summit 2021. Online. Dec. 4-5. 2021.
121. Keino H: Management considerations in viral anterior uveitis. IOIS 2021 Meeting. Greece・オンライン．Dec. 2nd. 2021.
122. Keino H: The changes of serum microRNA expression profile during the development of experimental autoimmune uveoretinitis. IOIS 2021 Meeting. Greece・オンライン．Dec 5th. 2021.
123. Hayashi I, Keino H, Nakayama M, Ando Y, Watanabe T, Okada AA: Clinical features of unclassified uveitis at the Kyorin Eye Center in Tokyo. IOIS 2021 Meeting. Greece・オンライン．December 3-5th. 2021.
124. Saito S, Keino H, Takasaki I, Watanabe T, Okada AA: Circulating microRNA alterations in serum during the development of experimental autoimmune uveoretinitis. IOIS 2021 Meeting. Greece・オンライン．December 3-5th. 2021.
125. Okada AA: "Risk factors of elevated intraocular pressure in uveitis" Invited Lecture. IOIS 2021 Meeting. Greece・オンライン．December 4th. 2021.
126. 厚東隆志：杏林アイセンターにおける硝子体注射の現状．Chiba Ophthalmologists Collaboration Online Academy 2021. オンライン．2021年12月8日．
127. Okada AA: "Update on the SUN Classification of Uveitis" Invited Lecture. The 14th Asia-Pacific Vitreo-retina Society Congress. オンライン．December 11th. 2021.
128. 厚東隆志：DME診療のスキルアップ．Retina スキルアップセミナー．東京．2021年12月12日．
129. 厚東隆志：ILMは弄るもの．Retina スキルアップセミナー．東京．2021年12月12日．
130. 厚東隆志：硝子体術者の難症例水晶体手術トラブルシューティングとIOL選択．興和創薬社内講演会．東京．2021年12月13日．
131. 篠崎昌俊，久須見有美，重安千花，厚東隆志，山田昌和：一時的な人工角膜併用硝子体手術および角膜移植術を施行した2例．第46回日本角膜学会総会．金沢・オンライン．2022年2月10日．
132. 前田菜津子，久須見有美，重安千花，藤井かんな，山田昌和：炭酸ガスレーザーにより眼瞼腫瘍の手術中に角膜穿孔を生じた1例．第46回日本角膜学会総会．金沢・オンライン．2022年2月10日．
133. 安藤良将，久須見有美，藤井かんな，重安千花，山田昌和：アトピー性皮膚炎患者の内眼手術における結膜囊常在細菌叢の検討．第46回日本角膜学会総会．金沢・オンライン．2022年2月10日．
134. 松本真弥，秋山陽一，重安千花，久須見有美，山田昌和：光干渉断層血管撮影による結膜血管密度の定量的評価．第46回日本角膜学会総会．金沢・オンライン．2022年2月10日．
135. 山田昌和：涙液油層～蒸発抑制の観点から～．ランチョンセミナー．第46回日本角膜学会総会．金沢・オンライン．2022年2月10日．
山田昌和：超低出生体重児に生じた巨大な上眼瞼乳児血管腫．第47回小児眼科学会総会．東京・オンライン．2022年3月19日．
141. Inoue M: Image sharpening device in 3D Head-up Surgery. The first people Hospital joint meeting. Online. March 21th. 2022.

論文

1. Suwa S¹, Tomita R¹, Kataoka K, Ueno S¹ (¹Nagoya University): Development of Vogt-Koyanagi-Harada Disease-like Uveitis during Treatment by Anti-programmed Death Ligand-1 Antibody for Non-small Cell Lung Cancer: A

- Case Report. *Ocul Immunol Inflamm.* Apr 2;1-5. doi: 10.1080/09273948.2021.1884889. 2021.
2. Ito H, Ito Y, Kataoka K, Ueno S, Takeuchi J, Nakano Y, Fujita A, Horiguchi E, Kaneko H, Iwase T, Terasaki H (¹Nagoya University): Erratum to Association Between Retinal Layer Thickness and Perfusion Status in Extramacular Areas in Diabetic Retinopathy. *Am J Ophthalmol.* S0002-9394(20)30675-9. 2021.
 3. Kita Y, Holló G¹, Narita F, Kita R, Hirakata A(¹Semmelweis Univ) : Myopic Peripapillary Pits with Spatially Corresponding Localized Visual Field Defects: A Progressive Japanese and a Cross-Sectional European Case. *Case Rep Ophthalmol.* 12(2). 350-355. 2021.
 4. Ito Y¹, Ito M¹, Iwase T¹, Kataoka K, Yamada K¹, Yasuda S¹, Ito H¹, Takeuchi J¹, Nakano Y¹, Fujita A¹, Horiguchi E¹, Taki Y¹, Yatsuya H¹, Terasaki H¹ (¹Nagoya University): Prevalence of and factors associated with dilated choroidal vessels beneath the retinal pigment epithelium among the Japanese. *Sci Rep.* 11(1). 11278. 2021.
 5. Kaneko H¹, Hirata N¹, Shimizu H¹, Kataoka K, Nonobe N¹, Mokuno K¹, Terasaki H¹ (¹Nagoya University): Effect of internal limiting membrane peeling on visual field sensitivity in eyes with epiretinal membrane accompanied by glaucoma with hemifield defect and myopia. *Jpn J Ophthalmol.* 65(3). 380-387. 2021.
 6. Takeuchi J¹, Kataoka K, Shimizu H¹, Tomita R¹, Kominami T¹, Ushida H¹, Kaneko H¹, Ito Y¹, Terasaki H¹ (¹Nagoya University): INTRAOPERATIVE AND POSTOPERATIVE MONITORING OF AUTOLOGOUS NEUROSENSORY RETINAL FLAP TRANSPLANTATION FOR A REFRACTORY MACULAR HOLE ASSOCIATED WITH HIGH MYOPIA. *Retina.* 41(5). 921-930. 2021.
 7. Fujita A¹, Kataoka K, Takeuchi J¹, Nakano Y¹, Horiguchi E¹, Kaneko H¹, Ito Y¹, Terasaki H¹ (¹Nagoya University): Reply. *Retina.* 41(9). e54. 2021.
 8. Tallouzi MO, Mathers JM, Moore DJ, Bucknall N, Calvert MJ, Murray PI, Denniston AK, COSUMO Working Group (including Okada AA): Development of a core outcome set for clinical trials in non-infectious Uveitis of posterior segment. *Ophthalmology.* 128(8). 1209-1221. 2021.
 9. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for birdshot chorioretinitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 65-71. 2021.
 10. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for multiple sclerosis-associated intermediate uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 72-79. 2021.
 11. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for Behçet disease uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 80-88. 2021.
 12. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for cytomegalovirus anterior uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 89-95. 2021.
 13. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Development of classification criteria for the uveitides. *Am J Ophthalmol.* 228. 96-116. 2021.
 14. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for spondyloarthritis/HLA-B27-associated anterior uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 117-125. 2021.
 15. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for serpiginous choroiditis. *Am J Ophthalmol.* 228. 126-133. 2021.
 16. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for toxoplasmic retinitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 134-141. 2021.
 17. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for tubercular uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 142-151. 2021.
 18. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for multifocal choroiditis with panuveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 152-158. 2021.
 19. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for intermediate uveitis, non-pars planitis type. *Am J Ophthalmol.* 228. 159-164. 2021.
 20. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for varicella zoster virus anterior uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 165-173. 2021.
 21. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for acute posterior multifocal placoid pigment epitheliopathy. *Am J Ophthalmol.* 228. 174-181. 2021.
 22. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for syphilitic uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 182-191. 2021.
 23. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for juvenile idiopathic arthritis-associated chronic anterior uveitis. *Am J Ophthalmol.* 228. 192-197. 2021.
 24. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for multiple evanescent white dot syndrome. *Am J Ophthalmol.* 228. 198-204. 2021.
 25. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for Vogt-Koyanagi-

- Harada disease. *Am J Ophthalmol*. 228. 205-211. 2021.
26. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for sympathetic ophthalmia. *Am J Ophthalmol*. 228. 212-219. 2021.
 27. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for sarcoidosis-associated uveitis. *Am J Ophthalmol*. 228. 220-230. 2021.
 28. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for herpes simplex virus anterior uveitis. *Am J Ophthalmol*. 228. 231-236. 2021.
 29. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for acute retinal necrosis syndrome. *Am J Ophthalmol*. 228. 237-244. 2021.
 30. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for cytomegalovirus retinitis. *Am J Ophthalmol*. 228. 245-254. 2021.
 31. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for tubulointerstitial nephritis with uveitis syndrome. *Am J Ophthalmol*. 228. 255-261. 2021.
 32. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for Fuchs uveitis syndrome. *Am J Ophthalmol*. 228. 262-267. 2021.
 33. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for pars planitis. *Am J Ophthalmol*. 228. 268-274. 2021.
 34. The Standardization of Uveitis Nomenclature Working Group (including Okada AA): Classification criteria for punctate inner choroiditis. *Am J Ophthalmol*. 228. 275-280. 2021.
 35. Umazume A¹, Ohguro N², Okada AA, Namba K³, Sonoda KH⁴, Tsuruga H⁵, Morita K⁵, Goto H¹(¹Tokyo Medical University, ²Osaka Hospita, ³Hokkaido University, ⁴Kyushu University Faculty of Medical Sciences, ⁵AbbVie GK) : Prevalence and incidence rates and treatment patterns of non-infectious uveitis in Japan: real-world data using a claims database. *Jpn J Ophthalmol*. 65(5). 657-665. 2021.
 36. Sadamatsu Y¹, Ono K¹, Hiratsuka Y¹, Takesue A¹, Tano T¹, Yamada M, Otani K², Sekiguchi M², Konno S², Kikuchi S², Fukuhara S³, Murakami A¹ (¹Juntendo University, ²Fukushima University, ³Kyoto University): Prevalence and factors associated with uncorrected presbyopia in a rural population of Japan: the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Jpn J Ophthalmol*. 65(5). 724-730. 2021.
 37. Mitsukawa T, Suzuki Y, Momota Y, Suzuki S, Yamada M: Effects of 0.01% atropine instillation assessed using swept-source anterior segment optical coherence tomography. *J Clin Med*. 10(19). 4384. 2021.
 38. Fukumoto R, Inoue M, Ishida T, Koto T, Hirakata A: Adjustment of intraocular lens tilt during intrascleral fixation assisted by intraoperative OCT. *J Cataract Refract surg*. 47(10). 1308-1313. 2021.
 39. Yang F¹, Hayashi I¹, Sato S¹, Saijo-Ban Y¹, Yamane M¹, Fukui M¹, Shimizu E¹, He J², Shibata S¹, Mukai S³, Asai K¹, Ogawa M¹, Lan Y⁴, Zeng Q⁵, Hirakata A, Tsubota K¹, Ogawa Y¹(¹Keio Univ, ²The Second Affiliated Hosp of Zhejiang Univ, ³Harvard Univ, ⁴Sun Yat-sen Univ, ⁵Aier Eye Hosp of Wuhan Univ): Eyelid blood vessel and meibomian gland changes in a sclerodermatous chronic GVHD mouse model. *Ocul Surf*. S1542-0124(21)00123-3. 2021.[Online ahead of print]
 40. Ohji M¹, Okada AA, Sasaki K², Moon SC², Machewitz T³, Takahashi K⁴, ALTAIR Investigators(¹Shiga University of Medical Science, ²Bayer Yakuhin Ltd., ³Bayer AG, ⁴Kansai Medical University): Relationship between retinal fluid and visual acuity in patients with exudative age-related macular degeneration treated with intravitreal aflibercept using a treat-and-extend regimen: subgroup and post-hoc analyses from the ALTAIR study. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 259(12). 3637-3647. 2021.
 41. Sano M, Hirakata A, Kita Y, Itoh Y, Koto T, Inoue M: Risk factors for failure of resolving optic disc pit maculopathy after primary vitrectomy without laser photocoagulation. *Jpn J Ophthalmol*. 65(6). 786-796. 2021.
 42. Takase H, Acharya NR, Babu K, Bodaghi B, Khairallah M, McCluskey PJ, Tesavibul N, Thorne JE, Tugal-Tutkun I, Yamamoto JH, Rao NA, 7th IWOS Study Group (including Okada AA), Smith JR, Mochizuki M: Recommendations for the management of ocular sarcoidosis from the International Workshop on Ocular Sarcoidosis. *Br J Ophthalmol*. 105(11). 1515-1519. 2021.
 43. Sato Y¹, Keino H, Nakayama M, Kano M, Okada AA(¹ Division of Radioisotope Research): Effect of In Vivo Expansion of Regulatory T Cells with IL-2/anti-IL-2 Antibody Complex Plus Rapamycin on Experimental Autoimmune Uveoretinitis. *Ocul Immunol Inflamm*. 29(7-8). 1520-1529. 2021.
 44. Keino H, Watanabe T, Nakayama M, Komagata Y¹, Fukuoka K¹, Okada AA(¹Department of Rheumatology and Nephrology): Long-term efficacy of early infliximab-induced remission for refractory uveoretinitis associated with Behçet's disease. *Br J Ophthalmol*. 105(11). 1525-1533. 2021.
 45. Takase H¹, Goto H², Namba K³, Mizuki N⁴, Okada AA, Ohguro N⁵, Sonoda KH⁶, Tomita M¹, Keino H, Kezuka T², Kubono R¹, Mizuuchi K³, Shibuya E⁴, Takahashi H¹, Yanai R⁷, Mochizuki M¹, Japan ARN Study Group (¹National Defense Medical College, ²Tokyo Medical University, ³Hokkaido University, ⁴Yokohama City University, ⁵Japan Community Health Care

- Organization Osaka Hospital, ⁶Kyushu University, ⁷Yamaguchi University): Clinical Characteristics, Management, and Factors Associated with Poor Visual Prognosis of Acute Retinal Necrosis. *Ocul Immunol Inflamm.* 30(1). 48-53. 2022.
46. Takamura Y¹, Kida T², Noma H³, Inoue M, Yoshida S⁴, Nagaoka T⁵, Noda K⁶, Yamada Y¹, Morioka M¹, Gozawa M¹, Matsumura T¹ Inatani M¹(¹University of Fukui, ²Osaka Medical and Pharmaceutical University, ³Tokyo Medical University, ⁴Kurume University School of Medicine, ⁵Nihon University Itabashi Hospital, ⁶Hokkaido University): The Impact of Interval between Recurrence and Reinjection in Anti-VEGF Therapy for Diabetic Macular Edema in Pro Re Nata Regimen. *J Clin Med.* 10(24). 5738. 2021.
 47. Kawano S, Imai T, Sakamoto T; Japan-Retinal Detachment Registry Group(Hirakata A): Scleral buckling versus pars plana vitrectomy in simple phakic macula-on retinal detachment: a propensity score-matched, registry-based study. *Br J Ophthalmol.* 2021. Doi: 10.1136/bjophthalmol-2020-318451. [Online ahead of print]
 48. Tamura H¹, Akune Y², Hiratsuka Y³, Kawasaki R⁴, Kido A¹, Miyake M¹, Goto R², Yamada M (¹Kyoto University, ²Keio University, ³Juntendo University, ⁴Osaka University): Real-world effectiveness of screening programs for age-related macular degeneration: amended Japanese specific health checkups and augmented screening programs with OCT or AI. *Jpn J Ophthalmol.* 66(1). 19-32. 2022.
 49. Shigeyasu C, Yamada M, Fukuda M¹, Koh S², Suzuki T³, Toshida H⁴, Oie Y², Nejima R⁵, Eguchi H¹, Kawasaki R², Nishida K², Research Group of Severe Contact Lens-associated Ocular Complications (¹Kinki University, ²Osaka University, ³Toho University, ⁴Juntendo University, ⁵Miyata Ganka Hospital): Severe Ocular Complications Associated with Wearing of Contact Lens in Japan. *Eye Contact Lens.* 48(2). 63-68. 2022.
 50. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Comparisons of flow dynamics of dual-blade to single-blade beveled-tip vitreous cutters. *Ophthalmic Res.* 65(2). 216-228. 2022.
 51. Ohno-Matsui K¹, Akiba M², Ishibashi T³, Hirakata A(¹Tokyo Med Den Univ, ²Topcon Corp, ³Kyushu Univ): Evaluation of morning glory syndrome by swept-source optical coherence tomography. *Retin Cases Brief Rep.* 2022 . doi: 10.1097/ICB.0000000000001241. [Online ahead of print]
 52. Okano K, Ishida T, Inoue M, Hirakata A: Retinal detachment and retinoschisis associated with optic disc pit in peripapillary staphyloma. *Am J Ophthalmol Case Rep.* 26. 101468. 2022.
 53. Ando Y, Keino H, Inoue M, Hirota K, Takahashi H, Sano K, Koto T, Sato T, Takeuchi M, Hirakata A: Circulating Vitreous microRNA as Possible Biomarker in High Myopic Eyes with Macular Hole. *Int J Mol Sci.* 23(7). 3647. 2022.
 54. Okada AA, Palestine A, Kramer M, Jabs DA, Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) Working Group: Reply to Comment on "Classification criteria for Behcet disease uveitis." *Am J Ophthalmol.* 235. 339-340. 2022.
 55. Hiratsuka Y¹, Ono K¹, Takesue A¹, Sadamatsu Y¹, Yamada M, Otani K, Konno S², Fukuhara S³, Murakami A¹ (¹Juntendo University, ²Fukushima University, ³Kyoto University): The prevalence of uncorrected refractive error in Japan: the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Jpn J Ophthalmol.* 66(2). 199-204. 2022.
 56. Yamakiri K¹, Sakamoto T¹, Koriyama C², Kawasaki R², Baba T³, Nishitsuka K⁴, Koto T, Terasaki H¹; Japan Retinal Detachment Registry(¹Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ²Osaka University Graduate School of Medicine,³ Chiba University, ⁴Yamagata University): Effect of surgeon-related factors on outcome of retinal detachment surgery: analyses of data in Japan-retinal detachment registry. *Sci Rep.* 12(1). 4213. 2022.
 57. Nakayama M, Okada AA, Hayashi I, Ando Y, Watanabe T, Keino H : A COVID-19 Risk Reduction Strategy for the Treatment of Acute Vogt-Koyanagi-Harada Disease Utilizing the Antiviral Potential of Cyclosporine. *Ocul Immunol Inflamm.* 1-6. 2022.
 58. Yogeswaran K¹, Furtado JM², Bodaghi B³, Matthews JM, International Ocular Toxoplasmosis Study Group (including Okada AA), Smith JR¹ (¹Flinders University,²University of São Paulo,³Hopital Pitie-Salpetriere): Current practice in the management of ocular toxoplasmosis. *Br J Ophthalmol.* 2022. doi: 10.1136/bjophthalmol-2022-321091.
 59. Tamashiro T, Tanaka K, Itagaki K, Nakayama M, Maruko I, Wakugawa S, Terao N, Onoe H, Wakatsuki Y, Ogasawara M, Sugano Y, Yamamoto A, Kataoka K, Izumi T, Kawai M, Mori R, Sekiryu T, Okada AA, Iida T, Koizumi H; Japan AMD Research Consortium (JARC): Subfoveal choroidal thickness after brolucizumab therapy for neovascular age-related macular degeneration: a short-term multicenter study. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 2022 Jan 16. doi: 10.1007/s00417-021-05517-1.
 60. Ota H¹, Takeuchi J¹, Nakano Y¹, Horiguchi E¹, Taki Y¹, Ito Y¹, Terasaki H¹, Nishiguchi KM¹, Kataoka K (¹Nagoya University): Switching from aflibercept to brolucizumab for the treatment of refractory neovascular age-related macular degeneration. *Jpn J Ophthalmol.* . 2022.Epub.
 61. 東範行¹, 西田幸二², 山田昌和, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「角膜難病の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究」研究班 診療ガイドライン作成委員会 (1国立成育医療センター, 2大阪大学): 無虹彩症の診療ガイドライン. 日眼会誌. 125. 38-76. 2021.
 62. 森賢一郎¹, 立花崇¹, 納富昭司¹, 石川桂二郎¹, 武田篤信¹, 大島裕司¹, 金本尚志², 江内田寛³, 吉田

- 茂生⁴, 平形明人, 西田幸二⁵, 大路正人⁶, 木村和博⁷, 久保田敏昭⁸, 緒方奈保子⁹, 松井孝明¹⁰, 吉富文昭¹¹, 内尾英一¹², 石橋達朗¹³, 園田康平¹ (九州大, ²県立広島病院眼科, ³佐賀大, ⁴久留米大, ⁵大阪大, ⁶滋賀医科大, ⁷山口大, ⁸大分大, ⁹奈良県立医科大, ¹⁰大島眼科病院, ¹¹太宰府吉富眼科医院, ¹²福岡大, ¹³九州大): バイオマーカーの視覚化による疾患病態理解と治療法開発への挑戦(分担研究). 日眼会誌. 125. 266-284. 2021.
63. 山田昌和, 東範行¹, 西田幸二², 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「角膜難病の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究」研究班 診療ガイドライン作成委員会 (国立成育医療センター, ²大阪大学): 前眼部形成異常の診療ガイドライン. 日眼会誌. 125. 605-629. 2021.
64. 片岡恵子: 【新しい薬剤、新しい適応】加齢黄斑変性(AMD). Retina Medicine. 10巻1号. 16-21. 2021.
65. 平形明人: 眼内長期滞留ガス(SF₆, C₃F₈)使用ガイドラインについて. OCULISTA. 96. 120-126. 2021.
66. 平形明人: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍で影響を受けた医学部学生教育—杏林大学医学部の経験から—. 日本の眼科. 92(4). 393-397. 2021.
67. 平塚義宗¹, 山田昌和, 辻川明孝² (順天堂大学, ²京都大学): アイフレイルとは. 日本の眼科. 92(9). 1099-1102. 2021.
68. 山田昌和: アイフレイル対策としてのプチビジョンケア. 日本の眼科. 92(9). 1112-1116. 2021.
69. 日下真吾, 石田友香, 厚東隆志, 斎藤翔子, 井上真, 平形明人: フェムトセカンドレーザー白内障手術後の急性眼内炎の1例. 眼科. 63(7). 657-662. 2021.
70. 北善幸: 治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療 閉塞隅角緑内障. 日本医事新報. 5082. 41. 2021.
71. 厚東隆志: 【ぶどう膜炎の外科的処置:入門】急性網膜壊死に合併する裂孔原性網膜剥離の硝子体手術. あたらしい眼科. 38(10). 1161-1165. 2021.
72. 重安千花, 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎の外科的処置入門 硝子体手術、眼球摘出術、眼球内容除去術の術後交感性眼炎のリスク. あたらしい眼科. 38(10). 1167-1173. 2021.
73. 井上真: 病診連携に基づく疾患別眼科診療ガイド 白内障術後眼内炎. 臨床眼科増刊号. 75 (11). 168-172. 医学書院. 2021.
74. 黄俐穎, 石田友香, 井上真, 尾崎峰¹, 大島直也¹, 平形明人 (杏林大・形成外科学): 金属片による眼球二重穿孔をきたした2例の手術経験. 眼科. 63(11). 1097-1105. 2021.
75. 厚東隆志: 【強度近視・病的近視をどう診るか】黄斑円孔網膜剥離. OCULISTA. 105. 23-29. 2021.
76. 平形明人: 視神経乳頭先天異常に伴う網膜剥離に対する手術治療の方法と考え方を教えてください. あたらしい眼科. 38(臨時増刊号). 133-139. 2021.
77. 矢田長洋, 鈴木由美, 満川忠宏, 浜由起子, 富田茜, 山田昌和: 小児期発症の内斜視術後に外斜視に移行した症例の検討. 眼科. 64(4). 365-371. 2022.
78. 鈴木由美: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 睫毛内反. 日本医事新報. 5112. 50-51. 2022.
79. 厚東隆志: 【網膜剥離の現在-見えてきた実像と最新の治療戦略】網膜剥離に対する手術成績. 臨床眼科. 75(12). 1627-1631. 2021.
80. 三宅謙作¹, 平塚義宗², 山田昌和 (眼科三宅病院, ²順天堂大学): 人生100年時代の眼科医療と社会的コスト. 日本の眼科. 93. 20-26. 2022.
81. 井上賢治^{1,2}, 平塚義宗^{1,3}, 五十嵐勉⁴, 加藤聡⁵, 久保寛之⁶, 齋藤雄太⁷, 横田陽匡⁸, 篠崎和美⁹, 長岡奈都子¹⁰, 野田知子¹¹, 野田実香¹², 平形明人, 堀裕一¹³, 溝田淳¹⁴, 倉本慶子^{1,15}, 前田利根^{1,16}, 福田敏雅^{1,17}, 福下公子^{1,18} (東京眼科医会, ²井上眼科病院, ³順天堂大, ⁴日医大, ⁵東京大, ⁶東京慈恵医科大, ⁷昭和医大, ⁸日本大, ⁹東京女子医科大, ¹⁰東京医科歯科大, ¹¹東京医科大, ¹²慶應大, ¹³東邦大, ¹⁴帝京大, ¹⁵小松眼科, ¹⁶前田眼科クリニック, ¹⁷福田眼科医院, ¹⁸鳥山眼科医院): 東京版スマートサイト「東京都ロービジョンケアネットワーク」3年目の改良と変更. 眼臨紀. 15(3). 178-184. 2022.

著書

- 平形明人 (編集): 第17章 眼科疾患. 私の治療 2021-2022年度版. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 日本医事新報社. 2021. 1155-1255.
- 井上真 (分担執筆): 感染性眼内炎. 私の治療 2021-2022年度版. 平形明人編集. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 日本医事新報社. 1196. 2021.
- 井上真 (分担執筆): 黄斑上膜・黄斑円孔. 私の治療 2021-2022年度版. 平形明人編集. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 日本医事新報社. 1214. 2021.
- 山田昌和 (共編著): 前眼部写真の撮影法. 眼科検査ガイド 第3版. 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編集. 文光堂. 368-369. 2022.
- 鈴木由美 (分担執筆): 第3章 眼鏡・コンタクトレンズ検査. 小児の眼鏡処方. 眼科検査ガイド 第3版. 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編集. 文光堂. 100-103. 2022.
- 井上真 (分担執筆): 第17章 眼底検査. 網膜硝子体の細隙灯顕微鏡検査. 眼科検査ガイド 第3版. 飯田知弘, 近藤峰生, 中村誠, 山田昌和編集. 文光堂. 490-499. 2022.
- 平形明人 (分担執筆): 7. 乳頭ピット (小窩) 黄斑症. OCTとOCTAが、わかる! 役立つ! 新編 眼科プラクティス3. 近藤峰生編集. 文光堂. 72-74. 2022.
- 井上真 (分担執筆): 白内障手術後の急性眼内炎. 眼科疾患 最新の治療2022-2024. 村上晶, 白石敦, 辻川明孝編集. 南江堂. 191-192. 2022.
- 厚東隆志 (分担執筆): 乳頭ピット黄斑症候群. 眼科疾患最新の治療2022-2024. 村上晶, 白石敦, 辻川明孝編集. 南江堂. P211. 2022.
- 井上真 (分担執筆): 7章 網膜硝子体手術. 強膜バックリング手術 (強膜内陥術). 眼科レジデントのためのベーシック手術. 谷戸正樹編著. 日本医事新報社. 348-353. 2021.
- 中山真紀子 (分担執筆): 「この所見見たらすぐ送る! 症例別 眼底疾患の考え方」原田病. 眼科グラフィック 6号. 井上真編集. メディカ出版. 654-659. 2021.

報告書

- 山田昌和, 重安千花, 久須見有美: 分担研究報告書 「前眼部形成異常の診療ガイドラインの作成と公表」. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)) 「前眼部難病の標準的診断基準およびガイドライン作成に

関する研究」．2021．

その他

1. 平形明人：知っておきたい目の病気 第1回飛蚊症．保健総合大百科2021．少年写真新聞社．2021．p117．
2. 平形明人：知っておきたい目の病気 第2回緑内障．保健総合大百科2021．少年写真新聞社．2021．p118．
3. 平形明人：知っておきたい目の病気 第3回（最終回）白内障．保健総合大百科2021．少年写真新聞社．2021．p119．
4. 平形明人：なんでも健康相談 網膜前膜について教えてください．NHKきょうの健康8月号．2021．p106．
5. 平形明人：会員追悼 藤原隆明先生を偲ぶ．東京都眼科医会会報 第256号．2021．89-90．
6. 山田昌和：暗所でTVやゲームは目に悪い？．朝日新聞．2022年2月12日．
7. 鈴木由美：症例クイズ眼科編 スポットビジョンスクリーナー (SVS) による屈折検査．Medical Tribune．
8. 杏林大学医学部眼科学教室：第3回日本近視学会総会開催．会長 平形明人．2021年5月22-23日．東京．
9. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．岩手日日新聞．2021年6月21日．
10. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．神戸新聞．2021年6月21日．
11. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．苫小牧民報．2021年6月24日．
12. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．北国新聞．2021年7月1日．
13. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．釧路新聞．2021年7月3日．
14. 鈴木由美：改善できる子供の弱視 -3歳児健診で早期発見を-．宇部日報．2021年7月28日．
15. 北善幸：症例クイズ眼科編．Medical Tribune．54(14)．2021年7月15日．
16. 山田昌和：オリパラ中継に熱中、画面に釘付け 疲れ目注意．朝日新聞．2021年9月9日．
17. 中山真紀子：症例クイズ㊟帯状疱疹の角膜炎．Medical Tribune．54(16)．2021．
5. 大谷真喜子，宮本真，木村恵梨，宮本真衣，河野正充，杉田玄，保富宗城：運動誘発性喉頭閉鎖症に対して手術加療を行った女子水泳選手の治療経過．第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会．京都・オンライン．2021年5月14日．
6. 齋藤康一郎：教育セミナー 成人の外科的気道確保を巡る注意点．第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会．京都・オンライン．2021年5月15日．
7. 横井秀格：Type2炎症が病態である好酸球性副鼻腔炎-そのmanagementについて-．Tokyo AIRWAY Meeting．オンライン．2021年5月18日．
8. 横井秀格：Type2炎症が病態である好酸球性副鼻腔炎-重症喘息との関連について．領域を越えたアレルギー疾患へのアプローチ．オンライン．2021年5月26日．
9. Saito K: Office based intralesional steroid injection for refractory vocal fold disorders. 13th Congress of the European Laryngological Society. Online. 28 May 2021.
10. Miyamoto M, Watanabe I, Mogi A, Osakabe K, Saito K: Supraglottoplasty for laryngomalacia with congenital comorbidities. 13th Congress of the European Laryngological Society. Online. 28 May 2021.
11. 手塚里奈，池田哲也，里見貴史，湯本愛実，佐藤毅，横井秀格，齋藤康一郎：副鼻腔真菌症と歯性上顎洞炎との関連について．第211回日本口腔外科学会関東支部学術集会．オンライン．2021年5月29日．
12. 佐藤大，奥羽謙，齋藤康一郎：下咽頭癌治療後の縦郭転移による悪性食道狭窄に対して4度の食道ステント留置を行い経口摂取継続可能な1例．第45回日本頭頸部癌学会．東京・オンライン．2021年6月17日．
13. 中村栞，横井秀格，内藤翔司，猪股浩平，齋藤康一郎：硬膜外膿瘍を伴った蝶形骨洞炎．第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会．金沢．2021年6月30日．
14. 宮本真：シンポジウム【小児気道障害の診療と療育】小児気道障害の診療と療育．第16回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会．大阪・オンライン．2021年7月8日．
15. 横井秀格：難治性慢性副鼻腔炎への新たな治療アプローチ．AIRWAY WEB. オンライン．2021年7月8日．
16. 中村栞，横井秀格，尾崎峰，猪股浩平，内藤翔司，齋藤康一郎：広範囲眼窩内側壁吹抜け骨折に対し、吸収性体内固定用プレート（ラクソープ®）が有用であった1例．第60回日本鼻科学会総会・学術講演会．大津・オンライン．2021年9月23日．
17. 横井秀格：シンポジウム【内視鏡下鼻副鼻腔手術の合併症とその対応】合併症への対応-副鼻腔合併症への対応-．第60回日本鼻科学会総会・学術講演会．大津・オンライン．2021年9月23日．
18. 増田正次：難聴にまつわる遺伝医学入門．第66回日本音声言語医学会総会・学術講演会．オンライン．2021年10月8日．
19. 宮本真：ポストコングレスセミナー 何をみてどのように対応する？「気管切開患者への対応とカニューレの取り扱い」．第66回日本音声言語医学会総会・学術講演会．オンライン．2021年10月9日．
20. 濱之上泰裕，増田正次，齋藤伸夫，木村泰彰，奥羽謙，坂本龍太郎，村上諄，齋藤康一郎：鼓室形成術

耳鼻咽喉科学教室

講演

1. 増田正次：鼓膜形成術、鼓室形成術、リティンパドレを選択するか？．ノーベルファーマ株式会社社内研修会．東京．2021年4月16日．
2. 池田哲也，里見貴史，湯本愛実，萬知子，齋藤康一郎：周術期管理センターにて全症例の口腔内評価を行うシステムの構築と新型コロナウイルス感染蔓延による影響．第18回日本口腔ケア学会総会・学術大会．東京・オンライン．2021年4月17日．
3. 増田正次：耳管開放症・めまい・難聴患者の精神特性分析．第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会．京都・オンライン．2021年5月12日．
4. 宮本真，齋藤康一郎，中川秀樹：喉頭微細手術時に測定した成人声帯長、膜様部長の解析．第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会．京都・オンライン．2021年5月13日．

- のみで術前の耳管機能異常は正常化するか？. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会. 東京・オンライン. 2021年10月13日.
21. 坂本龍太郎, 増田正次, 濱之上泰裕, 尾川昌孝, 齋藤伸夫, 木村泰彰, 奥羽護, 村上諄, 齋藤康一郎: 補聴器を購入する人しない人. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 東京・オンライン. 2021年10月21日.
 22. 齋藤康一郎: シンポジウム【耳鼻咽喉科領域でのレーザーの活用】喉頭乳頭腫に対するグリーンレーザーをもちいた外来日帰り内視鏡下手術. LASER WEEK IN TOKYO II. オンライン. 2021年10月22日.
 23. 横井秀格: Type2炎症が病態である好酸球性副鼻腔炎—そのmanagementについて—. 東京Type2炎症研究会. オンライン. 2021年10月27日.
 24. 池田哲也: 周術期口腔機能管理の現状と課題～経口摂取が困難な方、および絶食中の口腔内環境とその対応方法について～. Otuka Webinar地域で考える口腔ケア. オンライン. 2021年10月27日.
 25. Miyamoto M, Yanagishita Y, Namiki K, Mogi A, Kure A, Hashimoto S, Takiura T, Watanabe I, Hosaki A, Yan K, Saito K: Role of otolaryngologists in the multidisciplinary management of comorbid plastic bronchitis in pediatric with influenza virus infection. 15th congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology. Online. 6 Nov. 2021.
 26. Saito K, Miyamoto M, Watanabe I, Mato S, Nakagawa H: Airway Round Table Lifestyle background to delay the spontaneous recovery of pendiatric vocal fold nodule in the patients who had long-time follow-up. 15th congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology. Online. 6 Nov. 2021.
 27. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CT再構築画像から計測した喉頭サイズの検討. 第72回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. オンライン. 2021年11月11日.
 28. 木村泰彰, 宮本真, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 頸部絞扼による披裂軟骨亜脱臼の治療経験. 第72回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. オンライン. 2021年11月11日.
 29. 奥羽護, 宮本真, 齋藤康一郎: 当院で経験した小児の口腔外傷4例. 第72回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. オンライン. 2021年11月11日.
 30. 湯本愛実, 池田哲也, 手塚里奈, 佐藤毅, 里見貴史, 齋藤康一郎: 網膜動脈分岐閉塞症および急性脳梗塞を来した巨細胞性動脈炎の1例. 第66回日本口腔外科学会総会・学術講演会. 千葉・オンライン. 2021年11月12日.
 31. 増田正次: 耳処置・耳科手術の基本手技(1). 第35回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会. 横浜・オンライン. 2021年11月20日.
 32. 増田正次: 耳処置・耳科手術の基本手技(2). 第35回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会. 横浜・オンライン. 2021年11月20日.
 33. 齋藤康一郎: 領域講習 音声障害・構音障害と全身疾患. 第35回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会. 横浜・オンライン. 2021年11月21日.
 34. 村上諄, 増田正次, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 木村泰彰, 直井友樹, 齋藤康一郎: 頭蓋内類上皮種の摘出術後に最高語音明瞭度の改善を認めた1例. 第233回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京地方部会学術講演会. 東京. 2021年12月11日.
 35. 横井秀格: 招待講演 スギ花粉症治療の最前線～患者さんに合わせた選択肢～. 三鷹市薬、狛江市薬剤師会. オンライン. 2021年12月15日.
 36. 横井秀格: 招待講演 Type2炎症が病態である好酸球性副鼻腔炎—そのmanagementについて—. 第2回CRS Expert Seminar. オンライン. 2021年12月17日.
 37. 横井秀格: 招待講演 鼻科領域疾患への対応—アレルギー性鼻炎から鼻副鼻腔悪性腫瘍まで—. 東京都耳鼻科医会講演会. オンライン. 2022年2月18日.
 38. 齋藤康一郎: シンポジウム【咽喉頭がん経口手術の適応と限界】領域講習 喉頭腫瘍に対する経口的CO2レーザー手術—喉頭の前がん病変と早期癌に対する喉頭微細手術—. 第32回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会. オンライン. 2022年2月19日.
 39. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CTを用いた喉頭軟骨の骨化についての検討. 第34回日本喉頭科学会総会ならびに学術講演会. 佐賀・オンライン. 2022年3月10日.
 40. 宮本真衣, 大谷真喜子, 宮本真, 杉田玄, 保富宗城: 運動誘発性喉頭閉塞症 (Exercise Induced Laryngeal Obstruction: EILO) の水泳選手の1例. 第34回日本喉頭科学会総会ならびに学術講演会. 佐賀・オンライン. 2022年3月10日.
 41. 直井友樹, 宮本真, 雪野広樹, 猪股浩平, 齋藤康一郎: 舌骨の接触が原因と考えられた脳梗塞患者に対して舌骨切除を行った2症例. 第234回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京地方部会学術講演会. オンライン. 2022年3月5日.
- ## 論 文
1. 間藤翔悟, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 声帯ポリープに対する効果的な音声治療の方法に関する検討. 音声言語医学. 62巻4号. 314-320. 2021.
 2. 間藤翔悟, 宮本真, 渡邊格, 茂木麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 慢性化した声帯結節に対する音声治療の効果. 音声言語医学. 62巻2号. 140-146. 2021.
 3. 宮本真, 齋藤康一郎, 長瀬美樹¹ (1杏林大学肉眼解剖学教室): 日本人における輪状甲状靱帯部分の解剖学的検討. 日本気管食道科学会会報. 72巻4号. 187-195. 2021.
 4. 増田正次, 守田雅弘, 松田雄大, 尾川昌孝, 中村健大, 濱之上泰裕, 小野修平, 茂木翼, 坂本龍太郎, 深山善子, 齋藤康一郎: 鼓室内ステロイド投与後の鼓膜穿孔残存率と耳管機能検査結果の関係について. Audiology Japan. 64巻2号. 186-194. 2021.
 5. 齋藤真衣¹, 下田由莉江¹, 福山雅大¹, 嵩幸恵¹, 佐藤洋平¹, 川原敬祐, 齋藤康一郎, 大山学¹, 水川良子¹ (1皮膚科学教室): 薬剤性過敏症症候群の経過中に喉頭浮腫を生じた1例. 臨床皮膚科. 75巻1号. 27-31. 2021.
 6. 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 生体内に挿入した気管カニューレの超高精細CTによる臨床評価. 喉頭. 33巻2号. 206-210. 2021.
 7. 宮本真, 齋藤康一郎: 小児声帯長の年齢に伴う変化—術中の挿管チューブを参考にした測定—. 小児耳鼻咽喉科. 42巻3号. 297-304. 2021.
 8. 佐藤大, 齋藤康一郎: 免疫チェックポイント阻害薬を含む標準治療—頭頸部がん—. 杏林医学会雑誌.

- 51巻3号. 135-139. 2021.
9. 齋藤康一郎, 木村泰彰: かぜに紛れる急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍を見逃さないポイント. 呼吸器ジャーナル. 70巻1号. 119-124. 2021.
10. 濱之上泰裕: 局所麻酔で行う外耳および非穿孔鼓膜の処置と小手術. ENTONI. 264号. 17-23. 2021.
11. 増田正次: 【エキスパートから学ぶ最新の耳管診療】耳管開放症の診断基準と保存的治療. ENTONI. 263号. 36-42. 2021.
12. 宮本真: 用語解説 喉頭軟弱症 Laryngomalacia. 日本気管食道科学会会報. 72巻4号. 236-238. 2021.
13. 宮本恵理, 宮本真, 野崎園子, 友田幸一, 岩井大: 薬物咽喉頭残留症例への対応. 嚥下医学. 11巻. 88-95. 2022.
14. Miyamoto M, Nagase M¹, Watanabe I, Nakagawa H, Karita K², Tsuji DH³, Montagnoli AN⁴, Matsumura G¹, Saito K (¹Dept.of Anatomy, ²Dept.of Hygiene and Public Health, ³University of São Paulo School of Medicine, ⁴Federal University of São Carlos): Excised human larynx in N-vinyl-2-pyrrolidone-embalmed cadavers can produce voiced sound by pliable vocal fold vibration. Anat Sci Int. 2022. DOI : 10.1007/s12565-021-00646-3.
15. Kawada M, Yokoi H, Kimura T¹, Matsumoto Y, Sakurai H¹, Matsumoto K², Fujiwara M³, Saito K (¹Dept.of Pharmacology and Toxicology, ²National Research Institute for Child Health and Development, ³Dept.of Pathology): Involvement of galanin and galanin receptor 2 in a mouse model of allergic rhinitis. Allergol Int. 71(1). 83-93. 2022.
16. Higuchi S¹, Kabeya Y², Matsushita K³, Tachibana K⁴, Kawachi R⁵, Takei H⁶, Tanaka R⁴, Suzuki Y⁷, Imanishi Y⁸, Shibata S⁹, Hasegawa H⁹, Saito K, Moriyama K¹⁰, Yorozu T¹⁰, Abe N⁷, Kondo H⁴, Matuda T¹¹, Yoshino H¹² (¹Dept.of Cardiology, ²Tokai University School of Medicine, ³Kumamoto University Hospital, ⁴Dept.of General Thoracic Surgery, ⁵Nihon University School of Medicine, ⁶Showa University School of Medicine, ⁷Dept.of Gastroenterological and General Surgery, ⁸International University of Health and Welfare School of Medicine, ⁹Dept.of Emergency and General Medicine, ¹⁰Dept.of Anesthesiology, ¹¹Dept.of Traumatology and Critical Care Medicine, ¹²Department of Cardiology): Clinical impact of perioperative atrial fibrillation on long-term recurrence of malignancy. Heart Vessels. 2021. DOI: 10.1007/s00380-021-01954-4. Epub.
17. Nakagwa H¹, Kusuyama T², Miyamoto M, Saito K, Ikeda S³ (¹Seibo International Catholic Hospital, ²Tokyo Voice Clinic, ³International University of Health and Welfare): Differences in clinical features between Herpes simplex virus type 1 and type 2. A retrospective study. Clin Otolaryngol. 47(2). 328-330. 2022.
18. Masuda K¹, Masuda M, Yamanobe Y¹, Mizuno K¹, Matsunaga T¹, Wasano K¹ (¹National Hospital Organization Tokyo Medical Center): Effects on cervical vestibular-evoked myogenic potentials of four clinically used head and neck measurement positions in healthy subjects. Acta Otolaryngol. 141(8). 729-735. 2021.
19. Masuda M, Kanno A¹, Nara K¹, Mutai H¹, Morisada N², Iijima K³, Morimoto N⁴, Nakano A⁵, Sugiuchi T⁶, Okamoto Y⁷, Masuda S⁸, Katsunuma S⁹, Ogawa K¹⁰, Matsunaga T¹ (¹National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ²Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ³Kobe University Graduate School of Medicine, ⁴National Center for Child Health and Development, ⁵Chiba Children's Hospital, ⁶Kanto Rosai Hospital, ⁷Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁸National Hospital Organization Mie National Hospital, ⁹Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ¹⁰Keio University School of Medicine): Phenotype-genotype correlation in patients with typical and atypical branchio-otorenal syndrome. Sci Rep. 12(1). 969. 2022.
20. Hasegawa Y¹, Tsukahara K², Yoshimoto S³, Miura K⁴, Yokoyama J⁵, Hirano S⁶, Uemura H⁷, Sugawara M⁸, Yoshizaki T⁹, Homma A¹⁰, Chikamatsu K¹¹, Suzuki M¹², Shiotani A¹³, Matsuzuka T¹⁴, Kohno N, Miyazaki M¹⁵, Oze I¹⁶, Matsuo K¹⁶, Kosuda S¹⁷, Yatabe Y³, HNCMM Research Group. (¹Asahi University Hospital, ²Tokyo Medical University, ³National Cancer Center Hospital, ⁴International University of Health and welfare, ⁵Nadogaya Hospital, ⁶Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁷Nara medical university, ⁸Saitama Medical University, ⁹Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, ¹⁰Faculth of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, ¹¹Gunma University School of Medicine, ¹²University of the Ryukyus Faculty of Medicine, ¹³National Defense Medical College, ¹⁴Fukushima Medical University, ¹⁵National Cancer Center Hospital East, ¹⁶Aichi Cancer Research Institute, ¹⁷Kouseikai General Clinic and hospital) : Neck Dissections Based on Sentinel Lymph Node Navigation Versus Elective Neck Dissections in Early Oral Cancers: A Randomized, Multicenter, and Noninferiority Trial. J Clin Oncol. 39(18) 2025-2036. 2021.
21. Masuda M, Morita M, Matsuda T, Nakamura T, Matsumoto J, Miyama Y, Kasakura-Kimura N, Kohno N, Saito K: Risk of Sensorineural Hearing Loss in Patulous Eustachian Tube. Otol Neurotol. 42(5). e521-e529. 2021.
22. Nakajima J¹, Karaho T, Kawahara K, Hayashi Y², Nakamura M², Matsuura N¹, Kohno N (¹Tokyo Dental College, ²Kyorin University Hospital Swallowing Center) : Latent changes in the pharyngeal stage of swallowing in non-aspirating older adults. Eur Geriatr Med. 2022. DOI:10.1007/s41999-021-00604-2. Epub.
23. Kaga A, Ikeda T, Tachibana K¹, Tanaka R¹, Kondo H¹, Kawabata T², Yorozu T³, Saito K. (¹Dept.of General Thoracic Surgery, ²Shizuoka Cancer Center, ³Dept of Anesthesiology): An innovative oral management procedure to reduce postoperative complications. JTCVS Open. 2022. DOI:10.1016/j.xjon.2022.01.021
24. Miyamoto M, Yanagishita Y¹, Kure A¹, Hashimoto S¹, Takiura T¹, Hosaki A¹, Yan Kunimasa¹, Saito K (¹Dept.of Pediatrics) : The

management of Influenza Virus-Induced Plastic Bronchitis in Pediatric Patients: A Case Report and Literature Review. Int J Clin Pediatr. 11(1).20-26. 2022.

著 書

1. 宮本真（分担執筆）：嚥下障害と音声障害．声をみる いちばんやさしい音声治療実践ハンドブック．宮田恵里，佐藤剛史，村上健．医歯薬出版株式会社．2021．6-10．
2. 宮本真（分担執筆）：喉頭の観察．声をみる いちばんやさしい音声治療実践ハンドブック．宮田恵里，佐藤剛史，村上健．医歯薬出版株式会社．2021．30-34．
3. 齋藤康一郎（分担執筆）：気道確保手技．標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学．大森孝一，野中学，小島博己．医学書院．2022．375-378．

その他

1. 齋藤康一郎：第66回日本音声言語医学会総会・学術講演会主催．オンライン．2021年10月7日・8日．
2. 齋藤康一郎：第66回日本音声言語医学会総会・学術講演会ポストコングレスセミナー主催．オンライン．2021年10月9日．
3. 齋藤康一郎：シングルユースで感染症対策と効率運用を両立‘1患者1内視鏡時代’の訪れを見据えて．Experts meet Ambu. アンブ株式会社．インタビュー．2021．
4. 齋藤康一郎：最新の内視鏡システムと適切なモード選択による快適な耳鼻咽喉科外来診療．次世代スコープに関する外来ケースレポート資料．オリンパスマーケティング株式会社．インタビュー．2021．
5. 齋藤康一郎：新型コロナウイルス感染症流行下の気管切開対応／気管切開チューブに対する医療安全への取り組み．大学病院4施設の耳鼻咽喉科医による気管切開Web座談会．2021．

産科婦人科学教室

講 演

- 1 對馬可奈，竹森聖，谷垣伸治，北村亜也，小林千絵，松島実穂，田嶋敦，小林陽一：前置胎盤において推定胎児体重は癒着胎盤の予測因子となり得るか．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 2 谷川珠美子，百村麻衣，富岡紀子，澁谷裕美，西ヶ谷順子，松本浩範，谷垣伸治，小林陽一：再発卵巣・卵管・腹膜癌におけるペバシズマブとオラパリブによる維持療法の検討．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 3 佐藤泰紀，田嶋敦，松島実穂，小島康嗣，山口恵吾，尾坂真，岡愛子，戸田友美，谷垣伸治，小林陽一：妊娠中期に子宮内胎児死亡に至った胎児腹壁破裂の1例．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 4 西ヶ谷順子，阪口響子，片山紗弥，渋谷英里子，渡邊百恵，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，谷垣伸治，小林陽一：タモキシフェン内服により発症した子宮内膜病変の検討．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 5 田中啓，原田岳，谷垣伸治，小林陽一：日本人にお

ける非肥満型妊娠糖尿病の腸内細菌の特徴．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．

- 6 谷垣伸治，尾坂真，對馬可奈，佐藤泰紀，片山紗弥，竹森聖，松島実穂，西ヶ谷順子，田嶋敦，小林陽一：小学校高学年における産婦人科の認知度とキャリア授業の効果．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 7 片山紗弥，西ヶ谷順子，阪口響子，渋谷英里子，松島実穂，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，谷垣伸治，三室卓久，小林陽一：不妊治療終了後における婦人科疾患の定期フォローは重要である～ポストコンセプション・ケアの必要性について．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 8 小林千絵，谷垣伸治，浅井和貴，三ツ矢紫音，小松篤史，兵藤博信，光山聡，宮内彰人，関沢明彦，中井章人，藤井知行，小林陽一：東京都母体救命搬送システムの運用実績と当院の実績から見た今後の課題．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 9 澁谷裕美，渡邊百恵，西ヶ谷順子，百村麻衣，松本浩範，小林陽一：子宮体癌手術症例における術前PET/CT検査の有用性と予後に関する検討．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 10 尾坂真，田嶋敦，戸田友美，山口恵吾，小島康嗣，佐藤泰紀，岡愛子，松島実穂，谷垣伸治，小林陽一：平均血小板容積の妊娠糖尿病による変化．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 11 松澤由記子，酒井啓治，村岡由真，中西透，黒澤大樹，渡辺正，小林陽一，渡部洋：切断プロラクチンにおける絨毛栄養膜細胞の増殖能や遊走能の抑制に関する研究．第73回日本産科婦人科学会学術集会．新潟・オンライン．2021年4月23-25日．
- 12 遠藤ゆり香，渋谷英里子，片山紗弥，西ヶ谷順子，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，小林陽一：30歳代に不正出血を契機に発見された腔横中隔の1例．第397回東京産科婦人科学会例会．東京．2021年5月15日．
- 13 北村亜也，谷垣伸治，竹森聖，松島実穂，田嶋敦，小林陽一：臍帯ヘルニアと鑑別困難であった腹壁破裂の1例．日本超音波医学会第94回学術集会．神戸・オンライン．2021年5月21日．
- 14 松島実穂，田嶋敦，竹森聖，北村亜也，谷垣伸治，小林陽一：複雑な血管走行を認め，帝王切開時に細心の注意を要した前置血管の1例．日本超音波医学会第94回学術集会．神戸・オンライン．2021年5月22日．
- 15 森定徹，寺本勝寛，高野浩邦，佐々木寛，原田智佳子，中川陽子，竹綱正典，吉村一榮，手良向聡，青木大輔：子宮頸がん検診におけるHPV検査の有用性を検証するランダム化比較試験の進捗と課題．第62回日本臨床細胞学会（春期大会）．千葉・オンライン．2021年6月5-6日．
- 16 西ヶ谷順子，渋谷英里子，百村麻衣，松本浩範，坂口碧，菅野瞳，田邊一成，下山田博明，柴原純二，小林陽一：子宮頸部扁平上皮癌の寛骨転移診断にCTガイド下穿刺吸引細胞診が有用であった1例．第62回日本臨床細胞学会春期大会．千葉・オンライン．2021年6月5-6日．
- 17 田嶋敦：お産とPelvic floor disorder．第9回多摩女性骨盤底勉強会．オンライン．2021年6月11日．

- 18 川竹博史, 岡愛子, 谷垣伸治, 佐藤泰紀, 竹森聖, 北村亜也, 戸田友美, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: 当院における超緊急帝王切開術(Grade A)の検討. 第141関東連合産科婦人科学会. 東京・オンライン. 2021年6月19-20日.
- 19 阪口響子, 百村麻衣, 谷川珠美子, 富岡紀子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 長濱清隆, 松本浩範, 田嶋敦, 柴原純二, 谷垣伸治, 小林陽一: 10代女性に発生した子宮頸部明細胞癌の1例. 第141関東連合産科婦人科学会. 東京・オンライン. 2021年6月19-20日.
- 20 野口健朗, 田嶋敦, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: *Mycoplasma hominis*を認めた例の帝王切開術後管理についての検討. 第384回四水会. オンライン. 2021年6月23日.
- 21 竹森聖, 谷垣伸治, 内海裕汰郎, 阪口響子, 對馬可菜, 佐藤泰紀, 北村亜也, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 那須ゆかり, 鍋田雅俊, 前田佳紀, 吉田純, 小林陽一: 胎児孤発性腹水(Isolated fetal ascites)の腹水中細胞像の評価に難渋した1例. 第57回日本周産期・新生児学会. 宮崎・オンライン. 2021年7月11-13日.
- 22 佐藤泰紀, 松島実穂, 田嶋敦, 尾坂真, 岡愛子, 戸田友美, 谷垣伸治, 小林陽一: 子宮頸管縫縮術により満期まで妊娠継続し得た双角子宮の両角に妊娠した双胎妊娠の1例. 第57回日本周産期・新生児学会. 宮崎・オンライン. 2021年7月11-13日.
- 23 谷垣伸治, 秦健一郎, 小林千絵, 漆山大知, 尾坂真, 對馬可菜, 佐藤泰紀, 竹森聖, 岡愛子, 戸田友美, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 宮本新吾, 小林陽一: 絨毛膜羊膜炎の診断における16SrRNA解析の導入に向けた方法論の検討. 第57回日本周産期・新生児学会. 宮崎・オンライン. 2021年7月11-13日.
- 24 尾坂真, 田嶋敦, 佐藤泰紀, 岡愛子, 戸田友美, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠糖尿病妊婦に対するインスリン使用量が児出生体重に与える影響について. 第57回日本周産期・新生児学会. 宮崎・オンライン. 2021年7月11-13日.
- 25 堂園溪, 東眞, 小島康嗣, 酒井謙, 小山典宏, 小林陽一: 腹腔鏡手術中に偶然発見された腹膜漿液性境界悪性腫瘍(SBTP)の1例. 第52回日本婦人科腫瘍学会. 盛岡. 2021年7月31日.
- 26 Machida H, Matsuo K, Kobayashi Y, Momomura M, Takahashi F, Tabata T, Kondo E, Yamagami W, Ebina Y, Kaneuchi M, Nagase S, Mikami M: Significance of histology and nodal status on the survival of women with early-stage cervical cancer: Validatin of the FIGO cervical cancer staging system. 2021 IGCS, Rome・Online. August 30th-September 1st, 2021.
- 27 尾坂真, 南木佳子, 地阪光代, 黒田由香, 中里紀彦, 井口蓉子, 増田充, 北井啓勝, 伊東正昭, 櫻井信行: 子宮筋腫との鑑別が困難であった低悪性度子宮内膜間質肉腫(low-grade ESS)の1例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 28 藤麻真理子, 渡邊百恵, 川竹博史, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 萬昂士, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮筋腫との鑑別を要した卒中様平滑筋腫(apoplectic leiomyoma)の1例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 29 長内喜代乃, 三沢昭彦, 井上慶子, 宮崎典子, 林真弘, 岩元香里里, 木村英三, 小林陽一, 鈴木淳: 術前の画像診断に苦慮した未分化胚細胞腫瘍の1例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 30 富岡紀子, 百村麻衣, 對馬可菜, 春名佑美, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 癌性腹膜炎と鑑別が困難であった悪性リンパ腫の1例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 31 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 遠藤ゆり香, 中野紗弓, 片山紗弥, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 後腹膜由来の脂肪肉腫の1例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 32 浅野史男, 谷垣伸治, 渡邊正中, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 横山健一, 小林陽一: 妊娠中の複数回のCT検査が有用であった2例. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月3日.
- 33 谷垣伸治: 危機から始まる協働, 産科から放射線科に感謝を込めて. 第22回JSAWI. オンライン. 2021年9月4日.
- 34 森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 戸澤晃子, 高橋宏和, 中山富雄, 宮城悦子, 藤井多久磨, 小林陽一, 八重樫伸生, 青木大輔: わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第30回日本婦人科がん検診学会学術講演会. 金沢・オンライン. 2021年9月11-12日.
- 35 徳丸友美, 佐藤泰紀, 浅井和貴, 三ツ矢紫音, 尾坂真, 岡愛子, 戸田友美, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠後期に発生し軽快と再燃を繰り返した急性腓骨合併妊娠の1例. 第398回東京産科婦人科学会例会. オンライン. 2021年9月25日.
- 36 田嶋敦: 卵巣腫瘍の超音波診断のポイント. 日本超音波医学会第33回関東甲信越地方会学術集会. 松本・オンライン. 2021年10月16日.
- 37 百村麻衣: 当院におけるオラパリブ再発治療での使用経験. Ovarian Cancerオンラインカンファレンスin多摩. オンライン. 2021年10月15日.
- 38 竹森聖, 森定徹, 尾坂真, 渡邊百恵, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: ヒト卵巣明細胞癌細胞株におけるメトホルミンの抗腫瘍効果の検討. 第39回日本ヒト細胞学会. オンライン. 2021年10月30-31日.
- 39 中野紗弓, 西ヶ谷順子, 片山紗弥, 岡愛子, 小林千絵, 森定徹, 谷垣伸治, 小林陽一: タモキシフェン内服により発症した子宮内膜病変の検討. 第36回日本女性医学学会学術集会, 大阪, 2021年11月6-7日.
- 40 伊藤路奈, 山本泰弘, 谷川珠美子, 玉城英子, 安藤索, 西ヶ谷順子, 柳本茂久, 小林陽一, 岩下光利: 当院における人工妊娠中絶の背景と術後避妊の検討. 第36回日本女性医学学会学術集会, 大阪, 2021年11月6-7日.
- 41 片山紗弥, 西ヶ谷順子, 中野紗弓, 岡愛子, 森定徹, 谷垣伸治, 小林陽一: 不妊治療終了後における婦人科疾患の定期フォローは重要である～ポストコンセプション・ケアの必要性について. 第36回日本女性医学学会学術集会. 大阪. 2021年11月6-7日.
- 42 浅野史男, 徳丸友美, 石川美佳, 佐藤泰紀, 北村亜也, 小林千絵, 森定徹, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠27週にCovid-19肺炎を発症しECMO下での周産期管理を施行した一例. 第385回四水会. オンライン. 2021年11月17日.
- 43 森定徹, 寺本勝寛, 高野浩邦, 河野可奈子, 原田智佳子, 中川陽子, 寺綱正典, 吉村理一榮, 手良向聡, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV検査を用いた子宮頸がん検診を検証するRCTの進捗と検診プログラムとしての課題. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会. 米子・オンライン. 2021年11月20-21日.
- 44 百村麻衣, 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本憲彦, 岸本浩次, 長濱清隆, 下山田博明, 森定徹,

藤原正親, 柴原純二, 小林陽一: 子宮頸部異形成のフォローアップにおける細胞診の検討. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会. 米子・オンライン. 2021年11月20-21日.

- 45 木内健士朗, 戸田友美, 徳丸友美, 古田紗季, 高屋敷瑞穂, 野口健朗, 岡愛子, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠中に化学療法を行い良好な周産期管理ができた急性リンパ性白血病合併妊娠の2例. 第142回関東連合産科婦人科学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月20日.
- 46 中野紗弓, 西ヶ谷順子, 片山紗弥, 渋谷英里子, 渋谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: タモキシフェン内服中に発生した子宮内膜ポリープの検討. 第142回関東連合産科婦人科学会学術集会. 横浜・オンライン. 2021年11月20日.
- 47 金村彰香, 對馬可菜, 春名佑美, 富岡紀子, 百村麻衣, 西ヶ谷順子, 渋谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 腹膜癌肉腫に漿液性卵管上皮内癌を合併した1例. 第399回東京産科婦人科学会例会. 東京・オンライン. 2021年12月3日.
- 48 田嶋敦, 松島実穂, 竹森聖, 友澤周子, 谷垣伸治, 小林陽一: 35歳未満のNIPTを希望する妊婦の希望理由についての調査. 第7回日本産科婦人科遺伝診療学会学術集会. 大阪. 2021年12月17日.
- 49 渡邊百恵, 渋谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 進行卵巣癌(腹膜癌)に対して審査腹腔鏡を施行した症例の検討. 第10回東京低侵襲婦人科手術研究会. 東京・オンライン. 2022年2月5日.
- 50 川竹博史, 岡愛子, 平野稚子, 野口健朗, 竹森聖, 戸田友美, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: MRIが診断に有用だった卵管切除後に同時卵管間質部妊娠をきたした1例. 第400回東京産科婦人科学会例会. 東京・オンライン. 2022年2月19日.
- 51 森定徹: 子宮頸がん予防としてのHPV検査を用いた検診について. 第307回東京産婦人科医会臨床研究会. 東京・オンライン. 2022年3月6日.
- 52 森定徹: わが国の子宮頸がん検診の運用方法を考える. 日本婦人科腫瘍学会webセミナー. 東京・オンライン. 2022年3月29日.

令和2年度追加分

- 1 内海裕汰郎, 北村亜也, 浅井和貴, 三ツ矢紫音, 對馬可奈, 竹森聖, 小林千絵, 田嶋敦, 小林陽一: 複数回の腹水穿刺を施行した胎児総排泄腔遺残の1例. 第396回東京産科婦人科学会例会. 東京・オンライン. 2021年2月13日.

論 文

1. 村岡由真, 西ヶ谷順子, 堂園溪, 小山典宏, 小林陽一: 卵巣腫瘍手術症例における年齢別組織型の検討. 産と婦. 88. 643-647. 2021.
2. 森向日留¹, 田嶋敦, 清水幸子¹ (1 亀田総合病院): 子宮頸部潰瘍と外陰部潰瘍を契機に診断された腸管パーチェット病疑いの1例. 産婦の実. 70(4). 453-459. 2021.
3. Kobayashi Y, Fukutomi T¹, Mita S², Watanabe M, Suzuki S³ (1 Department of Pharmacology, Kyorin University Faculty of Medicine, 2 Mochida Pharmaceutical Co., 3 Kosei Hospital) Identification of biomarkers for drug-resistant endometriosis using clinical proteomics. Hum Cell. 34. 394-399. 2021.
4. Tokunaga H¹, Mikami M², Nagase S³, Kobayashi Y, Tabata T⁴, Kaneuchi M⁵, Satoh T⁶, Hirashima Y⁷, Matsumura N⁸, Yokoyama Y⁹, Kawana K¹⁰,

Kyo S¹¹, Aoki D¹², Katabuchi H¹³ (1 Tohoku University Hospital, 2 Tokai University School of Medicine, 3 Faculty of Medicine, Yamagata University, 4 Tokyo Women's Medical University, 5 Otaru General Hospital, 6 Faculty of Medicine, University of Tsukuba, 7 Shizuoka Cancer Center, 8 Kindai University Faculty of Medicine, 9 Hirosaki University Graduate School of Medicine, 10 Nihon University School of Medicine, 11 Shimane University School of Medicine, 12 Keio University School of Medicine, 13 Faculty of Life Sciences, Kumamoto University): The 2020 Japan Society of Gynecologic Oncology Guidelines for the treatment of ovarian cancer, fallopian tube cancer, and primary peritoneal cancer. J Gynecol Oncol. 2021;32:e49. <https://doi.org/10.3802/jgo.2021.32.e49>.

著 書

- 1 田嶋敦(分担執筆): 4) 胎盤の異常, B常位胎盤早期剥離. THE分娩, ビジュアルで学ぶ生理学・助産診断・分娩助助のすべて. 石川紀子, 中川有加, 村越毅 編. メディカ出版. 2021. 198-201.
- 2 百村麻衣(分担執筆): 末梢神経障害. 婦人科がん薬物療法パーフェクトガイド. 渡部洋 編. 診断と治療社. 2021. 164-166.
- 3 田嶋敦(分担執筆): D. 産褥異常の管理と治療, 2. 乳汁分泌異常(乳汁うっ滞, 乳汁分泌不全), 乳腺炎. 産科婦人科疾患, 最新の治療2022-2024. 吉川史隆, 大須賀穰, 杉山隆 編, 南江堂. 2021. 116-117.
- 4 田嶋敦(監修): ペリネイタルケア第40巻10号. メディカ出版. 2021.
- 5 戸田友美, 田嶋敦(分担執筆): 陣痛の異常(微弱陣痛・頻収縮). 周産期医学必修知識 第9版. 「周産期医学」編集委員会 編. 東京医学社. 315-317. 2021.

令和2年度追加分

- 1 Kobayashi Y: Molecular perspective in endometrial carcinoma. Molecular diagnosis and targeting for gynecologic malignancy. Editors: Isonishi S, Kikuchi Y. Springer. Co ltd. 2021.
- 2 田嶋敦(分担執筆): 外陰・腔壁・後腹膜血腫に対するIVR. Obstetrics and Gynecologic Surgery NOW Basic5, 産科手術を極める. 平松裕司, 竹田省, 万代昌紀, 小林裕明 編. メジカルビュー社. 2021. 174-177.

放射線医学教室

講 演

- 1 東田智彦, 林高樹, 小野澤志郎, 浅川靖真, 瀧岡絢, 多湖正夫: 当院での腹部仮性動脈瘤のIVR. 第50回日本IVR学会総会. オンライン. 2021年5月20日・22日.
- 2 村田智, 小野澤志郎, 安井大祐, 上田達夫, 穴井洋, 松山琴音, 近藤浩史, 田島廣之: Percutaneous isolated pelvic perfusion chemotherapy for advanced cancers. 第50回日本IVR学会総会. オンライン. 2021年5月20日・22日.
- 3 小野澤志郎, 村田智, 穴井洋, 松山琴音: 灌流療法(NIPP)の実際と医師主導治験に向けて NIPPの

手技詳細と注意点. 第50回日本IVR学会総会. オンライン. 2021年5月20日-22日.

- 4 宮内亮輔: 脳梗塞で入院中に肺腫瘍と骨の多発病変を指摘された50代女性の1例. 第2回東京レントゲンカンファレンス. オンライン・東京. 2021年5月27日.
- 5 横山健一: 心臓MRI 基礎的疾患診断のポイント. 多摩RESONANCE研究会 特別講演. オンライン. 2021年6月18日.
- 6 須山淳平: BSIを臨床に活かす ～解析アルゴリズムから確認しよう～. 第58回多摩核医学技術検討会. 立川・オンライン. 2021年6月18日.
- 7 渡邊正中, 町田治彦, 福島啓太, 竹下祐平, 荻安俊哉, 西川真木子, 吉岡達也, 清水裕太, 高橋早苗, 斎藤俊, 立石秀勝, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩, 横山健一: 高精細MRIがあたえる画像診断インパクト-膀胱がんガイドライン (VI-RADS) の臨床応用とその展望-. 第34回日本腹部放射線学会. 福岡・オンライン. 2021年6月19日.
- 8 宮内亮輔: 急性下肢虚血に対するバルーン閉塞下血栓回収術が奏効した2例. 第27回日本血管内治療学会学術総会. オンライン. 2021年7月9日-7月10日.
- 9 須山淳平, 沈金花, 横山健一, 河田宗之, 茂手木弘美: 骨シンチ解析ソフトウェアにおけるBSIの考察. 第95回日本核医学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年7月10日.
- 10 深谷香瑠, 白川佑也, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 中西章仁, 須山淳平, 横山健一: 当院における18F-FDG自動投与装置の使用経験. 第95回日本核医学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年7月10日.
- 11 須山淳平: 多血性腫瘍の転移と鑑別を要した軟部腫瘍の一例. 第18回TOPIC. 東京・オンライン. 2021年9月4日.
- 12 矢那瀬拓哉, 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 若松喬, 金翔哲, 石井俊, 磯部聡史, 岡野尚弘, 古瀬純司, 川村直弘, 森秀明, 久松理一, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 結腸人工肛門に発症した出血性人工肛門静脈瘤に対して経皮的静脈瘤硬化療法が奏功した1例. 第366回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2021年9月18日.
- 13 横山健一: 新型コロナウイルス感染症の心血管病変の画像診断. 第15回SCCT研究会 教育講演. オンライン. 2021年10月1日-29日.
- 14 高橋沙奈江, 横山健一, 須山淳平, 福島啓太, 吉岡達也, 中西章仁, 小林邦典, 國光健二: CSを用いた膝関節高速撮像におけるAiCE併用による画質改善効果の基礎的検討. 第49回日本磁気共鳴医学会. 横浜・オンライン. 2021年10月11-12日.
- 15 白川佑也, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 須山淳平, 中西章仁: デジタルPET/CTにおける低コントラスト描出能の基礎的検討. 第49回日本放射線技術学会秋季学術大会. 熊本市・オンライン. 2021年10月15日.
- 16 白川佑也, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 須山淳平, 中西章仁: デジタルPET/CTにおけるコントラストとPSF補正に関する検討. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会. 名古屋. 2021年11月4日.
- 17 白川佑也, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 須山淳平, 中西章仁: デジタルPET/CTにお

ける低コントラスト描出能の基礎的検討. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会. 名古屋. 2021年11月4日.

- 18 須山淳平, 竹下祐平, 沈金花, 志賀久恵, 片瀬七朗, 白川佑也, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 横山健一: Digital PET-CTのPSF使用時のSUVと腫瘍サイズの関係について. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋. 2021年11月5日.
- 19 横山健一: COVID-19の心血管病変の画像診断: Part1. 第94回日本心臓血管放射線研究会 教育講演. オンライン. 2022年1月29日.
- 20 須山淳平, 高橋正輝, 竹下祐平, 長井美由紀, 横山健一, 河田宗之, 白川佑也, 深谷香瑠, 茂手木弘美, 市川浩三: ピロリン酸シンチで心臓と重なる肋骨骨折が存在した場合のH/CL比についての考察. 第96回日本核医学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年1月29日.
- 21 須山淳平, 竹下祐平, 長井美由紀, 宮内亮輔, 白川佑也, 河田宗之, 茂手木弘美, 深谷香瑠, 市川浩三, 横山健一: 臨床データからみたDigital PET-CTにおけるCaLMの有用性の検討. 第41回日本画像医学学会学術集会. 東京. 2021年2月18-19日.
- 22 五明美穂, 土屋一洋, 高橋沙奈江, 片瀬七朗, 大原有紗, 福島啓太, 吉岡達也, 横山健一: Deep learningを用いた高分解能T2強調像による下垂体microadenomaの検出能. 第51回日本神経放射線学会. 東京・オンライン. 2022年2月18日.
- 23 小野澤志郎, 宮内亮輔, 黒木一典: 咯血に対するIVR. 第41回日本画像医学学会学術総会. オンライン. 2022年2月19日.
- 24 五明美穂: 急性期脳梗塞の画像診断. 第41回日本画像医学学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月19日.
- 25 岡田樹, 安達卓哉, 斎藤駿, 中西章仁, 五明美穂, 河野浩之, 平野照之: ベイズ推定法を用いたCT Perfusionにおけるラクナ梗塞の検出精度の検討. STROKE2022. 大阪・オンライン. 2022年2月-5月31日.

論 文

1. 須山淳平: 「画像診断・画像下治療の最前線」PET-CTの新たな展開について. 杏林医学会雑誌. 52巻3号. 141-145. 2021.
2. 須山淳平, 寺本明, 平野克治, 市田隆文, 福村由紀, 荒川敦, 八尾隆史, 竹下祐平, 横山健一: 異なるFDG集積を呈した肝重複癌の1例. 臨床核医学. Vol.54 No.5. 66-69. 2021.
3. 大森春佑, 松木亮太, 小暮正晴, 小野澤志郎, 鈴木裕, 阪本良弘: 脾頭部動静脈奇形による十二指腸潰瘍からの出血に対し二期的脾空腸吻合を用いて緊急に脾頭十二指腸切除術を施行した1例. 手術. 75巻13号. Page2013-2020. 2021年.
4. 小野澤志郎: 【画像診断・画像下治療の最前線】画像下治療(IVR)の最前線. 杏林医学会雑誌. 52巻3号. Page157-161. 2021.
5. Takano T, Katada Y, Komaki N, Onozawa S, Yokoyama H.: A technique for creating an experimental type Ia endoleak model in the thoracic aorta of swine. Jpn J Radiol. 39(11).1127-1132. 2021.
6. Yamaguchi H, Murata S, Ueda T, Mine T, Onozawa S, Hayashi H, Kumita SI: New technique for false lumen coiling of spontaneous

isolated superior mesenteric artery dissection. CVIR Endovasc. 4(1). 35. 2021.

7. Saito M, Kawano H, Koyanagi M, Gomyo M, Yokoyama K, Hirano T : Teaching Video NeuroImages: ECG-gated 4D-CTA Can Detect Aortic Plaque Mobility in Cryptogenic Stroke. Neurology. 97(4). E431-e432. 2021.
8. Gomyo M, Tsuchiya K, Goto S, Hosoi S, Tahara T, Yokoyama K: Usefulness of black-blood magnetic resonance angiography generated from vessel wall imaging after the stent-assisted treatment of intracranial arterial diseases. Neuroradiol J. 35(1). 36-41. 2022.
9. 大原有紗: 眼窩腫瘍 眼窩SFT, 視神経鞘膜腫と海綿状血管奇形. 臨床放射線. 66. 1299-1308. 2021.
- 10 渡邊正中, 町田治彦¹, 田口慧², 多武保光宏², 荻安俊哉¹, 竹下祐平, 福島啓太³, 斎藤 駿³, 福原浩², 横山健一(¹東京女子医大付属東医療センター, ²杏林大・医・泌尿器科学, ³杏林大学医学部付属病院放射線部): VI-RADS の基本と最新MRI 装置による新たな撮像法. 映像情報メディカル. 53(8). 14-20. 2021.
- 11 渡邊正中, 町田治彦¹, 田口慧², 多武保光宏², 荻安俊哉¹, 竹下祐平, 福島啓太³, 斎藤 駿³, 福原浩², 横山健一(¹東京女子医大付属東医療センター, ²杏林大・医・泌尿器科学, ³杏林大学医学部付属病院放射線部): 次世代3テスラMRI Vantage Centurian の最新技術と泌尿器科領域への応用. 泌尿器科. 第14巻2号. 233-239. 2021年.
- 12 Taguchi S¹, Watanabe M, Tambo M¹, Machida H², Yokoyama K, Fukuhara H¹ (¹Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ²Adachi Medical Center, Tokyo Women's Medical University) : Proposal for a new Vesical Imaging-Reporting and Data System (VI-RADS)-based algorithm for the management of bladder cancer: A paradigm shift from the current transurethral resection of bladder tumor (TURBT)-dependent practice. Clinical Genitourinary Cancer. 2022. DOI: 10.1016/j.clgc.2022.03.002. Online ahead of print.
- 13 須山淳平, 白川佑也: 半導体PET・SPECT装置の最近の話題 デジタルPET/CT装置 Cartesion Prime. 臨床放射線. 66(9). 855-865. 2021.
- 14 須山淳平: 特集 Nuclear Medicine Today 2021 キーワードから展望する核医学の技術開発と臨床応用 1) 当施設の最新PET-CT装置の特長と実際. インナービジョン. 36(10). 4-6. 2021.
- 15 保本卓, 石川雅基, 井上政則, 小野澤志郎, 作原祐介, 佐藤洋造, 高木治行, 中塚誠之, 中村 一彦, 藤原寛康, 清水淳市, 山上卓士, 三村秀文, 上嶋英介, ウッドハムス玲子, 大内泰文, 我那覇文清, 桑鶴良平, 高良真一, 小金丸雅道, 駒田智大, 米虫敦, 塩山靖和, 菅原俊祐, 杉山 宗弘, 瀧川政和, 徳江浩之, 中村恩, 西村潤一, 野口智幸, 橋爪卓也, 橋本政幸, 長谷部光泉, 東浦涉, 松浦克彦, 松本知博, 村上優, 矢田晋作, 山西伴明, 日本IVR学会: CTガイド下肺生検の手法に関するガイドライン2020. 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌. 36巻1号. Page82-98. 2021.
- 16 Mo M, Hirokawa M, Satokawa H, Yasugi T, Yamaki T, Ito T, Onozawa S, Kobata T, Shirasugi N, Shokoku S, Sugano N, Sugiyama S,

Hoshina K, On Behalf Of Guideline Committee Japanese Society Of Phlebology, Ogawa T : On Behalf Of Japanese Committee Of Endovenous Treatment For Varicose Veins. Supplement of Clinical Practice Guidelines for Endovenous Thermal Ablation for Varicose Veins: Overuse for the Inappropriate Indication. Ann Vasc Dis. 14(4). 323-327. 2021 .

- 17 五明美穂, 土屋一洋(1JIR東京総合病院放射線科): 絶対苦手分野にしない脳梗塞の画像診断 特殊な栓子による脳梗塞. 臨床画像. 38. 321-329. 2022.

著 書

1. 横山健一(分担執筆): 心血管領域の標準的撮像法: MRI. 画像診断ガイドライン2021年版. 日本医学放射線学会編. 金原出版株式会社. 2021. 169-174.
2. 須山淳平(分担執筆): 第3章 2 心臓核医学に親しむ 大血管・心臓 画像診断の勘どころ. 横山健一編集. メジカルビュー社. 2021. 56-61.
3. 後藤俊¹, 五明美穂, 土屋一洋¹ (¹埼玉医科大学総合医療センター放射線科): 脊髄血管芽腫の診断におけるMRDSAの有用性. CI研究. 43(1). 55-59. 2021.
4. 宮内亮輔(分担執筆): 急性大動脈解離. 臨床画像. メディカルビュー社. 2021. 50-58.
5. 横山健一(分担執筆): I 章 画像診断の基礎知識. 3 MRIから何を読み取るか? 胸部画像診断と呼吸器外科手術. 画像診断を究めて手術力を向上させる. 東京, 株式会社学研メディカル秀潤社. 2022. 34-43.

その他

1. 横山健一, 桶川隆嗣: 対談 AIの時代における放射線科医の役割と今後の展望. 杏林医学会誌. 52巻4号.
2. 須山淳平, 岡崎隆, 橋本順, 鳥井原彰, 岩渕雄: 出題編(第921回 放射線診療研究会 報告). 臨床核医学. 54(3). 50-52.
3. 須山淳平, 岡崎隆, 橋本順, 鳥井原彰, 岩渕雄: 解答編(第921回 放射線診療研究会 報告), 臨床核医学. 54(4). 34-38.

放射線腫瘍学教室

講 演

1. 安藤謙, 永島潤, 小林大二郎, 中村和人, 山下宗一, 木暮圭子, 東杏莉, 鹿沼達哉, 江原威: 骨盤リンパ節転移を有する子宮頸癌(FIGO2018 IIIC1期)に対する根治的放射線治療成績の検討. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 大阪. 2021年7月16日-18日.
2. 江原威, 鹿間直人, 高橋健夫, 茂松直之: 放射線治療および緩和ケアに対するイメージとニーズの把握. 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会. オンライン. 2021年11月12日-14日.
3. 奥田俊, 戸成綾子, 長井美由紀, 江原威: 左乳癌術後の深吸気息止め照射. 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会. オンライン. 2021年11月12日-2022年1月15日.

論 文

1. Yoshida D¹, Kusunoki T¹, Takayama Y¹, Kusano Y¹, Minohara S¹, Kano K¹, Anno W¹, Tsuchida K¹, Takakusagi Y¹, Mizoguchi N¹, Serizawa I¹,

Ebara T, Katoh H¹ (¹Kanagawa Cancer Center, Kyorin University School of Medicine) : Comparison of Dose Distribution Between VMAT-SBRT and Scanning Carbon-ion Radiotherapy for Early-stage NSCLC Anticancer Res. 41(9). 4571-4575. 2021.

2. Okano N¹, Kubo N¹, Yamaguchi K¹, Kouno S¹, Miyasaka Y¹, Mizukami T¹, Shirai K², Saitoh JI³, Ebara T, Kawamura H¹, Maeno T¹, Ohno T¹ (¹Gunma University Graduate School of Medicine, ²Jichi Medical University, ³University of Toyama, Kyorin University, School of Medicine) : Efficacy and Safety of Carbon-Ion Radiotherapy for Stage I Non-Small Cell Lung Cancer with Coexisting Interstitial Lung Disease. Cancers (Basel). 2021. DOI: 10.3390/cancers13164204.
3. Kobayashi N¹, Oike T^{1,2}, Kubo N¹, Miyasaka Y¹, Mizukami T³, Sato H², Adachi A¹, Katoh H⁴, Kawamura H², & Ohno T^{1,2} (¹Department of Radiation Oncology, Gunma University Graduate School of Medicine, ²Gunma University Heavy Ion Medical Center, ³Department of Radiology, University of Toyama, ⁴Department of Radiation Oncology, Kanagawa Cancer Center) : Colorectal Cancer Screening Outcomes of 2412 Prostate Cancer Patients Considered for Carbon Ion Radiotherapy. Cancers. 13. 4481. 2021.
4. Imai H^{1,2}, Kobayashi D¹, Kaira K², Kawashima S¹, Masubuchi K¹, Murata M¹, Ebara T, Kitamoto Y¹, Minato K¹ (¹Gunma Prefectural Cancer Center, ²Comprehensive Cancer Center, International Medical Center, Saitama Medical University, Kyorin University, School of Medicine) : Clinical impact of post-progression survival in patients with locally advanced non-small cell lung cancer after chemoradiotherapy. Radiol Oncol. 2022. DOI: 10.2478/raon-2022-0006.

麻酔科学教室

講 演

1. 徳嶺譲芳：第143回CVC指導者養成コース。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2021年5月9日。
2. 徳嶺譲芳：第211回CVC実践セミナー。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2021年5月9日。
3. 萬知子，関博志，中澤春政，神山智幾，渡辺邦太郎，本保晃，安藤直朗，辻大介：周術期モニタリングと患者予後。Covidien周術期セミナー。武蔵野市・オンライン。2021年5月22日。
4. 中澤春政：周術期の8遮断薬使用法 up to date. Meet the Expert Remote Seminar. オンライン。2021年5月25日。
5. 徳嶺譲芳：リークに耐える麻酔器：あなたは知っていますか麻酔器の進歩？。日本麻酔科学会第68回学術集会。神戸・オンライン。2021年6月3日-7月9日。
6. 渡辺邦太郎：デクスメデトミジン・デキサメタゾンの局所麻酔薬への添加：末梢神経ブロックを活かす。日本麻酔科学会第68回学術集会。神戸・オンラ

イン。2021年6月3日-7月9日。

7. 渡辺邦太郎，中澤春政，山本勝也，唐澤弘行，徳嶺譲芳，萬知子：光音響効果を用いた神経ブロック針の視認性の向上：ヒト解剖体研究。日本麻酔科学会第68回学術集会。神戸・オンライン。2021年6月3日-7月9日。
8. 関博志，志賀俊哉，水原敬洋，星島宏，細川幸希，大内貴志：帝王切開の際にくも膜下腔に投与されたオピオイドの効果：Bayesianネットワークメタアナリシスによる比較。日本麻酔科学会第68回学術集会。神戸・オンライン。2021年6月3日-7月9日。
9. 伊東真吾，関博志，深瀬康二，岡田玲奈，出口喜彦，大内貴志：術中の高流量酸素カニューラ使用が患者周囲の酸素濃度に及ぼす影響についての研究。日本麻酔科学会第68回学術集会。神戸・オンライン。2021年6月3日-7月9日。
10. 小谷真理子，元山宏展，神山智幾，森山潔，萬知子：肺高血圧症を基礎疾患にもつCOVID-19患者の呼吸不全に対して経鼻高流量酸素療法で良好に管理できた1例。日本集中治療医学会第5回関東甲信越支部学術集会。浜松・オンライン。2021年6月12日。
11. 徳嶺譲芳：第152回CVC指導者養成コース。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2021年7月31日。
12. 徳嶺譲芳：第224回CVC実践セミナー。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2021年7月31日-2022年8月1日。
13. 徳嶺譲芳：安全な超音波ガイド下中心静脈穿刺のための実践ガイド（日本専門医機構認定麻酔科領域講習リフレッシュ・ペーシク）。オンライン。2021年7月31日。
14. 本保晃：Baxter Anesthesia Online Training。オンライン。2021年8月12日。
15. 徳嶺譲芳：CVCハンズオン・セミナー。杏林大学。オンライン。2021年8月14日。
16. 小野元彰，関博志，田渕沙織，箱根雅子，田口敦子，萬知子：左肩部血管腫に対する全身麻酔下硬化療法で、抜管直前に気管粘膜の異常血管からの出血が明らかとなった一例。日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会。オンライン。2021年9月4日-10月4日。
17. 川船麦，渡辺英伸，関博志，萬知子：加工した経鼻的高流量酸素療法用の気管切開アダプタを利用して気切孔縁から高流量酸素の投与を行うことで安全に術中管理を行うことができた一症例。日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会。オンライン。2021年9月4日-10月4日。
18. 松田伶奈，本保晃，鶴澤康二，萬知子：重症肺動脈性肺高血圧症がある妊婦帝王切開術に対する区域麻酔。日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会。オンライン。2021年9月4日-10月4日。
19. 齊藤由希子，元山宏展，安藤直朗，田口敦子，徳嶺譲芳，萬知子：末梢静脈路確保困難症例での超音波ガイド下橈骨静脈ライン確保。日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会。オンライン。2021年9月4日-10月4日。
20. 中澤春政：ミトコンドリア機能と心臓血管外科手術。日本心臓血管麻酔学会第26回学術集会。オンライン。2021年9月17日-11月15日。
21. 中澤春政：心臓血管麻酔における近赤外線脳酸素

モニターの実践的使用法 ―こんなときどう対応しますか?―. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術集会. オンライン. 2021年9月17日-11月15日.

22. 渡辺英伸, 関博志, 萬知子: 経カテーテル大動脈弁置換術患者で発生したダパグリフロジンに関連した術後低血糖ケトアシドーシス. 日本臨床麻酔学会第41回大会. 札幌. 2021年11月6日.
23. 関博志: 一歩進んだ術前評価 ―術後アウトカムを見据えた術前評価―. 日本臨床麻酔学会第41回大会. 札幌. 2021年11月5日.
24. 中澤春政: 近赤外線脳酸素モニターを使用した周術期脳保護戦略. 日本臨床麻酔学会第41回大会. 札幌. 2021年11月5日.
25. 本保晃, 徳嶺譲芳, 萬知子: 中心静脈穿刺のシミュレーション教育のためのTele-simulation. 第50回杏林医学会総会. 東京. 2021年11月20日.
26. 渡辺英伸, 関博志, 萬知子: 経カテーテル大動脈弁置換術患者で発生したダパグリフロジンに関連した術後低血糖とケトアシドーシス. 第50回杏林医学会総会. 東京. 2021年11月20日.
27. 徳嶺譲芳: CVC指導者養成コース. 杏林大学. オンライン. 2021年11月20日.
28. 徳嶺譲芳: CVC実践セミナー. 杏林大学. オンライン. 2021年11月20日.
29. 中澤春政: 術後疼痛管理チーム. 日本麻酔科学会事務局セミナー. オンライン. 2021年12月14日.
30. 中澤春政: 周術期の輸液管理・輸血管理. 看護師・コメディカルのための麻酔セミナー2021. オンライン. 2021年12月15日-2022年3月31日.
31. 齊藤由希子, 徳嶺譲芳, 萬知子: 腹腔鏡下胃部分切除術後に生じた前皮神経絞扼症候群に腹直筋鞘ブロックおよび腹横筋膜面ブロックが著効した1例. 多摩麻酔懇話会第32回大会. オンライン. 2022年2月5日.
32. 野口ひかり, 中澤春政, 萬知子: TAVI施行後遅発性に発症した大動脈解離の一例, TAVI麻酔情報交換会. オンライン. 2022年2月4日.
33. 関博志, 志賀俊哉: 帝王切開の際にくも膜下腔に投与されたオピオイドの効果: Bayesianネットワークメタアナリシスによる比較. 第1回日本周産期麻酔科学会学術集会. オンライン. 2022年3月12日.
34. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺のシミュレーション教育(教育講演1). 第17回日本医学シミュレーション学会学術集会. 東京. 2022年3月20日.
35. 本保晃, 徳嶺譲芳, 萬知子: 中心静脈穿刺のシミュレーション教育のためのtelesimulation. 第17回日本医学シミュレーション学会学術集会. 東京. 2022年3月20日.

論 文

1. Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK¹, Nakazawa H, Yamamoto K², Karasawa H², Nagase M³, Yorozu T (¹Jichi medical university, ²Fujifilm, ³Department of anatomy, Kyorin university school of medicine): Photoacoustic needle improves needle tip visibility during deep peripheral nerve block. *Sci Rep*. 11(1):8432. 2021.
2. 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の理屈 適応と解剖を理解して効率の良い技術習得を. *LiSA*. 28(4). 396-402. 2021.
3. Tokumine J, Watanabe H, Moriyama K, Tabuchi S, Motoyasu A, Kageyama E, Yorozu T: In Response: Massive leak in CO2 absorber of Perseus A500 did not inhibit mechanical ventilation but manual bag ventilation: A case report with experimental reproduction. *A & A Pract*. 15(7). e01498. 2021.
4. Uzawa K, Seki H, Yorozu T: Residual paralysis caused by 50 mg rocuronium after reversal with 4 mg/kg sugammadex: a case report. *BMC Anesthesiol* 21(1). 154. 2021.
5. 中澤春政, 萬知子: 左室収縮能が低下した患者の全身麻酔管理について. *臨床麻酔*. 45(4). 599-602. 2021.
6. 中澤春政: 2021のシェヘラザードたち 手術成功率30%の手術 -あなたは麻酔を引き受けますか?. *LiSA別冊* '21. 65-69. 2021.
7. 小野元彰, 関博志, 萬知子: 左肩の静脈奇形に対する全身麻酔下硬化療法術で気管壁の異常血管より出血をきたした1症例. *臨床麻酔*. 45(8). 1101-1103. 2021.
8. Seki H, Shiga T¹, Mihara T², Hoshijima H³, Hosokawa Y⁴, Hyuga S⁵, Fujita T⁵, Koshika K⁶, Okada R⁶, Kurose H⁷, Ideno S⁸, Ouchi T⁶ (¹International university of health and welfare Ichikawa hospital, ²Yokohama city university school of medicine, ³Tohoku university school of medicine, ⁴Showa university school of medicine, ⁵Kitasato university school of medicine, ⁶Tokyo dental collage Ichikawa general hospital, ⁷Keio university school of medicine, ⁸Kawasaki municipal hospital): Effects of intrathecal opioids on cesarean section: a systematic review and Bayesian network meta-analysis of randomized controlled trials. *J Anesth*. 35(6). 911-927. 2021.
9. Seki H, Fukagata K¹, Ito S², Okada R², Ouchi T² (¹Keio university school of medicine, ²Tokyo dental collage Ichikawa general hospital): The effect of high-flow nasal oxygen use on oxygen flow at the surgical site: A pilot study. *Br J Anaesth*. 127(6). 192-195. 2021.
10. Okano H¹, Mayumi T², Kataoka Y³, Banno M⁴, Tsujimoto Y⁵, Shiroshita A⁶, Taito S⁷, Tokumine J (¹Yokohama medical center, ²Kanazawa university school of medicine, ³Kyoto min-iren asukai hospital, ⁴Seichiryo hospital, ⁵Kyoritsu hospital, ⁶Ichinomiyanishi hospital, ⁷Hiroshima university hospital): Outcomes of Simulation-Based Education for Vascular Access: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Cureus*. 13(8). 17188. 2021.
11. Kikuchi M¹, Asao T¹, Tokumine J, Lefor AK², Matsushima H³, Andoh H⁴, Tanaka K¹, Kanamoto M¹, Ideno Y¹ (¹Gunma university school of medicine, ²Jichi medical university, ³Dokkyo medical university, ⁴Akita university school of medicine,): A novel system for teaching the in-plane vascular access technique: A simulation study. *Medicine (Baltimore)*. 100(37). e27201. 2021.
12. Seki H, Kuratani N¹, Shiga T², Iwasaki Y³, Karita K, Yasuda K, Yorozu T (¹Saitama prefectural children's medical center,

²International university of health and welfare Ichikawa hospital, ³Tohoku university school of medicine,): Multicenter prospective observational study of sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated postoperative ketoacidosis: the SAPKA study protocol. BMJ Open. 11(11). e049592. 2021.

13. Mitsuda S, Uzawa K, Sawa M, Ando T, Yoshikawa Y, Miyao H, Yorozu T, Ushiyama T¹ (¹National institute of public health): Vascular Endothelial Glycocalyx Plays a Role in the Obesity Paradox According to Intravital Observation. Frontiers in Cardiovascular Medicine. (8). 727888. 2021.
14. 渡辺邦太郎, 木下尚之, 伊藤美里, 井上鉄夫, 坂本英明: 小児の脊椎側弯症矯正術の術後痛に対しプレガバリンが有効であった1例. 日本ペインクリニック学会誌. 28(9). 199-203. 2021.
15. 渡辺邦太郎, 木下尚之, 伊藤美里, 井上鉄夫, 坂本英明: 母指手根中手関節症の病状理解と治療継続に超音波画像診断が有用であった1例. 日臨麻会誌. 41(7). 580-584. 2021.
16. 中澤春政: 気道エコーの過去・現在・未来. 臨床麻酔. 45(12). 1511-1520. 2021.
17. 中澤春政: カテーテルアブレーションの麻酔. LiSA. 29(2). 149. 2022.
18. 関博志: 帝王切開麻酔におけるくも膜下オピオイド. 臨床麻酔. 46(2). 129-36. 2022.
19. Sawada R, Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK¹, Ando T, Yorozu T(¹Jichi medical university): Ultrasound-guided rectus sheath block for anterior cutaneous nerve entrapment syndrome after laparoscopic surgery: A case report. World J Clin Cases. 10(7). 2357-2362. 2022.
20. Seki H, Watanabe H, Yorozu T: Postoperative Ketoacidosis With Hypoglycemia in a Nondiabetic Patient Taking Dapagliflozin for Heart Failure: A Case Report. A & A Pract. 16(3). e01570. 2022.

著書

1. 渡辺邦太郎 (分担執筆), 徳嶺譲芳(監修): 第3章 鎖骨下静脈穿刺. 成功につながる中心静脈穿刺ビジュアルガイド. 松島久雄 編集. 羊土社. 2021. 49-62.
2. 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳 (分担執筆): 総論7 局所麻酔の添加薬. レベルアップ超音波ガイド下末梢神経ブロック. 森本康裕 編集. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 49-55.
3. 中澤春政, 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳: PBLで学ぶ安全な中心静脈穿刺. 克誠堂出版. 2021.
4. 徳嶺譲芳 (分担執筆): 第6章中心静脈カテーテル挿入に必要な解剖. スキルアップのための麻酔科臨床解剖・麻酔科プラクティス4. 垣花学 編集. 文光堂. 2021. 106-113.
5. 関博志 (分担執筆): Q33高齢者での術後悪心・嘔吐(PONV)予防法を教えてください. 高齢者麻酔のポイント50. 川口昌彦, 川股知之, 小坂橋俊哉 編集. 克誠堂出版. 2021. 126-129.
6. 関博志 (分担執筆): II. 酸塩基平衡・電解質・脱水 電解質異常(ナトリウム, カリウム, カルシウム, リン, マグネシウム). 救急・集中治療33巻2号 特集 輸液管理 2021・'22 -ガイドライン, スタ

ンダード, 論点そして私見-. 鈴木武志 編集. 総合医学社. 2021. 403-413.

7. 鶴澤康二, 安藤直朗, 吉川貴紘 (共著): VI. 輸液管理 アドバンス編 38. 重症患者に対して代用血漿製剤はどのように使用すべきか?. 救急・集中治療33巻2号 特集 輸液管理 2021・'22 -ガイドライン, スタンダード, 論点そして私見-. 鈴木武志 編集. 総合医学社. 2021. 628-637.
8. 中澤春政 (分担執筆): IV. 周術期管理における輸液管理. 心臓血管外科手術患者の輸液管理. 救急・集中治療33巻2号 特集 輸液管理 2021・'22 -ガイドライン, スタンダード, 論点そして私見-. 鈴木武志 編集. 総合医学社. 2021. 569-576.
9. 鶴澤康二, 安藤直朗, 吉川貴紘 (共著): 術中の麻酔管理を任された!. 術中輸液管理と尿量の考え方. レジデントノート2021年10月号. 川口昌彦編集. 羊土社. 2021. 1555-1562.
10. 徳嶺譲芳, 箱根雅子, 辻大介 (共著): 26章中心静脈穿刺の空気塞栓「空気読んで!」. LiSA vol.28 別冊秋号 麻酔科医なら知っておきたい血栓症・塞栓症. 坪川恒久 編集. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 193-197.
11. 関博志: Section I 患者管理 7 脳神経外科患者の術後管理. MGH術後管理 PACUの手引. 仙頭佳起, 長坂安子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 63-69.
12. 関博志: Section I 患者管理 8 内分泌外科患者の術後管理. MGH術後管理 PACUの手引. 仙頭佳起, 長坂安子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 71-82.
13. 関博志, 須田康一: Section I 患者管理 9 消化器, 腹部, 直腸肛門疾患患者の術後管理. MGH術後管理 PACUの手引. 仙頭佳起, 長坂安子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 83-92.
14. 関博志: Section I 患者管理 10 泌尿生殖器手術患者の術後管理. MGH術後管理 PACUの手引. 仙頭佳起, 長坂安子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 93-99.
15. 関博志: Section II 術後合併症 15 術後悪心・嘔吐. MGH術後管理 PACUの手引. 仙頭佳起, 長坂安子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 145-151.
16. 中澤春政: II ドブラ法の基本 第5章~第7章. 周術期経食道心エコー実践法第4版. 野村実監修. 小出康弘, 岡本浩嗣編集. 真興交易医学出版部. 2021. 162-243.
17. 徳嶺譲芳 (分担執筆): 第1章8 中心静脈穿刺. 研修医になったら必ずこの手技を身につけてください 改訂版. 上嶋浩順, 森本康裕編集. 羊土社. 2022. 73-84.
18. 徳嶺譲芳 (分担執筆): 第1章9 末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)挿入. 研修医になったら必ずこの手技を身につけてください 改訂版. 上嶋浩順, 森本康裕編集. 羊土社. 2022. 85-94.

その他

1. 徳嶺譲芳: 第153回CVC指導者養成コース インストラクター. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2022年1月29日.
2. 徳嶺譲芳: 第226回CVC実践セミナー インストラクター. 日本医学シミュレーション学会. オンライン

ン。2022年1月29日。

3. 徳嶺譲芳：第17回日本医学シミュレーション学会学術集会 主催。東京。2022年3月20日。
4. 本保晃，徳嶺譲芳，萬知子：中心静脈穿刺のシミュレーション教育のためのtelesimulation。第17回日本医学シミュレーション学会学術集会。一般演題優秀演題賞。東京。2022年3月20日。

臨床検査医学教室

講 演

1. 山崎聡子，鈴木早紀，石関彩乃，小高知美，山本美里，岩崎恵，牧野博，小島直美，関口久美子，高山信之，大西宏明，渡邊 卓：当院における多発性骨髄腫に対する自家末梢血幹細胞移植の治療成績。第69回日本輸血・細胞治療学会学術総会。誌上開催。2021年6月4日-6日。
2. 鈴木早紀，細江みずき，石関彩乃，小高知美，山本美里，岩崎恵，牧野博，小島直美，関口久美子，山崎聡子，大西宏明：当院における輸血後感染症検査実施に関する方向性の検討。第69回日本輸血・細胞治療学会学術総会。誌上開催。2021年6月4日-6日。
3. 山崎聡子，鈴木早紀，石関彩乃，小高知美，山本美里，岩崎 恵，牧野博，小島直美，関口久美子，高山信之，大西宏明，渡邊卓：当院における幹細胞動員方法別にみた多発性骨髄腫自己末梢血幹細胞採取の後方視的検討。第69回日本輸血・細胞治療学会学術総会。誌上開催。2021年6月4日-6日。
4. 白倉健世，坂本大典，宮城博幸，関口久美子，大西宏明：当院におけるSARS-CoV-2抗原定量検査の性能比較と運用について。第70回日本医学検査学会。オンライン。2021年5月15日-6月4日。
5. 芝崎翔平，岸野智則，砂原さくら，横山智美，原島敬一郎，中島哲，川村直弘，森秀明，大西宏明，渡邊卓：健康若年女性における夕方の生理的下腿浮腫について。超音波医学会第94会学術集会。神戸・オンライン。2021年5月23日。
6. 山崎聡子，千葉直子，坂本大典，大塚弘毅，岸野智則，高山信之，大西宏明，渡邊卓：B/T両形質を有するリンパ球性急性転化で発症したminor BCR-ABL1陽性CMLの1例。第22回日本検査血液学会学術集会。平塚・オンライン。2021年9月14日～9月20日。
7. 本間慎太郎，米谷正太，井田陽子，荒木光二，大西宏明：Candida rugosaによるカテーテル関連血流感染症の1例。第70回日本感染症学会 東日本地方会学術集会。オンライン。2021年10月27日-29日。
8. 小倉航，大塚弘毅，松浦幸子，山崎聡子，宮城博幸，関口久美子，大西宏明，渡邊卓：流行性ウイルス感染症予防接種後の抗体低反応者に対する新型コロナワクチン接種後の中和抗体。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。2021年11月12日～12月24日。
9. 白倉健世，坂本大典，宮城博幸，関口久美子，大西宏明：当院におけるSARS-CoV-2抗原定量検査の性能比較と運用について。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。2021年11月12日-12月24日。
10. 松浦幸子，田中麻里菜，本山拓也，石井隆浩，小山田崇，関口久美子，宮城博幸，山崎聡子，大塚弘毅，大西宏明，渡邊卓：健康人における新型コロナウィルスワクチン接種後の抗体価の推移および各種要因との関連。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。
11. 嶋森直子，岸野智則，森井健司，萬昂士，山崎聡子，大塚弘毅，関口久美子，柴原純二，大西宏明，渡邊卓：悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)の2例 超音波画像所見の考察。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。2021年11月12日-12月24日。
12. 大塚弘毅，菅田慎一，松島早月，山崎聡子，岸野智則，大西宏明，荏田香苗，渡邊卓：RAD50機能喪失変異による発癌性を検証するメダカ発癌実験。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。2021年11月12日-12月24日。
13. 本山拓也，宮城博幸，関口久美子，大西宏明，渡邊卓：全自動薬物分析装置を用いたLC/MS/MSによる薬物スクリーニング法の検討。第68回日本臨床検査医学会学術集会。富山・オンライン。2021年11月12日-12月24日。
14. 松浦幸子，小山田崇，宮城博幸，関口久美子，山崎聡子，大西宏明：健康人における新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価の推移および各種要因との関連。第10回杏林メディカルフォーラム。オンライン。2021年11月27日-12月24日。
15. 麻生喜祥，大塚弘毅，小島洋平，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，鈴木裕，大野亜希子，久松理一，阪本良弘，柴原純二，大西宏明，阿部展次：病期分類別にみた十二指腸腺癌におけるマイクロサテライト不安定性の検討。第113回日本消化器内視鏡学会関東支部例会。オンライン。2021年12月5日。
16. 須藤由美子，米山正芳，櫻井美智恵，加藤欣一，宮城博幸，関口久美子，大西宏明：尿中有形成分分析装置Atellica UAS800の性能評価。第57回関甲信支部・首都圏支部医学検査学会。
17. 木崎直人，吉澤美枝，加藤里絵，中富浩文，大西宏明：聴神経腫瘍(前庭神経鞘腫)摘出手術における顔面神経根誘発筋活動電位(FREMAP)と蝸牛神経背側核活動電位(DNAP)を用いた神経モニタリング。第51回日本臨床神経生理学学会学術大会。仙台。2021年12月16日。
18. 佐々木重嘉，小野田凌，清矢陽右，齊藤邦昭，小林啓一，中富浩文，塩川芳昭，大西宏明，高山信之，永根基雄：多科合同チームによる再発・難治性中枢神経系悪性リンパ腫に対する大量化学療法の試み。第59回日本癌治療学会学術集会。横浜・オンライン。2021年10月23日。
19. 鈴木美音，高木愛美，堀口彩花，平尾千尋，本間慎太郎，奥山貴洋，井田陽子，米谷正太，荒木光二，関口久美子，大西 宏明：Purpureocillium lilacinumによる角膜真菌症の一例。第33回日本臨床微生物学会学術集会。仙台・オンライン。2022年1月28日。

論 文

1. Sakuraba A¹, Nemoto N¹, Hibi N¹, Ozaki R¹, Tokunaga S¹, Kikuchi O¹, Minowa S¹, Mutsui T¹, Miura M¹, Saito D¹, Hayashida M¹, Miyoshi J¹, Matsuura M¹, Yoneyama M², Ohnishi H, Hisamatsu T¹ (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, ²Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital): Extent of disease affects the usefulness of fecal biomarkers in ulcerative colitis. BMC Gastroenterol. 21 (1). 197. 2021.
2. 大西宏明：【臨床検査の考え方と進め方】(第1章)

総論 検体採取と取り扱い 血液. Medical Practice. 38. 8-10. 2021.

3. 大西宏明：【臨床検査を使いこなす】(第1章)総論 正しい検体採取・取り扱いの重要性. 日本医師会雑誌. 150. S26-S29. 2021.
4. 大西宏明：臨床検査Q&A 乳がん術後の患側から採血できないのはなぜですか？ Medical Technology. 49 (7). 790-791. 2021.
5. 大塚弘毅, 大西宏明：いま知っておきたい最新の臨床検査 身近な疾患を先端技術で診断(Vol.13) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査. 医学のあゆみ. 278 (4). 307-315. 2021.
6. 大西宏明：臨床応用に向かう疾患メタボロミクスの最前線 アミノインデックスの開発例から見た、臨床を見据えたメタボロミクス研究に求められる分析前条件. 日本臨床検査医学会誌. 69 (10). 786-791. 2021.
7. 大西宏明：採血時の問題点とその予防. 人間ドック. 36 (2). 217. 2021.
8. Yonetani S¹, Hirao C², Ohnishi H¹(¹Department of Medical Technology faculty of Health Sciences, ²Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital): Background of patients with Aerococcus spp. detected in blood cultures, and drug sensitivity of Aerococcus spp. Diagn Microbilo Infect Dis. 101 (3). 2021.
9. Okuyama T¹, Ohtsuka K, Ogura W¹, Yonetani S², Yamasaki S, Miyagi H¹, Sekiguchi K¹, Ohnishi H, Watanabe T(¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, ²Department of Medical Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Establishing an internal quality control method for the stable extraction of nucleic acids of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 and RT-PCR-based detection. J Clin Lab Anal. 35 (11). 2021.
10. 井田陽子¹, 荒木光二¹, 米谷正太², 奥山貴洋¹, 高木愛美¹, 平尾千尋¹, 本間慎太郎¹, 小倉航¹, 鈴木美音¹, 伊藤彩花¹, 堀口彩花¹, 関口久美子¹, 大西宏明 (¹杏林大学医学部付属病院 臨床検査部, ²保健学部臨床検査技術学科): 血液培養から *Desulfovibrio*属が分離された8症例. 日本臨床微生物学会雑誌. 32 (1). 38-43. 2021.
11. 吉田博¹, 大西 宏明 (¹東京慈恵会医科大学): 臨床検査点数委員会活動と2020診療報酬改定 臨床検査のガイドラインとあるべき臨床検査室. 日本臨床検査医学会誌. 69 (12). 951-953. 2021.
12. Nakao H¹, Kashiwakura C¹, Shibasaki S¹, Harashima K¹, Nakajima S¹, Ohnishi H, Watanabe T, Kishino T¹(¹Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Possible effects of short rest after lunch on hemodynamics in the afternoon. Eur J Appl Physiol. 122 (2). 523-530. 2022.
13. Ida Y¹, Okuyama T¹, Araki K¹, Sekiguchi K¹, Watanabe T, Ohnishi H (¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital): First description of *Lachnoanaerobaculum orale* as a possible cause of human bacteremia. Anaerobe. 73. 102506. 2022.

講演

1. 長谷川浩：みんなでささえる認知症. 佼成病院認知症研修会. 東京. 2021年4月20日.
2. 倉井大輔, 名執真希子, 鄭日川, 山田万穂, 田村宏, 高橋洋：日本の65歳以上の成人におけるRSウイルス感染症罹患率を推定する前向き疫学研究. 第95回日本感染症学会学術講演会 第69回日本化学療法学会総会 合同学会. 横浜・オンライン. 2021年5月7日-9日.
3. 嶋崎鉄兵：壊死性軟部組織感染症(感染症学の観点から). AAA Case Study Club 13th. オンライン. 2021年6月3日.
4. Noritaka Hata, Rina Suzuki, Kazukuni Hirabuki, Takahiro Uechi, Ai Hirasawa, Takeaki Matsuda, Shigeki Shibata: Cardiac function during long-term aerobic exercise in healthy adults evaluated with 3-dimensional echocardiography. American College of Sports Medicine 2021 Annual Meeting. USA・オンライン. June 1-5, 2021.
5. 倉井大輔：COVID-19環境下におけるCOPD診療. 小金井市医師会学術講演会. オンライン. 2021年6月25日.
6. 倉井大輔：COVID-19の現状と感染対策. 第68回多摩整形外科医会. オンライン. 2021年9月4日.
7. 徳永健吾, 井田陽介, 三好佐和子, 山本実, 岡本晋：ピロリ陰性時代における*Helicobacter suis*感染症の人間ドックでの位置付け. 第62回日本人間ドック学会学術大会. オンライン. 2021年9月10日-24日.
8. 徳永健吾：Beyond ピロリ菌～スuis菌(*Helicobacter suis*)の時代は到来するか?～. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会ランチョンセミナー. オンライン. 2021年9月24日.
9. 林原絵美子, 鈴木仁人, 徳永健吾, 間部克裕, 南條宗八, 松井英則, 青木沙恵, 森茂太郎, 大野耕一, 柴山恵吾, 見理剛：*Helicobacter suis*などの*Non-Helicobacter pylori Helicobacter*の細菌学的特徴およびゲノム比較. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24日.
10. 鈴木仁人, 林原絵美子, 松井英則, 徳永健吾, 柴山恵吾：*Helicobacter suis*胃粘膜感染と病態発症. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24日.
11. 沖本忠義, 安藤貴志, 小林寅詔, 佐々木誠人, 珍田大輔, 徳永健吾, 中島滋美, 村上和成, 大崎敬子：わが国における薬剤耐性*Helicobacter pylori*の現状-2018～2020年度耐性菌サーベイランスの集計報告-. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24日.
12. 佐々木仁, 川上浩平, 森英毅, 佐野正弥, 嶋田裕慈, 正岡建洋, 浅岡大介, 徳永健吾, 荒川廣志, 水野滋章, 栗原直人, 鈴木雅之, 永原章仁, 小俣富美雄, 河合隆, 伊藤慎芳, 川村洋, 榊信廣, 高橋信一(東京HP研究会)：多施設共同調査による*Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率の経年変化. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24日.
13. 倉井大輔：COVID-19の治療の現状とワクチン接種の影響. 三鷹市医師会学術講演会. オンライン. 2021年9月24日.
14. 徳永健吾, 加藤はる, 根井貴仁, 木下善詞, 平木将

- 之, 三好佐和子, 井田陽介, 岡本晋, 大野亜希子, 米澤英雄, 三好潤, 久松理一, 大崎敬子: *H. pylori* 感染除菌のための対策と課題 *Helicobacter pylori* 除菌治療による劇症 *Clostridioides difficile* 感染症. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24日-26日.
15. 倉井大輔: 新型コロナウイルス感染症の今後の動向、対面授業時における注意点について. 杏林大学FD・SD講演会. 三鷹市. 2021年10月27日.
 16. 嶋崎鉄兵: EBMと病理生理で考える新型コロナウイルス感染症治療. 第10回日本プライマリ・ケア連合学会・関東甲信越ブロック地方会. オンライン. 2021年10月31日.
 17. 倉井大輔: 糖尿病患者の感染症. 第7回西東京糖尿病と感染症フォーラム. オンライン. 2021年11月4日.
 18. 倉井大輔: 新型コロナウイルス感染症流行下でのインフルエンザ診療. 行田市医師会学術講演会. オンライン. 2021年11月10日.
 19. 倉井大輔: 新型コロナウイルスの現状について. 杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム. オンライン. 2021年11月18日.
 20. 木村彬, 平岡修, 池脇宏嗣, 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 井坂葵, 吉本恵理, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 救急受診した失神患者に対する脳血管機能評価の有効性についての検討. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2021年11月21日.
 21. 平岡修, 木村彬, 池脇宏嗣, 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 井坂葵, 吉本恵理, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 救急外来における末梢性めまいの性状および再診に関する検討. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2021年11月21日.
 22. 畑典孝, 柴田茂貴, 平岡修, 木村彬, 平吹一訓, 須田智也, 長谷川浩, 松田剛明: 長時間運動中における酸化ストレスの変化に関する報告. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2021年11月22日.
 23. 嶋崎鉄兵: 抗生剤の基本的な使用方法について. AAA Case Study Club 19th. オンライン. 2021年12月2日.
 24. 長谷川浩: 認知症について. 武蔵野市介護保険研修会. 武蔵野市. 2021年12月8日.
 25. 嶋崎鉄兵: 糖尿病と足の感染. 第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会. 横浜・オンライン. 2021年12月10日.
 26. 嶋崎鉄兵: 感染症治療における抗菌薬の選択. 東京都病院薬剤師会 基本を学ぼう! 感染制御と感染症治療. 東京・オンライン. 2022年2月5日.
 27. 三好潤, 前田翼, 松岡克善, 齋藤大祐, 三好佐和子, 松浦稔, 岡本晋, 田村哲嗣, 久松理一: 炎症性消化管疾患の最前線 IBD治療と外科・内科のコラボレーション 潰瘍性大腸炎患者におけるベドリズムによる臨床的寛解達成の予測 投与開始時臨床データを用いた機械学習の有用性. 第18回日本消化管学会総会学術集会. 東京・オンライン. 2022年2月12日.
 28. 徳永健吾, 林原絵美子, 鈴木仁人, 柴山恵吾, 松井英則: *H. pylori*と胃がん以外の疾患 ここまで解明された—*Helicobacter suis*を中心に—. 第94回日本胃癌学会総会. 横浜・オンライン. 2022年3月4日.
 29. Aoi Isaka, Konomi Sakata, Junnosuke Ito, Tomoko Nishi, Mayumi Fukushima, Toshinori Minamishima, Ayumi Goda, Takashi Kohno, Kyoko Soejima: Evaluation of Left Ventricular Diastolic Dysfunction Using Diastolic Stress Echocardiography and Cardiopulmonary Exercise Testing in Patients with Heart Failure. 第86回日本循環器学会学術集会. オンライン. 2022年3月12日.
 30. 倉井大輔: オミクロン株流行下の医療機関の対応について. 三鷹市医師会学術講演会. オンライン. 2022年3月15日.
- ## 論文
1. Tokunaga K, Suzuki C¹, Hasegawa M¹, Fujimori I¹ : (¹Japan Medical Office, Takeda Pharmaceutical Company Limited) : Cost Analysis in *Helicobacter pylori* Eradication Therapy Based on a Database of Health Insurance Claims in Japan. Clinicoecon Outcomes Res. 13. 241-250. 2021.
 2. Miyoshi J¹, Maeda T², Matsuoka K³, Saito D¹, Miyoshi S, Matsuura M¹, Okamoto S, Tamura S², Hisamatsu T¹ (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University, ²Gifu University, ³Toho University Sakura Medical Center): Machine learning using clinical data at baseline predicts the efficacy of vedolizumab at week 22 in patients with ulcerative colitis. Sci Rep. 11(1). 16440. 2021.
 3. Miyoshi J^{1,2#}, Miyoshi S^{1#}, Delmont TO^{1,3}, Cham C¹, Lee STM^{1,4}, Sakatani A¹, Yang K¹, Shan Y¹, Kennedy M¹, Kiefl E¹, Yousef M¹, Crosson S⁵, Sogin M¹, Antonopoulos DA⁶, Eren AM¹, Leone V^{1,7}, Chang EB¹ (¹The University of Chicago, ²Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University, ³Université Evry, Université Paris-Saclay, ⁴Kansas State University, ⁵Michigan State University, ⁶Argonne National Laboratory, ⁷University of Wisconsin-Madison) (#Contributed equally): Early-Life Microbial Reconstitution Reduces Colitis Risk Promoted by Antibiotic-Induced Gut Dysbiosis in Interleukin 10-/- Mice. Gastroenterology. 161(3). 940-952. 2021.
 4. Sano A, Nishi Y¹, Yonetani S², Yoshida H³, Kawai H³, Homma S⁴, Araki K⁴, Ida Y⁴, Makino H⁴, Kurai D, Kawai S (¹Division of Medical Security and Patient Safety, Infection Control Room, Kyorin University Hospital, ²Faculty of Health Sciences, Kyorin University, ³Department of Pharmacy, Kyorin University Hospital, ⁴Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital) : Clinical Surveillance of Candidemia at Our Hospital. Med Mycol J. 62(2). 29-34. 2021.
 5. Miyagawa-Kanno H¹, Fukuyama M¹, Saito M¹, Kurai D, Ohyama M¹ (¹Department of Dermatology, Kyorin University School of Medicine) : Perianal amebiasis cutis masked by giant condyloma acuminatum in a HIV-seropositive patient. J Dermatol. 48(7). e333-e334. 2021.
 6. Nakamoto K¹, Saraya T¹, Ishikawa N¹, Mikura S¹, Yoshida Y¹, Fukukawa N², Taneoka T², Shimasaki T, Kurai D, Ishii H¹ (¹Department of

- Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Infection Control, Kyorin University School of Medicine): Efficacy and Safety of Weekly Ultraviolet Germicidal Irradiation for the Reuse of N95 Filtering Respirators. *Cureus*. 13(9). e18233. 2021.
7. Kurai D, Natori M¹, Yamada M¹, Zheng R¹, Saito Y¹, Takahashi H² (¹Research and Development Division, Janssen Pharmaceutical K. K, ²Saka General Hospital): Occurrence and disease burden of respiratory syncytial virus and other respiratory pathogens in adults aged ≥65 years in community: A prospective cohort study in Japan. *Influenza Other Respir Viruses*. 16(2). 298-307. 2022.
 8. 尾崎良¹, 齋藤大祐¹, 大津晃康, 徳永創太郎¹, 箕輪慎太郎¹, 嶋崎鉄兵, 三浦みき¹, 櫻庭彰人¹, 林田真理¹, 三好潤¹, 松浦稔¹, 倉井大輔 (¹杏林大・医・消化器内科学): 保存の治療で救命し得た高齢者の劇症型Aメーバ大腸炎の1例. 杏林医学会雑誌. 52巻4号. 177-182. 2021.
 9. 畑典孝, 柴田茂貴¹, 平岡修, 木村彬, 平吹一訓, 須田智也, 長谷川浩, 松田剛明² (¹杏林大・保健・理学療法学, ²杏林大・医・救急医学): 長時間運動中における酸化ストレスの変化に関する報告. 日本救急医学会雑誌. Volume32, Issue12. 2383. 2021.
 10. 木村彬, 平岡修, 池脇宏嗣, 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 井坂葵, 吉本恵理, 柴田茂貴¹, 長谷川浩, 松田剛明² (¹杏林大・保健・理学療法学, ²杏林大・医・救急医学): 救急受診した失神患者に対する脳血管機能評価の有効性についての検討. 日本救急医学会雑誌. Volume32, Issue12. 1411. 2021.
 11. 平岡修, 木村彬, 池脇宏嗣, 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 井坂葵, 吉本恵理, 柴田茂貴¹, 長谷川浩, 松田剛明² (¹杏林大・保健・理学療法学, ²杏林大・医・救急医学): 救急外来における末梢性めまいの性状および再診に関する検討. 日本救急医学会雑誌. Volume32, Issue12. 1401. 2021.
 12. 須田智也, 花輪智子¹, 海田賢彦², 長谷川浩, 山口芳裕², 松田剛明² (¹杏林大・医・感染症学, ²杏林大・医・救急医学): 脆弱性恥骨骨折後に生じた化膿性恥骨骨髓炎および左大腿内転筋膿瘍から敗血症性ショックに至った1例. 日本救急医学会雑誌. Volume32, Issue7. 357-363. 2021.
 13. 吉敷智和¹, 正木忠彦¹, 小嶋幸一郎¹, 若松喬¹, 麻生喜祥¹, 飯岡愛子¹, 石井俊¹, 磯部聡史¹, 森俊幸¹, 阪本良弘¹, 阿部展次¹, 萬知子², 長谷川浩, 須並英二¹ (¹杏林大・医・消化器・一般外科学, ²杏林大・医・麻酔科学): 高齢者は術後に何を失い、どこまで改善するのか?. 日本外科学会雑誌. 第121巻. ROMBUNNO.SF-092-4. 2021.
 14. 金翔哲¹, 吉敷智和¹, 小嶋幸一郎¹, 麻生喜祥¹, 飯岡愛子¹, 若松喬¹, 片岡功¹, 森俊幸¹, 阪本良弘¹, 阿部展次¹, 萬知子², 長谷川浩, 正木忠彦¹, 須並英二¹ (¹杏林大・医・消化器・一般外科学, ²杏林大・医・麻酔科学): 外科手術患者におけるロコモ・サルコペニア・フレイルの意義とその対策. 高齢者は周術期前後でフレイル関連因子の何が変化するのか?. 日本外科系連合学会誌. 第46巻3号. 330. 2021.
 15. Satoshi Higuchi, Shigeki Shibata, Hiroshi Hasegawa, Takeaki Matsuda¹ (¹Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University): Reply to the letter to the editor: "Clinical impact of red blood cell transfusion on adverse clinical events in acute heart failure patients with anemia". *Int J Cardiol*. 332. 142. 2021.
 16. Yokota K¹, Osaki T², Hayashi S³, Yokota S⁴, Takeuchi H⁵, Rimbara E⁶, Ojima H¹, Sato T⁴, Yonezawa H², Shibayama K⁷, Tokunaga K, Kamiya S², Murakami K⁸, Kato M⁹, Sugiyama T¹⁰ (¹Okayama University, ²Department of Infectious Diseases, Kyorin University, ³Kitasato University, ⁴Sapporo Medical University, ⁵International University of Health and Welfare Graduate School, ⁶National Institute of Infectious Diseases, ⁷Nagoya University Graduate School of Medicine, ⁸Oita University, ⁹National Hospital Organization National Hakodate Hospital, ¹⁰Hokkaido University Hospital): Establishment of a reference panel of *Helicobacter pylori* strains for antimicrobial susceptibility testing. *Helicobacter*. 2022. Epub.
 17. 大崎敬子¹, 菅原大介², 大野亜希子³, 楠原光謹³, 蔵田訓⁴, 米澤英雄¹, 徳永健吾 (¹杏林大・医・感染症学, ²杏林大・医・顕微解剖学, ³杏林大・医・消化器内科学, ⁴杏林大・保・臨床検査技術学科): 胃癌予防をめざした胃内細菌叢の研究. 杏林医学会誌. 53(1). S1-4. 2022.
 18. Shirai T¹, Sada M², Saraya T¹, Kurai D, Sunagawa S², Ishii H¹, Kimura H² (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Gunma Paz University Graduate School): Detailed Analyses of Molecular Interactions between Favipiravir and RNA Viruses In Silico. *Viruses*. 14(2). 338. 2022.
 19. Arikawa S¹, Fukuoka K¹, Nakamoto K², Kunitomo R¹, Matsuno Y¹, Shimazaki T, Saraya T², Kawakami T¹, Kishimoto M¹, Komagata Y¹, Kurai D, Ishi H², Kaname S¹ (¹Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Effectiveness of neutralizing antibody cocktail in hemodialysis patients: a case series of 20 patients treated with or without REGN-COV2. *Clin Exp Nephrol*. 26(5). 476-485. 2022.
- ## 著 書
1. 長谷川浩 (分担執筆): 疾患と検査15. 高齢者疾患認知症 (アルツハイマー型認知症、(脳)血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症). 臨床検査データブック2021-2022. 黒川清, 春日雅人, 北村聖 編集, 大西宏明 編集協力. 医学書院. 2021. 965.
 2. 長谷川浩 (分担執筆): 疾患と検査15. 高齢者疾患サルコペニア/ロコモティブシンドローム/フレイル. 臨床検査データブック2021-2022. 黒川清, 春日雅人, 北村聖 編集, 大西宏明 編集協力. 医学書院. 2021. 966.
 3. 倉井大輔 (分担執筆): 特集 新型コロナウイルス感染症の最新動向 4 新型コロナウイルス感染症の最新治療. 感染制御と予防衛生Vol.5 No.2. メディカルレビュー社. 2021. 22(74)-30(82).
 4. 嶋崎鉄兵 (分担執筆): Part2病棟での業務の実践 8. 病棟でのサインアウト 標準化されたツールを土台に, いかにダイアログを行うかが重要.

Hospitalist(ホスピタリスト) Vol.8 No.4 2020. 小坂 鎮太郎, 濱田 治, 筒泉 貴彦 編集. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2021. 683-688.

報告書

1. 長谷川 浩: 動的・静的脳画像、心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発. 学術研究助成基金助成金(科学研究費助成事業). 2021年度 研究代表者実施状況報告書

その他

1. 倉井大輔: 学術講演会 COVID-19の治療の現状とワクチン接種の影響. 三鷹 聖人往来. 第44巻1号. 9-18. 2022年1月1日.
2. 三好佐和子: 人間ドック受診者における口腔内・腸内微生物叢を用いた生活習慣病の新規バイオマーカーの探索. 杏林大学医学部2021年度若手支援研究費助成金 取得.

リハビリテーション医学教室

講演

1. 山田 深: 重力と身体構造～宇宙医学とリハビリテーションの観点から～. 西多摩整形外科フォーラム. 立川. 2021年4月15日.
2. 山田 深: 宇宙に生きる～生活と環境の視点から～. World Urban Parks Japan設立5周年記念国際シンポジウム「新たな暮らしを豊かにするオープンスペース」. オンライン. 2021年5月19日.
3. 山田 深: 急性期脳卒中リハビリテーション治療. 第58回日本リハビリテーション医学会学術集会. 京都. 2021年6月12日.
4. 山田 深: 21世紀における宇宙での運動とリハビリテーション. 第12回月惑星に社会を作るための勉強会. オンライン. 2021年6月29日.
5. 岡島 康友: 教育研修講演-脳血管障害リハビリテーション. 日本慢性期医療協会. 第9回医師のための総合リハビリテーション講座. オンライン. 2021年8月8日.
6. 森光代, 田代 祥一, 橋本 眞慧, 石田 幸平, 山田 深: 脳卒中Pucher現象に対する腹臥位療法の効果. 第55回日本作業療法学会. オンライン. 2021年9月10日.
7. 若林 俊夫, 山田 深, 田代 祥一, 道廣 岳, 稲田 成作, 細金 直文: 交通外傷による骨折を伴わない開放性前脛骨筋部分断裂に対して, 縫合術を施行した症例の術後理学療法介入報告. 第70回東日本整形災害外科学会. オンライン. 2021年9月17日.
8. 森井 健司, 田島 崇, 宇高 徹, 佐野 秀仁, 高橋 雅人, 山田 深, 江原 威, 戸成 綾子, 須山 淳平, 鎮西 美栄子, 池田 哲也, 細金 直文: 転移性骨腫瘍に対する治療戦略 当院における骨転移診療支援チームの初期診療実績. 第70回東日本整形災害外科学会. オンライン. 2021年9月17日.
9. 山田 深: 宇宙×リハビリテーションー重力環境からみる人間の活動ー. 2021年度日本理学療法学生協会中部支部大会. オンライン. 2021年9月26日.
10. Mukaino M, Yamada S, Oikawa E, Izumi S: Development of a Clinical Data Collection Tool for Chapter V of ICD-11 and Cross-sectional Functioning Survey of Patients in Japanese Rehabilitation Wards. WHO-family of International Classifications Network Annual Meeting 2021. Online. October 18-22, 2021.

11. 山田 深: 宇宙での暮らし. 中央区環境情報センター こどもの宇宙環境講座. 東京. 2021年11月3日.
12. 向野 雅彦, 山田 深, 出江 紳一: ICFに基づく生活機能評価の臨床導入に向けて. 第41回医療情報学連合大会. 名古屋. 2021年11月18日.
13. 山田 深: 筋骨格系の課題と対策. 令和3年度宇宙基地医学研究会. オンライン. 2022年3月11日.
14. 橋本 眞慧, 池田 光代, 石田 幸平, 田代 祥一, 山田 深, 塩川 芳昭, 平野 照之: 脳卒中Pusher症状に対する腹臥位療法の効果. 第47回日本脳卒中学会学術集会. 大阪. オンライン. 2022年3月17-2022年5月31日

論文

1. 山田 深: 長期宇宙滞在における運動とリハビリテーション. Precision Medicine. 4(9). pp 824-827. 2021.
2. 山田 深: 脳卒中とは. OTジャーナル. 55(8). pp724-729. 2021.
3. Senju Y, Mukaino M, B.Prodinger, M.Selb, Okouchi Y, Mizutani K, Suzuki M, Yamada S, Izumi S, Sonoda S, Otaka Y, Saitoh E, G.Stucki: Development of a clinical tool for rating the body function categories of the ICF generic-30/rehabilitation set in Japanese rehabilitation practice and examination of its interrater reliability. BMC Medical Research Methodology. 21(1). 2021.
4. Hagio S, Ishihara A, Terada M, Tanabe H, Kibushi B, Higashibata A, Yamada S, Furukawa S, Mukai C, Ishioka N, Kouzaki M: Muscle synergies of multi-directional postural control in astronauts on Earth after a long-term stay in space. J Neurophysiol. 2022. DOI: 10.1152/jn.00232.2021. Online ahead of print.
5. Shibata T, Tashiro S, Shinozaki M, Hashimoto S, Matsumoto M, Nakamura M, Okano H, Nagoshi N: Treadmill training based on the overload principle promotes locomotor recovery in a mouse model of chronic spinal cord injury. Experimental Neurology. 345. 113834. 2021.
6. K. Stein, V. Mattioli, N. L. Stout, M. Stuiver, M. Quist, K. Schmitz, Transcription by: Tashiro S: JCR'S WEBINAR ON THE ROLE OF EXERCISE IN CANCER REHABILITATION. Japanese Transcription Journal of Cancer Rehabilitation. Vol.4 .page201-212. 2021.
7. Sawada T, Okawara H, Matsubayashi K, Sugai K, Kawakami M, Tashiro S, Nori S, Tsuji O, Nagoshi N, Matsumoto M, Nakamura M: Influence of body weight-supported treadmill training with voluntary-driven exoskeleton on the quality of life of persons with chronic spinal cord injury: a pilot study. Int J Rehabil Res. 44(4) .343-349 .2021.
8. Tashiro S, Tsuji O, Shinozaki M, Shibata T, Yoshida T, Tomioka Y, Unai K, Kondo T, Itakura G, Kobayashi Y, Yasuda A, Nori S, Fujiyoshi K, Nagoshi N, Kawakami M, Uemura O, Yamada S, Tsuji T, Okano H, Nakamura M: Current progress of rehabilitative strategies in stem cell therapy for spinal cord injury: a review. NPJ Regen Med. 6(1) . 81. 2021.
9. Yamada Y, Kawakami M, Tashiro S, Omori M,

Matsuura D, Abe R, Osada M, Tashima H, Shimomura T, Mori N, Wada A, Ishikawa A, Tsuji T: Rehabilitation in Acute COVID-19 Patients: A Japanese Retrospective, Observational, Multi-Institutional Survey. Arch Phys Med Rehabil. 2021. DOI: 10.1016/j.apmr.2021.11.004.

10. Tobita K, Goda A, Nishida Y, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T, Yamada S, Soejima K, Satoh T: Factors contributing to exercise capacity in chronic thromboembolic pulmonary hypertension with near-normal hemodynamics. J. Heart Lung Transplant. 40 (7). 677-686. 2021.
11. Tashiro S, Nakamura M, Okano H: Regenerative Rehabilitation and Stem Cell Therapy Targeting Chronic Spinal Cord Injury: A Review of Preclinical Studies. Cells. 2022.11(4). 685. 2022.
12. 田代祥一: 脳機能修飾を目指した非侵襲的脳刺激法. 杏林医学会雑誌. 52巻4号. 211-216. 2021.
13. Matsuda K, Teruya K, Uemura O: Urodynamic effect of vibegron on neurogenic lower urinary tract dysfunction in individuals with spinal cord injury: A retrospective study. Spinal Cord. 2022. DOI: 10.1038/s41393-022-00766-1. Epub ahead of print.

その他

1. 田代祥一: 介護保険制度と高齢者のリハビリテーション. 2021年度柔道整復師専科教員認定講習会. オンライン. 2021年7月17日.
2. 田代祥一: リハビリテーションの対象と高齢者の実態. 柔道整復師専科教員認定講習会. オンライン. 2021年7月17日.
3. 田代祥一: リハビリテーション治療学. バイオフィードバック・痛みの治療. 柔道整復師専科教員認定講習会. オンライン. 2021年7月31日.
4. 田代祥一: 介護保険制度と高齢者のリハビリテーション. 柔道整復師専科教員認定講習会. オンライン. 2021年7月31日.
5. 山田深: NHKきょうの健康. 進化するリハビリテーション. 脳卒中リハビリ. 2021年8月18日.
6. 山田深: 月・惑星社会でのフィットネス. 月・惑星社会. 医学・ライフ分野検討グループ意見交換会. オンライン. 2021年8月17日.
7. 山田深: 宇宙医学とリハビリテーション. 産業医科大学大学院講義. オンライン. 2021年10月25日.
8. 田代祥一: リハビリテーション医学総論. 2021年度フランスベッド財団福祉用具専門相談員指定講習会. オンライン. 2021年11月13日.
9. 山田深: 宇宙飛行とリハビリテーション. 2021年度京都大学有人宇宙医学講義. オンライン. 2021年11月17日.

脳卒中医学教室

講演

【国際学会】

1. Kawano H, Hirano T, Inoue M, Fukuda-Doi M, Iwasaki K, Omae K, Yamamoto H, Koga M, Sakai N, Nagao T, Sasaki M, Hayakawa N, Toyoda K,

T-FLAVOR investigators: Tenecteplase versus alteplase for large vessel occlusion recanalization (T-FLAVOR): Trial protocol. International Stroke Conference 2022. USA. Online. February 10 th. 2022.

【国内学会】

1. 平野照之: 脳主幹動脈閉塞急性期の再灌流療法決定における画像解析ソフト. 第44回日本脳神経CI学会総会. 札幌・オンライン. 2021年4月9日.
2. 平野照之: 塞栓源不明脳塞栓症の最新治療戦略. 第8回日本心臓血管脳卒中学会. 大阪・オンライン. 2021年4月17日.
3. 本田有子, 河野浩之, 藤田沙由里, 小柳正道, 天野達雄, 海野佳子, 平野照之: 頸部回旋と嚥下動作を組み合わせた動的CT撮影により診断した無症候性舌骨関連内頸動脈病変の一例. 第8回日本心臓血管脳卒中学会学術集会. 吹田・オンライン. 2021年4月17日.
4. 平野照之: COVID-19が脳卒中診療に及ぼす影響. 第30回脳神経外科手術と機器学会. オンライン. 2021年4月23日.
5. 平野照之: 登録事業と研究の促進. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月20日.
6. 海野佳子: Will new medications for acute treatment of migraine exceed triptans?. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月20日.
7. 河野浩之: ESUSの原因～卵円孔開存の位置づけ～. 第62回日本神経学会学術集会. 京都・オンライン. 2021年5月21日.
8. 平野照之: 新規血栓溶解薬の導入. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月22日.
9. 岡崎太一, 中西郁, 天野達雄, 萬昂士, 河野浩之, 海野佳子, 柴原純二, 平野照之: 回収された腫瘍細胞が契機となり診断に至った腫瘍塞栓症の一例. 第75回三鷹ニューロ研究会. オンライン. 2021年6月3日.
10. 岡崎太一, 中西郁, 天野達雄, 萬昂士, 河野浩之, 海野佳子, 柴原純二, 平野照之: 回収された腫瘍細胞が契機となり診断に至った腫瘍塞栓症の一例. 第237回日本神経学会関東・甲信越地方会. オンライン. 2021年6月5日.
11. 平野照之: TARGET:STROKE 脳卒中治療におけるDoor-to-Device Timeの短縮. 第40回日本脳神経超音波学会総会・第24回日本栓子検出と治療学会. オンライン. 2021年6月4日.
12. 平野照之: COVID-19における血栓形成機序の基礎的解説. 第40回日本脳神経超音波学会総会・第24回日本栓子検出と治療学会. オンライン. 2021年6月4日.
13. 河野浩之: 脳卒中と癌の今. 第40回日本脳神経超音波学会総会. オンライン. 2021年6月5日.
14. 平野照之: 日本脳卒中学会版Protected Code Stroke(JSS-PCS)とその運用の実際. 第35回日本神経救急学会学術集会. 東京・オンライン. 2021年6月19日.
15. 齋藤幹人, 河野浩之, 天野達雄, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: CT perfusionは急性期脳梗塞に対する血管再開通療法に要する時間を短縮する. 第35回日本神経救急学会学術集会. オンライン. 2021年6月19日.

16. 河野浩之, 平野照之, 塩川芳昭: がん脳卒中. 第30回日本脳ドック学会総会. 伊勢・オンライン. 2021年6月26日.
 17. 平野照之: 塞栓源探しの旅. 第39回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 仙台・オンライン. 2021年8月28日.
 18. 河野浩之: CT灌流画像を活用した急性期脳梗塞治療. 第30回日本脳神経血管内治療学会中国四国地方会. 岡山・オンライン. 2021年9月25日.
 19. 平野照之: COVID-19に脳卒中を発症した患者の臨床的特徴. 日本脳神経外科学会第80回学術総会. 横浜・オンライン. 2021年10月27日.
 20. 川竹彩音, 河野浩之, 丸岡響, 天野達雄, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: DOAC内服下のCapsular warning syndromeに抗血小板薬が有効であった1例. 第39回日本脳神経治療学会学術集会. オンライン. 2021年10月28日.
 21. 河野浩之: Stroke Oncologyの現状. 第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 名古屋・オンライン. 2021年11月13日.
 22. 海野佳子: 今さら聞けない!? 頭痛の問診と説明～短時間の外来で, どう聞き出しどう伝えるのか～ Ask Now!? Common knowledge to help improve your history taking and explanation skills in headache medicine. 第49回日本頭痛学会総会. 静岡・オンライン. 2021年11月21日.
 23. 天野達雄: 血栓回収療法アップデート～文献レビュー～. 第37回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 福岡・オンライン. 2021年11月26日.
 24. 平野照之: Stroke Oncologyの展望. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都・オンライン. 2022年2月17日.
 25. 河野浩之: SARS-CoV-2ワクチンと血小板減少症を伴う血栓性, 脳静脈血栓症. 第16回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム. オンライン. 2022年2月19日.
 26. 天野達雄: CT灌流画像をフル活用した血栓回収療法. 第51回日本神経放射線学会. 東京・オンライン. 2022年2月19日.
 27. 岡田樹, 安達卓哉, 齋藤駿, 中西章仁, 五明美穂, 河野浩之, 平野照之: ベイズ推定法を用いたCT perfusionにおけるラクナ梗塞の検出精度の検討. STROKE2022. 大阪・オンライン. 2022年3月17日-20日.
 28. 河野浩之, 平野照之, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 藤本茂, 塩川芳昭: Stroke Oncology, 第2次アンケートにみる現状. STROKE2022. 大阪・オンライン. 2022年3月17日.
 29. 塩川芳昭, 河野浩之, 平野照之, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 藤本茂: Stroke Oncology提唱の背景: がん脳卒中の併発例に対する領域横断的なコンセンサス形成の必要性. STROKE2022. 大阪・オンライン. 2022年3月17日.
 30. 橋本眞慧, 池田光代, 石田幸平, 田代祥一, 山田深, 塩川芳昭, 平野照之: 脳卒中Pusher症状に対する腹臥位療法の効果. STROKE2022. 大阪・オンライン. 2022年3月17日-5月31日.
- 【講演会・研究会】
1. 平野照之: Time Every Brain during Covid-19 pandemic. Stroke Seminar. 京都・オンライン. 2021年4月8日.
 2. 平野照之: Time Every Brain: 脳梗塞治療の最新の考え方. 第8回Brain & Heart Attack Conference. 大阪・オンライン. 2021年4月10日.
 3. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web講演会. オンライン. 2021年4月22日.
 4. 平野照之: COVID-19禍の脳卒中对応で学んだこと. Tokyo Cerebrovascular Seminar 2021. 東京・オンライン. 2021年4月23日.
 5. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web Seminar. オンライン. 2021年5月12日.
 6. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛診療アップデートWeb Seminar. オンライン. 2021年5月13日.
 7. 平野照之: 心房細動と脳卒中. 第2回Metropolitan Heart & Brain Conference. 東京・オンライン. 2021年5月14日.
 8. 平野照之: 脳卒中の連携医療2021. 札幌ストロークセミナー. 札幌・オンライン. 2021年5月25日.
 9. 平野照之: Time Every Brain. 尾張東部Strokeカンファレンス. 名古屋・オンライン. 2021年5月26日.
 10. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web Seminar. オンライン. 2021年5月27日.
 11. 平野照之: コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について. ストップ! NO卒中第14回エリアエキスパート会議. 大阪・オンライン. 2021年5月29日.
 12. 海野佳子: 慢性化させない片頭痛治療とは. HMSJ 2021 Web: Headache Master School Japan 2021 Spring Seminar. オンライン. 2021年6月5日.
 13. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Up to Date. オンライン. 2021年6月15日.
 14. 海野佳子: 納得, 満足の片頭痛診療に必要なのは? ～コツとピットフォール～. 第9回神戸内科塾. オンライン. 2021年6月17日.
 15. 海野佳子: 急性期病院における脳卒中診療～急性期治療と再発予防について～. 脳卒中診療を考える会. 東京. 2021年6月24日.
 16. 平野照之: 高齢者の二次予防: 抗凝固療法の勘どころ. 脳卒中リハビリテーション講演会. 東京・オンライン. 2021年6月28日.
 17. 平野照之: Life goes on～人生100年時代の抗凝固療法について考える～. プラザキサ・プリズバインドWeb講演会. 東京・オンライン. 2021年7月7日.
 18. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web Seminar. オンライン. 2021年7月8日.
 19. 平野照之: 令和の脳卒中: 3つのゼロを目指して. Stroke Care Network Web Meeting. 大阪・オンライン. 2021年7月9日.
 20. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web Seminar. オンライン. 2021年7月9日.
 21. 平野照之: 脳卒中医はAFIREをどう解釈したか. Expert Meeting on Cardiology ～Road to NEJM～. 大阪・オンライン. 2021年7月11日.
 22. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療講演会on web～片頭痛治療のパラダイムシフト～. オンライン. 2021年7月15日.
 23. 海野佳子: 片頭痛治療の新たな可能性. 片頭痛治療Web Seminar. オンライン. 2021年7月19日.
 24. 海野佳子: 頭痛の診かた. 杏林頭痛懇談会. 東京. 2021年7月29日.

25. 海野佳子：片頭痛のお話。アムジェン株式会社社内勉強会。オンライン。2021年7月30日。
26. 天野達雄：脳出血 穿通動脈と微小動脈瘤～高血圧性脳出血について調べてみた～。第7回軽井沢脳血管内治療セミナー。軽井沢。2021年7月31日。
27. 海野佳子：脳梗塞治療の進歩と今後の展望。杏林大学医学部医学研究科共通講義。オンライン。2021年8月5日-11日。
28. 河野浩之：国内でのPFO閉鎖術のあゆみ。PFO Brain Conference。オンライン。2021年8月6日。
29. 平野照之：TARGET:STROKE。脳卒中診療～超急性期から再発予防まで～。東京・オンライン。2021年8月17日。
30. 河野浩之：Stroke Oncologyの現状と課題。Eliquisインターネット講演会。オンライン。2021年8月18日。
31. 河野浩之：COVID-19ワクチンと血小板減少症を伴う血栓症。第3回脳卒中ネットワーク。オンライン。2021年8月19日。
32. 天野達雄：Stryker血栓回収デバイスの活かし方。第2回日本脳神経内科血管内治療研究会学術集会。オンライン。2021年8月21日。
33. 海野佳子：片頭痛治療の新たな可能性。片頭痛治療連携講演会～片頭痛患者さんへの貢献～。オンライン。2021年8月26日。
34. 平野照之：脳卒中治療ガイドライン2021。イグザレトウェブカンファレンスThrombo-Embolism Management on AF/VTE。東京・オンライン。2021年8月30日。
35. 河野浩之：画像診断を極める。日本神経学会第4回特別教育研修会脳卒中コース。東京。2021年9月5日。
36. 天野達雄：脳出血と微小動脈瘤～シャルコー・ブシヤール動脈瘤～。第15回東京脳卒中の血管内治療セミナー。オンライン。2021年9月5日。
37. 平野照之：脳卒中治療update。New Normal for Stroke Web Conference。熊本・オンライン。2021年9月8日。
38. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。Stroke Care Meeting令和時代の脳卒中治療を考える。横浜・オンライン。2021年9月10日。
39. 天野達雄：脳梗塞診療アップデート。Brain Heartセミナー。立川。2021年9月10日。
40. 平野照之：東京都対策推進計画と私たちがやるべきこと。城南エリア脳卒中連携フォーラム。東京・オンライン。2021年9月14日。
41. 平野照之：脳卒中の地域連携医療：TREAT。第2回Wakayama脳卒中Seminar。和歌山・オンライン。2021年9月16日。
42. 平野照之：脳卒中治療update。天草都市医師会WEBセミナー～これからの脳卒中診療を考える～。熊本・オンライン。2021年9月21日。
43. 平野照之：Time Every Brain：杏林脳卒中センターの取り組み。新宿脳卒中カンファレンス。東京・オンライン。2021年9月27日。
44. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。脳疾患ケアネットワークミーティング～健康長寿を達成するための明日へのシナリオ～。京都・オンライン。2021年10月2日。
45. 海野佳子：服薬アドヒアランス。CONVERSATIONS in MOTION ワークショップ。オンライン。2021年10月3日。
46. 平野照之：GL2021で読み解く心原性脳塞栓症の予防。高齢者の心房細動治療セミナー。小樽・オンライン。2021年10月5日。
47. 海野佳子：片頭痛治療の新たな可能性。片頭痛治療Web Seminar。オンライン。2021年10月6日。
48. 平野照之：超高齢社会におけるPSCコア施設の役割。抗血栓シアター。東京・オンライン。2021年10月13日。
49. 海野佳子：片頭痛治療の新たな可能性。武蔵野市薬剤師会。オンライン。2021年10月14日。
50. 平野照之：Life goes on～人生100年時代の抗凝固療法について考える～。心房細動Web講演会。大分・オンライン。2021年10月15日。
51. 河野浩之：がん関連脳卒中について考える。心房細動Web講演会。オンライン。2021年10月15日。
52. 天野達雄：私の履歴書～脳卒中専門医・脳血管内治療専門医として～。Expert Meeting on Cerebral Circulation。オンライン。2021年10月15日。
53. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中プロジェクト in MIYAGI。仙台・オンライン。2021年10月18日。
54. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中プロジェクト支部講演会 in 徳島県。徳島・オンライン。2021年10月19日。
55. 天野達雄：末梢領域でのcombine～TronFX II 2-15の有用性～。AISデバイス戦国時代～私が考えるデバイス選択～。オンライン。2021年10月19日。
56. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in 岐阜。岐阜・オンライン。2021年10月20日。
57. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。第20回高知県脳神経外科研究会。オンライン。2021年10月22日。
58. 平野照之：Stroke Oncology Overview。Stroke Oncologyに関する社内研修会（第一三共）。東京・オンライン。2021年10月25日。
59. 海野佳子：ガイドラインに基づいた新しい片頭痛診療。片頭痛WEBセミナー。オンライン。2021年10月26日。
60. 天野達雄：心原性脳塞栓症アップデート～血栓回収療法から再発予防まで～。循環器Webセミナー。立川。2021年11月1日。
61. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in 福島2021。福島・オンライン。2021年11月2日。
62. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in 滋賀。滋賀・オンライン。2021年11月4日。
63. 天野達雄：血栓回収デバイスを最大限に活かす画像診断。Medtronic AIS Seminar 血栓回収療法～私の流儀～。鹿児島。2021年11月5日。
64. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ! NO卒中エリアWeb講演会2021 in Kyoto。京都・オンライン。2021年11月6日。
65. 河野浩之：治療方針に悩んだPFO関連脳梗塞の症例。第8回循環器疾患における診療連携を促進する会。オンライン。2021年11月6日。

66. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。ストップ！NO卒中プロジェクトエリア会議 in 熊本。熊本・オンライン。2021年11月8日。
67. 平野照之：コロナ禍での脳卒中医療連携/体制について。オホーツク脳卒中医療連携講演会。旭川・オンライン。2021年11月10日。
68. 海野佳子：慢性化させない頭痛治療とは。Headache Master School Japan 2021 Web Autumnal Seminar。東京・オンライン。2021年11月14日。
69. 平野照之：高齢AF患者における服薬管理のコツ。メディセオXRA Web講演会。東京・オンライン。2021年11月16日。
70. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。塩筑医師会学術研究会。松本・オンライン。2021年11月16日。
71. 海野佳子：頭痛の診かた～国際頭痛分類と頭痛診療ガイドライン2021。武蔵野市医師会講演。オンライン。2021年11月24日。
72. 海野佳子：最新の片頭痛治療。片頭痛診療を考える会。オンライン。2021年11月26日。
73. 平野照之：2021改訂からみる脳卒中治療の最新トレンド。脳卒中治療Up To Date。東京・オンライン。2021年11月29日。
74. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。阿蘇郡市医師会Web講演会～脳卒中ネットワーク～。阿蘇・オンライン。2021年11月30日。
75. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。New Normal for Stroke Web Conference Vol.2。熊本・オンライン。2021年12月1日。
76. 海野佳子：新しい片頭痛治療～抗CGRP関連薬剤にできること～。Migraine Free Web Seminar。オンライン。2021年12月2日。
77. 海野佳子：新しくなった片頭痛治療～頭痛の診療ガイドライン2021～。Migraine Free Seminar。オンライン。2021年12月2日。
78. 平野照之：脳梗塞の診断と治療：黒本から20年。第5回広小路脳卒中Meeting。京都・オンライン。2021年12月3日。
79. 平野照之：脳卒中のトータルマネジメント。Total Management of Stroke & Epilepsy Seminar。オンライン。2021年12月4日。
80. 平野照之：COVID-19と脳卒中。2021年度日本神経学会関東・甲信越地区生涯教育講演会。オンライン。2021年12月5日。
81. 天野達雄：今シーズン調べたこと～微小動脈瘤と末梢血管閉塞～。Chikugo Neuro Intervention Seminar。福岡。2021年12月5日。
82. 河野浩之：Stroke Oncologyの現状。Meet the Expert。がん脳卒中を考える。オンライン。2021年12月9日。
83. 平野照之：2021改訂にみる脳卒中診療update。栃木から世界の脳卒中を知る。宇都宮・オンライン。2021年12月10日。
84. 天野達雄：灌流CTを3年間使ってみて。第2回AIS CLOUD Meeting。オンライン。2021年12月15日。
85. 平野照之：LINQing AF detection and stroke prevention。Stop! Secondary Stroke Week。オンライン。2021年12月16日。
86. 海野佳子：片頭痛のお話。大塚製薬株式会社社内勉強会。オンライン。2021年12月23日。
87. 平野照之：令和の脳卒中：3つのゼロを目指して。脳卒中Webセミナーin新潟。新潟・オンライン。2022年1月14日。
88. 平野照之：心房細動と脳卒中。脳神経・循環器カンファランス。東京・オンライン。2022年1月18日。
89. 平野照之：脳卒中のトータルマネジメント。脳卒中とてんかんを考える会。東京・オンライン。2022年1月19日。
90. 平野照之：脳領域におけるプラスグレルの役割。Stroke Hot Topics @Web Seminar。東京・オンライン。2022年1月24日。
91. 平野照之：ポストコロナをみすえた脳卒中連携。北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会・令和3年度脳卒中地域連携診療計画合同委員会。東京・オンライン。2022年1月28日。
92. 平野照之：脳卒中診療のトピックス2022。イグザレト発売10周年記念講演会in山口。オンライン。2022年2月3日。
93. 平野照之：脳卒中の地域連携医療：TREAT。岐阜県脳卒中連携Webセミナー。岐阜・オンライン。2022年2月8日。
94. 海野佳子：「女性」を意識した片頭痛治療。MIGRAINE WEBセミナー。三鷹。2022年2月10日。
95. 平野照之：脳卒中サバイバーのレジリエンス。Stroke Care Network Meeting。東京・オンライン。2022年2月9日。
96. 平野照之：令和のキーワード：脳循法・PSC・ガイドライン2021。わが街の脳卒中診療を考える会～地域ごとの新しい脳卒中救急診療体制と共に脳卒中の治療戦略を再考する～。水戸・オンライン。2022年2月15日。
97. 平野照之：脳卒中の地域連携医療：TREAT。京都南部脳卒中連携講演会。京都・オンライン。2022年2月19日。
98. 平野照之：超高齢社会ニッポンの脳卒中連携医療。Epilepsy Seminar～脳卒中後てんかんを考える～。東京・オンライン。2022年2月21日。
99. 平野照之：Time Every Brain。第1回脳卒中と血管障害の勉強会 気楽に学んで臨床に活かす。宇都宮・オンライン。2022年2月22日。
100. 平野照之：令和の脳卒中～3つのゼロを目指して～。Stroke Care Network Meeting TAMA 2022。東京・オンライン。2022年3月4日。
101. 河野浩之：CT灌流画像の活用、一過性脳虚血発作、てんかん。第33回良い画像を作るための神経放射線カンファレンス。オンライン。2022年3月10日。
102. 海野佳子：意外と知らない?!片頭痛のこと～最新の標準的片頭痛診療～。医療従事者に知って欲しい片頭痛診療。東京。2022年3月11日。
103. 海野佳子：頭痛の診かた—国際頭痛分類と頭痛診療ガイドライン2021—。東名古屋医師会臨床懇談会。水戸。2022年3月12日。
104. 平野照之：失われた10年を繰り返さないために。STROKE 2022 海外招請講演(卒中)基調講演。オンライン。2022年3月13日。
105. 平野照之：脳卒中のトータルマネジメント。南加賀てんかん診療を考える会～てんかん連携を考える～。石川・オンライン。2022年3月23日。
106. 平野照之：脳領域でのプラスグレルの有用性と今後の課題。脳領域におけるエフィエント適応追加講演会～心臓領域における知見&脳領域における期待～。東京・オンライン。2022年3月29日。

論文

【海外雑誌論文】

- Katsumata M¹, Ota T², Tsuruta W³, Akiyama T¹, Sakai Y⁴, Shigeta K⁵, Kaneko J⁶, Nogawa S⁷, Ichijo M⁸, Shiokawa Y⁹, Hirano T (1Keio University School of Medicine, 2Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 3Toranomon Hospital, 4Showa General Hospital, 5National Hospital Organization Disaster Medical Center, 6Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 7Tokai University Hachioji Hospital, 8Musashino Red Cross Hospital, 9Departments of Neurosurgery, Kyorin University): Comparisons of Characteristics and Outcomes after Mechanical Thrombectomy for Vertebrobasilar Occlusion with Cardioembolism or Atherosclerotic Brain Infarction. Data from the Tokyo-Tama-Registry of Acute Endovascular Thrombectomy (TREAT). *World Neurosurg.* 148. e680-e688. 2021.
- Kaneko J¹, Ota T², Unemoto K¹, Shigeta K³, Inoue M⁴, Aoki R⁵, Jimbo H⁶, Ichijo M⁷, Arakawa H⁸, Shiokawa Y⁹, Hirano T (TREAT study group)(1Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 3National Hospital Organization Disaster Medical Center, 4Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, 5Tokai University Hachioji Hospital, 6Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, 7Musashino Red Cross Hospital, 8Omori Red Cross Hospital, 9Departments of Neurosurgery, Kyorin University): Endovascular treatment of acute basilar artery occlusion. Outcomes, influencing factors and imaging characteristics from the Tama-REGISTRY of acute thrombectomy (TREAT) study. *J Clin Neurosci.* 86. 184-189. 2021.
- Shigeta K¹, Ota T², Kaneko J³, Sato K⁴, Aoki R⁵, Jimbo H⁶, Sato Y⁷, Kuroshima Y⁸, Shiokawa Y⁹, Hirano T (1National Hospital Organization Disaster Medical Center, 2Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 3Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 4Showa General Hospital, 5Tokai University Hachioji Hospital, 6Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, 7Japanese Red Cross Musashino Hospital, 8Hino Municipal Hospital, 9Department of Neurosurgery, Kyorin University)(TREAT study group): Negative impact of Interhospital Transfer on Clinical Outcomes of Mechanical Thrombectomy for Fast Progressive Stroke. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 30(4).105633. 2021.
- Okada T¹, Uchida K², Sakakibara F², Kageyama H², Yasaka M³, Toyoda K⁴, Mori E⁵, Hirano T, Hamasaki M⁶, Yamagami H⁷, Nagao T⁸, Uchiyama S⁹, Minematsu K⁴, Yoshimura S² (1Sanda City Hospital, 2Hyogo College of Medicine, 3NHO Kyushu Medical Center, 4National Cerebral and Cardiovascular Center, 5Osaka University, 6The George Washington University, 7NHO Osaka National Hospital, 8Nippon Medical School, 9International University of Health and Welfare): Sex differences in management and outcomes of cardioembolic stroke: Post hoc analysis of The RELAXED Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 30(4). 105613. 2021.
- Saito M¹, Kawano H, Koyanagi M², Gomyo M³, Yokoyama K³, Hirano T (1Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University Hospital, 2Radiology Department Kyorin University Hospital, 3Departemnt of Radiology, Kyorin University School of Medicine): Teaching Video NeuroImages: ECG-gated 4D-CTA Can Detect Aortic Plaque Mobility in Cryptogenic Stroke. *Neurology.* 97(4). e431-e432. 2021.
- Oki Y¹, Sakakibara F², Uchida K², Kageyama H², Yasaka M³, Toyoda K⁴, Mori E⁵, Hirano T, Hamasaki T⁶, Yamagami H⁷, Nagao T⁸, Uchiyama S⁹, Minematsu K⁴, Yoshimura S² (1Goushi Hospital, 2Hyogo College of Medicine, 3NHO Kyushu Medical Center, 4National Cerebral and Cardiovascular Center, 5Osaka University, 6George Washington University Biostatistics Center, 7NHO Osaka National Hospital, 8Nippon Medical School, 9International University of Health and Welfare): ASPECTS-region-dependent Functional Outcomes after Endovascular Therapy in Patients with Cardioembolic Stroke. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 30(7). 105814. 2021.
- Nakanishi K¹, Kawano H, Yamagishi Y², Kamma H³, Shiokawa Y², Hirano T (1Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University Hospital, 2Departments of Neurosurgery, Kyorin University, 3Department of Pathology, Kyorin University): Tumor cells detected in retrieved thrombus: A case of cancer-associated stroke. *Intern Med.* 60(15). 2491-2494. 2021.
- Shigeta K¹, Suzuki K², Matsumaru Y³, Takeuchi M⁴, Morimoto M⁵, Kanazawa R⁶, Takayama Y⁷, Kamiya Y⁸, Okubo S⁹, Hayakawa M³, Ishii N¹⁰, Koguchi Y¹¹, Ota T¹², Takigawa T¹³, Inoue M¹⁴, Naito H¹⁵, Hirano T, Kato N¹⁶, Ueda T¹⁷, Akaji K¹⁸, Iguchi Y¹⁹, Miki K²⁰, Tsuruta W²¹, Fujimoto S²², Enomoto M¹, Aoyama J¹, Nakano T¹, Kimura K² (1NHO Disaster Medical Center, 2Nippon Medical School, 3Univ Tsukuba, 4Seisho Hospital, 5Yokohama Shintoshin Neurosurgery Hospital, 6Nagareyama Central Hospital, 7Akiyama Neurosurgical Hospital, 8Showa Univ Koto Toyosu Hospital, 9NTT Medical Center, 10New Tokyo Hospital, 11Chiba Emergency Medical Center, 12Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 13Dokkyo Medical University, 14National Center for Global Health and Medicine, 15Funabashi Municipal Medical Center, 16Mito Medical Center, 17St. Marianna University Toyoko Hospital, 18Mihara Memorial Hospital, 19Jikei University, 20Tokyo Medical and Dental University, 21Toranomon Hospital, 22Jichi Medical University): Intravenous alteplase is associated with first pass effect in stent-retriever but not ADAPT thrombectomy: Post hoc analysis of the SKIP study. *Clin Neuroradiol.*32(1). 153-162. 2022.
- Hong S¹, Maruyama K¹, Noguchi A¹, Hirano T, Nagane M¹, Shiokawa Y¹(1Department of

Neurosurgery, Kyorin Univ): Is using intracerebral hemorrhage scoring systems valid for mortality prediction in surgically treated patients? *Neurosurg Rev.* 44(5). 2747-2753. 2021.

10. Tokunaga K¹, Yasaka M¹, Toyoda K², Mori E³, Hirano T, Hamasaki T⁴, Yamagami H⁵, Nagao T⁶, Yoshimura S⁷, Uchiyama S⁸, Minematsu K² (1NHO Kyusyu Medical Center, 2National Cerebral and Cardiovascular Center, 3Osaka Univ, 4The George Washington Univ, 5NHO Osaka National Hospital, 6Nippon Medical School, 7Hyogo College of Medicine, 8International University of Health and Welfare): Bridging therapy with heparin before starting rivaroxaban in ischemic stroke or transient ischemic attack with nonvalvular atrial fibrillation. *Circ J.* 2021. Epub.
11. Hirano T, Kasner SE¹ (1University of Pennsylvania): Stranger than fiction, Clonal Hematopoiesis of Indeterminate Potential, and small vessel pathology. *Stroke.* 53(3). 798-799. 2022.
12. Kawano H, Hirano T, Inoue M¹, Fukuda-Doi M¹, Iwasaki K², Omae K¹, Yamamoto H¹, Koga M¹, Sakai N³, Nagao T⁴, Sasaki M⁵, Hayakawa N¹, Toyoda K¹, T-FLAVOR investigators (1National Cardiovascular Center, 2Osaka University, 3Kobe City Medical Center General Hospital, 4Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, 5Iwate Medical University): Tenecteplase versus alteplase for large vessel occlusion recanalization (T-FLAVOR): Trial protocol. *Eur Stroke J.* 7(1). 71-75. 2022.
13. Tanaka K¹, Miwa K¹, Takagi M¹, Sasaki M², Yakushiji Y³, Kudo K⁴, Shiozawa M¹, Tanaka J¹, Nishihara M¹, Yamaguchi Y⁵, Fujita K¹, Honda Y, Kawano H, Ide T¹, Yoshimura S¹, Koga M¹, Hirano T, Toyoda K¹ (1National Cerebral and Cardiovascular Center, 2Iwate Medical University, 3Kansai Medical University, 4Hokkaido University, 5Yamagata Prefectural Central Hospital): Increased cerebral small vessel disease burden with renal dysfunction and albuminuria in patients taking antithrombotic agents: The Bleeding with Antithrombotic Therapy 2. *J Am Heart Assoc.* 11(6). e024749. 2022.

【国内雑誌論文】

1. 岩間亨¹, 平野照之 (1岐阜大学) : 今後の脳卒中研究の推進. *日本医師会雑誌.* 150(1). 71-74. 2021.
2. 平野照之 : 新型コロナウイルス感染症と脳卒中. *日本医師会雑誌.* 150(1). 18. 2021.
3. 平野照之 : 脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画—脳卒中研究の推進. *医学のあゆみ.* 278(4). 277-281. 2021.
4. 平野照之 : 新型コロナと脳卒中診療～2020年12月日本脳卒中学会調査と東京都の現状について～. *JSA News.* 65. 9. 2021.
5. 久保真人¹, 饗場郁子², 下畑享良³, 服部信孝⁴, 吉田一人⁵, 海野佳子, 横山和正⁴, 小川崇⁴, 加世田ゆみ子⁶, 小池亮子⁷, 清水優子⁸, 坪井義夫⁹, 道勇学¹⁰, 三澤園子¹¹, 宮地隆史¹², 戸田達史¹³, 武田篤¹⁴, 日本神経学会キャリア形成促進委員会 (1同志社大, 2東名古屋病院, 3岐阜大, 4順天堂大, 5旭川赤十字

病院, 6広島市立リハビリテーション病院, 7西新潟中央病院, 8東京女子医大, 9福岡大, 10愛知医科大, 11千葉大, 12柳井医療センター, 13東京大, 14仙台西多賀病院) : 脳神経内科医におけるバーンアウト (第2報)—男性医師と女性医師の比較—. *臨床神経学.* 61(4). 219-227. 2021.

6. 中西郁¹, 平野照之 (1杏林大医学部附属病院脳卒中科) : Trousseau症候群の治療戦略①担がん患者に対するcontact aspirationの有効性. *脳神経外科速報.* 31(5). 806-812. 2021.
7. 丸岡響¹, 平野照之 (1杏林大医学部附属病院脳卒中科) : Weber症候群. *CLINICAL NEUROSCIENCE.* 39(5). 658-659. 2021.
8. 山田深 : 脳卒中中の作業療法最前線. 脳卒中とは. 作業療法ジャーナル. 55(8). 724-729. 2021.
9. 丸岡響¹, 平野照之 (1杏林大医学部附属病院脳卒中科) : 評価スケール. 診断と治療. 109(5). 619-623. 2021.
10. 板橋亮¹, 河野浩之, 坂井信幸², 中川一郎³, 平野照之, 伊藤隆史⁴, 射場敏明⁵, 土井洋平⁶, 森下英理子⁷, 安本篤史⁸, 日本脳卒中学会, 日本血栓止血学会, 2学会合同手引き作成委員会 (1岩手医大, 2神戸市立中央市民病院, 3奈良県立医大, 4熊本大, 5順天堂大, 6大阪大, 7金沢大, 8北海道大) : アストラゼネカ社COVID-19ワクチン接種後の血小板減少症を伴う血栓症の診断と治療の手引き・第2版. 血栓止血誌. 32. S1-25. 2021.
11. 板橋亮¹, 河野浩之, 坂井信幸², 中川一郎³, 平野照之, 伊藤隆史⁴, 射場敏明⁵, 土井洋平⁶, 森下英理子⁷, 安本篤史⁸, 日本脳卒中学会, 日本血栓止血学会, 2学会合同手引き作成委員会 (1岩手医大, 2神戸市立医療センター, 3奈良県立医大, 4鹿児島大, 5順天堂大, 6大阪大, 7金沢大, 8北海道大) : アストラゼネカ社COVID-19ワクチン接種後の血小板減少症を伴う血栓症の診断と治療の手引き・第2版. 脳卒中. 43. S1-S25. 2021.
12. 河野浩之 : 機械的血栓回収療法の適応決定のための灌流画像 : RAPID, Vitrea, ARSS, PMAneo, MISTar. *Cardio-Coagulation.* 8(2). 39-44. 2021.
13. 平野照之 : COVID-19と脳卒中診療. *神経治療学.* 38(1). 28-32. 2021.
14. 河野浩之, 永金義成¹ (1京都第二赤十字病院) : 担がん患者が脳卒中を発症した場合に注意すべき点は? . *日本医事新報.* 5077. 50-21. 2021.
15. 平野照之 : 神経疾患の新しい治療 心原性脳塞栓症. *CLINICAL NEUROSCIENCE.* 39(9). 1172-1173. 2021.
16. 河野浩之, 橋本洋一郎¹, 平野照之 (1熊本市民病院) : COVID-19ワクチン接種後の血小板減少を伴う脳静脈血栓症. *臨床神経学.* 61(9). 594-601. 2021.
17. 植田明彦¹, 河野浩之 (1熊本大) : 診断に迷う非典型的な遺伝性脳血管障害. *日本医事新報.* 5083. 48-49. 2021.
18. 板橋亮¹, 河野浩之, 坂井信幸², 中川一郎³, 平野照之, 伊藤隆史⁴, 射場敏明⁵, 土井洋平⁶, 森下英理子⁷, 安本篤史⁸, 日本脳卒中学会, 日本血栓止血学会, 2学会合同手引き作成委員会 (1岩手医大, 2神戸市立中央市民病院, 3奈良県立医大, 4熊本大, 5順天堂大, 6大阪大, 7金沢大, 8北海道大) : COVID-19ワクチン接種後の血小板減少症を伴う血栓症の診断と治療の手引き・第3版. 日本脳卒中学会・日本血栓止血学会. 2021年.

19. 河野浩之, 平野照之, 高野利実¹, 辻哲也², 成田善孝³, 藤本茂⁴, 塩川芳昭⁵ (1がん研有明病院, 2慶応義塾大学, 3国立がん研究センター, 4自治医科大学, 5杏林大・医・脳神経外科学): がんと脳卒中を合併する症例の治療側の意識と診療実態に関する全国調査. 脳卒中. 44(2). 133-141. 2021.
20. 海野佳子: 病気のはなし 脳梗塞(解説). 検査と技術. 49(11). 1210-1215. 2021.
21. 丸岡響¹, 平野照之, 下山田博明² (1杏林大医学部付属病院脳卒中科, 2杏林大・医・病理学): 臨床医のための神経病理 再入門 アテローム血栓性脳梗塞. CLINICAL NEUROSCIENCE. 39(11). 1329-31. 2021.
22. 平野照之: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と脳卒中救急. Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care. 33(2). 8-15. 2021.
23. 平野照之: 神経疾患とモノクローナル抗体治療 脳梗塞(心原性脳塞栓症). CLINICAL NEUROSCIENCE. 39(12). 1548-1550. 2021.
24. 河野浩之: 脳卒中の二次予防. 脳梗塞慢性期の抗血栓療法. 月刊薬事. 63(16). 59-63. 2021.
25. 河野浩之: COVID-19と脳卒中. 血栓止血誌. 32(6). 723-725. 2021.
26. 矢富裕¹, 家子正裕², 伊藤隆史³, 荻野均⁴, 河野浩之, 久志本成樹⁵, 高田真紀子⁶, 松下正⁷, 宮田茂樹⁸, 安本篤史⁹ (1東京大, 2岩手県立中央病院, 3熊本大, 4東京医科大, 5東北大, 6東京都立多摩総合医療センター, 7名古屋大, 8日本赤十字社血液事業本部, 9北海道大): ヘパリン起因性血小板減少症の診断・治療ガイドライン. 血栓止血誌. 32(6). 737-782. 2021.
27. 海野佳子: 杏林大学医学部付属病院脳卒中センターの診療体制. 杏林医学会雑誌. 52(4). 221-223. 2021.
28. 河野浩之: 脳卒中研究の最前線. 杏林医学会雑誌. 52(4). 245-249. 2021.
29. 河野浩之, 平野照之, 塩川芳昭¹ (1杏林大・医・脳神経外科学): がん関連脳梗塞の診断と治療・予防. Cardio-Coagulation. 8(4). 48-51. 2021.
30. 河野浩之: TTS(血小板減少症を伴う血栓症)とは. Cardio-Coagulation. 9(3). 16-21. 2021.

著 書

1. 平野照之(監修): 脳神経疾患患者の観察・アセスメント. ブレインナーシング2021年夏季増刊. メディカ出版. 2021.
2. 瀧澤佑騎(分担執筆): 第3章シーン別 観察・アセスメント 意識レベルが下がった!! ブレインナーシング2021年夏季増刊. 平野照之監修. メディカ出版. 2021. 178-183.
3. 河野浩之: ワクチン接種後の血小板減少症を伴う血栓症. 今日の臨床サポート. <https://info.clinicalsup.jp/>
4. 平野照之(分担執筆): 急性期脳梗塞(ブレインアタック). 今日の治療指針2022. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 医学書院. 2022. 937-938.
5. 海野佳子(分担執筆): 脳梗塞総論 急性期治療 抗凝固療法. 最新臨床脳卒中学(2版)下. 日本臨床. 80(suppl.2). 2022. 49-54.
6. 河野浩之(分担執筆): 非細菌性血栓性心内膜炎による脳梗塞. 最新臨床脳卒中学(2版)下. 日本臨床. 80(suppl.2). 2022. 220-224.

7. 平野照之(分担執筆): 脳梗塞に対する血栓溶解療法の指針. 救急・集中治療 最新ガイドライン2022-'23. 岡元和文編集・企画. 総合医学社. 2022. 192-196.

その他

1. 平野照之監修: アブない夏の脳梗塞 いきいきライフさん. サンライフ企画(健康保険組合連合). 2021年5月. 1438-14. 2-3.
2. 平野照之: あなたの脳と家族を守るために. Web市民公開講座. オンライン. 2021年6月2日.
3. 平野照之: 「健康カプセル!ゲンキの時間」夏の脳梗塞. TBSテレビ. 2021年7月18日.
4. 平野照之: 慢性脳梗塞 治療を開始～患者に血管再生細胞. 読売新聞(大阪版)朝刊31面. 2021年9月2日.
5. 平野照之: 「マイあさ!」健康ライフ. 脳卒中を予防しよう. NHKラジオ第1放送. 2021年9月13日・17日.
6. 平野照之監修: くも膜下出血. パンプキン. No.369. 潮出版社. 2021. 99-101.
7. 平野照之: 「きょうの健康」脳卒中 治療と予防の最新トレンド①ガイドライン改訂!ポイントは. NHK教育テレビ. 2022年1月31日.
8. 平野照之: 「きょうの健康」脳卒中 治療と予防の最新トレンド②究明中!新型コロナとの関係. NHK教育テレビ. 2022年2月1日.
9. 平野照之: 「きょうの健康」脳卒中 治療と予防の最新トレンド③若い世代も注意!意外な原因. NHK教育テレビ. 2022年2月2日.
10. 平野照之: 「きょうの健康」脳卒中 治療と予防の最新トレンド④Q&A あなたの疑問に答えます. NHK教育テレビ. 2022年2月3日.
11. 平野照之: 「NHK WEB特集」救える命が救えない救急医療のひっ迫過去最悪に(取材協力). 2022年2月25日. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220225/k10013500671000.html>
12. 平野照之: 「健康カプセル!ゲンキの時間」頸動脈エコー検査について紹介. TBSテレビ. 2022年3月6日.
13. 平野照之: 「Nらじセレクト」救える命が救えない救急医療のひっ迫過去最悪に(取材協力). NHKラジオ第1放送. 2022年3月8日.

医学教育学教室

講 演

1. 関口進一郎: 小児科専門医試験受験出願指導のポイント. 第27回小児科医のための臨床研修指導医講習会. オンライン. 2021年7月3日.
2. 関口進一郎: 思春期の臨床力をいかにして高めるか. 日本小児科学会第10回インテンシブコース. 京都. 2021年8月8日.
3. 関口進一郎: 医療者教育の基本. 第28回小児科医のための臨床研修指導医講習会. オンライン. 2022年1月8日.
4. 関口進一郎: 小児科専門医試験受験出願指導のポイント. 第28回小児科医のための臨床研修指導医講習会. オンライン. 2022年1月8日.

5. 江頭説子：コロナ禍における派遣労働者の＜被害の潜在化＞. 第33回日本労働社会学会. オンライン. 2021年10月23日.
6. 富田泰彦：〈産業保健スタッフ教育の基礎〉医学教育と人材育成ーその教育・指導手法についてー. 第2回産業精神保健講座・不知火塾, 医療法人社団新光会・不知火クリニック主催. オンライン. 2021年11月17日.

論 文

1. 関口進一郎：行動・発達の問題 不登校状態. 小児科診療. 84増. 113-116. 2021.

著 書

1. 関口進一郎（分担執筆）：学童期・思春期 身体発育. グランドデザインから考える小児保健ガイドブック. 秋山千枝子, 五十嵐隆, 岡明, 平岩幹男 編集. 診断と治療社. 2021. 102-107.
2. 富田泰彦（原作分担）：患者の秘密保持問題-スマホの場合、無邪気な雑談のつもりが、漫画なら64. 高橋優三編著. 漫画による医学教育研究会. Amazon.co.jp. 2022. No.16,18.

その他

1. 富田泰彦：杏林大学医学部医学教育学教室 同付属病院総合研修センターのご紹介. 三鷹醫人往来. 第43巻3号（通巻313号）. 三鷹市医師会広報委員会. 2021. 38-39.
2. 関口進一郎：第27回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 代表世話人. 公益社団法人日本小児科学会. オンライン. 2021年7月3-4日.
3. 関口進一郎：杏林大学医学部付属病院第31回指導医養成ワークショップ, チーフタスクフォース. 三鷹市. 2021年11月20日・21日.
4. 関口進一郎：第28回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 代表世話人. 公益社団法人日本小児科学会. オンライン. 2022年1月8-9日.
5. 江頭説子：日本労働社会学会主催「日本労働社会学会第33回大会」. 大会実行委員. 大阪. 2021年10月23日・24日.
6. 江頭節子：杏林大学医学部付属病院 第31回指導医養成ワークショップ. タスクフォース. 三鷹市. 2021年11月20日・21日.
7. 富田泰彦：杏林大学医学部付属病院 第31回指導医養成ワークショップ. ディレクター. 三鷹市. 2021年11月20日・21日.
8. 富田泰彦：全国自治体病院協議会主催 第161回臨床研修指導医養成講習会. タスクフォース. オンライン. 2022年2月19日・20日.
9. 矢島知治：杏林大学医学部付属病院 第31回指導医養成ワークショップ. タスクフォース. 三鷹市. 2021年11月20日・21日.

肉眼解剖学教室

講 演

1. 山田賢治, 関谷繁樹, 吉澤貴弘, 佐藤文香, 林進, 長瀬美樹, 松村譲児：稀な長母指伸筋腱の走行変異がみられた4症例. 第64回日本手外科学会学術集会. オンライン. 2021年4月22-23日.
2. 長瀬美樹：鈣質コルチコイド受容体活性化と食塩

感受性高血圧、慢性腎臓病. 第50回日本心脈管作動物質学会. 松本市. 2021年7月16日.

3. 長瀬美樹：MR関連高血圧の新たな展開. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年9月25日.
4. 山田賢治, 宮方基行, 山口芳裕, 丹羽正利, 島田厚良, 長瀬美樹, 松村譲児：クラッシュ症候群における虚血・再灌流障害予防効果に関する研究-ラット・クラッシュ症候群モデルの確立-. 第36回日本整形外科学会基礎学術集会. オンライン. 2021年10月14-15日.
5. 長瀬美樹：プリザーブド法（ピロリドン固定法）. 第4回CST研究会. 千葉市. 2021年11月3日.
6. 山田賢治, 長瀬美樹, 松村譲児：長母指伸筋腱の走行変異についての疫学調査. 令和3年度第50回杏林医学会総会. 三鷹市. 2021年11月20-29日.
7. 山田賢治, 長瀬美樹, 松村譲児, 持田勇希, 落合剛二, 宮方基行, 山口芳裕：微小神経図法による血管周囲神経活動電位の検出～Sihler染色による解剖体の検討. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 東京. 2021年11月23日.
8. 長瀬美樹：解剖学でキャリアをどう築くか?内科医から転向した解剖学教員からの提言. 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会. オンライン. 2022年3月27日.
9. 上野仁之, 只野喜一, 山本智朗, 大石篤郎, 松村譲児, 長瀬美樹：脳解剖学実習とMRI画像の統合的教育の試み. 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会. オンライン. 2022年3月27日.
10. 濱田知宏, 西堀元樹, 山本智朗, 松村譲児, 長瀬美樹：両肺の分葉異常を呈したご遺体の1例. 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会. オンライン. 2022年3月28日.
11. 大竹もも, 山本智朗, 長濱清隆, 柴原純二, 松村譲児, 長瀬美樹：解剖実習体のオートブシーイメージングで発見された前立腺癌骨転移の1例～医療画像と肉眼解剖所見、病理所見の比較～. 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会. オンライン. 2022年3月28日.

論 文

1. Watanabe K¹, Tokumine J¹, Lefor AK², Nakazawa H¹, Yamamoto K³, Karasawa H³, Nagase M, Yorozu T¹ (¹Department of Anesthesiology, ²Department of Surgery, Jichi Medical University, ³Medical System Research & Development Center, FUJIFILM Corporation) : Photoacoustic needle improves needle tip visibility during deep peripheral nerve block. Sci Rep. 11(1). 8432. 2021.
2. Oishi A, Gbahou F¹, and Jockers R¹ (¹Institut Cochin, Université de Paris, Paris, France.) : Meatonin receptors, brain functions and therapies. Handb Clin Neurol. 179. 345-356. 2021.
3. Duquenne M¹, Folgueira C¹, Bourrouh C¹, Millet M², Silva A³, Clasadonte J¹, Imbernon M¹, Fernandois D¹, Martinez-Corral I¹, Kusumakshi S¹, Caron E¹, Rasika S¹, Deliglia E¹, Jouy N¹, Oishi A, Mazzone M¹, Trinquet E¹, Tavernier J¹, Kim Y¹, Ory S¹, Jockers R³, Schwaninger M¹, Boehm U¹, Nogueiras R¹, Annicotte J¹, Gasman A², Dam J³, Prévot V¹. (¹Univ. Lille, Inserm, CHU Lille, Laboratory of Development and Plasticity of the Neuroendocrine Brain, Lille

Neuroscience & Cognition, UMR-S1172, EGID, DISTALZ, Lille, France. ²Universite de Strasbourg, Institut des Neurosciences Cellulaires et Integratives, Strasbourg, France. ³Institut Cochin, Universite de Paris, Paris, France) :Leptin brain entry via a tanycytic LepR-EGFR shuttle controls lipid metabolism and pancreas function. *Nature Metabolism*. 3(8). 1071-1090. 2021.

4. Lucey M¹, Ashik T¹, Marzook A¹, Wang Y¹, Goulding J¹, Oishi A, Broichhagen J¹, Hodson D¹, Minnion J¹, Elani Yv¹, Jockers R², Bridson S¹, Bloom S¹, Alejandra Tomas A¹, Jones B¹. (¹Imperial College London, London, United Kingdom. ²Institut Cochin, Universite de Paris, Paris, France) : Acylation of the incretin peptide exendin-4 directly impacts GLP-1 receptor signalling and trafficking. *Mol Pharmacol*. 100(4). 319-334. 2021.
5. Mochida Y¹, Ochiai K¹, Nagase T², Nonomura K³, Akimoto Y⁴, Fukuhara H⁵, Sakai T⁶, Matsumura G, Yamaguchi Y¹, Nagase M (¹Department of Trauma and Critical Care Medicine, ²Kunitachi Aoyagi Tachikawa Geriatric Health Services Facility, ³Division of Embryology, National Institute for Basic Biology, ⁴Department of Microscopic Anatomy, ⁵Department of Urology, ⁶Juntendo University Faculty of Health Science) : Piezo2 expression and its alteration by mechanical forces in mouse mesangial cells and renin-producing cells. *Sci Rep*. 12(1). 4197. 2022.
6. Miyamoto M¹, Nagase M, Watanabe I¹, Nakagawa H¹, Karita K², Tsuji DH⁵, Montagnoli AN⁶, Matsumura G, Saito K¹ (¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, ²Department of Hygiene and Public Health, ³Department of Otolaryngology, University of São Paulo School of Medicine, ⁴Department of Electric Engineering, Federal University of São Carlos) : Excised human larynx in N-vinyl-2-pyrrolidone-embalmed cadavers can produce voiced sound by pliable vocal fold vibration. *Anat Sci Int*. 2022. DOI:10.1007/s12565-021-00646-3.
7. 山本智朗¹, 阿部竜馬¹, 川口廉¹, 小山瑠奈¹, 西田陽¹, 小林邦典¹, 松友紀和¹, 只野喜一¹, 深見光葉¹, 長瀬美樹 (¹杏林大・保・診療放射線技術学科) : X線撮影、X線CT、MRIおよび頭部DSAを用いた死後画像撮像について. *Rad Fan*. 20. 86-91. 2022.
8. 上野仁之, 長瀬美樹, 山本智朗¹ (¹杏林大・保・診療放射線技術学科) : 解剖実習における肉眼解剖所見とご遺体のCT・MRI画像対比による教育. *Rad Fan*. 20. 92-95. 2022.

著 書

1. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 1精神神経系 : 中枢神経系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 2-14.
2. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 2精神神経系 : 末梢神経系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 15-25.
3. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 3呼吸器系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 26-33.
4. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 4循環器系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 34-49.
5. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 5血液・造血器系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 50-62.
6. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 6消化器系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 63-72.
7. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 7代謝系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 73-80.
8. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 8内分泌系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 81-94.
9. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 9免疫・炎症・アレルギー. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 95-105.
10. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 10骨・関節・カルシウム代謝. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 106-114.
11. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 11泌尿器・生殖器系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 115-131.
12. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 12眼. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 132-137.
13. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 13耳鼻咽喉系. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 138-146.
14. 松村譲児 : I 薬物治療に向けた解剖生理. 14皮膚. 解剖生理・病態生理・薬学管理へ お薬立ち BOOK2022. 南山堂. 2022. 147-153.

顕微解剖学教室

講 演

1. 青柳共太, 山下俊一, 西脇知世乃, 中道洋子, 秋元義弘, 神吉智丈, 今泉美佳 : 膵β細胞におけるミトコンドリア品質管理の破綻はインスリン分泌不全を誘導する. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会. オンライン. 2021年5月20-22日.
2. Itoh K, Akimoto Y, Kondo S, Ichimiya T, Aoki K, Tiemeyer M, Nishihara S: The roles of glucuronylated core 1 glycans in the localization of neuromuscular junctions and the formation of basement membranes on drosophila muscles. 日本顕微鏡学会第77回学術講演会. つくば市・オンライン. 2021年6月14-16日.
3. 宮東昭彦 : デジタル画像の取り扱いとデータ数値化の基礎. 第46回組織細胞化学講習会. オンライン. 2021年8月18日・9月14日.
4. 山本陽香, 浜田真美加, 高橋勝彦, 小林恒雄, 秋元義弘, 中島元夫, 入村達郎, 東伸昭 : ヘパラーゼが細胞外小胞産生に与える影響. 第65回日本薬学会関東支部大会. オンライン. 2021年9月11日.
5. 内田あや, 鈴木穂香, 高瀬比菜子, 平手良和, 平松竜司, 宮東昭彦, 秋元義弘, 金井正美, 金井克晃 : マウス精巣網を介したセルトリバルブの形成および精子発生制御機構の解明. 第114回日本繁殖生物

学会大会．オンライン．2021年9月21-24日．

6. 秋元義弘：組織細胞化学の最新研究．電子顕微鏡を用いた糖質の組織細胞化学．第62回日本組織細胞化学会総会・学術集会．オンライン．2021年9月24-26日．
7. 寺本直弥，前澤善朗，遠藤裕介，秋元義弘，横手幸太郎：糖尿病性腎臓病における転写因子Tcf21の機能解析．第36回日本糖尿病合併症学会．オンライン．2021年10月8-9日．
8. 寺本直弥，前澤善朗，遠藤裕介，秋元義弘，横手幸太郎：糖尿病性腎臓病における転写因子Tcf21の機能解析．第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会．京都市・オンライン．2021年10月23日-11月30日．
9. 和田晴香，三好潤，黒沼智，日比則孝，西成田悠，小栗典明，松浦稔，竹内修，小林拓，秋元義弘，日比紀文，久松理一：5-アミノサリチル酸の抗炎症作用における腸管微生物叢の関与．第49回日本臨床免疫学会総会．オンライン．2021年10月28-30日．
10. 青柳共太，山下俊一，西脇知世乃，中道洋子，秋元義弘，神吉智丈，今泉美佳：膵β細胞におけるミトコンドリア品質管理の破綻はインスリン分泌不全を誘導する．第94回日本生化学会大会．オンライン．2021年11月3-5日．
11. 山田竜一，小栗晶，藤木克則，白髭克彦，平手良和，金井正美，竹添裕高，秋元義弘，高橋直樹，金井克晃：頭部外胚葉におけるレンズ誘導におけるMab21l1の機能．第44回日本分子生物学会年会．横浜市・オンライン．2021年12月1-3日．
12. 小川裕子，池本守，三浦ゆり，津元裕樹，遠藤玉夫，本車田悠希，堤周平，長島菜央，松岡千裕，原紅音，秋元義弘，川上速人，矢ノ下良平：アミノペプチダーゼに着目したヒト唾液由来細胞外小胞の性状解析．日本薬学会第142年会．オンライン．2022年3月25-28日．
13. 秋元義弘，三浦ゆり，宮東昭彦，Gerald W Hart，遠藤玉夫：核内で糖修飾β-アクチンと相互作用するタンパク質の解析．第127回日本解剖学会総会・全国学術集会．オンライン．2022年3月27日-5月27日．
14. 菅原大介，秋元義弘，川上速人：H型フコシル化糖鎖を発現する大腸上皮細胞と，その機能的意義の解析．第127回日本解剖学会総会・全国学術集会．オンライン．2022年3月27日-5月27日．

論文

1. Yamada R^{1,2}, Oguri A¹, Fujiki K¹, Shirahige K¹, Hirate Y³, Kanai-Azum M³, Takezoe H⁴, Akimoto Y, Takahashi N^{1,2}, Kanai Y¹ (1The University of Tokyo, 2RNA Company Limited, 3Tokyo Medical and Dental University, 4Genble Inc.): MAB21L1 modulates gene expression and DNA metabolic processes in the lens placode. *Dis Model Mech.* 14(12). dmm.049251. 2021.
2. Ogawa Y¹, Akimoto Y, Ikemoto M¹, Goto Y¹, Ishikawa A¹, Ohta S¹, Takase Y¹, Kawakami H, Tsujimoto M¹, Yanoshita R¹ (1Teikyo Heisei University): Stability of human salivary extracellular vesicles containing dipeptidyl peptidase IV under simulated gastrointestinal tract conditions. *Biochem Biophys Rep.* 27. 101034. 2021.
3. Yoshida Y¹, Yamada A¹, Akimoto Y, Abe K¹, Matsubara S², Hayakawa J², Tanaka J¹, Kinoshita M¹, Kato T³, Ogata H³, Sakashita A³, Mishima K¹, Kubota Y⁴, Kawakami H, Kamijo R¹, Iijima T¹ (1Showa University, 2Laboratory for

Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine, 3Showa University Yokohama Northern Hospital, 4Keio University School of Medicine): Cdc42 has important roles in postnatal angiogenesis and vasculature formation. *Develop Biol.* 477. 64-69. 2021.

4. Wada H^{1,2*}, Nakamura M^{2*}, Inoue S³, Kudo A, Hanawa T⁴, Iwakura Y⁵, Kobayashi F⁶, Kamma H⁷, Kamiya S⁴, Ito K⁸, Barnes PJ⁸, Takizawa H² (1Juntendo University, 2Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Nagasaki University, 4Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 5Tokyo University of Science, 6Azabu University, 7Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 8Imperial College London, *equally contributed): Dual interleukin-17A/F deficiency protects against acute and chronic response to cigarette smoke exposure in mice. *Sci Rep.* 11(1). 11508. 2021.
5. Mochida Y^{1,2}, Ochiai K^{1,2}, Nagase T³, Nonomura K⁴, Akimoto Y, Fukuhara H⁵, Sakai T⁶, Matsumura G¹, Yamaguchi Y², Nagase M^{1,6} (1Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Kunitachi Aoyagien Tachikawa Geriatric Health Services Facility, 4National Institute for Basic Biology, 5Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, 6Juntendo University): Piezo2 expression and its alteration by mechanical forces in mouse mesangial cells and renin-producing cells. *Sci Rep.* 12(1). 4197. 2022.
6. 大崎敬子¹，菅原大介¹，大野亜希子²，楠原光謹²，蔵田訓³，米澤英雄¹，徳永健吾⁴ (1杏林大・医・感染症学，2杏林大・医・消化器内科学，3杏林大・保，4杏林大・医・総合医療学)：胃癌予防をめざした胃内細菌叢の研究．杏林医会雑誌．53(1). s1-4. 2022年．

著書

1. Akimoto Y, Miura Y, Endo T, Hart GW: O-GlcNAcylation and diabetes. *Comprehensive Glycoscience*. 2nd ed. Barchi J ed. Elsevier. 2021. 133-148.
2. 宮東昭彦，秋元義弘（共著）：デジタル画像の取り扱いとデータ数値化の基礎．組織細胞化学2021．日本組織細胞化学会編．学際企画．2021. 213-225.

統合生理学教室

講演

1. 中島剛：脊髄反射の神経生理学．BiNI Perspective Conference 2022．オンライン．2022年8月29日（招待講演）．

論文

1. Nakajima T, Ohtsuka H, Irie S, Suzuki S¹, Ariyasu R, Komiyama T², Ohki Y (1Health Sciences University of Hokkaido, 2Chiba University): Visual information increases the indirect corticospinal excitation via cervical interneurons in humans. *J Neurophysiol.* 125. 828-842. 2021.

2. Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Ariyasu R, Ohtsuka H, Komiyama T¹, Ohki Y (Chiba University): Subcortical contribution of corticospinal transmission during visual guided switching movement of arm. *Cereb Cortex*. 32(2). 380-396. 2022.
3. Ohtsuka H, Nakajima T, Komiyama T¹, Suzuki S², Irie S, Ariyasu R (Chiba University, ²Health Sciences University of Hokkaido): Execution of natural manipulation in the air enhances the beta-rhythm intermuscular coherences of the human arm depending on muscle pairs. *J Neurophysiol*. 2021. doi: 10.1152/jn.00421.
4. Ito S¹, Nakagawa K¹, Nakajima T, Iteya M¹, Crawshaw L¹, Kanosue K¹. (Waseda University): Dynamic Control of Upper Limb Stretch Reflex in Wrestlers. *Med Sci Sports Exerc*. 54(2). 313-320. 2022.
5. Shibuya S, Unenaka S¹, Shimada S², Ohki Y (Hokusho University, ²Meiji University): Distinct modulation of mu and beta rhythm desynchronization during observation of embodied fake hand rotation. *Neuropsychologia*. 159. 107952. 2021.
6. Shibuya S, Unenaka S¹, Ohki Y (Hokusho University): Predictability of delayed visual feedback under rubber hand illusion modulates localization but not ownership of the hand. *Frontiers in Psychology*. 12. 771284. 2021.

病態生理学教室

講演

1. Atsumi T, Ide M, Terao Y: Atypical Temporal Distraction in Processing Visual Temporal Order in Individuals with Autism Spectrum Disorders. *International Society for Autism Research (INSAR) 2021 Annual Meeting*. USA-Online. May 3-5, 2021.
2. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 脳深部刺激療法がsaccadeの加減速時間に及ぼす影響. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月19日.
3. 寺田さとみ, 徳重真一, 市川弥生子, 宮崎泰, 内堀歩, 富樫尚彦, 長谷川一子, 高橋祐二, 松田俊一, 濱田雅, 千葉厚郎, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: Eye-hand coupling in reaching tasks is impaired in spinocerebellar ataxia. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月19日.
4. 寺尾安生, 浅原有揮, 宮崎泰, 徳重真一, 寺田さとみ, 内堀あゆみ, 市川弥生子, 千葉厚郎, 宇川義一, 須田真千子, 向井泰司, 宮川晋治, 鈴木正彦: パーキンソンニズム患者では表情は乏しいか?. 第62回日本神経学会学術大会. 京都・オンライン. 2021年5月21日.
5. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症者における視覚順序処理への非定型な妨害効果と感覚過敏との関連. 第44回日本神経科学大会. 神戸・オンライン. 2021年7月28-31日.
6. 井手正和, 渥美剛史: 知覚されない瞬時の刺激オンセット・オフセット変化による時間順序判断の精度の向上. 第44回日本神経科学大会. 神戸・オンライン. 2021年7月28-31日.
7. 松島佳苗, 渥美剛史, Mrinmoy Chakrabarty, 井手正和: 児童青年期における視覚の時間的感度と自律神経活動に対する情動的シグナルの影響—ASDの感覚処理の神経生理学的基盤に関する予備的研究—. 第44回日本神経科学大会. 神戸・オンライン. 2021年7月28-31日.
8. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生: Multisensory prior entry in mouse. 日本動物心理学会第81回大会. オンライン. 2021年10月30-31日.
9. 三嶋竜弥, 小藤剛史, 寺尾安生: シンタキシシン1Bのハプロ不全による熱性けいれんの発症機序の解明. 杏林医学会. オンライン. 2021年11月20-29日.
10. 古林俊晃, 沼田純希, 寺尾安生, 宇川義一: 運動に関連した擬音語が脳皮質運動野の興奮性に及ぼす影響. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月17日.
11. 沼田純希, 寺尾安生, 菅原憲一, 宇川義一, 古林俊晃: 電気刺激による体性感覚情報が下肢のリズム形成に与える影響. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月17日.
12. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 視床下核に対する脳深部刺激療法はsaccadeの加減速時間を短縮する. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月18日.
13. 寺田さとみ, 徳重真一, 市川弥生子, 宮崎泰, 内堀歩, 富樫尚彦, 高橋祐二, 松田俊一, 濱田雅, 千葉厚郎, 長谷川一子, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 純粋小脳型脊髄小脳変性症における眼一指運動協調の時間空間的特徴. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台・オンライン. 2021年12月18日.
14. 渥美剛史, 井手正和, ムリンモイ・チャクラバティ, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症者における情動刺激への応答と視覚時間順序判断との神経相関. 新学術領域研究「時間生成学」領域会議. オンライン. 2022年2月13日.

論文

1. Honma M¹, Hidetomo M¹, Yabe Y², Kuroda T¹, Futamura A¹, Sugimoto A¹, Terao Y, Masaoka Y¹, Izumizaki M¹, Kawamura M¹, Ono K¹ (Showa University School of Medicine, ²NTT Communication Science Laboratories): Stopwatch training improves cognitive functions in patients with Parkinson's disease. *J Neurosci Res*. 99(5). 1325-1336. 2021.
2. Honma M, Saito S, Atsumi T, Tokushige S-I¹, Inomata-Terada S, Chiba A¹, Terao Y (Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine): Inducing cortical plasticity to manipulate and consolidate subjective time duration. *Neuromodulation*. Neuromodulation. 2021.
3. Fujiwara T¹, Kofuji T, Akagawa K (Saitama Medical University): Disturbance of the reciprocal-interaction between the OXtergic and DAergic systems in the CNS causes atypical social behavior in syntaxin 1A knockout mice. *Behav Brain Res*. 413. 11347. 2021.
4. Nakayama T, Fukutomi T¹, Terao Y, Akagawa K (Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine): Syntaxin 1A gene is negatively regulated in a cell/tissue

specific manner by YY1 transcription factor, which binds to the -183 to -137 promoter region together with gene silencing factors including histone deacetylase. *Biomolecules*. 11(2). 146. 2021.

5. Chakrabarty M¹, Atsumi T, Kaneko A², Fukatsu R², Masakazu Ide² (¹Indraprastha Institute of Information Technology Delhi, ²Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities): State-Anxiety Modulates the Effect of Emotion Cues on Visual Temporal Sensitivity in Autism Spectrum Disorder. *Eur J Neurosci*. 54(2). 4682-4694. 2021.

著 書

1. 寺尾安生：Neuromechanobiology overview. *Clin. Neurosci*. 40(2): 652-653. 2022.

その他

1. 渥美剛史：発達障害シンポジウム2021『絵は感覚のふしぎなのぞき窓』。(企画運営・司会)。「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 領域開拓プログラム」公開シンポジウム(ライト・イット・アップ・ブルー所沢共催)。オンライン。2021年4月3日。

代謝生化学教室

講 演

1. Takashi Yamamoto, Takanari Gotoda: Genetic intervention in kynurenine pathway alters glucose metabolism in mice. The 19th International Symposium on Atherosclerosis. 京都・オンライン。2021年10月24日-27日。

論 文

1. Takeuchi F¹, Liang YQ¹, Isono M¹, Tajima M¹, Cui ZH², Iizuka Y³, Gotoda T, Nabika T², Kato N¹ (¹National Center for Global Health and Medicine, ²Shimane University, ³University of Tokyo): Integrative genomic analysis of blood pressure and related phenotypes in rats. *Dis Model Mech*. 14(5). dmm.048090. 2021.
2. Okazaki H¹, Gotoda T, Ogura M², Ishibashi S³, Inagaki K⁴, Daida H⁵, Hayashi T⁶, Hori M⁶, Masuda D⁷, Matsuki K⁸, Yokoyama S⁹, Harada-Shiba M² (¹University of Tokyo, ²National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, ³Jichi Medical University, ⁴Nippon Medical School, ⁵Juntendo University, ⁶Nagoya University, ⁷Rinku General Medical Center, ⁸Hirosaki University, ⁹Chubu University): Current Diagnosis and Management of Primary Chylomicronemia. Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. *J Atheroscler Thromb*. 28(9). 883-904. 2021.

細胞生化学教室

講 演

1. 青柳共太, 山下俊一, 西脇知世乃, 中道洋子, 秋元義弘, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵β細胞におけるミトコンドリア品質管理の破綻はインスリン分泌不全を誘導する. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会. オンライン. 2021年5月20-22日.
2. 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 中野堅太, 柳田圭介, 岡村匡史, 添田光太郎, 南茂隆生, 平本正樹, 西村渉, 進藤英雄, 今泉美佳, 植木浩二郎, 安田和基. 内臓脂肪組織の脂肪細胞と中皮細胞における転写因子Gata5の機能解析. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 若手研究助成金成果報告会. オンライン. 2021年5月20-22日.
3. 南塚拓也, 前澤善朗, 宇田川陽秀, 馬場雄介, 遠藤裕介, 安田和基, 横手幸太郎: 内臓脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化を抑制し炎症保護的に機能する. 第64回日本糖尿病学会年次学術集会. オンライン. 2021年5月20-22日.
4. 青柳共太, 山下俊一, 西脇知世乃, 中道洋子, 秋元義弘, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵β細胞におけるミトコンドリア品質管理の破綻はインスリン分泌不全を誘導する. 第94回日本生化学会大会. オンライン. 2021年11月3-5日.
5. 南塚拓也, 前澤善朗, 宇田川陽秀, 馬場雄介, 遠藤裕介, 安田和基, 横手幸太郎, 血管壁の脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化と炎症を抑制する. 第42回日本肥満学会. 横浜・オンライン. 2022年3月26-27日.

薬理学教室

論 文

1. Kawada M¹, Yokoi H¹, Kimura T, Matsumoto Y¹, Sakurai H, Matsumoto K², Fujiwara M³, Saito K¹ (¹Department of Otorhinolaryngology, Kyorin University School of Medicine, ²National Research Institute for Child Health and Development, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Involvement of galanin and galanin receptor 2 in a mouse model of allergic rhinitis. *Allergol Int*. 71(1). 83-93. 2022.
2. Yamaga T, Suehiro J, Wada Y¹, Sakurai H (¹The University of Tokyo): Induction of CTH expression in response to amino acid starvation confers resistance to anti-LAT1 therapy in MDA-MB-231 cells. *Sci Rep*. 12(1). 1021. 2022.
3. Kanki Y¹, Muramatsu M², Miyamura Y², Kikuchi K², Higashijima Y¹, Nakaki R¹, Suehiro JI, Sasaki Y¹, Kubota Y³, Koseki H⁴, Morioka H², Kodama T¹, Nakao M², Kurotaki D³, Aburatani H¹, Minami T² (¹The University of Tokyo, ²Kumamoto University, ³Keio University School of Medicine, ⁴RIKEN): Bivalent-histone-marked immediate-early gene regulation is vital for VEGF-responsive angiogenesis. *Cell Rep*. 38(6). 110332. 2022.
4. Niikura M¹, Fukutomi T, Mineo S², Mitobe J, Kobayashi F³ (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Medical University, ³Azabu University): The association between acute fatty liver disease and nitric oxide during malaria in pregnancy. *Malar J*. 20(1). 462. 2021.

5. Niikura M¹, Fukutomi T, Mineo S², Mitobe J¹, Kobayashi F³ (Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Medical University, ³Azabu University): Malaria in the postpartum period causes damage to the mammary gland. PLoS One. 16(10). e0258491. 2021.
6. Sakurai T¹, Fukutomi T, Yamamoto S², Nozaki E³, Kizaki T¹ (Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, ³Core Laboratory for Proteomics and Genomics, Kyorin University School of Medicine): Physical Activity Attenuates the Obesity-Induced Dysregulated Expression of Brown Adipokines in Murine Interscapular Brown Adipose Tissue. Int J Mol Sci. 22(19). 10391. 2021.
7. Niikura M¹, Fukutomi T, Mitobe J¹, Kobayashi F² (Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Azabu University): Roles and Cellular Localization of GBP2 and NAB2 During the Blood Stage of Malaria Parasites. Front Cell Infect Microbiol. 11. 737457. 2021.
8. Morimoto N¹, Nagahama K², Oyama S³, Tsuura Y¹, Fukutomi T, Terai A¹, Tanabe M¹, Otani M¹, Shioji S¹, Hirasawa S¹, Aki S¹, Aoyagi M¹, Tanaka H¹ (Yokosuka Kyosai Hospital, ²Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ³Tokyo Metropolitan Bokuto General Hospital): Immunotactoid glomerulonephritis in a patient with cold agglutinins: causal association or mere coincidence? Case Reports CEN Case Rep. 10(4). 515-522. 2021.
9. Kobayashi Y¹, Fukutomi T, Mita S², Watanabe M¹, Suzuki A¹ (Department of Obstetrics and Gynecology, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Mochida Pharmaceutical Co) : Identification of biomarkers for drug-resistant endometriosis using clinical proteomics. Hum Cell. 34(2). 394-399. 2021.
3. 田中麻理子, 柴原純二, 石川俊平, 加藤洋人, 長谷川潔, 有田淳一, 柴田龍弘, 山岸誠, 深山正久, 牛久哲男: 肝内胆管癌におけるKRASの意義. 第110回日本病理学会総会. 東京. 2021年4月22日.
4. 萬昂士, 長濱清隆, 大森嘉彦, 高山信之, 林玲匡, 北濱圭一郎, 柴原純二: 医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の臨床病理学的・分子遺伝学的検討. オンライン. 2021年4月22日-6月28日.
5. 吉池信哉, 田邊一成, 野口由香, 菅間博, 井本滋: HER2発現のheterogeneityを示す乳癌の一例. 第110回日本病理学会総会. オンライン. 2021年4月22日-6月28日.
6. 山内直子, 林玲匡, 柴原純二, 牛久哲男: 肝細胞癌におけるH3S10リン酸化に関する臨床病理学的検討. 第110回日本病理学会総会. オンライン. 2021年4月22日-6月28日.
7. 菅間博: 甲状腺腫瘍の病理診断と遺伝子異常. 第94回日本内分泌学会学術総会. オンライン. 2021年4月22日.
8. 北濱圭一郎, 萬昂士, 林玲匡, 森田茂樹, 池田純一郎, 柴原純二: 脾臓原発組織球肉腫におけるCyclin D1の高発現: 3例の報告. 第110回日本病理学会総会. 東京. 2021年4月23日.
9. 林玲匡: 脾癌の非翻訳領域のクロン進展動態. 第110回日本病理学会総会. 東京. 2021年4月23日.
10. 林玲匡: 脾癌の発生・進展過程におけるエピゲノム異常. 第110回日本病理学会総会. 東京. 2021年4月24日.
11. 田中佑治, 大木亜津子, 北濱圭一郎, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 藤原正親, 菅間博, 阿部展次: 若年女性の家族性大腸腺腫症に発症した胃底腺ポリポースを伴う早期胃癌の1例. 日本消化器病学会関東支部第364回例会. オンライン. 2021年4月24日.
12. 芳鐘一, 権藤興一, 神林孔明, 北田修一, 野坂岳志, 後藤知之, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 磯谷一暢, 岡部直太, 大森嘉彦, 藤原正親, 柴原純二, 久松理一: EUS-FNAで診断し得た脾悪性リンパ腫の1例. 日本消化器病学会関東支部第364回例会. オンライン. 2021年4月24日.
13. 松本淑恵, 齊藤邦明, 佐々木重嘉, 小林啓一, 長濱清隆, 柴原純二, 竹内賢吾, 塩川芳昭, 永根基雄: EBウィルス陽性異型リンパ球の増殖を伴った中枢神経梅毒の一例. 第39回日本脳腫瘍病理学会. 宮崎・オンライン. 2021年5月21日-22日・2021年5月28日-6月12日.
14. 土屋博司, 遠藤英仁, 稲葉雄亮, 峯岸祥人, 城野喬史, 河野浩之, 松本淑恵, 長濱清隆, 藤原正親, 窪田博: 上行大動脈巨大血栓に対し緊急上行置換術にて救命し得た一例. 第186回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. オンライン. 2021年6月5日.
15. 西ヶ谷順子, 渋谷英里子, 百村麻衣, 松本浩範, 坂口碧, 菅野瞳, 田邊一成, 下山田博明, 柴原純二, 小林陽一: 子宮頸部扁平上皮癌の寛骨転移診断にCTガイド下穿刺吸引細胞診が有用であった一例. 第62回日本臨床細胞学会総会. 千葉. 2021年6月5日.
16. 羽田裕, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 楠原光謹, 神保陽子, 吉敷智和, 須並英二, 藤原正親, 柴原純二, 久松理一: ESDから移行した外科的切除により病理学的に偽浸潤が明らかになった早期大腸癌の1例. 第112回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2021年6月13日.

著 書

1. Katada T and Sakurai H (分担執筆): Chapter 12, "slc7a5 and neural development". Factors Affecting Neurodevelopment: Genetics, Neurology, Behavior, and Diet. Edited by Colin Martin, Victor Preedy and Rajkumar Rajendram. Academic Press. 2021.

病理学教室

講 演

1. 川口明日香, 尾戸真由, 保崎明, 成田雅美, 木村真衣, 佐藤洋平, 磯村杏耶, 下山田博明, 尾崎峰: 抜歯後に発症した肉芽腫性口唇炎の1例. 第125回日本小児科学会学術集会. 福島. 2021年4月17日.
2. 牧瀬尚大, 森泰昌, 元井亨, 柴原純二, 牛久哲男, 吉田朗彦: 増殖性筋膜炎/筋炎はFOS遺伝子再構成を有する. 第110回日本病理学会総会. 東京. 2021年4月22日.

17. 麻生かおり, 石川周成, 春日啓介, 小田未来, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之: 薬剤性肺障害を契機に診断された、い草染土塵肺の1例. 第177回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. オンライン. 2021年6月19日.
18. 菅間博: 甲状腺腫瘍の分類について. 第8回日本甲状腺病理学会. 前橋. 2021年7月3日.
19. 堀秀有, 須田一晴, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦, 萬昂士, 藤原正親, 菅間博: 術前診断が困難であった孤在性線維性腫瘍の1例. 第190回日本肺癌学会関東支部会. オンライン. 2021年7月3日.
20. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 松本浩範, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 大森嘉彦, 藤原正親, 菅間博, 小林陽一: 子宮頸部上皮内癌(CIS)術後に再発を繰り返した1例. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 大阪市・オンライン. 2021年7月16-18日.
21. 谷川珠美子, 百村麻衣, 富岡紀子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 岡部直太, 長濱清隆, 大森嘉彦, 藤原正親, 柴原純二, 小林陽一: 初回再発部位が脳であった腹膜癌の1例. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 大阪市・オンライン. 2021年7月16-18日.
22. 荻本直亮, 榎藤興一, 山田貴大, 川本翔, 小松悠香, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 萬昂士, 下山田博明, 藤原正親, 柴原純二, 阪本良弘, 久松理一: 胆管内への膨張性発育を呈した肝外胆管神経内分泌癌の1例. 日本消化器病学会関東支部第366回例会. オンライン. 2021年9月18日.
23. 松原秀史, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: シェーグレン症候群の患者に発症した **membranous nephropathy with masked polyclonal IgG deposits** の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
24. 田中佑樹, 塩路慎吾, 寺井あゆみ, 大谷恵, 高橋郁太, 平澤卓, 安藝昇太, 長濱清隆, 田中啓之: 脳梗塞を契機にネフローゼ症候群を指摘され膜性腎症と診断した1例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
25. 内田裕子, 川上貴久, 佐藤良輔, 伊達友香, 竹森愛, 長濱清隆, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: C3腎症として施行した免疫抑制療法が奏功したが電顕所見を契機にフィブロンネクチン腎症の診断に至った1例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
26. 國友理恵, 川上貴久, 長濱清隆, 日比野智, 磯村杏耶, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: フィブロンネクチン腎症の確定診断に質量分析法を要したネフローゼ症候群の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
27. 寺井あゆみ, 田中佑樹, 高橋郁太, 大谷恵, 塩路慎吾, 平澤卓, 安藝昇太, 長濱清隆, 田中啓之: ペムブロリズマブによる急性薬剤性間質性腎炎を来し、ステロイド加療が奏功した一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
28. 山下優衣, 川上貴久, 竹森愛, 内田裕子, 長濱清隆, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 免疫抑制療法開始直後に急激な病勢悪化を認めたIgA腎症の一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月25日.
29. 松野裕樹, 松原秀史, 國友理恵, 小野慶介, 國沢恭平, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: C3腎症との鑑別を要したMPGN-like glomerulopathy with masked IgG— κ deposits の1例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2021年9月26日.
30. 早川怜那, 木下美咲, 波田野冨佳, 大山学, 下山田博明: Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysisに稗粒腫を伴った1例. 第131回日本皮膚科学会. 静岡. 2021年10月16日.
31. 福井香苗, 木下美咲, 大山学, 下山田博明: 下顎部に生じた結節性皮膚アミロイドーシスの1例. 第131回日本皮膚科学会. 静岡. 2021年10月16日.
32. 下田由莉江, 井田陽子, 下田真史, 野田晃成, 下山田博明, 成田陽子, 大山学: 皮膚Mycobacterium chelonae感染症教室経験例の検討 細菌学的検査への考察を加えて. 第131回日本皮膚科学会. 静岡. 2021年10月16日.
33. 戸瀬颯斗, 川嶋聡子, 前田啓造, 長濱清隆, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 好中球減少症の経過中に全身性エリテマトーデス・ループス腎炎を発症した一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年10月21日-11月10日.
34. 塩路慎吾, 田中佑樹, 寺井あゆみ, 高橋郁太, 大谷恵, 平澤卓, 安藝昇太, 長濱清隆, 田中啓之: IgA腎症加療後、ループス腎炎を発症した1例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年10月21日-11月10日.
35. 宮崎貴規, 戸張佑美, 平井俊行, 西田秀範, 藤井徹郎, 長濱清隆: MPGNの組織像を呈し、多飲酒歴から肝性糸球体硬化症と診断した一例. 第51回日本腎臓学会東部学術大会. オンライン. 2021年10月21日-11月10日.
36. 堀秀有, 平田佳史, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 橘啓盛, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 吉池信哉, 藤原正親, 近藤晴彦: 術前化学療法が著効し切除した縦隔原発Yolk sac tumorの1例. 第187回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2021年11月6日.
37. 菅間博: 甲状腺癌病理組織分類と遺伝子変異. 第64回日本甲状腺学会. オンライン. 2021年11月18日.
38. 百村麻衣, 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本憲彦, 岸本浩次, 長濱清隆, 下山田博明, 森徹, 藤原正親, 柴原純二, 小林陽一: 子宮頸部異形成のフォローアップにおける細胞診の検討. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会. オンライン. 2021年11月20日-2022年1月13日.
39. 菅間博: 90分でだいたいわかる甲状腺細胞診の今. 第60回日本臨床細胞学会. 米子. 2021年11月21日.
40. 里見介史, 藤本健二, 有田英之, 山崎夏維, 松下裕子, 中村大志, 宮北康二, 梅原徹, 小林啓一, 田村郁, 田中將太, 樋口美未, 沖田典子, 金村米博, 深井順也, 阪本大輔, 宇田武弘, 前原健寿, 永根基雄, 西川亮, 鈴木博義, 澁谷誠, 小森隆司, 成田善孝, 市村幸一: IDH野生型びまん性星細胞腫は存在するか?. 第39回日本脳腫瘍学会学術集会. 神戸・オンライン. 2021年12月5-7日.
41. 原田耕佑, 關里和, 加藤敦士, 箕輪慎太郎, 三井達也, 河合桐男, 三浦みき, 磯村杏耶, 林玲匡, 川村直弘, 藤原正親, 柴原純二, 古瀬純司, 森秀明, 久松理一. 平滑筋腫術後10年後に多発肝転移として指摘された平滑筋肉腫の一例. 第368回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2022年2月5日.
42. 馬上伊織, 麻生純平, 齊藤正興, 渡邊崇靖, 小田未来, 田島崇, 宇高徹, 森井健司, 磯谷一暢, 藤原正親, 柴原純二, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: ALK陽性肺腺癌に対するALK-TKI治療中に扁平上皮癌

へ形質転換した女性の一例. 第181回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第248回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2022年2月26日.

43. 里見介史: より良いがん遺伝子パネル検査のために. 第4回Cancer Genome Symposium. オンライン. 2022年3月7日.
44. Kaishi Satomi, Hirokazu Takami, Shintaro Fukushima, Satoshi Yamashita, Yuko Matsushita, Yoichi Nakazato, Tomonari Suzuki, Shota Tanaka, Akitake Mukasa, Nobuhito Saito, Masayuki Kanamori, Toshihiro Kumabe, Teiji Tominaga, Keiichi Kobayashi, Motoo Nagane, Toshihiko Iuchi, Koji Yoshimoto, Kaoru Tamura, Taketoshi Maehara, Keiichi Sakai, Kazuhiko Sugiyama, Kiyotaka Yokogami, Hideo Takeshima, Masahiro Nonaka, Akio Asai, Toshikazu Ushijima, Masao Matsutani, Ryo Nishikawa, Koichi Ichimura, On behalf of The Intracranial Germ Cell Tumor Genome Analysis Consortium (The iGCT Consortium): 12p gain is predominantly observed in non-germinomatous germ cell tumors and identifies an unfavorable subgroup of central nervous system germ cell tumors. The 6th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-oncology Societies (WFNOS 2022). Korea・オンライン. 2022年3月24-27日.
45. Kaishi Satomi, Kenji Fujimoto, Hideyuki Arita, Kai Yamasaki, Yuko Matsushita, Taishi Nakamura, Yasuji Miyakita, Toru Umehara, Keiichi Kobayashi, Kaoru Tamura, Shota Tanaka, Fumi Higuchi, Yoshiko Okita, Yonehiro Kanemura, Junya Fukai, Daisuke Sakamoto, Takehiro Uda, Taketoshi Maehara, Motoo Nagane, Ryo Nishikawa, Hiroyoshi Suzuki, Makoto Shibuya, Takashi Komori, Yoshitaka Narita, Koichi Ichimura: DNA methylome analysis suggested the presence of “true” IDH-wildtype lower-grade gliomas. The 6th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-oncology Societies (WFNOS 2022). Korea・オンライン. 2022年3月27日.

論 文

1. Momose H¹, Suzuki Y¹, Shibahara J, Sakamoto Y¹ (¹Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital): Metastatic renal cell carcinoma to the pancreas with tumor thrombus in the main pancreatic duct. *Jpn J Clin Oncol*. 51(4). 662-663. 2021.
2. Habiba U¹, Sugino H¹, Yordanova R¹, Ise K¹, Tanei ZI¹, Ishida Y¹, Tanikawa S¹, Terasaka S², Sato KI³, Kamoshima Y⁴, Katoh M⁵, Nagane M⁶, Shibahara J, Tsuda M¹, Tanaka S¹ (¹Hokkaido University, ²Kashiwaba Neurosurgical Hospital, ³Nakamura Memorial Hospital, ⁴Asabu Neurosurgical Hospital, ⁵Hokkaido Neurosurgical Memorial Hospital, ⁶Department of Neurosurgery): Loss of H3K27 trimethylation is frequent in IDH1-R132H but not in non-canonical IDH1/2 mutated and 1p/19q codeleted oligodendroglioma: a Japanese cohort study. *Acta Neuropathol Commun*. 9(1). 95. 2021.
3. Hirose G¹, Uchida T¹, Kojima A¹, Sugisaki K¹, Yamada M¹, Nagase Y², Takaki T², Nagahama K, Oda T¹ (¹Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ²Showa University School of Medicine): Membranous Nephropathy With Monoclonal IgM Lambda Deposits in a Patient With IgM Monoclonal Gammopathy: A Case Report. *Frontiers in Medicine*. 8. 608741. 2021.
4. 渋谷英里子¹, 百村麻衣¹, 西ヶ谷順子¹, 松本浩範¹, 坂本憲彦, 岸本浩次, 下山田博明, 柴原純二, 小林陽一¹(¹産科婦人科学): 外陰部基底細胞癌の1例. 日本臨床細胞学会雑誌. 60(5). 260-265. 2021.
5. 藤原正親, 菅間博: 第8版甲状腺癌取り扱い規約における第4版WHO分類の境界悪性腫瘍の取扱い. 日本内分泌外科学会雑誌. 38(1). 23-27. 2021.
6. Makise N¹, Mori T², Motoi T³, Shibahara J, Ushiku T¹, Yoshida A¹ (¹The University of Tokyo, ²National Cancer Center Hospital, ³Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Disease Center Komagome Hospital): Recurrent FOS rearrangement in proliferative fasciitis/proliferative myositis. *Mod Pathol*. 34(5). 942-950. 2021.
7. Wada H^{1,2}, Nakamura M^{2,3}, Inoue SI⁴, Kudo A⁵, Hanawa T⁶, Iwakura Y⁷, Kobayashi F⁸, Kamma H, Kamiya S⁶, Ito K⁹, Barnes PJ⁹, Takizawa H² (¹Juntendo University, ²Department of Respiratory Medicine, ³Nakamura Clinic, ⁴Nagasaki University, ⁵Department of Microscopic Anatomy, ⁶Department of Infectious Diseases, ⁷Division of Animal Immunology, ⁸Department of Environmental Science, ⁹Imperial College London): Dual interleukin-17A/F deficiency protects against acute and chronic response to cigarette smoke exposure in mice. *Sci Rep*. 11(1). 11508. 2021.
8. Hayashi A, Hong J¹, Iacobuzio-Donahue CA¹. (¹Memorial Sloan Kettering Cancer Center): The pancreatic cancer genome revisited. *Nat Rev Gastroenterol Hepatol*. 18(7). 469-481. 2021.
9. Watanabe S¹, Toki M¹, Shibahara J, Hisamatsu T¹ (¹Department of Gastroenterology and Hepatology): Utility of endoscopic transpapillary pancreatic cyst drainage for intraductal papillary mucinous neoplasm infection. *BMJ Case Rep*. 14(6). e242583. 2021.
10. Taguchi S¹, Morikawa T², Shibahara J, Fukuhara H¹ (¹Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ²NTT Medical Center Tokyo) Prognostic significance of tertiary Gleason pattern in the contemporary era of Gleason grade grouping: A narrative review. *Int J Urol*. 28(6). 614-621. 2021.
11. John T¹, Kawano H¹, Hirokawa T, Shibahara J, Hirano T¹ (¹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine): Intracerebral hemorrhaging due to coagulopathy caused by latent advanced prostate cancer. *Intern Med*. 60(11). 1763-1767. 2021.
12. Fujima M¹, Kobayashi Y¹, Watanabe M¹, Shibuya H¹, Matsumoto H¹, Nishigaya Y¹, Momomura M¹, Yoshiike S, Nagahama K, Shibahara J, Suzuki A² (¹Department of Obstetrics and Gynecology, ²Kosei Hospital): A Case of Metastatic Uterine Tumor Originating from Small-Cell Lung Cancer (SCLC) Mimicking Uterine Sarcoma. *Case Rep*

- Obstet Gynecol. 2021. DOI: 10.1155/2021/1809017.
13. Shirai K^{1,2}, Nagae G¹, Seki M^{1,3}, Kudo Y¹, Kamio A¹, Hayashi A, Okabe A^{1,3}, Ota S¹, Tsutsumi S¹, Fujita T¹, Yamamoto S¹, Nakaki R¹, Kanki Y⁴, Osawa T¹, Midorikawa Y⁵, Tateishi K¹, Ichinose M^{2,6}, Aburatani H¹ (¹The University of Tokyo, ²Wakayama Medical University, ³Chiba University, ⁴University of Tsukuba, ⁵Nihon University School of Medicine, ⁶Teikyo University): TET1 upregulation drives cancer cell growth through aberrant enhancer hydroxymethylation of HMGA2 in hepatocellular carcinoma. *Cancer Sci.* 112(7). 2855-2869. 2021.
 14. Yoshida A¹, Satomi K, Kobayashi E¹, Ryo E², Matsushita Y^{2,3}, Narita Y¹, Ichimura K^{2,3}, Kawai A¹, Mori T^{1,2} (¹National Cancer Center Hospital, ²National Cancer Center Research Institute, ³Juntendo University): Soft-tissue sarcoma with MN1-BEND2 fusion: A case report and comparison with astroblastoma. *Genes Chromosomes Cancer.* 2022. Epub.
 15. Asaga S¹, Tsuchiya A¹, Ishizaka Y¹, Miyamoto K¹, Ito H¹, Isaka H¹, Chiba T², Imoto S², Kamma H (¹Department of Breast Surgery, ²The Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research): Long-term results of fluorescence and indigo carmine blue dye-navigated sentinel lymph node biopsy. *Int J Clin Oncol.* 26(8). 1461-1468. 2021.
 16. Nakanishi K¹, Kawano H¹, Yamagishi Y², Kamma H, Shiokawa Y², Hirano T¹ (¹Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, ²Department of Neurosurgery): Tumor cells detected in retrieved thrombus: Cancer-associated stroke. *Intern Med.* 60(15). 2491-2494. 2021.
 17. Kariyasu T¹, Machida H¹, Nishina Y², Tambo M³, Miyagawa S³, Rakue T², Sumitani Y², Yasuda K², Shibahara J, Yokoyama K¹ (¹Department of Radiology, ²Department of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, ³Department of Urology): Emergent transcatheter arterial embolization to control critical blood pressure fluctuation associated with hypercatecholaminemic crisis in a patient with an unruptured retroperitoneal paraganglioma. *Radiol Case Rep.* 16(8). 2065-2071. 2021.
 18. Mikura S¹, Saraya T¹, Yoshida Y¹, Oda M¹, Ishida M¹, Honda K¹, Nakamoto K¹, Tamura M¹, Takata S¹, Shimoyamada H, Fujiwara M, Ishii H¹ (¹Department of Respiratory Medicine): Successful Treatment of Mepolizumab- and Prednisolone-resistant Allergic Bronchopulmonary Aspergillosis with Dupilumab. *Intern Med.* 60(17). 2839-2842. 2021.
 19. Nagae G¹, Yamamoto S¹, Fujita M², Fujita T¹, Nonaka A¹, Umeda T¹, Fukuda S¹, Tatsuno K¹, Maejima K², Hayashi A, Kurihara S³, Kojima M³, Hishiki T⁴, Watanabe K⁵, Ida K⁶, Yano M⁷, Hiyama Y⁸, Tanaka Y⁹, Inoue T¹⁰, Ueda H¹, Nakagawa H², Aburatani H¹, Hiyama E^{3,8} (¹The University of Tokyo, ²RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, ³Hiroshima University Hospital, ⁴Chiba University Graduate School of Medicine, ⁵Shizuoka Children's Hospital, Shizuoka, ⁶Teikyo University Mizonokuchi Hospital, ⁷Akita University Hospital, ⁸Hiroshima University, ⁹Kanagawa Children's Medical Center, ¹⁰Osaka City General Hospital): Genetic and epigenetic basis of hepatoblastoma diversity. *Nat Commun.* 12(1). 5423. 2021.
 20. Kitamura J¹, Taguchi S¹, Okegawa T¹, Honda K¹, Kii T¹, Tomida Y¹, Matsumoto R¹, Ninomiya N¹, Masuda K¹, Nakamura Y¹, Yamaguchi T¹, Kinjo M¹, Tambo M¹, Isomura A, Hayashi A, Kamma H, Higashihara E², Shibahara J, Fukuhara H¹. (¹Department of Urology, ²Department of ADPKD Research): Genomic analysis of circulating tumor cells in adenocarcinoma of the prostate: a case report. *BMC Med Genomics.* 14(1). 217. 2021.
 21. Mikura S¹, Saraya T¹, Yoshida Y¹, Oda M¹, Ishida M¹, Honda K¹, Nakamoto K¹, Tamura M¹, Takata S¹, Shimoyamada H, Fujiwara M, Ishii H¹ (¹Department of Respiratory Medicine): Successful Treatment of Mepolizumab- and Prednisolone-resistant Allergic Bronchopulmonary Aspergillosis with Dupilumab. *H. Intern Med.* 60(17). 2839-2842. 2021.
 22. 小島薫子, 近藤凡子, 住石歩, 菅間博: 【検査ごとに学ぶ 甲状腺疾患へのアプローチ】検査領域別に見たアプローチ 病理・細胞診検査. *Medical Technology.* 49(9). 954-963. 2021.
 23. 林玲匡, 柴原純二: 膝管癌における最近の分子病理学的知見. *診断病理.* 38(4). 365-373. 2021.
 24. 柴原純二: 病理診断と病理解剖に関わる法令. *病理と臨床.* 39(9). 862-868. 2021.
 25. 市川洋平¹, 細井温¹, 笹嶋寛史¹, 藤巻圭介¹, 大森嘉彦, 菅間博, 布川雅雄¹, 窪田博¹ (¹心臓血管外科): 膝窩動脈捕捉症候群に対して大伏在静脈グラフトを用いて膝窩動脈置換術を実施した10代女児の1手術例. *血管外科.* 40(1). 69-75. 2021.
 26. 麻生喜祥¹, 小島洋平¹, 大木亜津子¹, 竹内弘久¹, 鈴木裕¹, 阪本良弘¹, 磯村杏耶, 柴原純二, 阿部展次¹ (¹消化器・一般外科): 十二指腸乳頭部の臨床解剖. *消化器内視.* 34(1). 12-19. 2022.
 27. 中崎佑介¹, 松山隆生¹, 清水康博¹, 三宅謙太郎¹, 日比谷孝志, 藪下泰宏¹, 本間祐樹¹, 熊本宜文¹, 奥寺康司¹, 遠藤格¹ (¹横浜市大): 胆嚢転移を認めた肝内胆管癌の1切除例. *日消外会誌.* 54(10). 703-710. 2021.
 28. 秋山信助¹, 小澤真由美¹, 中川和也¹, 渡邊純², 石部敦士¹, 日比谷孝志, 遠藤格¹ (¹横浜市大, ²横浜市大センター病院): 腹腔鏡下結腸切除を行った分節性動脈中膜融解症による左結腸動脈瘤の1例. *日臨外会誌.* 82(12). 2246-2251. 2021.
 29. Morimoto N¹, Nagahama K, Oyama S², Tsuura Y¹, Fukutomi T³, Terai A¹, Tanabe M¹, Otani M¹, Shioji S¹, Hirasawa S¹, Aki S¹, Aoyagi M¹, Tanaka H¹ (¹Yokosuka Kyosai Hospital, ²Tokyo Medical and Dental University, ³Department of Pharmacology and Toxicology): Immunotactoid glomerulonephritis in a patient with cold agglutinins: causal association or mere coincidence? *CEN Case Reports.* 10(4). 515-522. 2021.

30. Morimoto N¹, Nagahama K, Mori T², Fujimaru T², Tsuura Y¹, Terai A¹, Tanabe M¹, Otani M¹, Shioji S¹, Hirasawa S¹, Aki S¹, Aoyagi M¹, Sohara E², Uchida S², Tanaka H¹ (¹Yokosuka Kyosai Hospital, ²Tokyo Medical and Dental University) : A Novel LMX1B Variant Identified in a Patient Presenting with Severe Renal Involvement and Thin Glomerular Basement Membrane. *Nephron*. 145(6). 776-782. 2021.
31. Okabe N¹, Fujiwara M, Tachibana K², Tanaka R², Kondo H², Kamma H (¹Jichi Medical University Saitama Medical Center, ²Department of Thoracic and Thyroid Surgery): STAT3 activation in thymic epithelial tumors: correlation with cyclin D1, JAK3, and clinical behavior. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 69(11). 1482-1491. 2021.
32. Okabe N¹, Kobayashi T², Furuse J³, Fujiwara M, Kamma H (¹Jichi Medical University Saitama Medical Center, ²Home Clinic for Everyone, ³Department of Medical Oncology): An autopsy case study of lymphocytic hypophysitis induced by nivolumab treatment for esophageal malignant melanoma. *Pathol Int*. 71(12). 831-836. 2021.
33. Shimoda-Komatsu Y¹, Ida Y², Noda A³, Oda M³, Shimoda M⁴, Shimoyamada H, Narita Y¹, Ohyama M¹ (¹Department of Dermatology, ²Division of Clinical Laboratory, ³Department of Respiratory Medicine, ⁴Fukujuji Hospital): Histological assessment of granuloma formation for the management of cutaneous Mycobacterium chelonae infection. *J Dermatol*. 49(1). e32-e33. 2022.
34. Saraya T¹, Ogawa Y¹, Nakamoto K¹, Fujiwara M, Ishii H¹ (¹Department of Respiratory Medicine): Pulmonary Involvement in Microscopic Polyangiitis: Computed Tomography Findings in 55 Patients With Analysis of Risk Factors for Recurrence. *Cureus*. 14(1). e21285. 2022.
35. Saraya T¹, Ohkuma K¹, Fujiwara M, Ishii H¹ (¹Department of Respiratory Medicine): Diagnostic method for malignant pleural effusion distinguishing malignant mesothelioma from lung cancer using pleural carcinoembryonic antigen and hyaluronic acid levels. *Medicine (Baltimore)*. 101(1). e28517. 2022.
36. Kawada M¹, Yokoi H¹, Kimura T², Matsumoto Y¹, Sakurai H², Matsumoto K³, Fujiwara M, Saito K¹ (¹Department of Otorhinolaryngology, ²Department of Pharmacology and Toxicology, ³National Research Institute for Child Health and Development): Involvement of galanin and galanin receptor 2 in a mouse model of allergic rhinitis. *Allergol Int*. 71(1). 83-93. 2022.
37. 麻生 喜祥¹, 小島 洋平¹, 大木 亜津子¹, 竹内 弘久¹, 鈴木 裕¹, 阪本 良弘¹, 磯村 杏耶¹, 柴原 純二¹, 阿部 展次¹ (¹消化器外科) : 【内視鏡的乳頭切除術まるわかり】十二指腸乳頭部の臨床解剖. 消化内視鏡. 34(1). 12-19. 2022.
38. Kamma H, Kameyama K¹, Kondo T², Imamura Y³, Nakashima M⁴, Chiba T⁵, Hirokawa M⁶ (¹Showa University Northern Yokohama Hospital, ²University of Yamanashi, ³University of Fukui Hospital, ⁴Nagasaki University, ⁵The Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ⁶Kuma Hospital): Pathological diagnosis of general rules for the description of thyroid cancer by Japanese Society of Thyroid Pathology and Japan Association of Endocrine Surgery. *Endocr J*. 69(2). 139-154. 2022.
39. Shibuya Y¹, Machida H², Yoshiike S, Suda K¹, Tanaka R¹, Fujiwara M, Yokoyama K², Kondo H¹ (¹Department of Thoracic and Thyroid Surgery, ²Department of Radiology): Pulmonary Artery Aneurysm Diagnosed by Dynamic Digital Chest Radiography. *Ann Thorac Surg*. 113(2). e87-e90. 2022.
40. Ohki A¹, Koba T¹, Tsurumi M¹, Hashimoto Y¹, Nagao G¹, Takeuchi H¹, Okano N², Fujiwara M, Shibahara J, Abe N¹ (¹Department of Gastroenterological and General Surgery, ²Department of Medical Oncology): Early-stage gastric cancer with solitary brain metastasis four years after curative surgery: a case report and literature review. *Clin J Gastroenterol*. 15(1). 90-94. 2022.
41. Morimoto N¹, Nagahama K, Tsuura Y¹, Terai A¹, Tanabe M¹, Otani M¹, Shioji S¹, Hirasawa S¹, Aki S¹, Aoyagi M¹, Tanaka H¹ (¹Yokosuka Kyosai Hospital) : Membranous nephropathy in a patient with pulmonary tuberculosis infection and lung adenocarcinoma: a case report. *CEN Case Rep*. 11(1). 126-133. 2022.
42. 李惠玲¹, 福岡利仁¹, 國友理恵¹, 下田佐知子¹, 兵藤智夏², 久木元光¹, 小林知志¹, 佐藤由利子¹, 竹森愛¹, 宮本彩子¹, 小澤祐子¹, 磯村杏耶¹, 川上貴久¹, 駒形嘉紀¹, 要伸也¹ (¹腎臓・リウマチ膠原病内科, ²世田谷膠原病リウマチクリニック) : 透析困難症の原因として心アミロイドーシス合併が考えられた1例. 日透析医学会誌. 55 (3) . 193-200. 2022.

著 書

1. 菅間博, 亀山香織, 今村好章, 近藤哲夫, 中島正洋, 廣川満良 (共著) : 甲状腺癌取扱い規約第8版中国語版. 辽宁科学技术出版社. 2021.

その他

1. 林玲匡 : 日本膵臓病研究財団 令和3年度膵臓病研究奨励賞「膵癌における腫瘍内メチル化変動遺伝子とその病理形態学的意義の探索」.

感染症学教室

講 演

1. 新倉保, 朝日博子, 井上信一, 小林富美恵 : マウスモデルを用いた授乳期特異的なマラリア病態の解明. 第90回日本寄生虫学会. 奈良. 2021年4月16日.
2. 花輪智子, 松田剛明 : 宿主免疫を介した黄色ブドウ球菌ファージphiMR003の効果の解析. 第95回日本感染症学会学術講演会. 2021年5月7-9日.
3. 平塚智也, 楠原光謹, 宮本尚彦, 羽田裕, 神保陽子, 大野亜希子, 新倉保, 三戸部治郎, 久松理一 : ミトコンドリア遺伝子解析で診断された日本海裂頭条虫の一例. 第366回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2021年9月18日.
4. 米澤英雄, 北条史, 大崎敬子, 神谷茂 : 口腔内細菌が産生するlantibioticsは腸内dysbiosisの原因と

なる可能性の検討. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.

5. 北条史, 米澤英雄, 神谷茂, 大崎敬子: Analysis of gastric microflora in *Helicobacter pylori* infected MPS mice. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.
6. 沖本忠義, 安藤貴志, 小野尚子, 小林寅祐, 佐々木誠人, 珍田大輔, 徳永健吾, 中島滋美, 村上和成, 大崎敬子: わが国における薬剤耐性 *Helicobacter pylori* の現状-2018~2020年度耐性菌サーベイランスの集計報告-. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.
7. 林 俊治, 横田憲治, 大崎敬子, 横田伸一, 竹内啓晃, 林原絵美子: 薬剤耐性 *Helicobacter pylori* 菌株の基準パネル. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.
8. 大崎敬子: *Helicobacter* 属の基礎研究. 第6回日本ヘリコバクター学会教育講演会. オンライン. 2022年1月11-25日.
9. 花輪智子, 須田智也, 田中真由子, 丹治保典, 宮永一彦, 松田剛明: MRSA創傷感染に対するバクテリオファージの影響. 日本ファージセラピー研究会第1回研究集会. オンライン. 2021年11月13日.
10. Le Nhat Minh, Tomoya Suda, Mayuko Tanaka, Yasunori Tanji, Kazuhiko Miyanaga, Tomoko Hanawa, Takeaki Matsuda: Bacteriophages isolated from domestic sewage influent and sensitivities to extended-spectrum beta-lactamase producing *Escherichia coli* strain. 日本ファージセラピー研究会第1回研究集会. オンライン. 2021年11月13日.
11. 大崎敬子: 細菌学の分野をベースにした腸内細菌叢の最新情報. 日本腸内環境栄養学会設立記念講演会. オンライン. 2021年11月14日.
12. 石井さなえ, 三島由祐子, 浅野妃南, 大崎敬子: 新生仔鼻腔炎症に起因する腸内細菌叢の変動と脳組織損傷. 第55回日本無菌生物ノートバイオロジー学会学術集会. オンライン. 2022年1月22-23日.
13. 三戸部治郎, 米澤英雄, 花輪智子, 大崎敬子: バクテリアの形態形成に必須な RodZ による転写後調節 2. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.
14. 後藤雅貴, 桑江朝臣, 花輪智子, 阿部章夫: 気管支敗血症が産生する Bcr4 による III 型分泌装置制御機構の解析. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.
15. Le Nhat Minh, Tomoya Suda, Mayuko Tanaka, Shota Yonetani, Takeaki Matsuda and Tomoko Hanawa: Characteristics of *E. coli* isolated from urinary tract infections at the Kyorin University Hospital. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.
16. 花輪智子, Le Nhat Minh, 須田智也, 田中真由子, 丹治保典, 宮永一彦, 松田剛明: 臨床分離株を用いた ESBL 産生大腸菌ファージの単離と感受性解析. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.
17. 北条史, 米澤英雄, 神谷茂, 岡健太郎, 高橋志達, 花輪智子, 三戸部治郎, 大崎敬子: MPS マウス *Helicobacter pylori* 感染モデルを用いた胃内細菌叢の変化について. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.
18. 新倉保: 寄生虫感染症の臨床ならびにその検査法.

第15回寄生虫検査法技術講習会. オンライン. 2021年7月25日.

19. 大崎敬子: 腸内細菌叢を整え健やかな毎日を. 稲城市「いきいきシニアライフ講座」. 稲城市立第2公民館. 2021年10月21日, 28日.

論文

1. Wada H^{1,2}, Nakamura M^{3,4}, Inoue SI⁵, Kudo A⁶, Hanawa T, Iwakura Y⁷, Kobayashi F⁸, Kamma H⁹, Kamiya S, Ito K¹⁰, Barnes PJ¹⁰, Takizawa H³ (¹Juntendo University, ²Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Nakamura Clinic, ⁵Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University, ⁶Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁷Tokyo University of Science, ⁸Azabu University, ⁹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ¹⁰National Heart and Lung Institute, Imperial College London): Dual interleukin-17A/F deficiency protects against acute and chronic response to cigarette smoke exposure in mice. Scientific reports. 11(1):11508. 2021.
2. 須田智也¹, 花輪智子, 海田賢彦², 長谷川浩¹, 山口芳裕², 松田剛明² (¹杏林大学医学部総合医療学, ²杏林大学医学部救急医学): 脆弱性恥骨骨折後に生じた化膿性恥骨骨髓炎および左大腿内転筋膿瘍から敗血症性ショックに至った1例. 日本救急医学会雑誌. 32(7). 357-63. 2021.
3. Niikura M, Fukutomi T¹, Mitobe J, Kobayashi F² (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ²Azabu University): Roles and cellular localization of GBP2 and NAB2 during the blood stage of malaria parasites. Frontiers in Cellular and Infection Microbiology. 11. 737457. 2021.
4. Niikura M, Fukutomi T¹, Mineo S², Mitobe J, Kobayashi F³ (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Medical University, ³Azabu University): Malaria in the postpartum period causes damage to the mammary gland. PLOS ONE. 16(10). e0258491. 2021.
5. Niikura M, Fukutomi T¹, Mineo S², Mitobe J, Kobayashi F³ (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Medical University, ³Azabu University): The association between acute fatty liver disease and nitric oxide during malaria in pregnancy. Malar J. 20. 462. 2021.
6. 高木泰介¹, 大崎敬子 (¹杏林大学医学部消化器一般外科学): 胃切除モデルラットを試用した胃癌術後の体重減少とマイクロバイオータの検討. 無菌生物. 51巻2号. 37-38. 2021.
7. Osaki T, Lin, Y¹, Sasahira N², Ueno M³, Yonezawa H, Hojo F⁴, Okuda M⁵, Matsuyama M², Sasaki T², Kobayashi S³, Tezuka S³, Tanaka K⁶, Dan N⁶, Kuruma S⁷, Egawa N⁸, Kamiya S & Kikuchi S¹ (¹Aichi Medical University School of Medicine, ²Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴Institute of Laboratory Animals, Graduate School of

Medicine, Kyorin University, ⁵Hyogo College of Medicine, ⁶Tokyo Metropolitan Ohtsuka Hospital, ⁷Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ⁸Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital) Prevalence estimates of *Helicobacter* species infection in pancreatic and biliary tract cancers. *Helicobacter*. 27(1). e12866. 2022.

8. Yokota, K¹, Osaki T, Hayashi S², Yokota SI³, Takeuchi H⁴, Rimbara E⁵, Ojima H¹, Sato T³, Yonezawa H, Shibayama K⁶, Tokunaga K⁷, Kamiya S, Murakami K⁸, Kato M⁹, & Sugiyama T¹⁰(¹Okayama University, ²Kitasato University, ³Sapporo Medical University, ⁴International University of Health and Welfare, ⁵National Institute of Infectious Diseases, ⁶Nagoya University, ⁷Department of General Medicine, ⁸Oita University, ⁹National Hospital Organization National Hakodate Hospital, ¹⁰Hokkaido University Hospital): Establishment of a reference panel of *Helicobacter pylori* strains for antimicrobial susceptibility testing. *Helicobacter*. 27(3). e12874. 2022.
9. 大崎敬子, 菅原大輔¹, 大野亜希子², 楠原光謹², 蔵田訓³, 米澤英雄, 徳永健吾⁴(¹杏林大学医学部顕微解剖学, ²杏林大学医学部消化器内科学, ³杏林大学保健学部臨床検査技術学科, ⁴杏林大学医学部総合医療学): 胃癌予防をめざした胃内細菌叢の研究. 杏林医学会雑誌. 53巻No1. s 1-4. 2022.

報告書

1. 三戸部治郎(分担): アジア各国の感染症研究機関とのネットワーク構築による共同研究推進に関する研究. 令和2年度医療研究開発推進事業費補助金実績報告書(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業. 2021年5月31日.

その他

1. 福井花菜, 新倉保: 杏林医学会第10回学生リサーチ賞受賞報告「赤血球感染期のマラリア原虫におけるG-strand Binding Protein 2の役割」. 杏林医学会雑誌. 52(2). s9-10. 2021.

衛生学公衆衛生学教室

講演

1. 吉田正雄: 新型コロナウイルスワクチンの問診および接種の注意点. 中央大学. 八王子市・オンライン. 2021年6月22日.
2. 白土健, 高成準, 木崎節子: SARS-CoV-2スパイクタンパク質によるマクロファージの炎症性応答に対するETAS(R)50の抑制効果. 第75回日本栄養・食糧学会大会. オンライン. 2021年7月3-4日.
3. 佐々木美幸, 津久井清美, 岳眞一郎, 吉田正雄: 医療療養型病院の地域包括ケア病棟における退院支援の実践. 第62回全日本病院学会in岡山. 岡山・オンライン. 2021年8月22日.
4. 田村憲治, 原邦夫, 佐々木俊介, 荻田香苗, 矢野栄二. 測定局におけるPM_{2.5}とSPM測定値の関係について. 第62回大気環境学会. オンライン. 2021年9月16日.
5. 櫻井拓也, 福富俊之, 山本幸子, 野崎江里子, 木崎節子: 運動は肥満によるマウス褐色脂肪組織におけるブラウンアディポカインの発現異常を減弱する. 第76回日本体力医学会大会. オンライン. 2021年9月17-19日.
6. 荻田香苗: コロナ禍の先を見据えたワーク・ライフ

・バランスのすすめ. 福島県立医科大学男女共同参画推進員研修会. オンライン. 2021年9月29日.

7. 大塚弘毅, 荻田慎一, 松島五月, 山崎聡子, 岸野智則, 荻田香苗, 大西宏明, 渡邊卓: RAD50機能喪失変異による発癌性を検証するメダカ発癌実験. 第68回日本臨床検査医学会学術集会. 富山・オンライン. 2021年11月11日.
8. 白土健, 木崎節子: マクロファージの誘導型一酸化窒素合成酵素とアルギナーゼの基質競合におけるO-結合型N-アセチルグルコサミン転移酵素の役割. 第50回杏林医学会総会. オンライン. 2021年11月20日.
9. 福室自子, 荻田慎一, 吉田正雄, 荻田香苗: COVID-19流行下におけるプラスチック類廃棄物の環境汚染問題に関する文献レビュー. 第80回日本公衆衛生学会総会. 東京・オンライン. 2021年12月21-23日.
10. 荻田香苗, 荻田慎一: マイクロプラスチック環境汚染の課題. 第80回日本公衆衛生学会総会(シンポジウム4). 東京. 2021年12月21日.
11. 荻田香苗: 鉛に係る健康影響評価について - 食品安全委員会報告 -. 第80回日本公衆衛生学会総会(教育講演5). 東京. 2021年12月22日.
12. 鈴木裕, 吉田正雄, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤澤聡郎, 田妻進, 伊佐山浩通, 田中篤: 二次性肝内結石における治療モダリティ別の短期・長期成績. 難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」令和3年度第二回総会. オンライン. 2022年1月15日.
13. 鈴木裕, 吉田正雄, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤澤聡郎, 田妻進, 伊佐山浩通, 田中篤: 肝内結石症肝切除後の異時性肝内胆管癌発生に関する疫学研究. 難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」令和3年度第二回総会. オンライン. 2022年1月15日.
14. Nomiyama T, Horie S, Ichiba M, Karita K, Miyagawa M, Morimoto Y, Takeshita T, Yamano Y: Current status of Occupational Exposure Limits (OELs) for chemical substances and physical hazards recommended by the Japan Society for Occupational Health (JSOH). 33rd International Congress on Occupation Health (ICOH). Digital Congress. 2022, Feb.8.
15. 白土健, 木崎節子: マクロファージのNO産生におけるO-結合型N-アセチルグルコサミン転移酵素の生理的役割. 第92回日本衛生学会学術総会. オンライン. 2022年3月21-23日.
16. 櫻井拓也, 福富俊之, 山本幸子, 野崎江里子, 木崎節子: 運動は肥満によるブラウンアディポカインの発現異常を減弱する. 第92回日本衛生学会学術総会. オンライン. 2022年3月21-23日.
17. 白土健, 高成準, 木崎節子: SARS-CoV-2 Sタンパク質によるマクロファージのIL-6/18発現誘導に対するEASの阻害機序. 第92回日本衛生学会学術総会. オンライン. 2022年3月21-23日.
18. 荻田慎一, 吉田正雄, 荻田香苗: 経口摂取されたマイクロプラスチックから溶出する化学物質と生態影響への検討. 第92回日本衛生学会学術総会. オンライン. 2022年3月21-23日.
19. 小笠原準悦, アリムアミラ, 白土健, 吉田貴彦: 3T3-L1脂肪細胞のキャラクターはヘキサクロロシクロヘキサンにより変化する. 第92回日本衛生学会学術総会. オンライン. 2022年3月21-23日.

論文

1. Sakurai T, Fukutomi T¹, Yamamoto S², Nozaki E³, Kizaki T (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of

Medicine, ²Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, ³Core Laboratory for Proteomics and Genomics, Kyorin University School of Medicine): Physical activity attenuates the obesity-induced dysregulated expression of brown adipokines in murine interscapular brown adipose tissue. *Int. J. Mol. Sci.* 22 (19). 10391. 2021.

- Shirato K, Takanari J¹, Kizaki T (¹Amino Up Co., Ltd.): Standardized extract of *Asparagus officinalis* stem attenuates SARS-CoV-2 spike protein-induced IL-6 and IL-18 production by suppressing p44/42 MAPK and Akt phosphorylation in murine primary macrophages. *Molecules*. 26(20). 6189. 2021.
- Shirato K, Sato S¹ (¹Center for Biological Clocks Research.): Macrophage meets the circadian clock: Implication of the circadian clock in the role of macrophages in acute lower respiratory tract infection. *Front Cell Infect Microbiol.* 12. 826738. 2022.
- Seki H¹, Kuratani N², Shiga T³, Iwasaki Y⁴, Karita K, Yasuda K⁵, Yoroze T¹ (¹Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ²Saitama Children's Medical Center, ³International University of Health and Welfare Ichikawa Hospital, ⁴Tohoku University, ⁵Department of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Kyorin University School of Medicine): Multicentre prospective observational study of sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated postoperative ketoacidosis: the SAPKA study protocol. *BMJ Open*. 11(11): e049592. 2021.
- Miyamoto M¹, Nagase M², Watanabe I¹, Nakagawa H¹, Karita K, Tsuji DH³, Montagnoli AN⁴, Matsumura G², Saito K¹ (¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³University of São Paulo School of Medicine, ⁴Federal University): Excised human larynx in N-vinyl-2-pyrrolidone-embalmed cadavers can produce voiced sound by pliable vocal fold vibration. *Anatomical Science International*. 2022. DOI: 10.1007/s12565-021-00646-3. Online ahead of print.
- Takeuchi M¹, Meguro A¹, Yoshida M, Yamane T¹, Yatsu K², Okada E³, Mizuki N¹ (¹Yokohama City University Graduate School of Medicine, ²Yokohama City University School of Medicine, ³Okada Eye Clinic): Longitudinal analysis of 5-year refractive changes in a large Japanese population. *Sci Rep*. 12(1). 2879. 2022.

著書

- 荻田香苗 (分担翻訳): PART III 第6部 女性の健康の社会的決定要因・49章: 社会政策は女性とその子どもの健康に影響を与えるか. 女性と健康の百科事典 (全4巻). 女性と健康の百科事典翻訳刊行編集委員会編. 丸善出版. 2022. 733-749.
- 荻田香苗 (分担執筆): Minamata Disease. In: *Overcoming Environmental Risks to Achieve Sustainable Development Goals*. Eds. Nakajima T, Nakamura K, Nohara K, Kondoh A. Springer. 2022. 9-19.
- 荻田香苗 (分担執筆): 保健編6章ー健康と環境. 中学校保健体育教師用指導書. 大日本図書. 2021.

147-185.

- 吉田正雄 (分担執筆): 第115回医師国家試験解説. メディックメディア. 2021.
- 吉田正雄 (分担執筆): メディックメディア医師国試模試2021 (電子メディア). メディックメディア. 2021.
- 吉田正雄 (分担執筆): 食習慣. エssenシャル 社会・環境と健康第2版第12刷. 高島豊, 櫻井裕編. 医歯薬出版. 2022. 111-114.
- 吉田正雄 (分担執筆): 学校保健対策. エssenシャル 社会・環境と健康第2版第12刷. 高島豊, 櫻井裕編. 医歯薬出版. 2022. 237-242.

報告書

- 荻田香苗, 荻田慎一 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等による健康影響に関する総合的研究)」。令和3年度環境省委託業務報告書. 2022. 1-45.
- 白土健, 木崎節子: 運動の抗炎症効果におけるマクロファージのインスリン感受性低下の生理的意義. 公益財団法人中富健康科学振興財団第32回研究助成業績集令和3年版. 2021. 1-4.

その他

- 荻田香苗: ポストコロナ時代のジェンダー平等社会の実現・「黄金の3割」を目指して. 日本健康学会誌 88(1): 1-2, 2022.
- 荻田慎一: 体内に入ったマイクロプラスチックビーズの生体への影響を透明メダカの観察により明らかに. 医学部の基礎研究や臨床研究について. 杏林大学案内 2022. p.65.
- 荻田慎一 (資料提供): 夏休みおすすめ実験, 飼育が簡単! 自由研究にもぴったり! メダカはどう飼う? 何食べる?. 文: 山村紳一郎. 監修: 成瀬清 (基礎生物学研究所特任教授). 子供の科学 第84巻8号. (株) 誠文堂新光社. 2021.

法医学教室

講演

- 山田真嗣, 武市敏明, 北村修: パラコート肺形成過程の検討: 亜急性期動物モデルの確立を目指して. 第62回日本組織細胞化学会総会. オンライン. 2021年9月26日.
- 武市敏明, 山田真嗣, 桐生京佳, 吉田昌記, 高篠智, 高橋かすみ, 北村修: 致死性不整脈が推定された心臓組織における Connexin43 の脱リン酸化比を用いた免疫組織学的解析. 第105次日本法医学会学術全国集会. オンライン. 2021年10月4日-2021年10月31日.
- 高木徹也, 山田千歩, 奈良明奈, 吉田昌記, 岩原香織: ネグレクトが疑われた無甲状腺症の高齢女性の一剖検例. 第105次日本法医学会学術全国集会. オンライン. 2021年10月4日-2021年10月31日.
- 奈良明奈, 山田千歩, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也: 海外製の三環系抗うつ剤を含む多剤併用による急性薬物中毒死の一剖検例. 第105次日本法医学会学術全国集会. オンライン. 2021年10月4日-2021年10月31日.
- 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 高橋かすみ, 北村修: Double right coronary artery: 重複右冠動脈の剖検例. 第105次日本法医学会学術全国集会. オンライン. 2021年10月4日-2021年10月31日.

- 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 高橋かすみ, 北村修: Pulmonary capillary hemangiomatosis: 肺毛細血管腫症の剖検例. 第90回日本法医学会学術関東地方集会. オンライン. 2021年10月9日.
- 北村修, 山田真嗣: 多摩地域の登録検案医確保及び検案業務サポート事業. 令和3年度第2回検案業務サポート研修会. 三鷹市. 2021年10月27日.

論 文

- Yamada A¹, Unuma K¹, Arai N², Kitamura O, Uemura K¹ (¹Tokyo Medical and Dental University, ²Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science): Inappropriate diet and fatal malnutrition in a 10-year-old child fed only infant formula throughout life: novel pathological diagnostic criterion for starvation via lipophagy. *Forensic Sci Int.* 325. 110896. 2021.
- Yamada A¹, Demitsu T¹, Umemoto N¹, Kitamura O (¹Jichi Medical University Saitama Medical Center): Video image of genital melanosis provides strong evidence to support identification of a sexual offender. *Forensic Sci Med Pathol.* 17(3). 510-512. 2021.
- Yamada A¹, Kawase M^{1,2}, Matsumoto T¹, Demitsu T¹, Etoh T³ (¹Jichi Medical University Saitama Medical Center, ²The Jikei University School of Medicine, ³Tokyo Teishin Hospital): Papular acantholytic dyskeratosis in a male patient localized to the anogenital area mimicking condyloma acuminatum. *J Dermatol.* 49(2). e57-e58. 2022.
- Yamada A, Takeichi T, Kiryu K, Takashino S, Yoshida M, Kitamura O: Fatal human herpes virus 6B myocarditis: Postmortem diagnosis of HHV-6B based on CD134+ T-cell tropism. *Leg Med (Tokyo).* 54:102007. 2022.

共同研究施設 RI部門

論 文

- Fujiwara T¹, Kofuji T, Akagawa K (¹Saitama Medical University): Disturbance of the reciprocal-interaction between the OXTergeric and DAergic systems in the CNS causes atypical social behavior in syntaxin 1A knockout mice. *Behav Brain Res.* 413. 11347. 2021.

フローサイトメトリー部門

講 演

- Takahashi R, Sato Y¹, Kimishima M¹, Ohya M (¹Department of Dermatology): Time course changes in peripheral blood mononuclear cell subsets during intravenous corticosteroid pulse therapy for severe alopecia areata. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Online. December 3rd-5th, 2021.

論 文

- Mizukawa Y¹, Aoyama Y², Takahashi H³, Takahashi R, and Shiohara T¹ (¹Department of Dermatology, ²Department of Dermatology, Kawasaki Medical School, ³Department of Dermatology, Keio University School of Medicine): Risk of Progression to Autoimmune Disease in Severe Drug Eruption: Risk Factors and the Factor-Guided Stratification. *Journal of Investigative Dermatology.* 142. 960-968.e9. 2021.
- Takahashi R, Shiohara T¹, and Mizukawa Y¹ (¹Department of Dermatology): Monocyte-Independent and -Dependent Regulation of Regulatory T-Cell Development in Mycoplasma Infection. *The Journal of Infectious Diseases.* 223. 1724-1732. 2021.

その他

- 高橋良: フローサイトメトリー-de Night [第二夜] 細胞増殖マーカー編. YouTube. 2021. <https://youtu.be/fyDOEaDXb6o>
- 高橋良: フローサイトメトリー-de Night [第三夜] 代替サンプルチューブ編. YouTube. 2021. <https://youtu.be/J8RPBAw8xwQ>

実験動物施設

講 演

- 米澤英雄, 北条史, 大崎敬子, 神谷茂: 口腔内細菌が産生するantibioticsは腸内dysbiosisの原因となる可能性の検討. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.
- 北条史, 米澤英雄, 神谷茂, 大崎敬子: Analysis of gastric microflora in *Helicobacter pylori* infected MPS mice. 第27回日本ヘリコバクター学会学術集会. オンライン. 2021年9月24-26日.
- 北条史, 米澤英雄, 神谷茂, 岡健太郎, 高橋志達, 花輪智子, 三戸部治郎, 大崎敬子: MPSマウス *Helicobacter pylori*感染モデルを用いた胃内細菌叢の変化について. 第95回日本細菌学会総会. オンライン. 2022年3月29-31日.

論 文

- Osaki T, Lin, Y¹, Sasahira N², Ueno M³, Yonezawa H, Hojo F⁴, Okuda M⁵, Matsuyama M², Sasaki T², Kobayashi S³, Tezuka S³, Tanaka K⁶, Dan N⁶, Kuruma S⁷, Egawa N⁸, Kamiya S & Kikuchi S¹ (¹Aichi Medical University School of Medicine, ²Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, ⁵Hyogo College of Medicine, ⁶Tokyo Metropolitan Ohtsuka Hospital, ⁷Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ⁸Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital): Prevalence estimates of *Helicobacter* species infection in pancreatic and biliary tract cancers. *Helicobacter.* 27(1). e12866. 2022.

生物学教室

講演

1. Ohashi T, Ishikawa Y, Awasaki T, Su M, Kamikouchi A: Identifying auditory neurons that shape song selectivity in two *Drosophila* species. 第44回日本神経科学学会大会. 神戸・オンライン. 2021年7月28日-31日.
2. 大橋拓朗, 石川由希, 栗崎健, Su M, 上川内あづさ: ショウジョウバエの種特異的な求愛歌選好性の背景にある聴覚情報処理の進化. 日本進化学会第23回東京大会. オンライン. 2021年8月18-21日.
3. 栗崎健, 伊藤史博: ショウジョウバエ近縁種における温度嗜好性. 日本遺伝学会第93回大会. オンライン. 2021年9月8日.
4. 澤村京一, 平井和之, 坂本大季, 計良陽子, 石川裕之, 山添幹太, 井上喜博: ショウジョウバエの核膜孔複合体リクルート因子 ELYS-近縁種間の比較. 日本遺伝学会第93回大会. オンライン. 2021年9月9日.
5. Orihara-Ono M, Kato K, Awasaki T: Identification of genes essential for differentiation of neuropil-glia in adult *Drosophila* brain. 14th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRC14). Online. September 13th. 2021.
6. Awasaki T, Orihara-Ono M, Kato K: Development and function of neuropil glia in the adult *Drosophila* brain. International *Drosophila* Glia Workshop 2021. Online. September 29th. 2021.
7. Sawamura K, Hirai K, Sakamoto H, Keira Y, Ishikawa H. O., Yamazoe K, Ozaki M, Inoue Y. H: ELYS, a factor recruiting nuclear pore complex, is involved in reproductive isolation. 14th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRC14). Online. September 14th. 2021.
8. Ohashi T, Ishikawa Y, Awasaki T, Su M, Kamikouchi A: Differences in auditory neuronal processing underly differences in courtship song selectivity between two *Drosophila* species. 14th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRC14). Online. September 14th-15th. 2021.
9. 齋藤都暁, 高野敏行, 栗崎健, 近藤周, 矢野弘之, 三好啓太, 都丸雅敏, 大迫隆史, 平井和之, 明石良: ショウジョウバエ - 高次機能研究を支える先端リソース拠点. 第44回日本分子生物学会. 横浜・オンライン. 2021年12月1日-3日.
10. 織原-小野美奈子, 加藤健太郎, 栗崎健: ショウジョウバエ成虫脳の neuropil glia の発生に関与する因子の新規同定. 第44回日本分子生物学会. 横浜・オンライン. 2021年12月1日.
11. 栗崎健: 脳グリア組織の可塑的形成機構. 「認識と形成」2022 冬の討論会. 福井. 2022年1月7日.

物理学教室

論文

1. Tohyama M: Properties of Skyrme force as a residual interaction in beyond mean-field theories. Prog Theor Exp Phys. 083D0. 2021. DOI:10.1093/ptep/ptab092.
2. Schuck P¹, Delion D², Dukelsky J³, Jemai M⁴,

Litvinova E⁵, Röpke G⁶, Tohyama M (¹Université Paris-Saclay, ²Academy of Romanian Scientists, ³Instituto de Estructura de la Materia, ⁴El-Manar University, ⁵Western Michigan University, ⁶Universität Rostock): Equation of Motion Method for strongly correlated Fermi systems and Extended RPA approaches. Phys Rep. 929. 1-84. 2021.

3. Tohyama M: Effects of ground-state correlations on damping of giant dipole resonances in LS closed shell nuclei. Prog Theor Exp Phys. ptac037. 2022. DOI:10.1093/ptep/ptac037.

化学教室

口演

ポスター含む

1. 山本-土方幸子, 須賀圭, 菅田晴夫, 丑丸真: ゴルジ体局在 Ca²⁺/Mn²⁺ポンプ SPCA1 の阻害剤 PPT の哺乳類培養細胞を用いた解析. 第94回日本生化学会大会. オンライン. 2021年11月3-5日.
2. Suga K, Yamamoto S, Terao Y, Ushimaru M.: Organelle stress alters Aβ peptide production and induces Caspase3-dependent apoptosis. 第64回日本神経化学学会大会. オンライン. 2021年9月30日

論文

1. Sakurai T¹, Fukutomi T², Yamamoto S, Nozaki N³, & Kizaki T¹ (¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ³Core Laboratory for Proteomics and Genomics, Kyorin University School of Medicine): Physical Activity Attenuates the Obesity-Induced Dysregulated Expression of Brown Adipokines in Murine Interscapular Brown Adipose Tissue. Int. J. Mol. Sci. 22(19).10391. 2021.

英語学教室

講演

1. 黒田航, 阿部慶賀, 栗津俊二, 寺井あすか and 土屋智行: ARDJ の刺激文の読み時間の回帰木解析を使った要因分析. 日本認知科学学会第38回大会. オンライン. 2021年9月3-4日.
2. Kuroda K, Yokono H, Abe K, Tsuchiya T, Asao Y, Kobayashi Y, Kanamaru T, Tagawa T: How nearly random mutations to sentence affect their acceptabilities: Preliminary quantitative analyses based on ARDJ data. Annual Meeting of Association for Natural Language Processing. Online, 2022年3月15-17日.
3. 黒田航, 相良かおる: 医療用語の is-a オントロジー構築のFCAを使った効率化. 言語処理学会第28回年次大会. オンライン. 2022年3月15-17日.